

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンヒロシマダイガク 国立大学法人広島大学								
フリガナ大学の名称	ヒロシマダイガクダイガクイン 広島大学大学院 (Graduate School of Hiroshima)								
大学本部の位置	広島県東広島市鏡山一丁目3番2号								
大学の目的	<p>「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、次に掲げる理念に基づき、未来を担う有能な人材を養成するとともに学術を継承・発展させ、もって地域社会及び国際社会の発展に貢献するものとする。</p> <p>(1) 平和を希求する精神 (2) 新たなる知の創造 (3) 豊かな人間性を培う教育 (4) 地域社会・国際社会との共存 (5) 絶えざる自己変革</p>								
新設学部等の目的	人間と社会のための諸科学の追求と、教育による持続可能で平和な世界の構築を目指すという2つのミッションの下、人間や社会に関する深い見識と専門分野以外への強い関心を持ち、自然科学や生命科学を含む他分野の専門家と協働して将来の人類社会を創造する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間社会科学研究科 (Graduate School of Humanities and Social Sciences) 人文社会科学専攻 (博士課程前期) 【Division of Humanities and Social Sciences】	年	人	年次人	人	514	修士 (文学) 【Master of Arts】 修士 (心理学) 【Master of Psychology】 修士 (法学) 【Master of Laws】 修士 (経済学) 【Master of Economics】 修士 (マネジメント) 【Master of Management Sciences】 修士 (経営学) 【Master of Business Administration】 修士 (国際協力学) 【Master of International Cooperation Studies】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	

【基礎となる学部】  
総合科学部  
文学部  
教育学部  
法学部  
経済学部  
  
14条特例の実施

教育科学専攻（博士課程前期）【Division of Educational Sciences】	2	163	—	326	修士（教育学） 【Master of Education】 修士（教育心理学） 【Master of Educational Psychology】 修士（国際協力学） 【Master of International Cooperation Studies】 修士（学術） 【Master of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目1 番1号	
計		420	—	840				
人文社会科学専攻（博士課程後期） 【Division of Humanities and Social Sciences】	3	85	—	255	博士（文学） 【Doctor of Philosophy in Humanities】 博士（心理学） 【Doctor of Philosophy in Psychology】 博士（法学） 【Doctor of Philosophy in Laws】 博士（経済学） 【Doctor of Philosophy in Economics】 博士（マネジメント） 【Doctor of Philosophy in Management Sciences】 博士（経営学） 【Doctor of Philosophy in Business Administration】 博士（国際協力学） 【Doctor of Philosophy in International Cooperation Studies】 博士（学術） 【Doctor of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目2 番3号	
教育科学専攻（博士課程後期）【Division of Educational Sciences】	3	50	—	150	博士（教育学） 【Doctor of Philosophy in Education】 博士（教育心理学） 【Doctor of Philosophy in Educational Psychology】 博士（国際協力学） 【Doctor of Philosophy in International Cooperation Studies】 博士（学術） 【Doctor of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目1 番1号	
計		135	—	405				
教職開発専攻（専門職学位課程）【Division of Professional Development for Teachers and School Leaders】	2	30	—	60	教職修士（専門職） 【Master of Education in Professional Development】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目1 番1号	教職大学院

実務法学専攻（専門職学位課程）【Division of Law School】	3	20	—	60	法務博士（専門職） 【Juris Doctor】	令和2年4月 第1年次	広島市中区東千田町 一丁目1番89号	法科大学院
計		50	—	120				

同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、名称の 変更等)	○ 学生募集の停止 大学院総合科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 総合科学専攻 (△M50, △D17) 大学院文学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 人文学専攻 (△M64, △D32) 大学院教育学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 教職開発専攻 (△P20), 学習開発専攻 (△M20), 教科教育学専攻 (△M80), 日本語教育学専攻 (△M14), 教育学専攻 (△M14), 心理学専攻 (△M19), 高等教育学専攻 (△M5), 教育学習科学専攻 (△D49) 大学院社会科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 法政システム専攻 (△M24, △D5), 社会経済システム専攻 (△M28, △D8), マネジメント専攻 (△M28, △D14) 大学院理学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 数学専攻 (△M22, △D11), 物理科学専攻 (△M30, △D13), 化学専攻 (△M23, △D11), 地球惑星システム学専攻 (△M10, △D5) 大学院先端物質科学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 量子物質科学専攻 (△M25, △D12), 半導体集積科学専攻 (△M15, △D7) 大学院工学研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 機械システム工学専攻 (△M28, △D9), 機械物理工学専攻 (△M30, △D10), システムサイバネティクス専攻 (△M34, △D11), 情報工学専攻 (△M37, △D13), 化学工学専攻 (△M24, △D8), 応用化学専攻 (△M26, △D9), 社会基盤環境工学専攻 (△M20, △D7), 輸送・環境システム専攻 (△M20, △D7), 建築学専攻 (△M21, △D7)  大学院国際協力研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 開発科学専攻 (△M43, △D22), 教育文化専攻 (△M28, △D14) 大学院法務研究科を廃止 ※令和2年4月学生募集停止 法務専攻 (△P20)
	○ その他 (令和元年6月事前伺い) 大学院先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻 (M449, D128) (令和元年8月設置申請予定) 大学院人間科学研究科 広島大学・グラーツ大学国際連携社会科学専攻 (M2) (令和元年8月設置申請予定) 大学院先進理工系科学研究科 広島大学・ライブツィヒ大学国際連携理工学専攻 (M2)

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
人間科学研究科 人文社会科学専攻（博士課程前期）	334科目	349科目	22科目	705科目	30単位
教育科学研究科 教育科学専攻（博士課程前期）	180科目	125科目	4科目	309科目	30単位
人間科学研究科 人文社会科学専攻（博士課程後期）	9科目	6科目	0科目	15科目	10単位
教育科学研究科 教育科学専攻（博士課程後期）	11科目	9科目	3科目	23科目	10単位
教職開発専攻（専門職学位課程）	17科目	47科目	0科目	64科目	49単位
実務法学専攻（専門職学位課程）	66科目	39科目	3科目	108科目	103単位

教員	学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設	人間科学研究科人文社会科学専攻（博士課程前期）	103人 (103)	93人 (93)	6人 (6)	17人 (17)	219人 (219)	0人 (0)	123人 (123)
	人間科学研究科人文社会科学専攻（博士課程後期）	95 (95)	89 (89)	4 (4)	1 (1)	189 (189)	0 (0)	34 (34)
	人間科学研究科教育科学専攻（博士課程前期）	64 (64)	56 (56)	8 (8)	1 (1)	129 (129)	0 (0)	146 (146)
	人間科学研究科教育科学専攻（博士課程後期）	66 (66)	56 (56)	4 (4)	0 (0)	126 (126)	0 (0)	40 (40)
	人間科学研究科教職開発専攻（専門職学位課程）	6 (6)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	120 (120)

概 要 の 概 要	分	人間社会科学研究科実務法学専攻（専門 職学位課程）	14 (15)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	85 (85)	令和元年6月 事前伺い	
		計	187 (188)	160 (160)	17 (17)	18 (18)	382 (383)	0 (0)	— (—)		
	設	既	先進理工系科学研究科先進理工系科学専 攻（博士課程前期）	121 (121)	109 (109)	5 (5)	79 (79)	314 (314)	0 (0)		104 (104)
		既	先進理工系科学研究科先進理工系科学専 攻（博士課程後期）	121 (121)	107 (107)	3 (3)	47 (47)	278 (278)	0 (0)		50 (50)
		既	統合生命科学研究科統合生命科学専攻 （博士課程前期）	48 (48)	49 (49)	6 (6)	36 (36)	139 (139)	0 (0)		134 (134)
		既	統合生命科学研究科統合生命科学専攻 （博士課程後期）	44 (44)	49 (49)	6 (6)	30 (30)	129 (129)	0 (0)		39 (39)
		既	医系科学研究科医歯薬学専攻（博士課 程）	52 (52)	40 (40)	22 (22)	34 (34)	148 (148)	0 (0)		69 (69)
		既	医系科学研究科総合健康科学専攻（博士 課程前期）	84 (84)	32 (32)	25 (25)	25 (25)	166 (166)	0 (0)		151 (151)
		既	医系科学研究科総合健康科学専攻（博士 課程後期）	40 (40)	4 (4)	5 (5)	1 (1)	50 (50)	0 (0)		99 (99)
	分	計	266 (266)	210 (210)	51 (51)	168 (168)	695 (695)	0 (0)	— (—)		
合 計	453 (454)	370 (370)	68 (68)	186 (186)	1077 (1078)	0 (0)	— (—)				
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計				
	事 務 職 員		523人 (523)		938人 (938)		1,461人 (1,461)				
	技 術 職 員		1,119人 (1,119)		211人 (211)		1,330人 (1,330)				
	図 書 館 専 門 職 員		26人 (26)		0人 (0)		26人 (26)				
	そ の 他 の 職 員		4人 (4)		352人 (352)		356人 (356)				
	計		1,672人 (1,672)		1,501人 (1,501)		3,173人 (3,173)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	951,632㎡	0㎡		0㎡		951,632㎡				
	運 動 場 用 地	244,009㎡	0㎡		0㎡		244,009㎡				
	小 計	1,195,641㎡	0㎡		0㎡		1,195,641㎡				
	そ の 他	1,134,377㎡	0㎡		0㎡		1,134,377㎡				
	合 計	2,330,018㎡	0㎡		0㎡		2,330,018㎡				
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計					
	514,567㎡ (514,567㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		514,567㎡ (514,567㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体			
	203室	365室	1,393室	15 室 (補助職員 20人)	8 室 (補助職員 18人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 人間社会科学研究科			室 数 383 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の 数			
	人間社会科学研究科	3,494,421 [1,315,991] (3,494,421 [1,315,991])	61,208 [25,362] (61,208 [25,362])	5,769 [5,762] (5,769 [5,762])	5,637 (5,637)	12,757 (12,757)	133 (133)				
	計	3,494,421 [1,315,991] (3,494,421 [1,315,991])	61,208 [25,362] (61,208 [25,362])	5,769 [5,762] (5,769 [5,762])	5,637 (5,637)	12,757 (12,757)	133 (133)				
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体				
	29,485 ㎡	2,110		3,117,972							
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	11,384㎡	野球場，陸上競技場，サッカー・ラグビー場 外									
経 費 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費(運営費交付金)による		
	教員1人当り研究費等										
	共同研究費等										

見及び維持方法の概要	図書購入費									
		設備購入費								
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
既設大学等の状況	大学の名称	広島大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	総合科学部 総合科学科	年	人	年次人	人	学士(総合科学)	1.05 1.05	昭49	広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	平成30年度入学定員減(△10人)
	国際共創学科	4	40	—	80	学士(総合科学)	1.07	平30		
	文学部 人文学科	4	130	3年次10	560	学士(文学)	1.06 1.06	平9	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	平成30年度入学定員減(△10人)
	教育学部 第一類(学校教育系)	4	157	—	634	学士(教育学)	1.02 1.01	平12	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	平成28年度入学定員減(△20人) 平成30年度入学定員減(△3人)
	第二類(科学文化教育系)	4	82	—	340	学士(教育学)	1.01	平12		平成30年度入学定員減(△6人)
	第三類(言語文化教育系)	4	73	—	314	学士(教育学)	1.03	平12		平成30年度入学定員減(△11人)
	第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	338	学士(教育学)	1.05	平12		平成30年度入学定員減(△7人)
	第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	214	学士(教育学)	1.03	平12		平成30年度入学定員減(△3人)
	法学部 法学科(昼間コース)	4	140	3年次10	580	学士(法学)	1.07 1.06	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度入学定員減(△10人)
	(夜間主コース)	4	30	3年次10	160	学士(法学)	1.10	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	
	経済学部 経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	615	学士(経済学)	1.07 1.07	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度編入学定員減(△5人)
	(夜間主コース)	4	45	3年次5	220	学士(経済学)	1.06	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	平成30年度入学定員減(△15人) 平成30年度編入学定員減(△5人)
	理学部 数学科	4	47	} 3年次 10	192	学士(理学)	1.06 1.03	昭24	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
	物理学科	4	66		268	学士(理学)	1.07	平10		
	化学科	4	59		240	学士(理学)	1.06	昭24		
	生物科学科	4	34		140	学士(理学)	1.06	平5		
	地球惑星システム学科	4	24		100	学士(理学)	1.06	平4		
	医学部 医学科	6	120	—	720	学士(医学)	1.00 1.03	昭28	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
保健学科		120	—							
看護学専攻	4	60	—	240	学士(看護学)	1.03	平4			
理学療法専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.02	平4			
作業療法専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.02	平4			
歯学部 歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.00 1.05 1.00	昭40	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科	

口腔健康科学科			—	160	学士(口腔健康科学)				
口腔保健学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.05	平21		
口腔工学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.06	平21		
薬学部						1.03		広島県広島市南区震一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1.03	平18		
薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1.07	平18		
工学部						1.03		広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
第一類(機械システム工学系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第二類(電気・電子・システム・情報系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第四類(建設・環境系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	4	150	3年次5	300	学士(工学)	1.04	平30		
第二類(電気電子・システム情報系)	4	90	3年次3	180	学士(工学)	1.04	平30		
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	4	115	3年次4	465	学士(工学)	1.02	平13		平成30年度編入 学定員変更(第三類4人)
第四類(建設・環境系)	4	90	3年次3	180	学士(工学)	1.06	平30		
生物生産学部						1.13		広島県東広島市鏡山一丁目4番4号	
生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1.13	昭54		
情報科学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
情報科学科	4	80	3年次5	160	学士(情報科学)	1.06	平30		
総合科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	令和2年度より 学生募集停止
総合科学専攻(博士課程)	前期2	50	—	110	修士(学術)	0.98	平18		平成31年度入学 定員減(△10人)
	後期3	17	—	57	博士(学術)	0.81	平18		平成31年度入学 定員減(△3人)
文学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	令和2年度より 学生募集停止
人文学専攻(博士課程)	前期2	64	—	128	修士(文学)	0.95	平13		
	後期3	32	—	96	博士(文学)	0.67	平13		
教育学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
学習開発専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止
文化教育開発専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止
教育人間科学専攻(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止
教職開発専攻(専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士(専門職)	1.00	平28		令和2年度より 学生募集停止
学習開発学専攻(博士課程)	前期2	20	—	40	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.72	平28		令和2年度より 学生募集停止
教科教育学専攻(博士課程)	前期2	80	—	160	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.23	平28		令和2年度より 学生募集停止
日本語教育学専攻(博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.21	平28		令和2年度より 学生募集停止

教育学専攻 (博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.21	平12		令和2年度より 学生募集停止
心理学専攻 (博士課程)	前期2	19	—	38	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.12	平12		令和2年度より 学生募集停止
高等教育学専攻 (博士課程)	前期2	5	—	10	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	0.80	平28		令和2年度より 学生募集停止
教育学習科学専攻 (博士課程)	後期3	49	—	147	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	1.36	平28		令和2年度より 学生募集停止
社会科学部									
法政システム専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(法学) 修士(学術)	1.02	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	5	—	15	博士(法学) 博士(学術)	0.53	平16		
社会経済システム専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(経済学) 修士(学術)	1.28	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	8	—	24	博士(経済学) 博士(学術)	0.41	平16		
マネジメント専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(マネジメント)	0.67	平12	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	14	—	42	博士(マネジメント)	0.45	平12		
理学部									
数学専攻 (博士課程)	前期2	22	—	44	修士(理学)	0.67	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	11	—	33	博士(理学)	0.48	昭28		
物理科学専攻 (博士課程)	前期2	30	—	60	修士(理学)	1.08	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	13	—	39	博士(理学)	0.63	昭28		
化学専攻 (博士課程)	前期2	23	—	46	修士(理学)	1.56	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	11	—	33	博士(理学)	0.75	昭28		
生物科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
地球惑星システム学専攻 (博士課程)	前期2	10	—	20	修士(理学)	1.05	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	5	—	15	博士(理学)	0.53	昭28		
数理分子生命理学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	平11	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	平11		
先端物質科学研究科									
量子物質科学専攻 (博士課程)	前期2	25	—	50	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.26	平10	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	12	—	36	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.30	平10		
分子生命機能科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平10	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平10		
半導体集積科学専攻 (博士課程)	前期2	15	—	30	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.33	平16	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	7	—	21	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.23	平16		
医歯薬保健学研究科									
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学)	—	平24	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	平成31年度より 学生募集停止

口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	博士(薬学) 博士(学術) 修士(口腔健康科学)	—	平24		
	後期3	—	—	—	博士(口腔健康科学)	—	平24		
薬科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(薬科学)	—	平24		
	後期3	—	—	—	博士(薬科学)	—	平24		
保健学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(看護学) 修士(保健学)	—	平24		
	後期3	—	—	—	博士(看護学) 博士(保健学)	—	平24		
医歯科学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(学術)	—	平24		
保健学研究科 保健学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(看護学) 修士(保健学)	—	平14	広島県広島市南区震一丁目2番3号	平成24年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(看護学) 博士(保健学)	—	平14		
工学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	令和2年度より 学生募集停止
機械システム工学専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(工学)	1.23	平22		
	後期3	9	—	27	博士(工学)	0.70	平22		
機械物理工学専攻 (博士課程)	前期2	30	—	60	修士(工学)	1.61	平22		
	後期3	10	—	30	博士(工学)	0.96	平22		
システムサイバネティクス専攻 (博士課程)	前期2	34	—	68	修士(工学) 修士(学術)	1.58	平22		
	後期3	11	—	33	博士(工学) 博士(学術)	0.78	平22		
情報工学専攻 (博士課程)	前期2	37	—	74	修士(工学) 修士(学術)	1.40	平22		
	後期3	13	—	39	博士(工学) 博士(学術)	0.43	平22		
化学工学専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(工学)	1.47	平22		
	後期3	8	—	24	博士(工学)	0.74	平22		
応用化学専攻 (博士課程)	前期2	26	—	52	修士(工学)	1.32	平22		
	後期3	9	—	27	博士(工学)	0.29	平22		
社会基盤環境工学専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.42	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.80	平22		
輸送・環境システム専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.32	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.66	平22		
建築学専攻 (博士課程)	前期2	21	—	42	修士(工学)	1.23	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.61	平22		
生物圏科学研究科 生物資源科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(農学) 修士(学術)	—	平18	広島県東広島市鏡山一丁目4番4号	平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(農学) 博士(学術)	—	平18		
生物機能開発学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(農学) 修士(学術)	—	平18		
	後期3	—	—	—	博士(農学) 博士(学術)	—	平18		
環境循環系制御学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(農学) 修士(学術)	—	平11		
	後期3	—	—	—	博士(農学) 博士(学術)	—	平11		
医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学) 博士(医薬学)	—	平14	広島県広島市南区震一丁目2番3号	平成24年度より 学生募集停止

展開医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(医薬学)	—	平14			
口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	— —	— —	— —	修士(口腔健康科学) 博士(口腔健康科学)	— —	平21 平23			
国際協力研究科 開発科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	43 22	— —	86 66	修士(学術) 修士(工学) 修士(農学) 博士(学術) 博士(工学) 博士(農学)	1.18 0.61	平6 平6	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号	令和2年度より 学生募集停止	
教育文化専攻 (博士課程)	前期2 後期3	28 14	— —	56 42	修士(学術) 修士(教育学) 博士(学術) 博士(教育学)	1.42 0.87	平7 平7			
統合生命科学研究所 統合生命科学研究所 (博士課程)	前期2 後期3	170 70	— —	170 70	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	0.90 0.32	平31 平31			広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号
医系科学研究科 医歯薬学専攻 (博士課程)	4	97	—	97	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	1.02	平31			広島県広島市南区霞一丁目2番3号
総合健康科学専攻 (博士課程)	前期2 後期3	76 25	— —	76 25	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学) 修士(保健学) 修士(口腔健康科学) 修士(学術) 博士(医科学) 博士(歯科学) 博士(薬科学) 博士(看護学) 博士(保健学) 博士(口腔健康科学) 博士(学術)	0.98 0.56	平31 平31			
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	20	—	60	法務博士(専門職)	0.66	平16	広島県広島市中区東千田町一丁目1番8号	令和2年度より 学生募集停止	
附属施設の概要	<p>原爆放射線医科学研究所</p> <p>目的：原子爆弾その他の放射線による障害の治療及び予防に関する学理並びにその応用の研究</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和36年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物7,971㎡</p> <p>病院</p>									

目的：医学及び歯学に係る診療の場として機能するとともに、診療を通じて地域医療の向上に寄与すること

所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号

設置年月：昭和31年4月

規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物122,552㎡

#### 図書館

目的：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を備え、これらの収集、整理及び提供を行うとともに、学術情報を提供すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号ほか

設置年月：昭和24年5月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物29,584㎡

#### 薬学部附属薬用植物園

目的：薬用植物に関する研究

所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号

設置年月：昭和55年4月

規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物298㎡

#### 生物生産学部附属練習船豊潮丸

目的：乗船実習、海洋調査等

所在地：広島県呉市宝町7番4号

設置年月：昭和53年10月

規模等(基地)：土地2,675㎡、建物840㎡

#### 教育学研究科附属幼年教育研究施設

目的：学際的・臨床的な観点からの幼年教育に関する理論的並びに実証的研究

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成41年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡

#### 教育学研究科附属教育実践総合センター

目的：学校教育の内容・方法に関する基礎的・理論的研究及び実践的研究の推進

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：昭和63年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡

#### 教育学研究科附属特別支援教育実践センター

目的：特別支援教育についての基礎的・実践的な研究や教材開発等

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成7年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡

#### 教育学研究科附属心理臨床教育研究センター

目的：心理臨床に関わる教育研究

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成14年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡

#### 社会科学部研究科附属地域経済システム研究センター

目的：中国・四国地方を中心とした地域の産業経済、企業経営、行財政システム等に関する理論的・実証的な調査・研究

所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号

設置年月：平成元年5月

規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物3,163㎡

#### 理学研究科附属理学融合教育研究センター

目的：理学研究科における専攻の枠を越えた融合領域の研究と教育の推進

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号

設置年月：平成19年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物34,461㎡

#### 統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター

目的：中国山地から瀬戸内海までのフィールドを一体化した対象として、環境と調和した持続的生物生産に関する研究等

所在地：広島県東広島市鏡山二丁目2965番地、広島県竹原市港町5丁目8番1号

設置年月：平成15年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡、竹原地区4,268㎡)、建物1,353㎡

<p>統合生命科学研究科附属臨海実験所</p> <p>目的：広い視野に立った海洋生物学の研究者の育成のための大学院教育等</p> <p>所在地：広島県尾道市向島町2445番地</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地21,197㎡，建物1,590㎡</p>
<p>統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所</p> <p>目的：国立公園宮島のすぐれた自然を利用した植物学の教育・研究</p> <p>所在地：広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山1156-2外</p> <p>設置年月：昭和49年4月</p> <p>規模等：土地102,076㎡，建物578㎡</p>
<p>統合生命科学研究科附属植物遺伝子保管実験施設</p> <p>目的：生物科学研究材料の系統保存等</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番3号</p> <p>設置年月：昭和52年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物794㎡</p>
<p>医系科学研究科附属先駆的看護実践支援センター</p> <p>目的：看護環境の向上および地域の人々への良質の看護の提供への貢献</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成18年6月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物84,633㎡</p>
<p>医系科学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター</p> <p>目的：リハビリテーション環境の向上及び良質なリハビリテーションを地域に提供するための先駆的リハビリテーション実践能力を有するリハビリテーション従事者の養成並びに先駆的リハビリテーション実践を行うためのプロジェクト研究</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物120㎡</p>
<p>法務研究科附属リーガル・サービス・センター</p> <p>目的：無料法律相談の実施等</p> <p>所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号</p> <p>設置年月：平成17年4月</p> <p>規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物53㎡</p>
<p>原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部</p> <p>目的：原子爆弾及び放射線による被災に関する情報の調査並びにそれらの資料の収集、整理、保存及び解析</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和42年6月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡</p>
<p>放射光科学研究センター</p> <p>目的：全国共同利用施設として、放射光科学に関する学術研究を行い、かつ、大学の教員その他の者でこの分野の研究に従事するものの利用に供すること及び共同利用・共同研究を活かした人材育成を行うこと</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山2丁目313番地</p> <p>設置年月：平成8年5月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物3,881㎡</p>
<p>西条共同研修センター</p> <p>目的：中国・四国地区国立大学法人の学生及び職員の合宿研修のための共同利用施設として、共同生活を通じて学生相互又は学生、職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の課外活動を振興し、教養を高め、社会性を助長するとともに、地域社会における学術文化の発達に寄与すること</p> <p>所在地：広島県東広島市西条町御菌宇570</p> <p>設置年月：昭和47年4月</p> <p>規模等：土地111,469㎡，建物1,022㎡</p>
<p>ナノデバイス・バイオ融合科学研究所</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、ナノデバイス・集積回路技術とバイオ技術を発展・融合し、シリコンナノデバイス上で微小生命体やバイオ分子の多検体高速診断システムを開発するとともに、情報化社会の先にあ</p>

る高度医療保障社会に向けて、予防医学、病気早期診断及びユビキタス診断を実現するナノバイオ・医療工学の基盤研究を展開する拠点を構築し、これらに関する教育を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号

設置年月：平成8年5月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物4, 153㎡

#### 高等教育研究開発センター

目的：学内共同教育研究施設として、国内外の大学・高等教育に関する基礎的・開発的研究の一体的推進を図るとともに、これらに関する業務を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号

設置年月：平成12年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物1, 207㎡

#### 情報メディア教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学の情報通信基盤を支え、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び業務への支援を行い、情報メディア活用のための研究開発の推進を図ること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号

設置年月：平成13年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物2, 507㎡

#### 自然科学研究支援開発センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学の生命科学、健康科学、物質科学、環境科学など自然科学全般の学際的な教育研究の支援体制を充実させるとともに、生命科学及び物質科学関連のプロジェクト研究を推進し、幅広い基礎研究基盤の充実及び先端的な応用研究への進展に資すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号ほか

設置年月：平成15年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡ほか)、建物13, 074㎡

#### 産学・地域連携センター

目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うこと

- (1) 本学と国内外の民間等外部の機関との共同研究、受託研究及び交流を通じて、本学の教育研究の発展に寄与するとともに、地域社会及び国際社会における産業技術の振興及び発展に貢献すること
- (2) 本学において、ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を推進し、その研究成果を活用するベンチャー・ビジネスの創出などを支援し、経済の活性化及び新産業の創出に貢献するとともに、高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成すること
- (3) 本学職員等の教育研究活動における知的財産の創出に関する支援を行うとともに、知的財産に関する教育研究を行って人材を育成し、知的財産の社会への還元と活用を通じて社会に貢献すること
- (4) 地域社会の抱える課題の解決や夢の実現に向けて、本学の知的資源を活用した研究・地域連携活動を促進するとともに、地域社会との協働による地域連携事業を開発・促進すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番2号ほか

設置年月：平成22年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物1, 509㎡

#### 教育開発国際協力研究センター

目的：学内共同教育研究施設として学内外の研究者と協力して、国際教育協力を効果的・効率的に実践するための研究開発を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番1号

設置年月：平成9年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物306㎡

#### 保健管理センター

目的：学内共同教育研究施設として、学生及び職員の身体的・精神的健康の管理を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号ほか

設置年月：昭和44年4月

規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡ほか)、建物1, 146㎡

#### 平和センター

目的：学内共同教育研究施設として、平和科学に関する研究・調査及び資料の収集を行うこと

所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号

設置年月：昭和50年7月

規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物386㎡

#### 環境安全センター

目的：学内共同教育研究施設として、実験廃液の処理を含めた環境管理並びに学生及び職員の安全管理に関する専門的業務を行うとともに、環境及び安全に関する教育研究を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番3号

設置年月：平成17年3月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,374㎡

#### 総合博物館

目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うことにより、研究、教育及び社会貢献の推進に資すること

- (1) 本学に所蔵する学術標本資料の収集、調査、保存及び管理並びにその研究、展示及び情報発信に関すること
- (2) 学芸員等の人材育成に関すること
- (3) 本学構内の埋蔵文化財の発掘調査並びに調査資料の保存、管理及び公開に関すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成18年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物443㎡

#### 北京研究センター

目的：海外教育研究拠点として、本学と中華人民共和国の研究者による共同研究及び学術・教育交流の推進

所在地：中華人民共和国 北京市海淀区西三环北路83号

首都師範大学国際文化大厦南楼310室

設置年月：平成14年10月

規模等：建物(使用部屋面積243㎡)

#### 宇宙科学センター

目的：宇宙・天文の研究・教育を推進するとともに、大学共同利用機関法人自然科学研究機構等と連携し、全国の大学等との共同研究及び共同利用に供し、もって我が国の宇宙・天文の研究・教育、次世代を担う児童・生徒の科学教育及び生涯学習の推進に寄与すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号ほか

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物478㎡

#### 外国語教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、外国語教育に責任を持ち、学生の実践的コミュニケーション能力や外国語運用能力などの実力向上を図るとともに、外国語教育方法の研究開発と豊かな外国語教育の開発実施を通して、本学の学生及び職員に質の高い外国語学習の機会を提供し、もって国際的に活躍できる人材を育成すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,195㎡

#### 文書館

目的：学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物783㎡

#### スポーツ科学センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるスポーツに関する学士課程教育を企画立案・実施し、課外活動を支援するとともに、スポーツに

<p>に関する研究及び地域社会との連携を推進すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成17年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物26㎡</p> <p>HiSIM研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、HiSIM(Hiroshima—university STARC IGFET Model)がCMC(Compact Modeling Council)により次世代世界標準トランジスタモデル(以下「標準化モデル」という。)に選定されるための標準化プロセス第3フェーズ対応業務を行うとともに、CMCによる標準化モデル選定後のセンター業務及び体制の立案を行うこと</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号</p> <p>設置年月：平成17年7月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物87㎡</p> <p>現代インド研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、現代インド地域に関する研究・調査及び資料の収集を行い、現代インド地域研究の拠点形成を図ること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物60㎡</p> <p>ダイバーシティ研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、ダイバーシティ・インクルージョン推進拠点として活動するとともに、組織及び構成員の多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的成果に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキルを備えた人材を育成すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番2号</p> <p>設置年月：平成28年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>両生類研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、先端的な両生類研究を行うとともに、国際的なバイオリソースセンターとして両生類バイオリソースを維持するための技術の蓄積・継承及び高品質の両生類バイオリソースの提供を行うことにより、両生類研究者の育成・輩出、国内外の研究者に対する研究支援、国内外の共同研究及び両生類バイオリソースに関する国際的なネットワークの構築を促進すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号</p> <p>設置年月：平成28年10月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物3, 886㎡</p> <p>トランスレーショナルリサーチセンター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるシーズの開発及び管理と一元的なパイプラインの確立により関連機関と連携して橋渡し研究を推進するとともに、次世代の橋渡し研究を担う人材を育成すること</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144, 700㎡)</p> <p>防災・減災研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、従来の防災学・減災学では対応できない土石流や洪水氾濫などの複合的な要因によるインフラ、経済、人的被害が相互に影響することで被害が拡大する豪雨災害中心テーマとした世界レベルの研究拠点を構築するとともに、さらに、国内外の有力研究機関とネットワークを形成し、災害科学に関する最先端の学際研究を展開すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号</p> <p>設置年月：平成30年9月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>森戸国際高等教育学院</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、「変動する世界を俯瞰し、国際的にチャレンジする人財の輩出」や「地域と国際社会が協同して発展する社会連携の強化」の実現に向け、グローバル化に対応した教育を強力に推進することにより、国際人材を育成し、現代の社会的・学術的要請に</p>
---

	<p>応えること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号ほか  設置年月：平成30年10月  規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,001㎡</p> <p>脳・こころ・感性科学研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、人間の本质である“脳・こころ・感性”を、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など分野融合的に探求し、感性科学の学問体系を確立するとともに、トップ100を目指す広島大学の持続可能な教育・研究体制を構築するとともに、その成果を教育、医療、ものづくり、ビジネスなどに社会実装し、こころ豊かなハピネス社会の実現を目指すこと</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号  設置年月：平成30年10月  規模等：土地(霞地区144,700㎡)</p> <p>ゲノム編集イノベーションセンター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、人類の様々な問題を解決することが期待されているゲノム編集の基礎分野及び応用分野の研究を進展させるとともに、産業界との連携によるゲノム編集技術開発を基盤とした新産業及びイノベーションの創出と新産業等創出に必要な人材を育成し、地域社会及び国際社会への貢献を行うこと</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番23号  設置年月：平成31年2月  規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)</p> <p>デジタルものづくり教育研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、地域において喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化に対応するため、モデルベースによる材料研究や制御・生産プロセスのスマート化などに係る研究開発と人材育成を幅広く推進するとともに、地域レベルで、イノベーションを実現していく本格的な産学連携システムを構築すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番32号  設置年月：平成31年2月  規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)</p> <p>ハラスメント相談室</p> <p>目的：学内共同利用施設として、職員、学生、生徒、児童及び園児が当事者となるハラスメントに関する相談を受け付け、及びハラスメントの防止を推進すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号  設置年月：平成16年9月  規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物136㎡</p> <p>附属学校(幼稚園2,小学校3,中学校4,高等学校2)</p> <p>目的：生徒、児童及び園児の心身の発達に応じて、教育とそれに伴う研究を行うとともに、本学における生徒等の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習の実施に当たること</p> <p>所在地：広島県広島市南区翠1丁目1番1号ほか  設置年月：昭和26年4月ほか  規模等：土地(210,983㎡+附属幼稚園分6,919㎡)、建物54,375㎡</p>	
--	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人広島大学 設置等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員			令和2年度	入学定員 編入学定員 収容定員			変更の事由
広島大学				広島大学				
総合科学部				総合科学部				
総合科学科	120		480	総合科学科	120		480	
国際共創学科	40		160	国際共創学科	40		160	
文学部				文学部				
	3年次				3年次			
人文学科	130	10	540	人文学科	130	10	540	
教育学部				教育学部				
第一類(学校教育系)	157		628	第一類(学校教育系)	157		628	
第二類(科学文化教育系)	82		328	第二類(科学文化教育系)	82		328	
第三類(言語文化教育系)	73		292	第三類(言語文化教育系)	73		292	
第四類(生涯活動教育系)	81		324	第四類(生涯活動教育系)	81		324	
第五類(人間形成基礎系)	52		208	第五類(人間形成基礎系)	52		208	
法学部				法学部				
	3年次				3年次			
法学科 昼間コース	140	10	580	法学科 昼間コース	140	10	580	
法学科 夜間主コース	30	10	140	法学科 夜間主コース	30	10	140	
経済学部				経済学部				
	3年次				3年次			
経済学科 昼間コース	150	5	610	経済学科 昼間コース	150	5	610	
経済学科 夜間主コース	45	5	190	経済学科 夜間主コース	45	5	190	
理学部				理学部				
数学科	47		188	数学科	47		188	
物理学科	66		264	物理学科	66		264	
化学科	59		236	化学科	59		236	
生物科学科	34		136	生物科学科	34		136	
地球惑星システム学科	24		96	地球惑星システム学科	24		96	
	3年次				3年次			
		10	20			10	20	
医学部				医学部				
医学科	105		630	医学科	105		630	
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
口腔健康科学科	40		160	口腔健康科学科	40		160	
薬学部				薬学部				
薬学科	38		228	薬学科	38		228	
薬科学科	22		88	薬科学科	22		88	
工学部				工学部				
	3年次				3年次			
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	
第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	
第四類(建設・環境系)	90	3	366	第四類(建設・環境系)	90	3	366	
生物生産学部				生物生産学部				
	3年次				3年次			
生物生産学科	90	10	380	生物生産学科	90	10	380	
情報科学部				情報科学部				
	3年次				3年次			
情報科学科	80	5	330	情報科学科	80	5	330	
	3年次				3年次			
	2,323	80	9,844		2,323	80	9,844	

平成31年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和2年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
広島大学大学院				広島大学大学院				
総合科学研究科				総合科学研究科				令和2年4月学生募集停止
総合科学専攻(M)	50		100	0			0	
総合科学専攻(D)	17		51	0			0	
文学研究科				文学研究科				令和2年4月学生募集停止
人文学専攻(M)	64		128	0			0	
人文学専攻(D)	32		96	0			0	
教育学研究科				教育学研究科				令和2年4月学生募集停止
教職開発専攻(P)	20		40	0			0	
学習開発学専攻(M)	20		40	0			0	
教科教育学専攻(M)	80		160	0			0	
日本語教育学専攻(M)	14		28	0			0	
教育学専攻(M)	14		28	0			0	
心理学専攻(M)	19		38	0			0	
高等教育学専攻(M)	5		10	0			0	
教育学習科学専攻(D)	49		147	0			0	
社会科学研究科				社会科学研究科				令和2年4月学生募集停止
法政システム専攻(M)	24		48	0			0	
法政システム専攻(D)	5		15	0			0	
社会経済システム専攻(M)	28		56	0			0	
社会経済システム専攻(D)	8		24	0			0	
マネジメント専攻(M)	28		56	0			0	
マネジメント専攻(D)	14		42	0			0	
理学研究科				理学研究科				令和2年4月学生募集停止
数学専攻(M)	22		44	0			0	
数学専攻(D)	11		33	0			0	
物理科学専攻(M)	30		60	0			0	
物理科学専攻(D)	13		39	0			0	
化学専攻(M)	23		46	0			0	
化学専攻(D)	11		33	0			0	
地球惑星システム学専攻(M)	10		20	0			0	
地球惑星システム学専攻(D)	5		15	0			0	
先端物質科学研究科				先端物質科学研究科				令和2年4月学生募集停止
量子物質科学専攻(M)	25		50	0			0	
量子物質科学専攻(D)	12		36	0			0	
半導体集積科学専攻(M)	15		30	0			0	
半導体集積科学専攻(D)	7		21	0			0	
工学研究科				工学研究科				令和2年4月学生募集停止
機械システム工学専攻(M)	28		56	0			0	
機械システム工学専攻(D)	9		27	0			0	
機械物理工学専攻(M)	30		60	0			0	
機械物理工学専攻(D)	10		30	0			0	
システムサイバネティクス専攻(M)	34		68	0			0	
システムサイバネティクス専攻(D)	11		33	0			0	
情報工学専攻(M)	37		74	0			0	
情報工学専攻(D)	13		39	0			0	
化学工学専攻(M)	24		48	0			0	
化学工学専攻(D)	8		24	0			0	
応用化学専攻(M)	26		52	0			0	
応用化学専攻(D)	9		27	0			0	
社会基盤環境工学専攻(M)	20		40	0			0	
社会基盤環境工学専攻(D)	7		21	0			0	
輸送・環境システム専攻(M)	20		40	0			0	
輸送・環境システム専攻(D)	7		21	0			0	
建築学専攻(M)	21		42	0			0	
建築学専攻(D)	7		21	0			0	



平成31年度	入学定員 編入学定員 収容定員		令和2年度	入学定員 編入学定員 収容定員		変更の事由
<b>国際協力研究科</b>			<b>国際協力研究科</b>			令和2年4月学生募集停止
開発科学専攻(M)	43	86		0	0	
開発科学専攻(D)	22	66		0	0	
教育文化専攻(M)	28	56		0	0	
教育文化専攻(D)	14	42		0	0	
			<b>人間社会科学研究科</b>			研究科の設置(事前伺い)
			人文社会科学専攻(M)	257	514	
			人文社会科学専攻(D)	85	255	
			教育科学専攻(M)	163	326	
			教育科学専攻(D)	50	150	
			教職開発専攻(P)	30	60	
			実務法学専攻(P)	20	60	
			<b>先進理工系科学研究科</b>			研究科の設置(事前伺い)
			先進理工系科学専攻(M)	449	898	
			先進理工系科学専攻(D)	128	384	
<b>統合生命科学研究科</b>			<b>統合生命科学研究科</b>			
統合生命科学専攻(M)	170	340	統合生命科学専攻(M)	170	340	
統合生命科学専攻(D)	70	210	統合生命科学専攻(D)	70	210	
<b>医系科学研究科</b>			<b>医系科学研究科</b>			
医歯薬学専攻(D)	97	388	医歯薬学専攻(D)	97	388	
総合健康科学専攻(M)	76	152	総合健康科学専攻(M)	76	152	
総合健康科学専攻(D)	25	75	総合健康科学専攻(D)	25	75	
<b>法務研究科</b>			<b>法務研究科</b>			令和2年4月学生募集停止
法務専攻	20	60		0	0	
	<u>1,561</u>	<u>3,732</u>		<u>1,620</u>	<u>3,812</u>	



教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3	オムニバス
			1・2②		1		○			2					兼5	オムニバス・メディア
			1・2④		1		○			2					兼4	オムニバス・メディア
			1・2①		1		○								兼8	オムニバス・共同(一部) メディア
			1・2③		1		○			1	1				兼5	オムニバス・メディア
			1・2②		2			○							兼3	共同・集中
	キャリア開発・ データリテラシー科目	ダイバーシティの理解	1・2②		1		○			2					兼2	オムニバス・共同(一部)・集中
		データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1	メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1	集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1	②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3	オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1		
	小計(15科目)	—	0	20	0	—	—	—	7	2	0	0	0	兼44	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12	オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14	オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4		
	未来創造思考(基礎)	1・2②		1		○								兼1		
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1		
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2		
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2		
	小計(7科目)	—	2	9	0	—	—	—	39	26	2	8	0	兼29	—	
専攻目共	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1			オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4	オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1				
	小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	32	24	1	3	0	兼4	—	
プログラム専攻科目	人文科学プログラム	比較日本文化学研究A	1・2前		2		○									
		比較日本文化学研究B	1・2後		2		○						1			
		比較日本文化学研究C	1・2前		2		○								兼1	
		比較日本文化学研究D	1・2後		2		○								兼1	
		日本文化論講義A	1・2前		2		○								兼1	
		日本文化論講義B	1・2前		2		○						1			
		日本文化論演習A	1・2前		2			○							兼1	
		日本文化論演習B	1・2後		2			○					1			
		歴史文化論講義A	1・2前		2		○			1						
		歴史文化論講義B	1・2後		2		○			1						
		歴史文化論演習A	1・2前		2			○		1						
		歴史文化論演習B	1・2後		2			○		1						
		表象文化論講義A	1・2前		2		※	○		1					※講義	
		表象文化論講義B	1・2後		2		※	○		1					※講義	
		表象文化論演習A	1・2前		2			○		1						
		表象文化論演習B	1・2後		2			○		1						
		言語文化論講義A	1・2前		2			○		1						
		言語文化論講義B	1・2後		2			○		1						
		言語文化論演習A	1・2前		2			○		1						
		言語文化論演習B	1・2後		2			○		1						
		超域文化論講義A	1・2前		2		○				1					
		超域文化論講義B	1・2後		2		○				1					
		超域文化論演習A	1・2前		2			○			1					
		超域文化論演習B	1・2後		2			○			1					
		西洋哲学演習A	1・2①		2			○			1					
		西洋哲学演習B	1・2②		2			○			1					
		西洋哲学特別演習A	1・2①		2			○			1					
		西洋哲学特別演習B	1・2②		2			○			1					
		哲学文献資料研究A	1・2①		2			○				1				
		哲学文献資料研究B	1・2②		2			○				1				
西洋哲学史演習A	1・2③		2			○				1						
西洋哲学史演習B	1・2④		2			○				1						
西洋哲学史特別演習A	1・2③		2			○			1							
西洋哲学史特別演習B	1・2④		2			○			1							
西洋哲学史文献資料研究A	1・2③		2			○				1						
西洋哲学史文献資料研究B	1・2④		2			○				1						

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目 人文科学プログラム	西洋哲学特講	1・2②		2			○			1						
	インド哲学研究	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史講義	1・2前		2			○				1					
	インド哲学演習A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学演習B	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史演習A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学史演習B	1・2後		2				○			1					
	仏教学研究	1・2後		2				○		1						
	仏教思想史研究	1・2前		2				○		1						
	仏教学演習A	1・2前		2				○		1						
	仏教学演習B	1・2後		2				○		1						
	仏教思想史講義A	1・2前		2			○			1						
	仏教思想史講義B	1・2後		2			○			1						
	インド哲学仏教学総合演習A	1・2前		2				○		1	1					共同
	インド哲学仏教学総合演習B	1・2後		2				○		1	1					共同
	倫理学基礎演習A	1・2前		2				○			1					
	倫理学基礎演習B	1・2前		2				○			1					
	応用倫理学方法論研究A	1・2後		2				○			1					
	応用倫理学方法論研究B	1・2後		2				○			1					
	応用倫理学基礎演習A	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学基礎演習B	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究A	1・2後		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究B	1・2後		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習A	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習B	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史文献研究A	1・2後		2				○		1						
	倫理思想史文献研究B	1・2後		2				○		1						
	応用倫理思想基礎演習A	1・2前		2				○		1						
	応用倫理思想基礎演習B	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究A	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究B	1・2後		2				○		1						
	中国哲学文献研究C	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究D	1・2後		2				○		1						
	中国思想文献研究A	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究B	1・2後		2				○					1			
	中国思想文献研究C	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究D	1・2後		2				○					1			
	中国文化文献研究A	1・2前		2				○		1						
	中国文化文献研究B	1・2後		2				○		1						
	中国文化文献研究C	1・2前		2				○		1						
	中国文化文献研究D	1・2後		2				○		1						
	中国思想学專題講義	1・2前		2			○			1						隔年
	中国文化学專題研究	1・2後		2				○		1						隔年
	中国思想文化学研究法A	1・2前		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法B	1・2後		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法C	1・2前		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法D	1・2後		2				○		2						共同
	歴史文化研究	1・2前		2			○			6	3					隔年・オムニバス
	文化交流ー日本と世界ー	1・2②		2			○			6	3					隔年・オムニバス
	日本地域文献資料実習	1・2前		1					○	2	1					隔年・共同
日本地域史研究実習	1・2後		1					○	2	1					隔年・共同	
日本古代資料解析論	1・2前		2				○			1					隔年	
日本古代社会文化研究	1・2前		2				○			1					隔年	
日本中世資料解析論A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本中世資料解析論B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本中世社会文化研究A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本中世社会文化研究B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本近世資料解析論A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本近世資料解析論B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本近世社会文化研究A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本近世社会文化研究B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本近代資料解析論A	1・2前		2				○			1					隔年	
日本近代資料解析論B	1・2後		2				○			1					隔年	
日本近代社会文化研究A	1・2前		2				○			1					隔年	
日本近代社会文化研究B	1・2後		2				○			1					隔年	
日本社会文化史特論	1・2前		2				○		2						隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要																		
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
プログラム専門科目	アジア歴史文化論A	1・2②		2			○				1							隔年
	アジア歴史文化論B	1・2②		2			○				1							隔年
	アジア社会史史料研究A	1・2①		2				○			1							隔年
	アジア社会史史料研究B	1・2③		2					○		1							隔年
	アジア政治史史料研究A	1・2①		2						○	1							隔年
	アジア政治史史料研究B	1・2③		2							○	1						隔年
	アジア地域史研究A	1・2①		2				○				1						隔年
	アジア地域史研究B	1・2①		2				○				1						隔年
	アジア地域文化論A	1・2①		2				※	○				1					※講義・隔年
	アジア地域文化論B	1・2①		2				※	○				1					※講義・隔年
	アジア交流史史料研究A	1・2②		2						○			1					隔年
	アジア交流史史料研究B	1・2④		2							○			1				隔年
	中国制度史史料講義A	1・2③		2				※	○				1					※講義・隔年
	中国制度史史料講義B	1・2③		2				※	○				1					※講義・隔年
	中国経済史史料研究A	1・2②		2						○			1					隔年
	中国経済史史料研究B	1・2④		2							○			1				隔年
	中国政治史史料講義A	1・2③		2				※	○				1					※講義・隔年
	中国政治史史料講義B	1・2③		2				※	○				1					※講義・隔年
	中国文化史史料研究A	1・2②		2							○			1				隔年
	中国文化史史料研究B	1・2④		2								○			1			隔年
	中国社会史史料研究A	1・2②		2							○			1				隔年
	中国社会史史料研究B	1・2④		2								○			1			隔年
	アジア歴史社会論A	1・2④		2				○						1				隔年
	アジア歴史社会論B	1・2④		2				○						1				隔年
	近代国家論研究	1・2後		2				○						1				隔年
	欧米社会構造論研究	1・2前		2				○						1				隔年
	欧米政治文化史史料研究A	1・2前		2							○			1				隔年
	欧米政治文化史史料研究B	1・2後		2							○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究A	1・2前		2							○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究B	1・2後		2							○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究C	1・2前		2							○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究D	1・2後		2							○			1				隔年
	西洋社会史文書研究A	1・2前		2							○				1			隔年
	西洋社会史文書研究B	1・2後		2							○				1			隔年
	西洋文化史文書研究A	1・2前		2							○				1			隔年
	西洋文化史文書研究B	1・2後		2							○				1			隔年
	地中海世界史研究A	1・2前		2							○				1			隔年
	地中海世界史研究B	1・2後		2							○				1			隔年
	地中海文書解析学A	1・2前		2							○				1			隔年
	地中海文書解析学B	1・2後		2							○				1			隔年
	日本古典文学注釈研究A	1・2前		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究B	1・2後		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究C	1・2前		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究D	1・2後		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究E	1・2前		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究F	1・2後		2				※	○					1				※講義・隔年
	日本古典文学解読研究A	1・2前		2							○				1			隔年
	日本古典文学解読研究B	1・2後		2							○				1			隔年
	日本古典文学解読研究C	1・2前		2							○				1			隔年
	日本古典文学解読研究D	1・2後		2							○				1			隔年
日本古典文学解読研究E	1・2前		2							○				1			隔年	
日本古典文学解読研究F	1・2後		2							○				1			隔年	
日本近現代文学注釈研究A	1・2前		2							○				1			隔年	
日本近現代文学注釈研究B	1・2後		2							○				1			隔年	
日本近現代文学注釈研究C	1・2前		2							○				1			隔年	
日本近現代文学注釈研究D	1・2後		2							○				1			隔年	
日本近現代文学解読研究A	1・2前		2							○				1			隔年	
日本近現代文学解読研究B	1・2後		2							○				1			隔年	
日本近現代文学解読研究C	1・2前		2							○				1			隔年	
日本近現代文学解読研究D	1・2後		2							○				1			隔年	
日本語学研究A	1・2前		2							○				1			隔年	
日本語学研究B	1・2後		2							○				1			隔年	
日本語史研究A	1・2前		2							○				1			隔年	
日本語史研究B	1・2③		2							○				1			隔年	
中国古典散文演習A	1・2前		2							○				1			隔年	
中国古典散文演習B	1・2後		2							○				1			隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	中国古典散文演習C	1・2前		2				○		1					
	中国古典散文演習D	1・2後		2				○		1					
	中国古典韻文演習A	1・2前		2				○			1				
	中国古典韻文演習B	1・2後		2				○			1				
	中国古典韻文演習C	1・2前		2				○			1				
	中国古典韻文演習D	1・2後		2				○			1				
	中国古典詩演習A	1・2前		2				○		1					
	中国古典詩演習B	1・2後		2				○		1					
	中国古典詩演習C	1・2後		2				○		1					
	中国古典詩演習D	1・2後		2				○		1					
	中国古典小説演習A	1・2前		2				○		1					
	中国古典小説演習B	1・2後		2				○		1					
	中国古典小説演習C	1・2前		2				○		1					
	中国古典小説演習D	1・2後		2				○		1					
	中国文学特殊講義A	1・2前		2			○		○	1					隔年
	中国文学特殊講義B	1・2前		2			○		○	1					隔年
	欧米文学語学・言語学概説	1・2③		2			○			6	4		3		オムニバス
	近代アメリカ文学演習A	1・2②		2					○	1					
	近代アメリカ文学演習B	1・2②		2					○	1					
	現代アメリカ文学演習A	1・2①		2					○	1					
	現代アメリカ文学演習B	1・2①		2					○	1					
	アメリカ文学理論演習A	1・2④		2					○	1					
	アメリカ文学理論演習B	1・2④		2					○	1					
	アメリカ小説作品演習A	1・2③		2					○	1					
	アメリカ小説作品演習B	1・2③		2					○	1					
	アメリカ文学特殊講義A	1・2①		2			○		※	1					※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2①		2			○		※	1					※演習
	アメリカ文学研究演習A	1・2③		2					○	1					
	アメリカ文学研究演習B	1・2③		2					○	1					
	批評理論演習A	1・2前		2					○	1					隔年
	批評理論演習B	1・2後		2					○	1					隔年
	イギリス詩文学作品演習A	1・2③		2					○				1		
	イギリス詩文学作品演習B	1・2③		2					○				1		
	イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④		2					○				1		
	イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④		2					○				1		
	イギリス小説作品研究演習A	1・2③		2					○		1				
	イギリス小説作品研究演習B	1・2③		2					○		1				
	イギリス小説作品演習A	1・2①		2					○		1				
	イギリス小説作品演習B	1・2①		2					○		1				
	イギリス戯曲文学演習A	1・2②		2					○	1					
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③		2					○	1					
	イギリス戯曲文学演習C	1・2②		2					○	1					
	イギリス戯曲文学演習D	1・2③		2					○	1					
	英語圏文学概論A	1・2③		2					○				1		
	英語圏文学概論B	1・2④		2					○				1		
	英語圏文学特殊講義A	1・2①		2			○			1	1		1		共同
	英語圏文学特殊講義B	1・2②		2			○			1	1		1		共同
	世界英語圏文学批評演習A	1・2後		2					○	1					
	世界英語圏文学批評演習B	1・2後		2					○	1					
	英語圏文学作品演習A	1・2前		2					○	1					
英語圏文学作品演習B	1・2前		2					○	1						
英語圏文学作品研究演習A	1・2後		2					○	1						
英語圏文学作品研究演習B	1・2後		2					○	1						
英語圏詩文学作品演習A	1・2前		2					○	1						
英語圏詩文学作品演習B	1・2前		2					○	1						
英語学概論A	1・2①		2			○			1	1				共同	
英語学概論B	1・2③		2			○			1	1				共同	
英語学理論演習A	1・2①		2					○	1					隔年	
英語学理論演習B	1・2①		2					○	1					隔年	
近代英語作品研究演習A	1・2③		2					○	1					隔年	
近代英語作品研究演習B	1・2③		2					○	1					隔年	
中期英語概論A	1・2①		2			○				1				隔年	
中期英語概論B	1・2①		2			○				1				隔年	
中期英語作品研究演習A	1・2③		2					○		1				隔年	
中期英語作品研究演習B	1・2③		2					○		1				隔年	
英語学特殊講義A	1・2①		2			○			1	1				共同	

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
プログラム専門科目	英語学特殊講義B	1・2③		2			○			1	1				共同	
	ドイツ文学理論演習A	1・2後		2				○		1					隔年	
	ドイツ文学理論演習B	1・2後		2				○		1					隔年	
	近現代ドイツ語学演習A	1・2前		2				○			1				隔年	
	近現代ドイツ語学演習B	1・2後		2				○			1				隔年	
	ドイツ文学語学特殊講義A	1・2前		2				○		1					隔年	
	ドイツ文学語学特殊講義B	1・2後		2				○		1					隔年	
	ドイツ文学語学特殊講義C	1・2前		2				○		1					隔年	
	ドイツ語圏文化論演習A	1・2前		2					○		1					隔年
	ドイツ語圏文化論演習B	1・2後		2					○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習A	1・2前		2					○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習B	1・2後		2					○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習C	1・2前		2					○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習D	1・2後		2					○		1					隔年
	ドイツ文学発展演習A	1・2前		2					○		1					隔年
	ドイツ文学発展演習B	1・2前		2					○		1					隔年
	ドイツ近現代文学演習A	1・2前		2					○				1			隔年
	ドイツ近現代文学演習B	1・2後		2					○				1			隔年
	ドイツ小説演習A	1・2前		2					○				1			隔年
	ドイツ小説演習B	1・2後		2					○				1			隔年
	ドイツ語コーパス言語学A	1・2前		2				○			1					隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	1・2後		2				○			1					隔年
	フランス語文学研究A	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語文学研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語文学批評研究A	1・2前		2					○		1					隔年
	フランス語文学批評研究B	1・2前		2					○		1					隔年
	フランス語文学・フランス語学演習A	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語文学・フランス語学演習B	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス文学特別研究演習A	1・2後		2					○				1			隔年
	フランス文学特別研究演習B	1・2後		2					○				1			隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習A	1・2前		2					○		1					隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習B	1・2前		2					○		1					隔年
	近現代フランス語文学批評演習A	1・2後		2					○		1					隔年
	近現代フランス語文学批評演習B	1・2後		2					○		1					隔年
	近現代フランス語表現小説研究A	1・2前		2					○		1					隔年
	近現代フランス語表現小説研究B	1・2前		2					○		1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習A	1・2前		2					○			1				隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習B	1・2前		2					○			1				隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習C	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習D	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語圏文化論演習A	1・2前		2					○			1				隔年
	フランス語圏文化論演習B	1・2前		2					○			1				隔年
	フランス語圏文化論演習C	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語圏文化論演習D	1・2後		2					○			1				隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義A	1・2前		2				○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義B	1・2前		2				○			1					隔年
	言語研究法講義ⅠA	1・2前		2				※	○		1	1				※講義・隔年・共同
	言語研究法講義ⅠB	1・2前		2				※	○		1	1				※講義・隔年・共同
	言語研究法講義ⅡA	1・2後		2				※	○		1	1				※講義・隔年・共同
	言語研究法講義ⅡB	1・2後		2				※	○		1	1				※講義・隔年・共同
一般言語学演習A	1・2前		2				※	○		1					※講義・隔年	
一般言語学演習B	1・2前		2				※	○		1					※講義・隔年	
一般言語学特別演習A	1・2後		2				※	○		1					※講義・隔年	
一般言語学特別演習B	1・2後		2				※	○		1					※講義・隔年	
理論・応用言語学演習A	1・2前		2				※	○			1				※講義・隔年	
理論・応用言語学演習B	1・2前		2				※	○			1				※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習A	1・2後		2				※	○		1					※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習B	1・2後		2				※	○		1					※講義・隔年	
歴史・対照言語学演習A	1・2前		2					○			1				隔年	
歴史・対照言語学演習B	1・2前		2					○			1				隔年	
歴史・対照言語学特別演習A	1・2後		2					○			1				隔年	
歴史・対照言語学特別演習B	1・2後		2					○			1				隔年	
ヨーロッパ語比較構文論講義A	1・2前		2					○			1				隔年	
ヨーロッパ語比較構文論講義B	1・2前		2					○			1				隔年	
ヨーロッパ語比較構文論演習A	1・2後		2					○			1				隔年	
ヨーロッパ語比較構文論演習B	1・2後		2					○			1				隔年	

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文科学プログラム プログラム専門科目	人文地理学特別講義	1・2前		2			○			1					隔年
	人文地理学基礎論演習A	1・2前		2			○			1					隔年
	人文地理学基礎論演習B	1・2前		2			○			1					隔年
	人文地理学特論演習A	1・2前		2			○		1						隔年
	人文地理学特論演習B	1・2前		2			○		1						隔年
	世界地域システム論演習A	1・2後		2			○			1					隔年
	世界地域システム論演習B	1・2後		2			○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習A	1・2後		2			○		1						隔年
	グローバル経済地域論演習B	1・2後		2			○		1						隔年
	現代インド地誌学	1・2前		2			○	※	1						※演習・隔年
	条件不利地域の地理学	1・2後		2			※	○		1					※講義・隔年
	経済地理学研究	1・2前		2			○	※	1						※演習・隔年
	農村地理学研究	1・2後		2			○	※		1					※演習・隔年
	自然地理学特別講義	1・2後		2			○			1					隔年
	自然地理学基礎論演習A	1・2前		2			○			1					隔年
	自然地理学基礎論演習B	1・2前		2			○			1					隔年
	自然地理学特論演習A	1・2前		2			○		1						隔年
	自然地理学特論演習B	1・2前		2			○		1						隔年
	地表変動論演習A	1・2後		2			○			1					隔年
	地表変動論演習B	1・2後		2			○			1					隔年
	自然地域形成論演習A	1・2後		2			○		1						隔年
	自然地域形成論演習B	1・2後		2			○		1						隔年
	自然地域システム論研究	1・2前		2			○		1						隔年
	地表変動論研究	1・2後		2			○			1					隔年
	地理情報システム学講義	1・2①		2			○			1					隔年
	地理情報システム学演習	1・2④		2				○		1					隔年
	地理学研究法A	1・2前		2				○		2					共同
	地理学研究法B	1・2後		2				○		2					共同
	地理学野外実験	1・2前		1					○	2	2				共同
	地理学野外演習	1・2後		2				○		2	2				共同
	日本考古学解析A	1・2①		2				○		1					隔年
	日本考古学解析B	1・2①		2				○		1					隔年
	アジア考古学解析	1・2後		2				○		1					隔年
	日本考古学特論	1・2後		2				○		1					隔年
	世界考古学解析A	1・2④		2				○			1				隔年
	世界考古学解析B	1・2④		2				○			1				隔年
	考古学広領域講義	1・2後		2				○		1					隔年
	考古文献評論A	1・2②		2				○		1					隔年
	考古文献評論B	1・2②		2				○		1					隔年
	考古資料評論	1・2③		2				○		1					隔年
	アジア比較考古学演習A	1・2③		2				○		1	1				隔年・共同
	アジア比較考古学演習B	1・2③		2				○		1					隔年
	考古学資料実習A	1・2①		1					○	2	1				隔年・共同
	考古学資料実習B	1・2④		1					○	2	1				共同
	考古学資料実習C	1・2①		1					○	2	1				隔年・共同
	総合文化財研究法Ⅰ	1・2後		2				○			1				隔年
	総合文化財研究法Ⅱ	1・2後		2				○			1				隔年
	総合文化財調査実習Ⅰ	1・2前		1					○		1				隔年
	総合文化財調査実習Ⅱ	1・2後		1					○		1				隔年
	総合文化財解析演習Ⅰ	1・2前		2					○		1				隔年
総合文化財解析演習Ⅱ	1・2後		2					○		1				隔年	
有形文化財研究法Ⅰ	1・2前		2				○		1					隔年	
有形文化財研究法Ⅱ	1・2前		2				○		1					隔年	
有形文化財解析演習Ⅰ	1・2前		2					○	1					隔年	
有形文化財解析演習Ⅱ	1・2後		2					○	1					隔年	
有形文化財調査実習Ⅰ	1・2前		1						1					隔年	
有形文化財調査実習Ⅱ	1・2後		1						1					隔年	
文化財学特殊講義Ⅰ	1・2後		2				○							兼1 隔年	
文化財学特殊講義Ⅱ	1・2後		2				○							兼1 隔年	
小計(359科目)		—	0	708	0		—		32	22	0	5	0	兼6 —	
心理学プログラム	心理学研究法基礎演習A	1②		1			○		6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法基礎演習B	1④		1			○		6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法応用演習A	2②		1			○		6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法応用演習B	2④		1			○		6	4	1	1		兼1 共同	
	Academic writing in psychology A	1①		1			○		6	4	1	1		兼1 共同	
Academic writing in psychology B	1③		1			○		6	4	1	1		兼1 共同		



教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	日本政治論演習	1・2②		2				○		1					隔年	
	比較自治体論演習	1・2後		2				○			1				隔年	
	租税法演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	国際租税法演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	不動産法	1・2③		2			○			1						
	物件管理法	1・2①		2			○					1				
	契約法	1・2①		2			○				1					
	経営法務	1・2前		2			○			1					隔年	
	経営法務戦略論	1・2前		2			○			1					隔年	
	企業組織法	1・2④		2			○				1				隔年	
	企業ファイナンス法	1・2④		2			○				1				隔年	
	民事訴訟の理論と実務	1・2②		2			○			1					隔年	
	裁判外紛争処理論	1・2②		2			○			1					隔年	
	雇用関係法	1・2前		2			○			1					隔年	
	不動産法演習	1・2前		2				○		1						
	物件管理法演習	1・2④		2				○				1				
	契約法演習	1・2③		2				○			1					
	経営法務演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	経営法務戦略論演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	企業組織法演習	1・2②		2				○			1				隔年	
	企業ファイナンス法演習	1・2②		2				○			1				隔年	
	民事訴訟の理論と実務演習	1・2③		2				○		1					隔年	
	裁判外紛争処理論演習	1・2③		2				○		1					隔年	
	雇用関係法演習	1・2後		2				○		1						
	国際法	1・2前		2			○			1					隔年	
	国際機構法	1・2前		2			○			1					隔年	
	国際政治経済論	1・2②		2			○				1					
	国際刑事政策	1・2④		2			○			1						
	安全保障論	1・2前		2			○							兼1	隔年	
	国際政治学	1・2前		2			○							兼1	隔年	
	外交論	1・2②		2			○				1					
	国際秩序構築論	1・2後		2			○			1						
	国際関係私法	1・2②		2			○				1					
	比較政治思想論	1・2①		2			○					1			隔年	
	日本法概説 1	1・2①		2			○					1				
	日本法概説 2	1・2③		2			○					1				
	国際刑事法	1・2③		2			○			1						
	国際法演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	国際機構法演習	1・2後		2				○		1					隔年	
	国際政治経済論演習	1・2④		2				○			1					
	国際刑事政策演習	1・2④		2				○		1						
	安全保障論演習	1・2後		2				○						兼1	隔年	
	国際政治学演習	1・2後		2				○						兼1	隔年	
	外交論演習	1・2④		2				○			1					
	国際秩序構築論演習	1・2前		2				○		1						
	国際関係私法演習	1・2④		2				○			1					
	比較政治思想論演習	1・2③		2				○				1			隔年	
	医療と人権	1・2前		2			○			1					隔年	
医事法制度論	1・2①		2			○			1					隔年		
医事刑法論	1・2①		2			○				1				隔年		
医療刑事手続論	1・2①		2			○			1					隔年		
医療労務管理と法	1・2前		2			○			1					隔年		
社会調査論	1・2前		2			○			1					隔年		
医療社会学特論	1・2前		2			○			1					隔年		
精神科医療法制論	1・2後		2			○			1					隔年		
小計 (78科目)		—	0	156	0			—		14	8	1	2	0	兼1	—
経済学プログラム	経済学プログラム特別演習 I	1・2前		2				○		13	8					
	経済学プログラム特別演習 II	1・2後		2				○		13	8					
	応用ファイナンス	1・2前		2			○			1						
	理論ファイナンス	1・2前		2			○		1							
	金融資本市場分析	1・2後		2			○			1						
	経済数学	1・2後		2			○							兼1		
	日本銀行連携講義 1	1・2		2			○		1					兼2	隔年・オムニバス	
	日本銀行連携講義 2	1・2		2			○		1					兼2	隔年・オムニバス	
金融庁連携講義 1	1・2		2			○		1					兼2	隔年・共同・オムニバス		
金融庁連携講義 2	1・2		2			○		1					兼2	隔年・共同・オムニバス		

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
経済学プログラム	日本政策投資銀行連携講義 1	1・2後		2		○									兼1	隔年
	日本政策投資銀行連携講義 2	1・2後		2		○									兼1	隔年
	マクロ経済学	1・2②		2		○							1			
	ミクロ経済学	1・2前		2		○				1						
	マクロ金融分析	1・2④		2		○				1						
	計量経済学 1	1・2①		2		○				1						
	計量経済学 2	1・2③		2		○				1						
	経済統計分析	1・2①		2		○				1						
	経済時系列分析	1・2後		2		○				1						
	労働市場分析	1・2①		2		○				1						
	財政学	1・2①		2		○				1						
	経済戦略論	1・2①		2		○					1					
	地方財政論	1・2②		2		○				1						
	経済情報分析	1・2①		2		○					1					
	公共経済学	1・2④		2		○					1					
	医療経済学	1・2③		2		○				1						
	公共政策論	1・2③		2		○				1						
	国際公共政策	1・2①		2		○				1						
	応用国際公共政策	1・2①		2		○					1					
	開放マクロ経済学	1・2③		2		○				1						
	欧米経済史 1	1・2④		2		○				1						隔年
	欧米経済史 2	1・2④		2		○				1						隔年
	政治経済学 1	1・2②		2		○									兼1	隔年
	政治経済学 2	1・2②		2		○									兼1	隔年
	経済学史 1	1・2④		2		○					1					隔年
	経済学史 2	1・2④		2		○					1					隔年
	エネルギー政策論	1・2		2		○									兼1	
	経済学特講	1・2①		2		○									兼1	
小計 (38科目)		—	0	76	0	—			13	8	0	1	0	兼8	—	
プログラム専門科目	リサーチ・リテラシー	1・2前		2		○				2	3				兼2	オムニバス
	イノベーション・マネジメント論	1・2後		2		○					1					
	経営戦略論	1・2前		2		○					1					
	市場戦略論	1・2前		2		○					1					
	サービス経営論	1・2前		2		○					1					
	経営組織論	1・2前		2		○				1						
	CSR論	1・2後		2		○				1						
	マーケティング論	1・2前		2		○					1					
	国際マーケティング戦略論	1・2後		2		○					1					
	経営管理論	1・2後		2		○							1			兼1
	組織行動論	1・2後		2		○					1					
	人的資源管理論	1・2前		2		○					1					兼1
	コスト・マネジメント	1・2後		2		○							1			
	税法コンプレッション	1・2後		2		○					1					
	税法ケーススタディ	1・2前		2		○					1					
	管理会計論	1・2前		2		○							1			
	財務会計論	1・2前		2		○					1					
	会計政策論	1・2後		2		○					1					
	経営情報システム論	1・2前		2		○						1				
	企業とコミュニケーション	1・2後		2		○						1				
	社会心理学特論	1・2後		2		○			※			1				※実験
	国際関係論	1・2前		2		○					1					
	地域協力論	1・2後		2		○					1					
	異文化コミュニケーション論	1・2前		2		○					1					
	異文化ビジネスコミュニケーション	1・2後		2		○					1					
	フィールドワーク論	1・2後		2		○						1				
	コミュニケーション原論	1・2後		2		○						1				
	社会行動データ解析	1・2前		2		○			※			1				※演習
アントレプレナーシップ	1・2後		2		○										兼1	
情報システム管理学	1・2前		2		○						1					
情報ネットワーク論	1・2後		2		○						1					
公共経営論	1・2前		2		○						1					
地域経営論	1・2後		2		○						1					
地域分析	1・2前		2		○										兼1	
アジア企業論	1・2後		2		○										兼1	
アジアビジネス事情	1・2後		2		○						1					
ビジネス日本語	1・2前		2		○										兼1	

教育課程等の概要														
(人文社会科学専攻 博士課程前期)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
マネジメントプログラム	アジアベンチャービジネス論	1・2後		2		○								兼2
	マネジメント特講 (サステイナビリティ・マネジメント論)	1・2前		2		○						1		
	マネジメント特講 (地域創成論)	1・2後		2		○						1		
	マネジメント特講 (日本の組織と経営)	1・2前		2		○								兼1
	マネジメント特講 (地域活性化)	1・2前		2		○								兼6
	小計 (42科目)	—	0	84	0	—			6	8	1	1	0	兼12
国際平和共生プログラム	Peace and Co-existence A	1・2①		1		○			1	3	1	2		オムニバス
	Peace and Co-existence B	1・2③		1		○			3	3	1	1		オムニバス
	Peace and Conflict Research I	1・2①		2		○				1				
	Peace and Conflict Research II	1・2②		2		○				1				
	Conflict Resolution I	1・2③		2		○				1				
	Conflict Resolution II	1・2④		2		○				1				
	Peacebuilding I	1・2③		2		○			1					
	Peacebuilding II	1・2④		2		○			1					
	International Relations	1・2①		2		○						1		
	Hiroshima Peace Studies I	1・2③		2		○			1					
	Hiroshima Peace Studies II	1・2④		2		○			1					
	Hiroshima Peace Heritage I	1・2①		2		○				1				
	Hiroshima Peace Heritage II	1・2②		2		○				1				
	Politics in Japan	1・2③		2		○			1					
	International Politics I	1・2①		2		○			1					
	International Politics II	1・2②		2		○			1					
	International Security I	1・2①		2		○				1				
	International Security II	1・2②		2		○				1				
	International Law and International Institutional Law	1・2①		2		○			1					
	International Ethics I	1・2③		2		○				1				
	International Ethics II	1・2④		2		○				1				
	Law and Human Rights	1・2①		2		○			1					
	Basic Cultural Anthropology I	1・2①		2		○					1			
	Basic Cultural Anthropology II	1・2②		2		○			1					
	Contemporary Anthropology I	1・2③		2		○					1			
	Contemporary Anthropology II	1・2④		2		○			1	1				
	Identity and Co-existence	1・2③		2		○								兼1
Peacebuilding Case Studies	1・2④		2		○						1			
Area Studies	1・2後		2		○								兼1	
Development and Culture	1・2後		2		○								兼1	
	小計 (30科目)	—	0	58	0	—			6	6	1	2	0	兼3
国際経済開発プログラム	社会科学のための数理・計量分析	1①		2		○						1		兼1
	調査方法論基礎	1③		2		○	○							兼1
	開発ミクロ経済学I	1③		2		○			1					兼1
	開発ミクロ経済学II	1④		2		○			1					兼1
	開発マクロ経済学I	1③		2		○			1					兼1
	開発マクロ経済学II	1④		2		○			1					兼1
	開発計量経済学I	1①		2		○				1				兼1
	開発計量経済学II	1②		2		○				1				兼1
	経済統計分析論	1②		2		○								兼1
	グローバルガバナンス論	1③		2		○						1		
	都市経済学	1②		2		○								兼1
	農村開発論	1③		2		○			1					
	技術経営論	1①		2		○				1				
	人的資源開発論	1④		2		○				1				
	公共管理論	1④		2		○			1					
	経営組織論	1③		2		○			1					
	経営戦略論	1①		2		○								兼1
環境政策論	1③		2		○									
都市政策論	1④		2		○						1			
国際協力論	1①		2		○			1						
労働政策論	1②		2		○			1	1					
国際金融論	1②		2		○			1						
	小計 (22科目)	—	0	44	0	—			4	2	0	3	0	兼6
人間総合科学プログラム	総合科学系演習	1②		2			○		3					集中・共同
	人間総合科学特論	1～2		4		○			3					オムニバス・共同 (一部)
	コンピュータと言語研究・教育	1・2④		2		○			2					オムニバス
	言語構造論	1・2①		2		○			1	2				オムニバス
	言語類型研究	1・2④		2		○			1	2				オムニバス
	心理言語的アプローチからの第二言語習得	1・2①		2		○			1	1				オムニバス・共同 (一部)
	実験言語学	1・2②		2		○				2				オムニバス・共同 (一部)
運動生理・生化学	1・2③		2		○			1	1				オムニバス・共同 (一部)	

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間総合科学プログラム プログラム専門科目	運動適応学	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	運動制御学	1・2③		2		○			1			1		兼1	オムニバス・共同 (一部)	
	運動精神科学	1・2④		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	認知科学論	1・2①		2		○			1	2					オムニバス・共同 (一部)	
	比較認知論	1・2④		2		○			1	2					オムニバス・共同 (一部)	
	環境行動論	1・2①		2		○			1					兼1	オムニバス・共同 (一部)	
	適応行動論	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	社会行動論	1・2③		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)	
	BCM (Business Community Management)	1・2後			2		○								兼1	
	現代哲学	1・2②		2		○				1					兼1	オムニバス・共同 (一部)
	美的感性論	1・2②		2		○			1	1						オムニバス・共同 (一部)
	文化哲学	1・2③		2		○				1					兼1	オムニバス・共同 (一部)
	比較芸術論	1・2②		2		○			1	1						共同
	実践倫理学	1・2④		2		○				1					兼1	オムニバス・共同 (一部)
	比較宗教思想史	1・2③		2		○				2						オムニバス・共同 (一部)
	マイノリティ文化思想	1・2③		2		○				2						オムニバス・共同 (一部)
	日本地域研究	1・2②		2		○				2						共同
	日本文藝社会研究	1・2①		2		○				2						共同
	アジア文化論 (現代文化)	1・2③		2		○				2						共同
	アジア文化論 (表象文化)	1・2④		2		○			1	1						共同
	アジア文化論 (伝統文化)	1・2②		2		○			1	1						集中・共同
	ヨーロッパ社会論	1・2①		2		○			1			1				オムニバス・共同 (一部)
	ヨーロッパ文化論	1・2④		2		○			1			1				オムニバス・共同 (一部)
	欧米地域研究	1・2②		2		○				2						オムニバス・共同 (一部)
	アジア地域研究	1・2①		2		○			2							オムニバス・共同 (一部)
	英米社会論 (国際関係)	1・2②		2		○									兼1	集中
	ヒロシマ平和学	1・2③		2		○			2							共同
	英米文化論	1・2③		2		○				2						共同
	英米文藝社会研究	1・2①		2		○				2						共同
	宗教学	1・2③		2		○			1	1						オムニバス・共同 (一部)
	宗教聖典論	1・2④		2		○			1	1						共同
	社会人類学	1・2③		2		○			1	1						共同
	民族誌論	1・2②		2		○			1	1						共同
	科学・技術・社会論	1・2②		2		○			1	1						オムニバス・共同 (一部)
	社会文化史	1・2③		2		○			2							共同
	教育文化史	1・2③		2		○			2							共同
	異文化理解	1・2①		2		○			1	1						共同
	持続可能な観光発展論	1・2②		2		○			1			1				オムニバス・共同 (一部)
	文化観光論	1・2③		2		○			1			1				オムニバス・共同 (一部)
	社会動態論	1・2④		2		○			1	1						共同
	社会構造論	1・2③		2		○			1	1						共同
	社会学研究法	1・2①		2		○				2						共同
	福祉社会論	1・2②		2		○				2						オムニバス・共同 (一部)
	世界経済体制論	1・2③		2		○				2						共同
	産業システム論	1・2④		2		○				2						共同
	農村環境社会論	1・2③		2		○			1	1						共同
	持続可能地域論	1・2②		2		○			1	1						共同
	地域情報論	1・2②		2		○				2						共同
	生命機能化学	1・2③		2		※	○								兼3	※講義・共同
	生態系循環論	1・2③		2		○									兼3	オムニバス
	情報システム論	1・2③		2		○									兼2	オムニバス
	地球表層物質輸送論	1・2②		2		○									兼2	オムニバス
	自然環境リスク論	1・2②		2		○									兼7	オムニバス
	気候変動災害論	1・2②		2		○									兼2	オムニバス
	生物多様性科学	1・2②		2		○									兼2	オムニバス
	小計 (63科目)		—	0	126	2				25	36	2	1	0	兼22	—
	特別研究		1~2	4				○		102	91	5	8		兼13	
	小計 (680科目)		—	4	1325	2				103	93	6	15	0	兼64	—
	合計 (705科目)		—	6	1360	2				103	93	6	17	0	兼123	—

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(人文社会科学専攻 博士課程前期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士(文学) 修士(心理学) 修士(法学) 修士(経済学) 修士(経営学) 修士(マネジメント) 修士(国際協力学) 修士(学術)		学位又は学科の分野						文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係 経済学関係					

**卒業要件及び履修方法**

**授業期間等**

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。

修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	1単位以上	
持続可能な発展科目	1単位以上	
キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位
専攻共通科目	2単位以上	
プログラム専門科目	12単位以上	
所属プログラム専門科目	4単位	「必修」 特別研究：4単位
特別研究	4単位	
他プログラム専門科目	2単位以上	
所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目	4単位以上	
合計	30単位以上	

1 学年の学期区分	2学期 (4ターム)
1 学期の授業期間	15週
1 時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health SDGsへの学問的アプローチA SDGsへの学問的アプローチB SDGsへの実践的アプローチ ダイバーシティの理解	1・2①②④	1			○			1	1					兼3 オムニバス
		1・2②	1			○			2						兼5 オムニバス・メディア
		1・2④	1			○			2						兼4 オムニバス・メディア
		1・2①	1			○									兼8 オムニバス・共同 (一部)メディア
		1・2③	1			○			1	1					兼5 オムニバス・メディア
		1・2②	2				○								兼3 共同・集中
		1・2②	1				○			2					兼2 オムニバス・共同 (一部)・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目 データリテラシー 医療情報リテラシー 人文社会系キャリアマネジメント 理工系キャリアマネジメント ストレスマネジメント 情報セキュリティ MOT入門 アントレプレナーシップ概論	1・2①②	1			○									兼2 オムニバス
		1・2③	1			○									兼9 オムニバス・共同 (一部)
		1・2②③	2			○									兼1 メディア, ②のみ集中
1・2②		2			○									兼1 集中	
1・2②④		2			○									兼1 ②のみ集中	
1・2①		2			○									兼3 オムニバス	
1・2①③		1			○									兼1 兼1	
小計 (15科目)	—	0	20	0	—	—	—	7	2	0	0	0	兼44	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②	2			○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①	2			○			4	2				兼4	
	未来創造思考 (基礎)	1・2②	1			○								兼1	
	国際標準化論	1・2②	1			○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②	1			○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②	2			○								兼2	
小計 (7科目)	—	2	9	0	—	—	—	39	26	2	7	0	兼29	—	
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
小計 (3科目)	—	0	6	0	—	—	—	32	24	1	3	0	兼4	—	
プログラム専門科目 人文学プログラム	比較日本文化学研究A	1・2前		2			○					1			
	比較日本文化学研究B	1・2後		2			○					1			
	比較日本文化学研究C	1・2前		2			○							兼1	
	比較日本文化学研究D	1・2後		2			○							兼1	
	日本文化論講義A	1・2前		2			○							兼1	
	日本文化論講義B	1・2前		2			○					1			
	日本文化論演習A	1・2前		2				○						兼1	
	日本文化論演習B	1・2後		2				○				1			
	歴史文化論講義A	1・2前		2			○			1					
	歴史文化論講義B	1・2後		2			○			1					
	歴史文化論演習A	1・2前		2				○		1					
	歴史文化論演習B	1・2後		2				○		1					
	表象文化論講義A	1・2前		2			※	○		1				※講義	
	表象文化論講義B	1・2後		2			※	○		1				※講義	
	表象文化論演習A	1・2前		2				○		1					
	表象文化論演習B	1・2後		2				○		1					
	言語文化論講義A	1・2前		2			○			1					
	言語文化論講義B	1・2後		2			○			1					
	言語文化論演習A	1・2前		2				○		1					
	言語文化論演習B	1・2後		2				○		1					
	超域文化論講義A	1・2前		2			○				1				
	超域文化論講義B	1・2後		2			○				1				
	超域文化論演習A	1・2前		2				○			1				
	超域文化論演習B	1・2後		2				○			1				
	西洋哲学演習A	1・2①		2				○			1				
	西洋哲学演習B	1・2②		2				○			1				
	西洋哲学特別演習A	1・2①		2				○		1					
西洋哲学特別演習B	1・2②		2				○		1						
哲学文献資料研究A	1・2①		2				○			1					
哲学文献資料研究B	1・2②		2				○			1					
西洋哲学史演習A	1・2③		2				○			1					

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	西洋哲学史演習B	1・2④		2				○			1					
	西洋哲学史特別演習A	1・2③		2				○		1						
	西洋哲学史特別演習B	1・2④		2				○		1						
	西洋哲学史文献資料研究A	1・2③		2				○		1						
	西洋哲学史文献資料研究B	1・2④		2				○		1						
	西洋哲学特講	1・2②		2			○			1						
	インド哲学研究	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史講義	1・2前		2			○				1					
	インド哲学演習A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学演習B	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史演習A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学史演習B	1・2後		2				○			1					
	仏教学研究	1・2後		2				○			1					
	仏教思想史研究	1・2前		2				○			1					
	仏教学演習A	1・2前		2				○			1					
	仏教学演習B	1・2後		2				○			1					
	仏教思想史講義A	1・2前		2			○				1					
	仏教思想史講義B	1・2後		2			○				1					
	インド哲学仏教学総合演習A	1・2前		2				○			1	1				共同
	インド哲学仏教学総合演習B	1・2後		2				○			1	1				共同
	倫理学基礎演習A	1・2前		2				○				1				
	倫理学基礎演習B	1・2前		2				○				1				
	応用倫理学方法論研究A	1・2後		2				○				1				
	応用倫理学方法論研究B	1・2後		2				○				1				
	応用倫理学基礎演習A	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学基礎演習B	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究A	1・2後		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究B	1・2後		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習A	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習B	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史文献研究A	1・2後		2				○			1					
	倫理思想史文献研究B	1・2後		2				○			1					
	応用倫理思想基礎演習A	1・2前		2				○			1					
	応用倫理思想基礎演習B	1・2前		2				○			1					
	中国哲学文献研究A	1・2前		2				○			1					
	中国哲学文献研究B	1・2後		2				○			1					
	中国哲学文献研究C	1・2前		2				○			1					
	中国哲学文献研究D	1・2後		2				○			1					
	中国思想文献研究A	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究B	1・2後		2				○					1			
	中国思想文献研究C	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究D	1・2後		2				○					1			
	中国文化文献研究A	1・2前		2				○			1					
	中国文化文献研究B	1・2後		2				○			1					
	中国文化文献研究C	1・2前		2				○			1					
	中国文化文献研究D	1・2後		2				○			1					
	中国思想学專題講義	1・2前		2			○				1					隔年
	中国文化学專題研究	1・2後		2				○			1					隔年
	中国思想文化学研究法A	1・2前		2				○			2					共同
	中国思想文化学研究法B	1・2後		2				○			2					共同
中国思想文化学研究法C	1・2前		2				○			2					共同	
中国思想文化学研究法D	1・2後		2				○			2					共同	
歴史文化研究	1・2前		2			○				6	3				隔年・オムニバス	
文化交流ー日本と世界ー	1・2②		2			○				6	3				隔年・オムニバス	
日本地域文献資料実習	1・2前		1					○		2	1				隔年・共同	
日本地域史研究実習	1・2後		1					○		2	1				隔年・共同	
日本古代資料解析論	1・2前		2					○			1				隔年	
日本古代社会文化研究	1・2前		2					○			1				隔年	
日本中世資料解析論A	1・2前		2					○		1					隔年	
日本中世資料解析論B	1・2後		2					○		1					隔年	
日本中世社会文化研究A	1・2前		2					○		1					隔年	
日本中世社会文化研究B	1・2後		2					○		1					隔年	
日本近世資料解析論A	1・2前		2					○		1					隔年	
日本近世資料解析論B	1・2後		2					○		1					隔年	
日本近世社会文化研究A	1・2前		2					○		1					隔年	
日本近世社会文化研究B	1・2後		2					○		1					隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
プログラム専門科目	日本近代資料解析論A	1・2前		2				○				1					隔年
	日本近代資料解析論B	1・2後		2				○				1					隔年
	日本近代社会文化研究A	1・2前		2				○				1					隔年
	日本近代社会文化研究B	1・2後		2				○				1					隔年
	日本社会文化史特論	1・2前		2				○		2							隔年
	アジア歴史文化論A	1・2②		2			○			1							隔年
	アジア歴史文化論B	1・2②		2			○			1							隔年
	アジア社会史史料研究A	1・2①		2				○		1							隔年
	アジア社会史史料研究B	1・2③		2				○		1							隔年
	アジア政治史史料研究A	1・2①		2				○		1							隔年
	アジア政治史史料研究B	1・2③		2				○		1							隔年
	アジア地域史研究A	1・2①		2				○		1							隔年
	アジア地域史研究B	1・2①		2				○		1							隔年
	アジア地域文化論A	1・2①		2				※			1						※講義・隔年
	アジア地域文化論B	1・2①		2				※			1						※講義・隔年
	アジア交流史史料研究A	1・2②		2					○		1						隔年
	アジア交流史史料研究B	1・2④		2					○		1						隔年
	中国制度史史料講義A	1・2③		2				※			1						※講義・隔年
	中国制度史史料講義B	1・2③		2				※			1						※講義・隔年
	中国経済史史料研究A	1・2②		2					○		1						隔年
	中国経済史史料研究B	1・2④		2					○		1						隔年
	中国政治史史料講義A	1・2③		2					○		1						隔年
	中国政治史史料講義B	1・2③		2				※			1						※講義・隔年
	中国文化史史料研究A	1・2②		2					○			1					隔年
	中国文化史史料研究B	1・2④		2					○			1					隔年
	中国社会史史料研究A	1・2②		2					○		1						隔年
	中国社会史史料研究B	1・2④		2					○		1						隔年
	アジア歴史社会論A	1・2④		2					○		1						隔年
	アジア歴史社会論B	1・2④		2					○		1						隔年
	近代国家論研究	1・2後		2					○		1						隔年
	欧米社会構造論研究	1・2前		2					○		1						隔年
	欧米政治文化史史料研究A	1・2前		2					○		1						隔年
	欧米政治文化史史料研究B	1・2後		2					○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究A	1・2前		2					○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究B	1・2後		2					○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究C	1・2前		2					○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究D	1・2後		2					○		1						隔年
	西洋社会史文書研究A	1・2前		2					○			1					隔年
	西洋社会史文書研究B	1・2後		2					○			1					隔年
	西洋文化史文書研究A	1・2前		2					○			1					隔年
	西洋文化史文書研究B	1・2後		2					○			1					隔年
	地中海歴史研究A	1・2前		2					○		1						隔年
	地中海歴史研究B	1・2後		2					○		1						隔年
	地中海文書解析学A	1・2前		2					○		1						隔年
	地中海文書解析学B	1・2後		2					○		1						隔年
	日本古典文学注釈研究A	1・2前		2					※		○		1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究B	1・2後		2					※		○		1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究C	1・2前		2					※		○		1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究D	1・2後		2					※		○		1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究E	1・2前		2					※		○		1				※講義・隔年
日本古典文学注釈研究F	1・2後		2					※		○		1				※講義・隔年	
日本古典文学解読研究A	1・2前		2							○		1				隔年	
日本古典文学解読研究B	1・2後		2							○		1				隔年	
日本古典文学解読研究C	1・2前		2							○		1				隔年	
日本古典文学解読研究D	1・2後		2							○		1				隔年	
日本古典文学解読研究E	1・2前		2							○		1				隔年	
日本古典文学解読研究F	1・2後		2							○		1				隔年	
日本近現代文学注釈研究A	1・2前		2							○		1				隔年	
日本近現代文学注釈研究B	1・2後		2							○		1				隔年	
日本近現代文学注釈研究C	1・2前		2							○		1				隔年	
日本近現代文学注釈研究D	1・2後		2							○		1				隔年	
日本近現代文学解読研究A	1・2前		2							○		1				隔年	
日本近現代文学解読研究B	1・2後		2							○		1				隔年	
日本近現代文学解読研究C	1・2前		2							○		1				隔年	
日本近現代文学解読研究D	1・2後		2							○		1				隔年	
日本語学研究A	1・2前		2							○		1				隔年	

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目 人文学プログラム	日本語学研究B	1・2後		2				○			1					隔年
	日本語史研究A	1・2前		2				○			1					隔年
	日本語史研究B	1・2③		2				○			1					隔年
	中国古典散文演習A	1・2前		2				○		1						
	中国古典散文演習B	1・2後		2				○		1						
	中国古典散文演習C	1・2前		2				○		1						
	中国古典散文演習D	1・2後		2				○		1						
	中国古典韻文演習A	1・2前		2				○			1					
	中国古典韻文演習B	1・2後		2				○			1					
	中国古典韻文演習C	1・2前		2				○			1					
	中国古典韻文演習D	1・2後		2				○			1					
	中国古典詩演習A	1・2前		2				○		1						
	中国古典詩演習B	1・2後		2				○		1						
	中国古典詩演習C	1・2後		2				○		1						
	中国古典詩演習D	1・2後		2				○		1						
	中国古典小説演習A	1・2前		2				○		1						
	中国古典小説演習B	1・2後		2				○		1						
	中国古典小説演習C	1・2前		2				○		1						
	中国古典小説演習D	1・2後		2				○		1						
	中国文学特殊講義A	1・2前		2			○			1						隔年
	中国文学特殊講義B	1・2前		2			○			1						隔年
	欧米文学語学・言語学概説	1・2③		2			○			6	4		3			オムニバス
	近代アメリカ文学演習A	1・2②		2				○		1						
	近代アメリカ文学演習B	1・2②		2				○		1						
	現代アメリカ文学演習A	1・2①		2				○		1						
	現代アメリカ文学演習B	1・2①		2				○		1						
	アメリカ文学理論演習A	1・2④		2				○		1						
	アメリカ文学理論演習B	1・2④		2				○		1						
	アメリカ小説作品演習A	1・2③		2				○		1						
	アメリカ小説作品演習B	1・2③		2				○		1						
	アメリカ文学特殊講義A	1・2①		2			○	※		1						※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2①		2			○	※		1						※演習
	アメリカ文学研究演習A	1・2③		2				○		1						
	アメリカ文学研究演習B	1・2③		2				○		1						
	批評理論演習A	1・2前		2				○		1						隔年
	批評理論演習B	1・2後		2				○		1						隔年
	イギリス詩文学作品演習A	1・2③		2				○					1			
	イギリス詩文学作品演習B	1・2③		2				○					1			
	イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④		2				○					1			
	イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④		2				○					1			
	イギリス小説作品研究演習A	1・2③		2				○			1					
	イギリス小説作品研究演習B	1・2③		2				○			1					
	イギリス小説作品演習A	1・2①		2				○			1					
	イギリス小説作品演習B	1・2①		2				○			1					
	イギリス戯曲文学演習A	1・2②		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習C	1・2②		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習D	1・2③		2				○		1						
	英語圏文学概論A	1・2③		2				○						1		
	英語圏文学概論B	1・2④		2				○						1		
英語圏文学特殊講義A	1・2①		2			○			1	1			1		共同	
英語圏文学特殊講義B	1・2②		2			○			1	1			1		共同	
世界英語圏文学批評演習A	1・2後		2				○		1							
世界英語圏文学批評演習B	1・2後		2				○		1							
英語圏文学作品演習A	1・2前		2				○		1							
英語圏文学作品演習B	1・2前		2				○		1							
英語圏文学作品研究演習A	1・2後		2				○		1							
英語圏文学作品研究演習B	1・2後		2				○		1							
英語圏詩文学作品演習A	1・2前		2				○		1							
英語圏詩文学作品演習B	1・2前		2				○		1							
英語学概論A	1・2①		2			○			1	1					共同	
英語学概論B	1・2③		2			○			1	1					共同	
英語学理論演習A	1・2①		2				○		1						隔年	
英語学理論演習B	1・2①		2				○		1						隔年	
近代英語作品研究演習A	1・2③		2				○		1						隔年	
近代英語作品研究演習B	1・2③		2				○		1						隔年	

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
プログラム専門科目	中期英語概論A	1・2①		2			○				1					隔年
	中期英語概論B	1・2①		2			○				1					隔年
	中期英語作品研究演習A	1・2③		2				○			1					隔年
	中期英語作品研究演習B	1・2③		2				○			1					隔年
	英語学特殊講義A	1・2①		2				○			1	1				共同
	英語学特殊講義B	1・2③		2				○			1	1				共同
	ドイツ文学理論演習A	1・2後		2					○			1				隔年
	ドイツ文学理論演習B	1・2後		2					○			1				隔年
	近現代ドイツ語学演習A	1・2前		2					○				1			隔年
	近現代ドイツ語学演習B	1・2後		2					○				1			隔年
	ドイツ文学語学特殊講義A	1・2前		2					○			1				隔年
	ドイツ文学語学特殊講義B	1・2後		2					○			1				隔年
	ドイツ文学語学特殊講義C	1・2前		2					○			1				隔年
	ドイツ語圏文化論演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ語圏文化論演習B	1・2後		2						○			1			隔年
	ドイツ語圏言語文化演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ語圏言語文化演習B	1・2後		2						○			1			隔年
	ドイツ語圏言語文化演習C	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ語圏言語文化演習D	1・2後		2						○			1			隔年
	ドイツ文学発展演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ文学発展演習B	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ近現代文学演習A	1・2前		2						○					1	隔年
	ドイツ近現代文学演習B	1・2後		2						○					1	隔年
	ドイツ小説演習A	1・2前		2						○					1	隔年
	ドイツ小説演習B	1・2後		2						○					1	隔年
	ドイツ語コーパス言語学A	1・2前		2						○			1			隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語文学研究A	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語文学研究B	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語文学批評研究A	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語文学批評研究B	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語文学・フランス語学演習A	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語文学・フランス語学演習B	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス文学特別研究演習A	1・2後		2						○					1	隔年
	フランス文学特別研究演習B	1・2後		2						○					1	隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習B	1・2前		2						○			1			隔年
	近現代フランス語文学批評演習A	1・2後		2						○			1			隔年
	近現代フランス語文学批評演習B	1・2後		2						○			1			隔年
	近現代フランス語表現小説研究A	1・2前		2						○			1			隔年
	近現代フランス語表現小説研究B	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習B	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習C	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習D	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語圏文化論演習A	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語圏文化論演習B	1・2前		2						○			1			隔年
	フランス語圏文化論演習C	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語圏文化論演習D	1・2後		2						○			1			隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義A	1・2前		2						○			1			隔年
フランス語文学・フランス語学特殊講義B	1・2前		2						○			1			隔年	
言語研究法講義ⅠA	1・2前		2						※			1	1		※講義・隔年・共同	
言語研究法講義ⅠB	1・2前		2						※			1	1		※講義・隔年・共同	
言語研究法講義ⅡA	1・2後		2						※			1	1		※講義・隔年・共同	
言語研究法講義ⅡB	1・2後		2						※			1	1		※講義・隔年・共同	
一般言語学演習A	1・2前		2						※			1			※講義・隔年	
一般言語学演習B	1・2前		2						※			1			※講義・隔年	
一般言語学特別演習A	1・2後		2						※			1			※講義・隔年	
一般言語学特別演習B	1・2後		2						※			1			※講義・隔年	
理論・応用言語学演習A	1・2前		2						※			1	1		※講義・隔年	
理論・応用言語学演習B	1・2前		2						※			1	1		※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習A	1・2後		2						※			1			※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習B	1・2後		2						※			1			※講義・隔年	
歴史・対照言語学演習A	1・2前		2						○			1			隔年	
歴史・対照言語学演習B	1・2前		2						○			1			隔年	
歴史・対照言語学特別演習A	1・2後		2						○			1			隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	歴史・対照言語学特別演習B	1・2後		2				○			1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義A	1・2前		2			○				1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義B	1・2前		2			○				1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習A	1・2後		2				○			1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習B	1・2後		2				○			1					隔年
	人文地理学特別講義	1・2前		2			○				1					隔年
	人文地理学基礎論演習A	1・2前		2				○			1					隔年
	人文地理学基礎論演習B	1・2前		2				○			1					隔年
	人文地理学特論演習A	1・2前		2				○		1						隔年
	人文地理学特論演習B	1・2前		2				○		1						隔年
	世界地域システム論演習A	1・2後		2				○			1					隔年
	世界地域システム論演習B	1・2後		2				○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習A	1・2後		2				○		1						隔年
	グローバル経済地域論演習B	1・2後		2				○		1						隔年
	現代インド地誌学	1・2前		2			○	※		1						※演習・隔年
	条件不利地域の地理学	1・2後		2			※	○		1						※講義・隔年
	経済地理学研究	1・2前		2			○	※		1						※演習・隔年
	農村地理学研究	1・2後		2			○	※		1						※演習・隔年
	自然地理学特別講義	1・2後		2			○			1						隔年
	自然地理学基礎論演習A	1・2前		2				○		1						隔年
	自然地理学基礎論演習B	1・2前		2				○		1						隔年
	自然地理学特論演習A	1・2前		2				○		1						隔年
	自然地理学特論演習B	1・2前		2				○		1						隔年
	地表変動論演習A	1・2後		2				○			1					隔年
	地表変動論演習B	1・2後		2				○			1					隔年
	自然地域形成論演習A	1・2後		2				○		1						隔年
	自然地域形成論演習B	1・2後		2				○		1						隔年
	自然地域システム論研究	1・2前		2				○		1						隔年
	地表変動論研究	1・2後		2				○			1					隔年
	地理情報システム学講義	1・2①		2			○				1					隔年
	地理情報システム学演習	1・2④		2				○			1					隔年
	地理学研究法A	1・2前		2				○		2						共同
	地理学研究法B	1・2後		2				○		2						共同
	地理学野外実験	1・2前		1					○	2	2					共同
	地理学野外演習	1・2後		2				○		2	2					共同
	日本考古学解析A	1・2①		2				○		1						隔年
	日本考古学解析B	1・2①		2				○		1						隔年
	アジア考古学解析	1・2後		2			○			1						隔年
	日本考古学特論	1・2後		2			○			1						隔年
	世界考古学解析A	1・2④		2				○			1					隔年
	世界考古学解析B	1・2④		2				○			1					隔年
	考古学広領域講義	1・2後		2			○			1						隔年
	考古文献評論A	1・2②		2				○		1						隔年
	考古文献評論B	1・2②		2				○		1						隔年
	考古資料評論	1・2③		2				○		1						隔年
	アジア比較考古学演習A	1・2③		2				○		1	1					隔年・共同
	アジア比較考古学演習B	1・2③		2				○		1						隔年
	考古学資料実習A	1・2①		1					○	2	1					隔年・共同
	考古学資料実習B	1・2④		1					○	2	1					共同
	考古学資料実習C	1・2①		1					○	2	1					隔年・共同
	総合文化財研究法I	1・2後		2			○				1					隔年
	総合文化財研究法II	1・2後		2			○				1					隔年
	総合文化財調査実習I	1・2前		1					○		1					隔年
	総合文化財調査実習II	1・2後		1					○		1					隔年
	総合文化財解析演習I	1・2前		2				○			1					隔年
	総合文化財解析演習II	1・2後		2				○			1					隔年
有形文化財研究法I	1・2前		2			○			1						隔年	
有形文化財研究法II	1・2前		2			○			1						隔年	
有形文化財解析演習I	1・2前		2				○		1						隔年	
有形文化財解析演習II	1・2後		2				○		1						隔年	
有形文化財調査実習I	1・2前		1					○	1						隔年	
有形文化財調査実習II	1・2後		1					○	1						隔年	
文化財学特殊講義I	1・2後		2			○									兼1 隔年	
文化財学特殊講義II	1・2後		2			○									兼1 隔年	
小計(359科目)		—	0	708	0		—		32	22	0	5	0	兼6	—	
心理学研究法基礎演習A		1②		1			○		6	4	1	1		兼1	共同	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人文社会科学専攻 博士課程前期)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
心理学プログラム プログラム専門科目	心理学研究法基礎演習B	1④		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	心理学研究法応用演習A	2②		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	心理学研究法応用演習B	2④		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	Academic writing in psychology A	1①		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	Academic writing in psychology B	1③		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	Advanced academic writing in psychology A	2①		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	Advanced academic writing in psychology B	2③		1				○		6	4	1	1		兼1	共同	
	臨床心理学特講 I	1①		2			○			1	2						
	心理学特講A	1～2前		2			○			6	4	1	1		兼1	集中・隔年	
	心理学特講B	1～2後		2			○			6	4	1	1		兼1	集中・隔年	
	心理学特講C	1～2前		2			○			6	4	1	1		兼1	集中・隔年	
	心理学特講D	1～2後		2			○			6	4	1	1		兼1	集中・隔年	
	心理学基礎演習 I	1①		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学基礎演習 II	1②		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学基礎演習 III	1③		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学基礎演習 IV	1④		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学応用演習 I	2①		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学応用演習 II	2②		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学応用演習 III	2③		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	心理学応用演習 IV	2④		2					○		6	4	1	1		兼1	共同
	幼児心理学観察演習	1前		1					○		1	1					集中・共同
	臨床心理学特講 II	1④		2							1						
	心理療法特講	2①		2			○				1						
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1③		2			○				1						
	心の健康教育に関する理論と実践	1④		2			○				8	6	1	1		兼1	オムニバス
	心理支援に関する理論と実践（臨床心理面接特講 I）	1後		2					○		1						集中
	臨床心理面接特講 II	2後		2							1						集中
	教育分野に関する理論と支援の展開	1①		1					○		1	1					共同
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1後		1					○							兼1	集中
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1					○							兼1	隔年・集中
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1					○							兼1	隔年・集中
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2			○									兼1	隔年・集中
	心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習 I）	1②		2			○				1						共同
	臨床心理査定演習 II	1③		2			○				1	1					共同
	臨床心理基礎実習 I	1前		2			○				1						
	臨床心理基礎実習 II	1後		2			○				2	2					集中・共同
	心理実践実習 IV（臨床心理実習 I）	2前		2			○				2	2					共同
	臨床心理実習 II	2後		2			○				2	2					共同
	心理実践実習 I	1通		1					○		2	2					共同
	心理実践実習 II	1通		1					○		2	2					共同
	心理実践実習 III	2通		1					○		2	2					共同
	心理実践実習 V	2通		1					○		2	2					共同
	心理実践実習 A	1通		1					○		2	2					集中・共同
	心理実践実習 B	1通		1					○		2	2					集中・共同
	心理実践実習 C	2通		1					○		2	2					共同
	心理実践実習 D	2通		1					○		2	2					集中・共同
	小計（47科目）	—	—	0	73	0	—	—	—	—	8	6	1	1	0	兼5	—
法学・政治学プログラム	法学・政治学プログラム特別演習 I	1・2①		2				○		1	1				兼1		
	法学・政治学プログラム特別演習 II	1・2③		2				○		1	1				兼1		
	憲法理論	1・2②		2			○				1						
	行政法理論	1・2②		2			○			1							
	刑事システム論	1・2②		2			○				1						
	現代憲法論	1・2①		2			○			1						隔年	
	社会変動分析論	1・2②		2			○			1							
	社会構造分析論	1・2①		2			○			1							
	家族支援社会論	1・2①		2			○			1						隔年	
	政治倫理論	1・2①		2			○					1				隔年	
	政策過程論	1・2②		2			○			1						隔年	
	日本政治論	1・2③		2			○			1							
	比較自治体論	1・2前		2			○				1					隔年	
	租税法	1・2前		2			○			1						隔年	
	国際租税法	1・2前		2			○			1						隔年	
	憲法理論演習	1・2③		2					○			1					
	行政法理論演習	1・2④		2					○		1						
刑事システム論演習	1・2④		2					○			1						

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	現代憲法論演習	1・2前		2				○		1					隔年
	社会変動分析論演習	1・2④		2				○		1					
	社会構造分析論演習	1・2④		2				○		1					
	家族支援社会論演習	1・2④		2				○		1					隔年
	政治倫理論演習	1・2②		2				○				1			隔年
	日本政治論演習	1・2②		2				○		1					隔年
	比較自治体論演習	1・2後		2				○			1				隔年
	租税法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	国際租税法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	不動産法	1・2③		2			○			1					
	物件管理法	1・2①		2			○					1			
	契約法	1・2①		2			○				1				
	経営法務	1・2前		2			○			1					隔年
	経営法務戦略論	1・2前		2			○			1					隔年
	企業組織法	1・2④		2			○				1				隔年
	企業ファイナンス法	1・2④		2			○				1				隔年
	民事訴訟の理論と実務	1・2②		2			○			1					隔年
	裁判外紛争処理論	1・2②		2			○			1					隔年
	雇用関係法	1・2前		2			○			1					隔年
	不動産法演習	1・2前		2				○		1					
	物件管理法演習	1・2④		2				○				1			
	契約法演習	1・2③		2				○			1				
	経営法務演習	1・2後		2				○		1					隔年
	経営法務戦略論演習	1・2後		2				○		1					隔年
	企業組織法演習	1・2②		2				○			1				隔年
	企業ファイナンス法演習	1・2②		2				○			1				隔年
	法学・政治学プログラム 民事訴訟の理論と実務演習	1・2③		2				○		1					隔年
	裁判外紛争処理論演習	1・2③		2				○		1					隔年
	雇用関係法演習	1・2後		2				○		1					
	国際法	1・2前		2			○			1					隔年
	国際機構法	1・2前		2			○			1					隔年
	国際政治経済論	1・2②		2			○				1				
	国際刑事政策	1・2④		2			○			1					
	安全保障論	1・2前		2			○								兼1 隔年
	国際政治学	1・2前		2			○								兼1 隔年
	外交論	1・2②		2			○				1				
	国際秩序構築論	1・2後		2			○			1					
	国際関係私法	1・2②		2			○				1				
	比較政治思想論	1・2①		2			○					1			隔年
	日本法概説1	1・2①		2			○					1			
	日本法概説2	1・2③		2			○					1			
	国際刑事法	1・2③		2			○			1					
	国際法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	国際機構法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	国際政治経済論演習	1・2④		2				○			1				
	国際刑事政策演習	1・2④		2				○		1					
	安全保障論演習	1・2後		2				○							兼1 隔年
	国際政治学演習	1・2後		2				○							兼1 隔年
	外交論演習	1・2④		2				○			1				
	国際秩序構築論演習	1・2前		2				○		1					
国際関係私法演習	1・2④		2				○			1					
比較政治思想論演習	1・2③		2				○				1			隔年	
医療と人権	1・2前		2			○			1					隔年	
医事法制度論	1・2①		2			○			1					隔年	
医事刑法論	1・2①		2			○				1				隔年	
医療刑事手続論	1・2①		2			○			1					隔年	
医療労務管理と法	1・2前		2			○			1					隔年	
社会調査論	1・2前		2			○			1					隔年	
医療社会学特論	1・2前		2			○			1					隔年	
精神科医療法論	1・2後		2			○			1					隔年	
小計(78科目)		—	0	156	0			—	14	8	1	2	0	兼1	—
経済学プログラム	経済学プログラム特別演習Ⅰ	1・2前		2				○		13	8				
	経済学プログラム特別演習Ⅱ	1・2後		2				○		13	8				
	応用ファイナンス	1・2前		2			○			1					
	理論ファイナンス	1・2前		2			○		1						
	金融資本市場分析	1・2後		2			○			1					

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	経済数学	1・2後		2		○									兼1
	日本銀行連携講義1	1・2		2		○			1						兼2
	日本銀行連携講義2	1・2		2		○			1						兼2
	金融庁連携講義1	1・2		2		○			1						兼2
	金融庁連携講義2	1・2		2		○			1						兼2
	日本政策投資銀行連携講義1	1・2後		2		○									兼1
	日本政策投資銀行連携講義2	1・2後		2		○									兼1
	マクロ経済学	1・2②		2		○						1			
	ミクロ経済学	1・2前		2		○				1					
	マクロ金融分析	1・2④		2		○			1						
	計量経済学1	1・2①		2		○			1						
	計量経済学2	1・2③		2		○			1						
	経済統計分析	1・2①		2		○			1						
	経済時系列分析	1・2後		2		○			1						
	労働市場分析	1・2①		2		○			1						
	財政学	1・2①		2		○			1						
	経済戦略論	1・2①		2		○				1					
	地方財政論	1・2②		2		○			1						
	経済情報分析	1・2①		2		○				1					
	公共経済学	1・2④		2		○				1					
	医療経済学	1・2③		2		○			1						
	公共政策論	1・2③		2		○			1						
	国際公共政策	1・2①		2		○			1						
	応用国際公共政策	1・2①		2		○				1					
	開放マクロ経済学	1・2③		2		○			1						
	欧米経済史1	1・2④		2		○			1						隔年
	欧米経済史2	1・2④		2		○			1						隔年
	政治経済学1	1・2②		2		○									兼1
	政治経済学2	1・2②		2		○									兼1
	経済学史1	1・2④		2		○				1					隔年
	経済学史2	1・2④		2		○				1					隔年
	エネルギー政策論	1・2		2		○									兼1
	経済学特講	1・2①		2		○									兼1
	小計(38科目)		—	0	76	0	—			13	8	0	1	0	兼8
国際平和共生プログラム	Peace and Co-existence A	1・2①		1		○			1	3	1	2			オムニバス
	Peace and Co-existence B	1・2③		1		○			3	3	1	1			オムニバス
	Peace and Conflict Research I	1・2①		2		○				1					
	Peace and Conflict Research II	1・2②		2		○				1					
	Conflict Resolution I	1・2③		2		○				1					
	Conflict Resolution II	1・2④		2		○				1					
	Peacebuilding I	1・2③		2		○			1						
	Peacebuilding II	1・2④		2		○			1						
	International Relations	1・2①		2		○						1			
	Hiroshima Peace Studies I	1・2③		2		○			1						
	Hiroshima Peace Studies II	1・2④		2		○			1						
	Hiroshima Peace Heritage I	1・2①		2		○				1					
	Hiroshima Peace Heritage II	1・2②		2		○				1					
	Politics in Japan	1・2③		2		○			1						
	International Politics I	1・2①		2		○			1						
	International Politics II	1・2②		2		○			1						
	International Security I	1・2①		2		○				1					
	International Security II	1・2②		2		○				1					
	International Law and International Institutional Law	1・2①		2		○			1						
	International Ethics I	1・2③		2		○				1					
	International Ethics II	1・2④		2		○				1					
	Law and Human Rights	1・2①		2		○			1						
	Basic Cultural Anthropology I	1・2①		2		○					1				
	Basic Cultural Anthropology II	1・2②		2		○			1						
	Contemporary Anthropology I	1・2③		2		○					1				
	Contemporary Anthropology II	1・2④		2		○			1	1					
	Identity and Co-existence	1・2③		2		○									兼1
Peacebuilding Case Studies	1・2④		2		○						1				
Area Studies	1・2後		2		○									兼1	
Development and Culture	1・2後		2		○									兼1	
小計(30科目)		—	0	58	0	—			6	6	1	2	0	兼3	—

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際経済開発プログラム	社会科学のための数理・計量分析	1①		2		○						1			
	調査方法論基礎	1③		2			○								兼1
	開発ミクロ経済学I	1③		2		○		1							兼1
	開発ミクロ経済学II	1④		2		○		1							兼1
	開発マクロ経済学I	1③		2		○		1							兼1
	開発マクロ経済学II	1④		2		○		1							兼1
	開発計量経済学I	1①		2		○			1						兼1
	開発計量経済学II	1②		2		○			1						兼1
	経済統計分析論	1②		2		○									兼1
	グローバルガバナンス論	1③		2		○						1			
	都市経済学	1②		2		○									兼1
	農村開発論	1③		2		○			1						
	技術経営論	1①		2		○				1					
	人的資源開発論	1④		2		○				1					
	公共管理論	1④		2		○			1						
	経営組織論	1③		2		○			1						
	経営戦略論	1①		2		○									兼1
	環境政策論	1③		2		○									兼1
	都市政策論	1④		2		○							1		
	国際協力論	1①		2		○			1						
	労働政策論	1②		2		○			1	1					
	国際金融論	1②		2		○			1						
小計(22科目)		—	0	44	0	—		4	2	0	3	0		兼6	—
プログラム専門科目	総合科学系演習	1②		2		○		3							
	人間総合科学特論	1～2		4		○		3							集中・共同
	コンピュータと言語研究・教育	1・2④		2		○		2							オムニバス・共同(一部)
	言語構造論	1・2①		2		○		1	2						オムニバス
	言語類型研究	1・2④		2		○		1	2						オムニバス
	心理言語的アプローチからの第二言語習得	1・2①		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	実験言語学	1・2②		2		○		1	2						オムニバス・共同(一部)
	運動生理・生化学	1・2③		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	運動適応学	1・2②		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	運動制御学	1・2③		2		○		1				1			兼1
	運動精神科学	1・2④		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	認知科学論	1・2①		2		○		1	2						オムニバス・共同(一部)
	比較認知論	1・2④		2		○		1	2						オムニバス・共同(一部)
	環境行動論	1・2①		2		○		1							兼1
	適応行動論	1・2②		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	社会行動論	1・2③		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	BCM (Business Community Management)				2		○								兼1
	現代哲学	1・2②		2		○			1						兼1
	美的感性論	1・2②		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	文化哲学	1・2③		2		○			1						兼1
	比較芸術論	1・2②		2		○		1	1						共同
	実践倫理学	1・2④		2		○			1						兼1
	比較宗教思想史	1・2③		2		○			1	2					オムニバス・共同(一部)
	マイノリティ文化思想	1・2③		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	日本地域研究	1・2②		2		○			2						共同
	日本文藝社会研究	1・2①		2		○			2						共同
	アジア文化論(現代文化)	1・2③		2		○			2						共同
	アジア文化論(表象文化)	1・2④		2		○		1	1						共同
	アジア文化論(伝統文化)	1・2②		2		○		1	1						集中・共同
	ヨーロッパ社会論	1・2①		2		○		1			1				オムニバス・共同(一部)
	ヨーロッパ文化論	1・2④		2		○		1			1				オムニバス・共同(一部)
	欧米地域研究	1・2②		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	アジア地域研究	1・2①		2		○		2							オムニバス・共同(一部)
	英米社会論(国際関係)	1・2②		2		○									兼1
	ヒロシマ平和学	1・2③		2		○		2							集中
	英米文化論	1・2③		2		○									共同
	英米文藝社会研究	1・2①		2		○			2						共同
	宗教学	1・2③		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	宗教聖典論	1・2④		2		○		1	1						共同
	社会人類学	1・2③		2		○		1	1						共同
民族誌論	1・2②		2		○		1	1						共同	
科学・技術・社会論	1・2②		2		○		1	1						オムニバス・共同(一部)	
社会文化史	1・2③		2		○		2							共同	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	教育文化史	1・2③		2			○			2					共同
	異文化理解	1・2①		2			○			1	1				共同
	持続可能な観光発展論	1・2②		2			○			1		1			オムニバス・共同 (一部)
	文化観光論	1・2③		2			○			1		1			オムニバス・共同 (一部)
	社会動態論	1・2④		2			○			1	1				共同
	社会構造論	1・2③		2			○			1	1				共同
	社会学研究法	1・2①		2			○				2				共同
	福祉社会論	1・2②		2			○				2				オムニバス・共同 (一部)
	人間総合科学プログラム	世界経済体制論	1・2③		2			○			2				共同
	産業システム論	1・2④		2			○				2				共同
	農村環境社会論	1・2③		2			○			1	1				共同
	持続可能地域論	1・2②		2			○			1	1				共同
	地域情報論	1・2②		2			○				2				共同
	生命機能化学	1・2③		2			※	○							兼3 ※講義・共同
	生態系循環論	1・2③		2			○								兼3 オムニバス
	情報システム論	1・2③		2			○								兼2 オムニバス
	地球表層物質輸送論	1・2②		2			○								兼2 オムニバス
	自然環境リスク論	1・2②		2			○								兼7 オムニバス
	気候変動災害論	1・2②		2			○								兼2 オムニバス
生物多様性科学	1・2②		2			○								兼2 オムニバス	
小計 (63科目)		—	0	126	2		—		25	36	2	1	0	兼22	—
特別研究		1~2	4				○		98	84	4	7		兼12	
小計 (638科目)		—	4	1241	2		—		98	86	5	14	0	兼52	—
合計 (663科目)			—	6	1276	2	—		103	93	6	17	0	兼112	—
学位又は称号	修士 (文学) 修士 (心理学) 修士 (法学) 修士 (経済学) 修士 (経営学) 修士 (マネジメント) 修士 (国際協力学) 修士 (学術)		学位又は学科の分野					文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係 経済学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件								1 学年の学期区分		2学期 (4ターム)					
大学院共通科目			要修得単位数		指定科目等			1 学期の授業期間		15週					
持続可能な発展科目			1 単位以上					1 学期の授業期間		15週					
キャリア開発・データリテラシー科目			1 単位以上					1 学期の授業期間		15週					
研究科共通科目			4 単位以上		「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位			1 学期の授業期間		15週					
専攻共通科目			2 単位以上					1 学期の授業期間		15週					
プログラム専門科目			12 単位以上					1 時限の授業時間		90分					
特別研究			4 単位		「必修」 特別研究：4 単位			1 時限の授業時間		90分					
他プログラム専門科目			2 単位以上					1 時限の授業時間		90分					
所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目			4 単位以上					1 時限の授業時間		90分					
合計			30 単位以上					1 時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④	1			○			1	1				兼3	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②	1			○			2					兼5	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④	1			○			2					兼4	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①	1			○			1	1				兼8	オムニバス・共同 (一部)メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③	1			○								兼5	オムニバス・メディア
	キャリア開発・データリテラシー科目	ダイバーシティの理解	1・2②	1			○	○		2					兼3	共同・集中
		データリテラシー	1・2②	1			○								兼2	オムニバス・共同 (一部)・集中
		医療情報リテラシー	1・2①	1			○								兼2	オムニバス
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2③	2			○								兼9	オムニバス・共同 (一部)メディア
		理工系キャリアマネジメント	1・2②③	2			○								兼1	メディア, ②のみ集中
研究科共通科目	理工系キャリアマネジメント	1・2②	2			○								兼1	集中	
	ストレスマネジメント	1・2②④	2			○								兼1	②のみ集中	
	情報セキュリティ	1・2①	2			○								兼3	オムニバス	
	MOT入門	1・2①③	1			○								兼1		
	アントレプレナーシップ概論	1・2①	1			○								兼1		
	小計 (15科目)	—	0	20	0	—	—	—	7	2	0	0	0	兼44	—	
	専攻共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12	オムニバス
		人間社会科学のための科学史	1・2②	2			○			18	13	1	4		兼14	オムニバス
		異分野協働プロジェクト	1・2①	2			○			4	2				兼4	
		未来創造思考 (基礎)	1・2②	1			○								兼1	
国際標準化論		1・2②	1			○								兼1		
理工系のための経営組織論		1・2②	1			○								兼2		
平和教育の構築への実践的アプローチ		1②	2			○								兼2		
小計 (7科目)	—	2	9	0	—	—	—	39	26	2	7	0	兼29	—		
プログラム専門科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①	2			○			16	9	1	1			オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②	2			○			18	15		1		兼4	オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③	2			○						1				
小計 (3科目)	—	0	6	0	—	—	—	32	24	1	3	0	兼4	—		
プログラム専門科目	リサーチ・リテランシー	1・2前	2			○			2	3				兼2	オムニバス	
	イノベーション・マネジメント論	1・2後	2			○				1						
	経営戦略論	1・2前	2			○				1						
	市場戦略論	1・2前	2			○				1						
	サービス経営論	1・2前	2			○				1						
	経営組織論	1・2前	2			○				1						
	CSR論	1・2後	2			○				1						
	マーケティング論	1・2前	2			○				1						
	国際マーケティング戦略論	1・2後	2			○				1						
	経営管理論	1・2後	2			○									兼1	
	組織行動論	1・2後	2			○				1						
	人的資源管理論	1・2前	2			○				1					兼1	
	コスト・マネジメント	1・2後	2			○					1					
	税法コンプレッション	1・2後	2			○				1						
	税法ケーススタディ	1・2前	2			○				1						
	管理会計論	1・2前	2			○						1				
	財務会計論	1・2前	2			○				1						
	会計政策論	1・2後	2			○				1						
	経営情報システム論	1・2前	2			○					1					
	企業とコミュニケーション	1・2後	2			○					1					
	社会心理学特論	1・2後	2			○		※			1				※実験	
	国際関係論	1・2前	2			○				1						
	地域協力論	1・2後	2			○				1						
	異文化コミュニケーション論	1・2前	2			○				1						
	異文化ビジネスコミュニケーション	1・2後	2			○				1						
	フィールドワーク論	1・2後	2			○					1					
コミュニケーション原論	1・2後	2			○					1						
社会行動データ解析	1・2前	2			○		※			1				※演習		
アントレプレナーシップ	1・2後	2			○									兼1		
情報システム管理学	1・2前	2			○					1						
情報ネットワーク論	1・2後	2			○					1						
公共経営論	1・2前	2			○					1						

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(人文社会科学専攻 博士課程前期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	地域経営論	1・2後		2		○				1					兼1 兼1 兼2 兼1 兼6 兼1 兼12
	地域分析	1・2前		2		○									
	アジア企業論	1・2後		2		○									
	アジアビジネス事情	1・2後		2		○			1						
	ビジネス日本語	1・2前		2		○									
	アジアベンチャービジネス論	1・2後		2		○									
	マネジメント特講 (サステイナビリティ・マネジメント論)	1・2前		2		○						1			
	マネジメント特講 (地域創成論)	1・2後		2		○						1			
	マネジメント特講 (日本の組織と経営)	1・2前		2		○									
	マネジメント特講 (地域活性化)	1・2前		2		○									
特別研究	1~2		4			○			5	7	1	1			
小計 (43科目)		—	4	82	0	—			6	8	1	1	0	兼12	

合計 (68科目)

修士 (文学)  
修士 (心理学)  
修士 (法学)  
修士 (経済学)  
修士 (経営学)  
修士 (マネジメント)  
修士 (国際協力学)  
修士 (学術)

学位又は学科の分野

文学関係  
法学関係  
社会学・社会福祉学関係  
経済学関係

**卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法**

**授 業 期 間 等**

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。  
修了要件

1 学年の学期区分

2学期 (4ターム)

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	1 単位以上	
持続可能な発展科目	1 単位以上	
キャリア開発・データリテラシー科目	1 単位以上	
研究科共通科目	4 単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位
専攻共通科目	2 単位以上	
プログラム専門科目	12 単位以上	
所属プログラム専門科目	4 単位	「必修」 特別研究：4 単位
特別研究	4 単位	
他プログラム専門科目	2 単位以上	
所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目	4 単位以上	
合計	30 単位以上	

1 学期の授業期間

15週

1 時限の授業時間

90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中																	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○						兼1 集中																		
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1		○				2				兼2 オムニバス																		
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○						兼1																		
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○						兼1																		
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○						兼1																		
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○						兼9 オムニバス・共同（一部）																		
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○						兼1																		
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○						兼1																		
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○					兼1																		
長期インターンシップ	1・2・3前後		2										兼1																			
事業創造概論	1・2・3①		1					○					兼1																			
小計（12科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼17	—																	
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4 共同																	
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同																	
小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	10	1	0	1	0	兼8	—																	
門ラプ科目目専グ	特別研究	1～3	6					○	95	89	4				兼12																	
	小計（1科目）	—	6	0	0	—	—	—	95	89	4	0	0	兼12	—																	
合計（15科目）		—	6	20	0	—	—	—	95	89	4	1	0	兼34	—																	
学位又は称号	博士（文学） 博士（心理学） 博士（法学） 博士（経済学） 博士（経営学） 博士（マネジメント） 博士（国際協力学） 博士（学術）		学位又は学科の分野					文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係 経済学関係																								
卒業要件及び履修方法								授業期間等																								
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件								1 学年の学期区分				2学期（4ターム）																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プログラム専門科目</td> <td>6単位</td> <td>「必修」特別研究：6単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	研究科共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	6単位	「必修」特別研究：6単位	合計	10単位以上		1 学期の授業期間				15週			
科目区分	要修得単位数	指定科目等																														
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上																														
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																														
研究科共通科目	2単位以上																															
プログラム専門科目	6単位	「必修」特別研究：6単位																														
合計	10単位以上																															
								1 時限の授業時間				90分																				

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程後期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	スベシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1			○								兼1 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1			○								兼1 集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1		○				2					兼2 オムニバス
	データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1			○								兼1
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1			○								兼9 オムニバス・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1
	イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2				○							兼1
	事業創造概論	1・2・3①		1			○								兼1
小計 (12科目)		—	0	16	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼17	—
共研 目通 究科 目	プロジェクト研究	1・2・3④		2			○		6	1					兼4 共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同
小計 (2科目)		—	0	4	0	—	—	—	10	1	0	1	0	兼8	—
門ラ ブ科 目ロ 目専 グ	特別研究	1~3	6				○		93	83	4				兼11
	小計 (1科目)	—	6	0	0	—	—	—	93	83	4	0	0		兼11
合計 (15科目)		—	6	20	0	—	—	—	93	84	4	1	0	兼34	—
学位又は称号	博士 (文学) 博士 (心理学) 博士 (法学) 博士 (経済学) 博士 (経営学) 博士 (マネジメント) 博士 (国際協力学) 博士 (学術)		学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係 経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分		2学期 (4ターム)							
修了要件						1学期の授業期間		15週							
修了要件						1時限の授業時間		90分							
科目区分		要修得単位数	指定科目等												
大学院共 通科目	持続可能な発展科目	1単位以上													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		2単位以上													
プログラ ム専門科 目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位												
合計		10単位以上													

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程後期)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考												
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手													
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsイデアイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中										
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中										
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2	オムニバス										
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④			2			○							兼1											
	パターン認識と機械学習	1・2・3②			2			○							兼1											
	データサイエンティスト養成	1・2・3②			1			○							兼1											
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④			1			○							兼9	オムニバス・共同（一部）										
	リーダーシップ手法	1・2・3①			1			○							兼1											
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④			1			○							兼1											
	イノベーション演習	1・2・3③			2					○					兼1											
長期インターンシップ	1・2・3前後			2					○					兼1												
事業創造概論	1・2・3①			1			○							兼1												
小計（12科目）		—	0	16	0			—	0	2	0	0	0	0	兼17	—										
共同研究科目	プロジェクト研究	1・2・3④			2			○		6	1				兼4	共同										
	人間社会科学講究	1・2・3②			2			○		5			1		兼5	共同										
小計（2科目）		—	0	4	0			—	10	1	0	1	0		兼8	—										
門ラプログラム目専グ	特別研究	1～3	6					○		4	6				兼1											
	小計（1科目）	—	6	0	0			—	4	6	0	0	0		兼1	—										
合計（15科目）			—	6	20	0		—	14	8	0	1	0	0	兼25	—										
学位又は称号	博士（文学） 博士（心理学） 博士（法学） 博士（経済学） 博士（経営学） 博士（マネジメント） 博士（国際協力学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係 経済学関係																				
卒業要件及び履修方法						授業期間等																				
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件						1 学年の学期区分		2 学期（4ターム）																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院共通科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プログラム専門科目</td> <td>6単位</td> <td>「必修」特別研究：6単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	1単位以上		研究科共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	6単位	「必修」特別研究：6単位	合計	10単位以上		1 学期の授業期間		15週			
科目区分	要修得単位数	指定科目等																								
大学院共通科目	1単位以上																									
研究科共通科目	2単位以上																									
プログラム専門科目	6単位	「必修」特別研究：6単位																								
合計	10単位以上																									
						1 時限の授業時間		90分																		

教育課程等の概要																
(教育科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④	1			○								兼5	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②	1			○								兼7	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④	1			○			2					兼4	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①	1			○			3					兼5	オムニバス・共同(一部)メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③	1			○								兼7	オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②	2			○	○				1			兼3	共同・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②	1			○								兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	2			○								兼1	メディア、②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②	2			○								兼1	集中
		ストレスマネジメント	1・2②④	2			○								兼1	②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①	2			○								兼3	オムニバス
		MOT入門	1・2①③	1			○								兼1	
		アントレプレナーシップ概論	1・2①	1			○								兼1	
		小計(15科目)	-	0	20	0	-	-	-	4	1	0	0	0	兼48	-
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			5	1	1			兼2	オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②	2			○			4	2	1			兼43	オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①	2			○			1					兼9		
	未来創造思考(基礎)	1・2②	1			○								兼1		
	国際標準化論	1・2②	1			○								兼1		
	理工系のための経営組織論	1・2②	1			○								兼2		
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②	2			○								兼2		
小計(7科目)	-	2	9	0	-	-	-	7	3	2	0	0	兼92	-		
専攻共通科目	教育科学のための研究法と倫理	1・2①	2			○			5	1					オムニバス	
	教育科学と社会	1・2②	2			○			7	2					オムニバス	
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③	2			○					1					
	Religious culture in public education	1・2④	2			○					1					
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③	2			○					1					
	日本の教育開発経験	1・2③	2			○			4	4					オムニバス	
小計(6科目)	-	0	12	0	-	-	-	9	5	2	0	0	0	-		
プログラム専門科目	学習開発学特別研究	1~2	4			○			3	3						
	カリキュラム開発特別研究	1~2	4			○			4	3						
	特別支援教育学特別研究	1~2	4			○			2	3	2					
	自然システム教育学特別研究A	1~2	4			○			3	4						
	自然システム教育学特別研究B	1~2	4			○			1	2						
	数学教育学特別研究A	1~2	4			○			3		1					
	数学教育学特別研究B	1~2	4			○			1	1						
	技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A	1~2	4			○			1	2						
	技術・情報教育学特別研究(技術・工業)B	1~2	4			○				1						
	技術・情報教育学特別研究(情報)A	1~2	4			○			2	1						
	技術・情報教育学特別研究(情報)B	1~2	4			○			1							
	社会認識教育学特別研究(社会・地理歴史)A	1~2	4			○			1	1						
	社会認識教育学特別研究(社会・地理歴史)B	1~2	4			○			1							
	社会認識教育学特別研究(社会・公民)A	1~2	4			○			1		2					
	社会認識教育学特別研究(社会・公民)B	1~2	4			○			1	1						
	国語文化教育学特別研究A	1~2	4			○			2	1					兼1	
	国語文化教育学特別研究B	1~2	4			○			2							
	英語教育学特別研究A	1~2	4			○			1	1						
	英語教育学特別研究B	1~2	4			○			1	1						
	健康スポーツ教育学特別研究A	1~2	4			○			3	2						
	健康スポーツ教育学特別研究B	1~2	4			○			1	1						
	人間生活教育学特別研究A	1~2	4			○			2	3						
	人間生活教育学特別研究B	1~2	4			○			1							
	音楽教育学特別研究A	1~2	4			○			2	1						
	音楽教育学特別研究B	1~2	4			○				1						
	造形芸術教育学特別研究A	1~2	4			○			3	1						
	造形芸術教育学特別研究B	1~2	4			○				2						
	教室環境デザイン基礎研究	1①	2			○			1							
	教室環境デザイン発展研究	1③	2			○				1						
	人間関係(コミュニケーション)デザイン基礎研究a	1①	2			○			1							
	人間関係(コミュニケーション)デザイン基礎研究b	1②	2			○				1						
	人間関係(コミュニケーション)デザイン発展研究a	1③	2			○			1							
人間関係(コミュニケーション)デザイン発展研究b	1④	2			○				1							
I C T空間デザイン基礎研究	1②	2			○			1		1						

教育課程等の概要																
(教育科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
プログラム専攻科目 教師教育デザイン学プログラム	ICT空間デザイン発展研究	1④		2				○		1						
	ラボラトリーラーニングデザイン研究 (理科)	2前		2				○		1	2					
	フィールドラーニングデザイン研究 (理科)	2前		2				○		2	2					
	学習開発学基礎研究	1①		2			○			1	3					オムニバス
	学習開発学発展研究	1③		2			○			2						オムニバス
	学習開発学特論	1①		2			○			5	5	2	1			オムニバス
	教科課程デザイン基礎研究 a	1①		2			○			3						
	教科課程デザイン基礎研究 b	1①		2			○				1					
	教科課程デザイン基礎研究 c	1①		2			○				1					
	教科課程デザイン発展研究 a	1③		2			○				3					
	教科課程デザイン発展研究 b	1③		2			○					1				
	指導・評価法デザイン基礎研究	1①又は②		2			○				5	4				
	指導・評価法デザイン発展研究	1③又は④		2			○				5	4				
	学力・コンピテンシーデザイン基礎研究	1①又は②		2			○				2	1				
	学力・コンピテンシーデザイン発展研究	1③又は④		2			○				2	1				
	比較カリキュラムデザイン基礎研究	1①又は②		2			○				2	1				
	比較カリキュラムデザイン発展研究	1③又は④		2			○				2	1				
	カリキュラムデザイン史基礎研究	1②		2			○					1				
	カリキュラムデザイン史発展研究	1④		2			○					1				
	子どもと学習材デザイン基礎研究 a	1①		2			○					2				
	子どもと学習材デザイン基礎研究 b	1①		2			○					1				
	子どもと学習材デザイン基礎研究 c	1①		2			○					1				
	子どもと学習材デザイン発展研究 a	1③		2			○					2				
	子どもと学習材デザイン発展研究 b	1③		2			○					1				
	STEMと学習材デザイン基礎研究 (理科) a	1①		2			○				1					
	STEMと学習材デザイン基礎研究 (理科) b	1②		2			○					1				
	STEMと学習材デザイン基礎研究 (数学)	1①		2			○				1					
	STEMと学習材デザイン基礎研究 (情報)	1①		2			○				1					
	STEMと学習材デザイン発展研究 (理科) a	1③		2			○				1					
	STEMと学習材デザイン発展研究 (理科) b	1④		2			○					1				
	STEMと学習材デザイン発展研究 (情報)	1③		2			○				1					
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科)a	1①		2			○				1					
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科)b	1②		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究 (技術・工業)	1②		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究 (社会・地理歴史)	1①		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究 (家庭)	1②		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科)a	1③		2			○				1					
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科)b	1④		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究 (技術・工業)	1④		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究 (社会・地理歴史)	1③		2			○					1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究 (家庭)	1④		2			○					1				
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (理科) a	1①		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (数学) a	1①		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (数学) b	1②		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (技術・工業)	1②		2			○					1				
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (社会・公民)	1①		2			○						1			
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (家庭)	1①		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究 (美術)	1①		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン発展研究 (理科) a	1③		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン発展研究 (技術・工業)	1④		2			○					1				
	科学・文化と学習材デザイン発展研究 (社会・公民)	1③		2			○						1			
	科学・文化と学習材デザイン発展研究 (家庭)	1③		2			○				1					
	科学・文化と学習材デザイン発展研究 (美術)	1③		2			○				1					
	ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究 (技術・工業)	1①		2			○				1					
	ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究 (情報)	1②		2			○					1				
	ものづくり教育と学習材デザイン発展研究 (技術・工業)	1③		2			○				1					
	ものづくり教育と学習材デザイン発展研究 (情報)	1④		2			○					1				
	社会・生活と学習材デザイン基礎研究 (社会・公民)	1②		2			○				1					
	社会・生活と学習材デザイン基礎研究 (家庭)	1①		2			○				1					
	社会・生活と学習材デザイン発展研究 (社会・公民)	1④		2			○				1					
	社会・生活と学習材デザイン発展研究 (家庭)	1③		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン基礎研究 (社会・公民)	1①		2			○						1			
	創造性と学習材デザイン基礎研究 (家庭)	1②		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン基礎研究 (音楽)	1①		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン基礎研究 (美術)	1②		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン発展研究 (社会・公民)	1③		2			○						1			
	創造性と学習材デザイン発展研究 (家庭)	1④		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン発展研究 (音楽)	1③		2			○					1				
	創造性と学習材デザイン発展研究 (美術)	1④		2			○					1				
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究 (国語)	1②		2			○					1				

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(英語)	1①		2		○				1					
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(音楽)	1②		2		○			1						
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(国語)	1④		2			○			1					
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(英語)	1③		2			○		1						
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(音楽)	1④		2			○		1						
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究(社会・地理歴史)	1①		2		○			1						
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究(国語)	1①		2		○			1						
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究(社会・地理歴史)	1③		2			○		1						
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究(国語)	1③		2			○		1						
	表象・文化と学習材デザイン基礎研究(国語)	1②		2		○								兼1	
	表象・文化と学習材デザイン発展研究(国語)	1④		2			○							兼1	
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(健康スポーツ)a	1①		2			○		1	1					
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(健康スポーツ)b	1②		2			○		1	1					
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(美術)	1①		2			○		1	1					
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(健康スポーツ)a	1③		2				○	1	1					
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(健康スポーツ)b	1④		2				○	1	1					
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(美術)	1③		2				○	1	1					
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科) a	1②		2		○				1					
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科) b	1①		2			○			1					
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1①		2		○				1					
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科) a	1④		2			○			1					
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科) b	1③		2			○			1					
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(家庭)	1③		2			○			1					
	表現と学習材デザイン基礎研究(国語)	1①		2		○			1						
	表現と学習材デザイン基礎研究(音楽)	1①		2			○		1						
	表現と学習材デザイン基礎研究(美術)	1②		2			○		1						
	表現と学習材デザイン発展研究(国語)	1③		2				○	1						
	表現と学習材デザイン発展研究(音楽)	1③		2				○	1						
	表現と学習材デザイン発展研究(美術)	1④		2				○	1						
	教育支援者専門知デザイン基礎研究	1①		2		○			2	3					
	教育支援者専門知デザイン発展研究	1③		2			○		2	3					
	教師の成長・キャリアデザイン基礎研究	1①		2		○				1					
	教師の成長・キャリアデザイン発展研究	1③		2			○			1					
	教職課程・現職研修カリキュラムデザイン基礎研究	1②		2		○			1						
	教職課程・現職研修カリキュラムデザイン発展研究	1④		2			○		1						
	教師教育プラクティカム基礎研究	1①		2		○				1					
	教師教育プラクティカム発展研究	1③		2			○			1	1				
	実習指導・授業研究デザイン基礎研究	1②		2			○			1					
	実習指導・授業研究デザイン発展研究	1④		2			○			1					
	特別支援教育学特論	1②		2		○			1						
	特別支援教育実践研究	1前		2			○		2	3	2	1			
	発達障害指導法特論	1③		2		○			1			1			
	コミュニケーション障害指導法特論	1③		2		○			1						
	重複障害指導法特論	1②		2		○					1				
	視覚障害指導法特論	1①		2		○					1				
	視覚障害学演習	1③		2			○			1	1				
	視覚障害心理学特論	1②		2		○				1					
	聴覚障害指導法特論	1②		2		○				1					
	聴覚障害学演習	1④		2			○			1					
	聴覚障害心理学特論	1①		2		○				1					
	知的障害指導法特論	1①		2		○				1					
	知的障害学演習	1④		2			○			1					
	知的障害心理学特論	1①		2		○				1					
	肢体不自由指導法特論	1①		2		○					1				
	肢体不自由心理学特論	1②		2		○					1				
	病弱教育特論	1③		2		○					1				
	病弱生理・病理特論	1前		2		○					1				
	特別支援教育ファシリテーション論	1通		2		○				1					
	学校心理学	1④		2		○			2	1					
	学習支援論	1①		2		○				1					
	学校臨床心理学	1③		2		○								兼1	
	心理教育的アセスメント演習	1②		2			○			1					
	学校カウンセリング論演習	1④		2			○			1					
	生涯キャリア形成支援論	1②		2		○				1					
	知識構成論	1④		2		○					1				
	小計(169科目)		-	0	392	0		-		43	36	5	1	0	兼3
	教育学プログラム	教育哲学特講 I	1②		1		○			1					
		教育哲学特講 II	1②		1		○			1					
		日本東洋教育史特講 I	1①		1		○			1					
日本東洋教育史特講 II		1①		1		○			1						
西洋教育史特講 I		1①		1		○				1					

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教育学プログラム プログラム専門科目	西洋教育史特講 II	1①		1		○				1					
	教育社会学特講 I	1③		1		○			1						
	教育社会学特講 II	1③		1		○			1						
	教育方法学特講 I	1②		1		○				1					
	教育方法学特講 II	1②		1		○				1					
	社会教育学特講 I	1②		1		○				1					
	社会教育学特講 II	1②		1		○				1					
	教育行財政学特講 I	1③		1		○				1					
	教育行財政学特講 II	1③		1		○				1					
	比較国際教育学特講 I	1①		1		○				1					
	比較国際教育学特講 II	1①		1		○				1					
	教育経営学特講 I	1②		1		○				1					
	教育経営学特講 II	1②		1		○				1					
	幼児教育学特講 I	1④		1		○					1				
	幼児教育学特講 II	1④		1		○				1					
	異文化間理解の社会理論と実践特講 I	1②		1		○					1				
	異文化間理解の社会理論と実践特講 II	1②		1		○					1				
	教育哲学演習 I	1④		1				○		1					
	教育哲学演習 II	1④		1				○		1					
	日本東洋教育史演習 I	1③		1				○		1					
	日本東洋教育史演習 II	1③		1				○		1					
	西洋教育史演習 I	1③		1				○			1				
	西洋教育史演習 II	1③		1				○			1				
	教育社会学演習 I	1④		1				○		1					
	教育社会学演習 II	1④		1				○		1					
	教育方法学演習 I	1③		1				○			1				
	教育方法学演習 II	1③		1				○			1				
	社会教育学演習 I	1③		1				○			1				
	社会教育学演習 II	1③		1				○			1				
	教育行財政学演習 I	1②		1				○			1				
	教育行財政学演習 II	1②		1				○			1				
	比較国際教育学演習 I	1③		1				○		1					
	比較国際教育学演習 II	1③		1				○		1					
	教育経営学演習 I	1③		1				○		1					
	教育経営学演習 II	1③		1				○		1					
	幼児教育学演習 I	1①		1				○			1				
	幼児教育学演習 II	1①		1				○		1					
	教育調査統計学演習	1前		2				○		1					
	教育学フィールドワーク演習	1④		2				○			1				
	高等教育基礎論 I (理論・手法)	1前・後		2			○			3	3	1			
	高等教育基礎論 II (制度・政策)	1前・後		2			○			3	3	1			
	Comparative Studies in Higher Education	1・2前		2			○					1			
	大学教育論	1・2後		2			○				1				
	大学カリキュラム開発論	1・2前		2			○			1					
	高等教育目標論	1・2前		2			○			1					
	高等教育経済論	1・2後		2			○							兼1	
	高等教育組織論・職員論	1・2前		2			○				1				
	高等教育評価論	1・2後		2			○				1				
	高等教育アドミッション論	1・2後		2			○			1					
	学術政策論	1・2後		2			○							兼1	
	学生論	1・2後		2			○							兼1	
	Advanced Statistics	1・2後		2			○							兼1	
	Higher Education in Japan	1前		2			○			2	3	1			兼1
	Development of Higher Education	1・2前		2			○			1					
	学費政策論	1・2後		2			○								兼1
	高等教育基礎演習 I (実践研究)	1・2前		2				○		2	3	1			
	小計 (61科目)	—		0	80	0		—		10	9	1	0	0	兼4
日本語教育学プログラム	日本語教育研究方法論	1・2①②		2		○			7	3					オムニバス
	日本語教育学研究プロジェクト	1・2③④		2			○		7	3					共同
	日本語習得論特講	1・2③		2		○			1						
	言語教育心理学特講	1・2③		2		○			1						
	日本語教育評価法特講	1・2③		2		○				1					
	年少者日本語教育特講	1・2③		2		○				1					
	日本語構造論特講	1・2①		2		○			1						
	日本語表現法特講	1・2①		2		○			1						
	対照言語学特講	1・2①		2		○			1						
	社会言語学特講	1・2③		2		○			1						
	異文化間教育学特講	1・2①		2		○				1					
	文化社会学特講	1・2②		2		○				1					
	日本近代文学特講	1・2③		2		○			1						
	日本語習得論演習	1・2④		2			○		1						

教育課程等の概要																
(教育科学専攻 博士課程前期)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
日本語教育学プログラム	言語教育心理学演習	1・2②		2				○		1						
	日本語教育評価法演習	1・2④		2				○			1					
	年少者日本語教育演習	1・2④		2				○			1					
	日本語構造論演習	1・2②		2				○		1						
	日本語表現法演習	1・2②		2				○		1						
	対照言語学演習	1・2③		2				○		1						
	社会言語学演習	1・2④		2				○		1						
	異文化間教育学演習	1・2③		2				○			1					
	文化社会学演習	1・2④		2				○			1					
	日本近代文学演習	1・2④		2				○		1						
	国内日本語教育実践研究	1・2①②			2				○	3	2					共同
海外日本語教育実践研究	1・2③④			2				○	3	2					共同	
小計 (26科目)		—	0	48	4			—	7	4	0	0	0	0	0	—
国際教育開発プログラム	教育基礎論	1・2④		2				○		1	1					
	国際教育協力論	1・2①		2				○		1						
	教育人材開発論	1・2②		2				○			1					
	ノンフォーマル教育論	1・2④		2				○			1					
	理科教育開発論	1・2②		2				○		1					兼1	共同
	科学教育開発基礎論	1・2①		2				○		1					兼1	共同
	数学教育開発論	1・2③		2				○		1						
	高等教育開発論	1・2①		2				○		1						
	教育協力実践基礎論Ⅰ	1・2①		2				○		2	2				兼2	オムニバス・共同 (一部)
	教育協力実践基礎論Ⅱ	1・2②		2				○		2	2				兼2	オムニバス・共同 (一部)
	国際教育協力実践研究	1・2④		2				○		2	1					
	基礎教育開発論	1・2①		2				○			1					
	教育協力事業評価論	1・2③		2				○		1						
	教科教育授業論	1・2②		2				○		2	1					オムニバス
	途上国の比較教育学	1・2③		2				○			1					
	インクルーシブ教育論	1・2②		2				○		1						
	平和社会のための教育	1・2①		2				○			1					
	教育統計概論	1・2④		2				○		1						
教育開発フィールドワーク論	1・2②		2				○			3						
地域カリキュラム開発論	1・2③		2				○			1						
スポーツ教育開発論	1・2④		2				○		1							
グローバルシティズンシップ教育論	1・2④		2				○			1						
幼児教育・保育開発論Ⅰ	1・2③		2				○			1						
幼児教育・保育開発論Ⅱ	1・2④		2				○			1						
小計 (24科目)		—	0	48	0			—	8	13	0	0	0	0	兼3	—
特別研究		1~2		4				○		22	19	1			兼1	
小計 (281科目)		—	0	572	4			—	64	55	6	1	0	0	兼10	—
合計 (309科目)			—	2	613	4		—	64	56	8	1	0	0	兼146	—

学位又は称号	修士 (教育学) 修士 (教育心理学) 修士 (国際協力学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係
--------	---	-----------	-----------

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。  
修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位
専攻共通科目	2単位以上	
プログラム専門科目	所属プログラム専門科目	12単位以上
	特別研究	4単位 特別研究：4単位 (教師教育デザイン学プログラムは、基幹領域科目)。
他プログラム専門科目	2単位以上	
所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目	4単位以上	
合計	30単位以上	

1学年の学期区分	2学期 (4ターム)
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																																			
(教育科学専攻 博士課程後期)																																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																						
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中																			
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中																			
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○								兼4	オムニバス																			
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1																				
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1																				
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○							兼1																				
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○							兼9	オムニバス・共同（一部）																			
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1																				
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1																				
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○						兼1																				
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○						兼1																				
	事業創造概論	1・2・3①		1					○						兼1																				
小計（12科目）	—	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	兼19	—																			
共通研究科目	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		2					兼9	共同																			
	人間社会科学講究	1・2・3②		2				○		2					兼9	共同																			
	小計（2科目）	—	0	4	0			—		4	0	0	0	0	兼16	—																			
プログラム専門科目	教育学共同研究講究	1～3④			2			○		2	1																								
	教育学フィールドワーク講究	1④			1			○		1	1																								
	大学教員養成講座	1～3③			2			○		1	1	1			兼2																				
	大学授業構成論講究	1～3①②			2			○		1	1																								
	教職授業プラクティカム I	2・3①②			1				○	6	5																								
	教職授業プラクティカム II	2・3③④			1				○	6	5																								
	教職授業プラクティカム III	2・3①②			1				○	6	5																								
	教職教育ポートフォリオ	2・3③			1				○	1	1																								
	特別研究	1～3		6					○	66	56	3				兼3																			
小計（9科目）	—	—	6	0	11			—	66	56	4	0	0	兼5	—																				
合計（23科目）			—	6	20	11			—	66	56	4	0	0	兼40	—																			
学位又は称号	博士（教育学） 博士（教育心理学） 博士（国際協力学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係																													
卒業要件及び履修方法						授業期間等																													
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件						1学年の学期区分						2学期（4ターム）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院共通科目 持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プログラム専門科目 特別研究</td> <td>6単位</td> <td>「必修」特別研究：6単位</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目 持続可能な発展科目	1単位以上		キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上		研究科共通科目	2単位以上		プログラム専門科目 特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位	合計	10単位以上		1学期の授業期間						15週					
						科目区分	要修得単位数	指定科目等																											
大学院共通科目 持続可能な発展科目	1単位以上																																		
キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																		
研究科共通科目	2単位以上																																		
プログラム専門科目 特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位																																	
合計	10単位以上																																		
						1時限の授業時間						90分																							

教育課程等の概要															
（教職開発専攻 専門職学位課程 教職開発プログラム）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health SDGsへの学問的アプローチA SDGsへの学問的アプローチB SDGsへの実践的アプローチ ダイバーシティの理解	1・2①②④		1		○									兼5 オムニバス
		1・2②		1		○									兼7 オムニバス・メディア
		1・2④		1		○									兼6 オムニバス・メディア
		1・2①		1		○									兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
		1・2③		1		○									兼7 オムニバス・メディア
		1・2②		2		○			1	2					共同・集中
		1・2②		1		○									兼4 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目 データリテラシー 医療情報リテラシー 人文社会系キャリアマネジメント 理工系キャリアマネジメント ストレスマネジメント 情報セキュリティ MOT入門 アントレプレナーシップ概論	1・2①②		1		○									兼2 オムニバス
		1・2③		1		○									兼9 オムニバス・共同（一部）
		1・2②③		2		○									兼1 メディア、②のみ集中
		1・2②		2		○									兼1 集中
		1・2②④		2		○									兼1 ②のみ集中
		1・2①		2		○									兼3 オムニバス
		1・2①③		1		○									兼1
	1・2①		1		○									兼1	
小計（15科目）		—	0	20	0	—			1	2	0	0	0	兼50 —	
共同研究科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			1					兼48 オムニバス	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○			1		1			共同	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			2	0	1	0	0	兼48 —	
教育課程開発の実践と評価	教育課程開発の実践と評価	1①	2			○			2					共同	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			2	0	0	0	0	—	
	導教方法等の実践的な指	論理的思考教育の開発実践 マイクロティーチングの実践 授業研究の開発実践（ICTを含む） 通教科的能力育成の授業開発と実践 道徳・人間関係教育領域の開発実践	1① 1④ 1④ 2③ 1④	2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○			1 2 2 3 2	1 2 2 4 2				共同 共同 兼1 オムニバス・共同 兼1 共同 共同	
小計（5科目）	—	0	10	0	—			5	9	0	0	0	兼2 —		
教育相談	幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践（特別支援教育を含む）	1①	2			○				1	1			兼1 オムニバス・共同	
	教育相談・カウンセリングの理論と実践	1④	2			○					1			兼2 共同	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	1	2	0	0	兼3 —	
経営・学校経営	学級経営の理論と実践	2①	2			○			1	1				共同	
	学校経営の理論と実践（地域とともにある学校を含む）	2①	2			○			1	1				兼1 共同	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	2	0	0	0	兼1 —	
あと学校教員教育	現代教師教育の理論と実践	2④	2			○				1				兼1 共同	
	現代の教育改革	1①	2			○			1	2				共同	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—			1	3	0	0	0	兼1 —	
学校マネジメントコース 選択科目	地域教育経営の理論と実践	1①	2			○				1				兼1 共同	
	教育行政の理論と実践	1①	2			○								兼1	
	学校の危機管理	1①	2			○								兼1 集中	
	教職員の人材育成	1②	2			○				1				兼1 共同	
	学校の経営戦略と評価	1②	2			○				1				兼1 共同	
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践	1③	2			○								兼1	
	教育法規の実践演習	1通	2			○				2				共同	
	学校経営・行政フィールド調査	1通	2			○				2				兼1 共同	
小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	2	0	0	0	兼5 —		
プログラム専門科目 教育実践開発コース 選択科目	発達支援と幼児児童生徒理解	1②	2			○				1	1			共同	
	教育実践研究の技法（校内研修を含む）	1①	2			○				2				共同	
	学校における教育相談	1③	2			○					1			兼2 共同	
	異校種連携接続の実践開発	1③	2			○			1	1				共同	
	教科横断的授業デザインと授業分析	1②	2			○				2				共同	
	教員のキャリア形成支援の理論と実践	1②	2			○								兼1	
	ユニバーサルマインドの授業開発	1②	2			○			3	2				共同	
	グローバルマインドの授業開発	1③	2			○				2				兼1 共同	
	先進的授業研究の理論と実践	1通	2			○			1	2				兼7 共同・集中	
	授業開発と評価（基礎）	1前	2			○			6	6				兼5 共同	
	授業開発と評価（応用）	1後	2			○			6	6				兼5 共同	
	授業開発と評価（発展）	2前	2			○			6	6				兼5 共同	
	授業開発と評価（開発）	2後	2			○			6	6				兼5 共同	
	海外教育実地研究	1通	2			○			1	2				共同・集中	
	学校インターンシップ	1通	1			○			3	1				兼3 共同・集中	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(教職開発専攻 専門職学位課程 教職開発プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
小計 (15科目)			0	29	0	—			6	8	2			兼18	—
専攻必修科目	アクションリサーチ・セミナーⅠ	1前	1				○		5	8	2			兼2	共同
	アクションリサーチ・セミナーⅡ	1後	1				○		5	8	2			兼2	共同
	アクションリサーチ・セミナーⅢ	2前	1				○		5	8	2			兼2	共同
	アクションリサーチ・セミナーⅣ	2後	1				○		5	8	2			兼2	共同
小計 (4科目)			4	0	0	—			5	8	2	0	0	兼2	—
学校における実習科目	アクションリサーチ実地研究Ⅰ (教育行政職実務)	1前		2			○			2				兼2	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅱ (学校管理職実務)	1後		2			○			2				兼2	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅲ (所属校実践)	2前		3			○			2				兼2	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅳ (所属校実践)	2後		3			○			2				兼2	共同・集中
	小計 (4科目)			0	10	0	—			0	2	0	0	0	兼2
教育実践開発コース	アクションリサーチ実地研究Ⅰ	1前		2			○		6	6	2			兼1	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅱ	1後		3			○		6	6	2			兼1	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅲ	2前		2			○		6	6	2			兼1	共同・集中
	アクションリサーチ実地研究Ⅳ	2後		3			○		6	6	2			兼1	共同・集中
小計 (4科目)			0	10	0	—			6	6	2	0	0	兼1	—
小計 (8科目)			0	20	0	—			6	8	2	0	0	兼3	—
小計 (47科目)			6	87	0	—			6	10	2	0	0	兼25	—
合計 (64科目)			6	111	0	—			6	10	2	0	0	兼120	—

学位又は称号	教職修士 (専門職)	学位又は学科の分野	教員養成関係
--------	------------	-----------	--------

### 卒業要件及び履修方法

修了に必要な単位数を49単位以上とし、以下のとおり、単位を修得すること。  
修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上
研究科共通科目		2単位以上
プログラム専門科目	教育課程の編成・実施	2単位
	教科等の実践的な指導方法	2単位以上
	生徒指導・教育相談	2単位以上
	学校経営・学級経営	2単位以上
	学校教育と教員のあり方	2単位以上
	専攻必修科目	4単位
コース選択科目	11単位以上	<学校マネジメントコース> 学校マネジメントコース選択科目から11単位以上修得すること。ただし、教育実践開発コース選択科目から4単位まで含めることができる。 <教育実践開発コース> 教育実践開発コース選択科目から11単位以上修得すること。ただし、学校マネジメントコース選択科目から4単位まで含めることができる。
学校における実習科目	10単位	<学校マネジメントコース> 学校マネジメントコース：10単位 <教育実践開発コース> 教育実践開発コース：10単位
合計	49単位以上	

授業期間等	
1学年の学期区分	2学期 (4ターム)
1学期の授業期間	15週
1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																
(実務法学専攻 専門職学位課程 実務法学プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	3①②④		1		○								兼5 オムニバス	
			3②		1		○								兼7 オムニバス・メディア	
			3④		1		○								兼6 オムニバス・メディア	
			3①		1		○								兼8 オムニバス・共同(一部)メディア	
			3③		1		○								兼7 オムニバス・メディア	
	キャリア開発・キャリア開発科目	SDGsへの学問的アプローチA	3①		1		○								兼8 オムニバス・共同(一部)メディア	
		SDGsへの学問的アプローチB	3③		1		○								兼7 オムニバス・メディア	
		SDGsへの実践的アプローチ	3②		2			○							兼3 共同・集中	
		ダイバーシティの理解	3②		1		○								兼4 オムニバス・共同(一部)・集中	
		データリテラシー	3①②		1		○								兼2 オムニバス	
		医療情報リテラシー	3③		1		○								兼9 オムニバス・共同(一部)	
		人文社会系キャリアマネジメント	3②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中	
		理工系キャリアマネジメント	3②		2		○								兼1 集中	
	ストレスマネジメント	3②④		2		○								兼1 ②のみ集中		
	情報セキュリティ	3①		2		○								兼3 オムニバス		
MOT入門	3①③		1		○								兼1			
アントレプレナーシップ概論	3①		1		○								兼1			
小計(15科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼53 —		
通科研究	人間社会科学特別講義	3④	2			○								兼15 オムニバス		
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼15 —		
プログラム専門科目	法律基本科目群	民法1A	1①	2			○			1						
		民法1B	1②	2			○			1						
		民法2	1前	2			○			1						
		民法3	1③	2			○			1						
		民法4	1後	2			○			1						
		会社法1	1②	1			○			1						
		会社法2	1③	1			○			1						
		会社法3	1④	1			○			1						
		民事訴訟法	1後	2			○								兼1	
		刑法A	1①	1			○			1						
		刑法A演習	1②	1			○			1						
		刑法B	1③	1			○			1						
		刑法B演習	1④	1			○	○		1						
		憲法1	1前	2			○			1						
		憲法2	1後	2			○			1						
		基礎演習1	1②	1				○		6					オムニバス	
		基礎演習2	1③	1				○		6					オムニバス	
		基礎演習3	1④	1				○		7					オムニバス	
		法学概論	1①	1				○		2		1			オムニバス・共同(一部)	
		民法演習1A	2①	1				○		1						
		民法演習1B	2②	1				○		1						
		民法演習2A	2①	1				○		1						
		民法演習2B	2②	1				○		1						
		民法演習3A	2③	1				○		1						
		民法演習3B	2④	1				○		1						
		民法演習4	2後	2				○		1						
		商法演習1A	2②	1				○		1						
		商法演習1B	2③	1				○		1						
		商法演習2A	2④	1				○		1						
		商法演習2B	3①	1				○		1						
		民事手続法1	2前	2				○								兼1
		民事手続法2	2後	2				○								兼1
		刑法C	2②	1				○		1						
刑法C演習	2③	1				○	○	1								
刑事訴訟法1	2①	1				○			1							
刑事訴訟法2	2③	1				○			1							
刑事訴訟法1演習	2②	1				○	○		1							
刑事訴訟法2演習	2④	1				○	○		1							
行政法1	2前	2				○		1								
行政法2	2後	2				○		1								
憲法演習1	2①	1				○		1								
憲法演習2	2後	2				○		1								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(実務法学専攻 専門職学位課程 実務法学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
法律基本科目群	民事法総合演習	3②③	1				○		5					兼2	オムニバス・共同（一部）
	刑事法総合演習	3②③	1				○		1	1					オムニバス・共同（一部）
	公法総合演習	3②③	1				○		2						オムニバス
	刑法演習1	2①		1			○		1						
	刑法演習2	2④		1			○		1						
	重点演習（公法1）	3③		1			○		2						オムニバス・共同（一部）
	重点演習（公法2）	3④		1			○		2					兼1	オムニバス・共同
	重点演習（民事法1）	3③		1			○		4					兼2	オムニバス・共同（一部）
	重点演習（民事法2）	3③		1			○		2						オムニバス
	重点演習（民事法3）	3④		1			○		2						オムニバス
	重点演習（刑事法1）	3③		1			○		2						オムニバス
	重点演習（刑事法2）	3③		1			○		1						
	重点演習（刑事法3）	3④		1			○		1	1					
	重点演習（刑事法4）	3④		1			○		1						
	重点演習（公法理論研究）	3④		1			○		1						
	重点演習（民事法理論研究）	3④		1			○		1						
重点演習（刑事法理論研究）	3④		1			○		1							
小計（59科目）	—	—	59	14	0		—	—	14	1	1	0	0	兼3	—
実務基礎科目群	法曹倫理1	2前	2				○		2						オムニバス
	法文書作成	3前	2				○		2					兼1	オムニバス・共同（一部）
	民事訴訟実務基礎1	2②	1				○		2					兼1	
	民事訴訟実務基礎2	2③	1				○		2					兼1	
	刑事訴訟実務基礎	3①	2				○		1					兼1	オムニバス
	模擬裁判	3①	1						1						
	リーガル・クリニック	3前		1					1						
	エクスターンシップ	2後		1					1						
	法曹倫理2	2後		2			○		2						オムニバス
	ローヤリング	3①		1				○	1						
小計（10科目）	—	—	9	5	0		—	—	3	0	0	0	0	兼2	—
基礎法学・隣接科目群	法的思考法	2前		2			○					1			
	法理学	3後		2			○					1			
	政治学	2後		2			○							兼1	
	法社会学	2前		2			○							兼1	
小計（4科目）	—	—	0	8	0		—	—	0	0	1	0	0	兼2	—
展開・先端科目群	消費者法	2後		2			○								兼1
	不動産登記法	3前		2			○								兼1
	債権回収法	3後		2			○								兼1
	知的財産法1	3前		2			○								兼1
	知的財産法2	3後		2			○								兼1
	企業金融法	3後		2			○		1						
	国際私法・取引法	2後		2			○								兼1
	民事執行保全法	3前		2			○								兼1
	倒産処理法1	2前		2			○								兼1
	倒産処理法2	3前		2			○								兼1
	労働法1	2後		2			○		1						
	労働法2	3前		2			○		1						
	労働法演習	3後		2			○		1						
	社会保障法	3前		2			○		1						
小計（14科目）	—	—	0	28	0		—	—	2	0	0	0	0	兼8	—
特別講義	税法	3前		2			○								兼2
	アジア法1	2②		1			○		1						
	アジア法2	2③		1			○		2						オムニバス
	臨床法務	3前		2			○		1						
	公法実務基礎	3前		1			○							兼2	オムニバス
小計（5科目）	—	—	0	7	0		—	—	3	0	0	0	0	兼4	—
小計（92科目）	—	—	68	62	0		—	—	15	1	1	0	0	兼17	—
合計（108科目）	—	—	70	82	0		—	—	15	1	1	0	0	兼85	—
学位又は称号	法務博士（専門職）		学位又は学科の分野			法曹養成関係									

教 育 課 程 等 の 概 要																																															
(実務法学専攻 専門職学位課程 実務法学プログラム)																																															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																																	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																																		
卒業要件及び履修方法						授業期間等																																									
修了に必要な単位数を103単位以上とし、以下のとおり、単位を修得すること。 修了要件						1 学年の学期区分				2学期（4ターム）																																					
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>2単位</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td>法律基本科目群</td> <td>61単位以上</td> <td>「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目</td> </tr> <tr> <td>実務基礎科目群</td> <td>10単位以上</td> <td>「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>基礎法学・隣接科目群</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>展開・先端科目群</td> <td>12単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>科目群指定なし</td> <td>12単位以上</td> <td>実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>103単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>														科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	研究科共通科目	2単位	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	プログラム専門科目	法律基本科目群	61単位以上	「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目	実務基礎科目群	10単位以上	「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目		基礎法学・隣接科目群	4単位以上			展開・先端科目群	12単位以上			科目群指定なし	12単位以上	実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上	合計		103単位以上	
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																													
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上																																													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																													
研究科共通科目	2単位	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																													
プログラム専門科目	法律基本科目群	61単位以上	「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目																																												
	実務基礎科目群	10単位以上	「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目																																												
	基礎法学・隣接科目群	4単位以上																																													
	展開・先端科目群	12単位以上																																													
	科目群指定なし	12単位以上	実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上																																												
合計		103単位以上																																													
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>2単位</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td>法律基本科目群</td> <td>61単位以上</td> <td>「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目</td> </tr> <tr> <td>実務基礎科目群</td> <td>10単位以上</td> <td>「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目</td> </tr> <tr> <td></td> <td>基礎法学・隣接科目群</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>展開・先端科目群</td> <td>12単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>科目群指定なし</td> <td>12単位以上</td> <td>実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>103単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	研究科共通科目	2単位	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	プログラム専門科目	法律基本科目群	61単位以上	「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目	実務基礎科目群	10単位以上	「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目		基礎法学・隣接科目群	4単位以上			展開・先端科目群	12単位以上			科目群指定なし	12単位以上	実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上	合計		103単位以上		1 時限の授業時間				90分または100分			
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																													
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上																																													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																													
研究科共通科目	2単位	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																													
プログラム専門科目	法律基本科目群	61単位以上	「必修」：59単位 「選択必修」 刑法演習1：1単位 刑法演習2：1単位 から1科目 重点演習（公法1）：1単位 重点演習（公法2）：1単位 重点演習（民法1）：1単位 重点演習（民法2）：1単位 重点演習（民法3）：1単位 重点演習（民法4）：1単位 重点演習（刑法1）：1単位 重点演習（刑法2）：1単位 重点演習（刑法3）：1単位 重点演習（刑法4）：1単位 重点演習（公法理論研究）：1単位 重点演習（民法理論研究）：1単位 重点演習（刑事法理論研究）：1単位 から1科目																																												
	実務基礎科目群	10単位以上	「必修」 法曹倫理1：2単位 法文書作成：2単位 民事訴訟実務基礎1：1単位 民事訴訟実務基礎2：1単位 刑事訴訟実務基礎：2単位 模擬裁判：1単位  「選択必修」 リーガル・クリニック：1単位 エクスターンシップ：1単位 から1科目																																												
	基礎法学・隣接科目群	4単位以上																																													
	展開・先端科目群	12単位以上																																													
	科目群指定なし	12単位以上	実務基礎科目群 基礎法学・隣接科目群 展開・先端科目群 から5単位以上																																												
合計		103単位以上																																													

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①		1		○			1	1				兼8 オムニバス・共同(一部) メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③		1		○								兼5 オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②		2		○	○		2					兼3 共同・集中 兼2 オムニバス・共同(一部)・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1
	小計(15科目)		—	0	20	0	—			7	2	0	0	0	兼44
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考(基礎)	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計(7科目)		—	2	9	0	—		39	26	2	8	0	兼29		
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
	小計(3科目)		—	0	6	0	—		32	24	1	3	0	兼4	
プログラム専門科目	比較日本文化学研究A	1・2前		2		○	○					1			
	比較日本文化学研究B	1・2後		2		○	○					1			
	比較日本文化学研究C	1・2前		2		○	○							兼1	
	比較日本文化学研究D	1・2後		2		○	○							兼1	
	日本文化論講義A	1・2前		2		○								兼1	
	日本文化論講義B	1・2前		2		○						1			
	日本文化論演習A	1・2前		2			○							兼1	
	日本文化論演習B	1・2後		2			○					1			
	歴史文化論講義A	1・2前		2		○			1						
	歴史文化論講義B	1・2後		2		○			1						
	歴史文化論演習A	1・2前		2			○		1						
	歴史文化論演習B	1・2後		2			○		1						
	表象文化論講義A	1・2前		2		※	○		1					※講義	
	表象文化論講義B	1・2後		2		※	○		1					※講義	
	表象文化論演習A	1・2前		2			○		1						
	表象文化論演習B	1・2後		2			○		1						
	言語文化論講義A	1・2前		2			○		1						
	言語文化論講義B	1・2後		2			○		1						
	言語文化論演習A	1・2前		2				○	1						
	言語文化論演習B	1・2後		2				○	1						
	超域文化論講義A	1・2前		2			○			1					
	超域文化論講義B	1・2後		2			○			1					
	超域文化論演習A	1・2前		2				○		1					
	超域文化論演習B	1・2後		2				○		1					
	西洋哲学演習A	1・2①		2				○				1			
	西洋哲学演習B	1・2②		2				○				1			
西洋哲学特別演習A	1・2①		2				○		1						
西洋哲学特別演習B	1・2②		2				○		1						
哲学文献資料研究A	1・2①		2				○				1				
哲学文献資料研究B	1・2②		2				○				1				
西洋哲学史演習A	1・2③		2				○				1				
西洋哲学史演習B	1・2④		2				○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	西洋哲学史特別演習 A	1・2③		2			○		1							
	西洋哲学史特別演習 B	1・2④		2			○		1							
	西洋哲学史文献資料研究 A	1・2③		2			○			1						
	西洋哲学史文献資料研究 B	1・2④		2			○			1						
	西洋哲学特講	1・2②		2			○		1							
	インド哲学研究	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史講義	1・2前		2				○			1					
	インド哲学演習 A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学演習 B	1・2後		2				○			1					
	インド哲学史演習 A	1・2前		2				○			1					
	インド哲学史演習 B	1・2後		2				○			1					
	仏教学研究	1・2後		2				○		1						
	仏教思想史研究	1・2前		2				○		1						
	仏教学演習 A	1・2前		2				○		1						
	仏教学演習 B	1・2後		2				○		1						
	仏教思想史講義 A	1・2前		2				○		1						
	仏教思想史講義 B	1・2後		2				○		1						
	インド哲学仏教学総合演習 A	1・2前		2				○		1	1					共同
	インド哲学仏教学総合演習 B	1・2後		2				○		1	1					共同
	倫理学基礎演習 A	1・2前		2				○			1					
	倫理学基礎演習 B	1・2前		2				○			1					
	応用倫理学方法論研究 A	1・2後		2				○			1					
	応用倫理学方法論研究 B	1・2後		2				○			1					
	応用倫理学基礎演習 A	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学基礎演習 B	1・2前		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究 A	1・2後		2				○								兼1
	応用倫理学文献研究 B	1・2後		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習 A	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史基礎演習 B	1・2③		2				○								兼1
	倫理思想史文献研究 A	1・2後		2				○		1						
	倫理思想史文献研究 B	1・2後		2				○		1						
	応用倫理思想基礎演習 A	1・2前		2				○		1						
	応用倫理思想基礎演習 B	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究 A	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究 B	1・2後		2				○		1						
	中国哲学文献研究 C	1・2前		2				○		1						
	中国哲学文献研究 D	1・2後		2				○		1						
	中国思想文献研究 A	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究 B	1・2後		2				○					1			
	中国思想文献研究 C	1・2前		2				○					1			
	中国思想文献研究 D	1・2後		2				○					1			
	中国文化文献研究 A	1・2前		2				○		1						
	中国文化文献研究 B	1・2後		2				○		1						
	中国文化文献研究 C	1・2前		2				○		1						
	中国文化文献研究 D	1・2後		2				○		1						
	中国思想学專題講義	1・2前		2				○		1						隔年
	中国文化学專題研究	1・2後		2				○		1						隔年
	中国思想文化学研究法 A	1・2前		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法 B	1・2後		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法 C	1・2前		2				○		2						共同
	中国思想文化学研究法 D	1・2後		2				○		2						共同
	歴史文化研究	1・2前		2				○		6	3					隔年・オムニバス
文化交流－日本と世界－	1・2②		2				○		6	3					隔年・オムニバス	
日本地域文献資料実習	1・2前		1					○	2	1					隔年・共同	
日本地域史研究実習	1・2後		1					○	2	1					隔年・共同	
日本古代資料解析論	1・2前		2				○			1					隔年	
日本古代社会文化研究	1・2前		2				○			1					隔年	
日本中世資料解析論 A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本中世資料解析論 B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本中世社会文化研究 A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本中世社会文化研究 B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本近世資料解析論 A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本近世資料解析論 B	1・2後		2				○		1						隔年	
日本近世社会文化研究 A	1・2前		2				○		1						隔年	
日本近世社会文化研究 B	1・2後		2				○		1						隔年	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
プログラム専門科目	日本近代資料解析論A	1・2前		2			○				1					隔年
	日本近代資料解析論B	1・2後		2			○				1					隔年
	日本近代社会文化研究A	1・2前		2			○				1					隔年
	日本近代社会文化研究B	1・2後		2			○				1					隔年
	日本社会文化史特論	1・2前		2				○			2					隔年・オムバス・共同(一部)
	アジア歴史文化論A	1・2②		2			○				1					隔年
	アジア歴史文化論B	1・2②		2			○				1					隔年
	アジア社会史史料研究A	1・2①		2				○			1					隔年
	アジア社会史史料研究B	1・2③		2				○			1					隔年
	アジア政治史史料研究A	1・2①		2				○			1					隔年
	アジア政治史史料研究B	1・2③		2				○			1					隔年
	アジア地域史研究A	1・2①		2				○			1					隔年
	アジア地域史研究B	1・2①		2				○			1					隔年
	アジア地域文化論A	1・2①		2				※	○			1				※講義・隔年
	アジア地域文化論B	1・2①		2				※	○			1				※講義・隔年
	アジア交流史史料研究A	1・2②		2				○	○			1				隔年
	アジア交流史史料研究B	1・2④		2				○	○			1				隔年
	中国制度史史料講義A	1・2③		2				※	○			1				※講義・隔年
	中国制度史史料講義B	1・2③		2				※	○			1				※講義・隔年
	中国経済史史料研究A	1・2②		2				○	○			1				隔年
	中国経済史史料研究B	1・2④		2				○	○			1				隔年
	中国政治史史料講義A	1・2③		2				※	○			1				※講義・隔年
	中国政治史史料講義B	1・2③		2				※	○			1				※講義・隔年
	中国文化史史料研究A	1・2②		2				○	○			1				隔年
	中国文化史史料研究B	1・2④		2				○	○			1				隔年
	中国社会史史料研究A	1・2②		2				○	○			1				隔年
	中国社会史史料研究B	1・2④		2				○	○			1				隔年
	アジア歴史社会論A	1・2④		2				○	○			1				隔年
	アジア歴史社会論B	1・2④		2				○	○			1				隔年
	近代国家論研究	1・2後		2				○	○			1				隔年
	欧米社会構造論研究	1・2前		2				○	○			1				隔年
	欧米政治文化史史料研究A	1・2前		2					○			1				隔年
	欧米政治文化史史料研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究A	1・2前		2					○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究C	1・2前		2					○			1				隔年
	欧米社会経済史史料研究D	1・2後		2					○			1				隔年
	西洋社会史文書研究A	1・2前		2					○			1				隔年
	西洋社会史文書研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	西洋文化史文書研究A	1・2前		2					○			1				隔年
	西洋文化史文書研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	地中海世界史研究A	1・2前		2					○			1				隔年
	地中海世界史研究B	1・2後		2					○			1				隔年
	地中海文書解析学A	1・2前		2					○			1				隔年
	地中海文書解析学B	1・2後		2					○			1				隔年
	日本古典文学注釈研究A	1・2前		2				※	○			1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究B	1・2後		2				※	○			1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究C	1・2前		2				※	○			1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究D	1・2後		2				※	○			1				※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究E	1・2前		2				※	○			1				※講義・隔年
日本古典文学注釈研究F	1・2後		2				※	○			1				※講義・隔年	
日本古典文学解読研究A	1・2前		2					○			1				隔年	
日本古典文学解読研究B	1・2後		2					○			1				隔年	
日本古典文学解読研究C	1・2前		2					○			1				隔年	
日本古典文学解読研究D	1・2後		2					○			1				隔年	
日本古典文学解読研究E	1・2前		2					○			1				隔年	
日本古典文学解読研究F	1・2後		2					○			1				隔年	
日本近現代文学注釈研究A	1・2前		2					○			1				隔年	
日本近現代文学注釈研究B	1・2後		2					○			1				隔年	
日本近現代文学注釈研究C	1・2前		2					○			1				隔年	
日本近現代文学注釈研究D	1・2後		2					○			1				隔年	
日本近現代文学解読研究A	1・2前		2					○			1				隔年	
日本近現代文学解読研究B	1・2後		2					○			1				隔年	
日本近現代文学解読研究C	1・2前		2					○			1				隔年	
日本近現代文学解読研究D	1・2後		2					○			1				隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	日本語学研究A	1・2前		2			○				1					隔年
	日本語学研究B	1・2後		2			○				1					隔年
	日本語史研究A	1・2前		2			○				1					隔年
	日本語史研究B	1・2③		2			○				1					隔年
	中国古典散文演習A	1・2前		2			○			1						
	中国古典散文演習B	1・2後		2			○			1						
	中国古典散文演習C	1・2前		2			○			1						
	中国古典散文演習D	1・2後		2			○			1						
	中国古典韻文演習A	1・2前		2			○				1					
	中国古典韻文演習B	1・2後		2			○				1					
	中国古典韻文演習C	1・2前		2			○				1					
	中国古典韻文演習D	1・2後		2			○				1					
	中国古典詩演習A	1・2前		2			○			1						
	中国古典詩演習B	1・2後		2			○			1						
	中国古典詩演習C	1・2後		2			○			1						
	中国古典詩演習D	1・2後		2			○			1						
	中国古典小説演習A	1・2前		2			○			1						
	中国古典小説演習B	1・2後		2			○			1						
	中国古典小説演習C	1・2前		2			○			1						
	中国古典小説演習D	1・2後		2			○			1						
	中国文学特殊講義A	1・2前		2			○			1						隔年
	中国文学特殊講義B	1・2前		2			○			1						隔年
	欧米文学語学・言語学概説	1・2③		2			○			6	4		3			オムニバス
	近代アメリカ文学演習A	1・2②		2				○		1						
	近代アメリカ文学演習B	1・2②		2				○		1						
	現代アメリカ文学演習A	1・2①		2				○		1						
	現代アメリカ文学演習B	1・2①		2				○		1						
	アメリカ文学理論演習A	1・2④		2				○		1						
	アメリカ文学理論演習B	1・2④		2				○		1						
	アメリカ小説作品演習A	1・2③		2				○		1						
	アメリカ小説作品演習B	1・2③		2				○		1						
	アメリカ文学特殊講義A	1・2①		2			○	※		1						※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2①		2			○	※		1						※演習
	アメリカ文学研究演習A	1・2③		2				○		1						
	アメリカ文学研究演習B	1・2③		2				○		1						
	批評理論演習A	1・2前		2				○		1						隔年
	批評理論演習B	1・2後		2				○		1						隔年
	イギリス詩文学作品演習A	1・2③		2				○					1			
	イギリス詩文学作品演習B	1・2③		2				○					1			
	イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④		2				○					1			
	イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④		2				○					1			
	イギリス小説作品研究演習A	1・2③		2				○			1					
	イギリス小説作品研究演習B	1・2③		2				○			1					
	イギリス小説作品演習A	1・2①		2				○			1					
	イギリス小説作品演習B	1・2①		2				○			1					
	イギリス戯曲文学演習A	1・2②		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習C	1・2②		2				○		1						
	イギリス戯曲文学演習D	1・2③		2				○		1						
	英語圏文学概論A	1・2③		2				○					1			
	英語圏文学概論B	1・2④		2				○					1			
	英語圏文学特殊講義A	1・2①		2			○			1	1		1			共同
	英語圏文学特殊講義B	1・2②		2			○			1	1		1			共同
世界英語圏文学批評演習A	1・2後		2				○		1							
世界英語圏文学批評演習B	1・2後		2				○		1							
英語圏文学作品演習A	1・2前		2				○		1							
英語圏文学作品演習B	1・2前		2				○		1							
英語圏文学作品研究演習A	1・2後		2				○		1							
英語圏文学作品研究演習B	1・2後		2				○		1							
英語圏詩文学作品演習A	1・2前		2				○		1							
英語圏詩文学作品演習B	1・2前		2				○		1							
英語学概論A	1・2①		2			○			1	1					共同	
英語学概論B	1・2③		2			○			1	1					共同	
英語学理論演習A	1・2①		2				○		1						隔年	
英語学理論演習B	1・2①		2				○		1						隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
プログラム 専門科目	近代英語作品研究演習 A	1・2③		2			○		1						隔年
	近代英語作品研究演習 B	1・2③		2			○		1						隔年
	中期英語概論 A	1・2①		2		○			1						隔年
	中期英語概論 B	1・2①		2		○			1						隔年
	中期英語作品研究演習 A	1・2③		2			○		1						隔年
	中期英語作品研究演習 B	1・2③		2			○		1						隔年
	英語学特殊講義 A	1・2①		2			○		1	1					共同
	英語学特殊講義 B	1・2③		2			○		1	1					共同
	ドイツ文学理論演習 A	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ文学理論演習 B	1・2後		2			○		1						隔年
	近現代ドイツ語学演習 A	1・2前		2			○			1					隔年
	近現代ドイツ語学演習 B	1・2後		2			○			1					隔年
	ドイツ文学語学特殊講義 A	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ文学語学特殊講義 B	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ文学語学特殊講義 C	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏文化論演習 A	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏文化論演習 B	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 A	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 B	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 C	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 D	1・2後		2			○		1						隔年
	ドイツ文学発展演習 A	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ文学発展演習 B	1・2前		2			○		1						隔年
	ドイツ近現代文学演習 A	1・2前		2			○						1		隔年
	ドイツ近現代文学演習 B	1・2後		2			○						1		隔年
	ドイツ小説演習 A	1・2前		2			○						1		隔年
	ドイツ小説演習 B	1・2後		2			○						1		隔年
	ドイツ語コーパス言語学 A	1・2前		2			○			1					隔年
	ドイツ語コーパス言語学 B	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学研究 A	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学研究 B	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学批評研究 A	1・2前		2			○		1						隔年
	フランス語文学批評研究 B	1・2前		2			○		1						隔年
	フランス語文学・フランス語学演習 A	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学演習 B	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス文学特別研究演習 A	1・2後		2			○						1		隔年
	フランス文学特別研究演習 B	1・2後		2			○						1		隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習 A	1・2前		2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習 B	1・2前		2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学批評演習 A	1・2後		2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学批評演習 B	1・2後		2			○		1						隔年
	近現代フランス語表現小説研究 A	1・2前		2			○		1						隔年
	近現代フランス語表現小説研究 B	1・2前		2			○		1						隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習 A	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習 B	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習 C	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習 D	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習 A	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習 B	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習 C	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習 D	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義 A	1・2前		2			○		1						隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義 B	1・2前		2			○		1						隔年
	言語研究法講義 I A	1・2前		2			※	○	1	1					※講義・隔年・共同
言語研究法講義 I B	1・2前		2			※	○	1	1					※講義・隔年・共同	
言語研究法講義 II A	1・2後		2			※	○	1	1					※講義・隔年・共同	
言語研究法講義 II B	1・2後		2			※	○	1	1					※講義・隔年・共同	
一般言語学演習 A	1・2前		2			※	○	1						※講義・隔年	
一般言語学演習 B	1・2前		2			※	○	1						※講義・隔年	
一般言語学特別演習 A	1・2後		2			※	○	1						※講義・隔年	
一般言語学特別演習 B	1・2後		2			※	○	1						※講義・隔年	
理論・応用言語学演習 A	1・2前		2			※	○		1					※講義・隔年	
理論・応用言語学演習 B	1・2前		2			※	○		1					※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習 A	1・2後		2			※	○	1						※講義・隔年	
理論・応用言語学特別演習 B	1・2後		2			※	○	1						※講義・隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
プログラム専門科目	歴史・対照言語学演習 A	1・2前		2				○				1					隔年
	歴史・対照言語学演習 B	1・2前		2				○				1					隔年
	歴史・対照言語学特別演習 A	1・2後		2				○				1					隔年
	歴史・対照言語学特別演習 B	1・2後		2				○				1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義 A	1・2前		2			○					1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義 B	1・2前		2			○					1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習 A	1・2後		2					○			1					隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習 B	1・2後		2					○			1					隔年
	人文地理学特別講義	1・2前		2			○					1					隔年
	人文地理学基礎論演習 A	1・2前		2					○			1					隔年
	人文地理学基礎論演習 B	1・2前		2					○			1					隔年
	人文地理学特論演習 A	1・2前		2					○			1					隔年
	人文地理学特論演習 B	1・2前		2					○			1					隔年
	世界地域システム論演習 A	1・2後		2					○			1					隔年
	世界地域システム論演習 B	1・2後		2					○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習 A	1・2後		2					○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習 B	1・2後		2					○			1					隔年
	現代インド地誌学	1・2前		2				○	※			1					※演習・隔年
	条件不利地域の地理学	1・2後		2				○	※			1					※講義・隔年
	経済地理学研究	1・2前		2				○	※			1					※演習・隔年
	農村地理学研究	1・2後		2				○	※			1					※演習・隔年
	自然地理学特別講義	1・2後		2				○				1					隔年
	自然地理学基礎論演習 A	1・2前		2					○			1					隔年
	自然地理学基礎論演習 B	1・2前		2					○			1					隔年
	自然地理学特論演習 A	1・2前		2					○			1					隔年
	自然地理学特論演習 B	1・2前		2					○			1					隔年
	地表変動論演習 A	1・2後		2					○			1					隔年
	地表変動論演習 B	1・2後		2					○			1					隔年
	自然地域形成論演習 A	1・2後		2					○			1					隔年
	自然地域形成論演習 B	1・2後		2					○			1					隔年
	自然地域システム論研究	1・2前		2					○			1					隔年
	地表変動論研究	1・2後		2					○			1					隔年
	地理情報システム学講義	1・2①		2				○				1					隔年
	地理情報システム学演習	1・2④		2					○			1					隔年
	地理学研究法 A	1・2前		2					○			2					共同
	地理学研究法 B	1・2後		2					○			2					共同
	地理学野外実験	1・2前		1						○		2	2				共同
	地理学野外演習	1・2後		2					○			2	2				共同
	日本考古学解析 A	1・2①		2					○			1					隔年
	日本考古学解析 B	1・2①		2					○			1					隔年
	アジア考古学解析	1・2後		2				○				1					隔年
	日本考古学特論	1・2後		2				○				1					隔年
	世界考古学解析 A	1・2④		2					○			1					隔年
	世界考古学解析 B	1・2④		2					○			1					隔年
	考古学広領域講義	1・2後		2				○				1					隔年
	考古文献評論 A	1・2②		2					○			1					隔年
	考古文献評論 B	1・2②		2					○			1					隔年
	考古資料評論	1・2③		2					○			1					隔年
	アジア比較考古学演習 A	1・2③		2					○			1	1				隔年・共同
	アジア比較考古学演習 B	1・2③		2					○			1					隔年
	考古学資料実習 A	1・2①		1						○		2	1				隔年・共同
	考古学資料実習 B	1・2④		1						○		2	1				共同
	考古学資料実習 C	1・2①		1						○		2	1				隔年・共同
総合文化財研究法 I	1・2後		2				○				1					隔年	
総合文化財研究法 II	1・2後		2				○				1					隔年	
総合文化財調査実習 I	1・2前		1						○		1					隔年	
総合文化財調査実習 II	1・2後		1						○		1					隔年	
総合文化財解析演習 I	1・2前		2					○			1					隔年	
総合文化財解析演習 II	1・2後		2					○			1					隔年	
有形文化財研究法 I	1・2前		2					○			1					隔年	
有形文化財研究法 II	1・2前		2					○			1					隔年	
有形文化財解析演習 I	1・2前		2					○			1					隔年	
有形文化財解析演習 II	1・2後		2					○			1					隔年	
有形文化財調査実習 I	1・2前		1						○		1					隔年	
有形文化財調査実習 II	1・2後		1						○		1					隔年	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人文学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム 専門科目	文化財学特殊講義Ⅰ	1・2後		2		○									兼1 隔年
	文化財学特殊講義Ⅱ	1・2後		2		○									兼1 隔年
	特別研究	1～2	4				○		32	22		6			兼3
	小計 (360科目)	—	4	708	0	—			32	23	0	6	0		兼7
合計 (385科目)		—	6	743	0	—			71	55	3	11	0		兼76

学位又は称号 修士 (文学) 学位又は学科の分野 文学関係

### 卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法

### 授 業 期 間 等

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。

修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位
専攻共通科目	2単位以上	
プログラム専門科目	人文学プログラム専門科目	12単位以上 「講義科目」「演習科目、実験・実習科目」から 1科目選択必修
	特別研究	4単位 「必修」 特別研究：4単位
他プログラム専門科目	2単位以上	
人文学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上	
合計	30単位以上	

1 学年の学期区分

2学期 (4ターム)

1 学期の授業期間

15週

1 時限の授業時間

90分

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 心理学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①		1		○			1	1				兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③		1		○								兼5 オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②		2			○		2					兼3 共同・集中 兼2 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1
	小計（15科目）		—	0	20	0	—		7	2	0	0	0	兼44	—
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計（7科目）		—	2	9	0	—	39	26	2	8	0	兼29	—		
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
	小計（3科目）		—	0	6	0	—	32	24	1	3	0	兼4	—	
研究基礎力養成科目	心理学研究法基礎演習A	1②		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法基礎演習B	1④		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法応用演習A	2②		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	心理学研究法応用演習B	2④		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	Academic writing in psychology A	1①		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	Academic writing in psychology B	1③		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	Advanced academic writing in psychology A	2①		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	Advanced academic writing in psychology B	2③		1		○			6	4	1	1		兼1 共同	
	臨床心理学特講 I	1①		2		○			1	2				兼1 共同	
	小計（9科目）		—	0	10	0	—	7	6	1	1	0	兼1	—	
	プログラム専門科目	心理学特講A	1～2前		2		○			6	4	1	1		兼1 集中・隔年
		心理学特講B	1～2後		2		○			6	4	1	1		兼1 集中・隔年
		心理学特講C	1～2前		2		○			6	4	1	1		兼1 集中・隔年
		心理学特講D	1～2後		2		○			6	4	1	1		兼1 集中・隔年
		心理学基礎演習 I	1①		2			○		6	4	1	1		兼1 共同
		心理学基礎演習 II	1②		2			○		6	4	1	1		兼1 共同
		心理学基礎演習 III	1③		2			○		6	4	1	1		兼1 共同
		心理学基礎演習 IV	1④		2			○		6	4	1	1		兼1 共同
		心理学応用演習 I	2①		2			○		6	4	1	1		兼1 共同
心理学応用演習 II		2②		2			○		6	4	1	1		兼1 共同	
心理学応用演習 III		2③		2			○		6	4	1	1		兼1 共同	
心理学応用演習 IV		2④		2			○		6	4	1	1		兼1 共同	
幼児心理学観察演習		1前		1			○		1	1				兼1 集中・共同	
臨床心理学特講 II		1④		2			○			1					
心理療法特講		2①		2			○		1						
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践		1③		2			○		1						
心の健康教育に関する理論と実践	1④		2			○		8	6	1	1		兼1 オムニバス		
心理支援に関する理論と実践（臨床心理面接特講 I）	1後		2			○		1					兼1 集中		
臨床心理面接特講 II	2後		2			○			1				兼1 集中		
教育分野に関する理論と支援の展開	1①		1			○		1	1				兼1 共同		
保健医療分野に関する理論と支援の展開	1後		1			○							兼1 集中		
福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1			○							兼1 隔年・集中		

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 心理学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																										
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		1				○							兼1	隔年・集中																							
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2			○								兼1	隔年・集中																							
	小計 (24科目)	—	0	43	0		—		8	6	1	1	0	兼5	—																								
実践力養成科目	心理的アセスメントに関する理論と実践 (臨床心理査定演習Ⅰ)	1②		2			○			1						共同																							
	臨床心理査定演習Ⅱ	1③		2			○		1	1						共同																							
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1前		2			○		1							集中・共同																							
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1後		2			○		2	2						集中・共同																							
	心理実践実習Ⅳ (臨床心理実習Ⅰ)	2前		2			○		2	2						共同																							
	臨床心理実習Ⅱ	2後		2			○		2	2						共同																							
	心理実践実習Ⅰ	1通		1				○	2	2						共同																							
	心理実践実習Ⅱ	1通		1				○	2	2						共同																							
	心理実践実習Ⅲ	2通		1				○	2	2						共同																							
	心理実践実習Ⅴ	2通		1				○	2	2						共同																							
	心理実践実習A	1通		1				○	2	2						集中・共同																							
	心理実践実習B	1通		1				○	2	2						集中・共同																							
	心理実践実習C	2通		1				○	2	2						共同																							
	心理実践実習D	2通		1				○	2	2						集中・共同																							
	小計 (14科目)	—	0	20	0		—		2	2	0	0	0	0	—																								
	特別研究	1~2	4				○		8	6	1	1		兼1																									
	小計 (48科目)	—	4	73	0		—		8	6	1	1	0	兼5	—																								
合計 (73科目)			—	6	108	0	—		70	50	3	11	0	兼75	—																								
学位又は称号	修士 (心理学)		学位又は学科の分野			文学関係																																	
卒業要件及び履修方法						授業期間等																																	
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院共通科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td>12単位以上</td> <td>                     &lt;心理学先端研究コース&gt;                      研究基礎力養成科目                      心理学研究法基礎演習 A：1単位                      心理学研究法基礎演習 B：1単位                      から1科目以上                      Academic writing in psychology A：1単位                      Academic writing in psychology B：1単位                      から1科目以上                      領域専門科目                      心理学特講 A：2単位                      心理学特講 B：2単位                      心理学特講 C：2単位                      心理学特講 D：2単位                      から1科目以上                      &lt;臨床心理学実践・研究コース&gt;                      研究基礎力養成科目                      臨床心理学特講Ⅰ：2単位                      領域専門科目                      臨床心理学特講Ⅱ：2単位                 </td> </tr> <tr> <td>4単位</td> <td>「必修」 特別研究：4単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>心理学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	1単位以上		持続可能な発展科目	1単位以上		キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上		研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	専攻共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	12単位以上	<心理学先端研究コース> 研究基礎力養成科目 心理学研究法基礎演習 A：1単位 心理学研究法基礎演習 B：1単位 から1科目以上 Academic writing in psychology A：1単位 Academic writing in psychology B：1単位 から1科目以上 領域専門科目 心理学特講 A：2単位 心理学特講 B：2単位 心理学特講 C：2単位 心理学特講 D：2単位 から1科目以上 <臨床心理学実践・研究コース> 研究基礎力養成科目 臨床心理学特講Ⅰ：2単位 領域専門科目 臨床心理学特講Ⅱ：2単位	4単位	「必修」 特別研究：4単位	他プログラム専門科目	2単位以上		心理学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上		合計	30単位以上		1 学年の学期区分	2学期 (4ターム)
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																					
大学院共通科目	1単位以上																																						
持続可能な発展科目	1単位以上																																						
キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																						
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																					
専攻共通科目	2単位以上																																						
プログラム専門科目	12単位以上	<心理学先端研究コース> 研究基礎力養成科目 心理学研究法基礎演習 A：1単位 心理学研究法基礎演習 B：1単位 から1科目以上 Academic writing in psychology A：1単位 Academic writing in psychology B：1単位 から1科目以上 領域専門科目 心理学特講 A：2単位 心理学特講 B：2単位 心理学特講 C：2単位 心理学特講 D：2単位 から1科目以上 <臨床心理学実践・研究コース> 研究基礎力養成科目 臨床心理学特講Ⅰ：2単位 領域専門科目 臨床心理学特講Ⅱ：2単位																																					
	4単位	「必修」 特別研究：4単位																																					
他プログラム専門科目	2単位以上																																						
心理学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上																																						
合計	30単位以上																																						
						1 学期の授業期間	15週																																
						1 時限の授業時間	90分																																

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 法学・政治学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
			1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
			1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
			1・2①		1		○								兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
			1・2③		1		○			1	1				兼5 オムニバス・メディア
			1・2②		2			○							兼3 共同・集中
		ダイバーシティの理解	1・2②		1		○			2					兼2 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1	
	小計（15科目）	—	0	20	0	—			7	2	0	0	0	兼44 —	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
	小計（7科目）	—	2	9	0	—			39	26	2	8	0	兼29 —	
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			32	24	1	3	0	兼4 —
プログラム専門科目	法学・政治学プログラム特別演習Ⅰ	1・2①		2			○		1	1				兼1	
	法学・政治学プログラム特別演習Ⅱ	1・2③		2			○		1	1				兼1	
	憲法理論	1・2②		2		○				1					
	行政法理論	1・2②		2		○			1						
	刑事システム論	1・2②		2		○				1					
	現代憲法論	1・2①		2		○			1					隔年	
	社会変動分析論	1・2②		2		○			1						
	社会構造分析論	1・2①		2		○			1						
	家族支援社会論	1・2①		2		○			1					隔年	
	政治倫理論	1・2①		2		○					1			隔年	
	政策過程論	1・2②		2		○			1					隔年	
	日本政治論	1・2③		2		○			1						
	比較自治体論	1・2前		2		○				1				隔年	
	租税法	1・2前		2		○			1					隔年	
	国際租税法	1・2前		2		○			1					隔年	
	憲法理論演習	1・2③		2			○			1					
	行政法理論演習	1・2④		2			○		1						
	刑事システム論演習	1・2④		2			○			1					
	現代憲法論演習	1・2前		2			○		1					隔年	
	社会変動分析論演習	1・2④		2			○		1						
	社会構造分析論演習	1・2④		2			○		1						
	家族支援社会論演習	1・2④		2			○		1					隔年	
	政治倫理論演習	1・2②		2			○				1			隔年	
	日本政治論演習	1・2②		2			○		1					隔年	
	比較自治体論演習	1・2後		2			○			1				隔年	
	租税法演習	1・2後		2			○		1					隔年	
	国際租税法演習	1・2後		2			○		1					隔年	
不動産法	1・2③		2		○			1							
物件管理法	1・2①		2		○					1					
契約法	1・2①		2		○				1						
経営法務	1・2前		2		○			1					隔年		
経営法務戦略論	1・2前		2		○			1					隔年		

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 法学・政治学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	企業組織法	1・2④		2		○				1					隔年
	企業ファイナンス法	1・2④		2		○				1					隔年
	民事訴訟の理論と実務	1・2②		2		○			1						隔年
	裁判外紛争処理論	1・2②		2		○			1						隔年
	雇用関係法	1・2前		2		○			1						隔年
	不動産法演習	1・2前		2			○		1						隔年
	物件管理法演習	1・2④		2			○					1			隔年
	契約法演習	1・2③		2			○			1					隔年
	経営法務演習	1・2後		2			○			1					隔年
	経営法務戦略論演習	1・2後		2			○			1					隔年
	企業組織法演習	1・2②		2			○			1					隔年
	企業ファイナンス法演習	1・2②		2			○			1					隔年
	民事訴訟の理論と実務演習	1・2③		2			○			1					隔年
	裁判外紛争処理論演習	1・2③		2			○			1					隔年
	雇用関係法演習	1・2後		2			○			1					隔年
	国際法	1・2前		2			○			1					隔年
	国際機構法	1・2前		2			○			1					隔年
	国際政治経済論	1・2②		2			○			1					隔年
	国際刑事政策	1・2④		2			○			1					隔年
	安全保障論	1・2前		2			○							兼1	隔年
	国際政治学	1・2前		2			○							兼1	隔年
	外交論	1・2②		2			○				1				隔年
	国際秩序構築論	1・2後		2			○			1					隔年
	国際関係私法	1・2②		2			○			1					隔年
	比較政治思想論	1・2①		2			○					1			隔年
	日本法概説1	1・2①		2			○					1			隔年
	日本法概説2	1・2③		2			○					1			隔年
	国際刑事法	1・2③		2			○			1					隔年
	国際法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	国際機構法演習	1・2後		2				○		1					隔年
	国際政治経済論演習	1・2④		2				○			1				隔年
	国際刑事政策演習	1・2④		2				○		1					隔年
	安全保障論演習	1・2後		2				○						兼1	隔年
	国際政治学演習	1・2後		2				○						兼1	隔年
	外交論演習	1・2④		2				○			1				隔年
	国際秩序構築論演習	1・2前		2				○		1					隔年
	国際関係私法演習	1・2④		2				○			1				隔年
	比較政治思想論演習	1・2③		2				○				1			隔年
	医療と人権	1・2前		2			○			1					隔年
	医事法制度論	1・2①		2			○			1					隔年
	医事刑法論	1・2①		2			○				1				隔年
医療刑事手続論	1・2①		2			○			1					隔年	
医療労務管理と法	1・2前		2			○			1					隔年	
社会調査論	1・2前		2			○			1					隔年	
医療社会学特論	1・2前		2			○			1					隔年	
精神科医療法制論	1・2後		2			○			1					隔年	
特別研究	1~2		4				○		14	8				兼1	
小計 (79科目)		—	4	156	0	—			14	8	1	2	0	兼1	—
合計 (104科目)		—	6	191	0	—			80	58	4	13	0	兼71	—

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 法学・政治学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士（法学）, 修士（学術）		学位又は学科の分野			法学関係 社会学・社会福祉学関係								

### 卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法

### 授 業 期 間 等

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。

修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1 単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1 単位以上
研究科共通科目	4 単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位
専攻共通科目	2 単位以上	
プログラム専門科目	法学・政治学プログラム専門科目	12 単位以上
	特別研究	4 単位 「必修」 特別研究：4 単位
他プログラム専門科目	2 単位以上	
法学・政治学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4 単位以上	
合計	30 単位以上	

1 学年の学期区分

2学期（4ターム）

1 学期の授業期間

15週

1 時限の授業時間

90分

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 経済学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①		1		○			1	1				兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③		1		○								兼5 オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②		2		○	○		2					兼3 共同・集中 兼2 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1	
		小計（15科目）	—	0	20	0	—			7	2	0	0	0	兼44 —
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
	小計（7科目）	—	2	9	0	—			39	26	2	8	0	兼29 —	
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			32	24	1	3	0	兼4 —
プログラム専門科目	経済学プログラム特別演習Ⅰ	1・2前		2			○		13	8					
	経済学プログラム特別演習Ⅱ	1・2後		2			○		13	8					
	応用ファイナンス	1・2前		2		○				1					
	理論ファイナンス	1・2前		2		○			1						
	金融資本市場分析	1・2後		2		○				1					
	経済数学	1・2後		2		○								兼1	
	日本銀行連携講義1	1・2		2		○			1					兼2 隔年・オムニバス	
	日本銀行連携講義2	1・2		2		○			1					兼2 隔年・オムニバス	
	金融庁連携講義1	1・2		2		○			1					兼2 隔年・共同・オムニバス	
	金融庁連携講義2	1・2		2		○			1					兼2 隔年・共同・オムニバス	
	日本政策投資銀行連携講義1	1・2後		2		○								兼1 隔年	
	日本政策投資銀行連携講義2	1・2後		2		○								兼1 隔年	
	マクロ経済学	1・2②		2		○					1				
	ミクロ経済学	1・2前		2		○				1					
	マクロ金融分析	1・2④		2		○			1						
	計量経済学1	1・2①		2		○			1						
	計量経済学2	1・2③		2		○			1						
	経済統計分析	1・2①		2		○			1						
	経済時系列分析	1・2後		2		○			1						
	労働市場分析	1・2①		2		○			1						
	財政学	1・2①		2		○			1						
	経済戦略論	1・2①		2		○				1					
	地方財政論	1・2②		2		○			1						
	経済情報分析	1・2①		2		○				1					
	公共経済学	1・2④		2		○				1					
	医療経済学	1・2③		2		○			1						
	公共政策論	1・2③		2		○			1						
国際公共政策	1・2①		2		○			1							
応用国際公共政策	1・2①		2		○				1						
開放マクロ経済学	1・2③		2		○			1							
欧米経済史1	1・2④		2		○			1							
欧米経済史2	1・2④		2		○			1							

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 経済学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																								
プログラム専門科目	政治経済学 1	1・2②		2		○									兼1	隔年																					
	政治経済学 2	1・2②		2		○									兼1	隔年																					
	経済学史 1	1・2④		2		○				1						隔年																					
	経済学史 2	1・2④		2		○				1						隔年																					
	エネルギー政策論	1・2		2		○										隔年																					
	経済学特講	1・2①		2		○										兼1																					
	特別研究	1～2		4			○									兼1																					
小計 (38科目)		—	4	76	0	—			13	8	0	1	0		兼8	—																					
合計 (64科目)		—	6	111	0	—			75	53	3	11	0		兼79	—																					
学位又は称号	修士 (経済学), 修士 (学術)		学位又は学科の分野			経済学関係																															
卒業要件及び履修方法						授業期間等																															
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院共通科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大学院共通科目</td> <td>1単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プログラム専門科目</td> <td>12単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プログラム専門科目</td> <td>4単位</td> <td>「必修」 特別研究：4単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	1単位以上		大学院共通科目	1単位以上		研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	専攻共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	12単位以上		プログラム専門科目	4単位	「必修」 特別研究：4単位	他プログラム専門科目	2単位以上		経済学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上		合計	30単位以上		1学年の学期区分	2学期 (4ターム)
						科目区分	要修得単位数	指定科目等																													
						大学院共通科目	1単位以上																														
						大学院共通科目	1単位以上																														
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																			
専攻共通科目	2単位以上																																				
プログラム専門科目	12単位以上																																				
プログラム専門科目	4単位	「必修」 特別研究：4単位																																			
他プログラム専門科目	2単位以上																																				
経済学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上																																				
合計	30単位以上																																				
						1学期の授業期間						15週																									
						1時限の授業時間						90分																									

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 マネジメントプログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①		1		○			1	1				兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③		1		○								兼5 オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②		2		○	○		2					兼3 共同・集中 兼2 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1	
		小計（15科目）	—	0	20	0	—			7	2	0	0	0	兼44 —
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
	小計（7科目）	—	2	9	0	—			39	26	2	8	0	兼29 —	
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			32	24	1	3	0	兼4 —
プログラム専門科目	リサーチ・リテラシー	1・2前	2			○			2	3				兼2 オムニバス	
	イノベーション・マネジメント論	1・2後		2		○				1					
	経営戦略論	1・2前		2		○				1					
	市場戦略論	1・2前		2		○				1					
	サービス経営論	1・2前		2		○				1					
	経営組織論	1・2前		2		○			1						
	CSR論	1・2後		2		○			1						
	マーケティング論	1・2前		2		○				1					
	国際マーケティング戦略論	1・2後		2		○				1					
	経営管理論	1・2後		2		○								兼1	
	組織行動論	1・2後		2		○			1						
	人的資源管理論	1・2前		2		○			1					兼1	
	コスト・マネジメント	1・2後		2		○					1				
	税法コンプレッション	1・2後		2		○			1						
	税法ケーススタディ	1・2前		2		○			1						
	管理会計論	1・2前		2		○					1				
	財務会計論	1・2前		2		○			1						
	会計政策論	1・2後		2		○			1						
	経営情報システム論	1・2前		2		○				1					
	企業とコミュニケーション	1・2後		2		○				1					
	社会心理学特論	1・2後		2		○		※		1				※実験	
	国際関係論	1・2前		2		○			1						
	地域協力論	1・2後		2		○			1						
	異文化コミュニケーション論	1・2前		2		○			1						
	異文化ビジネスコミュニケーション	1・2後		2		○			1						
	フィールドワーク論	1・2後		2		○				1					
	コミュニケーション原論	1・2後		2		○				1					
社会行動データ解析	1・2前		2		○	※			1				※演習		
アントレプレナーシップ	1・2後		2		○								兼1		
情報システム管理学	1・2前		2		○				1						
情報ネットワーク論	1・2後		2		○				1						
公共経営論	1・2前		2		○				1						

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 マネジメントプログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	地域経営論	1・2後		2		○				1					兼1
	地域分析	1・2前		2		○									兼1
	アジア企業論	1・2後		2		○									兼1
	アジアビジネス事情	1・2後		2		○			1						兼1
	ビジネス日本語	1・2前		2		○									兼1
	アジアベンチャービジネス論	1・2後		2		○									兼2
	マネジメント特講 (サステイナビリティ・マネジメント論)	1・2前		2		○						1			
	マネジメント特講 (地域創成論)	1・2後		2		○						1			
	マネジメント特講 (日本の組織と経営)	1・2前		2		○									兼1
	マネジメント特講 (地域活性化)	1・2前		2		○									兼6
特別研究	1～2		4				○		5	7	1	1		兼1	
小計 (42科目)		—	6	82	0	—	—	—	6	8	1	1	0	兼12	—
合計 (68科目)		—	8	117	0	—	—	—	69	51	3	11	0	兼82	—
学位又は称号	修士 (マネジメント), 修士 (学術)		学位又は学科の分野					文学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係							

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 マネジメントプログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																																																																																																																																																																																																								
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手																																																																																																																																																																																																									
卒業要件及び履修方法						授業期間等																																																																																																																																																																																																																
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p>																																																																																																																																																																																																																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td rowspan="2">12単位以上</td> <td>                     「必修」                      リサーチ・リテラシー：2単位                       指導教員と相談の上、以下の①～④の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること                      ① 地域の経済、社会、文化における独立心あるいは起業心とそれを行動に移す能力を有している。                      ② 様々な組織運営に関わる専門的な知識を有している。                      ③ 情報化・グローバル化に対応する交渉能力を有し、ネットワークを構築・運用できる能力を有している。                      ④ アジアの日系企業で活躍する日本型マネジメント能力を有している。                 </td> </tr> <tr> <td> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>イノベーション・マネジメント論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>市場戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営組織論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>CSR論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マーケティング論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>国際マーケティング戦略論</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>組織行動論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>人的資源管理論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コスト・マネジメント</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法コンプレッション</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法ケーススタディ</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>管理会計論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>財務会計論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>会計政策論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>企業とコミュニケーション</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会心理学特論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>国際関係論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域協力論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>異文化コミュニケーション論</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会行動データ解析</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アントレプレナーシップ</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>情報システム管理学</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>情報ネットワーク論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>公共経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域分析</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アジア企業論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアビジネス事情</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>ビジネス日本語</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアベンチャービジネス論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント特講（地域創成論）</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td>特別研究</td> <td>4単位</td> <td>「必修」 特別研究：4単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>マネジメントプログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>													科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	専攻共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	12単位以上	「必修」 リサーチ・リテラシー：2単位  指導教員と相談の上、以下の①～④の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること ① 地域の経済、社会、文化における独立心あるいは起業心とそれを行動に移す能力を有している。 ② 様々な組織運営に関わる専門的な知識を有している。 ③ 情報化・グローバル化に対応する交渉能力を有し、ネットワークを構築・運用できる能力を有している。 ④ アジアの日系企業で活躍する日本型マネジメント能力を有している。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>イノベーション・マネジメント論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>市場戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営組織論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>CSR論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マーケティング論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>国際マーケティング戦略論</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>組織行動論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>人的資源管理論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コスト・マネジメント</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法コンプレッション</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法ケーススタディ</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>管理会計論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>財務会計論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>会計政策論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>企業とコミュニケーション</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会心理学特論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>国際関係論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域協力論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>異文化コミュニケーション論</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会行動データ解析</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アントレプレナーシップ</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>情報システム管理学</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>情報ネットワーク論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>公共経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域分析</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アジア企業論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアビジネス事情</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>ビジネス日本語</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアベンチャービジネス論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント特講（地域創成論）</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	科目名	①	②	③	④	イノベーション・マネジメント論	○				経営戦略論	○				市場戦略論	○				経営組織論				○	CSR論		○			マーケティング論	○				国際マーケティング戦略論			○		組織行動論		○	○		人的資源管理論		○			コスト・マネジメント		○			税法コンプレッション		○			税法ケーススタディ			○		管理会計論		○			財務会計論		○	○		会計政策論		○			企業とコミュニケーション				○	社会心理学特論				○	国際関係論		○			地域協力論	○				異文化コミュニケーション論	○		○		社会行動データ解析				○	アントレプレナーシップ	○				情報システム管理学				○	情報ネットワーク論				○	公共経営論	○				地域経営論	○				地域分析	○				アジア企業論				○	アジアビジネス事情				○	ビジネス日本語				○	アジアベンチャービジネス論				○	マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）		○			マネジメント特講（地域創成論）	○				特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位	他プログラム専門科目	2単位以上		マネジメントプログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上		合計	30単位以上		1 学年の学期区分	2学期（4ターム）
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																																																																																																																																																																																																				
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上																																																																																																																																																																																																																				
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																																																																																																																																																																																																				
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																																																																																																																																																																																																				
専攻共通科目	2単位以上																																																																																																																																																																																																																					
プログラム専門科目	12単位以上	「必修」 リサーチ・リテラシー：2単位  指導教員と相談の上、以下の①～④の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること ① 地域の経済、社会、文化における独立心あるいは起業心とそれを行動に移す能力を有している。 ② 様々な組織運営に関わる専門的な知識を有している。 ③ 情報化・グローバル化に対応する交渉能力を有し、ネットワークを構築・運用できる能力を有している。 ④ アジアの日系企業で活躍する日本型マネジメント能力を有している。																																																																																																																																																																																																																				
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>イノベーション・マネジメント論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>市場戦略論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経営組織論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>CSR論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マーケティング論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>国際マーケティング戦略論</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>組織行動論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>人的資源管理論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>コスト・マネジメント</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法コンプレッション</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>税法ケーススタディ</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>管理会計論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>財務会計論</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>会計政策論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>企業とコミュニケーション</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会心理学特論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>国際関係論</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域協力論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>異文化コミュニケーション論</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会行動データ解析</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アントレプレナーシップ</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>情報システム管理学</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>情報ネットワーク論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>公共経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域経営論</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>地域分析</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>アジア企業論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアビジネス事情</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>ビジネス日本語</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>アジアベンチャービジネス論</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>マネジメント特講（地域創成論）</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	科目名	①	②	③	④	イノベーション・マネジメント論	○				経営戦略論	○				市場戦略論	○				経営組織論				○	CSR論		○			マーケティング論	○				国際マーケティング戦略論			○		組織行動論		○	○		人的資源管理論		○			コスト・マネジメント		○			税法コンプレッション		○			税法ケーススタディ			○		管理会計論		○			財務会計論		○	○		会計政策論		○			企業とコミュニケーション				○	社会心理学特論				○	国際関係論		○			地域協力論	○				異文化コミュニケーション論	○		○		社会行動データ解析				○	アントレプレナーシップ	○				情報システム管理学				○	情報ネットワーク論				○	公共経営論	○				地域経営論	○				地域分析	○				アジア企業論				○	アジアビジネス事情				○	ビジネス日本語				○	アジアベンチャービジネス論				○	マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）		○			マネジメント特講（地域創成論）	○																																													
科目名	①	②	③	④																																																																																																																																																																																																																		
イノベーション・マネジメント論	○																																																																																																																																																																																																																					
経営戦略論	○																																																																																																																																																																																																																					
市場戦略論	○																																																																																																																																																																																																																					
経営組織論				○																																																																																																																																																																																																																		
CSR論		○																																																																																																																																																																																																																				
マーケティング論	○																																																																																																																																																																																																																					
国際マーケティング戦略論			○																																																																																																																																																																																																																			
組織行動論		○	○																																																																																																																																																																																																																			
人的資源管理論		○																																																																																																																																																																																																																				
コスト・マネジメント		○																																																																																																																																																																																																																				
税法コンプレッション		○																																																																																																																																																																																																																				
税法ケーススタディ			○																																																																																																																																																																																																																			
管理会計論		○																																																																																																																																																																																																																				
財務会計論		○	○																																																																																																																																																																																																																			
会計政策論		○																																																																																																																																																																																																																				
企業とコミュニケーション				○																																																																																																																																																																																																																		
社会心理学特論				○																																																																																																																																																																																																																		
国際関係論		○																																																																																																																																																																																																																				
地域協力論	○																																																																																																																																																																																																																					
異文化コミュニケーション論	○		○																																																																																																																																																																																																																			
社会行動データ解析				○																																																																																																																																																																																																																		
アントレプレナーシップ	○																																																																																																																																																																																																																					
情報システム管理学				○																																																																																																																																																																																																																		
情報ネットワーク論				○																																																																																																																																																																																																																		
公共経営論	○																																																																																																																																																																																																																					
地域経営論	○																																																																																																																																																																																																																					
地域分析	○																																																																																																																																																																																																																					
アジア企業論				○																																																																																																																																																																																																																		
アジアビジネス事情				○																																																																																																																																																																																																																		
ビジネス日本語				○																																																																																																																																																																																																																		
アジアベンチャービジネス論				○																																																																																																																																																																																																																		
マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）		○																																																																																																																																																																																																																				
マネジメント特講（地域創成論）	○																																																																																																																																																																																																																					
特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位																																																																																																																																																																																																																				
他プログラム専門科目	2単位以上																																																																																																																																																																																																																					
マネジメントプログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上																																																																																																																																																																																																																					
合計	30単位以上																																																																																																																																																																																																																					
													1 学期の授業期間	15週																																																																																																																																																																																																								
													1 時限の授業時間	90分																																																																																																																																																																																																								

教育課程等の概要															
(人文社会科学専攻 博士課程前期 国際平和共生プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○			1	1				兼3 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2②		1		○			2					兼5 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2①		1		○								兼8 オムニバス・共同（一部） メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2③		1		○			1	1				兼5 オムニバス・メディア
		ダイバーシティの理解	1・2②		2			○							兼3 共同・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1
	小計（15科目）	—	0	20	0	—			7	2	0	0	0	兼44	—
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			18	13	1	4		兼14 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			4	2				兼4	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計（7科目）	—	2	9	0	—			39	26	2	8	0	兼29	—	
専攻共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			16	9	1	1		オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			18	15		1		兼4 オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2		○						1			
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			32	24	1	3	0	兼4	—
プログラム専門科目	Peace and Co-existence A	1・2①	1			○			1	3	1	2		オムニバス	
	Peace and Co-existence B	1・2③		1		○			3	3	1	1		オムニバス	
	Peace and Conflict Research I	1・2①		2		○				1					
	Peace and Conflict Research II	1・2②		2		○				1					
	Conflict Resolution I	1・2③		2		○				1					
	Conflict Resolution II	1・2④		2		○				1					
	Peacebuilding I	1・2③		2		○			1						
	Peacebuilding II	1・2④		2		○			1						
	International Relations	1・2①		2		○						1			
	Hiroshima Peace Studies I	1・2③		2		○			1						
	Hiroshima Peace Studies II	1・2④		2		○			1						
	Hiroshima Peace Heritage I	1・2①		2		○				1					
	Hiroshima Peace Heritage II	1・2②		2		○				1					
	Politics in Japan	1・2③		2		○			1						
	International Politics I	1・2①		2		○			1						
	International Politics II	1・2②		2		○			1						
	International Security I	1・2①		2		○				1					
	International Security II	1・2②		2		○				1					
	International Law and International Institutional Law	1・2①		2		○			1						
	International Ethics I	1・2③		2		○				1					
	International Ethics II	1・2④		2		○				1					
	Law and Human Rights	1・2①		2		○			1						
	Basic Cultural Anthropology I	1・2①		2		○					1				
Basic Cultural Anthropology II	1・2②		2		○			1							
Contemporary Anthropology I	1・2③		2		○					1					
Contemporary Anthropology II	1・2④		2		○			1	1						
Identity and Co-existence	1・2③		2		○							1		兼1	
Peacebuilding Case Studies	1・2④		2		○						1				
Area Studies	1・2後		2		○									兼1	
Development and Culture	1・2後		2		○									兼1	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 国際平和共生プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	特別研究	1～2	4					○			4	6	1			
	小計 (31科目)	—	5	57	0			—			6	6	1	2	0	兼3
合計 (56科目)		—	7	92	0			—			71	51	3	13	0	兼74
学位又は称号	修士 (国際協力学) , 修士 (学術)		学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係										

## 卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法

## 授 業 期 間 等

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。  
修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1 単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1 単位以上
研究科共通科目	4 単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位
専攻共通科目	2 単位以上	
プログラム専門科目	国際平和共生プログラム専門科目	12 単位以上 「必修」 Peace and Co-existence A：1 単位
	特別研究	4 単位 「必修」 特別研究：4 単位
他プログラム専門科目	2 単位以上	
国際平和共生プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4 単位以上	
合計	30 単位以上	

1 学年の学期区分	2学期 (4ターム)
1 学期の授業期間	15週
1 時限の授業時間	90分

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期 国際経済開発プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④	1			○			1	1				兼3	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	1			○			2					兼5	オムニバス・メディア
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	1			○			2					兼4	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①	1			○								兼8	オムニバス・共同(一部)メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③	1			○			1	1				兼5	オムニバス・メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2②	2				○							兼3	共同・集中
		ダイバーシティの理解	1・2②	2			○			2					兼2	オムニバス・共同(一部)・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②	1			○								兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	2			○								兼1	メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②	2			○								兼1	集中
		ストレスマネジメント	1・2②④	2			○								兼1	②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①	2			○								兼3	オムニバス
		MOT入門	1・2①③	1			○								兼1	
		アントレプレナーシップ概論	1・2①	1			○								兼1	
小計(15科目)		—	0	20	0	—	—	—	7	2	0	0	0	兼44	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12	オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②	2			○			18	13	1	4		兼14	オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①	2			○			4	2				兼4		
	未来創造思考(基礎)	1・2②	2			○								兼1		
	国際標準化論	1・2②	1			○								兼1		
	理工系のための経営組織論	1・2②	1			○								兼2		
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②	2			○								兼2		
	小計(7科目)		—	2	9	0	—	—	39	26	2	8	0	兼29	—	
専攻目共通	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①	2			○			16	9	1	1			オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②	2			○			18	15	1	1		兼4	オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③	2			○										
小計(3科目)		—	0	6	0	—	—	32	24	1	3	0	兼4	—		
基礎科目	社会科学のための数理・計量分析	1①	2			○						1				
	調査方法論基礎	1③	2				○							兼1		
小計(2科目)		—	0	4	0	—	—	0	0	0	1	0	兼1	—		
コア科目	開発ミクロ経済学I	1③	2			○			1					兼1		
	開発ミクロ経済学II	1④	2			○			1					兼1		
	開発マクロ経済学I	1③	2			○			1					兼1		
	開発マクロ経済学II	1④	2			○			1					兼1		
	開発計量経済学I	1①	2			○				1				兼1		
	開発計量経済学II	1②	2			○				1				兼1		
	小計(6科目)		—	4	8	0	—	—	2	1	0	0	0	兼3	—	
プログラム専門科目	経済統計分析論	1②	2			○								兼1		
	グローバルガバナンス論	1③	2			○						1		兼1		
	都市経済学	1②	2			○										
	農村開発論	1③	2			○			1							
	技術経営論	1①	2			○				1						
	人的資源開発論	1④	2			○				1						
	公共管理論	1④	2			○			1							
	経営組織論	1③	2			○			1							
	経営戦略論	1①	2			○							1		兼1	
	環境政策論	1③	2			○										
	都市政策論	1④	2			○							1			
	国際協力論	1①	2			○			1							
	労働政策論	1②	2			○			1	1						
	国際金融論	1②	2			○			1							
小計(14科目)		—	0	28	0	—	—	4	2	0	2	0	兼4	—		
特別研究	1~2	4					○		4	2				兼4		
小計(23科目)		—	8	40	0	—	—	4	2	0	3	0	兼6	—		
合計(48科目)			—	10	75	0	—	—	71	51	3	14	0	兼73	—	
学位又は称号	修士(経済学), 修士(経営学), 修士(国際協力学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				経済学関係									

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程前期 国際経済開発プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																												
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																													
卒業要件及び履修方法						授業期間等																																				
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>1 単位以上</td> <td>持続可能な発展科目</td> </tr> <tr> <td>1 単位以上</td> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4 単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2 単位以上</td> <td>「必修」 リサーチメソッド：2 単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td>12 単位以上</td> <td>「必修」 開発計量経済学Ⅰ：2 単位 開発計量経済学Ⅱ：2 単位</td> </tr> <tr> <td>4 単位</td> <td>「必修」 特別研究：4 単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2 単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国際経済開発プログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4 単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30 単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>													科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	1 単位以上	持続可能な発展科目	1 単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	研究科共通科目	4 単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位	専攻共通科目	2 単位以上	「必修」 リサーチメソッド：2 単位	プログラム専門科目	12 単位以上	「必修」 開発計量経済学Ⅰ：2 単位 開発計量経済学Ⅱ：2 単位	4 単位	「必修」 特別研究：4 単位	他プログラム専門科目	2 単位以上		国際経済開発プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4 単位以上		合計	30 単位以上		1 学年の学期区分	2学期（4ターム）
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																								
大学院共通科目	1 単位以上	持続可能な発展科目																																								
	1 単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目																																								
研究科共通科目	4 単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2 単位																																								
専攻共通科目	2 単位以上	「必修」 リサーチメソッド：2 単位																																								
プログラム専門科目	12 単位以上	「必修」 開発計量経済学Ⅰ：2 単位 開発計量経済学Ⅱ：2 単位																																								
	4 単位	「必修」 特別研究：4 単位																																								
他プログラム専門科目	2 単位以上																																									
国際経済開発プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4 単位以上																																									
合計	30 単位以上																																									
													1 学期の授業期間	15週																												
													1 時限の授業時間	90分																												

教育課程等の概要																
(人文社会科学専攻 博士課程前期 人間総合科学プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④	1			○			1	1				兼3	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	1			○			2					兼5	オムニバス・メディア
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	1			○			2					兼4	オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①	1			○								兼8	オムニバス・共同(一部) メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③	1			○			1	1				兼5	オムニバス・メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2②	2				○							兼3	共同・集中
	ダイバーシティの理解	1・2②	1			○			2					兼2	オムニバス・共同(一部)・集中	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②	1			○								兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	2			○								兼1	メディア、②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②	2			○								兼1	集中
		ストレスマネジメント	1・2②④	2			○								兼1	②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①	2			○								兼3	オムニバス
		MOT入門	1・2①③	1			○								兼1	
		アントレプレナーシップ概論	1・2①	1			○								兼1	
小計(15科目)		—	0	20	0				7	2	0	0	0	兼44	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○			21	11	1	4		兼12	オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②	2			○			18	13	1	4		兼14	オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①	2			○			4	2				兼4		
	未来創造思考(基礎)	1・2②	1			○								兼1		
	国際標準化論	1・2②	1			○								兼1		
	理工系のための経営組織論	1・2②	1			○								兼2		
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②	2			○								兼2		
小計(7科目)		—	2	9	0			39	26	2	8	0	兼29	—		
専攻目共通科目	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2			○		16	9	1	1			オムニバス	
	人文社会科学と社会	1・2②		2			○		18	15		1		兼4	オムニバス	
	リサーチメソッド	1①・③		2			○					1				
小計(3科目)		—	0	6	0			32	24	1	3	0	兼4	—		
プログラム専門科目	心身と言語研究プロジェクト	総合科学系演習	1②	2				○	3							
		人間総合科学特論	1~2	4			○		3							集中・共同
		コンピュータと言語研究・教育	1・2④	2			○		2							オムニバス・共同(一部)
		言語構造論	1・2①	2			○		1	2						オムニバス
		言語類型研究	1・2④	2			○		1	2						オムニバス
		心理言語学的アプローチからの第二言語習得	1・2①	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)
		実験言語学	1・2②	2			○			2						オムニバス・共同(一部)
		運動生理・生化学	1・2③	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)
		運動適応学	1・2②	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)
		運動制御学	1・2③	2			○		1	1		1			兼1	オムニバス・共同(一部)
		運動精神科学	1・2④	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)
		認知科学論	1・2①	2			○		1	2						オムニバス・共同(一部)
		比較認知論	1・2④	2			○		1	2						オムニバス・共同(一部)
		環境行動論	1・2①	2			○		1						兼1	オムニバス・共同(一部)
		適応行動論	1・2②	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)
	社会行動論	1・2③	2			○		1	1						オムニバス・共同(一部)	
	BCM(Business Community Management)	1・2後		2		○								兼1		
小計(15科目)		—	2	32	2			11	12	0	1	0	兼3	—		
地域と文化研究プロジェクト	現代哲学	1・2②		2			○		1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	美的感性論	1・2②		2			○		1	1					オムニバス・共同(一部)	
	文化哲学	1・2③		2			○		1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	比較芸術論	1・2②		2			○		1	1					共同	
	実践倫理学	1・2④		2			○		1	1				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	比較宗教思想史	1・2③		2			○		2	2					オムニバス・共同(一部)	
	マイノリティ文化思想	1・2③		2			○		2	2					オムニバス・共同(一部)	
	日本地域研究	1・2②		2			○		2	2					共同	
	日本文藝社会研究	1・2①		2			○		2	2					共同	
	アジア文化論(現代文化)	1・2③		2			○		2	2					共同	
	アジア文化論(表象文化)	1・2④		2			○		1	1					共同	
	アジア文化論(伝統文化)	1・2②		2			○		1	1					集中・共同	
ヨーロッパ社会論	1・2①		2			○		1	1		1			オムニバス・共同(一部)		
ヨーロッパ文化論	1・2④		2			○		1		1				オムニバス・共同(一部)		
欧米地域研究	1・2②		2			○			2					オムニバス・共同(一部)		
アジア地域研究	1・2①		2			○		2						オムニバス・共同(一部)		
英米社会論(国際関係)	1・2②		2			○							兼1	集中		
英米文化論	1・2③		2			○			2					共同		
英米文藝社会研究	1・2①		2			○			2					共同		

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(人文社会科学専攻 博士課程前期 人間総合科学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																							
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																								
プログラム専門科目	ヒロシマ平和学	1・2③		2		○			2						共同																						
	小計 (20科目)	—	0	34	0	—			5	12	1	0	0	兼2	—																						
	宗教学	1・2③		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)																						
	宗教聖典論	1・2④		2		○			1	1					共同																						
	社会人類学	1・2③		2		○			1	1					共同																						
	民族誌論	1・2②		2		○			1	1					共同																						
	科学・技術・社会論	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同 (一部)																						
	社会文化史	1・2③		2		○			2						共同																						
	教育文化史	1・2③		2		○			2						共同																						
	異文化理解	1・2①		2		○			1	1					共同																						
	持続可能な観光発展論	1・2②		2		○			1		1				オムニバス・共同 (一部)																						
	文化観光論	1・2③		2		○			1		1				オムニバス・共同 (一部)																						
	社会動態論	1・2④		2		○			1	1					共同																						
	社会構造論	1・2③		2		○			1	1					共同																						
	社会学研究法	1・2①		2		○				2					共同																						
	福祉社会論	1・2②		2		○				2					オムニバス・共同 (一部)																						
	世界経済体制論	1・2③		2		○				2					共同																						
	産業システム論	1・2④		2		○				2					共同																						
	農村環境社会論	1・2③		2		○			1	1					共同																						
	持続可能地域論	1・2②		2		○			1	1					共同																						
地域情報論	1・2②		2		○				2					共同																							
小計 (19科目)	—	0	38	0	—				9	12	1	0	0	0	—																						
生命機能化学	1・2③		2		※	○								兼3 ※講義・共同																							
生態系循環論	1・2③		2		○									兼3 オムニバス																							
情報システム論	1・2③		2		○									兼2 オムニバス																							
地球表層物質輸送論	1・2②		2		○									兼2 オムニバス																							
自然環境リスク論	1・2②		2		○									兼7 オムニバス																							
気候変動災害論	1・2②		2		○									兼2 オムニバス																							
生物多様性科学	1・2②		2		○									兼2 オムニバス																							
特別研究	1~2	4				○		24	35	2				兼3																							
小計 (64科目)	—	6	124	2	—				25	36	2	1	0	兼22	—																						
合計 (89科目)		—	8	159	2	—			81	77	5	12	0	兼90	—																						
学位又は称号	修士 (学術)		学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係																															
卒業要件及び履修方法						授業期間等																															
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>持続可能な発展科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> <td>1単位以上</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td>人間総合科学プログラム専門科目</td> <td>12単位以上</td> <td>「必修」 総合科学系演習：2単位  「選択必修」 所属プロジェクト提供専門科目：6単位以上 所属プロジェクト以外の専門科目：4単位以上(人間総合科学特論を履修した場合は、所属プロジェクト以外の専門科目の単位とする。)</td> </tr> <tr> <td>特別研究</td> <td>4単位</td> <td>「必修」 特別研究：4単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人間総合科学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上	研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	専攻共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	人間総合科学プログラム専門科目	12単位以上	「必修」 総合科学系演習：2単位  「選択必修」 所属プロジェクト提供専門科目：6単位以上 所属プロジェクト以外の専門科目：4単位以上(人間総合科学特論を履修した場合は、所属プロジェクト以外の専門科目の単位とする。)	特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位	他プログラム専門科目	2単位以上		人間総合科学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上		合計	30単位以上		1学年の学期区分	2学期 (4ターム)
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上																																			
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上																																			
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																			
専攻共通科目	2単位以上																																				
プログラム専門科目	人間総合科学プログラム専門科目	12単位以上	「必修」 総合科学系演習：2単位  「選択必修」 所属プロジェクト提供専門科目：6単位以上 所属プロジェクト以外の専門科目：4単位以上(人間総合科学特論を履修した場合は、所属プロジェクト以外の専門科目の単位とする。)																																		
	特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位																																		
他プログラム専門科目	2単位以上																																				
人間総合科学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上																																				
合計	30単位以上																																				
1学期の授業期間						15週																															
1時限の授業時間						90分																															

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期 人文学プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1	オムニバス・共同（一部）
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○							兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○							兼9	
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2						○					兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1					○						兼1	
小計（12科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼17	—	
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4	共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2				○		5			1		兼5	共同
	小計（2科目）	—	0	4	0	—	—	—	10	1	0	1	0	兼8	—	
門ラブ科目口目専	特別研究	1～3	6					○		30	20				兼2	—
	小計（1科目）	—	6	0	0	—	—	—	30	20	0	0	0	兼2	—	
合計（15科目）		—	6	20	0	—	—	—	38	23	0	1	0	兼27	—	
学位又は称号	博士（文学）			学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1 学年の学期区分		2 学期（4ターム）							
修了要件							1 学期の授業期間		15週							
修了要件							1 時限の授業時間		90分							
科目区分	要修得単位数	指定科目等														
大学院共通科目	1 単位以上	持続可能な発展科目														
	1 単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目														
研究科共通科目	2 単位以上															
プログラム専門科目	6 単位	特別研究		「必修」特別研究：6 単位												
合計	10 単位以上															

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期 心理学プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアメイキング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1 集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2 オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○							兼1
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○							兼9 オムニバス・共同（一部）
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○						兼1
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2											兼1
	事業創造概論	1・2・3①		1					○						兼1
小計（12科目）		—	0	16	0			—	0	2	0	0	0	兼17	—
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4 共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同
小計（2科目）		—	0	4	0			—	10	1	0	1	0	兼8	—
門ラプ科目ロ目専グ	特別研究	1～3	6					○		8	6	1			兼1
	小計（1科目）		6	0	0			—	8	6	1	0	0		兼1
合計（15科目）		—	6	20	0			—	9	9	1	0	0	兼26	—
学位又は称号	博士（心理学）			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2学期（4ターム）					
修了要件								1学期の授業期間		15週					
修了要件								1時限の授業時間		90分					
科目区分		要修得単位数	指定科目等												
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		2単位以上													
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位												
合計		10単位以上													

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期 法学・政治学プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1 集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2 オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1			○								兼1
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1			○								兼9 オムニバス・共同（一部）
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1
	イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○						兼1
	事業創造概論	1・2・3①		1				○							兼1
小計（12科目）		—	0	16	0			—	0	2	0	0	0	兼17	—
共研目 通 究 科 科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4 共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同
小計（2科目）		—	0	4	0			—	10	1	0	1	0	兼8	—
門 ラ ブ 科 目 ロ ム 目 専 グ	特別研究	1～3	6					○		12	9				兼1
	小計（1科目）		6	0	0			—	12	9	0	0	0		兼1
合計（15科目）		—	6	20	0			—	19	11	0	1	0	兼26	—
学位又は称号	博士（法学）, 博士（学術）		学位又は学科の分野			法学関係 社会学・社会福祉学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件						1学年の学期区分		2学期（4ターム）							
大学院共通科目		持続可能な発展科目	要修得単位数 1単位以上	指定科目等		1学期の授業期間		15週							
大学院共通科目		キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上			1時限の授業時間		90分							
研究科共通科目			2単位以上												
プログラム専門科目		特別研究	6単位	「必修」 特別研究：6単位											
合計			10単位以上												

教 育 課 程 等 の 概 要

(人文社会科学専攻 博士課程後期 経済学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアメイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○						兼1 集中	
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2				兼2 オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○						兼1	
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○						兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○						兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○						兼9 オムニバス・共同(一部)	
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○						兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○						兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○					兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2										兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1					○					兼1	
小計(12科目)		—	0	16	0			—	0	2	0	0	0	兼17	—
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4 共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同
小計(2科目)		—	0	4	0			—	10	1	0	1	0	兼8	—
門ラブ科目目専グ	特別研究	1~3	6					○		13	8				
	小計(1科目)		6	0	0			—	13	8	0	0	0	0	—
合計(15科目)		—	6	20	0			—	21	11	0	1	0	兼25	—
学位又は称号	博士(経済学), 博士(学術)		学位又は学科の分野			経済学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分						2学期(4ターム)			
修了要件						1学年の授業期間						15週			
科目区分						1時限の授業時間						90分			
要修得単位数		指定科目等													
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		2単位以上													
プログラム専門科目	特別研究	6単位				「必修」特別研究: 6単位									
合計		10単位以上													

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期 マネジメントプログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1	
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○							兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○							兼9	オムニバス・共同（一部）
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○						兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1					○						兼1	
小計（12科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	0	2	0	0	0	兼17	—	
共研究 目 通 究 科 科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4	共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5				1		兼5	共同
小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	10	1	0	1	0	兼8	—	
門 ラ ブ 科 目 ロ ム 目 専 グ	特別研究	1～3	6					○	4	6					兼1	
	小計（1科目）	—	12	0	8	—	—	—	4	6	0	0	0	兼1	—	
合計（15科目）		—	12	20	8	—	—	—	14	8	0	1	0	兼25	—	
学位又は称号	博士（マネジメント）、博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係、 経済学関係、 社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。																
修了要件																
科目区分		要修得単位数	指定科目等			1学年の学期区分		2学期（4ターム）								
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上				1学期の授業期間		15週								
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上														
研究科共通科目		2単位以上				1時限の授業時間		90分								
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位													
合計		10単位以上														

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人文社会科学専攻 博士課程後期 国際平和共生プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアメイキング学生セミナー	1・2・3②③		1				○						兼1 集中		
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○					兼1 集中			
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2			兼2 オムニバス			
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2			○						兼1			
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○						兼1			
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1			○						兼1			
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1			○						兼9 オムニバス・共同（一部）			
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○						兼1			
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○						兼1			
	イノベーション演習	1・2・3③		2				○					兼1			
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○				兼1			
	事業創造概論	1・2・3①		1				○					兼1			
小計（12科目）			0	16	0				0	2	0	0	0	兼17	—	
共通研究科目	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1			兼4 共同		
	人間社会科学講義	1・2・3②		2			○		5			1		兼5 共同		
小計（2科目）			0	4	0				10	1	0	1	0	兼8	—	
門ラプ科目ロ目専グ	特別研究	1～3	6					○	4	6	1					
	小計（1科目）	—	6	0	0				4	6	1	0	0	0	—	
合計（15科目）			6	20	0				13	8	1	1	0	兼25	—	
学位又は称号	博士（国際協力学）, 博士（学術）		学位又は学科の分野					文学関係 法学関係 社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件							1 学年の学期区分							2 学期（4ターム）		
科目区分		要修得単位数	指定科目等				1 学期の授業期間							15週		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上					1 時限の授業時間							90分		
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上														
研究科共通科目		2単位以上														
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位													
合計		10単位以上														

教 育 課 程 等 の 概 要															
(人文社会科学専攻 博士課程後期 国際経済開発プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1 集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2 オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1			○								兼1
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1			○								兼9 オムニバス・共同（一部）
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1
	イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2				○							兼1
	事業創造概論	1・2・3①		1				○							兼1
小計（12科目）		—	0	16	0		—		0	2	0	0	0	兼17	—
共研目 通 究 科 科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		6	1				兼4 共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		5			1			兼5 共同
	小計（2科目）		0	4	0		—		10	1	0	1	0	兼8	—
門 ラ ブ 科 目 ロ ク 目 専 グ	特別研究	1～3	6					○		4	2				兼4
	小計（1科目）		6	0	0		—		4	2	0	0	0	兼4	—
合計（15科目）			6	20	0		—		14	5	0	1	0	兼27	—
学位又は称号	博士（経済学）, 博士（経営学）, 博士（国際協力学）, 博士（学術）			学位又は学科の分野				経済学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2学期（4ターム）					
修了要件								1学期の授業期間		15週					
修了要件								1時限の授業時間		90分					
科目区分	要修得単位数	指定科目等													
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上													
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		2単位以上													
プログラム専門科目	特別研究	6単位						「必修」特別研究：6単位							
合計		10単位以上													

教 育 課 程 等 の 概 要

（人文社会科学専攻 博士課程後期 人間総合科学プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアメイキング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○			2					兼2	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④			2			○							兼1	オムニバス・共同（一部）
	パターン認識と機械学習	1・2・3②			2			○							兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②			1			○							兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④			1			○							兼9	
	リーダーシップ手法	1・2・3①			1			○							兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④			1			○							兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③			2				○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後			2				○						兼1	
	事業創造概論	1・2・3①			1			○							兼1	
小計（12科目）	—	—	0	16	0			—	0	2	0	0	0	0	兼17	
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④			2			○		6	1				兼4	共同
	人間社会科学講究	1・2・3②			2			○		5			1		兼5	共同
	小計（2科目）	—	0	4	0			—	10	1	0	1	0		兼8	—
門ラプ科目目専グ	特別研究	1～3	6					○	24	35	2				兼3	
	小計（1科目）	—	6	0	0			—	24	35	2	0	0		兼3	—
合計（15科目）		—	6	20	0			—	32	38	2	1	0		兼28	—
学位又は称号	博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分		2学期（4ターム）								
修了要件						1学期の授業期間		15週								
科目区分						1時限の授業時間		90分								
要修得単位数		指定科目等														
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上														
大学院共通科目	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上														
研究科共通科目		2単位以上														
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位													
合計		10単位以上														

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期 教師教育デザイン学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○								兼5 オムニバス
			1・2②		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2④		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
			1・2①		1		○			3					兼5 オムニバス・共同(一部) メディア
			1・2③		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2②		2			○							兼3 共同・集中
	キャリア開発・ データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1
	小計(15科目)		—	0	20	0	—		4	1	0	0	0	兼48	—
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			5	1	1			兼42 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			4	2	1			兼43 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			1					兼9	
	未来創造思考(基礎)	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計(7科目)		—	2	9	0	—		7	3	2	0	0	兼92	—	
専攻共通科目	教育科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			5	1				オムニバス	
	教育科学と社会	1・2②		2		○			7	2				オムニバス	
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③		2		○					1				
	Religious culture in public education	1・2④		2		○					1				
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③		2		○				1					
	日本の教育開発経験	1・2③		2		○			4	4				オムニバス	
小計(6科目)		—	0	12	0	—		9	4	2	0	0	0	—	
プログラム専門科目 基幹領域	学習開発学特別研究	1~2		4			○		3	3					
	カリキュラム開発特別研究	1~2		4			○		4	3					
	特別支援教育学特別研究	1~2		4			○		2	3	2				
	自然システム教育学特別研究A	1~2		4			○		3	4					
	自然システム教育学特別研究B	1~2		4			○		1	2					
	数学教育学特別研究A	1~2		4			○		3		1				
	数学教育学特別研究B	1~2		4			○		1	1					
	技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A	1~2		4			○		1	2					
	技術・情報教育学特別研究(技術・工業)B	1~2		4			○			1					
	技術・情報教育学特別研究(情報)A	1~2		4			○		2	1					
	技術・情報教育学特別研究(情報)B	1~2		4			○		1						
	社会認識教育学特別研究(社会・地理歴史)A	1~2		4			○		1	1					
	社会認識教育学特別研究(社会・地理歴史)B	1~2		4			○		1						
	社会認識教育学特別研究(社会・公民)A	1~2		4			○		1		2				
	社会認識教育学特別研究(社会・公民)B	1~2		4			○		1	1					
	国語文化教育学特別研究A	1~2		4			○		2	1				兼1	
	国語文化教育学特別研究B	1~2		4			○		2						
	英語教育学特別研究A	1~2		4			○		1	1					
	英語教育学特別研究B	1~2		4			○		1	1					
	健康スポーツ教育学特別研究A	1~2		4			○		3	2					
	健康スポーツ教育学特別研究B	1~2		4			○		1	1					
	人間生活教育学特別研究A	1~2		4			○		2	3					
	人間生活教育学特別研究B	1~2		4			○		1						
	音楽教育学特別研究A	1~2		4			○		2	1					
	音楽教育学特別研究B	1~2		4			○			1					
	造形芸術教育学特別研究A	1~2		4			○		3	1					
	造形芸術教育学特別研究B	1~2		4			○			2					
小計(27科目)		—	0	108	0	—		43	38	5	0	0	兼1	—	

教育課程等の概要														
(教育科学専攻 博士課程前期 教師教育デザイン学プログラム)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学習空間デザイン科目群	教室環境デザイン基礎研究	1①		2		○			1					
	教室環境デザイン発展研究	1③		2			○			1				
	人間関係(コミュニケーション)デザイン基礎研究a	1①		2		○			1					
	人間関係(コミュニケーション)デザイン基礎研究b	1②		2		○				1				
	人間関係(コミュニケーション)デザイン発展研究a	1③		2			○		1					
	人間関係(コミュニケーション)デザイン発展研究b	1④		2			○			1				
	I C T空間デザイン基礎研究	1②		2		○			1		1			
	I C T空間デザイン発展研究	1④		2			○		1					
	ラボラトリーラーニングデザイン研究(理科)	2前		2				○	1	2				
	フィールドラーニングデザイン研究(理科)	2前		2				○	2	2				
小計(10科目)	—	0	20	0	—	—	—	6	6	2	0	0	0	—
カリキュラムデザイン科目群	学習開発学基礎研究	1①		2		○			1	3				
	学習開発学発展研究	1③		2			○		2					兼1
	学習開発学特論	1①		2		○			5	5	2	1		オムニバス
	教科課程デザイン基礎研究 a	1①		2		○			3					オムニバス
	教科課程デザイン基礎研究 b	1①		2		○				1				
	教科課程デザイン基礎研究 c	1①		2		○			1					
	教科課程デザイン発展研究 a	1③		2			○		3					
	教科課程デザイン発展研究 b	1③		2			○			1				
	指導・評価法デザイン基礎研究	1①又は②		2		○			5	4				
	指導・評価法デザイン発展研究	1③又は④		2			○		5	4				
	学力・コンピテンシーデザイン基礎研究	1①又は②		2		○			2	1				
	学力・コンピテンシーデザイン発展研究	1③又は④		2			○		2	1				
	比較カリキュラムデザイン基礎研究	1①又は②		2		○			2	1				
	比較カリキュラムデザイン発展研究	1③又は④		2			○		2	1				
カリキュラムデザイン史基礎研究	1②		2		○				1					
カリキュラムデザイン史発展研究	1④		2			○			1					
小計(16科目)	—	0	32	0	—	—	—	17	15	2	1	0	兼1	—
プログラム専門科目 展開領域	子どもと学習材デザイン基礎研究 a	1①		2		○				2				兼1
	子どもと学習材デザイン基礎研究 b	1①		2		○				1				
	子どもと学習材デザイン基礎研究 c	1①		2		○				1				
	子どもと学習材デザイン発展研究 a	1③		2			○			2				兼1
	子どもと学習材デザイン発展研究 b	1③		2			○			1				
	STEMと学習材デザイン基礎研究(理科) a	1①		2		○			1					
	STEMと学習材デザイン基礎研究(理科) b	1②		2		○				1				
	STEMと学習材デザイン基礎研究(数学)	1①		2		○			1					
	STEMと学習材デザイン基礎研究(情報)	1①		2		○			1					
	STEMと学習材デザイン発展研究(理科) a	1③		2			○		1					
	STEMと学習材デザイン発展研究(理科) b	1④		2			○			1				
	STEMと学習材デザイン発展研究(情報)	1③		2			○		1					
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) a	1①		2		○			1					
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) b	1②		2		○				1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(技術・工業)	1②		2		○				1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(社会・地理歴史)	1①		2		○				1				
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1②		2		○				1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) a	1③		2			○		1					
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) b	1④		2			○			1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(技術・工業)	1④		2			○			1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(社会・地理歴史)	1③		2			○			1				
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(家庭)	1④		2			○			1				
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(理科) a	1①		2		○			1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(数学) a	1①		2		○			1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(数学) b	1②		2		○			1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(技術・工業)	1②		2		○				1				
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(社会・公民)	1①		2		○					1			
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1①		2		○			1					
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(美術)	1①		2		○			1					
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(理科) a	1③		2			○		1					
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(技術・工業)	1④		2			○			1				
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(社会・公民)	1③		2			○				1			
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(家庭)	1③		2			○		1			1		
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(美術)	1③		2			○		1					
ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究(技術・工業)	1①		2		○			1						
ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究(情報)	1②		2		○				1					
ものづくり教育と学習材デザイン発展研究(技術・工業)	1③		2			○		1						
ものづくり教育と学習材デザイン発展研究(情報)	1④		2			○			1					

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期 教師教育デザイン学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開領域 プログラム専門科目	社会・生活と学習材デザイン基礎研究(社会・公民)	1②		2		○			1						
	社会・生活と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1①		2		○			1						
	社会・生活と学習材デザイン発展研究(社会・公民)	1④		2			○		1						
	社会・生活と学習材デザイン発展研究(家庭)	1③		2			○		1						
	創造性と学習材デザイン基礎研究(社会・公民)	1①		2		○				1					
	創造性と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1②		2		○				1					
	創造性と学習材デザイン基礎研究(音楽)	1①		2		○				1					
	創造性と学習材デザイン基礎研究(美術)	1②		2		○				1					
	創造性と学習材デザイン発展研究(社会・公民)	1③		2			○				1				
	創造性と学習材デザイン発展研究(家庭)	1④		2			○				1				
	創造性と学習材デザイン発展研究(音楽)	1③		2			○				1				
	創造性と学習材デザイン発展研究(美術)	1④		2			○				1				
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(国語)	1②		2			○				1				
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(英語)	1①		2			○				1				
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(音楽)	1②		2			○			1					
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(国語)	1④		2				○				1			
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(英語)	1③		2				○				1			
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究(音楽)	1④		2				○				1			
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究(社会・地理歴史)	1①		2			○				1				
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究(国語)	1①		2			○				1				
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究(社会・地理歴史)	1③		2				○				1			
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究(国語)	1③		2				○				1			
	表象・文化と学習材デザイン基礎研究(国語)	1②		2			○						1		
	表象・文化と学習材デザイン発展研究(国語)	1④		2				○						1	
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(健康スポーツ)a	1①		2			○				1	1			
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(健康スポーツ)b	1②		2			○				1				
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(美術)	1①		2			○				1				
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(健康スポーツ)a	1③		2				○			1	1			
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(健康スポーツ)b	1④		2				○			1				
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(美術)	1③		2				○				1			
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科)a	1②		2			○					1			
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科)b	1①		2			○					1			
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(家庭)	1①		2			○					1			
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科)a	1④		2				○				1			
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科)b	1③		2				○				1			
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(家庭)	1③		2				○				1			
	表現と学習材デザイン基礎研究(国語)	1①		2			○				1				
	表現と学習材デザイン基礎研究(音楽)	1①		2			○				1				
	表現と学習材デザイン基礎研究(美術)	1②		2			○				1				
	表現と学習材デザイン発展研究(国語)	1③		2				○				1			
	表現と学習材デザイン発展研究(音楽)	1③		2				○				1			
	表現と学習材デザイン発展研究(美術)	1④		2				○				1			
	小計(80科目)		—	0	160	0	—	—	—	22	19	2	0	0	兼2
	教育支援専門職デザイン基礎研究	1①		2			○			2	3				
	教育支援専門職デザイン発展研究	1③		2				○		2	3				
教師の成長・キャリアデザイン基礎研究	1①		2			○				1					
教師の成長・キャリアデザイン発展研究	1③		2				○			1					
教職課程・現職研修カリキュラムデザイン基礎研究	1②		2			○			1						
教職課程・現職研修カリキュラムデザイン発展研究	1④		2				○		1						
教師教育プラクティカム基礎研究	1①		2			○				1					
教師教育プラクティカム発展研究	1③		2				○		1	1					
実習指導・授業研究デザイン基礎研究	1②		2			○				1					
実習指導・授業研究デザイン発展研究	1④		2				○			1					
小計(10科目)		—	0	20	0	—	—	—	4	5	0	0	0	0	
小計(116科目)		—	0	232	0	—	—	—	43	36	5	1	0	兼2	
特別支援教育学特論	1②		2			○			1						
特別支援教育実践研究	1前		2				○		2	3	2	1			
発達障害指導法特論	1③		2			○			1			1			
コミュニケーション障害指導法特論	1③		2			○			1						
重複障害指導法特論	1②		2			○					1				
視覚障害指導法特論	1①		2			○					1				
視覚障害学演習	1③		2				○			1	1				
視覚障害心理学特論	1②		2			○				1					
聴覚障害指導法特論	1②		2			○				1					
聴覚障害学演習	1④		2				○			1					
聴覚障害心理学特論	1①		2			○				1					

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(教育科学専攻 博士課程前期 教師教育デザイン学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別支援専修免許科目	知的障害指導法特論	1①		2		○			1	1					
	知的障害学演習	1④		2			○		1						
	知的障害心理学特論	1①		2		○			1						
	肢体不自由指導法特論	1①		2		○					1				
	肢体不自由心理学特論	1②		2		○					1				
	病弱教育特論	1③		2		○					1				
	病弱生理・病理特論	1前		2		○					1				
	特別支援教育ファシリテーション論	1通		2		○				1					
	小計 (19科目)	—	0	38	0	—	—	—	2	3	2	1	0	0	—
	学校心理士資格科目	学校心理学	1④		2		○			1	2				兼1
学習支援論		1①		2		○									
学校臨床心理学		1③		2		○			1						
心理教育的アセスメント演習		1②		2			○		1						
学校カウンセリング論演習		1④		2			○		1						
生涯キャリア形成支援論		1②		2		○				1					
知識構成論		1④		2		○			1						
小計 (7科目)		—	0	14	0	—	—	—	2	3	0	0	0	兼2	
小計 (169科目)	—	0	392	0	—	—	—	43	36	5	1	0	兼3		
合計 (197科目)		—	2	433	0	—	—	—	51	42	7	1	0	兼139	

学位又は称号	修士 (教育学), 修士 (教育心理学), 修士 (学術)	学位又は学科の分野	教育学・保育学関係
--------	-------------------------------	-----------	-----------

**卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法**

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。  
修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位
専攻共通科目	2単位以上	
プログラム専門科目	教師教育デザイン学プログラム専門科目	12単位以上
	基幹領域	4単位 「選択必修」 学習開発学特別研究:4単位 カリキュラム開発特別研究:4単位 特別支援教育学特別研究:4単位 自然システム教育学特別研究 A:4単位 自然システム教育学特別研究 B:4単位 数学教育学特別研究 A:4単位 数学教育学特別研究 B:4単位 技術・情報教育学特別研究 (技術・工業) A:4単位 技術・情報教育学特別研究 (技術・工業) B:4単位 技術・情報教育学特別研究 (情報) A:4単位 技術・情報教育学特別研究 (情報) B:4単位 社会認識教育学特別研究 (社会・地理歴史) A:4単位 社会認識教育学特別研究 (社会・地理歴史) B:4単位 社会認識教育学特別研究 (社会・公民) A:4単位 社会認識教育学特別研究 (社会・公民) B:4単位 国語文化教育学特別研究 A:4単位 国語文化教育学特別研究 B:4単位 英語教育学特別研究 A:4単位 英語教育学特別研究 B:4単位 健康スポーツ教育学特別研究 A:4単位 健康スポーツ教育学特別研究 B:4単位 人間生活教育学特別研究 A:4単位 人間生活教育学特別研究 B:4単位 音楽教育学特別研究 A:4単位 音楽教育学特別研究 B:4単位 造形芸術教育学特別研究 A:4単位 造形芸術教育学特別研究 B:4単位 から1科目
他プログラム専門科目	2単位以上	
教師教育デザイン学プログラム専門科目または他プログラム専門科目	4単位以上	
合計	30単位以上	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1学年の学期区分		2学期 (4ターム)	
1学期の授業期間		15週	
1時限の授業時間		90分	

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期 教育学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○								兼5 オムニバス
			1・2②		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2④		1		○		2						兼4 オムニバス・メディア
			1・2①		1		○		3						兼5 オムニバス・共同（一部） メディア
			1・2③		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2②		2			○							兼3 共同・集中
			1・2②		1		○			1					兼3 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・ データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1	
小計（15科目）		—	0	20	0	—		4	1	0	0	0	兼48	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			5	1	1			兼42 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			4	2	1			兼43 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			1					兼9	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計（7科目）		—	2	9	0	—		7	3	2	0	0	兼92	—	
専攻共通科目	教育科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			5	1				オムニバス	
	教育科学と社会	1・2②		2		○			7	2				オムニバス	
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③		2		○					1				
	Religious culture in public education	1・2④		2		○					1				
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③		2		○				1					
	日本の教育開発経験	1・2③		2		○			4	4				オムニバス	
	小計（6科目）		—	0	12	0	—		9	4	2	0	0	—	
プログラム専門科目	教育学コース	教育哲学特講 I	1②		1		○			1					
		教育哲学特講 II	1②		1		○			1					
		日本東洋教育史特講 I	1①		1		○				1				
		日本東洋教育史特講 II	1①		1		○				1				
		西洋教育史特講 I	1①		1		○					1			
		西洋教育史特講 II	1①		1		○					1			
		教育社会学特講 I	1③		1		○			1					
		教育社会学特講 II	1③		1		○			1					
		教育方法学特講 I	1②		1		○					1			
		教育方法学特講 II	1②		1		○					1			
		社会教育学特講 I	1②		1		○					1			
		社会教育学特講 II	1②		1		○					1			
		教育行財政学特講 I	1③		1		○					1			
		教育行財政学特講 II	1③		1		○					1			
		比較国際教育学特講 I	1①		1		○			1					
		比較国際教育学特講 II	1①		1		○			1					
		教育経営学特講 I	1②		1		○					1			
		教育経営学特講 II	1②		1		○					1			
		幼児教育学特講 I	1④		1		○					1			
		幼児教育学特講 II	1④		1		○					1			
		異文化間理解の社会理論と実践特講 I	1②		1		○					1			
		異文化間理解の社会理論と実践特講 II	1②		1		○					1			
		教育哲学演習 I	1④		1			○		1					
教育哲学演習 II	1④		1			○		1							
日本東洋教育史演習 I	1③		1			○		1							
日本東洋教育史演習 II	1③		1			○		1							
西洋教育史演習 I	1③		1			○				1					
西洋教育史演習 II	1③		1			○				1					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育科学専攻 博士課程前期 教育学プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教育学コース	教育社会学演習 I	1④		1			○		1							
	教育社会学演習 II	1④		1			○		1							
	教育方法学演習 I	1③		1			○			1						
	教育方法学演習 II	1③		1			○			1						
	社会教育学演習 I	1③		1			○			1						
	社会教育学演習 II	1③		1			○			1						
	教育行財政学演習 I	1②		1			○			1						
	教育行財政学演習 II	1②		1			○			1						
	比較国際教育学演習 I	1③		1			○		1							
	比較国際教育学演習 II	1③		1			○		1							
	教育経営学演習 I	1③		1			○		1							
	教育経営学演習 II	1③		1			○		1							
	幼児教育学演習 I	1①		1			○			1						
	幼児教育学演習 II	1①		1			○			1						
	教育調査統計学演習	1前		2			○			1						
	教育学フィールドワーク演習	1④		2			○			1						
	小計 (44科目)	—	—	0	46	0	—	—	6	6	0	0	0	0	—	
	プログラム専門科目	高等教育基礎論 I (理論・手法)	1前・後		2			○		3	3	1				
		高等教育基礎論 II (制度・政策)	1前・後		2			○		3	3	1				
		Comparative Studies in Higher Education	1・2前		2			○				1				
大学教育論		1・2後		2			○			1						
大学カリキュラム開発論		1・2前		2			○		1							
高等教育目標論		1・2前		2			○		1						兼1	
高等教育経済論		1・2後		2			○									
高等教育組織論・職員論		1・2前		2			○			1						
高等教育評価論		1・2後		2			○			1						
高等教育アドミッション論		1・2後		2			○		1							
学術政策論		1・2後		2			○								兼1	
学生論		1・2後		2			○								兼1	
Advanced Statistics		1・2後		2			○								兼1	
Higher Education in Japan		1前		2			○		2	3	1				兼1	
Development of Higher Education		1・2前		2			○		1							
学費政策論		1・2後		2			○								兼1	
高等教育基礎演習 I (実践研究)		1・2前		2				○	2	3	1					
小計 (6科目)	—	—	0	34	0	—	—	4	3	1	0	0	兼4	—		
特別研究	1~2		4				○	9	9	1				兼1		
小計 (62科目)	—	—	4	80	0	—	—	10	9	1	0	0	兼4			
合計 (75科目)	—	—	6	121	0	—	—	19	15	3	0	0	兼140	—		
学位又は称号	修士 (教育学)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係									



教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期 日本語教育学プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○								兼5 オムニバス
		1・2②		1		○								兼7 オムニバス・メディア	
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④		1		○		2						兼4 オムニバス・メディア
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①		1		○		3						兼5 オムニバス・共同（一部） メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③		1		○								兼7 オムニバス・メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2②		2			○							兼3 共同・集中
		ダイバーシティの理解	1・2②		1		○			1					兼3 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア、②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1
小計（15科目）	—	0	20	0	—		4	1	0	0	0	0	兼48	—	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①	2			○		5	1	1				兼42 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○		4	2	1				兼43 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○		1						兼9	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
小計（7科目）	—	2	9	0	—		7	3	2	0	0	0	兼92	—	
専攻共通科目	教育科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○		5	1					オムニバス	
	教育学と社会	1・2②		2		○		7	2					オムニバス	
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③		2		○				1					
	Religious culture in public education	1・2④		2		○				1					
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③		2		○				1					
	日本の教育開発経験	1・2③		2		○		4	4					オムニバス	
小計（6科目）	—	0	12	0	—		9	4	2	0	0	0	0	—	
プログラム専門科目	日本語教育研究方法論	1・2前	2			○		7	3					オムニバス	
	日本語教育学研究プロジェクト	1・2後	2				○	7	3					共同	
	日本語習得論特講	1・2③		2		○		1							
	言語教育心理学特講	1・2③		2		○		1							
	日本語教育評価法特講	1・2③		2		○			1						
	年少者日本語教育特講	1・2③		2		○			1						
	日本語構造論特講	1・2①		2		○		1							
	日本語表現法特講	1・2①		2		○		1							
	対照言語学特講	1・2①		2		○		1							
	社会言語学特講	1・2③		2		○		1							
	異文化間教育学特講	1・2①		2		○			1						
	文化社会学特講	1・2②		2		○			1						
	日本近代文学特講	1・2③		2		○		1							
	日本語習得論演習	1・2④		2			○	1							
	言語教育心理学演習	1・2②		2			○	1							
	日本語教育評価法演習	1・2④		2			○		1						
	年少者日本語教育演習	1・2④		2			○		1						
	日本語構造論演習	1・2②		2			○	1							
	日本語表現法演習	1・2②		2			○	1							
	対照言語学演習	1・2③		2			○	1							
	社会言語学演習	1・2④		2			○	1							
	異文化間教育学演習	1・2③		2			○		1						
	文化社会学演習	1・2④		2			○		1						
	日本近代文学演習	1・2④		2			○	1							
	国内日本語教育実践研究	1・2①②			2			3	2						共同
	海外日本語教育実践研究	1・2③④			2			3	2						共同
特別研究	1~2		4				7	4							
小計（26科目）	—	8	44	4	—		7	4	0	0	0	0	0	—	

教 育 課 程 等 の 概 要																																																																																																																																										
(教育科学専攻 博士課程前期 日本語教育学プログラム)																																																																																																																																										
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考																																																																																																																												
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手																																																																																																																													
合計（40科目）			10	85	4	—			15	10	2	0	0	兼136	—																																																																																																																											
学位又は称号	修士（教育学）, 修士（学術）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係																																																																																																																																				
卒業要件及び履修方法							授業期間等																																																																																																																																			
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目区分</th> <th>要修得単位数</th> <th>指定科目等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">大学院共通科目</td> <td>1単位以上</td> <td>持続可能な発展科目</td> </tr> <tr> <td>1単位以上</td> <td>キャリア開発・データリテラシー科目</td> </tr> <tr> <td>研究科共通科目</td> <td>4単位以上</td> <td>「必修」 人間社会科学特別講義：2単位</td> </tr> <tr> <td>専攻共通科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">プログラム専門科目</td> <td rowspan="2">12単位以上</td> <td>指導教員と相談の上、以下の①～③の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること ① 急速に進むグローバル化の下、国内外において、増加の一途をたどる日本語学習者（児童から成人まで）に対応し得る、高度な知識・技能を有している。 ② グローバルマインドを持った日本語教育の研究者・教育者となるために、「言語」「教育」「心理」「文化」「社会」にわたる日本語教育学を構成する幅広い領域において、理論・実践の質的向上に資する高度な教育研究能力（思考力・判断力・表現力）を有している。 ③ 日本語学習者と日本語母語話者が共修する中で、日本語や日本文化についての理解を深めるといった新たな「学び」を構築・支援できる能力（主体性・協働性）を有している。</td> </tr> <tr> <td> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日本語教育研究方法論</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育学研究プロジェクト</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>言語教育心理学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育評価法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>年少者日本語教育特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語構造論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語表現法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>対照言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>異文化間教育学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>文化社会学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本近代文学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>言語教育心理学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語教育評価法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>年少者日本語教育演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語構造論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語表現法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>対照言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>異文化間教育学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>文化社会学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本近代文学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td>特別研究</td> <td>4単位</td> <td>「必修」 特別研究：4単位</td> </tr> <tr> <td>他プログラム専門科目</td> <td>2単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本語教育学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目</td> <td>4単位以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>30単位以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目区分	要修得単位数	指定科目等	大学院共通科目	1単位以上	持続可能な発展科目	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目	研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位	専攻共通科目	2単位以上		プログラム専門科目	12単位以上	指導教員と相談の上、以下の①～③の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること ① 急速に進むグローバル化の下、国内外において、増加の一途をたどる日本語学習者（児童から成人まで）に対応し得る、高度な知識・技能を有している。 ② グローバルマインドを持った日本語教育の研究者・教育者となるために、「言語」「教育」「心理」「文化」「社会」にわたる日本語教育学を構成する幅広い領域において、理論・実践の質的向上に資する高度な教育研究能力（思考力・判断力・表現力）を有している。 ③ 日本語学習者と日本語母語話者が共修する中で、日本語や日本文化についての理解を深めるといった新たな「学び」を構築・支援できる能力（主体性・協働性）を有している。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日本語教育研究方法論</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育学研究プロジェクト</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>言語教育心理学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育評価法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>年少者日本語教育特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語構造論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語表現法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>対照言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>異文化間教育学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>文化社会学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本近代文学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>言語教育心理学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語教育評価法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>年少者日本語教育演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語構造論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語表現法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>対照言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>異文化間教育学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>文化社会学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本近代文学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	科目名	①	②	③	日本語教育研究方法論	◎			日本語教育学研究プロジェクト	◎			日本語習得論特講		○		言語教育心理学特講		○		日本語教育評価法特講		○		年少者日本語教育特講		○		日本語構造論特講		○		日本語表現法特講		○		対照言語学特講		○		社会言語学特講		○		異文化間教育学特講		○		文化社会学特講		○		日本近代文学特講		○		日本語習得論演習			○	言語教育心理学演習			○	日本語教育評価法演習			○	年少者日本語教育演習			○	日本語構造論演習			○	日本語表現法演習			○	対照言語学演習			○	社会言語学演習			○	異文化間教育学演習			○	文化社会学演習			○	日本近代文学演習			○	特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位	他プログラム専門科目	2単位以上		日本語教育学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上		合計	30単位以上		1 学年の学期区分	2学期（4ターム）
科目区分	要修得単位数	指定科目等																																																																																																																																								
大学院共通科目	1単位以上	持続可能な発展科目																																																																																																																																								
	1単位以上	キャリア開発・データリテラシー科目																																																																																																																																								
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義：2単位																																																																																																																																								
専攻共通科目	2単位以上																																																																																																																																									
プログラム専門科目	12単位以上	指導教員と相談の上、以下の①～③の能力が身に付くように各区分から1科目以上履修すること ① 急速に進むグローバル化の下、国内外において、増加の一途をたどる日本語学習者（児童から成人まで）に対応し得る、高度な知識・技能を有している。 ② グローバルマインドを持った日本語教育の研究者・教育者となるために、「言語」「教育」「心理」「文化」「社会」にわたる日本語教育学を構成する幅広い領域において、理論・実践の質的向上に資する高度な教育研究能力（思考力・判断力・表現力）を有している。 ③ 日本語学習者と日本語母語話者が共修する中で、日本語や日本文化についての理解を深めるといった新たな「学び」を構築・支援できる能力（主体性・協働性）を有している。																																																																																																																																								
		<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>日本語教育研究方法論</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育学研究プロジェクト</td><td>◎</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>言語教育心理学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語教育評価法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>年少者日本語教育特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語構造論特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語表現法特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>対照言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>社会言語学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>異文化間教育学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>文化社会学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本近代文学特講</td><td></td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>日本語習得論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>言語教育心理学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語教育評価法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>年少者日本語教育演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語構造論演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本語表現法演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>対照言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>社会言語学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>異文化間教育学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>文化社会学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>日本近代文学演習</td><td></td><td></td><td>○</td></tr> </tbody> </table>	科目名	①	②	③	日本語教育研究方法論	◎			日本語教育学研究プロジェクト	◎			日本語習得論特講		○		言語教育心理学特講		○		日本語教育評価法特講		○		年少者日本語教育特講		○		日本語構造論特講		○		日本語表現法特講		○		対照言語学特講		○		社会言語学特講		○		異文化間教育学特講		○		文化社会学特講		○		日本近代文学特講		○		日本語習得論演習			○	言語教育心理学演習			○	日本語教育評価法演習			○	年少者日本語教育演習			○	日本語構造論演習			○	日本語表現法演習			○	対照言語学演習			○	社会言語学演習			○	異文化間教育学演習			○	文化社会学演習			○	日本近代文学演習			○																																				
科目名	①	②	③																																																																																																																																							
日本語教育研究方法論	◎																																																																																																																																									
日本語教育学研究プロジェクト	◎																																																																																																																																									
日本語習得論特講		○																																																																																																																																								
言語教育心理学特講		○																																																																																																																																								
日本語教育評価法特講		○																																																																																																																																								
年少者日本語教育特講		○																																																																																																																																								
日本語構造論特講		○																																																																																																																																								
日本語表現法特講		○																																																																																																																																								
対照言語学特講		○																																																																																																																																								
社会言語学特講		○																																																																																																																																								
異文化間教育学特講		○																																																																																																																																								
文化社会学特講		○																																																																																																																																								
日本近代文学特講		○																																																																																																																																								
日本語習得論演習			○																																																																																																																																							
言語教育心理学演習			○																																																																																																																																							
日本語教育評価法演習			○																																																																																																																																							
年少者日本語教育演習			○																																																																																																																																							
日本語構造論演習			○																																																																																																																																							
日本語表現法演習			○																																																																																																																																							
対照言語学演習			○																																																																																																																																							
社会言語学演習			○																																																																																																																																							
異文化間教育学演習			○																																																																																																																																							
文化社会学演習			○																																																																																																																																							
日本近代文学演習			○																																																																																																																																							
特別研究	4単位	「必修」 特別研究：4単位																																																																																																																																								
他プログラム専門科目	2単位以上																																																																																																																																									
日本語教育学プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上																																																																																																																																									
合計	30単位以上																																																																																																																																									
							1 学期の授業期間	15週																																																																																																																																		
							1 時限の授業時間	90分																																																																																																																																		

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程前期 国際教育開発プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	1・2①②④		1		○								兼5 オムニバス
			1・2②		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2④		1		○		2						兼4 オムニバス・メディア
			1・2①		1		○		3						兼5 オムニバス・共同（一部） メディア
			1・2③		1		○								兼7 オムニバス・メディア
			1・2②		2			○							兼3 共同・集中
		ダイバーシティの理解	1・2②		1		○			1					兼3 オムニバス・共同（一部）・集中
	キャリア開発・ データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①②		1		○								兼2 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼9 オムニバス・共同（一部）
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1 メディア, ②のみ集中
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1 集中
		ストレスマネジメント	1・2②④		2		○								兼1 ②のみ集中
		情報セキュリティ	1・2①		2		○								兼3 オムニバス
		MOT入門	1・2①③		1		○								兼1
	アントレプレナーシップ概論	1・2①		1		○								兼1	
	小計（15科目）	—	0	20	0	—		4	1	0	0	0	0	兼48	
研究科共通科目	人間社会科学特別講義	1①		2		○			5	1	1			兼42 オムニバス	
	人間社会科学のための科学史	1・2②		2		○			4	2	1			兼43 オムニバス	
	異分野協働プロジェクト	1・2①		2		○			1					兼9	
	未来創造思考（基礎）	1・2②		1		○								兼1	
	国際標準化論	1・2②		1		○								兼1	
	理工系のための経営組織論	1・2②		1		○								兼2	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	1②		2		○								兼2	
	小計（7科目）	—	2	9	0	—		7	3	2	0	0	0	兼92	
専攻共通科目	教育科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			5	1				オムニバス	
	教育科学と社会	1・2②		2		○			7	2				オムニバス	
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③		2		○					1				
	Religious culture in public education	1・2④		2		○					1				
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③		2		○				1					
	日本の教育開発経験	1・2③		2		○			4	4					オムニバス
	小計（6科目）	—	2	10	0	—		9	5	2	0	0	0	—	
プログラム専門科目	教育基礎論	1・2④		2		○				1					
	国際教育協力論	1・2①		2		○			1						
	教育人材開発論	1・2②		2		○				1					
	ノンフォーマル教育論	1・2④		2		○				1					
	理科教育開発論	1・2②		2		○			1					兼1 共同	
	科学教育開発基礎論	1・2①		2		○			1					兼1 共同	
	数学教育開発論	1・2③		2		○			1						
	高等教育開発論	1・2①		2		○			1						
	教育協力実践基礎論Ⅰ	1・2①		2		○			2	2				兼2	
	教育協力実践基礎論Ⅱ	1・2②		2		○			2	2				オムニバス・共同（一部）	
	国際教育協力実践研究	1・2④		2			○			1					
	基礎教育開発論	1・2①		2		○				1					
	教育協力事業評価論	1・2③		2		○			1						
	教科教育授業論	1・2②		2		○			2	1					オムニバス
	途上国の比較教育学	1・2③		2		○				1					
	インクルーシブ教育論	1・2②		2		○			1						
	平和社会のための教育	1・2①		2		○				1					
	教育統計概論	1・2④		2		○			1						
	教育開発フィールドワーク論	1・2②		2		○				3					
	地域カリキュラム開発論	1・2③		2		○				1					
	スポーツ教育開発論	1・2④		2		○			1						
	グローバルシティズンシップ教育論	1・2④		2		○				1					
	幼児教育・保育開発論Ⅰ	1・2③		2		○				1					
	幼児教育・保育開発論Ⅱ	1・2④		2		○				1					
	高等教育基礎論Ⅰ（理論・手法）	1前・後		2		○			3	3	1				教育学プログラム共用
	高等教育基礎論Ⅱ（制度・政策）	1前・後		2		○			3	3	1				教育学プログラム共用
	Comparative Studies in Higher Education	1・2前		2		○					1				教育学プログラム共用
大学教育論	1・2後		2		○				1					教育学プログラム共用	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(教育科学専攻 博士課程前期 国際教育開発プログラム)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	大学カリキュラム開発論	1・2前		2		○			1						兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用 兼1 教育学プログラム共用
	高等教育経済論	1・2後		2		○									
	高等教育組織論・職員論	1・2前		2		○				1					
	高等教育評価論	1・2後		2		○				1					
	高等教育アドミッション論	1・2後		2		○			1						
	Advanced Statistics	1・2後		2		○									
	Higher Education in Japan	1前		2		○			2	3	1				
	特別研究	1～2	4				○		8	8					
	小計(36科目)	—	—	4	70	0	—	—	10	9	1	0	0	兼4	
合計(64科目)		—	8	109	0	—	—	16	12	3	0	0	兼142		

学位又は称号 修士(教育学), 修士(国際協力学), 修士(学術) 学位又は学科の分野 教育学・保育学関係

### 卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法

### 授 業 期 間 等

修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。

修了要件

科目区分	要修得単位数	指定科目等
大学院共通科目	1単位以上	「選択必修」 Japanese Experience of Social Development・Economy, Infrastructure, and Peace : 1単位 Japanese Experience of Human Development・Culture, Education, and Health : 1単位 SDGs への学問的アプローチ A : 1単位 SDGs への学問的アプローチ B : 1単位 から1科目
		キャリア開発・データリテラシー科目
研究科共通科目	4単位以上	「必修」 人間社会科学特別講義 : 2単位
専攻共通科目	2単位以上	「必修」 日本の教育開発経験 : 2単位
プログラム専門科目	12単位以上	国際教育開発プログラム
		特別研究
他プログラム専門科目	2単位以上	「必修」 特別研究 : 4単位
国際教育開発プログラム専門科目 または他プログラム専門科目	4単位以上	
合計	30単位以上	

1学年の学期区分

2学期(4ターム)

1学期の授業期間

15週

1時限の授業時間

90分

教育課程等の概要																
(教育科学専攻 博士課程後期 教師教育デザイン学プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1 集中	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1 集中	
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○								兼4 オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1	
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1			○								兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1			○								兼9 オムニバス・共同（一部）	
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2				○							兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1				○							兼1	
小計（12科目）	—	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼19	—
共研 目通 究科 科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		2					兼9 共同	
	人間社会科学講究	1・2・3②		2			○		2						兼9 共同	
小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	兼16	—
門ラ ブ科 目口 目専 グ	特別研究	1～3	6					○		47	39	3			兼1	
	小計（1科目）	—	6	0	0	—	—	—	47	39	3	0	0	0	兼1	—
合計（15科目）		—	6	20	0	—	—	—	50	39	3	0	0	0	兼36	—
学位又は称号	博士（教育学），博士（教育心理学）博士（学術）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし，以下のとおり，単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上で，博士論文の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分		2学期（4ターム）							
修了要件							1学期の授業期間		15週							
修了要件							1時限の授業時間		90分							
科目区分		要修得単位数	指定科目等													
大学院共 通科目	持続可能な発展科目	1単位以上														
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上														
研究科共通科目		2単位以上														
プログラ ム専門科 目	特別研究	6単位	「必修」 特別研究：6単位													
合計		10単位以上														

教 育 課 程 等 の 概 要

（教育学専攻 博士課程後期 教育学プログラム）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○								兼1	集中		
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○								兼1	集中		
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○									兼4	オムニバス		
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○								兼1			
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○								兼1			
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○								兼1			
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○								兼9	オムニバス・共同（一部）		
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○								兼1			
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○								兼1			
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○							兼1			
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○							兼1			
	事業創造概論	1・2・3①		1					○							兼1			
小計（12科目）		—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	0	兼19	—		
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		2						兼9	共同		
	人間社会科学講究	1・2・3②		2				○		2						兼9	共同		
	小計（2科目）	—	0	4	0			—		4	0	0	0	0	0	兼16	—		
プログラム専門科目	教育学共同研究講究	1～3④			2			○		2	1								
	教育学フィールドワーク講究	1④			1			○		1	1								
	大学教員養成講座	1～3③			2			○		1	3	1							
	大学授業構成論講究	1～3①②			2			○		1	1								
	教職授業プラクティカム I	2・3①②			1				○	6	5								
	教職授業プラクティカム II	2・3③④			1				○	6	5								
	教職授業プラクティカム III	2・3①②			1				○	6	5								
	教職教育ポートフォリオ	2・3③			1				○	1	1								
	特別研究	1～3		6					○	8	9						兼1		
小計（9科目）	—		6	0	11			—	8	11	1	0	0	0	兼1	—			
合計（23科目）	—		6	20	11			—	12	11	1	0	0	0	兼36	—			
学位又は称号	博士（教育学）			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係												
卒業要件及び履修方法										授業期間等									
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。										1 学年の学期区分					2 学期（4ターム）				
修了要件										1 学期の授業期間					15週				
										1 時限の授業時間					90分				
科目区分	要修得単位数	指定科目等																	
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1 単位以上																	
	キャリア開発・データリテラシー科目	1 単位以上																	
研究科共通科目		2 単位以上																	
プログラム専門科目	特別研究	6 単位	「必修」特別研究：6 単位																
合計		10 単位以上																	

教育課程等の概要																
(教育科学専攻 博士課程後期 日本語教育学プログラム)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアメイキング学生セミナー	1・2・3②③		1				○							兼1	集中
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○							兼1	集中
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○								兼4	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1	
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○							兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○							兼9	オムニバス・共同（一部）
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2					○						兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1					○						兼1	
小計（12科目）	—	—	0	16	0			—		0	0	0	0	0	兼19	—
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		2					兼9	共同
	人間社会科学講究	1・2・3②		2				○		2					兼9	共同
小計（2科目）	—	—	0	4	0			—		4	0	0	0	0	兼16	—
門ラプ科目目専グ	特別研究	1～3		6				○		7	3					
	小計（1科目）	—		6	0	0		—		7	3	0	0	0	0	—
合計（15科目）	—	—	6	20	0			—		10	3	0	0	0	兼35	—
学位又は称号	博士（教育学），博士（学術）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分		2学期（4ターム）								
修了要件						1学期の授業期間		15週								
修了要件						1時限の授業時間		90分								
科目区分		要修得単位数	指定科目等													
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上														
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上														
研究科共通科目		2単位以上														
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位													
合計		10単位以上														

教育課程等の概要															
(教育科学専攻 博士課程後期 国際教育開発プログラム)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3②③		1				○						兼1 集中	
	SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3②		1				○						兼1 集中	
	普遍的平和を目指して	1・2・3①②④		1			○							兼4 オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目 データサイエンス	1・2・3④		2				○						兼1	
	パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○						兼1	
	データサイエンティスト養成	1・2・3②		1				○						兼1	
	医療情報リテラシー活用	1・2・3④		1				○						兼9 オムニバス・共同（一部）	
	リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○						兼1	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○						兼1	
	イノベーション演習	1・2・3③		2					○					兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3前後		2						○				兼1	
	事業創造概論	1・2・3①		1					○					兼1	
小計（12科目）		—	0	16	0			—	0	0	0	0	0	兼19	—
共研目通研究科	プロジェクト研究	1・2・3④		2				○		2				兼9 共同	
	人間社会科学講究	1・2・3②		2				○		2				兼9 共同	
小計（2科目）		—	0	4	0			—	4	0	0	0	0	兼16	—
門ラブ科目目専グ	特別研究	1～3	6					○		8	7			兼1	
	小計（1科目）		6	0	0			—	8	7	0	0	0	兼1	—
合計（15科目）			6	20	0			—	10	7	0	0	0	兼36	—
学位又は称号	博士（教育学），博士（国際協力学），博士（学術）			学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了に必要な単位数を10単位以上とし，以下のとおり，単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上で，博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分		2学期（4ターム）					
修了要件								1学期の授業期間		15週					
修了要件								1時限の授業時間		90分					
科目区分		要修得単位数	指定科目等												
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上													
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		2単位以上													
プログラム専門科目	特別研究	6単位	「必修」特別研究：6単位												
合計		10単位以上													

教育課程等の概要														
(総合科学研究科総合科学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	総合科学演習	1前	2				○		43	51	3			
	コア科目A	1①	2				○		6	4	2			
	コア科目B	1②	2				○		6	4	2			
	特別研究		8						43	51	3			
	小計(4科目)	—	14	0	0	—			43	51	3	0	0	
人間科学部門	代謝生化学	1・2		2		○			1					兼1
	生命機能化学	1・2後		2		○			1					兼1 共同
	キラル有機化学	1・2		2		○								兼1
	進化生命環境学	1・2③		2		○								兼2 オムニバス・共同(一部)
	環境機能化学	1・2③		2		○								兼2 オムニバス・共同(一部)
	大気水圏化学	1・2④		2		○								兼2 オムニバス・共同(一部)
	先端的神経細胞科学	1・2④		2		○								兼4 ※演習, オムニバス・共同(一部)
	神経情報制御論	1・2		2		○								兼1
	脳機能解析学	1・2		2		○								兼1
	認知行動論	1・2①		2		○				2				共同
	時間行動論	1・2③		2		○			1					
	認知言語論	1・2		2		○								兼1
	環境行動論	1・2②		2		○			2					オムニバス・共同(一部)
	適応行動論	1・2③		2		○				1				
	社会行動論	1・2④		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	身体運動神経生理学	1・2②		2		○			1					
	身体運動生化学	1・2③		2		○			1					
	身体運動適応学	1・2①		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	身体運動心理学	1・2③		2		○			1					
	身体運動解析学	1・2④		2		○				1				
	身体運動文化哲学	1・2②		2		○				1				
	身体運動栄養学	1・2③		2		○				1				
	音声学音韻論セミナー	1・2④		2		○				1				
	認知意味論	1・2③		2		○				1				
	対照言語学	1・2前		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	比較語用論	1・2前		2		○			1					
	現代英語の文法と語法	1・2③		2		○			1					
	言語構造論	1・2②		2		○			1	1				オムニバス・共同(一部)
	コンピュータ言語学	1・2後		2		○								兼1
	応用言語学インターフェイス	1・2③		2		○				1				
	心理言語学	1・2後		2		○				1				
	哲学・思想	1・2③		2		○				1				
	応用倫理学	1・2④		2		○				1				
美的存在論	1・2②		2		○			1						
藝術存在論	1・2②		2		○			1						
日本文化論	1・2①		2		○				1					
藝術文化論	1・2後		2		○								兼1	
メディア芸術論	1・2③		2		○				1					



別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
（総合科学研究科総合科学専攻（博士課程前期））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
文明科学部門	日本地域研究	1・2③		2		○				1				
	日本文藝社会研究	1・2前		2		○				1				
	アジア地域研究	1・2②		2		○				1				
	アジア文化論(現代文化)	1・2①		2		○				1				
	アジア文化論(表象文化)	1・2		2		○				1				
	アジア文化論(伝統文化)	1・2②		2		○				1				
	ヒロシマ平和学	1・2		2		○				1				
	ヨーロッパ地域研究	1・2①		2		○				1				
	ヨーロッパ文化社会論	1・2④		2		○					1			
	ヨーロッパ思潮社会論	1・2前		2		○								兼1
	英米地域研究	1・2②		2		○					1			
	英米文藝社会論	1・2③		2		○					1			
	英米社会論(歴史)	1・2		2		○								兼1
	英米社会論(国際関係)	1・2前		2		○								兼1
	英語圏地域研究	1・2③		2		○					1			
	イギリス環境史研究	1・2③		2		○					1			
小計(99科目)		—	0	193	0	—			41	50	3	0	0	兼27
自由選択科目	各部門共通	研究倫理	1・2①			1	○				1			
		ICTリテラシー	1・2①			1	○				1			
		文書管理論	1・2④			2	○							兼3
		BCM(BusinessContinuityManagement)	1・2後			2		○						兼1
		リスク管理技術論	1・2③			2	○							兼1
小計(5科目)		—	0	0	8	—			1	1	0	0	0	兼5
合計(108科目)		—	14	193	8	—			43	51	3	0	0	兼32
学位又は称号			修士(学術)			学位又は学科の分野			学際領域					
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
○履修方法 1. 必修科目 14単位 総合科学演習 2単位 特別研究 8単位(主指導教員と協議) コア科目 4単位 2. 選択必修科目 12単位以上 主領域科目 8単位以上 他領域科目 4単位以上(他部門の科目を含むことが望ましい。) 3. 自由選択科目 4単位以上 ○修了要件 1. 専門科目 必修科目 14単位 選択必修科目 12単位以上 自由選択科目 4単位以上 2. 研究指導 3. 修士論文						1 学年の学期区分			2 学期(4ターム)					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専攻共通科目(大学院基礎科目)	総合人間学	1・2前	2			○			4	3		1		オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0				4	3	0	1	0	
専攻共通科目	人間文化学Ⅰ(日本文化論)	1・2後		2		○	※							※演習, 兼1
	人間文化学Ⅱ(歴史文化論)	1・2後		2		※	○		1					※講義
	人間文化学Ⅲ(漢字文化論)	1・2前		2		※	○							※講義, 兼1
	人間文化学Ⅳ(言語文化論)	1・2後		2		※	○							※講義, 兼1
	人間文化学Ⅴ(表象文化論)	1・2前		2		※	○							※講義, 兼1
	人間文化学Ⅵ(現代文化論)	1・2後		2		※	○							※講義, 兼1
	小計(6科目)	—	0	12	0				1	0	0	0	0	
分野共通科目	比較日本文化学研究A	1・2前		2			○					1		
	比較日本文化学研究B	1・2後		2			○					1		
	比較日本文化学研究C	1・2前		2			○		1					
	比較日本文化学研究D	1・2後		2		※	○		1					※講義
	思想文化研究A	1・2前		2			○		1	2				共同
	思想文化研究B	1・2後		2		○			2					共同
	応用倫理・哲学研究	1・2後		2			○		2	2				共同
	歴史文化研究	1・2前		2		○			6	3				オムニバス, 隔年
	文化交流—日本と世界—	1・2前		2		○			6	3				オムニバス, 隔年
	日中言語文化交流論A	1・2前		2		○			3					オムニバス, 隔年
	日中言語文化交流論B	1・2前		2		○			2	1				オムニバス, 隔年
	欧米文学語学・言語学概説	1・2後		2		○			6	4		3		オムニバス
	地表圏システム学の世界	1・2前		2		○			5	4				オムニバス
	小計(13科目)	—	0	26	0				28	16	0	4	0	
	日本文化論講義A	1・2前		2		○								兼1
	日本文化論講義B	1・2前		2		○						1		兼1
	日本文化論演習A	1・2後		2			○							
	日本文化論演習B	1・2後		2			○					1		
	歴史文化論講義A	1・2前		2		○			1					
	歴史文化論講義B	1・2後		2		○			1					
	歴史文化論演習A	1・2前		2			○		1					
	歴史文化論演習B	1・2後		2			○		1					
	表象文化論講義A	1・2前		2		○			1					
	表象文化論講義B	1・2後		2		○			1					
	表象文化論演習A	1・2前		2			○		1					
	表象文化論演習B	1・2後		2			○		1					
	言語文化論講義A	1・2前		2		○			1					
	言語文化論講義B	1・2後		2		○			1					
	言語文化論演習A	1・2前		2			○		1					
	言語文化論演習B	1・2後		2			○		1					
	超域文化論講義A	1・2前		2		○				1				
	超域文化論講義B	1・2後		2		○				1				
	超域文化論演習A	1・2前		2			○			1				
	超域文化論演習B	1・2後		2			○			1				
西洋古代哲学研究	1・2①		2			○			1				隔年	
西洋古代哲学演習A	1・2①		2			○			1					

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	西洋古代哲学演習B	1・2④		2				○				1			
	西洋中世哲学研究	1・2①		2				○				1			
	西洋中世哲学演習	1・2④		2				○				1			
	西洋古代中世哲学演習A	1・2②		2				○				1			隔年
	西洋古代中世哲学演習B	1・2③		2				○				1			隔年
	西洋哲学史文献資料演習	1・2①		2				○				1			
	西洋近現代哲学特講	1・2前		2			○								兼1
	西洋現代哲学演習A	1・2②		2				○				1			
	西洋現代哲学演習B	1・2③		2				○				1			
	西洋現代哲学文献研究A	1・2①		2				○				1			隔年
	西洋現代哲学文献研究B	1・2③		2				○				1			隔年
	西洋近世哲学演習A	1・2②		2				○				1			隔年
	西洋近世哲学演習B	1・2②		2				○				1			隔年
	西洋近世実践哲学研究A	1・2④		2				○				1			隔年
	西洋近世実践哲学研究B	1・2④		2				○				1			隔年
	インド哲学研究	1・2後		2				○				1			隔年
	インド哲学史講義	1・2前		2			○					1			隔年
	インド哲学演習A	1・2前		2				○				1			
	インド哲学演習B	1・2後		2				○				1			
	インド哲学史演習A	1・2前		2				○				1			
	インド哲学史演習B	1・2後		2				○				1			隔年
	仏教学研究	1・2後		2				○				1			
	仏教思想史研究	1・2前		2				○				1			
	仏教学演習A	1・2前		2				○				1			兼1, 共同
	仏教学演習B	1・2後		2				○				1			兼1, 共同
	仏教思想史講義A	1・2前		2			○					1			隔年
	仏教思想史講義B	1・2後		2			○					1			隔年
	インド哲学仏教学総合演習A	1・2前		2				○				1	1		共同
	インド哲学仏教学総合演習B	1・2後		2				○				1	1		共同
	インド哲学・仏教学大学院基礎演習A(サンスクリット)	1・2前		2				○				1	1		共同, 隔年
	インド哲学・仏教学大学院基礎演習B(サンスクリット)	1・2後		2				○				1	1		共同, 隔年
	倫理学基礎演習A	1・2前		2				○				1			
	倫理学基礎演習B	1・2前		2				○				1			
	応用倫理学方法論研究A	1・2後		2				○				1			
	応用倫理学方法論研究B	1・2後		2				○				1			
	応用倫理学基礎演習A	1・2前		2				○					1		
	応用倫理学基礎演習B	1・2前		2				○					1		
	応用倫理学文献研究A	1・2後		2				○					1		
	応用倫理学文献研究B	1・2後		2				○					1		
	倫理思想史基礎演習A	1・2③		2				○							兼1
	倫理思想史基礎演習B	1・2③		2				○							兼1
	倫理思想史文献研究A	1・2後		2				○				1			
	倫理思想史文献研究B	1・2後		2				○				1			
	応用倫理思想基礎演習A	1・2前		2				○				1			

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	応用倫理思想基礎演習B	1・2前		2				○			1				
	応用倫理思想文献研究A	1・2後		2				○			1				隔年
	応用倫理思想文献研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	諸子学文献研究A	1・2前		2				○			1				
	諸子学文献研究B	1・2後		2				○			1				
	諸子学文献研究C	1・2前		2				○			1				
	諸子学文献研究D	1・2後		2				○			1				
	中国古代中世思想文献研究A	1・2前		2				○					1		
	中国古代中世思想文献研究B	1・2後		2				○					1		
	中国古代中世思想文献研究C	1・2前		2				○					1		
	中国古代中世思想文献研究D	1・2後		2				○					1		
	中国近世思想文献研究A	1・2前		2				○			1				
	中国近世思想文献研究B	1・2後		2				○			1				
	中国近世思想文献研究C	1・2前		2				○			1				
	中国近世思想文献研究D	1・2後		2				○			1				
	中国思想文化出土文献講義	1・2③		2				○			1				隔年
	東アジア思想文化交流論	1・2②		2				○			1				隔年
	中国思想学專題講義	1・2前		2			○								兼1, 隔年
	中国思想文化研究	1・2③		2				○			1				隔年
	中国思想文化研究法A	1・2前		2				○			2			1	共同
	中国思想文化研究法B	1・2後		2				○			2			1	共同
	中国思想文化研究法C	1・2前		2				○			2			1	共同
	中国思想文化研究法D	1・2後		2				○			2			1	共同
	日本地域文献資料実習	1・2前		1					○		2	1			共同
	日本地域史研究実習	1・2前		1					○		2	1			共同
	日本古代資料解析論A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	日本古代資料解析論B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	日本古代社会文化研究A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	日本古代社会文化研究B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	日本中世資料解析論A	1・2後		2				○			1				隔年
	日本中世資料解析論B	1・2後		2				○			1				隔年
	日本中世社会文化研究A	1・2前		2				○			1				隔年
	日本中世社会文化研究B	1・2前		2				○			1				隔年
	日本近世資料解析論A	1・2前		2				○			1				隔年
	日本近世資料解析論B	1・2前		2				○			1				隔年
	日本近世社会文化研究A	1・2後		2				○			1				隔年
	日本近世社会文化研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	日本近代資料解析論A	1・2前		2				○				1			隔年
	日本近代資料解析論B	1・2後		2				○				1			隔年
	日本近代社会文化研究A	1・2前		2				○				1			隔年
	日本近代社会文化研究B	1・2後		2				○				1			隔年
	日本社会文化史特論A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	日本社会文化史特論B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	アジア歴史文化論 A	1・2②		2				○			1				隔年
	アジア歴史文化論 B	1・2②		2				○			1				隔年
	アジア社会史史料研究A	1・2①		2				○			1				隔年

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アジア社会史史料研究B	1・2③		2				○			1				隔年
	アジア政治史史料研究A	1・2①		2				○			1				隔年
	アジア政治史史料研究B	1・2③		2				○			1				隔年
	東アジア地域史研究A	1・2①		2				○			1				隔年
	東アジア地域史研究B	1・2①		2				○			1				隔年
	東アジア地域文化論A	1・2①		2				○				1			隔年
	東アジア地域文化論B	1・2①		2				○				1			隔年
	東アジア国際関係史史料研究A	1・2②		2				○				1			隔年
	東アジア国際関係史史料研究B	1・2④		2				○				1			隔年
	中国制度史史料講義A	1・2③		2			○					1			隔年
	中国制度史史料講義B	1・2③		2			○					1			隔年
	中国社会経済史史料研究A	1・2②		2				○			1				隔年
	中国社会経済史史料研究B	1・2④		2				○			1				隔年
	中国政治社会史史料講義A	1・2③		2			○				1				隔年
	中国政治社会史史料講義B	1・2③		2			○				1				隔年
	中国文化史史料研究A	1・2②		2				○				1			隔年
	中国文化史史料研究B	1・2④		2				○				1			隔年
	中国档案史料研究A	1・2②		2				○			1				隔年
	中国档案史料研究B	1・2④		2				○			1				隔年
	東南アジア歴史社会論A	1・2④		2				○			1				隔年
	東南アジア歴史社会論B	1・2④		2				○			1				隔年
	近代国家論の比較研究	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	異文化交流史研究	1・2前		2				○			1				隔年
	欧米社会構造論研究	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	欧米政治文化論研究A	1・2①		2				○			1				隔年
	欧米政治文化論研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	欧米社会経済史文書研究A	1・2①		2				○			1				隔年
	欧米社会経済史文書研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	欧米政治文書解析学A	1・2③		2				○			1				隔年
	欧米政治文書解析学B	1・2③		2				○			1				隔年
	西洋中世年代記解析学A	1・2①		2				○				1			隔年
	西洋中世年代記解析学B	1・2②		2				○				1			隔年
	西洋中世文化史文書研究A	1・2③		2				○				1			隔年
	西洋中世文化史文書研究B	1・2④		2				○				1			隔年
	ヨーロッパ行財政史文書解析学A	1・2④		2				○			1				隔年
	ヨーロッパ行財政史文書解析学B	1・2④		2				○			1				隔年
	地中海地域社会論	1・2①		2				○			1				隔年
	ギリシア・ラテン碑文解析学A	1・2③		2				○			1				隔年
	ギリシア・ラテン碑文解析学B	1・2①		2				○			1				隔年
	ギリシア・ローマ史料解析学	1・2③		2				○			1				隔年
	日本古代文学注釈研究A	1・2前		2				○			1				隔年
	日本古代文学注釈研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	日本古代文学解読研究A	1・2前		2				○			1				隔年
	日本古代文学解読研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	日本中世文学注釈研究A	1・2②		2				○			1				隔年
	日本中世文学注釈研究B	1・2③		2				○			1				隔年

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	日本近世文学注釈研究A	1・2前		2				○							隔年
	日本近世文学注釈研究B	1・2後		2				○							隔年
	日本近世文学解読研究A	1・2前		2				○							隔年
	日本近世文学解読研究B	1・2後		2				○							隔年
	日本近現代文学注釈研究A	1・2前		2				○							隔年
	日本近現代文学注釈研究B	1・2後		2				○							隔年
	日本近現代文学注釈研究C	1・2前		2				○							隔年
	日本近現代文学注釈研究D	1・2後		2				○							隔年
	日本近現代文学解読研究A	1・2前		2				○							隔年
	日本近現代文学解読研究B	1・2後		2				○							隔年
	日本近現代文学解読研究C	1・2前		2				○							隔年
	日本近現代文学解読研究D	1・2後		2				○							隔年
	日本語学研究A	1・2前		2					○						隔年
	日本語学研究B	1・2後		2					○						隔年
	日本語史研究A	1・2前		2					○						隔年
	日本語史研究B	1・2後		2					○						隔年
	中国文字学研究A	1・2後		2					○						隔年
	中国文字学研究B	1・2後		2					○						隔年
	中国語学演習A	1・2前		2					○						隔年
	中国語学演習B	1・2後		2					○						隔年
	中国語学演習C	1・2前		2					○						隔年
	中国語学演習D	1・2後		2					○						隔年
	漢語語彙語法演習A	1・2前		2					○						隔年
	漢語語彙語法演習B	1・2後		2					○						隔年
	漢語語彙語法演習C	1・2前		2					○						隔年
	漢語語彙語法演習D	1・2後		2					○						隔年
	中国語学特殊講義	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	中国古代中世文学研究A	1・2前		2					○						兼1, 隔年
	中国古代中世文学研究B	1・2前		2					○						兼1, 隔年
	六朝唐代散文演習A	1・2前		2					○						兼1, 隔年
	六朝唐代散文演習B	1・2後		2					○						兼1, 隔年
	六朝唐代散文演習C	1・2前		2					○						兼1, 隔年
	六朝唐代散文演習D	1・2後		2					○						兼1, 隔年
	六朝唐代韻文演習A	1・2前		2					○						兼1
	六朝唐代韻文演習B	1・2後		2					○						兼1
	六朝唐代韻文演習C	1・2前		2					○						兼1
	六朝唐代韻文演習D	1・2後		2					○						兼1
	中国近世小説研究A	1・2後		2					○						兼1, 隔年
	中国近世小説研究B	1・2後		2					○						兼1, 隔年
	中国古代中世散文演習A	1・2前		2					○						兼1, 隔年
中国古代中世散文演習B	1・2後		2					○						兼1, 隔年	
中国古代中世散文演習C	1・2前		2					○						兼1, 隔年	
中国古代中世散文演習D	1・2後		2					○						兼1, 隔年	
中国文学特殊講義	1・2前		2				○							兼1, 隔年	
現代アメリカ文学演習A	1・2前		2					○						兼1	
現代アメリカ文学演習B	1・2前		2					○						兼1	

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	近代アメリカ文学演習A	1・2①		2				○			1				
	近代アメリカ文学演習B	1・2①		2				○			1				
	エスニック文学演習A	1・2後		2				○							兼1
	エスニック文学演習B	1・2後		2				○							兼1
	アメリカ小説作品演習A	1・2③		2				○			1				
	アメリカ小説作品演習B	1・2③		2				○			1				
	アメリカ文学特殊講義A	1・2①		2				○			1				
	アメリカ文学特殊講義B	1・2①		2				○			1				
	アメリカ小説作品研究演習A	1・2③		2				○			1				
	アメリカ小説作品研究演習B	1・2③		2				○			1				
	批評理論演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	批評理論演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	批評理論演習C	1・2前		2				○			1				隔年
	批評理論演習D	1・2後		2				○			1				隔年
	イギリス詩文学作品演習A	1・2③		2				○					1		
	イギリス詩文学作品演習B	1・2③		2				○					1		
	イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④		2				○					1		
	イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④		2				○					1		
	イギリス小説作品研究演習A	1・2④		2				○			1				隔年
	イギリス小説作品研究演習B	1・2④		2				○			1				隔年
	イギリス小説作品演習A	1・2①		2				○			1				隔年
	イギリス小説作品演習B	1・2①		2				○			1				隔年
	イギリス戯曲文学演習A	1・2②		2				○			1				
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③		2				○			1				
	英語圏文学概論A	1・2③		2				○						1	隔年
	英語圏文学概論B	1・2④		2				○						1	隔年
	英語圏文学特殊講義A	1・2①		2				○			1			1	共同
	英語圏文学特殊講義B	1・2②		2				○			1			1	共同
	世界英語圏文学批評演習A	1・2後		2				○			1				
	世界英語圏文学批評演習B	1・2後		2				○			1				
	英語圏文学作品演習A	1・2前		2				○			1				
	英語圏文学作品演習B	1・2前		2				○			1				
	英語圏文学作品研究演習A	1・2後		2				○			1				
	英語圏文学作品研究演習B	1・2後		2				○			1				
	英語圏詩文学作品演習A	1・2後		2				○			1				
	英語圏詩文学作品演習B	1・2後		2				○			1				
	ドイツ文学理論演習A	1・2後		2				○			1				隔年
	ドイツ文学理論演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	近現代ドイツ語学演習A	1・2前		2				○				1			隔年
	近現代ドイツ語学演習B	1・2後		2				○				1			隔年
	近現代ドイツ語学演習C	1・2前		2				○				1			隔年
	近現代ドイツ語学演習D	1・2後		2				○				1			隔年
	ドイツ文学語学特殊講義A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ドイツ文学語学特殊講義B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ドイツ文学語学特殊講義C	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ドイツ語圏文化論演習A	1・2前		2				○							兼1, 隔年

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ドイツ語圏文化論演習B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ドイツ語圏言語文化演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習B	1・2後		2				○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習C	1・2前		2				○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習D	1・2後		2				○		1					隔年
	ドイツ文学発展演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	ドイツ文学発展演習B	1・2後		2				○		1					隔年
	ドイツ近現代文学演習A	1・2前		2				○					1		隔年
	ドイツ近現代文学演習B	1・2後		2				○					1		隔年
	ドイツ小説演習A	1・2前		2				○					1		隔年
	ドイツ小説演習B	1・2後		2				○					1		隔年
	ドイツ語コーパス言語学A	1・2前		2				○			1				隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文芸研究A	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文芸研究B	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文芸批評研究A	1・2後		2				○		1					隔年
	フランス文芸批評研究B	1・2後		2				○		1					隔年
	フランス文学語学演習A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	フランス文学語学演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文学語学特別研究演習A	1・2後		2				○					1		隔年
	フランス文学語学特別研究演習B	1・2後		2				○					1		隔年
	近現代フランス文学作品研究演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	近現代フランス文学作品研究演習B	1・2前		2				○		1					隔年
	近現代フランス文芸批評演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	近現代フランス文芸批評演習B	1・2前		2				○		1					隔年
	近現代フランス小説研究A	1・2後		2				○		1					隔年
	近現代フランス小説研究B	1・2後		2				○		1					隔年
	フランス文学テーマ研究A	1・2前		2				○		1					隔年
	フランス文学テーマ研究B	1・2前		2				○		1					隔年
	フランス語表現法演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	フランス語表現法演習B	1・2前		2				○			1				隔年
	フランス語表現法演習C	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス語表現法演習D	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文化論演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	フランス文化論演習B	1・2前		2				○			1				隔年
	フランス文化論演習C	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文化論演習D	1・2後		2				○			1				隔年
	フランス文学語学特殊講義A	1・2前		2				○		1					隔年
	フランス文学語学特殊講義B	1・2後		2				○		1					隔年
	言語研究法講義IA	1・2前		2				○		1	1				共同, 隔年
	言語研究法講義IB	1・2前		2				○		1	1				共同, 隔年
	言語研究法講義IIA	1・2後		2				○		1	1				共同, 隔年
	言語研究法講義IIB	1・2後		2				○		1	1				共同, 隔年
	一般言語学演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	一般言語学演習B	1・2前		2				○		1					隔年
	一般言語学特別演習A	1・2後		2				○		1					隔年

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	一般言語学特別演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	理論・応用言語学演習A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	理論・応用言語学演習B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	理論・応用言語学特別演習A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	理論・応用言語学特別演習B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	歴史・対照言語学演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	歴史・対照言語学演習B	1・2前		2				○			1				隔年
	歴史・対照言語学特別演習A	1・2後		2				○			1				隔年
	歴史・対照言語学特別演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	英語学概論A	1・2①		2				○			1	1			共同
	英語学概論B	1・2③		2				○			1	1			共同
	英語学理論演習A	1・2前		2				○			1				
	英語学理論演習B	1・2①		2				○			1				
	近代英語作品研究演習A	1・2後		2				○			1				隔年
	近代英語作品研究演習B	1・2③		2				○			1				隔年
	中期英語概論A	1・2前		2				○				1			隔年
	中期英語概論B	1・2①		2				○				1			隔年
	中期英語作品研究演習A	1・2後		2				○				1			隔年
	中期英語作品研究演習B	1・2③		2				○				1			隔年
	英語学特殊講義A	1・2①		2				○			1	1			共同
	英語学特殊講義B	1・2③		2				○			1	1			共同
	人文地理学特別講義A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	人文地理学特別講義B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	人文地理学基礎論演習A	1・2前		2				○				1			隔年
	人文地理学基礎論演習B	1・2前		2				○				1			隔年
	人文地理学特論演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	人文地理学特論演習B	1・2前		2				○			1				隔年
	世界地域システム論演習A	1・2後		2				○				1			隔年
	世界地域システム論演習B	1・2後		2				○				1			隔年
	グローバル経済地域論演習A	1・2後		2				○			1				隔年
	グローバル経済地域論演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	現代インド地誌学	1・2前		2				※			1				※講義
	条件不利地域の地理学	1・2後		2				※				1			※講義
	自然地理学特別講義A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	自然地理学特別講義B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	自然地理学基礎論演習A	1・2前		2				○				1			隔年
	自然地理学基礎論演習B	1・2前		2				○				1			隔年
	自然地理学特論演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	自然地理学特論演習B	1・2前		2				○			1				隔年
	地表変動論演習A	1・2後		2				○				1			隔年
	地表変動論演習B	1・2後		2				○				1			隔年
	自然地域形成論演習A	1・2後		2				○			1				隔年

教育課程等の概要															
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	自然地域形成論演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	自然地域システム論研究	1・2前		2				○			1				
	地表変動論研究	1・2後		2				○				1			
	地理情報システム学講義	1・2①		2			○					1			
	地理情報システム学演習	1・2④		2				○				1			
	地理学研究法A	1・2前		2				○			2				共同
	地理学研究法B	1・2後		2				○			2				共同
	地理学野外実験	1・2前		1					○		2	2			共同
	地理学野外演習	1・2後		2				○			2	2			共同
	日本考古学解析A	1・2①		2				○			1				隔年
	日本考古学解析B	1・2①		2				○			1				隔年
	アジア考古学解析	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	日本考古学特論	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	世界考古学解析A	1・2④		2				○			1				隔年
	世界考古学解析B	1・2④		2				○				1			隔年
	考古学広領域講義	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	考古文献評論A	1・2②		2				○			1				隔年
	考古文献評論B	1・2②		2				○			1				隔年
	考古資料評論	1・2③		2				○			1				
	アジア比較考古学演習A	1・2③		2				○			1				隔年
	アジア比較考古学演習B	1・2③		2				○				1			隔年
	考古学資料実習A	1・2①		1					○		1				隔年
	考古学資料実習B	1・2④		1					○		1				隔年
	考古学資料実習C	1・2①		1					○		1				隔年
	総合文化財調査研究法	1・2④		2					○			1			
	総合文化財調査研究実習A	1・2前		1					○			1			隔年
	総合文化財調査研究実習B	1・2後		1					○			1			隔年
	総合文化財調査研究演習A	1・2②		2				○				1			隔年
	総合文化財調査研究演習B	1・2④		2				○				1			隔年
	有形文化財調査研究法	1・2②		2				○			1				
	文化財保存修復調査研究演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	文化財保存修復調査研究演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	有形文化財調査実習A	1・2②		1					○		1				隔年
	有形文化財調査実習B	1・2④		1					○		1				隔年
	文化財保存解析研究	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	文化財保存調査演習A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	文化財保存調査演習B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	文化財保存活用演習A	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	文化財保存活用演習B	1・2前		2				○							兼1, 隔年
	総合文化財学特殊講義A	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	総合文化財学特殊講義B	1・2後		2				○							兼1, 隔年
	特別研究指導 I (人間文化学)	1~2	4					○			5			1	
	特別研究指導 I (思想文化学)	1~2	4					○			5	4		1	
	特別研究指導 I (歴史文化学)	1~2	4					○			6	3			
	特別研究指導 I (日本・中国文学語学)	1~2	4					○			5	3			
	特別研究指導 I (欧米文学語学・言語学)	1~2	4					○			8	6		1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学研究科人文学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	特別研究指導Ⅰ（地表圏システム学）	1～2	4				○		5	4				
	小計（391科目）	—	24	756	0		—		34	19	0	6	0	
	合計（411科目）	—	26	794	0		—		34	19	0	6	0	
学位又は称号		修士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
必修科目4単位、選択必修・選択科目26単位を含む30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を作成し、又は特定課題研究の成果を上げてその審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録上限：なし)							1学年の学期区分				2学期(4ターム)			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(教育学研究科学習開発学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	学習開発学特講	1・2前	2			○			2	3	1				兼1
	学習開発基礎実践研究	1前後	2				○		2	3	1				
	学習開発基礎特別研究	1前後, 2前後	4					○	5	3					
	カリキュラム開発特講	1・2前	2			○			2	1					
	カリキュラム開発特別研究	1・2前後	4				○		9	8					
	特別支援教育特論	1前	2			○			1						
	小計(6科目)	—	16	0	0			—	15	13	2	0	0		
選択必修科目	学習開発学研究方法論	1・2前		2		○			2	2					兼1
	学習指導開発論特講	1・2後		2		○			2	1					
	学習方法開発特講	1・2後		2		○			3						
	学習材構造特講	1・2後		2		○			1	3					
	特別支援教育実践研究Ⅰ	1・2前		2					2	4	2	1			
	学習開発基礎原論特講	1・2前		2		○			1						
	学習開発基礎原論演習	1・2後		2			○		1						
	学校教育史特講	1・2前		2		○			1						
	学校教育史演習	1・2後		2			○		1						
	学級経営論演習	1・2後		2			○		1	1					
	教師教育論特講	1・2前		2		○				1					
	教師教育論演習	1・2後		2			○			1					
	生涯キャリア形成支援論特講	1・2後		2		○			1						
	生涯キャリア形成支援論演習	1・2前		2			○		1						
	学校心理学特講	1・2前		2		○			1						
	学校発達心理学演習	1・2後		2			○		1						
	学校カウンセリング論特講	1・2後		2		○			1						
	学校カウンセリング論演習	1・2前		2			○		1						
	学校臨床心理学特論	1・2前		2		○			1						
	知識構成論特講	1・2前		2		○				1					
	知識構成論演習	1・2後		2			○			1					
	学習支援論特講	1・2前		2		○				1					
	学習支援論演習	1・2後		2			○			1					
	心理教育的アセスメント演習	1・2前		2			○		1						
	カリキュラム開発特論Ⅰa	1・2前		2		○			1						
	カリキュラム開発特論Ⅰb	1・2前		2		○			1						
	カリキュラム開発セミナーⅠa	1・2後		2			○		1						
	カリキュラム開発セミナーⅠb	1・2後		2			○		1						
	カリキュラム開発特論Ⅱa	1・2前		2		○			1						
	カリキュラム開発特論Ⅱb	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発セミナーⅡa	1・2後		2			○		1						
	カリキュラム開発セミナーⅡb	1・2後		2			○			1					
カリキュラム開発特論Ⅲa	1・2前		2		○										
カリキュラム開発特論Ⅲb	1・2前		2		○			1							
カリキュラム開発セミナーⅢa	1・2後		2			○			1						
カリキュラム開発セミナーⅢb	1・2後		2			○		1							
カリキュラム開発特論Ⅳa	1・2前		2		○			1							
カリキュラム開発特論Ⅳb	1・2前		2		○										
カリキュラム開発セミナーⅣa	1・2後		2			○		1							

教育課程等の概要															
(教育学研究科学習開発学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	カリキュラム開発セミナーIVb	1・2後		2			○								兼1
	カリキュラム開発特論Va	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発セミナーVa	1・2後		2			○				1				
	カリキュラム開発特論VIa	1・2前		2		○			1						
	カリキュラム開発特論VIb	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発セミナーVIa	1・2後		2			○			1					
	カリキュラム開発セミナーVIb	1・2後		2			○				1				
	カリキュラム開発特論VIIa	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発特論VIIb	1・2前		2		○					1				
	カリキュラム開発セミナーVIIa	1・2後		2			○			1					
	カリキュラム開発セミナーVIIb	1・2後		2			○				1				
	カリキュラム開発特論VIIIa	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発セミナーVIIIa	1・2後		2			○			1					
	カリキュラム開発特論IXa	1・2前		2		○				1					
	カリキュラム開発特論IXb	1・2前		2		○					1				
	カリキュラム開発セミナーIXa	1・2後		2			○			1					
	カリキュラム開発セミナーIXb	1・2後		2			○				1				
	カリキュラム開発特論Xa	1・2前		2		○					1				
	カリキュラム開発特論Xb	1・2前		2		○						1			
	カリキュラム開発セミナーXa	1・2後		2			○					1			
	カリキュラム開発セミナーXb	1・2後		2			○						1		
	カリキュラム開発教育実践研究Ⅰ	1・2後		2				○		9	6				
	カリキュラム開発教育実践研究Ⅱ	1・2前		2				○		9	6				
	特別支援教育特別研究	1・2前後		4			○			2	4	2	1		
	特別支援教育課題研究	1・2前後		4			○			2	4	2	1		
	小計(64科目)	—	0	132	0			—		16	14	2	1	0	兼3
選択科目	特別支援教育実践研究Ⅱ	2前		2			○			2	4	2	1		兼1
	発達障害指導法特論	1後		2		○				1					
	コミュニケーション障害指導法特論	1後		2		○				1					
	重複障害指導法特論	1前		2		○						1			
	視覚障害指導法特論	1前		2			○					1			
	視覚障害指導法演習	1後		2		○						1			
	視覚障害心理学特論	1前		2		○					1				
	視覚障害心理学演習	1後		2			○					1			
	聴覚障害指導法特論	1前		2		○						1			
	聴覚障害指導法演習	1後		2			○					1			
	聴覚障害心理学特論	1前		2		○						1			
	聴覚障害心理学演習	1後		2			○					1			
	知的障害指導法特論	1前		2		○						1			
	知的障害指導法演習	1後		2			○			1					
	知的障害心理学特論	1前		2		○				1					
	知的障害心理学演習	1後		2			○			1					
肢体不自由指導法特論	1前		2		○							1			
肢体不自由心理学特論	1後		2		○							1			
病弱教育特論	1前		2		○							1			
病弱生理・病理特論	1後		2		○								1		

教育課程等の概要															
(教育学研究科学習開発学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	特別支援教育ファシリテーション論	1・2前後		2		○				1					兼1
	体験型海外教育実地研究	1・2集中		2				○	2	2					
	学術文章の書き方とその指導法 —大学教員を目指して—	1・2前		2				○	2						
	Research Methods in Education	1・2前		2				○			1	1			
	小計(24科目)	—	0	48	0	—	—	—	6	6	3	2	0	兼2	
合計(94科目)			—	16	180	0	—	—	16	14	4	2	0	兼4	
学位又は称号		修士(教育学), 修士(心理学), 修士(学術)			学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>履修方法は、以下のとおり。</p> <p>学習開発基礎専修： 必修科目8単位、選択必修科目の「学習開発学研究方法論」「学習指導開発論特講」「学習方法開発特講」「学習材構造特講」「特別支援教育実践研究Ⅰ」から4単位、他の選択必修科目4単位、選択必修科目及び選択科目から14単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>カリキュラム開発基礎専修： 必修科目8単位、選択必修科目の「学習開発学研究方法論」「学習指導開発論特講」「学習方法開発特講」「学習材構造特講」「特別支援教育実践研究Ⅰ」から4単位、他の選択必修科目4単位、選択必修科目及び選択科目から14単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>特別支援教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち「特別支援教育特別研究」又は「特別支援教育課題研究」から4単位、選択必修科目の「学習開発学研究方法論」「学習指導開発論特講」「学習方法開発特講」「学習材構造特講」「特別支援教育実践研究Ⅰ」から2単位、選択科目から20単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p>								1学年の学期区分			2学期(4ターム)				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
（教育学研究科教科教育学専攻（博士課程前期））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	教科教育学研究方法論	1前	2			○			8	6	1			
	教科教育学融合プロジェクト	1前	2			○			9	4	1			
	小計（2科目）	—	4	0	0				14	9	2	0	0	
	自然システム教育学特別研究（科学教育）	1・2通		4			○		1	1				
	自然システム教育学特別研究（教育方法）	1・2通		4			○			1				
	自然システム教育学特別研究（物理）	1・2通		4			○			1				
	自然システム教育学特別研究（化学）	1・2通		4			○		1	1				
	自然システム教育学特別研究（生物）	1・2通		4			○		1	1				
	自然システム教育学特別研究（地学）	1・2通		4			○		1	1				
	自然システム教育学特講（科学教育）	1前		2			○		1					
	自然システム教育学特講（教育方法）	1前		2			○			1				
	自然システム教育学特講（実践研究）	1前		2			○			1				
	自然システム教育学特講（物理）Ⅰ	1前		2			○				1			
	自然システム教育学特講（物理）Ⅱ	1前		2			○				1			
	自然システム教育学特講（化学）Ⅰ	1前		2			○		1					
	自然システム教育学特講（化学）Ⅱ	1前		2			○			1				
	自然システム教育学特講（生物）Ⅰ	1前		2			○		1					
	自然システム教育学特講（生物）Ⅱ	1前		2			○			1				
	自然システム教育学特講（地学）Ⅰ	1前		2			○		1					
	自然システム教育学特講（地学）Ⅱ	1前		2			○			1				
	自然システム教育学演習（科学教育）	1後		2			○		1					
	自然システム教育学演習（教育方法）	1後		2			○			1				
	自然システム教育学演習（実践研究）	1後		2			○			1				
	自然システム教育学演習（物理）Ⅰ	1後		2			○				1			
	自然システム教育学演習（物理）Ⅱ	1後		2			○				1			
	自然システム教育学演習（化学）Ⅰ	1後		2			○		1					
	自然システム教育学演習（化学）Ⅱ	1後		2			○			1				
	自然システム教育学演習（生物）Ⅰ	1後		2			○		1					
	自然システム教育学演習（生物）Ⅱ	1後		2			○			1				
	自然システム教育学演習（地学）Ⅰ	1後		2			○		1					
	自然システム教育学演習（地学）Ⅱ	1後		2			○			1				
	数学教育学特別研究	1・2通		4			○		1	1				
	数学内容学特別研究	1・2通		4			○		3		1			
	数学教育学特講	1前		2			○		1					

教育課程等の概要														
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	数学内容学特講(代数学)	1前		2		○								
	数学内容学特講(幾何学)	1前		2		○			1					
	数学内容学特講(解析学Ⅰ)	1前		2		○			1					
	数学内容学特講(解析学Ⅱ)	1前		2		○			1					
	数学内容学特講(確率論・統計学)	1前		2		○								兼1
	数学教育学演習	1後		2			○			1				
	数学内容学演習(代数学)	1後		2			○				1			
	数学内容学演習(幾何学)	1後		2			○		1		1			
	数学内容学演習(解析学Ⅰ)	1後		2			○		1					
	数学内容学演習(解析学Ⅱ)	1後		2			○		1					
	数学内容学演習(確率論・統計学)	1後		2			○							兼1
	技術内容学特別研究	1・2通		4			○			3				
	技術教育学特別研究	1・2通		4			○			1				
	情報内容学特別研究	1・2通		4			○		3					
	情報教育学特別研究	1・2通		4			○		1					
	技術教育学特講	1前		2		○				1				
	技術教育学演習	1後		2			○			1				
	技術内容学特講Ⅰ(材料と加工Ⅰ)	1前		2		○				1				
	技術内容学特講Ⅱ(材料と加工Ⅱ)	1前		2		○				1				
	技術内容学特講Ⅲ(エネルギー活用)	1前		2		○				1				
	技術内容学特講Ⅳ(メカトロニクス)	1前		2		○				1				
	技術内容学特講Ⅴ(技術とコンピュータ)	1前		2		○				1				
	技術内容学演習Ⅰ(材料と加工Ⅰ)	1後		2			○			1				
	技術内容学演習Ⅱ(材料と加工Ⅱ)	1後		2			○			1				
	技術内容学演習Ⅲ(エネルギー活用)	1後		2			○			1				
	技術内容学演習Ⅳ(メカトロニクス)	1後		2			○			1				
	技術内容学演習Ⅴ(技術とコンピュータ)	1後		2			○			1				
	情報教育学特講	1前		2		○			1					
	情報教育学演習	1後		2			○		1					
	情報内容学特講Ⅰ(ハードウェア)	1前		2		○			1					
	情報内容学特講Ⅱ(ソフトウェア)	1前		2		○			1					
	情報内容学特講Ⅲ(ネットワーク)	1前		2		○			1					
	情報内容学特講Ⅳ(メディアと情報)	1前		2		○								兼1
	情報内容学特講Ⅴ(情報と社会)	1前		2		○			1					
	情報内容学演習Ⅰ(ハードウェア)	1後		2			○		1					
	情報内容学演習Ⅱ(ソフトウェア)	1後		2			○		1					
	情報内容学演習Ⅲ(ネットワーク)	1後		2			○		1					
	情報内容学演習Ⅳ(メディアと情報)	1後		2			○							兼1

教育課程等の概要															
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報内容学演習Ⅴ(情報と社会)	1後		2				○		1					兼1
	社会認識教育学特別研究Ⅰ (社会科・地理歴史科)	1・2通		4				○							
	社会認識教育学特別研究Ⅱ (社会科・公民科)	1・2通		4				○		1					
	社会認識教育方法学特別研究Ⅰ (社会科・地理歴史科)	1・2通		4				○		1					
	社会認識教育方法学特別研究Ⅱ (社会科・公民科)	1・2通		4				○		1					
	地理認識内容学特別研究	1・2通		4				○		1	1				
	市民性・社会科学認識内容学特別研究	1・2通		4				○		1		1			
	社会認識教育学特講Ⅰ (社会科・公民科)	1・通		4				○		1					
	社会認識教育学特講Ⅱ (社会科・公民科)	2・通		4				○		1					
	社会認識教育学特講Ⅲ (社会科・地理歴史科)	1・通		4				○					1		
	社会認識教育学特講Ⅳ (社会科・地理歴史科)	2・通		4				○					1		
	社会認識教育方法学特講Ⅰ (社会科・公民科)	1・通		4				○		1					
	社会認識教育方法学特講Ⅱ (社会科・公民科)	2・通		4				○		1					
	社会認識教育方法学特講Ⅲ (社会科・地理歴史科)	1・通		4				○		1					
	社会認識教育方法学特講Ⅳ (社会科・地理歴史科)	2・通		4				○		1					
	地理認識内容学特講Ⅰ	1・通		4				○		1					
	地理認識内容学特講Ⅱ	2・通		4				○		1					
	地理認識内容学特講Ⅲ	1・通		4				○			1				
	地理認識内容学特講Ⅳ	2・通		4				○			1				
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅰ	1・通		4				○		1					
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅱ	2・通		4				○		1					
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅲ	1・通		4				○				1			
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅳ	2・通		4				○				1			
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅴ	1・通		4				○				1			
	市民性・社会科学認識内容学特講Ⅵ	2・通		4				○				1			
	地理認識内容学演習Ⅰ	1・通		4				○		1					
	地理認識内容学演習Ⅱ	1・通		4				○			1				
	市民性・社会科学認識内容学演習Ⅰ	1・通		4				○		1					
	市民性・社会科学認識内容学演習Ⅱ	1・通		4				○				1			
	市民性・社会科学認識内容学演習Ⅲ	1・通		4				○				1			
	国語教育学特別研究	1・2前後		4				○		2					
	国語文化学特別研究	1・2前後		4				○		3	2				
	国語教育学特講Ⅰ	1・2前		2				○		1					

教育課程等の概要															
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	(国語教育学・国語教育史領域)														
	国語教育学特講Ⅱ (国語教育方法論領域)	1・2前		2		○				1					
	国語文化学特講Ⅰ (国語学：国語史領域)	1・2前		2		○				1					
	国語文化学特講Ⅱ (国語学：現代語領域)	1・2前		2		○				1					
	国語文化学特講Ⅲ (国文学：古典文学領域)	1・2前		2		○				1					
	国語文化学特講Ⅳ (国文学：近現代文学領域)	1・2前		2		○				1					
	国語文化学特講Ⅴ(漢文学領域)	1・2前		2		○				1					
	英語教育学特別研究Ⅰ (英語指導法領域)	1・2通		4			○			1					
	英語教育学特別研究Ⅱ (第二言語習得領域)	1・2通		4			○			1					
	英語教育学特別研究Ⅲ (英語教授過程領域)	1・2通		4			○			1					
	英語教育学特別研究Ⅳ(評価領域)	1・2通		4			○							兼1	
	英語内容学特別研究Ⅰ (構文論領域)	1・2通		4			○			1					
	英語内容学特別研究Ⅱ (言語使用論領域)	1・2通		4			○							兼1	
	英語内容学特別研究Ⅲ (言語表現論領域)	1・2通		4			○			1					
	英語教育学特講Ⅰ (英語指導法領域)	1前		2		○				1					兼1
	英語教育学特講Ⅱ (第二言語習得領域)	1前		2		○				1					
	英語教育学特講Ⅲ (英語教授過程領域)	1前		2		○				1					
	英語教育学特講Ⅳ(評価領域)	1前		2		○								兼1	
	英語内容学特講Ⅰ(構文論領域)	1前		2		○				1					
	英語内容学特講Ⅱ (言語使用論領域)	1後		2		○								兼1	
英語内容学特講Ⅲ (言語表現論領域)	1前		2		○								兼1		
健康スポーツ教育学特別研究Ⅰ (スポーツ学)	1・2通		4			○			1						
健康スポーツ教育学特別研究Ⅱ (スポーツ学)	1・2通		4			○				1					
健康スポーツ教育学特別研究Ⅲ (スポーツ学)	1・2通		4			○			1						
健康スポーツ教育学特別研究Ⅰ (スポーツ方法学)	1・2通		4			○				1					
健康スポーツ教育学特別研究Ⅱ	1後		4			○				1					

教育課程等の概要														
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	(スポーツ方法学)													
	健康スポーツ教育学特別研究Ⅲ (スポーツ方法学)	1・2通		4				○		1				
	健康スポーツ教育学特別研究Ⅰ (スポーツ教育学)	1・2通		4				○			1			
	健康スポーツ教育学特別研究Ⅱ (スポーツ教育学)	1・2通		4				○		1				
	健康スポーツ教育学特講Ⅰ (スポーツ学)	1前		2			○			1				
	健康スポーツ教育学特講Ⅱ (スポーツ学)	1後		2			○				1			
	健康スポーツ教育学特講Ⅲ (スポーツ学)	1前		2			○			1				
	健康スポーツ教育学特講Ⅰ (スポーツ方法学)	1前		2			○				1			
	健康スポーツ教育学特講Ⅱ (スポーツ方法学)	1後		2			○				1			
	健康スポーツ教育学特講Ⅲ (スポーツ方法学)	1後		2			○			1				
	健康スポーツ教育学特講Ⅰ (スポーツ教育学)	1後		2			○				1			
	健康スポーツ教育学特講Ⅱ (スポーツ教育学)	1前		2			○			1				
	人間生活教育学特別研究	1・2通		4				○		1				
	人間生活内容学特別研究	1・2通		4				○		2	3			兼1
	人間生活教育学特講Ⅰ	1前		2			○			1				
	人間生活教育学特講Ⅱ	1後		2			○			1				兼1
	人間生活内容学特講Ⅰ	1後		2			○							兼1
	人間生活内容学特講Ⅱ	1前		2			○			1				兼1
	人間生活内容学特講Ⅲ	1後		2			○			1				
	人間生活内容学特講Ⅳ	1後		2			○				1			
	人間生活内容学特講Ⅴ	1前		2			○				1			
	人間生活内容学特講Ⅵ	1前		2			○			1				
	人間生活内容学特講Ⅶ	1後		2			○			1				
	人間生活内容学特講Ⅷ	1前		2			○				1			兼1
	人間生活教育学演習	1後		2				○		1				
	人間生活内容学演習Ⅰ	1後		2				○		1				
	人間生活内容学演習Ⅱ	1後		2				○		1	3			
	音楽文化教育学特別研究 (音楽教育学)Ⅰ	1・2通		4				○			1			
	音楽文化教育学特別研究 (音楽教育学)Ⅱ	1・2通		4				○		1				
	音楽文化教育学特別研究(作曲)	1・2通		4				○			1			
	音楽文化教育学特別研究(器楽)Ⅰ	1・2通		4				○		1				
	音楽文化教育学特別研究(器楽)Ⅱ	1・2通		4				○		1				
	音楽文化教育学特別研究(声楽)	1・2通		4				○		1				

教育課程等の概要														
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	音楽文化教育学特講(音楽教育学)Ⅰ	1後		2		○				1				
	音楽文化教育学特講(音楽教育学)Ⅱ	1前		2		○			1					
	音楽文化教育学特講(作曲)	1前		2		○				1				
	音楽文化教育学特講(器楽)Ⅰ	1前		2		○			1					
	音楽文化教育学特講(器楽)Ⅱ	1前		2		○			1					
	音楽文化教育学特講(声楽)	1前		2		○			1					
	音楽文化教育学演習(音楽教育学)Ⅰ	1前		2			○			1				
	音楽文化教育学演習(音楽教育学)Ⅱ	1後		2			○		1					
	音楽文化教育学演習(作曲)	1後		2			○			1				
	音楽文化教育学演習(器楽)Ⅰ	1後		2			○		1					
	音楽文化教育学演習(器楽)Ⅱ	1前後		2			○		1					
	音楽文化教育学演習(声楽)	1後		2			○		1					
	造形芸術教育学特別研究Ⅰ(美術科)	1・2前後		4			○			1				
	造形芸術教育学特別研究Ⅱ(美術科)	1・2前後		4			○			1				
	造形芸術教育内容学特別研究Ⅰ(絵画)	1・2前後		4			○		1					
	造形芸術教育内容学特別研究Ⅱ(彫刻)	1・2前後		4			○		1					
	造形芸術教育内容学特別研究Ⅲ(デザイン)	1・2前後		4			○			1				
	造形芸術教育内容学特別研究Ⅳ(工芸)	1・2前後		4			○		1					
	造形芸術教育内容学特別研究Ⅴ(造形芸術学)	1・2前後		4			○		1					
	造形芸術教育学特講Ⅰ(美術科)	1後		2		○				1				
	造形芸術教育学特講Ⅱ(美術科)	1前		2		○				1				
	造形芸術教育内容学特講Ⅰ(絵画)	1後		2		○			1					
	造形芸術教育内容学特講Ⅱ(彫刻)	1後		2		○			1					
	造形芸術教育内容学特講Ⅲ(デザイン)	1前		2		○				1				
	造形芸術教育内容学特講Ⅳ(工芸)	1前		2		○			1					
	造形芸術教育内容学特講Ⅴ(造形芸術学)	1前		2		○			1					
	造形芸術教育学演習Ⅰ(美術科)	1前		2			○			1				
	造形芸術教育学演習Ⅱ(美術科)	1後		2			○			1				
	造形芸術教育内容学演習Ⅰ(絵画)	1前		2			○		1					
	造形芸術教育内容学演習Ⅱ(彫刻)	1前		2			○		1					
	造形芸術教育内容学演習Ⅲ(デザイン)	1後		2			○			1				
	造形芸術教育内容学演習Ⅳ(工芸)	1後		2			○		1					

教育課程等の概要														
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	造形芸術教育内容学演習V (造形芸術学)	1後		2			○		1					
	小計(192科目)	—	0	530	0	—			40	28	3	1	0	兼12
選択科目	理科教育ラボラトリーラーニング特論I	2前		2				○		1				
	理科教育ラボラトリーラーニング特論II	2前		2				○	1	1				
	理科教育フィールドラーニング特論I	2前		2				○	1	1				
	理科教育フィールドラーニング特論II	2前		2				○	1	1				
	理科教育評価開発セミナー	2前		2				○	1					
	理科教育学習指導法開発セミナー	2前		2				○		1				
	国語教育学演習I (国語教育学・国語教育史領域)	1・2後		2				○	1					
	国語教育学演習II (国語教育方法論領域)	1・2後		2				○	1					
	国語文化学演習I (国語学：国語史領域)	1・2後		2				○	1					
	国語文化学演習II (国語学：現代語領域)	1・2後		2				○		1				
	国語文化学演習III (国文学：古典文学領域)	1・2後		2				○	1					
	国語文化学演習IV (国文学：近現代文学領域)	1・2後		2				○		1				
	国語文化学演習V(漢文学領域)	1・2後		2				○	1					
	国語教育学特論I (国語教育学・国語教育史領域)	2前		2			○		1					
	国語教育学特論II (国語教育方法論領域)	2前		2			○		1					
	国語文化学特論I (国語学：国語史領域)	2前		2			○		1					
	国語文化学特論II (国語学：現代語領域)	2前		2			○			1				
	国語文化学特論III (国文学：古典文学領域)	2前		2			○		1					
	国語文化学特論IV (国文学：近現代文学領域)	2前		2			○			1				
	国語文化学特論V(漢文学領域)	2前		2			○		1					
国語文化学特論VI (書写・書道領域)	2前		2			○		1						
英語教育学演習I (学習指導法開発)	1後		2				○	1						
英語教育学演習II(学習材開発)	1後		2				○	1						
英語教育学演習III(教育課程論)	1後		2				○	1						
英語教育学演習IV(評価開発)	1後		2				○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	英語教育学演習Ⅴ (マイクロティーチング)	1後		2			○			1				
	英語内容学演習Ⅰ (構文論領域)	1後		2			○			1				
	英語内容学演習Ⅱ (言語表現論領域)	1後		2			○		1					
	英語教育実践事例研究	1後		2			○			1				
	英語教育学特論	1後		2		○								
	健康スポーツ教育学演習Ⅰ (スポーツ学)	2通		2			○		1					
	健康スポーツ教育学演習Ⅱ (スポーツ学)	2通		2			○			1				
	健康スポーツ教育学演習Ⅲ (スポーツ学)	2通		2			○		1					
	健康スポーツ教育学演習Ⅰ (スポーツ方法学)	2通		2			○			1				
	健康スポーツ教育学演習Ⅱ (スポーツ方法学)	2通		2			○			1				
	健康スポーツ教育学演習Ⅲ (スポーツ方法学)	2通		2			○		1					
	健康スポーツ教育学演習Ⅰ (スポーツ教育学)	2通		2			○			1				
	健康スポーツ教育学演習Ⅱ (スポーツ教育学)	2通		2			○		1					
	造形芸術教育特論	2前		2		○			1					兼1
	教科教育学の実践的展開	1・2前後		2		○			5	9				
	教科教育学の実践的検証	1・2前後		2			○		5	9				
	学術文章の書き方とその指導演法 —大学教員を目指して—	1・2前		2			○		2					
	Research Methods in Education	1・2前		2			○				1	1		
	小計 (44科目)	—	0	86	0		—		25	20	1	1	0	兼4
	合計 (238科目)	—	4	616	0		—		42	29	4	1	0	兼12
学位又は称号	修士 (教育学), 修士 (心理学), 修士 (学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							

教育課程等の概要																
(教育学研究科教科教育学専攻(博士課程前期))【既設】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
			<p>修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>履修方法は、以下のとおり。</p> <p>自然システム教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、「特別研究」を付した科目から4単位、「特講」を付した科目から2単位、「演習」を付した科目から2単位、「特別研究」を付した科目を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>数学教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、「特別研究」を付した科目から4単位、「特講」を付した科目から2単位、「演習」を付した科目から2単位、「特別研究」を付した科目を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>技術・情報教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、特別研究4単位、特講2単位、演習2単位、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>社会認識教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、主として専攻する領域の特別研究4単位、特別研究を除いた選択必修科目から主として専攻する領域の8単位、特別研究を除いた選択必修科目および選択科目から14単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>国語文化教育教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目から「国語教育学特別研究」「国語文化学特別研究」のいずれか4単位、「国語教育学特講Ⅰ・Ⅱ」「国語文化学特講Ⅰ～Ⅴ」からそれぞれ2単位、上記以外の特別研究を除く選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>英語教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、特別研究4単位、特講4単位、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>健康スポーツ教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目から主任指導教員が指定する特別研究4単位及び特講4単位、また、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上を履修すること。</p> <p>人間生活教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、特別研究4単位、特講2単位、演習2単位、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>音楽文化教育教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、主として専攻する領域の特別研究4単位、特講2単位、演習2単位、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目から18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。</p> <p>造形芸術教育学専修： 必修科目4単位、選択必修科目のうち、主として専攻する領域の特別研究4単位、特講2単位、演習2単位、特別研究を除いた選択必修科目及び選択科目18単位以上を修得し、30単位以上修得すること。なお、造形芸術教育学の領域においては、特別研究Ⅰを履修する者は、特講Ⅰ・演習Ⅰを履修し、特別研究Ⅱを履修する者は、特講Ⅱ・演習Ⅱを履修すること。</p>												1学年の学期区分	2学期(4ターム)
															1学期の授業期間	15週
															1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

（教育学研究科教科教育学専攻（博士課程前期））【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(教育学研究科日本語教育学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	日本語教育研究方法論	1前	2			○			1						
	日本語教育学研究プロジェクト	1後	2				○			2					
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		1	2	0	0	0		
選択必修科目	日本語教育学特講Ⅰ	1前		2		○				2					兼1
	日本語教育学特講Ⅱ	1前		2		○			1	1					
	日本語教育学特講Ⅲ	1前		2		○			1						兼1
	日本語教育学特講Ⅳ	1後		2		○			1	1					
	日本語教育学特講Ⅴ	1後		2		○			3						兼1
	日本語教育学特別研究Ⅰ	1・2前後		4			○		3	3					
	日本語教育学特別研究Ⅱ	1・2前後		4			○		4	2					兼1 兼2
	日本語教育学特別研究Ⅲ	1・2前後		4			○		3						
小計(8科目)	—		0	22	0		—		6	4	0	0	0		
選択科目	日本語教育学演習Ⅰ	1前		2			○		1	2					兼1
	日本語教育学演習Ⅱ	1前		2			○		1	1					
	日本語教育学演習Ⅲ	1前		2			○		1						兼1
	日本語教育学演習Ⅳ	1後		2			○		1	1					
	日本語教育学演習Ⅴ	1後		2			○		3						兼1
	日本語教育学特論Ⅰ	2前		2		○			1	2					
	日本語教育学特論Ⅱ	2前後		2		○			3	2					兼1
	日本語教育学特論Ⅲ	2後		2		○			3						
	日本語教育実践研究A	1前		2				○	1						兼1
	日本語教育実践研究B	2前		2				○	1						
	学術文章の書き方とその指導法 —大学教員を目指して—	1・2前		2				○		2					兼1
	Research Methods in Education	1・2前		2				○			1	1			
小計(12科目)	—		0	24	0		—		8	4	1	1	0	兼2	
合計(22科目)		—	4	46	0		—		8	4	1	1	0	兼2	
学位又は称号	修士(教育学), 修士(心理学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。 履修方法は、以下のとおり。 必修科目4単位、選択必修科目のうち、日本語教育学特講2単位、日本語教育学特別研究4単位、選択必修科目及び選択科目から20単位以上を履修し、30単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期(4ターム)			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(教育学研究科教育学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科 目 修	教育学研究法特講	1・2集中	2			○			1						兼1
	小計 (1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0		
選 択 必 修 科 目	教育哲学特講	1・2集中		2		○									兼1
	日本東洋教育史特講	1・2前		2		○			1						
	西洋教育史特講	1・2前		2		○				1					
	教育社会学特講	1・2後		2		○			1						
	教育方法学特講	1・2集中		2		○				1					
	社会教育学特講	1・2前		2		○				1					
	教育行政学特講	1・2後		2		○			1						
	比較教育学特講	1・2前		2		○			1						
	教育経営学特講	1・2前		2		○			1						
	幼児教育学特講	1・2後		2		○			1	1					
	異文化間理解の社会理論と実践特講	1・2前		2		○									
	教育哲学演習	1・2後		2				○	1						
	日本東洋教育史演習	1・2後		2				○	1						
	西洋教育史演習	1・2後		2				○		1					
	教育社会学演習	1・2後		2				○	1						
	教育方法学演習	1・2集中		2				○		1					
	社会教育学演習	1・2後		2				○		1					
	教育行財政学演習	1・2前		2				○		1					
	比較教育学演習	1・2後		2				○	1						
	教育経営学演習	1・2後		2				○	1						
	幼児教育学演習	1・2後		2				○	1						
	質的な教育研究演習	1・2後		2				○	1						
	教育調査統計学演習	1前		2				○	1						
	教育における多変量解析演習	1後		2				○		1					
	教育哲学特別研究	1・2後		4				○	1			1			
	日本東洋教育史特別研究	1・2前		4				○	1			1			
	西洋教育史特別研究	1・2前		4				○		1					
	教育社会学特別研究	1・2前		4				○	1						
	教育方法学特別研究	1・2前		4				○	1	1					
	社会教育学特別研究	1・2前		4				○		1					
	教育行財政学特別研究	1・2前		4				○	1	1					
	比較教育学特別研究	1・2前		4				○	1						
	教育経営学特別研究	1・2前		4				○	1						
	幼児教育学特別研究	1・2前		4				○	1	1					
	教育実践課題研究	1・2前		4				○	1						
小計 (35科目)	—		0	92	0	—			8	5	0	1	0	兼2	
選 択 科 目	学術文章の書き方とその指導法 —大学教員を目指して—	1・2前		2				○	2						兼1
	Research Methods in Education	1・2前		2				○			1	1			
	小計 (2科目)	—		0	4	0	—		2	0	1	1	0	兼1	
合計 (38科目)		—	2	96	0	—			8	5	1	1	0	兼3	
学位又は称号	修士 (教育学), 修士 (心理学), 修士 (学術)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係									

教育課程等の概要														
(教育学研究科教育学専攻(博士課程前期))【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。 履修方法は、以下のとおり。 必修は、必修科目の教育学研究法特講2単位及び選択必修科目の中から主として専攻する領域の特講2単位、演習2単位、特別研究2単位の14単位を含めて16単位とする。						1学年の学期区分			2学期(4ターム)					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(教育学研究科心理学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	心理学研究法特講Ⅰ	1・2前		2		○				1					兼1 兼3
	心理学研究法特講Ⅱ	1・2後		2		○									
	認知心理学特講	1・2前		2		○									
	認知心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						
	認知心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○			1					
	認知心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○		1			1			
	認知心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○			1					
	認知心理学特別研究	1・2前		4			○		1	1					
	学習心理学特講	1・2前		2		○			1						
	学習心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						
	学習心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						
	学習心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○		1						
	学習心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○		1						
	学習心理学特別研究	1・2後		4			○		1			1			
	社会心理学特講	1・2後		2			○		1		1				
	社会心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○			1					
	社会心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						
	社会心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○			1					
	社会心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○		1		1				
	社会心理学特別研究	1・2前		4			○		1	1	1				
	教育心理学特講	1・2後		2			○		2						
	教育心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						
	教育心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						
	教育心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○		1						
	教育心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○		2						
	教育心理学特別研究	1・2後		4			○		2						
	発達心理学特講	1・2前		2			○		1	1					
	発達心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○		1	1					
	発達心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○		1						
	発達心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○		1	1					
	発達心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○		1	1					
	発達心理学特別研究	1・2前		4			○		1	1					
	臨床心理学特講Ⅰ	1・2前		2			○		1	2		1			
	臨床心理学特講Ⅱ	1・2後		2			○			1					
	保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ	1・2後		2			○								
	臨床心理学特別研究	1・2後		4			○		3	2					
	幼児心理学特講	1・2後		2			○		1	1					
	幼児心理学演習Ⅰ	1・2前		1			○		1						
	幼児心理学演習Ⅱ	1・2後		1			○			1					
	幼児心理学演習Ⅲ	1・2集中		1			○			1					
	幼児心理学演習Ⅳ	1・2集中		1			○		1	1					
	幼児心理学特別研究	1・2前		4			○		1	1					
	幼児心理学観察演習	1・2前		1			○		1	1					
小計(43科目)		—	0	75	0		—	10	6	1	2	0	兼8		

教育課程等の概要															
(教育学研究科心理学専攻(博士課程前期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目	心理支援に関する理論と実践(臨床心理面接特講Ⅰ)	1・2集中		2		○			1						
	臨床心理面接特講Ⅱ	2後		2		○			2						
	心理的アセスメントに関する理論と実践(臨床心理査定演習Ⅰ)	1・2前		2			○		1	1					
	臨床心理査定演習Ⅱ	1・2後		2			○		1	1					
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1・2前		1			○		1			1			
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1・2集中		1			○		1	1					
	心理実践実習Ⅳ(臨床心理実習Ⅰ)	2前		1			○		3	2		1			
	臨床心理実習Ⅱ	2後		1			○		2	1					
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2後		2			○		1						
	心理療法特講	2前		2		○			1						
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2集中		2		○								兼1	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2		○			1	1					
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2		○								兼1	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2		○								兼1	
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2後		2		○			3	2		1			
	心理実践実習Ⅰ	1・2通		1			○		1	1		1			
	心理実践実習Ⅱ	1・2前		1			○		3	2		1			
	心理実践実習Ⅲ	2後		1			○		3	2		1			
	心理実践実習Ⅴ	2前		1			○		3	2		1			
	心理実践実習A	1・2通		1			○		3	2		1		兼1	
	心理実践実習B	1・2通		1			○		3	2		1			
	心理実践実習C	2前		1			○			2					
	心理実践実習D	2通		1			○		3	2		1			
	Academic writing in psychology I	1・2前		1			○			1		1		兼1	
	Academic writing in psychology II	1・2前		1			○			1		1			
	学術文章の書き方とその指導法—大学教員を目指して—	1・2前		2			○		2					兼1	
	Research Methods in Education	1・2前		2			○				1	1			
小計(27科目)		—	0	40	0		—		3	3	1	3	0	兼6	
合計(70科目)		—	0	115	0		—		12	6	1	3	0		
学位又は称号	修士(教育学), 修士(心理学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。 履修方法は、以下のとおり。 必修は、主として専攻する領域の科目及び「心理学研究法特講Ⅰ・Ⅱ」のうちから12単位とする。ただし、4単位を上限として、主として専攻する領域以外の心理学専攻開設科目の単位を含めることができる。								1学年の学期区分			2学期(4ターム)				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

(注)

教 育 課 程 等 の 概 要

（教育学研究科心理学専攻（博士課程前期））【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(教育学研究科高等教育学専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	高等教育基礎論I (理論・手法)	1・2通年	2				○			2				
	高等教育基礎論II (制度・政策)	1・2通年	2				○		1	1				
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			1	3	0	0	0	
選択必修科目	Comparative Studies in Higher Education	1・2前		2			○				1			
	大学教育論特講	1・2後		2			○			1				
	大学カリキュラム開発論特講	1・2後		2			○		1					
	高等教育目標論特講	1・2後		2			○		1					
	大学財政・経営論	1・2後		2			○		1					
	高等教育経済論特講	1・2後		2			○		1					
	高等教育組織論・職員論特講	1・2前		2			○			1				
	高等教育評価論特講	1・2後		2			○			1				
	高等教育アドミッション論特講	1・2前		2			○		1					
	学術政策論特講	1・2前後		2			○		1					
	学生論特講	1・2集中		2			○							
	Advanced Statistics	1・2後		2			○		1					
	Higher Education in Japan	1・2後		2			○		5	3	1			
	高等教育基礎演習I (実践研究)	1・2前		2			○			1				
Practice of Higher Education Foundation II (Research and Readings)	1・2後		2			○		1	1	1				
高等教育開発論特別研究	1・2前後		4			○		5	3	1				
高等教育開発論課題研究	1・2前後		4			○		5	3	1				
小計 (17科目)	—		0	38	0	—		6	3	1	0	0		
選択科目	学術文章の書き方とその指導法 —大学教員を目指して—	1・2前		2			○		2					
	Research Methods in Education	1・2前		2			○				1	1		
	小計 (2科目)	—		0	4	0	—		2	0	1	1	0	
合計 (21科目)			—	4	42	0	—		8	3	1	1	0	
学位又は称号	修士 (教育学), 修士 (心理学), 修士 (学術)		学位又は学科の分野				教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、30単位以上修得し、修士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。 履修方法は、以下のとおり。 必修科目4単位、選択必修科目のうち「高等教育開発論特別研究」又は「高等教育開発論課題研究」4単位、「高等教育開発論特別研究」及び「高等教育開発論課題研究」を除く選択必修科目16単位、その他の選択必修科目及び選択科目から6単位以上を修得し、30単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期(4ターム)		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(社会科学部法政システム専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	大学院共通授業科目(基礎)	1・2前後	2			○								
	小計(1科目)	—	2	0	0		—							—
	特別研究I	1前	2				○		17	9				
	特別研究II	1後	2				○		17	9				
	特別研究III	2前	2				○		17	9				
	特別研究IV	2後	2				○		17	9				
	憲法理論	1・2①		2		○				1				
	行政過程論	1・2③		2		○			1					隔年
	刑事システム論	1・2②		2		○				1				隔年
	現代憲法論	1・2①		2		○			1					
	社会変動分析論	1・2②		2		○			1					
	社会構造分析論	1・2①		2		○			1					隔年
	家族支援社会論	1・2①		2		○			1					隔年
	政治倫理論	1・2①		2		○			1					
	政策過程論	1・2②		2		○			1					隔年
	比較自治体論	1・2後		2		○				1				隔年
	租税法	1・2前		2		○			1					隔年
	国際租税法	1・2前		2		○			1					隔年
	公共法政特講	1・2①③④		2		○			1		1			
	憲法理論演習	1・2④		2			○			1				
	行政過程論演習	1・2④		2			○		1					隔年
	刑事システム論演習	1・2③		2			○			1				隔年
	現代憲法論演習	1・2前		2			○		1					
	社会変動分析論演習	1・2②		2			○		1					
	社会構造分析論演習	1・2④		2			○		1					
	家族支援社会論演習	1・2後		2			○		1					
	政治倫理論演習	1・2②		2			○		1					
	比較自治体論演習	1・2後		2			○			1				隔年
	租税法演習	1・2後		2			○		1					隔年
	国際租税法演習	1・2後		2			○		1					隔年
	不動産法	1・2③		2		○			1					
	物件管理法	1・2①		2		○					1			
	契約法	1・2①		2		○				1				
	家族法	1・2②		2		○				1				
	経営法	1・2前		2		○			1					隔年
	企業法	1・2③		2		○				1				隔年
	民事訴訟の理論と実務	1・2②		2		○			1					隔年
	裁判外紛争処理論	1・2②		2		○			1					隔年
	雇用関係法	1・2前		2		○			1					隔年
	不動産法演習	1・2前		2			○		1					
	物件管理法演習	1・2④		2			○				1			
	契約法演習	1・2③		2			○			1				
	家族法演習	1・2③		2			○			1				
	経営法演習	1・2前		2			○		1					隔年
	企業法演習	1・2①		2			○			1				隔年
	民事訴訟の理論と実務演習	1・2③		2			○		1					隔年
	裁判外紛争処理論演習	1・2③		2			○		1					隔年
	雇用関係法演習	1・2後		2			○		1					

教育課程等の概要														
(社会科学研究科法政システム専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	国際法	1・2前		2		○			1					隔年
	国際機構法	1・2前		2		○			1					隔年
	国際政治経済論	1・2②		2		○				1				
	国際刑事政策	1・2④		2		○			1					
	安全保障論	1・2前		2		○			1					隔年
	外交論	1・2②		2		○				1				
	国際秩序構築論	1・2後		2		○			1					
	比較政治思想論	1・2①		2		○						1		隔年
	国際関係私法	1・2②		2		○				1				
	グローバル法政特講	1・2④		2		○			1					集中
	国際法演習	1・2後		2			○		1					隔年
	国際機構法演習	1・2後		2			○		1					隔年
	国際政治経済論演習	1・2④		2			○			1				
	国際刑事政策演習	1・2②		2			○		1					
	安全保障論演習	1・2後		2			○		1					隔年
	外交論演習	1・2④		2			○			1				
	国際秩序構築論演習	1・2前		2			○		1					
	比較政治思想論演習	1・2③		2			○					1		隔年
	国際関係私法演習	1・2④		2			○			1				
	医療と人権	1・2前		2		○			1					隔年
	医事法制度論	1・2②		2		○				1				隔年
	医事刑法論	1・2②		2		○				1				隔年
	医療刑事手続論	1・2④		2		○			1					隔年
	医療労務管理と法	1・2前		2		○			1					隔年
	社会調査論	1・2前		2		○			1					隔年
	医療社会学特論	1・2前		2		○			1					隔年
	精神科医療法制論	1・2後		2		○			1					隔年
	医療アナリスト特講	1・2後		2		○			1					隔年
	特殊研究 I	1前		2			○		4	2				
	特殊研究 II	1後		2			○		4	2				
	特殊研究 III	2前		2			○		4	2				
	特殊研究 IV	2後		2			○		4	2				
	小計 (74科目)	—	8	148	0	—	—	—	17	9	1	2	0	
	合計 (75科目)	—	10	148	0	—	—	—	17	9	1	2	0	
	学位又は称号	修士(法学), 修士(学術)	学位又は学科の分野			法学関係, 社会学・社会福祉学関係								
	卒業要件及び履修方法							授業期間等						
	必修科目10単位(大学院共通授業科目2単位, 特別研究8単位), 専門科目から指導教員が指定する選択必修科目10単位, 選択科目10単位の計30単位以上を習得し, かつ修士論文を提出し審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期(4ターム)			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(社会科学部社会経済システム専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	統計学序説	1・2前		2		○			1					
	数量経済分析	1・2②		2		○			1					
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	2	0	0	0	0	
専門科目	特別研究Ⅰ	1前	2				○		13	8				
	特別研究Ⅱ	1後	2				○		13	8				
	特別研究Ⅲ	2前	2				○		13	8				
	特別研究Ⅳ	2後	2				○		13	8				
	応用ファイナンス	1・2前		2			○			1				
	理論ファイナンス	1・2前		2			○							
	財務戦略論	1・2前		2			○							
	金融資本市場分析	1・2後		2			○			1				
	経済数学	1・2後		2			○							兼1
	マクロ経済学	1・2②		2			○					1		
	ミクロ経済学	1・2③		2			○				1			
	マクロ金融分析	1・2④		2			○		1					
	計量経済学1	1・2②		2			○		1					
	計量経済学2	1・2①		2			○							兼1
	経済統計分析	1・2③		2			○		1					
	経済時系列分析	1・2後		2			○		1					
	財政政策	1・2②		2			○							兼1
	労働市場分析	1・2前		2			○		1					
	財政学	1・2①		2			○		1					
	経済発展分析	1・2④		2			○							
	経済戦略論	1・2①		2			○			1				
	日本銀行連携講義1	1・2通		2			○		1					兼2 オムニバス・隔年
	日本銀行連携講義2	1・2通		2			○		1					兼2 オムニバス・隔年
	金融庁連携講義1	1・2通		2			○		1					兼2 オムニバス・隔年
	金融庁連携講義2	1・2通		2			○		1					兼2 オムニバス・隔年
	日本政策投資銀行連携講義1	1・2後		2			○							兼1 隔年
	日本政策投資銀行連携講義2	1・2後		2			○							兼1 隔年
	地方財政論	1・2③		2			○		1					
	経済情報分析	1・2③		2			○			1				
	経済学特講	1・2②		2			○							兼1
	公共システム論	1・2④		2			○			1				
	医療経済学	1・2③		2			○		1					
	地域発展論	1・2後		2			○							
	公共政策論	1・2③		2			○		1					
国際公共政策1	1・2①		2			○		1						
国際公共政策2	1・2①		2			○			1					
国際金融システム論	1・2①		2			○		1						
国際政治経済論	1・2前		2			○			1					
社会変動分析論	1・2②		2			○		1						
政策過程論	1・2②		2			○		1					隔年	
比較経済システム論1	1・2②		2			○							兼1 隔年	
比較経済システム論2	1・2②		2			○							兼1 隔年	
欧米経済史1	1・2④		2			○		1					隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(社会科学部社会科学経済システム専攻(博士課程前期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	欧米経済史2	1・2③		2		○			1					隔年
	日本経済史1	1・2③		2		○								隔年
	日本経済史2	1・2③		2		○								隔年
	政治経済学1	1・2②		2		○								兼1 隔年
	政治経済学2	1・2①		2		○								兼1 隔年
	経済学史1	1・2④		2		○				1				隔年
	経済学史2	1・2④		2		○				1				隔年
	外交論	1・2②		2		○				1				
	国際秩序構築論	1・2後		2		○			1					
	エネルギー政策論	1・2通		2		○								兼1
	小計 (53科目)	—	8	98	0	—	—	—	16	10	0	1	0	兼12
	合計 (55科目)	—	8	102	0	—	—	—	16	10	0	1	0	兼12
学位又は称号	修士(経済学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				経済学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
基礎科目から2単位, 専門科目の必修科目8単位, 専門科目の選択科目20単位以上の, 合計30単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文を在学期間中に提出してその審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分			2学期(4ターム)			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(社会科学部マネジメント専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	リサーチ・リテラシー	1前	2			○			7	7	1				兼1 オムニバス
	特別研究	1~2通	8			○			7	7	1	1			
	イノベーション・マネジメント論	1・2後		2		○				1					
	経営戦略論	1・2前		2		○				1					
	市場戦略論	1・2前		2		○				1					
	サービス経営論	1・2後		2		○				1					
	経営組織論	1・2前		2		○			1						
	組織行動論	1・2後		2		○			1						
	人的資源管理論	1・2前		2		○			1						
	マーケティング論	1・2前		2		○				1					
	国際マーケティング戦略論	1・2後		2		○				1					
	アントレプレナーシップ	1・2前		2		○			1						
	経営管理論	1・2後		2		○			1						
	CSR論	1・2後		2		○			1						
	財務会計論	1・2前		2		○			1						
	会計政策論	1・2後		2		○			1						
	管理会計論	1・2前		2		○					1				
	コスト・マネジメント	1・2後		2		○					1				
	所得・法人税法	1・2前		2		○			1						
	税法ケーススタディ	1・2後		2		○			1						
	社会行動データ解析	1・2前		2		○				1					
	情報システム管理学	1・2前		2		○				1					
	経営情報システム論	1・2前		2		○				1					
	企業とコミュニケーション	1・2後		2		○				1					
	社会心理学特論	1・2後		2		○				1					兼1
	地域分析	1・2前		2		○									
	公共経営論	1・2前		2		○				1					
	地域経営論	1・2後		2		○				1					
	国際関係論	1・2前		2		○			1						
	地域協力論	1・2後		2		○			1						
	比較文化論	1・2前		2		○				1					
	コミュニケーション原論	1・2後		2		○				1					
	異文化コミュニケーション論	1・2前		2		○			1						
	異文化ビジネスコミュニケーション	1・2後		2		○			1						
	アジア企業論	1・2後		2		○									兼1
	アジアビジネス事情	1・2後		2		○									兼4 オムニバス
	ビジネス日本語	1・2前		2		○									兼1
	アジアベンチャービジネス論	1・2後		2		○									兼1
	マネジメント特講(社会調査)	1・2前		2		○									兼1
	マネジメント特講(経済人類学)	1・2前		2		○									兼1
マネジメント特講(デジタルマーケティング)	1・2前		2		○									兼1	
マネジメント特講(サステナビリティ・マネジメント論)	1・2前		2		○						1				
マネジメント特講(日本の組織と経営)	1・2前		2		○									兼8 オムニバス	
マネジメント特講(経営学総論)	1・2前		2		○									兼1	
マネジメント特講(交通経営論)	1・2前		2		○									兼1	
マネジメント特講(コミュニティ心理学)	1・2前		2		○									兼1	

教育課程等の概要															
(社会科学部マネジメント専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	マネジメント特講(インターンシップ)	1・2前		2				○	1						兼1 兼6 オムニバス  兼1  兼 31
	マネジメント特講(タックス・マネジメント)	1・2後		2		○									
	マネジメント特講(地域活性化)	1・2後		2		○							1		
	マネジメント特講(地域創成論)	1・2後		2		○									
	マネジメント特講(多変量解析特論)	1・2後		2		○									
	情報ネットワーク論	1・2後		2		○				1					
	小計(52科目)	—	10	100	0		—		7	7	1	1	0	兼 31	
合計(52科目)			—	10	100	0	—		7	7	1	1	0	兼 31	
学位又は称号		修士(マネジメント)			学位又は学科の分野			経済学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目10単位, 選択科目20単位以上修得し, 30単位以上修得すること。								1学年の学期区分				2学期(セメスター制)			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校(学科)の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校(学科) (学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。



教育課程等の概要																
(国際協力研究科開発科学専攻(博士課程前期)) 【既設】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	リーダーシップ手法	1・2後		2		○									兼1	集中、隔年
	リンケージ特別演習	1～2前・後	8				○		4	3						
	経済開発論演習	1～2前・後	8				○		4	3						
	小計 (35科目)	—	16	66	0	—			4	3	0	1	0	兼10		
開発技術コース	開発技術論	1・2前		4		○			1	5		2			兼1	オムニバス
	リスク管理技術論	1・2③		2		○				1						
	交通工学	1・2①		2		○			1							
	地域・都市工学	1・2④		2		○			1							
	観光政策	1・2③		2		○			1							
	交通計画	1・2②		2		○			1			1			兼1	オムニバス
	地域開発工学	1・2②		2		○										
	海洋流体学	1・2②		2		○			1							
	地盤防災工学I	1・2③		2		○			1							
	地盤防災工学II	1・2④		2		○			1							
	応用海洋流体力学	1・2④		2		○			1							
	耐震構造学	1・2後		2		○									兼1	
	地震防災論	1・2②		2		○									兼1	
	建築計画学	1・2後		2		○			1							
	環境計画論	1・2①		2		○			1							
	環境モニタリング論	1・2後		2		○				1						集中
	草地生態学	1・2前		2		○				1						
	資源動物学	1・2前		2		○			2							
	資源生態学	1・2①		2		○				1						
	資源植物学	1・2②		2		○				1						
	応用生態系論	1・2後		2		○									兼1	集中
	バイオマス利用学	1・2③		2		○									兼3	オムニバス
	サステイナブル建築論 I	1・2②		2		○				1						
	サステイナブル建築論 II	1・2①		2		○				1						
	バイオマスエネルギー技術論	1・2③		2		○				1						
	調査方法論基礎	1・2③		2		○				1						
	地理情報システム技術論	1・2後		2		○						1			兼1	集中
	森林資源学	1・2後		2		○										集中
	エネルギー技術論	1・2①		2		○				1						
	数値環境影響評価 I	1・2前		2		○				1						集中
	数値環境影響評価 II	1・2後		2		○				1						集中
	生態系保全・管理科学	1・2④		2		○				1						
	リンケージ特別演習I	1・2後	2					○		2	4					
リンケージ特別演習II	1・2前	2					○		2	4						
地域・都市工学演習	1～2前・後	8					○		2							
技術開発論演習	1～2前・後	8					○		1	1						
環境保全論演習	1～2前・後	8					○		1							
動物資源開発論演習	1～2前・後	8					○		2							
環境資源論演習	1～2前・後	8					○			1						
エネルギー資源管理技術演習	1～2前・後	8					○			1						
リスク管理技術論演習	1～2前・後	8					○			1						
生態系保全・管理科学演習	1～2前・後	8					○			1						
小計 (42科目)	—	—	68	66	0	—			7	5	0	2	0	兼7		

教育課程等の概要															
（国際協力研究科開発科学専攻（博士課程前期））【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
平和共生コース	国際紛争論	1・2前		2		○								兼1	集中
	アジア法	1・2①		2		○								兼1	
	紛争解決論I	1・2③		2		○				1					集中
	紛争解決論II	1・2④		2		○				1					
	平和外交論	1・2前		4		○								兼1	集中
	安全保障外交論	1・2前		2		○								兼1	
	協力外交論	1・2後		4		○			1						集中
	平和と紛争研究	1・2前		4		○				1					
	日本政治論	1・2③		2		○								兼1	集中
	国際政治学	1・2前		4		○				1				兼1	
	世界法秩序論	1・2①		2		○									集中
	平和学	1・2後		4		○				1					
	平和構築論	1・2後		4		○				1					集中
	法と人権	1・2①		2		○				1					
	国際安全保障論	1・2前		4		○					1				集中
	平和・安全保障グローバル課題	1・2後		2		○							1	兼1	
	武力紛争のミクロの基礎	1・2①		2		○									集中
	平和共生演習	1～2前・後		8				○		4	3				
小計（18科目）		—	8	48	0	—			4	3	0	1	0	兼6	
合計（107科目）		—	92	204	0	—			19	15	1	5	0	兼27	
学位又は称号	修士（学術），修士（工学），修士（農学），修士（国際協力学）		学位又は学科の分野			学際領域，工学関係，農学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
研究科共通科目I・II（選択必修）6単位（共通科目I：4単位必修）、主任指導教員指定科目（必修）12単位以上、演習（必修）4単位以上を修得し、30単位以上を修得すること。						1学年の学期区分				2学期（4ターム）					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(国際協力研究科教育文化専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目	平和共生特論	1・2①・③		2		○			4	3		1			オムニバス
	環境管理特論	1・2②		2		○			3	5					オムニバス
	経済開発政策特論	1・2①・③		2		○			1			1			オムニバス
	教育開発特論	1・2①・③		2		○			2	4					オムニバス
	アジア文化特論	1・2②・④		2		○			2		1				オムニバス
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	12	12	1	2	0		
研究科共通科目	能力開発特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	フィールドワーク	1・2前・後		2				○	1						
	インターンシップ	1・2前・後		2				○	1						
	英語論文作法I	1・2前・後		2		○									兼1
	英語論文作法II	1・2前・後		2		○									兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	2	1	0	0	0		兼2
教育開発コース	日本語・日本文化論	1・2③		2		○									兼1
	教育研究方法論I	1・2前		2		○				1					
	教育研究方法論II	1・2後		2		○				1					
	教育開発計画論I	1・2前		2		○				1					
	教育開発計画論II	1・2後		2		○				1					
	国際教育協力論	1・2②		2		○			1						
	教育人材開発論	1・2①		4		○				1					兼1
	開発教育・国際理解教育論	1・2②		2		○									兼1
	教育開発とジェンダー	1・2後		2		○			5	8					オムニバス、隔年
	理科教育開発論	1・2①		4		○			1						兼1
	科学教育開発基礎論	1・2④		4		○			1						兼1
	数学教育開発論	1・2前		4		○			1						
	数学教育開発基礎論	1・2後		2		○			1						
	運動機能科学論	1・2④		2		○						1			
	民族言語教育論	1・2前		2		○			1						隔年
	民族言語文化論	1・2①		2		○			1						隔年
	ノンフォーマル教育論	1・2②		2		○				1					
	科学技術基礎能力開発論I	1・2前		2		○			1						集中
	科学技術基礎能力開発論II	1・2後		2		○			1						集中
	高等教育開発論	1・2②		2		○			1						
	国際教育交流論	1・2後		2		○			1						
	言語教育メディア論	1・2後		2		○			1						
	教育統計概論	1・2④		2		○			1						
	比較言語文化論	1・2前		2		○									兼1
	言語表現論	1・2②		2		○				1					
	教育協力実践基礎論I	1・2①		2		○			2	2					兼1
	教育協力実践基礎論II	1・2②		2		○			2	2					オムニバス
	国際教育協力実践研究	1・2③		2		○				1					
	基礎教育開発論	1・2②		2		○				1					
	教科教育授業論	1・2④		2		○			2	1					オムニバス
途上国の比較教育学	1・2①		2		○				1						
特別支援教育とインクルーシブ教育	1・2②		2		○			1							
平和社会のための教育	1・2②		2		○				1						
教育基礎論	1・2③		2		○				1						
教育開発フィールドワーク論	1・2①		2		○				3					オムニバス	
地域カリキュラム開発論	1・2後		2		○				1					隔年	

教育課程等の概要															
(国際協力研究科教育文化専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グローバル・シティズンシップ教育論	1・2④		2		○				1					隔年  オムニバス
	幼児教育・保育開発論I	1・2①		2		○				1					
	幼児教育・保育開発論II	1・2③		2		○				1					
	教育協力事業評価論	1・2③		2		○			1						
	日本の教育開発経験	1・2③		2		○			3	4					
	教育開発論演習	1～2前・後	8				○		1						
	カリキュラム開発論演習	1～2前・後	8				○		2	1					
	開発基礎教育論演習	1～2前・後	8				○		1						
	言語教育論演習	1～2前・後	8				○			1					
	高等教育交流論演習	1～2前・後	8				○		1						
	教育開発国際協力論演習	1～2前・後	8				○		2	2					
	教育人材開発論演習	1～2前・後	8				○			1					
	幼児教育・保育開発論演習	1～2前・後	8				○			1					
	小計(49科目)	—	64	90	0	—	—	—	7	7	0	1	0	兼5	
文化コース	開発と文化	1・2後		2		○									兼5 兼1  集中  兼1 兼1 兼1 兼1  集中 集中 集中  兼5
	農村経済論	1・2②		2		○			1						
	農村発展論	1・2④		2		○			1						
	アジア社会文化論	1・2②		2		○			1						
	地域研究論	1・2後		2		○									
	途上国農村地域研究	1・2後		2		○									
	南アジア農村社会発展論	1・2前		2		○									
	植民地文化論	1・2前		2		○									
	アジア地域研究論	1・2④		2		○			1						
	開発途上国地域研究	1・2①		2		○					1				
	現代人類学	1・2③		2		○					1				
	文化動態論演習	1～2前・後	8				○		1						
	農村経済論演習	1～2前・後	8				○		1						
	開発途上国地域研究演習	1～2前・後	8				○				1				
小計(14科目)	—	24	22	0	—	—	—	2	0	1	0	0	兼5		
合計(73科目)			—	88	132	0	—	—	17	15	1	3	0	兼12	
学位又は称号	修士(学術), 修士(教育学), 修士(国際協力学)		学位又は学科の分野			学際領域, 教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
研究科共通科目I・II(選択必修)6単位(共通科目I:4単位必修)、主任指導教員指定科目(必修)12単位以上、演習(必修)4単位以上を修得し、30単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2学期(4ターム)			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(総合科学研究科総合科学専攻(博士課程後期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	研究演習	1~3通	8				○		43	50	2			
	小計(1科目)	—	8	0	0		—		43	50	2	0	0	
	合計(1科目)	—	8	0	0		—		43	50	2	0	0	
学位又は称号		博士(学術)		学位又は学科の分野				学際領域						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
○履修方法 必修科目 8単位 ただし、主指導教員と協議して決める。  ○修了要件 1. 専門科目 研究演習 8単位 2. 研究指導 3. 博士論文								1 学年の学期区分			2 学期(4ターム)			
								1 学期の授業期間			15週			
								1 時限の授業時間			90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学研究科人文学専攻(博士課程後期)) 【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門科 目	特別研究指導Ⅱ(人間文化学)	1~3	6				○		5					
	特別研究指導Ⅱ(思想文化学)	1~3	6				○		5	3				
	特別研究指導Ⅱ(歴史文化学)	1~3	6				○		6	3				
	特別研究指導Ⅱ(日本・中国文学語学)	1~3	6				○		5	2				
	特別研究指導Ⅱ(欧米文学語学・言語学)	1~3	6				○		8	3				
	特別研究指導Ⅱ(地表圏システム学)	1~3	6				○		5	4				
	小計(6科目)	—	0	0	0	—	—	—	34	15	0	0	0	0
合計(6科目)		—	0	0	0	—	—	34	15	0	0	0	0	
学位又は称号	博士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
専門科目6単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 (履修科目の登録上限：なし)							1学年の学期区分				2学期(4ターム)			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(教育学研究科教育学習科学専攻(博士課程後期)) 【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
選択必修科目	学習開発学講究	1・2・3通		12		○			15	11				
	特別支援教育学講究	1・2・3通		12		○			2	4	2	1		
	教科教育学講究 (自然システム教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	7				
	教科教育学講究(数学教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	1				
	教科教育学講究 (技術・情報教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	4				
	教科教育学講究 (社会認識教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	2		1		
	教科教育学講究 (国語文化教育学領域)	1・2・3通		12		○			5	2				
	教科教育学講究(英語教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	1				
	教科教育学講究 (健康スポーツ教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	3				
	教科教育学講究 (人間生活教育学領域)	1・2・3通		12		○			3	3				
	教科教育学講究 (音楽文化教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	2				
	教科教育学講究 (造形芸術教育学領域)	1・2・3通		12		○			4	3				
	日本語教育学講究	1・2・3通		12		○			7	4				
	教育学講究	1・2・3通		12		○			8	5			兼1	
	心理学講究	1・2・3通		12		○			10	6			兼1	
	高等教育学講究	1・2・3通		12		○			7	2	1			
	学習開発学特別研究	1・2・3通		6			○		15	10				
	特別支援教育学特別研究	1・2・3通		6			○		2	2				
	教科教育学特別研究 (自然システム教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	5				
	教科教育学特別研究 (数学教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	1				
	教科教育学特別研究 (技術・情報教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	1				
	教科教育学特別研究 (社会認識教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	3				
	教科教育学特別研究 (国語文化教育学領域)	1・2・3通		6			○		5	2				
	教科教育学特別研究 (英語教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	1				
	教科教育学特別研究 (健康スポーツ教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	3				
	教科教育学特別研究 (人間生活教育学領域)	1・2・3通		6			○		3	1				
	教科教育学特別研究 (音楽文化教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	2				
	教科教育学特別研究 (造形芸術教育学領域)	1・2・3通		6			○		4	1				
	日本語教育学特別研究	1・2・3通		6			○		7					
	教育学特別研究	1・2・3通		6			○		8	5			兼1	
	心理学特別研究	1・2・3通		6			○		10	6				
	高等教育学特別研究	1・2・3通		6			○		4					
小計(32科目)		—	0	288	0	—		90	60	3	2	0	兼2	

教育課程等の概要															
(教育学研究科教育学習科学専攻(博士課程後期)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目	プロジェクト研究	1・2・3通		6			○		11	1					兼2
	大学教授学講究	1後		2		○		1	1						
	教員養成学講究	1前		2		○			2						
	教職教授学講究	1前		2		○		38	9	2	1				
	教職授業プラクティカムⅠ	2前		1			○	45	10						
	教職授業プラクティカムⅡ	2後		1			○	37	8						
	教職授業プラクティカムⅢ	3前		1			○	8	4						
	教職教育ポートフォリオ	3後		1			○	1	1						
	高等教育学プラクティカムⅠ	2前		1			○	1							
	高等教育学プラクティカムⅡ	2後		1			○	1							
	学術文章の書き方とその指導法 —大学教員を目指して—	1・2前		2			○								
	Research Methods in Education	1・2前		2			○								
	Advanced academic writing in psychology I	1・2・3前		1			○		1			1			
	Advanced academic writing in psychology II	1・2・3前		1			○		1			1			
小計(24科目)	—		0	24	0	—	—	59	18	2	2	0	兼2		
合計(56科目)	—		0	312	0	—	—	90	60	3	3	0	兼3		
学位又は称号	博士(教育学), 博士(心理学), 博士(学術)			学位又は学科の分野			教育学・保健学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件は、当該課程に3年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、10単位以上修得し、博士論文を在学中に提出し、審査及び最終試験に合格すること。 履修方法は、以下のとおり。 修了要件の10単位は、選択必修科目の中から次のとおり履修すること。 ①講究の必修2単位は、主任指導教員以外の教員が担当する科目を履修すること。 ②特別研究の必修2単位は、主任指導教員が担当する科目を履修すること。 ③選択6単位は、専門とする分野・領域の講究及び特別研究の中から履修すること。							1学年の学期区分				2学期(4ターム)				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(社会科学研究科法政システム専攻(博士課程後期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	法政システム特別演習Ⅰ	1	2				○		17	1				
	法政システム特別演習Ⅱ	1	2				○		17	1				
	法政システム特別演習Ⅲ	2		2			○		17	1				
	法政システム特別演習Ⅳ	2		2			○		17	1				
	法政システム特別演習Ⅴ	3		2			○		17	1				
	法政システム特別演習Ⅵ	3		2			○		17	1				
	小計(6科目)	—	4	8	0		—		17	1	0	0	0	
合計(6科目)		—	4	8	0		—		17	1	0	0	0	
学位又は称号	博士(法学), 博士(学術)		学位又は学科の分野			法学関係, 社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
必修科目4単位以上を習得し, かつ博士論文を提出し審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2学期(4ターム)		
								1学期の授業期間				15週		
								1時限の授業時間				90分		

(注)

- 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(社会科学部社会科学経済システム専攻(博士課程後期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	社会経済システム特別演習Ⅰ	1前	2				○		13	6				
	社会経済システム特別演習Ⅱ	1後	2				○		13	6				
	社会経済システム特別演習Ⅲ	2前	2				○		13	6				
	社会経済システム特別演習Ⅳ	2後	2				○		13	6				
	社会経済システム特別演習Ⅴ	3前	2				○		13	6				
	社会経済システム特別演習Ⅵ	3後	2				○		13	6				
	小計(6科目)	—	12	0	0		—		13	6	0	0	0	0
合計(6科目)		—	12	0	0		—	13	6	0	0	0	0	
学位又は称号	博士(経済学), 博士(学術)		学位又は学科の分野				経済学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
専門科目の必修科目12単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分				2学期(4ターム)			
							1学期の授業期間				15週			
							1時限の授業時間				90分			

(注)

- 学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には, 授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等, 研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合, 大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は, この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて, 適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(社会科学部マネジメント専攻(博士課程後期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	マネジメント特別演習Ⅰ	1前	2				○		7	6				
	マネジメント特別演習Ⅱ	1後	2				○		7	6				
	マネジメント特別演習Ⅲ	2前	2				○		7	6				
	マネジメント特別演習Ⅳ	2後	2				○		7	6				
	マネジメント特別演習Ⅴ	3前	2			2	○		7	6				
	マネジメント特別演習Ⅵ	3後	2				○		7	6				
	マネジメント講究Ⅰ	1前			2		○		7	6				
	マネジメント講究Ⅱ	1後			2		○		7	6				
小計(8科目)		—	12	0	4	—			7	6	0	0	0	
合計(8科目)		—	12	0	4	—			7	6	0	0	0	
学位又は称号	博士(マネジメント)		学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目12単位修得し、12単位以上修得すること。						1学年の学期区分				2学期(セメスター制)				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
（国際協力研究科開発科学専攻（博士課程後期））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
策開 スコ 政	経済開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			4	3		
	経済開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			4	3		
	小計（2科目）	—	8	0	0	—			4	3	0	0	0	
開 発 技 術 コ ー ス	地域・都市計画演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			2			
	地域・都市計画演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			2			
	技術開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1	1			
	技術開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1	1			
	環境保全論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	環境保全論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	動物資源開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		2				
	動物資源開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		2				
	環境資源論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	環境資源論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	エネルギー資源モデリング演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	エネルギー資源モデリング演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	リスク管理技術論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	リスク管理技術論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	生態系保全・管理科学演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	生態系保全・管理科学演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
小計（16科目）	—	—	64	0	0	—			6	5	0	0	0	
生 平 ス コ 共	平和共生演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			4	3		
	平和共生演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			4	3		
	小計（2科目）	—	8	0	0	—			4	3	0	0	0	
合計（20科目）		—	80	0	0	—			14	11	0	0	0	
学位又は称号	博士（学術），博士（工学），博士（農学），博士（国際協力学）		学位又は学科の分野			学際領域，工学関係，農学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
演習Ⅰ（必修）4単位、演習Ⅱ（必修）4単位を修得し、8単位修得すること。							1 学年の学期区分				2 学期（4ターム）			
							1 学期の授業期間				15週			
							1 時限の授業時間				90分			

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
（国際協力研究科教育文化専攻（博士課程後期））【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教育開発コース	教育開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	教育開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	カリキュラム開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		2	1			
	教科教育開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		2	1			
	開発基礎教育論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	自然環境理解教育論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	科学技術基礎能力開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	数学教育開発基礎論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	民族言語教育論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	言語教育論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	言語教育論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	高等教育交流論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	高等教育交流論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	教育開発国際協力論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	教育開発国際協力論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	比較国際教育学演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	比較国際教育学演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	途上国の比較教育学演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	途上国の比較教育学演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	教育人材開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	教育人材開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	幼児教育・保育開発論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	幼児教育・保育開発論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
	教育協力プロジェクトマネジメント演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	教育協力プロジェクトマネジメント演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
小計（25科目）	—	—	100	0	0	—	—	—	7	6	0	0	0	
文化コース	文化動態論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	文化動態論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	農村経済論演習Ⅰ	1～3前・後	4					○		1				
	農村経済論演習Ⅱ	1～3前・後	4					○		1				
	開発途上国地域研究演習Ⅰ	1～3前・後	4					○			1			
	開発途上国地域研究演習Ⅱ	1～3前・後	4					○			1			
小計（6科目）	—	—	24	0	0	—	—	—	2	0	1	0	0	
合計（31科目）		—	124	0	0	—	—	—	9	6	1	0	0	
学位又は称号	博士（学術）、博士（教育学）、博士（国際協力学）			学位又は学科の分野			学際領域、教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
演習Ⅰ（必修）4単位、演習Ⅱ（必修）4単位を修得し、8単位修得すること。							1学年の学期区分			2学期（4ターム）				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要																	
(教育学研究科教職開発専攻(専門職学位課程)) 【既設】																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	①教育課程の編成・実施	教育課程開発の実践と評価	1前		2				○		2						
	②教科等の実践的な指導方法	論理的思考教育の開発実践	1前		2				○		1	1					兼1
		科学的思考教育の開発実践	1後		2				○			2					
		アクティブ・ラーニングの開発実践(ICTを含む)	1後		2				○			1					
		道徳・人間関係教育領域の開発実践	1後		2				○		2						
	③生徒指導、教育相談	幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践(特別支援教育を含む)	1前		2				○			1	1				兼1
		教育相談・カウンセリングの理論と実践	1後		2				○				1				兼1
	④学校経営、学級経営	学級経営の理論と実践	2前		2				○		1	1					
		学校経営の理論と実践(地域とともにある学校を含む)	2前		2				○		1	1					
	⑤学校教育と教員のあり方	現代教師教育の理論と実践	2後		2				○		1	1					
		現代の教育改革	1前		2				○		1	2					
小計(11科目)		—	0	22	0			—		5	4	2	0	0		兼3	
コース選択科目	スクール・リーダーシップ	1後		2				○		1	1						
	教育行政の理論と実践	1前		2				○								兼1	
	教職員の人材育成	1後		2				○		1	1						
	学校の危機管理	1前		2				○								兼1	
	学校の経営戦略と評価	1後		2				○		1	1						
	地域教育経営の理論と実践	1後		2				○		1	1						
	教育法規の実務演習	1前後		2				○		1	2						
	学校経営・行政フィールド調査	1後		1				○		2	2						
	家庭・地域と連携した教育プログラムの実践開発	1後		2				○		2							
	発達支援と幼児児童生徒理解	1前		2				○			1		1				
	学校における教育相談	1後		2				○					1			兼1	
	異校種連携接続の実践開発	1後		2				○		1	1						
	教科横断的授業デザインと授業分析	1前		2				○			2						
	教育実践研究の技法(校内研修を含む)	1前		2				○			2						
授業開発と評価(基礎)	1前		2				○		3	2					兼5		
授業開発と評価(応用)	1後		2				○		3	2					兼5		
授業開発と評価(発展)	2前		2				○		3	2					兼5		
授業開発と評価(開発)	2後		2				○		3	2					兼5		
小計(18科目)		—	0	35	0			—		5	6	2	0	0		兼8	

教育課程等の概要															
(教育学研究科教職開発専攻(専門職学位課程)) 【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
コース必修科目	アクションリサーチ・セミナーⅠ	1前	1					○		5	4	1			兼1
	アクションリサーチ・セミナーⅡ	1後	1					○		5	4	1			
	アクションリサーチ・セミナーⅢ	2前	1					○		5	4	1			
	アクションリサーチ・セミナーⅣ	2後	1					○		4	4	1			
	小計(4科目)	—	4	0	0			—		5	4	1	0	0	
学校における実習科目	アクションリサーチ実地研究Ⅰ	1前	2					○		4	2	2			兼1
	アクションリサーチ実地研究Ⅰ (教育行政職実務)	1前	2					○		2	2				兼1
	アクションリサーチ実地研究Ⅱ	1後	2					○		4	2	2			兼1
	アクションリサーチ実地研究Ⅱ (学校管理職実務)	1後	2					○		2	2				兼1
	アクションリサーチ実地研究Ⅲ	2前	3					○		6	4	2			兼1
	アクションリサーチ実地研究Ⅳ	2後	3					○		6	4	2			兼1
小計(6科目)	—	14	0	0			—		6	4	2	0	0	兼11	
合計(39科目)		—	18	57	0			—		6	6	2	0	0	兼11
学位又は称号		教職修士(専門職)		学位又は学科の分野			教員養成関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了要件は、当該課程に2年以上在学し、細則に定める授業科目を履修の上、45単位以上修得し、課題研究報告書を在学中に提出し、審査に合格すること。</p> <p>履修方法は、以下のとおり。</p> <p>学校マネジメントコース：</p> <p>(1) 共通科目：計20単位以上修得すること。ただし、①から⑤の各領域から2単位以上修得すること。なお、教育上有益と認めるとき、20単位のうち6単位までは、以下に示す②③④の領域の単位に替えて、(2)で定めるコース選択科目の必要な単位数を超えて修得した単位を充てることができる。</p> <p>②教科等の実践的な指導方法に関する領域においては、4単位まで。</p> <p>③生徒指導・教育相談に関する領域においては、2単位まで。</p> <p>④学校経営・学級経営に関する領域においては、「学級経営の理論と実践」の2単位。</p> <p>(2) コース選択科目：11単位以上を修得すること。なお、教育実践開発コースのコース選択科目も本コース選択科目の必要な単位として履修できるが、コース選択科目の全修得単位のうち、教育実践開発コースの選択科目の単位は4割を超えないこととする。また、「学校経営・行政フィールド調査」の履修を強く要望する。</p> <p>(3) コース必修科目：4単位を修得すること。</p> <p>(4) 学校における実習科目：所属するコースの実習科目10単位を修得すること。</p> <p>教育実践開発コース：</p> <p>(1) 共通科目：計20単位以上修得すること。ただし、①から⑤の各領域から2単位以上修得すること。</p> <p>(2) コース選択科目：11単位以上を修得すること。なお、学校マネジメントコースの選択科目4単位までをコース選択科目の必要単位に含めることができる。</p> <p>(3) コース必修科目：4単位を修得すること。</p> <p>(4) 学校における実習科目：所属するコースの実習科目10単位を修得すること。</p>								1学年の学期区分		2学期(4ターム)					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行うとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要

（法務研究科法務専攻（専門職学位課程））【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
必修科目	民法1A	1前	2			○			1								
	民法1B	1前	2			○			1								
	民法2	1前	2			○			1								
	民法3	1後	2			○			1								
	民法4	1後	2			○			1								
	会社法1	1②	1			○			1								
	会社法2	1③	1			○			1								
	会社法3	1④	1			○			1								
	民事訴訟法	1後	2			○			1								
	刑法A	1①	1			○			1								
	刑法A演習	1②	1			○			1								
	刑法B	1③	1			○			1								
	刑法B演習	1④	1				○		1								
	憲法1	1前	2			○			1								
	憲法2	1後	2			○			1								
	基礎演習1	1②	1				○		6							オムニバス	
	基礎演習2	1③	1				○		6							オムニバス	
	基礎演習3	1④	1				○		7							オムニバス	
	法学概論	1①	1				○		2		1					オムニバス	
	民法演習1A	2①	1				○		1								
	民法演習1B	2②	1				○		1								
	民法演習2A	2①	1				○		1								
	民法演習2B	2②	1				○		1								
	民法演習3A	2③	1				○		1								
	民法演習3B	2④	1				○		1								
	民法演習4	2後	2				○		1								
	商法演習1A	2②	1				○		1								
	商法演習1B	2③	1				○		1								
	商法演習2A	2④	1				○		1								
	商法演習2B	3①	1				○		1								
	民事手続法1	2前	2				○		1								
	民事手続法2	2後	2				○		1								
	刑法C	2②	1				○		1								
	刑法C演習	2③	1					○	1								
	刑事訴訟法1	2①	1				○			1							
	刑事訴訟法2	2③	1				○			1							
	刑事訴訟法1演習	2②	1					○		1							
	刑事訴訟法2演習	2④	1					○		1							
	行政法1	2前	2				○		1								
	行政法2	2後	2				○		1								
	憲法演習1	2①	1					○	1								
	憲法演習2	2後	2					○	1								
	民事法総合演習	3②③	1					○	7							オムニバス	
	刑事法総合演習	3②③	1					○	1	1						オムニバス	
	公法総合演習	3②③	1					○	2							オムニバス	
	実務基礎科目群	法曹倫理1	2前	2			○			2							オムニバス
		法文書作成	3前	2			○			3							オムニバス
		民事訴訟実務基礎1	2②	1			○			3							オムニバス
		民事訴訟実務基礎2	2③	1			○			3							オムニバス
		刑事訴訟実務基礎	3前	2			○			1							兼1 オムニバス
		模擬裁判	3①	1					○	1							
小計（51科目）		—	68	0	0	—			16	1	1	0	0	兼1	—		
選択必修科目	法律基本科目群 （1単位選択）	刑法演習1	2①		1			○	1								
		刑法演習2	2④		1			○	1								
	法律基本科目群 （1単位選択）	重点演習（公法1）	3③		1			○	2							オムニバス	
		重点演習（公法2）	3④		1			○	2							兼1 オムニバス	
		重点演習（民事法1）	3③		1			○	6							オムニバス	
		重点演習（民事法2）	3④		1			○	2							オムニバス	
		重点演習（民事法3）	3④		1			○	3							オムニバス	
		重点演習（刑事法1）	3③		1			○	2							オムニバス	
		重点演習（刑事法2）	3④		1			○	1								
		重点演習（刑事法3）	3④		1			○	1	1							
	重点演習（刑事法4）	3④		1			○	1									
	実務基礎科目群 （1単位選択）	リーガル・クリニック	3前		1				○	1							
		エクスターンシップ	2後		1				○	1							

教育課程等の概要

（法務研究科法務専攻（専門職学位課程））【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎法学・隣接科目群 （4単位選択）	法的思考法	2前		2		○					1				
	法理学	3後		2		○					1				
	アジア法1	2②		1		○			1						
	アジア法2	2③		1		○			1						
	政治学	2後		2		○									兼1
	法社会学	2前		2		○									兼1
	小計（19科目）	—	0	23	0	—			15	1	1	0	0	兼3	—
実務基礎科目群	法曹倫理2	2後		2		○			2						オムニバス
	ローヤリング	3①		1			○		1						
	臨床法務	3前		2		○			1						
	公法実務基礎	3前		1		○									兼2 オムニバス
選択科目 展開・先端科目群	消費者法	2後		2		○									兼1
	不動産登記法	3前		2		○									兼1
	債権回収法	3後		2		○									兼1
	知的財産法1	3前		2		○									兼1
	知的財産法2	3後		2		○									兼1
	企業決済法	3①		1		○			1						
	企業金融法	3前		2		○			1						
	国際私法・取引法	2前		2		○									兼1
	民事執行保全法	3前		2		○			1						
	倒産処理法1	2前		2		○									兼1
	倒産処理法2	3前		2		○									兼1
	労働法1	2後		2		○			1						
	労働法2	3前		2		○			1						
	労働法演習	3後		2		○			1						
社会保障法	3前		2		○			1							
税法	3前		2		○									兼2 オムニバス	
	小計（20科目）	—	0	37	0	—			8	0	0	0	0	兼11	—
合計（90科目）			—	68	60	0	—		17	1	1	0	0	兼15	—
学位又は称号		法務博士（専門職）			学位又は学科の分野			法曹養成関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>■3年標準型 合計99単位以上修得すること。</p> <p>□必修科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【法律基本科目群】から59単位、【実務基礎科目群】から9単位</li> </ul> <p>□選択必修科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【法律基本科目群（刑法演習1、刑法演習2）】の中から1単位選択</li> <li>・【法律基本科目群（重点演習（公法1～2、民法法1～3、刑事法1～4））】の中から1単位選択</li> <li>・【実務基礎科目群】の中から1単位選択</li> <li>・【基礎法学・隣接科目群】の中から4単位選択</li> </ul> <p>□選択科目※1※2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【展開・先端科目群】の中から12単位以上選択</li> <li>・選択必修科目【実務基礎科目群、基礎法学・隣接科目群】、選択科目【実務基礎科目群、展開・先端科目群】の中から5単位以上選択。ただし、選択必修科目として選択した科目を除く。</li> <li>・選択必修科目【全ての科目群】、選択科目【全ての科目群】の中から7単位以上選択。ただし、選択必修科目として選択した科目を除く。</li> </ul> <p>■2年短縮型（法学既修者） 合計72単位以上修得すること。</p> <p>□必修科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【法律基本科目群】から32単位、【実務基礎科目群】から9単位</li> </ul> <p>□選択必修科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【法律基本科目群（刑法演習1、刑法演習2）】の中から1単位選択</li> <li>・【法律基本科目群（重点演習（公法1～2、民法法1～3、刑事法1～4））】の中から1単位選択</li> <li>・【実務基礎科目群】の中から1単位選択</li> <li>・【基礎法学・隣接科目群】の中から4単位選択</li> </ul> <p>□選択科目※1※2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【展開・先端科目群】の中から12単位以上選択</li> <li>・選択必修科目【実務基礎科目群、基礎法学・隣接科目群】、選択科目【実務基礎科目群、展開・先端科目群】の中から5単位以上選択。ただし、選択必修科目として選択した科目を除く。</li> <li>・選択必修科目【全ての科目群】、選択科目【全ての科目群】の中から7単位以上選択。ただし、選択必修科目として選択した科目を除く。</li> </ul> <p>※1 大学院共通授業科目及び他研究科の授業科目のうち研究科が認めるものについては、4単位まで修了要件単位数に含めることができる。</p> <p>※2 法律基本科目以外の科目（実務基礎科目群、基礎法学・隣接科目群、展開・先端科目群）を17単位以上取得すること。なお、展開・選択科目群から12単位以上取得すること。</p>						1学年の学期区分			2学期（4ターム）						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			100分						

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻 博士課程前期)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発 展 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 川野 徳幸/2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(267 小宮山 道夫/2回) 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割</p> <p>(222 河合 幸一郎/1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(223 中坪 孝之/1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(104 山根 達郎/2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式
	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida "Japanese policy experience: Success and Failures" lesson4 Masaru Ichihashi "Industrial Policy and Economic growth" lesson5 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"1 lesson6 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"2 lesson7 Osamu Yoshida "Japanese ODA and its Asia Policy" lesson8 Mari Katayanagi "Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective"</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(226 金子 慎治/1回) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(331 三角 幸子/1回) JICAの活動、役割</p> <p>(224 吉田 雄一朗/1回) 日本の政策経験</p> <p>(227 市橋 勝/1回) 産業政策と経済成長</p> <p>(225 張 峻屹/2回) 日本の環境政策の歴史</p> <p>(2 吉田 修/1回) 日本のODAとアジア政策</p> <p>(3 片柳 真理/1回) 平和構築から見た広島復興</p>	
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, becuase Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall "Japanese experience of development in Agriculture and Remote area" lesson3 Koki Seki "Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way ofLiving" lesson4 Kinya Shimizu "A History of Education in Japan" lesson5 Kinya Shimizu "Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	<p>Education”            lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health”            lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history"            lesson8 Discussion            (和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(231 馬場 卓也/2回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ</p> <p>(4 MAHARJAN, KESHAV LALL/1回) 農業開発における日本の経験</p> <p>(5 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面</p> <p>(228 清水 欽也/2回) 日本における教育開発</p> <p>(229 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究</p> <p>(230 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム</p>	
	SDGs への学問的アプローチ A	<p>(概要) 国際目標 SDGs と広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017 の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ A では、人権を中心に取り組む。B と合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内 SDGs 目標番号)</p> <p>(231 馬場 卓也/2回) 1. コースの概要、SDGs と貧困問題 (1, 17) : SDGs の設置経緯について説明し、17 の目標の中で、貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明、議論する。 8. 総括討議</p> <p>(232 実岡 寛文/1回)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12) : 地球規模で食料の持続可能性を考える時、先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態、栄養改善などについて議論する。</p> <p>(229 田中 純子/1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6) : 安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから、疾病対策を含む健康維持のための社会医学的、公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(230 森山 美知子・268 RAHMAN MD MOSHIUR/1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3) : プライマリ・ヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス、非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(234 永田 良太/1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4) : 情報化による急激な変化が進む中で、先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(233 石田 洋子/1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題、国家間及び各国内の不平等削減に係る課題、そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(332 隈元 美穂子/1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み (17) : SDGsを推進している立場から、その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p>	
	SDGs への学問的アプローチ B	<p>国際目標SDGsと広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(3 片柳 真理/2回)</p> <p>1. コース概要、平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>8. 総括討議</p> <p>(270 長谷川 祐治/1回)</p> <p>2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。</p> <p>(269 日比野 忠史/1回)</p> <p>3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(105 佐野 浩一郎/1回)</p> <p>4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題について議論する。</p> <p>(236 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9) : 包摂的で強靱(レジリエント)なインフラ構築、持</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(235 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(333 川本 亮之/1回)</p> <p>7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11): 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを、SDGsの観点から議論する。</p>	
	SDGs への実践的アプローチ	<p>SDGsは、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現、女性の社会進出の促進、再生可能エネルギーの利用、経済成長と生産的で働きがいのある雇用の確保、強靱(きょうじん)なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進、不平等の是正、気候変動への対策等の17の目標と各目標を達成するための169のターゲットからなる。これらを実現するために、最も影響力があるのは小中高等学校における教育である。授業では、次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え、行動力を育成しているかについて実践的にアプローチする。具体的には、SDGsの理念、基本的な考え方を学ぶとともに、ユネスコスクールに認定されている学校への訪問・見学等を行う。社会人を優先する。</p>	共同
	ダイバーシティの理解	<p>SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 坂田 桐子・273 櫻井 里穂 /2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論: 特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(297 北梶 陽子/5回)</p> <p>2. ゲーム演習: 多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(7 大池 真知子・297 北梶 陽子/1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション: 理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
データリテラシー	<p>(概要) ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(274 宮尾 淳一/4回)</p> <p>ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(238 柳原 宏和/4回)</p>	オムニバス方式	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフト R を用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	
	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(303 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(239 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(275 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(241 粟井 和夫・240 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(304 田中 剛/1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(229 田中 純子/1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(276 大上 直秀/1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(242 久保 達彦/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	この授業の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア (生き方) を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報 (表情、視線、態度など) は重要な意味を持つため、本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3)		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	キャリア 開発・ データ リテラ シー科 目	<p>高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。授業の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素（視線、あいづち、うなずき等）が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を修得する。</p>	
		<p>現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でない、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。</p> <p>そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する。</p> <p>講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。</p>	
		<p>（概要）本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際について事例を交えて説明する。</p> <p>（オムニバス形式／全15回）</p> <p>（244 西村 浩二／5回） 情報セキュリティの基本概念および情報セキュリティ管理を実現するための体制構築や手法について、事例を交えて解説する。</p> <p>（292 岩沢 和男／5回） 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアシステムを構成するための経営戦略やプロジェクトマネジメントについて解説する。</p> <p>（298 渡邊 英伸／5回） 情報セキュリティを構成する基本技術および関連技術について、情報セキュリティ対策の実際を事例を交えて解説する。</p>	オムニバス形式
		<p>MOT 入門</p> <p>本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベーション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。</p>	
		<p>アントレプレナーシップ 概論</p> <p>イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。</p>	
	人間社会科学特別講義	<p>（概要）文学、史学、哲学、言語学、経済学、経営学、法学、政治学、社会学、心理学、教育学などの、人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野の研究内容について、自然科学や生命科学を含む他分野との関連を踏まえて解説</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目		<p>する。それぞれの分野に関する専門的知見を学び、人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに、幅広い分野を俯瞰的に理解することを旨とする。講義形式であるが、少人数による討論等も実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 衛藤 吉則・26 森田 愛子・23 星野 一郎・3 片柳 真理/1回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(8 溝渕 園子・245 本田 義央・203 古川 昌文・109 上野 貴史/1回) 多文化社会、比較文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(107 後藤 雄太・10 末永 高康・106 川村 悠人/1回) 哲学、倫理学、思想文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(108 奈良 勝司・11 本多 博之・12 前野 弘志/1回) 日本史学、東洋史学、西洋史学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(16 安嶋 紀昭・110 伊藤 奈保子・219 笛吹 理絵/1回) 地理学、考古学、文化財学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(13 小川 恒男・15 小林 英起子・251 柳澤 浩哉・14 今林 修/1回) 日本語学、日本文学、中国語学、中国文学、英米文学語学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(21 大内田 康德・112 大河内 治・20 大澤 俊一・214 中川 雅央/1回) 経済学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(113 松嶋 健・197 金 幸ウク・204 吉田 有紀・22 PELTOKORPI VESA MATTI/1回) 経営学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(19 宮永 文雄・252 片木 晴彦/1回) 法学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(247 永山 博之・104 山根 達郎/1回) 政治学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(18 江頭 大蔵/1回) 社会学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(17 服巻 豊・111 上手 由香・115 梅村 比丘・27 杉村 和美/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(24 長谷川 博・25 井上 永幸・114 杉浦 義典・278 進矢 正宏/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野と</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目		<p>の関連を踏まえて解説する。  (248 小山 正孝・250 山田 浩之・293 DELAKORDA KAWASHIMA TINKA/1回)  教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(249 松見 法男・279 中矢 礼美・253 松浦 武人・228 清水 欽也/1回)  教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	人間社会科学のための科学史	<p>(概要) 文学, 史学, 哲学, 言語学, 経済学, 経営学, 法学, 政治学, 社会学, 心理学, 教育学などの, 人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野について, それらが自然科学や生命科学を含む他分野とどのように関連しながら発展し, 現代社会を形成してきたかを解説する。それぞれの分野の歴史を学ぶことで, 人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに, 歴史を接点として幅広い分野を俯瞰的に理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(255 草原 和博・250 山田 浩之・254 加藤 厚海・224 吉田 雄一郎/1回)  ガイダンスとして, 本講義の全体像を解説する。</p> <p>(28 高永 茂・207 奥村 真理子・34 宮川 朗子・206 松本 舞/1回)  多文化社会, 比較文化などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(116 赤井 清晃・205 藤田 衛・29 有馬 卓也・299 岡本 慎平/1回)  哲学, 倫理学, 思想文化などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(117 船田 善之・30 八尾 隆生・31 井内 太郎/1回)  日本史学, 東洋史学, 西洋史学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(36 友澤 和夫・38 野島 永・118 後藤 秀昭・37 奥村 晃史/1回)  地理学, 考古学, 文化財学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(32 有元 伸子・35 今田 良信・251 柳澤 浩哉・33 大地 真介/1回)  日本語学, 日本文学, 中国語学, 中国文学, 英米文学語学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(119 小野 貞幸・120 折登 由希子・39 角谷 快彦・169 高橋 新吾/1回)  経済学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(121 陳 俊甫・41 林 幸一・122 徐 恩之・40 築達 延征/1回)  経営学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(19 宮永 文雄・256 秋野 成人・257 田村 耕一/1回)  法学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(247 永山 博之/1回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目		<p>政治学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(18 江頭 大藏・198 中空 萌/1回)</p> <p>社会学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(42 森永 康子・123 清水 寿代・208 神原 利宗・27 杉村 和美/1回)</p> <p>心理学・行動科学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(124 上泉 康樹・127 大嶋 広美・126 有賀 敦紀・125 小川 景子/1回)</p> <p>心理学・行動科学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(255 草原 和博・250 山田 浩之・294 WALTER BRETT RAYMOND/1回)</p> <p>教育学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(249 松見 法男・280 牧 貴愛・253 松浦 武人・281 三輪 千明/1回)</p> <p>教育学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	異分野協働プロジェクト	<p>複数の分野が協働して取り組むプロジェクトを取り上げ、受講生それぞれの専門分野がそのプロジェクトにどのように貢献できるかを考察する。分野は人文社会科学、自然科学、生命科学の全てを対象とする。また、プロジェクトは学内のものに限定せず、学外の研究者も積極的に活用する。異分野の学生で構成するグループを構成し、講義とグループワークを通して、人間や社会を多角的に捉え、他分野との共働により共通の課題を解決する過程を体験する</p>	
	未来創造思考（基礎）	<p>本講義では、新規事業を開発・実行するために必要な知識や方法として、ビジネスプラン、マーケティング、資金調達、事業運営などに関する計画と実行についての理解が必要であるという観点に立ち、起業の観点から未来創造思考（future creation thinking）を実践するための基礎を学ぶ。未来創造思考は未来を創造するための思考枠組みであり、現実の問題を解決し望ましい未来の実現を図るプロフェッショナルにとって必須のスキルである。新ビジネスの開発・事業化のみならず、社会問題の解決や組織の改革などに必要とされるものである。本講義では、未来創造思考の概念、問題の定義、未来の構想、チームビルディング、戦略的実行という未来創造思考に関する講義と演習を通して、自ら率先して未来創造を実践するための基礎知識と基礎能力を育成する。</p>	
	国際標準化論	<p>広く世の中経済・社会活動は、ルール（標準等「任意」及び規制等の「強制的なルールにより定められた土俵上で行われているが、標準等の任意ルールは誰でも主導することが可能であるので、民間企業であっても積極的にルール作り取組まなければ、競争に生き残れないことを認識する。実例を元に国際的な標準化についての問題点や対応策について説明する。</p>	
	理工系のための経営組織論	<p>過去におけるものづくり現場での無数の観察結果や証言を凝縮する形で、現場から見上げた歴史及び世界観を総括し、今後の日本のものづくり産業の競争戦略・企業戦略について講義する。これまでの世界のものづくり産業の興廃の歴史などを概観することによって、現場の能力構築やイノベーション・アーキテクチャをどう育てていくかが重要な時代となってきたことが明確になってきている。今後、ものづくり現場と本社が一体となって、どのような方向性で取り組むべきかについて学ぶ。</p>	
平和教育の構築への実践的アプローチ	<p>平和を希求する広島大学において、平和教育を構築することは重要な課題である。グローバル社会の進展により多様な文化的歴史的背景をもった人々が共生す</p>	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>る時代において、平和教育をどのように構築していけばよいか、ヒロシマからの視点を含め、実践的にアプローチする。授業では、積極的平和観、消極的平和観等の平和教育に関する理論について学び、各国における平和の概念について検討する。さらに、広島市内の小中学校、附属学校等、平和教育を実践している学校や平和教育関係施設への訪問・見学等、実践的なアプローチを行い、平和を継続発展するための実践力を培う。社会人を優先する。</p>	
専攻 共通 科目	人文社会科学のための研究法と倫理	<p>(概要) 人文科学や社会科学で用いられる代表的な研究法について解説する。それぞれの分野における主要な研究を取り上げ、問題への気づきからその解決に至る過程がどのように進行していったのかを具体的に調べることにより、受講生の専門分野における方法論との異同や特徴についての理解を深める。また、人文社会科学領域における研究倫理について、具体的な事例を取り上げて解説し、受講生自身の研究テーマと関連づけながら倫理意識を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(105 佐野 浩一郎・130 秋山 高志/1回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(9 衛藤 吉則・55 青木 利夫/1回) 人文科学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(52 荒見 泰史・47 妹尾 好信/1回) 人文科学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(46 後藤 弘志・53 市川 浩/1回) 人文科学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(54 浅野 敏久・137 深見 兼孝/1回) 人文科学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(44 久保田 啓一・50 井口 容子/1回) 人文科学の諸分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(131 奥居 正樹・49 千田 隆/1回) 経済学、経営学を中心とする分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(48 鈴木 喜久・23 星野 一郎/1回) 経済学、経営学を中心とする分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(19 宮永 文雄・133 友次 晋介/1回) 法学、政治学、社会学を中心とする分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(132 掛江 朋子・18 江頭 大蔵/1回) 法学、政治学、社会学を中心とする分野における主要な研究法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じうる倫理的問題を提起する。</p> <p>(26 森田 愛子・136 中島 健一郎/1回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目		<p>心理学・行動科学分野における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題について解説する。</p> <p>(51 船瀬 広三・209 吉本 早苗/1回)</p> <p>心理学・行動科学分野における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題について解説する。</p> <p>(26 森田 愛子・199 平川 真/1回)</p> <p>心理学・行動科学分野における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題について解説する。</p> <p>(135 三村 太郎・134 眞嶋 俊造/2回)</p> <p>人文社会科学領域における研究倫理について総括的に解説する。</p>	
	人文社会科学と社会	<p>(概要) 人文科学、社会科学の諸分野における研究が社会にどのような影響を及ぼし、また社会からどのような影響を受けてきたのかについて、自然科学や生命科学を含む他分野との関連も踏まえて解説する。それぞれの分野と社会との繋がりを学ぶことにより、人文科学、社会科学が今後の社会の形成においてどのような役割を期待されているのかの理解につなげる。また、受講生自身の研究テーマが人間社会の発展にどのような関与をし得るのかを考察することにより、研究意欲の向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(247 永山 博之・148 相馬 敏彦・227 市橋 勝/1回)</p> <p>ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(210 劉 金鵬・141 白井 純・56 中村 平/1回)</p> <p>多文化社会、比較文化などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(138 裕 智樹・57 根本 裕史/1回)</p> <p>哲学、倫理学、思想文化などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(59 金子 肇・58 中山 富廣・139 足立 孝/1回)</p> <p>日本史学、東洋史学、西洋史学などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(62 竹広 文明・145 後藤 拓也・146 有松 唯/1回)</p> <p>地理学、考古学、文化財学などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(142 陳 チュウ・60 川島 優子・61 吉中 孝志/1回)</p> <p>日本語学、日本文学、中国語学、中国文学、英米文学語学などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(140 下岡 友加・144 今道 晴彦・143 大野 英志/1回)</p> <p>日本語学、日本文学、中国語学、中国文学、英米文学語学などの分野と社会との関りについて、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(64 瀧 敦弘・65 友田 康信・282 後藤 大策/1回)</p> <p>経済学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(149 原田 隆・66 小柏 葉子・67 盧 濤/1回)</p> <p>経営学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(19 宮永 文雄／1回) 法学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(247 永山 博之／1回) 政治学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(18 江頭 大蔵・5 関 恒樹／1回) 社会学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(63 石田 弓・147 尾形 明子・27 杉村 和美／1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(151 田中 亮・68 岩崎 克己・150 山根 典子／1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(69 中條 和光・152 中尾 敬・220 宮谷 真人／1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	リサーチメソッド	リサーチメソッドでは、社会科学論文の作成をゴールとする研究活動の展開方法を実践的に習得する。論文作成を見据え、明確な問題設定をするための先行研究の収集、科学論文の読み方とその包括的なレビューの方法、リサーチ・クエスチョンと仮説の構築、仮説検証を行うためのデータ収集の技法やその分析方法の選定方法、分析結果の提示やそのプレゼンテーション技法に至るまでのプロセスを、実践的に習得する。	
プログラム 専門科目	比較日本文化学研究A	この授業は、戦後日本知識人の言論について考える。戦争を体験した世代によって議論された「日本」という国の来し方と行方に関する様々な言説を再検討する内容である。新聞と雑誌を中心とする資料を取り上げながら、資料精読・発表、及びテーマごとのディスカッションを行う。特に、「アジア」の語り方に注目し、日本とアジアをめぐる諸論を考察するとともに、知識人によって提起された「日本のあり方」を様々な射程で読み直し、「比較的」な視野で日本文化を構築する能力を身につける。	
	比較日本文化学研究B	この授業は、戦後日本知識人の言論について考え、戦争を体験した世代によって議論された「日本」という国の来し方と行方に関する様々な言説を再検討する内容である。新聞と雑誌を中心とする資料を取り上げながら、資料精読・発表、及びテーマごとのディスカッションを行う。主に戦後日本知識が行った知識生産をいかにして継承することについて、「日本」の外部からの視点を加えながら検討し、「比較的」な視野に備えられた思想研究の方法を習得する。	
	比較日本文化学研究C	「文化」を知るためには他の文化と比較をすることが有効な手段となる。本授業では、「日本文化」を世界諸地域の文化との比較を通じて相対化し、文化の動的性格と多様性の諸相を検討し、その上で、相互理解の可能性と方法を探る。各回のテーマはできるだけ身近なものを取り上げる。授業形態は、講義と講読及び出席者の発表や討論を適宜組み合わせるが、授業中は参加者の積極的な発言を期待している。資料は必要に応じて配布する。授業への取り組みと期末のレポートによって評価する。	
	比較日本文化学研究D	比較による相対化を通じた客観化が文化理解には必要となる。本授業では、主としてアジア各地の文化と日本のそれとの比較によって文化の相対化と客観化について考える。とりあげる内容はできるだけ身近なものが望まれる。講義、講読、発表、討論、を随時おこなう。参加者の斬新な考え方が歓迎され、己を空しくすれば新しい境地が開く。資料は必要な場合に用意される。評価は、授業への取り組みとレポートによる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	日本文化論講義A	「日本文化」を多分野の見地で検討し、文化というものが形成された道なりやその背後に存在する複雑な背景を探求する。文字資料を基礎とした伝統的な人文文学の研究手法にとらわれず、日本と西洋の建築士に関する比較研究や日本経済が文化形成に及ぼした影響、又は日本語と諸外国語の対照研究など、複眼的な「日本文化論」を形成させるための視点を提供する。また、マルチメディアを活用しながら講義を中心とする授業を行い、受講者の関心に合わせて討論する時間も用意する。	
	日本文化論講義B	戦後における歴史的な事象に関する記述を中心に講義を行う。日本近現代史、特に同時代史の歴史と文化について、相対的な視点に立って理解する能力を身に付けることを目標としている。授業形態は主に講義とテキスト精読である。「現在」を理解するためのもっとも近い歴史へ注目し、国際的な視野を取り入れながら、様々な角度から「日本学」を研究する上に、不可欠とされる同時代史の知識を学問として取り扱う方法を学び、独自の日本文化論を形成させる力を養う。	
	日本文化論演習A	「日本文化」を多分野の見地で検討し、文化というものが形成された道なりやその背後に存在する複雑な背景を探求する。文字資料を基礎とした伝統的な人文文学の研究手法にとらわれず、日本と西洋の建築士に関する比較研究や日本経済が文化形成に及ぼした影響、又は日本語と諸外国語の対照研究など、複眼的な「日本文化論」を形成させるための視点を提供し。また、マルチメディアを活用しながら講義を中心とする授業を行い、受講者の関心に合わせて討論する時間も用意する。	
	日本文化論演習B	戦後における歴史的な事象に関する記述を中心に演習を行う。日本近現代史、特に同時代史の歴史と文化について、相対的な視点に立って理解する能力を身に付けることを目標としている。授業形態は主にテキストの精読とディスカッションである。「現在」を理解するためのもっとも近い歴史へ注目し、国際的な視野を取り入れながら、様々な角度から「日本学」を研究する上に、不可欠とされる同時代史の知識を学問として取り扱う方法を学ぶ。	
	歴史文化論講義A	専門分野「比較日本文化学」とアジアの歴史文化の探究という主題を重ね合わせながら、探究の方法論自体を俎上に載せて講義=討議する。教育研究の営み自体と、知の生成と流通を反照的に考え、さらにナショナリズムと一國史の乗り越え（歴史学）が問われてきたことを振り返りつつ、資本と国家の結託という問題を手放さずに議論する。さまざまな（学問）領域で問題になっている議論や著作を持ち寄り、歴史の探究を踏まえながら、現在の社会文化を理解するための講読・精読と、報告によるディスカッションを実践する。	
	歴史文化論講義B	専門分野「比較日本文化学」とアジアの歴史文化の探究という主題を重ね合わせながら、探究の方法論自体を俎上に載せて講義=討議する。教育研究の営み自体と、知の生成と流通を反照的に考え、さらに「文化を書く」ことの行為遂行性と政治（人類学）が問われてきたことを振り返りつつ、マジョリティとマイノリティの権力関係という問題を手放さずに議論する。さまざまな（学問）領域で問題になっている議論や著作を持ち寄り、歴史の探究を踏まえながら、現在の社会文化を理解するための講読・精読と、報告によるディスカッションを実践する。	
	歴史文化論演習A	広島県と中国地方を起点に東アジアとの関係の歴史と文化の諸相に分け入り、そこで生きた人びとの歴史経験を想像する試みをフィールド・トリップという方法を交えながら進めたい。フィールド・トリップについては、瀬戸内海の島嶼の歴史と文化交流、軍都や移民送り出し地域としての広島の近代史、被爆を含めたアジア・太平洋戦争の記憶と歴史経験などを対象とする。自らの問題関心が押し広げられることを、参加者同士の触発され合う関係性のなかで培っていく。	
	歴史文化論演習B	台湾や東アジア諸社会をめぐる植民地史と植民主義をテーマに、それに関わって生きた人びとの歴史経験と記憶を描くことを考える。また、植民主義や脱植民化、ナショナリズムに関わり、歴史や文化を記述すること自体の問題についても探究する。参加者の問題関心の所在を話し合い、その都度精読テキストを設定しながら、発表討議の会を織り込む。日本との関係を描いた映像資料の比較検討からも、感情の表象などをめぐって討議したい。	
	表象文化論講義A	本講義では、明治期以降の日本近代文学の形成過程において、〈異文化〉としての外国文学がどのように〈自文化〉とつながるように〈翻訳〉され、読者にいかなる形で受容されたのかを検討する。講義内容をふまえた各自の発表によって、具体的な事例が示す翻訳文学の諸相を知るとともに、翻訳研究の基礎知識を習得する。領域横断的の展開を見せる翻訳研究の中で翻訳文学を捉えることを通して、文	講義 5時間 演習 10時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		学の表現やジャンルの特性への理解を深めたい。	
	表象文化論講義B	本講義では、1980年代に迎えたとされる、翻訳学の「文化的転回」(cultural turn)に関連する文化理論を取り上げ、比較文学研究の観点から検討する。講義内容をふまえて欧米の基礎理論を講読しながら、非西欧諸国において、翻訳文学が果たす役割について討議する。二言語間の純粋な変換行為に映る翻訳を、二文化間の、錯綜した、双方向的な、しばしば不均一な空間で行われる交渉・交流現象として捉える力を涵養したい。	講義 5時間 演習 10時間
	表象文化論演習A	本演習では、選定したテキストの読解を通して、19世紀から現在に至るまで、文化接触を繰り返しながら、新たな形で流通＝生成し続ける〈世界文学〉の概念とその可能性及び困難を検討する。そうした視点から日本近現代文学作品を分析した各自の発表をもとに、「読みのモード」としての世界文学に関わる諸理念を理解する。また、「世界文芸市場」をめぐる討議を行うことによって、人や情報の移動が引き起こす言語文化の諸問題へと視野の拡大を図る。	
	表象文化論演習B	本演習では、選定したテキストの読解によって、文学が、翻訳を通して、異なる文化圏・言語圏に入り、世界中に移動しながら、オリジナルの言語が抱える文化を反映し、また新しい生命を授けられていく動態を検証する。各自の発表を軸に、世界文学の〈正典〉の形成、文学という制度、世界機構との関係について討議する。既存の比較文学研究における受容論／影響論の成果に対する理解を深めるとともに、それを超える横断的なリーディングの可能性へと視野を広げたい。	
	言語文化論講義A	(1) 講義内容：言語と文化、地域方言と共通語、社会方言、ポライトネス、親密性とコミュニケーション、自己とコミュニケーション、人間関係とコミュニケーション (2) 講義の目標：①身近な日本語の事例を材料にして、日本語によるコミュニケーションがどのような仕組みで成り立っているかを考察する。コミュニケーションに関する基礎知識を習得し日常生活に活用してもらいたいと考えている。②日常生活の中で異文化と接触する機会が増えている状況を考慮に入れ、異文化コミュニケーションに関する既存の理論や研究成果の検証を通して異文化理解を深めるとともに、文化比較の視点を習得する。	
	言語文化論講義B	(1) 講義内容：談話の構造、談話を理解するメカニズム、身体とコミュニケーション、メディアの影響、社会関係とコミュニケーション、情報社会とコミュニケーション、現代のコミュニケーションの特徴 (2) 講義の目標：①身近な日本語の事例を材料にして、日本語によるコミュニケーションがどのような仕組みで成り立っているかを考察する。コミュニケーションに関する基礎知識を習得し日常生活に活用してもらいたいと考えている。②日常生活の中で異文化と接触する機会が増えている状況を考慮に入れ、異文化コミュニケーションに関する既存の理論や研究成果の検証を通して異文化理解を深めるとともに、文化比較の視点を習得する。	
	言語文化論演習A	(1) 演習の内容：次のテーマに関連する論文を取り上げて検討する。言語と文化、地域方言と共通語、社会方言、ポライトネス、親密性とコミュニケーション、自己とコミュニケーション、人間関係とコミュニケーション (2) 演習の目標：①言語学、言語教育関連の学術論文を批判的に検討する。学術論文の分析を通して、言語文化をより深く理解するとともに論文の書き方を習得する。②日常生活のなかで観察される諸現象の背後にある原理や法則性、歴史性などを考えている。③言語研究に関する知識を応用して、諸現象の観察から生まれた疑問をいかに研究につなげていくかを習得する。	
	言語文化論演習B	(1) 演習の内容：次のテーマに関連する論文を取り上げて検討する。談話の構造、談話の理解、身体とコミュニケーション、メディアの影響、社会関係とコミュニケーション、情報社会とコミュニケーション、現代のコミュニケーション (2) 演習の目標：①言語学、言語教育関連の学術論文を批判的に検討する。学術論文の分析を通して、言語文化をより深く理解するとともに論文の書き方を習得する。②日常生活のなかで観察される諸現象の背後にある原理や法則性、歴史性などを考えている。③言語研究に関する知識を応用して、諸現象の観察から生まれた疑問をいかに研究につなげていくかを習得する。	
超域文化論講義A	(1) 講義内容：この講義では東アジアと東南アジアを中心に取り上げて、映像を駆使しながら文化比較を行う。(2) 講義の目標：現代社会では人や文化が国境を越えて頻りに接触し合っている。そのなかにあつて人文学の研究はますます多様化・複雑化しており、新たな文化論の構築が求められている。この授業では、人間に関わる様々な社会文化事象について、国や地域、言語、ジャンル等の境界		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		を越えた領域横断的な視点から講義を行う。	
	超域文化論講義B	(1) 講義内容：この講義ではヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカを中心に取 り上げて、映像を駆使しながら文化比較を行う。(2) 講義の目標：現代社会では 人や文化が国境を越えて頻りに接触し合っている。そのなかにあつて人文学の研 究はますます多様化・複雑化しており、新たな文化論の構築が求められている。 この授業では、人間に関わる様々な社会文化事象について、国や地域、言語、ジ ャンル等の境界を越えた領域横断的な視点から講義を行う。	
	超域文化論演習A	(1) 演習の内容：この演習では東アジアと東南アジアの各国を舞台にした映像 を比較文化の観点から分析する。(2) 演習の目標：現代社会では人や文化が国境 を越えて頻りに接触し合っている。そのなかにあつて人文学の研究はますます多 様化・複雑化しており、新たな文化論の構築が求められている。この授業では、 人間に関わる様々な社会文化事象について、国や地域、言語、ジャンル等の境界 を越えた領域横断的な視点から分析と考察を行う。	
	超域文化論演習B	(1) 演習の内容：この演習ではヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカの各国を 舞台にした映像を比較文化の観点から分析する。(2) 演習の目標：現代社会では 人や文化が国境を越えて頻りに接触し合っている。そのなかにあつて人文学の研 究はますます多様化・複雑化しており、新たな文化論の構築が求められている。 この授業では、人間に関わる様々な社会文化事象について、国や地域、言語、ジ ャンル等の境界を越えた領域横断的な視点から分析と考察を行う。	
	西洋哲学演習A	この授業の目標は、哲学文献の読解能力と哲学的問題に取り組む能力を養うこ とである。そのためこの授業では、言語哲学、心の哲学、現代行為論、社会哲学 そして政治哲学などの現代の哲学的議論における主要なトピックからひとつを選 び、それをテーマとする基本的な哲学文献及び最新の哲学文献を取り上げ、それ を講読する。この授業では特に哲学文献の読解能力を養うことに重点を置き、議 論の構造を正確に辿りながら著者の見解を理解するとともに、現代哲学に関する 知識を身に付けることを目指す。	
	西洋哲学演習B	この授業の目標は、哲学文献の読解能力と哲学的問題に取り組む能力を養うこ とである。そのためこの授業では、言語哲学、心の哲学、現代行為論、社会哲学 そして政治哲学などの現代の哲学的議論における主要なトピックからひとつを選 び、それをテーマとする基本的な哲学文献及び最新の哲学文献を取り上げ、それ を講読する。この授業では、特に自ら哲学的問題に取り組むことのできる能力を 養うことに重点を置き、授業参加者である学生のプレゼンテーションとディスカ ッションを中心にして授業を進める。	
	西洋哲学特別演習A	この授業の目標は、現代ドイツ哲学における主要文献を読み進めつつ、関連資 料を探索し、その活用を通じて西洋哲学の研究方法を習得することにある。授業 計画は、現象学的価値論及び徳論の発端についてのガイダンスに始まり、その代 表的思想家であるブレンターノ、シェーラー、及び彼らが批判対象としたカント の実践哲学文献の背景説明の後に、これら一次文献を丹念に読み進めつつ、その テキストにまつわる概念史・問題史的知識を獲得するとともに、関連一次資料及 び二次資料の活用を通じて、西洋哲学の研究方法を実践的かつ有機的に学ぶ。	
	西洋哲学特別演習B	この授業の目標は、現代ドイツ哲学における主要文献を読み進めつつ、関連資 料を探索し、その活用を通じて西洋哲学の研究方法を習得することにある。授業 計画は、現象学的価値論及び徳論の展開についてのガイダンスに始まり、その代 表的思想家であるハルトマン、フッサール、さらにはミュラー、ボルヒャースら 同時代の徳論文献の背景説明の後に、これら一次文献を丹念に読み進めつつ、そ のテキストにまつわる概念史・問題史的知識を獲得するとともに、関連一次資料 及び二次資料の活用を通じて、西洋哲学の研究方法を実践的かつ有機的に学ぶ。	
	哲学文献資料研究A	この授業の目標は、哲学文献の原典による読解を通じて、文献資料の扱い方を 学ぶとともに、哲学的思考の基礎的な訓練を行なうことである。授業計画は、受 講者の関心に応じて、哲学文献の中から、特定の文献を選定し、その文献を原典 で読むために必要な読解力の修得に、一定の時間を充て、基礎的な訓練を行な うことを主眼とする。次いで、当該文献を、研究文献等を補助資料として参照しつ つ、原典で講読し、原著者の哲学的思考法を抽出する基礎的な方法を学ぶ。	
	哲学文献資料研究B	この授業の目標は、哲学文献の原典による読解を通じて、文献資料の扱い方を 学ぶとともに、哲学的思考の発展的訓練を行なうことである。授業計画は、受 講者の関心に応じて、哲学文献の中から、特定の文献を選定し、必要に応じて、そ の文献を原典で読むために必要な読解力の修得に、一定の時間を充てる。次いで、	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		当該文献を、研究文献等を補助資料として参照しつつ、原典で講読し、原著者の哲学的思考法を抽出する発展的方法を学ぶ。	
	西洋哲学史演習A	この授業の目標は、古典的な哲学文献を読解する能力を養うとともに、西洋哲学史についての専門的な知識を習得することである。そのために、西洋哲学史における近・現代の独語圏又は英語圏の古典的哲学文献を取り上げ、原典で講読する。この授業では、特に一次文献の丁寧な読解に重点を置く。その際には、複数の翻訳書を比較しながら、翻訳と原典を相互に参照しつつ、翻訳に表されている解釈の相違に目を向けて、より深い原典の読解を目指す。	
	西洋哲学史演習B	この授業の目標は、古典的な哲学文献を読解する能力を養うとともに、西洋哲学史についての専門的な知識を習得することである。そのために、西洋哲学史における近・現代の独語圏又は英語圏の古典的哲学文献を取り上げ、原典で講読する。この授業では、様々な二次文献(先行研究)を参照しながら文献の解釈に取り組み、そこに見いだされる哲学的問題について参加者同士でディスカッションを行うことに重点を置く。また、これらを通じて、西洋哲学史についての専門的な知識とその研究方法を習得することを目指す。	
	西洋哲学史特別演習A	この授業の目標は、現代ドイツ哲学における主要文献を読み進めつつ、関連資料を探索し、その活用を通じて西洋哲学史の研究方法を習得することにある。授業計画は、新カント派・現象学・哲学的人間学についてのガイダンスに始まり、とくに新カント派のコーヘン、ヴィンデルバント、リッカートの認識論・科学論に関するテキストの背景説明の後に、これらの一次文献を丹念に読み進めつつ、そのテキストにまつわる概念史・問題史的知識を獲得するとともに、関連一次資料及び二次資料の活用を通じて西洋哲学史の研究方法を実践的かつ有機的に学ぶ。	
	西洋哲学史特別演習B	この授業の目標は、現代ドイツ哲学における主要文献を読み進めつつ、関連資料を探索し、その活用を通じて西洋哲学史の研究方法を習得することにある。授業計画は、新カント派以後の現象学・哲学的人間学についてのガイダンスに始まり、ブレンターノ心理学、フッサール認識論、シェーラー、プレスナー、ゲーレンの人間学に関するテキストの背景説明の後に、これらの一次文献を丹念に読み進めつつ、そのテキストにまつわる概念史・問題史的知識を獲得するとともに、関連一次資料及び二次資料の活用を通じて西洋哲学史の研究方法を実践的かつ有機的に学ぶ。	
	西洋哲学史文献資料研究A	この授業の目標は、西洋哲学史上の文献を原典で読解するとともに、二次文献の扱い方を含めた、西洋哲学史研究の基礎的な方法を学ぶことである。授業計画は、はじめに、受講者の関心に応じて、古代、中世、近現代にわたる西洋哲学史の文献の中から、特定の文献を選定する。次いで、受講者の学力に鑑みて、必要に応じて、文献を原典で読むために必要な読解力の修得に一定の時間を充てる。次いで、原典及び各国語による翻訳・註解等、さらに、現時点で入手可能な研究文献の調査・探索方法を学んだ後、入手した一次文献、二次文献の読解作業を行なう。	
	西洋哲学史文献資料研究B	この授業の目標は、西洋哲学史上の文献を原典で読解するとともに、二次文献の扱い方を含めた、西洋哲学史研究の発展的な方法を学ぶことである。授業計画は、はじめに、受講者の関心に応じて、古代、中世、近現代にわたる西洋哲学史の文献の中から、特定の文献を選定する。次いで、原典及び各国語による翻訳・註解等、さらに、現時点で入手可能な研究文献の調査・探索方法を学んだ後、入手した一次文献、二次文献の読解作業を行なう。	
	西洋哲学特講	この授業の目標は、古代から現代に至る西洋哲学の歴史、及びそこにおいて考究されてきた哲学の諸問題と取り組み、それを通じて西洋哲学及び西洋哲学史の研究方法を習得する。授業計画は、自然、社会、世界、神、存在の意味、論理、人間の認識、科学の方法など、西洋哲学史上の主要な諸問題の中から、開講年度ごとに特定のトピックと時代とを選び出し、それらにまつわる概念史・問題史的知識を獲得するとともに、西洋哲学・哲学史の研究方法を実践的かつ有機的に学ぶ。	
	インド哲学研究	本授業は、ヴェーダ期から中世までのインド哲学に関する文献を解説し、インド哲学の存在論・認識論・言語理論・宇宙論・解脱論や、インド古典文化に対する理解を深めることを目的とする。文献解説に当たっては、複数の校訂本や写本資料を可能な限り収集し、相互に比較対照を行なう。伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学史講義	本授業は、ヴェーダ期から中世までのインド哲学に関する文献を取り上げ、インド哲学の存在論・認識論・言語理論・宇宙論・解脱論や、インド古典文化に対する理解を深めることを目的とする。文献解読に当たっては、複数の校訂本や写本資料を可能な限り収集し、相互に比較対照を行なう。伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業は講義形式で実施する。授業で配布する翻訳資料を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学演習A	本授業は、サンスクリット文学・詩学・文学などに関する文献を解説し、インドの言語理論・修辞理論や、インド古典文化に対する理解を深めることを目的とする。本年度はインド最古の聖典『リグ・ヴェーダ』を取り上げる。最新の言語学的研究の成果を踏まえつつ、伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の研究者による解釈を批判的に検討する感覚を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学演習B	本授業は、サンスクリット文学・詩学・文学などに関する文献を解説し、インドの言語理論・修辞理論や、インド古典文化に対する理解を深めることを目的とする。本年度は文法学者バタンジャリの『大註釈（マハーバーシャ）』を取り上げる。伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代語訳を批判的に検討する感覚を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学史演習A	本授業は、ヴェーダ期から中世までのインド哲学に関する文献を解説し、インド哲学の歴史的展開に対する理解を深めることを目的とする。本年度は文法学者パトージ・ディークシタの『シッターンタ・カウムディー』を取り上げる。伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学史演習B	本授業は、ヴェーダ期から中世までのインド哲学に関する文献を解説し、インド哲学の歴史的展開に対する理解を深めることを目的とする。本年度はヴェーダ補助学の一つである語源学の文献として知られるヤースカの『語源学（ニルクタ）』を取り上げる。伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教学研究	本授業は、インド・チベット仏教思想に関する文献を解説し、中観思想・唯識思想・仏教認識論などに対する理解を深めることを目的とする。文献解読に当たっては、複数のサンスクリット校訂本、写本資料、チベット語訳、漢訳を可能な限り収集し、相互に比較対照を行なう。インド撰述・チベット撰述の伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教思想史研究	本授業は、インド・チベット仏教思想に関する文献を解説し、仏教思想の歴史的展開に対する理解を深めることを目的とする。文献解読に当たっては、複数のサンスクリット校訂本、写本資料、チベット語訳、漢訳を可能な限り収集し、相互に比較対照を行なう。インド撰述・チベット撰述の伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教学演習A	本授業は、初期仏教に関するパーリ語文献を解説し、仏教思想の起源とパーリ語読解法に対する理解を深めることを目的とする。本年度は『餓鬼事経』を取り上げる。文献解読に当たっては、パーリ聖典協会（Pāli Text Society）の校訂本を底本とし、伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教学演習B	本授業は、初期仏教に関するパーリ語文献を解説し、仏教思想の起源とパーリ語読解法に対する理解を深めることを目的とする。本年度は『天宮事経』を取り上げる。文献解読に当たっては、パーリ聖典協会（Pāli Text Society）の校訂本を底本とし、伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻科目		判的に検討する思考法を養う。授業はゼミ形式で実施する。出席者が準備する翻訳資料の検討を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教思想史講義A	本授業は、インド・チベット仏教思想に関する文献を取り上げ、インドからチベットまでの仏教思想の歴史的展開に対する理解を深めることを目的とする。本年度はチャンドラキールティの『入中論』を取り上げる。文献解読に当たっては、サンスクリット校訂本、複数のチベット語訳の比較対照を行なう。インド撰述・チベット撰述の伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業は講義形式で実施する。授業で配布する翻訳資料を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	仏教思想史講義B	本授業は、インド・チベット仏教思想に関する文献を取り上げ、インドからチベットまでの仏教思想の歴史的展開に対する理解を深めることを目的とする。本年度はチャンドラキールティの『明句論』を取り上げる。文献解読に当たっては、複数のサンスクリット校訂本、写本資料、チベット語訳を可能な限り収集し、相互に比較対照を行なう。インド撰述・チベット撰述の伝統的な註釈に依拠した原典読解の方法を学び、現代の先行研究を批判的に検討する思考法を養う。授業は講義形式で実施する。授業で配布する翻訳資料を通じて、上記の厳密な原典読解の方法を習得する。	
	インド哲学仏教学総合演習A	本授業は、インド哲学・仏教学研究の方法論を習得し、論理的思考能力を養うことを目的とする。参加者が自身の研究成果を交替に発表し、その内容を全員でディスカッション形式により批判的に検討する。担当者は完全原稿（日本語又は英語）を配布して発表し、他参加者との質疑応答を通じて、サンスクリット・チベット語の原典解釈、問題設定から課題解決までの論理展開、論文の表現の妥当性を検証する。本授業を通じて、論文作成能力・コミュニケーション能力の向上と、インド哲学・仏教学の各分野の最新の研究状況に対する理解の深化が期待される。	共同
	インド哲学仏教学総合演習B	本授業は、インド哲学・仏教学研究の方法論を習得し、論理的思考能力を養うことを目的とする。参加者が自身の研究成果を交替に発表し、その内容を全員でディスカッション形式により批判的に検討する。担当者は完全原稿（日本語又は英語）を配布して発表し、他参加者との質疑応答を通じて、サンスクリット・チベット語の原典解釈、問題設定から課題解決までの論理展開、論文の表現の妥当性を検証する。本授業を通じて、論文作成能力・コミュニケーション能力の向上と、インド哲学・仏教学の各分野の最新の研究状況に対する理解の深化が期待される。（インド哲学仏教学総合演習Aの継続）	共同
	倫理学基礎演習A	この授業の目標は、基本的な倫理学文献の読解能力を身に着けることと、ニーチェの基本思想を理解することである。具体的方法としては、ニーチェの著者とされることが多い『ツァラトゥストラはこう言った』を講読していく。特に、この書の執筆時期から前面に押し出されてくる「生の肯定」の思想を、その現代的意義も視野に入れながら、ともに考究していく。また、『ツァラトゥストラ』には数多くの訳書があるが、それらをいくつか「読み比べ」することを通して、日本語による表現技術についても探究していく。	
	倫理学基礎演習B	この授業の目標は、現代的な倫理的問題への応用を意識しつつ文献を読解する能力を身に着けることと、ニーチェ哲学に対する批判的視点からの考察の力を磨くことである。具体的方法としては、ニーチェの著者とされることが多い『ツァラトゥストラはこう言った』を講読していく。特に、この書の執筆時期から前面に押し出されてくる「生の肯定」の思想を、その現代的意義も視野に入れながら、ともに考究していく。また、『ツァラトゥストラ』には数多くの訳書があるが、それらをいくつか「読み比べ」することを通して、日本語による表現技術についても探究していく。	
	応用倫理学方法論研究A	この授業の目標は、文献読解・人物研究とディスカッションを通して、倫理的諸問題を実践的見地から思考する能力を養うことである。Aでは、宮沢賢治の倫理実践と基本思想について理解することを特に目標とする。具体的方法としては、宮沢賢治の作品を倫理的観点から読解していく。賢治はもちろん倫理学者ではないが、彼ほど「倫理を生きよう」とした実践的人物はそうそういない。にもかかわらず、倫理学の分野においてはあまり研究されてこなかった。本演習では、童話を中心とした作品の読解を通して、現代的な倫理問題を視野に入れつつ、実践的な倫理について探求していきたい。また、本演習では、文学作品を倫理学研究の題材にするための方法論も探究していきたい。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	応用倫理学方法論研究B	この授業の目標は、文献読解・人物研究とディスカッションを通して、倫理的諸問題を実践的見地から思考する能力を養うことである。Bでは、宮沢賢治の現代倫理学における意義を考究することと賢治の実践と思想を批判的見地から検討する能力を身に付けることを特に目標とする。具体的方法としては、宮沢賢治の作品と実践を倫理的観点から読解していく。賢治はもちろん倫理学者ではないが、彼ほど「倫理を生きよう」とした実践的人物はそうそういない。にもかかわらず、倫理学の分野においてはあまり研究されてこなかった。本演習では、童話を中心とした作品の読解を通して、現代的な倫理問題を視野に入れつつ、実践的な倫理について探求していきたい。また、本演習では、文学作品を倫理学研究の題材にするための方法論も探究していきたい。	
	応用倫理学基礎演習A	この授業の目標は、最新の研究論文の読解と哲学的問題に取り組む能力を養うことにある。授業計画は、応用倫理学の最前線の議論を理解するため、定評のある情報倫理学のジャーナルから受講者の関心のある論文を各受講者に選択してもらい、担当者には論文の内容の紹介をおこなわせる。その内容を全受講者により検討する。とりわけ応用倫理学についての研究をおこなうにあたり、当該領域に関する最新の知識・情報を理解し、現在の論争状況を把握することは不可欠である。可能であれば、担当論文だけでなく、引用・言及されている文献にも当たることが望ましい。	
	応用倫理学基礎演習B	この授業の目標は、最新の研究論文の読解と哲学的問題に取り組む能力を養うことにある。授業計画は、応用倫理学の最前線の議論を理解するため、Cambridge Companion シリーズ(Cambridge University Press)より自らの関心に合わせて論文を選択し、その紹介と検討をおこなう。当該論文だけでなく、そこで言及されている様々な研究論文にも直接あたり、解釈において何が問題になっており、どのような説が提唱されているのかを包括的に理解することを目指す。	
	応用倫理学文献研究A	この授業の目標は、研究主題に関する包括的なサーヴェイをおこなう能力を養う。授業計画は、各種の哲学的論題についての最新のサーヴェイをおこなっているStanford Encyclopedia of Philosophy から、受講者の関心に合わせていくつかのトピックを選択し、それぞれの論題について、何が問題になっており、何が争点なのかを考えていく。英語による学問的記述を単に訳読するのではなく、議論の流れを把握し、適切に要約し必要な情報をとりだせるようになることを目指す。	
	応用倫理学文献研究B	この授業の目標は、研究主題に関する包括的なサーヴェイをおこなう能力を養うことに加え、その主題について自らの見解を深めることにある。授業計画は、各種の哲学的論題についての最新のサーヴェイをおこなっているStanford Encyclopedia of Philosophy から選んだテーマについて現在の論争状況を把握した上で、その問題について参照数の多い主要論文を読解し、内容の是非を検討していく。	
	倫理思想史基礎演習A	この授業の目標は、倫理学に関する基礎的な知識を、西洋の倫理思想を通して理解することにある。授業計画は、「善」に焦点を当て、まず、「ひとはより善くなりうるか」という課題について話し合った後、倫理学上の見取り図を描き、次に、古代倫理思想（ソクラテス、プラトン、アリストテレス、プロティヌス、中世倫理思想（アウグスティヌス、トマス・アキナス）、ドイツ観念論（カント）、功利主義（ミル）、実存主義（キルケゴール、ニーチェ）の具体的な見方を理解していく。	
	倫理思想史基礎演習B	この授業の目標は、倫理学に関する基礎的な知識を、日本の倫理思想を通して理解することにある。授業計画は、「善」に焦点を当て、まず初めに、西洋近代の認識論的・存在論的・二元論的構図をおさえたうえで、次に、一元的な認識・存在論を展開する近世の日本倫理思想（禅僧仙厓義梵、中江藤樹）、近代日本の倫理思想（西晋一郎、山本空外）、さらには現代日本の倫理思想（中村雄二郎）について学習し、それらがもつ共通のパラダイムを理解する。	
	倫理思想史文献研究A	この授業の目標は、西晋一郎の思想を中心に近代日本思想の特徴と構造を理解することにある。授業計画は、西晋一郎の著作『忠孝論』（岩波書店）、『倫理学の根本問題』（岩波書店）ならびに衛藤吉則著『西晋一郎の思想－広島から「平和・和解」を問う』（ナカニシヤ出版）を輪読し、西晋一郎の思想がもつ特有の構造（「特殊即普遍のパラダイム」や「主体変容のプロセス」や「虚の思想」など）を理解し、西思想がもつ現代的意義を考究する。	
	倫理思想史文献研究B	この授業の目標は、西晋一郎の思想を中心に近代日本思想の特徴と構造を理解することにある。授業計画は、西晋一郎の著作『忠孝論』（岩波書店）、『倫理学の	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		根本問題』(岩波書店)ならびに衛藤吉則著『西晋一郎の思想—広島から「平和・和解」を問う』(ナカニシヤ出版)を輪読し、西晋一郎の思想がもつ特有の構造(「特殊即普遍のパラダイム」や「主体変容のプロセス」や「虚の思想」など)を考察し、その思想がもつ平和理論としての可能性、さらには近代日本思想の特徴と構造を理解する。	
	応用倫理思想基礎演習A	この授業の目標は、ルドルフ・シュタイナーのドイツ語原典を講読し、彼の認識論の構造を理解することにある。授業計画は、Rudolf Steiner のドイツ語著作“Wahrheit und Wissenschaft”を輪読し、そこで検討される認識論の構造を当時の哲学上の議論をふまえて理解する。学習する具体的な箇所は、第二章「カントにおける認識論上の根本問題」で、そこにおいて認識的二元論の克服として提示される「思考内容の一元論」の構造を理解し、その現代的意義について考察する。	
	応用倫理思想基礎演習B	この授業の目標は、ルドルフ・シュタイナーのドイツ語原典を講読し、彼の認識論の構造を理解することにある。授業計画は、Rudolf Steiner のドイツ語著作“Wahrheit und Wissenschaft”を輪読し、そこで検討される認識論の構造を当時の哲学上の議論をふまえて理解する。学習する具体的な箇所は、第三章「カント以降の認識論」であり、そこにおいて、エドワルト・フォン・ハルトマンの「超越論的観念論」とシュタイナー自身の「思考内容の一元論」の構造を比較検討する。	
	中国哲学文献研究A	本演習は、経学を中心とする中国の哲学やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国哲学の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、歴代の注釈を利用しながら、それぞれの注釈に即した解釈を与えつつ、より妥当な解釈を求める手法を修得していく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国哲学文献研究B	本演習は、経学を中心とする中国の哲学やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国哲学の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国哲学文献研究Aで修得した技法に加え、各種の工具書を利用しつつ、明示されていない典拠を踏まえながら原文を精確に解釈していく技量を身につけていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国哲学文献研究C	本演習は、経学を中心とする中国の哲学やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国哲学の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国哲学文献研究Bで修得した技法による精確な本文理解を基礎として、当該資料に示された哲学思想を再構成していく技量を身につけていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国哲学文献研究D	本演習は、経学を中心とする中国の哲学やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国哲学の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国哲学文献研究Cで修得した技法による当該文献の哲学思想の理解を基礎として、他文献との関係を視野におきながら、それを思想的に位置づけていく技量を身につけていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国思想文献研究A	本演習は、諸子学を中心とする中国の思想やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国思想の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、歴代の注釈を利用しながら、それぞれの注釈に即した解釈を与えつつ、より妥当な解釈を求める手法を修得していく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国思想文献研究B	本演習は、諸子学を中心とする中国の思想やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国思想の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国思想文献研究Aで修得した技法に加え、各種の工具書を利用しつつ、明示されていない典拠を踏まえながら原文を精確に解釈していく技量を身につけていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻科目	中国思想文献研究C	本演習は、諸子学を中心とする中国の思想やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国思想の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国思想文献研究Bで修得した技法による精確な本文理解を基礎として、当該資料に示された哲学思想を再構成していく技量を身に着けていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国思想文献研究D	本演習は、諸子学を中心とする中国の思想やその派生としての日本漢学に関する文献の精読を通して、中国思想の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国思想文献研究Cで修得した技法による当該文献の哲学思想の理解を基礎として、他文献との関係を視野におきながら、それを思想的に位置づけていく技量を身に着けていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国文化文献研究A	本演習は、中国の文化やその派生としての日本漢学に関する多様な文献の精読を通して、中国文化の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、歴代の注釈を利用しながら、それぞれの注釈に即した解釈を与えつつ、より妥当な解釈を求める手法を修得していく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国文化文献研究B	本演習は、中国の文化やその派生としての日本漢学に関する多様な文献の精読を通して、中国文化の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国文化文献研究Aで修得した技法に加え、各種の工具書を利用しつつ、明示されていない典拠を踏まえながら原文を精確に解釈していく技量を身に着けていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国文化文献研究C	本演習は、中国の文化やその派生としての日本漢学に関する多様な文献の精読を通して、中国文化の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国文化文献研究Bで修得した技法による精確な本文理解を基礎として、当該資料に示された文化を再構成していく技量を身に着けていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国文化文献研究D	本演習は、中国の文化やその派生としての日本漢学に関する多様な文献の精読を通して、中国文化の本質及びその理論構造、また日本漢学への伝播状況や潤色の有り様などを考えるものである。文献の読解に際しては、中国文化文献研究Cで修得した技法による当該文献の文化の理解を基礎として、他文献との関係を視野におきながら、それを思想的に位置づけていく技量を身に着けていく。演習においては、担当する学生に書き下し・注釈語釈・出典などを記した資料を作成し、口頭発表することを求める。	
	中国思想学專題講義	本講義は、多様な実相を有する中国の哲学・思想、及びその派生としての日本の哲学・思想へのアプローチを、さまざまな手法・手順を用いて試みることにによって、受講生各自の中国思想文化学研究にその具体例を示すことを目的とする。講義は毎回教員が現在行っている研究と関連するものとなる。受講生には講義の内容もさることながら、その着想、問題の設定、及び問題解決のための手順等を目配りし、常に自らの修士論文作成を意識しながら学ぶことを求める。	隔年
	中国思想文化学專題研究	本演習は、多様な実相を有する中国の思想・文化、及びその派生としての日本の思想・文化へのアプローチを、さまざまな手法・手順を用いて試みることにによって、受講生各自の中国思想文化学研究にその具体例を示すことを目的とする。講義は毎回教員が現在行っている研究と関連するものとなる。受講生には講義の内容もさることながら、その着想、問題の設定、及び問題解決のための手順等を目配りし、常に自らの修士論文作成を意識しながら学ぶことを求める。	隔年
	中国思想文化学研究法A	本演習は、中国思想文化学における著名な先行研究を分析・検討することによって、学生自身の修士論文作成のための力を培うことを目的とするものである。学生（1年次生）は自らの修士論文作成のために必読の先行研究をセレクトし、筆者の研究業績を明らかにした上で、当該論文の構成を提示し、検討（a.研究の視点・方法。評価すべき点や独創性。b.資料の処理・論述や構成で特筆すべき点。c.	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム		問題点、感想、意見。)を加える。他の参加者(2年次生も含む)も事前に当該論文を読み、質疑応答の中で論文への理解を深めていく。	
		中国思想文化学研究法B	本演習は、前期開講のAに引き続き中国思想文化学における著名な先行研究を分析・検討することによって、学生自身の修士論文作成のための力を培うことを目的とするものである。学生(1年次生)は自らの修士論文作成のために必読の先行研究をセレクトし、筆者の研究業績を明らかにした上で、当該論文の構成を提示し、検討(a.研究の視点・方法。評価すべき点や独創性。b.資料の処理・論述や構成で特筆すべき点。c.問題点、感想、意見。)を加える。他の参加者(2年次生も含む)も事前に当該論文を読み、質疑応答の中で論文への理解を深めていく。	共同
		中国思想文化学研究法C	本演習は、前年開講のBに引き続き中国思想文化学における著名な先行研究を分析・検討することによって、学生自身の修士論文作成のための力を培うことを目的とするものである。学生(2年次生)は自らの修士論文作成のために必読の先行研究をセレクトし、筆者の研究業績を明らかにした上で、当該論文の構成を提示し、検討(a.研究の視点・方法。評価すべき点や独創性。b.資料の処理・論述や構成で特筆すべき点。c.問題点、感想、意見。)を加える。他の参加者(1年次生も含む)も事前に当該論文を読み、質疑応答の中で論文への理解を深めていく。「A」と同じ授業内容であるが、「C」の受講生にはより深い理解を要求する。	共同
		中国思想文化学研究法D	本演習は、前期開講のCに引き続き中国思想文化学における著名な先行研究を分析・検討することによって、学生自身の修士論文作成のための力を培うことを目的とするものである。学生(2年次生)は自らの修士論文作成のために必読の先行研究をセレクトし、筆者の研究業績を明らかにした上で、当該論文の構成を提示し、検討(a.研究の視点・方法。評価すべき点や独創性。b.資料の処理・論述や構成で特筆すべき点。c.問題点、感想、意見。)を加える。他の参加者(1年次生も含む)も事前に当該論文を読み、質疑応答の中で論文への理解を深めていく。「B」と同じ授業内容であるが、「D」の受講生にはより深い理解を要求する。	共同
	歴史文化研究	<p>(概要) 歴史学研究は、対象とする国や地域によって扱う史料や分析方法が異なる面がある一方、共通する面も勿論ある。それは対象とする時期(年代)においても同様である。その意味で、自分の研究と異なる国・地域や時代の専門家の扱う史料や研究成果の話をお聴くことは、自身の研究の方向性を探る上で重要である。そこで、歴史文化学講座の全教員がそれぞれの専門分野で扱った研究課題や利用した史料、そしてその成果について話す講義に触れることで、受講生それぞれが自身の研究について改めて考える機会として欲しい。</p> <p>授業は歴史文化学講座の全教員によるオムニバス形式で講義をおこない、第一回は受講生と授業を担当する全教員が参集し、教員の専門と講義内容、受講生の研究対象について確認する。また受講生は日本史・東洋史・西洋史の区切り毎にレポートを提出することとし、最終日に授業を担当した全教員が再び参集して総合討論を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 本多 博之/2回) 日本中世に関する歴史文化研究</p> <p>(58 中山 富廣/2回) 日本近世に関する歴史文化研究</p> <p>(108 奈良 勝司/1回) 日本近代に関する歴史文化研究</p> <p>(117 船田 善之/2回) アジアに関する歴史文化研究</p> <p>(30 八尾 隆生/2回) アジアに関する歴史文化研究</p>	隔年・オムニバス 方式	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(59 金子 肇／1回) アジアに関する歴史文化研究</p> <p>(12 前野 弘志／2回) ヨーロッパに関する歴史文化研究</p> <p>(139 足立 孝／2回) ヨーロッパに関する歴史文化研究</p> <p>(31 井内 太郎／1回) ヨーロッパに関する歴史文化研究</p>	
	文化交流－日本と世界－	<p>(概要) 現代は、グローバル社会の中で国際的な視野・世界観をもつことが、高度専門職業人にとって欠かせない時代であり、異なった背景をもつ国・地域・個人を理解するために、文化交流の歴史を学ぶことはきわめて重要である。そこで、歴史文化学講座の全教員がそれぞれの専門分野で日本・アジア・ヨーロッパの視点から文化交流の歴史を講義することで現在、そして未来のあるべき姿を考える機会とする。</p> <p>授業は歴史文化学講座の全教員によるオムニバス形式で講義をおこない、第一回は受講生と授業を担当する全教員が参集し、教員の専門と講義内容、受講生の研究対象について確認する。また受講生は日本史・東洋史・西洋史の区切り毎にレポートを提出することとし、最終日に授業を担当した全教員が再び参集して総合討論を実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 本多 博之／2回) 日本中世に関する文化交流</p> <p>(58 中山 富廣／2回) 日本近世に関する文化交流</p> <p>(108 奈良 勝司／1回) 日本近代に関する文化交流</p> <p>(117 船田 善之／2回) アジアに関する文化交流</p> <p>(30 八尾 隆生／2回) アジアに関する文化交流</p> <p>(59 金子 肇／1回) アジアに関する文化交流</p> <p>(12 前野 弘志／2回) ヨーロッパに関する文化交流</p> <p>(139 足立 孝／2回) ヨーロッパに関する文化交流</p> <p>(31 井内 太郎／1回)</p>	隔年・オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		ヨーロッパに関する文化交流	
	日本地域文献資料実習	地域の文化財や史跡を実見し、歴史学的に考察する「日本地域史研究実習」を実施する前提として、実習を実施する対象地域の文化財や史跡についてあらかじめ学習する。対象地域に関する古代から近現代までの歴史的歩みについて図書・論文を読むことにより皆で共有し、現地におけるフィールド調査の準備作業とする。実習実施地域に関する学術成果（図書・論文）を古代～近現代までリストアップし、受講者全員でそれを読み、報告・議論を重ねることで現地調査の課題を設定する。とりわけ閲覧を希望する文献資料を選定し、内容をあらかじめ検討した上で、現地調査に臨む。	隔年・共同
	日本地域史研究実習	地域の文化財や史跡を実見し、歴史学的に考察する中国・瀬戸内海地域を中心に列島各地の文字史料、美術工芸品、建造物、遺跡・遺物などの資料について、臨地調査・研究を進めるとともに、特定地域を分析の対象として設定し、考古学・歴史地理学など周辺学問分野の成果を活用して現地におけるフィールド調査を行う。この調査を通して具体的に地域史研究の方法と整理、情報の分析の視角などを体得しながら、地域の歴史像の総合化をはかり、東アジアならびに日本列島における特定地域の史的特質を明らかにする方法を習得させる。	隔年・共同
	日本古代資料解析論	日本古代の社会・文化研究の基礎資料である『日本書紀』以下の六国史、『小右記』などの古記録、『類聚三代格』他の古典籍などについて、それぞれの条文を具体的に・実態的に解釈し、歴史資料として活用するための方法論などを実践的に習得させるとともに、こうした内容的研究にとどまらず、これらを文献文化財として活用していくための資料論的研究の方法と視座について習得させる。また、近年増加が著しい木簡などの出土文字資料についても内容的研究・資料学的研究の現状と課題、ならびにその活用方法等について習得させる。	隔年
	日本古代社会文化研究	日本古代社会文化研究の課題・目的についての認識を深め、その方法論を学ぶ。古代社会を「貢納」国家段階（律令国家段階以前）、律令国家段階、王朝国家段階に区分し、各段階における国家体制、王権の構造、政治社会システム、地域社会構造、そこに生成される文化的営みの諸相などについて、具体的な文献資料・造形文化財・埋蔵文化財などを素材に、従来の文献史学の方法論のみならずフィールド論的・歴史景観論的視点を加味しながら、考察・大系化することを通して、古代社会文化研究の方法と課題・目的について研究指導する。	隔年
	日本中世資料解析論A	歴史学の基本である実証主義的な分析・考察方法を身につけるため、史料読解を中心とした演習形式で授業をおこなう。古文書・古記録など多様な史料の分析と、関連研究の整理、発表用プリントの作成や実際の報告を通して、歴史学研究の方法について学び、修士論文の作成に必要な基礎的な能力を養成する。具体的には、最初の授業で統一テーマと演習の進め方について説明するので、演習担当者は史料の読み・内容を調べ、関連史料を収集し、課題史料が成立した歴史的背景を説明する。そしてその報告内容をもとに受講者全員で議論する。	隔年
	日本中世資料解析論B	中世社会の構造的な研究には、荘園・公領や大名領国が主な素材となる。その基本史料であり、全国的にみても質量ともに豊富な「東大寺文書」「東寺文書」「高野山文書」などの荘園史料や、大内氏・尼子氏・毛利氏などの大名領国関係史料を演習素材とし、従来の研究成果に学びながら、原文書を基礎とする研究方法を実践し、新たな研究の方向性を探る。実証主義的な考察・分析を身につけるため、史料読解を中心とした演習形式で授業をおこなう。	隔年
	日本中世社会文化研究A	日本中世の主として西日本地域を対象に各時代の政治社会や流通経済の構造、さらに文化的な営みについて具体的に検討する。特に、東アジア諸国との交流に注目して東日本地域との比較をおこない、畿内中央政権への求心性と東アジアへの求心性をあわせ持ちながら次第に変貌していく西日本地域の諸様相を明らかにし、日本列島の政治的不均質性を念頭に、地域社会固有の地域性と時代性を理解させる。実証主義的な考察・分析を身につけるため、史料読解を中心とした演習形式で授業をおこなう。	隔年
日本中世社会文化研究B	歴史学の基本である実証主義的な考察・分析を身につけるため、史料読解を中心とした演習形式で授業をおこなう。古文書・古記録など多様な史料の分析と、関連研究の整理、発表用プリントの作成や実際の報告を通して、歴史学研究の基礎作業を学び、修士論文の作成に必要な基礎的な能力を養成する。課題史料を掲載したプリントをあらかじめ受講者全員に配布するので、演習担当者はもちろん、それ以外の受講者も授業前には課題史料の読み、意味、文書の成立背景を考えて、授業後半に実施する討論に備える。	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム	日本近世資料解析論A	既に翻刻され活字化された近世史料を選定して受講者に割り振り、受講者は与えられた史料を徹底的に解読し、当該史料の内容にかかわる事柄の歴史的背景や、当該史料部分を素材として研究された著書・論文を紹介しながら、従来の研究史の問題点を検討し、それに関連した考察をおこなう。発表者は発表用のレジュメを作成して受講者に事前に配布し、その他の受講者は当該史料を解読して授業にのぞみ、質疑応答の討論に参加し、史料の多様な分析方法や史料批判の方法などを学習する。	隔年
	日本近世資料解析論B	学内所蔵の近世古文書を解読することを通じて、日本近世史研究の根幹をなす古文書に直接触れ、かつ古文書読解能力を高めることを目標とする。授業内容は、3人一組の班をつくり、協力しながら史料（古文書）の読解につとめ、当該史料の意味や史料内容について、関連する事柄・事件などがあれば調べ、史料の持つ歴史的意義などを話し合っレジュメを作成する。発表は隔週とし、2班ずつ発表して解読史料文字の正否をはじめ、発表者が考察した事柄について討論をおこなう。	隔年	
	日本近世社会文化研究A	日本近世社会のもつ特質について、西欧や東アジア諸国との比較を通じて考察する。具体的な考察の対象となる事柄は、土地制度、領主制、市場制度、身分制度、農村社会、ジェンダーなどからいくつか絞って取り上げる。授業は演習形式によって進め、発表担当者は選択した論文内容をレジュメにまとめ、かつ論文のもつ研究史的意義や疑問点などをもとに、西欧や中国社会と比較考察した内容を発表し、討論の材料を提供する。以上を通じて、歴史学的分析の視野を広げ、常に世界史的視野から考察する方法を深めることを目標とする。	隔年	
	日本近世社会文化研究B	近世社会の文化及び地域（地方）文化の展開について、安土桃山、寛永、元禄、宝暦天明、化政、天保期の各文化、及び全般的な日本近世文化論に関連する代表的論文を講読する。授業は演習形式によって進め、発表担当者は、選択した論文を熟読して論文内容をレジュメにまとめ、さらに論文のもつ研究史的意義や疑問点などを討論の材料として提示し、事前に他の受講者に配布しておく。以上を通じて、日本近世の文化のありようやその発展の特質について理解を深めることを目標とする。	隔年	
	日本近代資料解析論A	中国四国地域に現存する行政史料や個人所蔵史料を選定して受講者に割り振り、受講者は与えられた史料の解読を進め、さらに関連する資料や論文を探して、与えられた地域史料から日本近代史の論点をいかに引き出すかという、歴史学研究的基礎作業を訓練することを目標とする。授業は演習形式で、2人一組の班をつくり、分担協力し合っ史料の読解と近代史の論点を考察し、発表レジュメを作成して事前配布をおこなう。授業では発表者が司会を兼ねて質疑討論をおこない、史料批判や日本近代史研究の方法を学習する。	隔年	
	日本近代資料解析論B	幕末維新期から昭和初期にかけて、エポック・メイキングな出来事に関連する諸史料を選定して割り当て、その解読とともにその出来事・事件の研究史を学習することを目標とする。授業は演習形式をとり、2人一組の班をつくり、分担協力して史料の読解とその史料批判及び研究史の流れや論争などを調べて、その出来事・事件の歴史的意義などを考察する。発表レジュメは事前に他の受講生に配布し、授業では発表者が司会を担当して討論を進行させ、史料批判や日本近代史研究の方法を学習する。	隔年	
	日本近代社会文化研究A	近代日本がいかにして成立し、またいかにして帝国主義への道をあゆむことになったのかについて、日本をとりまく国際環境と国内に起きた諸事件・諸問題を有機的関連のもとにとらえながら考察する。具体的には維新変革の政治過程から日清・日露戦争時に帝国主義世界が確立するまでの政治と社会を中心として講義する。講義では使用する主な史料を事前配布するので、受講者は事前に史料の読み、意味や史料の成立背景などを予習し、授業の後半に実施する討論に備える。	隔年	
	日本近代社会文化研究B	日本の近代はいかにしてもたらされたのか、いかに国民国家として成長を遂げたのか、そこには日本の近世のあり方がいかに関わっていたのか、こうした問題を学問世界や教育界、さらには文化の質、世論の動向などから考察していく。授業は講義と演習を交互におりませ、関連研究の整理、発表用飼料の作成と報告を通じて、歴史学研究的基礎作業を学び、修士論文の作成に必要な基礎的能力を養成する。演習担当者は作成したレジュメを事前配布し、討論すべき論点を提示する。	隔年	
	日本社会文化史特論	日本社会の変遷について文化の視点から考察する。 古代・中世では、律令国家期の文化、国風文化の熟成、交錯する公家と武家の	隔年・オムニバス	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>文化、中世文化の到達点について通史的に概観する。また、文化を分析する視点として文化の自立性、文化の階層性、さらには外来文化の受容と文化創造、国際性、文化の庶民性・地方性などを検討し、中世社会の到達点と近世社会への萌芽、そして庶民世界の自立について展望する。</p> <p>また近世・近代では、「わび」と「かぶき」に象徴される桃山文化と寛永文化から出発して、「イエ」の確立と豊かになる民衆の生活、思想と宗教の日本化、地方へ広がる都市文化などの面から近世社会の文化を検討する。特に近代社会では、家父長制的家族制度や明治期の労働・社会運動、都市文化の諸相を検討し、大正期の労働運動・部落解放運動・女性解放運動にみられる社会と民衆の変容について考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 本多 博之・58 中山 富廣／1回) 日本社会の変遷を文化の視点から考察していく上での課題設定</p> <p>(11 本多 博之／7回) 日本古代・中世に関する社会文化史</p> <p>(58 中山 富廣／7回) 日本近世・近代に関する社会文化史</p>	方式・共同(一部)
	アジア歴史文化論A	<p>近年のアジア史研究、特に東南アジア史研究においては、従来の「東アジアとは異質な世界」という見方が大きく後退し、むしろ歴史的・社会的・文化的共通性を強調する議論が増えてきている。これらの研究趨勢を踏まえ、本講義では、学生の発表とディスカッションを加味した形式で授業を進めるが、受講生の専門に深く関係するテーマを選び、それに関する日本語及び英語論文の講読を通じて、両世界の同質性と異質性に関して理解を深めていく。</p>	隔年
	アジア歴史文化論B	<p>近年のアジア史研究、特に東南アジア史研究においては、従来の「東アジアとは異質な世界」という見方が大きく後退し、むしろ歴史的・社会的・文化的共通性を強調する議論が増えてきている。これらの研究趨勢を踏まえ、本講義では、学生の発表とディスカッションを加味した形式で授業を進め、「国家論」「官僚制度」「東・東南アジアの近世問題」「社会史・都市史」等、近年話題を集めているトピックにつき関係する日本語及び英語論文の講読を通じて、両世界の同質性と異質性に関して理解を深めていく。</p>	隔年
	アジア社会史史料研究A	<p>演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、アジア、特に東南アジアの社会史の展開について理解を深めることをめざす。まず、教員が社会史に関わる基本的文献を紹介した上で、社会史全般に関わるヴェトナム漢文年代記史料(『大南寔録』など)を読み、内容について発表と議論をおこなう。次いで当時の地方志(『同慶地輿誌』など)や統計資料等から選択した社会史関連史料の講読・解析をおこない、近世アジアの社会史の展開について総合的に把握する。</p>	隔年
	アジア社会史史料研究B	<p>演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、アジア、特にヴェトナムの社会史の展開について理解を深めることをめざす。阮朝以前の社会史を再構成するためには、従来の正史(『大南寔録』前編、『大越史記全書』など)に加えて地方文書が最も有効な史料である。この授業ではこれらの文書の解題、利用するに際しての留意点を解説するとともに、それを講読して阮朝以前の社会の特質を分析し、中国との比較検討をも行い、東南アジア・東アジアの社会史研究に関する研究指導を行う。</p>	隔年
	アジア政治史史料研究A	<p>演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、アジア、特に東南アジアの政治史の展開について理解を深めることをめざす。まず、教員が政治史に関わる基本的文献を紹介した上で、政治史全般に関わるヴェトナム漢文年代記史料(『大南寔録』など)を読み、内容について発表と議論をおこなう。次いで当時の地方志や官僚の上奏文等から選択した政治史関連史料の講読・解析をおこない、近世アジアの政治史の展開について総合的に把握する。</p>	隔年
	アジア政治史史料研究B	<p>演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、アジア、特にヴェトナムの社会史の展開について理解を深めることをめざす。阮朝以前の政治史を再構成するためには、従来の正史に加えて行政関係史料(『大南會典』など)</p>	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム		が最も基本的な史料である。この授業ではこれらの文書の解題、利用するに際しての留意点を解説するとともに、それを講読して各王朝の政権構造の特質を分析し、アジアの他国の王朝権力との比較検討も行い、政治史研究に関する研究指導を行う。	
		アジア地域史研究A	演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、近現代中国と東アジアの政治・外交について、その歴史的個性と特徴をつかみとることに目標を置く。東アジアと中国政治の展開、日本と中国の外交、伝統的中華世界と近代、近現代中国の国家と政治システム、革命の諸相、ナショナリズムと抗日戦争、リベラリズム等の諸問題に関して外国語を含む論文を読み、議論を通じて中国と東アジアの歴史的展開に対する理解を深める。	隔年
		アジア地域史研究B	演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、中国を中心とした戦後東アジア史の展開をつかみとることに目標を置く。第二次世界大戦後における東アジア情勢の全般的動向、戦後中国の政治的変動、戦後中国の社会経済的変動、朝鮮戦争と中国の対応、日本の戦後改革の変容等の諸問題に関して外国語を含む論文を読み、戦後における中国・朝鮮半島・日本の状況の推移について、その相互関連に留意しながら議論し理解を深める。	隔年
		アジア地域文化論A	講義に、文献講読・学生発表とディスカッションを加味した形式で授業を進める。関係する前近代アジア史に関する日本語・英語の研究文献を講読し、アジアの地域文化の歴史的展開について、その研究状況・課題を十分に理解し、各自の問題意識を深化させる。授業では、東アジア・中央ユーラシア・海域アジアなどの地域を設定し、各自の研究と関連する文献を選び出して輪読する。また特定のテーマについて発表し、その内容について議論をおこなう。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
		アジア地域文化論B	講義に、文献講読・学生発表とディスカッションを加味した形式で授業を進める。関係する前近代アジア史に関する英語・中国語の研究文献を講読し、アジアの地域文化の歴史的展開について、その研究状況・課題を十分に理解し、各自の問題意識を深化させる。授業では、政治史・社会史・環境史などのトピックを設定し、各自の研究と関連する文献を選び出して輪読する。また特定のテーマについて発表し、その内容について議論をおこなう。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
		アジア交流史史料研究A	演習形式で、前近代のアジア交流史に関する史料を輪読する。前近代のアジア交流とその多様性に対する理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させ、訳注を作成する技術を涵養する。本授業では、史書・地方志・旅行記・政書・法典史料・文集史料・筆記史料などから基礎レベルの史料を選び出して輪読する。履修者は、事前に各種工具書と関連史料を調査して学術的な水準をある程度満たした訳注を作成し、授業ではそれをもとに議論をおこなう。	隔年
		アジア交流史史料研究B	演習形式で、前近代のアジア交流史に関する史料を輪読する。前近代のアジア交流とその多様性に対する理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させ、訳注を作成する技術を涵養する。本授業では、年代記・普遍史といった歴史書、アジア諸言語・ヨーロッパ諸言語で記述された旅行記、アジア諸言語で記録された文書史料、宗教文献などからやや難解な史料を選び出して輪読する。履修者は、事前に各種工具書と関連史料を調査して学術的な水準をかなりの程度満たした訳注を作成し、授業ではそれをもとに議論をおこなう。	隔年
		中国制度史史料講義A	講義に、史料の輪読とディスカッションを加味した形式で授業を進める。中国制度史料の解析を通じて、前近代中国の各種制度について理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させる。まず、教員が前近代中国の法制史や各種制度を理解するための基本文献について解説し、次に、法令・法典から政治制度・官制・行政制度・法制・刑罰・財政制度・経済・戸籍・商業などに関する適切な史料を選び出して輪読し、その内容について分析と議論をおこなう。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
		中国制度史史料講義B	講義に、史料の輪読とディスカッションを加味した形式で授業を進める。中国公文書史料の解析を通じて、前近代中国の各種制度について理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させる。まず、教員が前近代中国の公文書史料や各種制度を理解するための基本文献について解説し、次に、公文書史料から行政・裁判などに関する公文書史料、勅令・官文書などを刻んだ石刻文書、官制・行政・駅・税役・戸籍などに関する原文書など適切な史料を選び出して輪読し、その内容について分析と議論をおこなう。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
		中国経済史史料研究A	演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、近現代中国における社会経済史の展開について理解を深めることをめざす。まず、教員が社会経済史に関わる基本的文献を紹介した上で、産業史全般に関わる論文を読み、	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		その内容について発表と議論をおこなう。次いで、当時の政府による報告書・統計や雑誌記事類等から選択した工業・農業関連史料の講読・解析をおこない、近現代中国の社会経済史の展開について総合的に把握する。	
	中国経済史史料研究B	演習形式で、学生の発表とディスカッションを中心に授業を進め、「中国経済史史料研究A」に引き続き、近現代中国における社会経済史の展開について理解を深める。まず、産業史全般に関わる論文を読み、その内容について発表と議論をおこなう。次いで、当時の商工業団体や金融・銀行団体の報告書、及び刊行していた雑誌類等から選択した商業・金融・貿易・交通関連史料の講読・解析をおこない、近現代中国の社会経済史の展開について総合的に把握する。	隔年
	中国政治史史料講義A	講義に、学生の発表とディスカッションを加味した形式で授業を進め、関係する中国語基本史料の解析を通じて、近現代中国の政治と諸政策が社会にもたらした影響について理解を深めていく。まず、教員が近現代中国の政治・社会を理解するための基本的文献について解説し、その上で政治については行政・財政・法制の三分野、諸政策が社会に与えた影響については教育・文化・民衆の三分野から関連中国語文献史料を選び出し内容の解析をおこなう。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	中国政治史史料講義B	講義に、学生の発表とディスカッションを加味した形式で授業を進める。中国近現代政治史の基本的諸問題、及び政治と社会との相互連関に関わる中級レベルの(やや難解な)史料を読み、解析能力を身につけることが目標である。清末洋務政策・変法運動・新政、民国初年の外交、袁世凱政権の国家統合、連省自治と省自治などの基本的諸問題、江南地域(上海・南京・蘇州・無錫等)を対象とした政治と社会との関係について、官報・新聞・雑誌等より重要史料を厳選して内容を吟味し討論していく。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	中国文化史史料研究A	演習形式で、前近代の中国文化史に関する史料を輪読する。前近代の中国文化とその多様性に対する理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させ、訳注を作成する技術を涵養する。本授業では、宮廷・士大夫・民衆・商業・手工業・文学・演劇・芸術・思想などに関する文化史料から基礎レベルの史料を選んで輪読する。履修者は、事前に各種工具書と関連史料を調査して学術的な水準のある程度満たした訳注を作成し、授業ではそれをもとに議論をおこなう。	隔年
	中国文化史史料研究B	演習形式で、前近代の中国文化史に関する史料を輪読する。前近代の中国文化とその多様性に対する理解を深め、一次史料を読解する能力を向上させ、訳注を作成する技術を涵養する。本授業では、社会生活・風俗・言語・都市・地方・儒学・仏教・道教・イスラームなどに関する文化史料からやや難解な史料を選んで輪読する。履修者は、事前に各種工具書と関連史料を調査して学術的な水準をかなりの程度満たした訳注を作成し、授業ではそれをもとに議論をおこなう。	隔年
	中国社会史史料研究A	近現代中国の政府档案史料(公文書史料)を活用しながら、社会・経済と政治との相互作用に着目しつつ、歴史を構造的に認識する能力を養う。演習形式で、学生の档案史料読解とディスカッションが中心となる。本授業では、中華民国期を対象とした国家(憲法・政府組織・国会)と行政(政策法令・地方制度・地方行財政)に関する档案史料を読み、同時期の社会・経済的發展と国家・行政との関連性を読み取っていくことに主眼を置く。	隔年
	中国社会史史料研究B	档案史料(公私文書史料)を活用しながら、近現代中国の社会経済史に関する知見を深め、歴史を実証的に再構成する能力を養う。演習形式で、学生の档案史料読解とディスカッションが中心となる。本授業では、中華民国期における社会・経済関連档案(農業、工業、商業、財政・税政、金融、商会・同業団体)、中華人民共和国初期を対象とした社会・経済関連档案(取り上げる事象は民国期に同じ)を読み、近現代中国の社会経済に関する系統的理解をめざす。	隔年
	アジア歴史社会論A	東南アジア・南アジア史研究においては、かつての「インド化」論などに代わって、歴史的・社会的・文化的特色を踏まえた様々な新しい枠組み(港市国家論、長期波動期論、「アジアの近世論」問題、グローバルヒストリーなど)が議論の対象となってきた。本講義では、学生の発表とディスカッションを加味した形式で授業を進め、受講生の専門に深く関係するテーマを選び、それに関係する日本語・英語論文の講読を通じて、歴史的・社会的・文化的特色を踏まえた上述の様々な新しい枠組みにつき、具体的な検討を行う。	隔年
	アジア歴史社会論B	東南アジア・南アジア史研究においては、かつての「インド化」論などに代わって、歴史的・社会的・文化的特色を踏まえた様々な新しい枠組み(港市国家論、長期波動期論、「アジアの近世論」問題、グローバルヒストリーなど)が議論の対象となってきた。本講義では、学生の発表とディスカッションを加味した	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		形式で授業を進め、近年話題を集めているトピックにつき関係する日本語・英語論文の講読を通じて、歴史的・社会的・文化的特色を踏まえた上述の様々な新しい枠組みにつき、具体的な検討を行う。	
	近代国家論研究	この授業の目標は、16～19世紀にかけてのヨーロッパにおける近代国家の形成過程について比較しながら、その共通点やそれぞれの特質について、政治、経済、文化など多角的に検討する。授業計画は、かつて近代国家の形成過程については、一国史的観点から発展段階論的に理解されてきた。本講義は、1) 近年の西洋史学の地域史やグローバル・ヒストリ研究の成果を踏まえて、地域 ⇄ 国家 ⇄ 帝国の相互関係の中で、近代国家の形成過程について論ずる。2) K.ポメラントの「大分岐論」とその後の議論に注目しながら、16～18世紀のアジアとヨーロッパの経済成長の過程についても比較検討を行う。	隔年
	欧米社会構造論研究	この授業の目標は、近年の西洋史研究において注目されている文化史研究について、とくに1980年代の「新しい歴史」の段階を経てポスト言語論的転回の段階にある現代歴史学の潮流のなかに文化史研究を位置付ける。 授業計画は、(1) 1970年代以降の文化史研究 研究対象の深化・拡大が見られ、広範な芸術(イメージ、道具、家屋)や慣習行為(会話や読書)などの日常レベルでの慣習や規範が含まれるようになった。さらに人類学的アプローチとの親和性が認められ、政治や経済に対する文化の相対的自律性が強調されるようになった。 (2) 1990年代の新しい文化史研究 ・「新しい文化史」 1980年代末に「新しい文化史」という言葉が使われるようになる。これは、バフチン、フーコ、デリダ、ギアーツらの文化領域の拡大や文化理論の台頭への応答であった。わけても方法論的特徴として、「表象」と「実践」への関心が高まったことの意味について理解する。	隔年
	欧米政治文化史史料研究 A	この授業は、基礎演習として行われる。使用言語は、日本語と英語を併用して行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の政治文化史に関わる一次史料の基本的読解能力の向上を目指す。授業計画は、まず近代欧米の政治文化史に関する二次文献を講読しながら研究史を整理し、何が研究課題として提示できるのかを考えていく。次に、その課題に基づきながら演習において検討する研究テーマを設定し、それに関する史料の書誌情報をデータ化し、関連史料の渉猟を行う。ただし、この演習では、主に政治文化に関する史料の書式や読解方法について学びながら史料の読解能力の向上を目指す。	隔年
	欧米政治文化史史料研究 B	この授業は、発展演習として行われる。使用言語は、日本語と英語を併用して行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の政治文化史に関わる一次史料の読解能力の向上を目指す。演習において検討する研究テーマを設定し、それに関する史料の書誌情報をデータ化し、関連史料の渉猟を行う。演習で取り上げる史料の分析を行い、その意味を読み取りながら、研究史の中に位置付ける。毎回、史料の読解範囲を指定し、分析結果を発表する。	隔年
	欧米社会経済史史料研究 A	この授業は基礎演習として行われる。使用言語は、日本語と英語を併用して行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の社会経済史に関わる一次史料の読解能力の向上を目指す。授業計画は、まず近代欧米の社会経済史に関する二次文献を講読しながら研究史を整理し、何が研究課題として提示できるのかを考えていく。それに基づき、演習で取り扱う史料を選定する。ただし、この演習では、主に会計文書や貿易・関税記録などを扱い、その史料の書式や読解方法について学びながら史料の読解能力の向上を目指す。	隔年
	欧米社会経済史史料研究 B	この授業は基礎演習として行われる。使用言語は、日本語と英語を併用して行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の社会経済史に関わる一次史料の読解能力の向上を目指す。授業計画は、まず近代欧米の社会経済史に関する二次文献を講読しながら研究史を整理し、何が研究課題として提示できるのかを考えていく。それに基づき、演習で取り扱う史料を選定する。ただし、この演習では、主に行財政文書を扱い、史料の書式や読解方法について学びながら史料の読解能力の向上を目指す。	隔年
	欧米社会経済史史料研究 C	この授業は発展演習として位置付け、使用言語は英語により行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の社会経済史に関わる一次史料の読解能力の向上を目指す。授業計画は、まず近代欧米の社会経済史に関する二次文献を講読しながら研究史を整理し、演習で取り扱う史料を選定する。この演習では、主に会	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		計文書や貿易・関税記録に関する史料を取り上げ、その意味を読み取り、研究課題に対していかなる意味を有するのかを検討する。毎週、課題を提示した課題について報告を行う。	
	欧米社会経済史史料研究 D	この授業は発展演習として位置付け、使用言語は英語により行われる。授業の目標は、16～19世紀の欧米の社会経済史に関わる一次史料の読解能力の向上を目指す。授業計画は、まず近代欧米の社会経済史に関する二次文献を講読しながら研究史を整理し、演習で取り扱う史料を選定する。この演習では、主に行財政文書を取り上げ、その意味を読み取り、研究課題に対していかなる意味を有するのかを検討する。毎週、研究課題について報告を行う。	隔年
	西洋社会史文書研究A	近年、史料論的研究の隆盛により、従来の社会経済史研究を実証的に支えてきた歴史史料の見直しが広く進められている。本演習では、こうした研究潮流をふまえ、とくに社会経済史に関連する歴史史料をとりあげた最新の英語文献を、受講生各自が要約・報告し、それを材料に討論を行う。本年度はとくに、中世初期の経済成長の諸相に注目する。なお、現今のヨーロッパ学界の動向を正確に把握すべく、テキストは開講時にそのつど最新の研究成果を選別する。	
	西洋社会史文書研究B	近年、史料論的研究の隆盛により、従来の社会経済史研究を実証的に支えてきた歴史史料の見直しが広く進められている。本演習では、こうした研究潮流をふまえ、とくに社会経済史に関連する歴史史料をとりあげた最新の英語文献を、受講生各自が要約・報告し、それを材料に討論を行う。本年度はとくに、中世盛期の封建制の形成過程に注目する。なお、現今のヨーロッパ学界の動向を正確に把握すべく、テキストは開講時にそのつど最新の研究成果を選別する。	
	西洋文化史文書研究A	中世ヨーロッパにおけるリテラシーや文字文化に対する関心が高まるなかで、わたしたちが依拠すべき歴史史料は、それ自体、いかに生成したか、いかに機能したか、いかに保存されたかを問う、歴史研究の欠かすべからざる対象とみなされるようになって久しい。本演習では、一般に史料論と総称されるこうした研究潮流をふまえ、関連するフランス語文献を精読・報告し、それを材料に討論を行う。本年度はとくに、中世初期～盛期の文書史料に注目する。なお、現今のヨーロッパ学界の動向を正確に把握すべく、テキストは開講時にそのつど最新の研究成果を選別する。	
	西洋文化史文書研究B	中世ヨーロッパにおけるリテラシーや文字文化に対する関心が高まるなかで、わたしたちが依拠すべき歴史史料は、それ自体、いかに生成したか、いかに機能したか、いかに保存されたかを問う、歴史研究の欠かすべからざる対象とみなされるようになって久しい。本演習では、一般に史料論と総称されるこうした研究潮流をふまえ、関連するフランス語文献を精読・報告し、それを材料に討論を行う。本年度はとくに、中世盛期～後期の台帳系史料及び公証人登記簿に注目する。なお、現今のヨーロッパ学界の動向を正確に把握すべく、テキストは開講時にそのつど最新の研究成果を選別する。	
	地中海世界史研究A	授業計画は、この授業の形態は演習であり、少人数による外国語の論文あるいは専門書の解読を行う。あらかじめ配布した資料を予習して読み、授業の場で読み合わせる。この授業の目的は四点ある。①あるテーマに関する最新の研究成果を知る。②そのテーマに関する研究史を把握する。③書かれた言語を正確に読むための技術と知識を身につける。④研究の方法論や視覚を学ぶ。今回は、Claire Holleran, Amanda Claridge (eds.), <i>A Companion to the City of Rome</i> , Wiley Blackwell, (2018)を中心に読み進めるが、他の文献も適宜使用する。	隔年
	地中海世界史研究B	授業計画は、この授業の形態は演習であり、少人数による史料解読を行う。あらかじめ配布した史料を予習して読み、授業の場で読み合わせる。この授業の目的は三点ある。①ギリシア語碑文のテキストを解読する技術と知識を身につけること。②テキストのみならず、附置され場所の意味、施された装飾の意味、文字の大きさ・丁寧さなどの意味を読み解くスキルを養うこと。③それらの碑文を生成した国家・社会・宗教などの背景を知ること。史料としては、 <i>Inscriptiones Graecae</i> を中心に読み進めるが、他の史料集も適宜使用する。また写真や拓本も使用する。	隔年
	地中海文書解析学A	この授業の形態は演習であり、少人数による史料解読を行う。あらかじめ配布した史料を予習して読み、授業の場で読み合わせる。この授業の目的は三点ある。①ラテン語碑文のテキストを解読する技術と知識を身につけること。②テキストのみならず、附置され場所の意味、施された装飾の意味、文字の大きさ・丁寧さなどの意味を読み解くスキルを養うこと。③それらの碑文を生成した国家・社会・	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		宗教などの背景を知ること。史料としては、 <i>Corpus Inscriptionum Latinarum</i> を中心に読み進めるが、他の史料集も適宜使用する。また写真や拓本も使用する。	
	地中海文書解析学B	授業計画は、この授業の形態は演習であり、少人数による史料解説を行う。あらかじめ配布した史料を予習して読み、授業の場で読み合せする。この授業の目的は三点ある。①ギリシア語及びラテン語のパピルス文書のテキストを解説する技術と知識を身につけること。②テキストのみならず、附置され場所の意味、施された装飾の意味、文字の大きさ・丁寧さなどの意味を読み解くスキルを養うこと。③それらの碑文を生成した国家・社会・宗教などの背景を知ること。史料としては、P. W. Pestman, <i>The New Papyrological Primer</i> , Brill, (1994)を中心に読み進めるが、他の史料集も適宜使用する。また写真や拓本も使用する。	隔年
	日本古典文学注釈研究A	日本の古代文学作品について、詳細な注釈を行う力を身につける。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。主に平安時代の私家集を取り上げるが、物語や日記など散文作品との関係も念頭に置きつつ、文学史的な視点も大事にしたい。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学注釈研究B	日本の古代文学作品について、詳細な注釈を行う力を身につける。前期開講の「日本古典文学注釈研究A」に引き続いて、同様の形式で行う。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。前・後期合わせて受講することで、格段に注釈能力が向上することが期待される。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学注釈研究C	日本の中世文学作品について、詳細な注釈を行う力を身につける。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。さらには、さまざまな文芸ジャンルが存在する中世の他作品との関係性も考慮して、日本中世の言語表象文化のありようについて理解を深める。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学注釈研究D	日本の中世文学作品について、詳細な注釈を行う力を身につける。前期開講の「日本古典文学注釈研究C」に引き続いて、同様の形式で行う。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。さらには、さまざまな文芸ジャンルが存在する中世の他作品との関係性も考慮して、日本中世の言語表象文化のありようについて理解を深める。前・後期合わせて受講することで、より確かな注釈力が身につくことが期待される。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学注釈研究E	主として日本近世文学の領域から作品を選び、学問的な注釈の方法を体得させることを目的とする。同じ作品、あるいは同じ著者の作品、又は同時代の同ジャンルに属する作品から広く用例を求め、それらの検討を通して語義や用法を確定し、著者の表現意識に密着しつつ注釈を施すことを基本とし、さらに作品の背後にある時代状況や環境、作者の属する階層特有の問題などへも目を配ることの重要性を説く。また、近世文学が和漢の古典をどのように受容しているかという典拠論をも導入し、さまざまな観点から重層的な注釈を試みる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学注釈研究F	「日本古典文学注釈研究E」を直接継承する科目であり、授業の内容としては連続したものとなる。E・Fを前期・後期の Semester 科目として開設することになるが、1年を通じて同じ作品を輪読する経験を持つことで、受講者は前期から後期へと自分の学力が向上したことを実感できるはずである。また、受講者相互で有効な方法を確認し合うこともできる。専門的な研究力は細切れの授業では決して養成できない。せめて1年をかけてゆっくりと身につけてほしいと願うものである。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	日本古典文学解読研究A	日本の古代文学作品について、正確な読解力を身につけることを目的とする。「日本古典文学注釈研究A」と隔年で交互に開設するが、基本的には同じ形式で、	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		主に平安朝の私家集を解説する。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。	
	日本古典文学解読研究B	日本の古代文学作品について、正確な読解力を身につけることを目的とする。前期開講の「日本古典文学解読研究A」に引き続いて、同様の形式で行う。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。前・後期合わせて受講することで、しっかりと読解力が身につくことが期待される。	隔年
	日本古典文学解読研究C	「日本古典文学注釈研究C」と隔年で交互に開設するが、基本的には同じ形式で行う。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。さらには、さまざまな文芸ジャンルが存在する中世の他作品との関係性も考慮して、日本中世の言語表象文化のありようについて理解を深める。	隔年
	日本古典文学解読研究D	日本の中世文学作品について、正確な読解力を身につけることを目的とする。前期開講の「日本古典文学解読研究C」に引き続いて、同様の形式で行う。テキストには、当該作品について最も信頼できる古写本を、複製又は影印資料によって採用する。さらに、有力な他の写本の本文をも参照することによって、文献学的な本文批判を加えて校訂を行う。校訂された本文に従って読解するが、その際には同時代の他作品における用例なども参照しつつ本文を吟味し、正確に読み解くことをめざす。さらには、さまざまな文芸ジャンルが存在する中世の他作品との関係性も考慮して、日本中世の言語表象文化のありようについて理解を深める。	隔年
	日本古典文学解読研究E	「日本古典文学注釈研究E」と隔年開講の関係にある科目である。主として日本近世文学を対象を定める点では同様であるが、基本的にこれまで活字化されてこず、勿論注釈もない原典を、文意を取れるまで精密に解説することを目的とする。読解のためには、くずし字の解説、句読点や濁点の付与、文脈の理解、固有名詞の特定など、あらゆる学力が動員される必要があり、この作業に従事することによって、古典解読の総合的な力が身に付くはずである。	隔年
	日本古典文学解読研究F	「日本古典文学解読研究E」を直接継承する科目であり、授業の内容としては連続したものとなる。E・Fを前期・後期の Semester 科目として開設することになるが、1年を通じて同じ作品を輪読する経験を持つことで、受講者は前期から後期へと自分の学力が向上したことを実感できるはずである。また、受講者相互で有効な方法を確認し合うこともできる。専門的な研究力は細切れの授業では決して養成できない。せめて1年をかけてゆっくりと身につけてほしいと願うものである。	隔年
	日本近現代文学注釈研究A	「日本近現代文学解読研究A」と隔年開講の関係にある科目である。担当学生による報告をもとに、全員で質疑する演習形式により、授業を行う。注釈・語釈等の技法を学び、日本近代文学研究の種々の方法論に自覚的に取り組む手がかりとする。一定のテーマのもとに選ばれた日本近現代文学の作家・作品群を対象として、テキストに表象された事物を取り上げ、作品が執筆された同時代の社会・文化状況・言説を精査したうえで、読解を進める。	隔年
	日本近現代文学注釈研究B	「日本近現代文学注釈研究A」を直接継承する科目であり、授業の内容としては連続したものとなる。担当学生による報告をもとに、全員で質疑する演習形式により、授業を行う。注釈・語釈等の技法を学び、日本近代文学研究の種々の方法論に自覚的に取り組む手がかりとする点では同様であるが、Aとは異なった日本近現代文学の作家・作品群を対象として、テキストの検討を行っていく。Bにおいては、とりわけ現代的な価値も入れつつ総合的な評価を試み、各学生の研究への応用を図る。	隔年
	日本近現代文学注釈研究	日本近現代文学研究を遂行するための専門・発展的知識と方法を習得することを本授業の目的とする。個々の文学テキスト、並びに雑誌、新聞、広告、挿絵等	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	C	のメディアを含めた同時代言説の解説・注釈を行い、テキスト評価、作家、文学史への再考、再構築をはかる。考察の対象に拠っては、雑誌掲載や単行本・全集所収の定稿のみならず、草稿・未定稿も分析の範囲とする。受講生は指定された資料を通読し、各自で課題を発見し、雑誌論文に繋がる研究発表を行うことが求められる。なお、本授業で扱う資料は、旧来の「日本文学」が前提とする作家・テキストのみならず、近代日本〈帝国〉の植民行為・日本語教育において生まれた「日本語文学」も対象とする。その場合、「日本文学」という〈制度〉が前提としてきた「言語＝民族＝国家＝文化」の四位一体を脱構築する視座を得ることも授業の重要な目的となる。	
	日本近現代文学注釈研究 D	日本近現代文学研究を遂行するための専門・発展的知識と方法を習得することを本授業の目的とする。個々の文学テキスト、並びに雑誌、新聞、広告、挿絵等のメディアを含めた同時代言説の解説・注釈を行い、テキスト評価、作家、文学史への再考、再構築をはかる。考察の対象に拠っては、雑誌掲載や単行本・全集所収の定稿のみならず、草稿・未定稿も分析の範囲とする。受講生は指定された資料を通読し、各自で課題を発見し、雑誌論文に繋がる研究発表を行うことが求められる。なお、本授業で扱う資料は、旧来の「日本文学」が前提とする作家・テキストのみならず、近代日本〈帝国〉の植民行為・日本語教育において生まれた「日本語文学」も対象とする。その場合、「日本文学」という〈制度〉が前提としてきた「言語＝民族＝国家＝文化」の四位一体を脱構築する視座を得ることも授業の重要な目的となる。	隔年
	日本近現代文学解説研究 A	「日本近現代文学注釈研究A」と隔年開講の関係にある科目である。担当学生による報告をもとに、全員で質疑する演習形式により、授業を行う。「注釈研究A」とは異なった観点から選ばれた日本近現代文学の作家・作品群を対象として、2000年代以降に発表された鮮度が高く重要な先行文献を取り上げて検討を加える。各論文が援用している研究理論を明らかにし、方法面から批判的に検証して、その意義と限界を検討していく。	隔年
	日本近現代文学解説研究 B	「日本近現代文学解説研究A」を直接継承する科目であり、授業の内容としては連続したものとなる。担当学生による報告をもとに、全員で質疑する演習形式により、授業を行う。テキスト解説の技法を学び、日本近代文学研究の種々の方法論に自覚的に取り組む手がかりとする。Aとは異なったテーマによって選ばれた日本近現代文学の作家・作品群を対象として、その研究史を検討することにより、作品や作家の再評価を試みる。そのうえで、当該テキストの新たな解説方法を模索し実践して、各学生の研究への応用を図る。	隔年
	日本近現代文学解説研究 C	日本近現代文学研究を遂行するための専門・発展的知識と方法を習得することを本授業の目的とする。個々の文学テキスト、並びに雑誌、新聞、広告、挿絵等のメディアを含めた同時代言説の解説・注釈を行い、テキスト評価、作家、文学史への再考、再構築をはかる。考察の対象に拠っては、雑誌掲載や単行本・全集所収の定稿のみならず、草稿・未定稿も分析の範囲とする。受講生は指定された資料を通読し、各自で課題を発見し、雑誌論文に繋がる研究発表を行うことが求められる。なお、本授業で扱う資料は、旧来の「日本文学」が前提とする作家・テキストのみならず、近代日本〈帝国〉の植民行為・日本語教育において生まれた「日本語文学」も対象とする。その場合、「日本文学」という〈制度〉が前提としてきた「言語＝民族＝国家＝文化」の四位一体を脱構築する視座を得ることも授業の重要な目的となる。	隔年
	日本近現代文学解説研究 D	日本近現代文学研究を遂行するための専門・発展的知識と方法を習得することを本授業の目的とする。個々の文学テキスト、並びに雑誌、新聞、広告、挿絵等のメディアを含めた同時代言説の解説・注釈を行い、テキスト評価、作家、文学史への再考、再構築をはかる。考察の対象に拠っては、雑誌掲載や単行本・全集所収の定稿のみならず、草稿・未定稿も分析の範囲とする。受講生は指定された資料を通読し、各自で課題を発見し、雑誌論文に繋がる研究発表を行うことが求められる。なお、本授業で扱う資料は、旧来の「日本文学」が前提とする作家・テキストのみならず、近代日本〈帝国〉の植民行為・日本語教育において生まれた「日本語文学」も対象とする。その場合、「日本文学」という〈制度〉が前提としてきた「言語＝民族＝国家＝文化」の四位一体を脱構築する視座を得ることも授業の重要な目的となる。	隔年
	日本語学研究A	日本語で書かれた歴史的な典籍を取り上げ、そこに現れた日本語のさまざまな事象に関して、学問的に探究する。授業は演習形式で行う。高等学校の教科書で	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		学習する古文は、平安時代の語法を規範としたいわゆる文語文法で書かれているが、上代から中古・中世・近世と時代が移るにしたがって、日本語も変遷していく。この授業では、文語文法の規範からは外れることの多い、中世後期から近世前期頃の日本語資料を主に取り上げて、日本語の変遷の様相を知るという観点から、詳しい考察を加える。	
	日本語学研究B	前期に開講する「日本語学研究A」に引き続いて、同様の形式で行う。日本語で書かれた歴史的な典籍を取り上げ、そこに現れた日本語のさまざまな事象に関して、学問的に探究する。高等学校の教科書で学習する古文は、平安時代の語法を規範としたいわゆる文語文法で書かれているが、上代から中古・中世・近世と時代が移るにしたがって、日本語も変遷していく。この授業では、文語文法の規範からは外れることの多い、中世後期から近世前期頃の日本語資料を主に取り上げて、日本語の変遷の様相を知るという観点から、詳しい考察を加える。	隔年
	日本語史研究A	日本語の歴史的な変遷をさまざまな文献に基づいて探究する。「日本語学研究A」と隔年で交互に開講するが、基本的には同じ形式で行う。上代から中古・中世・近世と時代が移るにしたがって、日本語も変遷していく。この授業では、文語文法の規範からは外れることの多い、中世後期から近世前期頃の日本語資料を主に取り上げて、日本語の変遷の具体相を知るという観点から、詳しい考察を加える。それとともに、歴史的な変遷を経て、現代の日本語がどのようにして形成されたのかということについても深く掘り下げていく。	隔年
	日本語史研究B	前期に開講する「日本語史研究A」に引き続いて、同様の形式で行う。上代から中古・中世・近世と時代が移るにしたがって、日本語も変遷していく。この授業では、文語文法の規範からは外れることの多い、中世後期から近世前期頃の日本語資料を主に取り上げて、日本語の変遷の具体相を知るという観点から、詳しい考察を加える。それとともに、歴史的な変遷を経て、現代の日本語がどのようにして形成されたのかということについても深く掘り下げていく。	隔年
	中国古典散文演習A	明清時代に作られた文章を演習形式で読解する。取り上げる資料は、小説を中心とした俗文学に関する随筆や日記、序跋などである。この時代には、出版文化の興隆によって数多くの俗文学作品が編纂され、読み物として刊行された。従来「正統」とみなされてきた詩文とは異なる文学がジャンルとして確立するという、革命的ともいえる変化が起きたのである。そこでこうした資料の精読を通して、明清小説に関する基礎知識を身につけると同時に、当時の「小説観」についても考える。第一回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方などについての説明を行う。第二回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。	
	中国古典散文演習B	段玉裁『説文解字注』を演習形式で読解し、漢字の形・音・義及び六書に関する基本的知識を習得し、中国語文言文を読みこなすための基礎について学ぶことを目的とする。中国語は非常に早い段階から文言（書面語）と白話（口頭語）とが乖離し、両者がほぼ独自に発展を遂げてきた。漢字は中国語を表記するために生み出された文字だが、1字1字が意味を持つ表語文字として世界的に見ても極めてユニークな存在である。この授業では中国語文言文を読解することを前提としてまず漢字の特徴をよく理解するところから始め、中国語の統辞法・文法を概観していく。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。	
	中国古典散文演習C	明清時代に作られた文章を演習形式で読解する。取り上げる資料は、小説を中心とした俗文学に関する随筆や日記、序跋などである。この時代には、出版文化の興隆によって数多くの俗文学作品が編纂され、読み物として刊行された。従来「正統」とみなされてきた詩文とは異なる文学がジャンルとして確立するという、革命的ともいえる変化が起きたのである。中国古典散文演習Aと内容は同じであるが、より深い理解を必要とし、明清小説に関する基礎知識を身につけることはもとより、当時の「小説観」について、また出版文化についても議論を深める。第一回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方などについての説明を行う。第二回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	中国古典散文演習D	段玉裁『説文解字注』を演習形式で読解する。本年度は「手」を部首とする文字を扱う。「手」部に属する文字の多くは手によって行われる動作を表すが、それらの動作が動作の結果や目的ではなく、動作が行われる時の手の形によって分節されていることを理解する。また、その注釈態度に着目し、段玉裁が許慎『説文解字』をどのような体系を備えた著作として捉えようとしたのか、という問題意識をもって読解を進める。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。	
	中国古典韻文演習A	賦は中国古典文学の内、詩と並んで韻文の主要な文学様式の一つに数えられる。漢魏六朝を代表する様式であり、後の唐詩宋詞や明清の小品文にも大きな影響を与えた。本授業は、中国で最も早く編まれた文学作品のアンソロジーである『文選』を取り上げ、唐代の文選注を最も多く保存する『文選集注』（鈔本）巻八所収の賦をテキストとし、現存する『文選』の諸版本及び旧鈔本を読み比べ、テキストの翻字・断句・校勘・出典の確認・本文の精読及び現代日本語訳などの作業を通じて、古文獻解読及び古典漢文解釈の基礎を学ぶ。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的、テキストの使い方や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。	
	中国古典韻文演習B	賦は中国古典文学の内、詩と並んで韻文の主要な文学様式の一つに数えられる。漢魏六朝を代表する様式であり、後の唐詩宋詞や明清の小品文にも大きな影響を与えた。本授業は、中国で最も早く編まれた文学作品のアンソロジーである『文選』を取り上げ、唐代の文選注を最も多く保存する『文選集注』（鈔本）巻九所収の賦をテキストとし、現存する『文選』の諸版本及び旧鈔本を読み比べ、テキストの翻字・断句・校勘・出典の確認・本文の精読及び現代日本語訳などの作業を通じて、古文獻解読及び古典漢文解釈の基礎を学ぶ。また、文献学、特に日本に現存する旧鈔本に関わる基礎知識を身に付け、中国古典文学における韻文学に関する基本的研究能力を養う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的、テキストの使い方や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。本授業では、中国古典韻文演習Aと内容は同じであるが、より深い理解を必要とし、中国六朝時代の賦の特徴や研究方法等についても議論を深める。	
	中国古典韻文演習C	本授業は、中国で最も早く編まれた文学作品のアンソロジーである『文選』を取り上げ、唐代の文選注を最も多く保存する『文選集注』（鈔本）所収の韻文をテキストとし、現存する『文選』の諸版本及び旧鈔本を読み比べ、テキストの翻字・断句・校勘・出典の確認・本文の精読及び現代日本語訳などの作業を通じて、古文獻解読及び古典漢文解釈の基礎を学ぶ。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的、テキストの使い方や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。	
	中国古典韻文演習D	本授業は、中国で最も早く編まれた文学作品のアンソロジーである『文選』を取り上げ、唐代の文選注を最も多く保存する『文選集注』（鈔本）所収の韻文をテキストとし、現存する『文選』の諸版本及び旧鈔本を読み比べ、テキストの翻字・断句・校勘・出典の確認・本文の精読及び現代日本語訳などの作業を通じて、古文獻解読及び古典漢文解釈の基礎を学ぶ。また、文献学、特に日本に現存する旧鈔本に関わる基礎知識を身に付け、中国古典文学における韻文学に関する基本的研究能力を養う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的、テキストの使い方や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。本授業では、中国古典韻文演習Cと内容は同じであるが、より深い理解を必要とし、中国六朝時代の韻文の特徴や研究方法等についても議論を深める。	
	中国古典詩演習A	杜甫の詩を清・仇兆鰲『杜詩詳注』をテキストとし、演習形式で読み進める。中国古典詩及びその注釈を読解するための基本的能力を習得することを目的とする。杜甫の作品は詩のあるべき姿として後世の人々から非常に重んじられてきた。そのため杜甫の詩に対する注釈は質量ともに極めて充実したものがある。その中で『杜詩詳注』は歴代の注釈を集大成し、最も標準的な注釈書として高く評価さ	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>れてきた。一方、データベースなどが以前に比べて飛躍的に充実したため、中国古典詩研究は以前とはまったく異なる方法によって行われるようになった。しかし、「作品の読み」という点があまにも軽視されるという弊害も無視できなくなりつつある。文学研究の原点に立ち帰って、作品を丹念に読み進めるという研究態度を見直すこととしたい。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。</p>	
	中国古典詩演習B	<p>杜甫の詩を演習形式で読み進める。杜甫の詩に対しては宋代から現代に至るまで多くの注釈が作られているが、本演習では清・仇兆鰲『杜詩詳注』をテキストとする。約1400首が現存する杜甫の詩の内、本年度は彼の夔州期の作を中心に読解を進める。夔州期の杜甫は月の光と長江の水の揺らぎを詩的言語に定着させることを様々な表現方法を駆使して試みているように思われる。本演習では中国古典詩に於ける月と水の表現を踏まえた上で杜甫の詩をより深く読み解くことを目的としたい。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。</p>	
	中国古典詩演習C	<p>杜甫の詩を清・仇兆鰲『杜詩詳注』をテキストとし、演習形式で読む。杜甫が『文選』を重視していたことはよく知られているが、本演習では杜甫が詩に用いた語がどの程度『文選』からの影響を受けているのかに着目しながら、個々の語についてひとつひとつ丹念に跡付けていき、詩人たちが自分たちに先行する作品をどのように継承し発展させていったのかを跡付けていくかについて考える。この作業は杜甫詩に対する歴代の注釈を参考にすることができるので、中国古典詩及びその注釈を読解するための基本的能力を身に付けることができる。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。</p>	
	中国古典詩演習D	<p>杜甫の詩を演習形式で読む。杜甫の詩作活動に『文選』が大きな影響を与えたことは既に周知の事柄に属するが、『文選』以後、即ち六朝梁・陳代の詩がどの程度の影響を杜甫に与えたかについては未だに明らかにされていない部分がある。中国古典詩史に於いても陳後主・張正見・陰鏗など陳代の詩人たちの作はこれまでずっと等閑視されてきたと言ってよい。本演習ではデータベースを利用しつつ細かな表現にまで踏み込み、従来の杜甫詩研究とは少し異なるアプローチを試みる足掛かりとしたい。第1回、第2回の授業では授業の目的を説明し、演習に必要な工具書・データベースなどを紹介し、その使い方及び使用する際の留意点について概説する。第3回以降は演習形式でテキストを丹念に読解していく。予め定められた演習担当者は資料を作成の上で発表を行い、発表内容を基に受講生と質疑応答を行う。第15回は授業担当教員が演習全体についてまとめる。</p>	
	中国古典小説演習A	<p>『太平広記』の精読を通して、漢語（特に文言）の語彙、語法に関する基礎知識を習得し、文言小説の読解力を養う。北宋に成立した類書のひとつである『太平広記』には、それ以前に成立した七千篇にも及ぶ不思議な話が収められており、それ以降の文学作品（明清小説等）にも多大なる影響を与えた。授業では、いまだ邦訳のない『太平広記』「神の部」を中心に演習形式で読解を行う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。</p>	
	中国古典小説演習B	<p>『太平広記』の精読を通して、漢語（特に文言）の語彙、語法に関する基礎知識を習得し、文言小説の読解力を養う。北宋に成立した類書のひとつである『太平広記』には、それ以前に成立した七千篇にも及ぶ不思議な話が収められており、それ以降の文学作品（明清小説等）にも多大なる影響を与えた。授業では、いまだ邦訳のない『太平広記』「神の部」、つづく「鬼の部」を中心に演習形式で読解を行う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム	などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。		
		中国古典小説演習C	『太平広記』の精読を通して、漢語（特に文言）の語彙、語法に関する基礎知識を習得し、文言小説の読解力を養う。北宋に成立した類書のひとつである『太平広記』には、それ以前に成立した七千篇にも及ぶ不思議な話が収められており、それ以降の文学作品（明清小説等）にも多大なる影響を与えた。授業では、いまだ邦訳のない『太平広記』「神の部」を中心に演習形式で読解を行う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。中国古典小説演習Aと内容は同じであるが、より深い理解を必要とし、『太平広記』全体の構成や、「神」の描写の特徴等についても議論を深める。	
		中国古典小説演習D	『太平広記』の精読を通して、漢語（特に文言）の語彙、語法に関する基礎知識を習得し、文言小説の読解力を養う。北宋に成立した類書のひとつである『太平広記』には、それ以前に成立した七千篇にも及ぶ不思議な話が収められており、それ以降の文学作品（明清小説等）にも多大なる影響を与えた。授業では、いまだ邦訳のない『太平広記』「神の部」、つづく「鬼の部」を中心に演習形式で読解を行う。第1回は授業についてのガイダンスを行い、授業の目的や演習の進め方などについての説明を行う。第2回以降は、演習形式で資料を読み進めていく。授業では、発表担当者以外もあらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。中国古典小説演習Bと内容は同じであるが、より深い理解を必要とし、『太平広記』全体の構成や、「神」「鬼」の描写の特徴等についても議論を深める。	
		中国文学特殊講義A	中国文学は、時代により、ジャンルにより、用いられる言語も様式も大きく異なる。本講義では、古代～中世の散文、韻文、及び近代の散文、韻文について、具体的な作品を取り上げて精読する。また、書物の形式や、科挙試験の制度等、各時代の様々な風潮も当然ながら文学作品の在り方に大きな影響を与えており、こうした外的な要因を考えることも文学研究においては不可欠である。本講義では、読解力を養うのみならず、こうした中国文学に関する様々な知識を身につけることも目的としている。第1回では、授業についてのガイダンスを行う。第2回以降は、担当者の指示に従って、資料を読み進めて行く。授業では、あらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。	
		中国文学特殊講義B	中国文学は、時代により、ジャンルにより、用いられる言語も様式も大きく異なる。本講義では、古代～中世の散文、韻文、及び近代の散文、韻文について、具体的な作品を取り上げて精読する。また、書物の形式や、科挙試験の制度等、各時代の様々な風潮も当然ながら文学作品の在り方に大きな影響を与えており、こうした外的な要因を考えることも文学研究においては不可欠である。本講義では、読解力を養うのみならず、こうした中国文学に関する様々な知識を身につけることも目的としている。第1回では、授業についてのガイダンスを行う。第2回以降は、担当者の指示に従って、資料を読み進めて行く。授業では、あらかじめ資料を熟読していることを前提とした上で議論を行う。中国文学特殊講義Aと内容は同じであるが、より深い理解が求められ、中国文学における当該作品の位置付けなどについても議論を深める。	
欧米文学語学・言語学概説	イギリス文学、アメリカ文学、フランス文学、ドイツ文学、英語学、コーパス言語学、言語学の基本的かつ重要な理論と研究方法を学ぶ。授業形態はオムニバス方式で、各担当教員が現在行っている研究に関する主要な理論と研究法の解説、それに付随する参考文献の紹介、そして所属する専門分野の研究内容の概説が講義の中核をなす。受講生には、自らの専門領域を越えて、欧米文学、英語学、言語学における様々な専門分野について学んでもらいたい。  (オムニバス方式/全15回)  (61 吉中 孝志/1回) イギリス戯曲・詩文学における研究の実践例を学ぶ。  (33 大地 真介/1回)	オムニバス方式		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	人文学 プログラム	<p>アメリカ文学とは何かということについて学ぶ。</p> <p>(154 倉田 賢一/1回) イギリス小説と現代批評理論について学ぶ。</p> <p>(206 松本 舞/1回) 初期近代英国の芸術と文学について学ぶ。</p> <p>(14 今林 修/1回) 英語文体論について主要参考文献を紹介しながら概説する。</p> <p>(143 大野 英志/1回) 文学作品に見る言語現象について主要参考文献を紹介しながら概説する。</p> <p>(15 小林 英起子/3回) イソップの寓話ードイツの寓話</p> <p>(144 今道 晴彦/1回) コーパス言語学</p> <p>(203 古川 昌文/1回) 文学解釈の諸問題</p> <p>(34 宮川 朗子/1回) フランス文学研究のさまざまな方法</p> <p>(207 奥村 真理子/1回) フランス文学研究の諸方法</p> <p>(35 今田 良信 /1回) 言語と文化ー言語記号の恣意性及び言語による外界の範疇化と文化ー</p> <p>(109 上野 貴史/1回) 理論言語学の研究史を概説し、その基本的考え方を学ぶ。</p>	
	近代アメリカ文学演習 A	<p>本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカの近代、特に 19 世紀のアメリカ文学をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、ナサニエル・ホーソン、エドガー・アラン・ポー、ウォルト・ホイットマンなどのアメリカン・ルネサンスの作家、マーク・トウェイン、ヘンリー・ジェームズ、セオドア・ドライサーなどのリアリズムの作家の作品を精読し、ディスカッションをする。</p>	
	近代アメリカ文学演習 B	<p>本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカの近代、特に 19 世紀のアメリカ文学をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、ラルフ・ウォルドー・エマソン、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー、エミリー・ディキンソンなどのアメリカン・ルネサンスの作家、ステイヴン・クレイン、フランク・ノリス、ヘンリー・ジェームズなどのリアリズムの作家の作品を精読し、ディスカッションをする。</p>	
	現代アメリカ文学演習 A	<p>本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカの現代、特に 20 世紀のアメリカ文学をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、T・S・エリオット、ユージン・オニール、ウィリアム・フォークナーなどのモダニズムの作家、ウラジーミル・ナボコフ、トマス・ピンチオン、トニ・モリソンなどのポストモダニズムの作家の作品を精読し、ディスカッションをする。</p>	
	現代アメリカ文学演習 B	<p>本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカの現代、特に 20 世紀のアメリカ文学をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、アーネスト・ヘミングウェイ、ウィリアム・フォークナー、テネシー・ウィリアムズなどのモダニズムの作家、フィリップ・K・ディック、ソール・ベロー、コーマック・マッカーシーなどのポストモダニズムの作家の作品</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム			
		アメリカ文学理論演習 A	を精読し、ディスカッションをする。 本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀から 21 世紀に至るアメリカの文学を文学理論の観点から学ぶことにある。具体的には、ニュー・クリティシズム、構造主義、ポスト構造主義、精神分析、新歴史主義、ポストコロニアリズムなどの文学理論を踏まえて、ワシントン・アーヴィング、ヘンリー・ジェームズ、ガートルード・スタイン、E・E・カミングズなどのアメリカの主要な作家の作品を精読し、ディスカッションをする。	
		アメリカ文学理論演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀から 21 世紀に至るアメリカの文学を文学理論の観点から学ぶことにある。具体的には、ニュー・クリティシズム、構造主義、ポスト構造主義、精神分析、新歴史主義、ポストコロニアリズムなどの文学理論を踏まえて、ハーマン・メルヴィル、ヘンリー・ジェームズ、エズラ・パウンド、テネシー・ウィリアムズなどのアメリカの主要な作家の作品を精読し、ディスカッションをする。	
		アメリカ小説作品演習 A	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀から 21 世紀に至るアメリカの小説をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、ジェイムズ・フェニモア・クーパー、ナサニエル・ホーソン、ハーマン・メルヴィル、イーディス・ウォートン、ジョン・ドス・パソス、ウィリアム・フォークナー、アリス・ウォーカーなどの小説を精読し、先行研究を踏まえてディスカッションをする。	
		アメリカ小説作品演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀から 21 世紀に至るアメリカの小説をアメリカの文化（歴史・宗教・風俗習慣など）と関連づけて学ぶことにある。具体的には、エドガー・アラン・ポー、ハーマン・メルヴィル、マーク・トウェイン、F・スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー、フラナリー・オコナー、コーマック・マッカーシーなどの小説を精読し、先行研究を踏まえてディスカッションをする。	
		アメリカ文学特殊講義 A	本授業は講義・演習形式であり、授業目的は、アメリカ文学に関係する日本や海外の主要な学会に出席する意義や方法を学ぶことにある。具体的には、エコクリティシズム研究会、中・四国アメリカ文学学会大会、中・四国英文学学会大会、日本アメリカ文学学会全国大会（可能であれば the MLA Annual Convention などの海外の学会）に出席して研究発表者に質問などをするための準備をし、成績は、学会出席、研究発表者への質問、レポートによって評価する。	講義 1 6 時間 演習 1 4 時間
		アメリカ文学特殊講義 B	本授業は講義・演習形式であり、授業目的は、アメリカ文学に関係する日本や海外の主要な学会に出席する意義や方法を学ぶことにある。具体的には、中・四国アメリカ文学学会大会、中・四国英文学学会大会、日本アメリカ文学学会全国大会、日本英文学学会全国大会、the MLA Annual Convention などの海外の学会に出席して研究発表者に質問などをするための準備をし、成績は、学会出席、研究発表者への質問、レポートによって評価する。	講義 1 6 時間 演習 1 4 時間
		アメリカ文学研究演習 A	本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカ文学に関係する日本や海外の主要な学会で研究発表するための方法を学ぶことにある。具体的には、エコクリティシズム研究会、中・四国アメリカ文学学会大会、中・四国英文学学会大会、日本アメリカ文学学会全国大会（可能であれば the MLA Annual Convention などの海外の学会）でアメリカ文学について研究発表するための準備をし、成績は、学会での研究発表、レポートなどによって評価する。	
		アメリカ文学研究演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、アメリカ文学に関係する日本や海外の主要な学会で研究発表するための方法を学ぶことにある。具体的には、エコクリティシズム研究会、中・四国アメリカ文学学会大会、中・四国英文学学会大会、日本アメリカ文学学会全国大会（可能であれば the MLA Annual Convention などの海外の学会）でアメリカ文学について研究発表するための準備をし、成績は、学会での研究発表、レポートなどによって評価する。	
		批評理論演習 A	文学テキストに援用可能な様々な現代批評理論を学ぶ。構造主義とポスト構造主義、新批評、歴史主義的批評と新歴史主義批評、神話批評、女性擁護論的批評、脱構築批評、ポスト・植民地主義批評、精神分析批評などを概観するとともに、表象、作者、読者、ディスクール、エクリチュール、解釈、パフォーマンス、意図、無意識、レトリック等の基本概念を学習する。批評理論を扱った書物や論文を読み、討議する演習形式で行う。評価は、授業への貢献度とレポートで行う。	隔年
		批評理論演習 B	文学テキストに援用可能な様々な現代批評理論を学ぶ。構造主義とポスト構造主義、新批評、歴史主義的批評と新歴史主義批評、神話批評、女性擁護論的批評、	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		脱構築批評, ポスト・植民地主義批評, 精神分析批評などを概観するとともに, 表象, 作者, 読者, ディスクール, エクリチュール, 解釈, パフォーマンス, 意図, 無意識, レトリック等の基本概念を学習する。具体的な文学作品へ批評理論を援用した論文を読み, 討議する演習形式で行う。評価は, 授業への貢献度とレポートで行う。	
	イギリス詩文学作品演習 A	本授業は演習形式であり 16 世紀から 20 世紀にイギリスで書かれたソネット形式の英詩, 具体的には, Sir Thomas Wyatt, Fulke Greville, Sir Philip Sidney, Edmund Spenser, Michel Drayton, William Shakespeare, Christina Rossetti, W.B. Yeats, Earnest Dowson, Edward Thomas, Wilfred Owen, Louis MacNiece, W.H. Auden, Ted Hughes などの作品を精読する。	
	イギリス詩文学作品演習 B	本授業は演習形式であり 16 世紀から 17 世紀に書かれたイギリスの恋愛詩, 具体的には, Robert Herrick, Thomas Campion, Edmund Waller, Christopher Marlowe, Sir Thomas Wyatt, Sir Philip Sidney, Sir John Suckling, Thomas Carew, John Wilmot, John Donne, John Dryden, George Wither などの詩を精読する。また注を丁寧に読むことで, 文学議論の在り方を学ぶ。	
	イギリス詩文学作品研究演習 A	16 世紀から 20 世紀に書かれたイギリスの宗教詩, 具体的には, John Donne, George Herbert, Henry Vaughan, Thomas Traherne, Emily Bronte, Christina Rossetti, Gerard Manley Hopkins, W. B. Yeats, Earnest Dowson, Wilfred Owen, W.H. Auden, Ted Hughes, Seamus Heaney, R. S. Thomas などの作品を精読する。英語が持つ言語的な意味, 作品が書かれた当時の社会状況, 受容のされ方についても念頭に置き, テキストにつけられた注釈を参考にしながら, 作品を丹念に読み, 文学的な議論を展開させる能力を養う。	
	イギリス詩文学作品研究演習 B	本授業は演習形式であり 16 世紀から 19 世紀に書かれたイギリスの叙事詩, 具体的には, Edmund Spenser, Fulke Greville, John Milton, Abraham Cowley, Richard Crashaw, George Gordon, Lord Byron などの作品を精読する。EEBO などのデータベースを使用しながら一次資料を活用し, 文学議論の中に新しい論点を提示することを目標とする。最終的には英語でのプレゼンテーションを行う。	
	イギリス小説作品研究演習 A	現代批評理論を文学テキストに援用する方法を学ぶとともに, 19 世紀, 及び 20 世紀のイギリス小説家の作品の読解をとおして, 文学作品解釈の能力を高める。対象作家は, ジェーン・オースティン, サー・ウォルター・スコット, チャールズ・ディケンズ, エリザベス・ギャスケル, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, アン・ブロンテ, ジョージ・エリオット, ウィリアム・サッカレー, ウィルキー・コリンズ, トマス・ハーディー, オスカー・ワイルドなどで, 演習形式で行う。評価はレポートに拠る。	
	イギリス小説作品研究演習 B	現代批評理論を文学テキストに援用する方法を学ぶとともに, 19 世紀, 及び 20 世紀のイギリス小説家の作品の読解をとおして, 文学作品解釈の能力を高める。対象作家は, ジェーン・オースティン, サー・ウォルター・スコット, チャールズ・ディケンズ, エリザベス・ギャスケル, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, アン・ブロンテ, ジョージ・エリオット, ウィリアム・サッカレー, ウィルキー・コリンズ, トマス・ハーディー, オスカー・ワイルドなどで, 演習形式で行い, さらに個々の学生が研究対象とする作家研究の視点を加えて議論する。評価はレポートに拠る。	
	イギリス小説作品演習 A	19 世紀, 及び 20 世紀のイギリス小説家の作品の読解をとおして, 文学作品解釈の能力を高める。対象作家は, ジェーン・オースティン, サー・ウォルター・スコット, チャールズ・ディケンズ, エリザベス・ギャスケル, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, アン・ブロンテ, ジョージ・エリオット, ウィリアム・サッカレー, ウィルキー・コリンズ, トマス・ハーディー, オスカー・ワイルドなどで, 演習形式で行う。評価はレポートに拠る。	
	イギリス小説作品演習 B	19 世紀, 及び 20 世紀のイギリス小説家の作品の読解をとおして, 文学作品解釈の能力を高める。対象作家は, ジェーン・オースティン, サー・ウォルター・スコット, チャールズ・ディケンズ, エリザベス・ギャスケル, シャーロット・ブロンテ, エミリー・ブロンテ, アン・ブロンテ, ジョージ・エリオット, ウィリアム・サッカレー, ウィルキー・コリンズ, トマス・ハーディー, オスカー・ワイルドなどで, 演習形式で行い, さらに個々の学生が研究対象とする作家研究の視点を加えて議論する。評価はレポートに拠る。	
	イギリス戯曲文学演習 A	イギリスの戯曲, 特にシェイクスピアを中心にしたエリザベス朝の戯曲を精読し, 当該の先行研究と演劇理論, 及び批評理論を援用する方法を学ぶとともに,	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		文学的な議論を展開させる能力を養う。対象テキストは、シェイクスピアの4大悲劇『ハムレット』、『リア王』、『マクベス』、『オセロウ』とローマ歴史劇『タイタス・アンドロニカス』、『ジュリアス・シーザー』、『トロイラスとクレシダ』、『コリオレイナス』、『アントニーとクレオパトラ』、『アテネのタイモン』など。演習形式で評価はレポートに拠る。	
	イギリス戯曲文学演習B	イギリスの戯曲、特にジャコビアン・トラジディーを中心とする戯曲を精読し、文学的な議論を展開させる能力を養う。対象となるテキストは、ジョン・ウエブスターの『白い悪魔』、『マルフィ公爵夫人』、シビル・ターナーによるとされる『復讐者の悲劇』、ウィリアム・ローリーの筆とされる『取り替え子』、トマス・ミドルトンを含む同時期の作家との共作と考えられる『チェス・ゲーム』、『女よ、女を警戒せよ』などである。演習形式で行い、レポートによって評価する。	
	イギリス戯曲文学演習C	イギリスの戯曲、特にシェイクスピアを中心としたエリザベス朝の戯曲を精読し、当該の先行研究と演劇理論、及び批評理論を援用する方法を学ぶとともに、文学的な議論を展開させる能力を養う。対象テキストは、シェイクスピアの4大悲劇『ハムレット』、『リア王』、『マクベス』、『オセロウ』と喜劇『間違いの喜劇』、『ヴェローナの二紳士』、『じゃじゃ馬慣らし』、『恋の骨折り損』、『夏の夜の夢』、『尺には尺を』、『十二夜』など。演習形式で評価はレポートに拠る。	
	イギリス戯曲文学演習D	イギリスの戯曲、特にジャコビアン・トラジディーを中心とする戯曲を精読し、当該の先行研究と演劇理論、及び批評理論を援用する方法を学ぶとともに、文学的な議論を展開させる能力を養う。対象となるテキストは、ジョン・ウエブスターの『白い悪魔』、『マルフィ公爵夫人』、シビル・ターナーによるとされる『復讐者の悲劇』、ウィリアム・ローリーの筆とされる『取り替え子』、トマス・ミドルトンを含む同時期の作家との共作と考えられる『チェス・ゲーム』、『女よ、女を警戒せよ』などである。演習形式で行い、レポートによって評価する。	
	英語圏文学概論A	本授業は演習形式であり16世紀から20世紀に書かれた英語圏の文学作品を精読する。小説の精読においては、Thomas HardyやOscar Wildeなどの作品を精読し、作品における「語りの構造」とその意味、「性格」、「階級制」、「家庭」、「女性の状況」などのテーマを考察する。作品における主要人物間の結婚をめぐる関係、社会における階級を理解することを目標とする。授業における教師の意義、学生の発表、院生間の議論、質疑応答を通じて浮かび上がった問題点について、更なるリサーチを行い、論文執筆の萌芽の研究へと繋げることが求められる。また、夏季に開催される学部生の読書会のテキストの紹介等、補助を行う。	
	英語圏文学概論B	本授業は演習形式であり16世紀から20世紀に書かれた英語圏の文学作品を精読する。作品の精読により、その意義、文学的技巧、英語の音韻的美しさ、後代への影響などを考察する。Oxford English Dictionaryを使用した語の検索と意味理解、『欽定英語訳聖書』をはじめとする英語訳聖書との比較・考察を通じて、これらの英語訳聖書の語彙と語法、そしてイメージと概念が具体的にどのように作品の構成要素となっているかを理解する。精読においては、文学議論のテーマを提示することを目標とする。	
	英語圏文学特殊講義A	学会での発表を視野に、作品を精読するのに必要な知識を養う。論文作成のための二次資料を収集の方法を学ぶ。講義形式。成績は、学会での研究発表、レポートなどによって評価する。具体的には、広島シェイクスピアと現代作家の会、中・四国英文学会大会、日本英文学会全国大会（可能であれば海外の学会）に出席してイギリス文学に研究発表を行うか、研究発表者に質問などをするための準備をし、成績は、学会出席、研究発表者への質問、レポートによって評価する。	共同
	英語圏文学特殊講義B	学会での発表原稿を作成するための論の展開を学ぶ。特にプレゼンテーションに必要な技能を身に付ける。講義形式。成績は、学会での研究発表、レポートなどによって評価する。具体的には、広島シェイクスピアと現代作家の会、中・四国英文学会大会、日本英文学会全国大会（可能であれば海外の学会）に出席してイギリス文学に研究発表を行うか、研究発表者に質問などをするための準備をし、成績は、学会出席、研究発表者への質問、レポートによって評価する。	共同
	世界英語圏文学批評演習A	本授業は演習形式であり、授業目的は、ロマン派やヴィクトリア朝の詩について学ぶことにある。対象詩人は、William Blake, William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge, John Keats, Percy Bysshe Shelley, George Gordon Byron, Alfred Tennyson, Robert Browning, Elizabeth Barret Browning, Matthew Arnold などである。	
	世界英語圏文学批評演習	本授業は演習形式であり、授業目的は、ロマン派やヴィクトリア朝の詩について	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	B	て学ぶことにある。対象詩人は、William Blake, William Wordsworth, Samuel Taylor Coleridge, John Keats, Percy Bysshe Shelley, George Gordon Byron, Alfred Tennyson, Robert Browning, Elizabeth Barret Browning, Matthew Arnold などであるが、これらの詩人たちに影響を与えた女流詩人の果たした役割について特化した読解を行う。	
	英語圏文学作品演習 A	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀後半の主要なアメリカの小説について学ぶことにある。具体的には、 <i>Daisy Miller</i> , <i>Washington Square</i> , <i>The Portrait of a Lady</i> , <i>The Bostonian</i> などの Henry James の代表作を取り上げ、それらの作品の形式や文体の革新性、当時の政治や社会との共鳴性、当時の文学や思想との関係性について考察する。その際、様々な研究アプローチによる、それらの作品についての先行研究も読む。成績は授業への参加度とレポートで評価する。	
	英語圏文学作品演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀後半の主要なアメリカの小説について学ぶことにある。具体的には、 <i>The Aspern Papers</i> , <i>The Tragic Muse</i> , <i>The Turn of the Screw</i> などの Henry James の代表作を取り上げ、それらの作品の形式や文体の革新性、当時の政治や社会との共鳴性、当時の文学や思想との関係性について考察する。その際、様々な研究アプローチによる、それらの作品についての先行研究も読む。成績は授業への参加度とレポートで評価する。	
	英語圏文学作品研究演習 A	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀の主要なアメリカの小説について学ぶことにある。具体的には、Nathaniel Hawthorne, Edgar Allan Poe といったアメリカン・ルネサンスの作家を取り上げ、それらの作家の小説の形式や文体の革新性、当時の政治や社会との共鳴性、当時の文学や思想との関係性について考察する。その際、様々な研究アプローチによる、それらの小説についての先行研究も読む。成績は授業への参加度とレポートで評価する。	
	英語圏文学作品研究演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、19 世紀の主要なアメリカの小説について学ぶことにある。具体的には、Herman Melville, Henry David Thoreau といったアメリカン・ルネサンスの作家を取り上げ、それらの作家の小説の形式や文体の革新性、当時の政治や社会との共鳴性、当時の文学や思想との関係性について考察する。その際、様々な研究アプローチによる、それらの小説についての先行研究も読む。成績は授業への参加度とレポートで評価する。	
	英語圏詩文学作品演習 A	本授業は演習形式であり、授業目的は、モダニズムの詩について学ぶことにある。対象となる詩人は、W. B. Yeats, Ezra Pound, T. S. Eliot, Norman Cameron, Robert Graves, Walter de la Mare, W. H. Auden, Stephen Spender, Louis MacNeice, C. Day-Lewis, Hugh MacDiarmid などである。評価は、授業中の英語でのディスカッションにどの程度貢献したかによって行う。	
	英語圏詩文学作品演習 B	本授業は演習形式であり、授業目的は、モダニズムの詩について学ぶことにある。対象となる詩人は、W. B. Yeats, Ezra Pound, T. S. Eliot, Norman Cameron, Robert Graves, Walter de la Mare, W. H. Auden, Stephen Spender, Louis MacNeice, C. Day-Lewis, Hugh MacDiarmid などである。さらに個々の学生が研究対象とする作家研究の視点を加えて議論する。評価は、授業中の英語でのディスカッションにどの程度貢献したかによって行う。	
	英語学概論 A	音韻論・文法・語彙論・意味論・文体論のみならず、英語学の諸問題について、基本的かつ必読な学術書や学術論文を紹介しながら議論する。授業の形態は、毎回、英語学に関する学術書や学術論文を輪読しながら、担当者が問題点を指摘し、どのような点が各自の研究に援用することができ、また、応用することができるのかについて討論する。可能ならば、担当した学術書や学術論文が、各自の研究にどのような効果や影響をもたらすかについて、実例を挙げながら説明してもらいたい。	共同
	英語学概論 B	音韻論・文法・語彙論・意味論・文体論のみならず、英語学の諸問題について、最新（直近の 2 年間）の学術書や学術論文を紹介しながら議論する。授業の形態は、毎回、英語学に関する学術書や学術論文を輪読しながら、担当者が問題点を指摘し、どのような点が各自の研究に援用することができ、また、応用することができるのかについて討論する。可能ならば、担当した学術書や学術論文が、各自の研究にどのような効果や影響をもたらすかについて、実例を挙げながら説明してもらいたい。	共同
	英語学理論演習 A	英語学における諸理論を援用しながら、近代英語期の文学作品を精読し、その言語と文体を分析する。特に、イギリス 18 世紀の散文及び小説を精読しながら、	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		英語の連続性を音韻論、統語論、文法、語彙論、意味論、語用論、及び文体論の視点から概観するとともに、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力の涵養をはかる。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	
	英語学理論演習 B	英語学における諸理論を援用しながら、近代英語期の文学作品を精読し、その言語と文体を分析する。特に、イギリス 18 世紀の劇を精読しながら、英語の連続性を音韻論、統語論、文法、語彙論、意味論、語用論、及び文体論の視点から概観するとともに、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力の涵養をはかる。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	近代英語作品研究演習 A	近代英語で書かれた文学作品が正確に読めるようになることを目標にする。特に、イギリス 19 世紀を代表する小説家ディケンズの前期と中期の作品を精読しながら、イギリス 18 世紀の小説の言語・文体とディケンズのそれとを比較検討する。英語の連続性を音韻論、統語論、文法、語彙論、意味論、語用論、及び文体論の視点から文学作品を通して精査するとともに、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力の発展をはかる。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	近代英語作品研究演習 B	近代英語で書かれた文学作品が正確に読めるようになることを目標にする。特に、イギリス 19 世紀を代表する小説家ディケンズの後期の作品を精読しながら、イギリス 18 世紀の小説の言語・文体とディケンズのそれとを比較検討する。英語の連続性を音韻論、統語論、文法、語彙論、意味論、語用論、及び文体論の視点から文学作品を通して精査するとともに、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力の発展をはかる。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	中期英語概論 A	中期英語で書かれた文献の講読を通して、中期英語研究及び英語学研究の基礎を学ぶ。チョーサーの前期の作品 ( <i>The Book of the Duchess</i> , <i>The House of Fame</i> , <i>The Parliament of Fowls</i> といった夢物語詩) を講読しながら、韻律 (主として 8 音節) や脚韻の特徴、そして夢物語詩に特有の英語表現を学ぶ。また、音韻論、統語論、文法、語彙論、及び意味論の視点から概観し、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力が身に付くようにする。講読形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	中期英語概論 B	中期英語で書かれた文献の講読を通して、中期英語研究及び英語学研究の基礎を学ぶ。チョーサーの中期と後期の作品 ( <i>Troilus and Criseyde</i> , <i>The Legend of Good Women</i> , <i>The Canterbury Tales</i> ) を講読しながら、詩作上の自由度の増した 10 音節詩や、散文作品の語学的特徴を前期作品と比較しながら学ぶ。同時に、諸写本に言及しながら、英語の歴史的研究法と文献学的研究能力が身に付くようにする。講読形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	中期英語作品研究演習 A	初期中期英語で書かれた文献が正確に読めるようになることを目標にする。韻文作品 ( <i>The Owl and the Nightingale</i> , <i>The Fox and the Wolf</i> , <i>Havelok</i> 等) を精読する。地域方言に注意を払いながら、中期英語後期のチョーサーの韻文作品に見られる英語と比較し、英語の連続性を形態論、音韻論、統語論、語彙論、及び意味論の視点から考察する。同時に、イギリス中世初期の文学作品における言語と文体を研究する。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	中期英語作品研究演習 B	初期中期英語で書かれた文献が正確に読めるようになることを目標にする。散文作品 ( <i>Ancrene Wisse</i> , <i>Sawles Warde</i> 等) を精読する。地域方言に注意を払いながら、同時代に書かれた韻文作品、及び中期英語後期のチョーサーの散文作品との比較により、形態論、音韻論、統語論、語彙論、及び意味論の視点から言語的特徴を考察する。同時に、英語の歴史的研究法と文献学的研究の在り方を考える。授業の形態は、演習形式で、担当者が担当箇所を音読し、和訳し、言語・文体に関する問題点を指摘し、それぞれについて皆で議論する。	隔年
	英語学特殊講義 A	歴史的な視座に立ち、英語学、とりわけ文献学的研究手法を用いながら、古期英語と中期英語を中心とする時代の洗練された文学作品を精読し、その言語芸術と文体的特徴を分析する。授業の形態は、設定された文学作品を輪読しながら、担当者がその言語芸術と文体的特徴について詳述する。そして、扱う文学作品が、近代英語期の作品 (特に各自の研究対象の文学作品) と言語・文体においてどの	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		ような差異があるのかについて議論を行う。	
	英語学特殊講義B	歴史的な視座に立ち、英語学、とりわけ文献学的研究手法を用いながら、初期近代英語期と後期近代英語期の詩、戯曲、小説を精読し、時代とともに拡大したジャンルを意識しながら、その言語芸術と文体的特徴を分析する。授業の形態は、設定された作品を輪読しながら、担当者がその言語芸術と文体的特徴について詳述する。そして、その言語特徴が、より古い時代の作品、また各自の研究対象の文学作品と言語・文体においてどのような差異があるのかについて言及してもらいたい。	共同
	ドイツ文学理論演習A	授業は演習形式で行なう。20世紀における代表的なドイツ文学の文芸評論をドイツ語原文で精読し、その内容について解説し、討論することを目標にする。近現代のドイツ文芸思潮について、ルカーチ、ベンヤミン、エンツェンスベルガーの論文をもとに考察する。さらに21世紀では、文化と記憶の諸問題についてA.アスマンの論文を手掛かりにして考察する。新しい研究動向の把握に努め、ドイツ文学の研究方法論について論文例をもとに解説し、近年の研究方法で顕著な例を紹介する。	隔年
	ドイツ文学理論演習B	授業は演習形式で行なう。ドイツ演劇史を概観して、伝統的なイリュージョンの演劇と叙事的演劇を比較し、共通点と違いを探ることを目標にする。そのためにアリストテレスの『詩学』における演劇論に遡って解説する。18世紀レッシングの『ハンプルク演劇論』の原文から演技論、悲劇論、喜劇論、文学論に関する重要な批評を抜粋で精読し、古典演劇における舞台と観客のイリュージョンの問題について考える。それに対して、20世紀ブレヒトが提唱した叙事的演劇と異化効果について、代表的作品の場面を原文で精読し、討論を行なう。ブレヒトの演劇論文を参照して叙事的演劇の基本理論を探る。ブレヒトから影響を受けた劇作家H.ミュラーやデュレンマット等についても検討する。古典演劇と叙事的演劇の比較により、両者の演劇史的背景を考える。	隔年
	近現代ドイツ語学演習A	1年をかけてコーパス言語学の基礎を概観すると共に、コーパス分析のための基本的技法を習得することを目指す。また、各自の研究テーマにおける応用可能性についてもあわせて探ることを目指す。前期は、英独の各種コーパス、検索・分析ツール、研究事例を概観することで、コーパス言語学についての基礎を学ぶ予定である。授業は、ドイツ語又は英語の文献を輪読しつつ、並行してPCを使用しながら、種々のコーパス検索・分析ツールにも接してもらう予定をしている。	隔年
	近現代ドイツ語学演習B	1年をかけてコーパス言語学の基礎を概観すると共に、コーパス分析のための基本的技法を習得することを目指す。また、各自の研究テーマにおける応用可能性についてもあわせて探ることを目指す。後期は、コロケーションを授業の中心テーマとする。これまで、語学、教育、文学研究の各分野でどのように議論されてきたのかを概観しつつ、実際に種々のコーパス検索・分析ツールを使って、コロケーションを抽出し、学期末には1年の集大成としてミニ発表をしてもらう予定である。	隔年
	ドイツ文学語学特殊講義A	授業は講義形式で行なう。ドイツの戦後史は贖罪の歴史であったが、20世紀から21世紀への変わり目に、ドイツ文学は自国の被害をどう描くかという困難な問題に直面した。講義の目標は、何人かの文学者を例にとり、今までほとんど語られてこなかった、空襲によるドイツ民衆の苦難について考えることである。同時に、ドイツ人作家の、ドイツの罪との関わり方についても考える。ノサック、ベル、ゼーバルト等の代表的短編を原文で読解し、解説に続けて報告と討論を行なう。	隔年
	ドイツ文学語学特殊講義B	授業は講義形式で行なう。ドイツ語史を概観し、中世ドイツ語学、文学、文化に関する発展的知識の習得を目標とする。そのために中高ドイツ語の基礎的文法の確認と中世文学の重要な作品の読解を行なう。ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデの抒情詩とコンラート・フォン・ヴェルツブルクの叙事詩『裸の騎士』を主に扱い、講義では以下の項目を学ぶ。 1) ドイツ語史 2) 中高ドイツ語の基礎文法 3) 古代から中世へ 4) 中世の世界 5) 宮廷文化 6) 騎士文化 7) ミンネ 8) 中世の文学と抒情詩 9) 中世の文学と英雄叙事詩 10) アルテュース物語群 11) 宗教的作品 12) 写本 13) 写本とテキスト批判	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	ドイツ文学語学特殊講義 C	授業は講義形式で行なう。「現代スイス文化論」をテーマとして、ドイツ語圏スイスの現代文学を読解し、スイスという国の成り立ちや多言語主義、歴史教育のあり方を理解することを目標とする。講義では以下の内容について学ぶ。 1) スイスを支える三大原則 2) 多言語主義と「スイス文学」 3) デュレンマット『ヘラクレスとアウゲイアスの牛舎』 4) 永世武装中立とウィリアム・テルの神話 5) マックス・フリッシュ『学校版ウィリアム・テル』 6) マックス・フリッシュ『ビーダーマンと放火犯たち』 7) デュレンマット『疑惑』 8) スイスの牧歌的イメージ：ヨハンナ・シュペーリ『アルプスの少女ハイジ』 9) デュレンマット『老貴婦人の訪問』 10) アドルフ・ムシュク『ツゼン、あるいはわしらが住処』	隔年
	ドイツ語圏文化論演習A	授業は演習形式で行なう。レッシングの英雄悲劇『フィロータス』(1756)を精読し、作品解釈を行なうとともに、ドイツ語圏の文化史的背景を解き明かすことを目標とする。18世紀中葉のプロイセンとオーストリアの政治的関係、7年戦争が作品に及ぼした影響を小発表と討論により考察していく。歴史上のフィロータス王子の実像と作品中の描写の違いについて比較する。メンデルスゾーン、ニコライとの往復書簡におけるレッシングの悲劇についての基本的な考え方や後の『ハンブルク演劇論』を参照して、レッシングの英雄悲劇に反映された悲劇理論について考える。	隔年
	ドイツ語圏文化論演習B	授業は演習形式で行なう。19世紀前半から19世紀後半にかけてのドイツ文学史と西洋史を概観し、文学と政治の関係についてハインリヒ・ハイネとゲオルク・ビューヒナーを例に検討することを目標とする。そのために、ハイネの抒情詩やビューヒナーの戯曲の音楽における受容についても検討する。ハイネの政治詩を精選して原文で読み、背景知識となる当時の社会体制を学びつつ、政治風刺とハイネ独特のイロニー手法を学ぶ。ビューヒナー文学では戯曲『ヴォイツェク』や『ヘッセンの急使』等を扱い、封建制社会での下級兵卒の苦悩や農民の困難な生活について原文から読み解く。ドイツ三月革命前期における政治状況を理解するために、原典の読解と合わせて数篇の研究論文を輪読し、小発表を行ない内容について討論する。	隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 A	(独文) Einer der wichtigsten deutschen Literaturpreise ist der Georg-Büchner-Preis. Seit 1951, als Gottfried Benn diesen Preis erhielt, hat sich eine Tradition der Bücher-Preis-Reden entwickelt: zumeist sind es keine bloßen Dankreden, sondern hochartifizielle Essays, in denen Schriftsteller über Georg Büchner und/oder über ihre eigene Poetik sprechen, im Idealfall über beides, wie das in Paul Celans Rede "Der Meridian" der Fall ist. In diesem Seminar sollen zwei Reden aus dem 21. Jahrhundert analysiert und besprochen werden. Die Auswahl wird in der ersten Unterrichtsstunde gemeinsam getroffen. Das Seminar ist ein Lektüreseminar, bei dem Vorbereitung und Mitarbeit entscheidend sind. Das gilt auch für die Beurteilung der Leistungen der Studenten.  (和訳) ドイツ語による文学的エッセイの読解、分析、ディスカッションの力を養成する。ドイツ最高文学賞の一つ、ゲオルク・ビューヒナー賞授賞式では、ゴットフリート・ベンが受賞した1951年以来、受賞演説が行われるようになった。たいいては単に受賞の辞を述べるだけでなく、ビューヒナー文学もしくは自己の詩学をめぐる技巧を凝らしたエッセイとなっている。パウル・ツェラーンによる「子午線」と題する演説はその両方について語った理想的な演説の一つである。この演習では21世紀に行われた演説から2つを選び、読解と分析を行う。演説テキストの選択にあたっては受講者と相談の上決定する。本演習は能動的読解を中心とするので、受講者の十分な準備と積極的な議論が演習の質を左右する。	隔年
ドイツ語圏言語文化演習 B	(独文) Gegenstand dieses Seminars ist eine Erzählung Adalbert Stifters, die möglichst genau gelesen und analysiert werden soll. Die Entscheidung, welche Erzählung das sein wird, ist in der ersten Unterrichtsstunde nach einer kurzen Einführung in das Werk Adalbert Stifters gemeinsam zu treffen. Das Seminar ist ein Lektüreseminar, bei dem Vorbereitung und Mitarbeit	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>entscheidend sind. Das gilt auch für die Beurteilung der Leistungen der Studenten.</p> <p>(和訳) この演習ではオーストリアの代表的作家の一人、アーダルベルト・シュティフターの諸作品を対象とし、できるだけ精確な読解と解釈を行うことを通して、ドイツ語による作品読解と分析及び意見発表の能力を養うことを目的とする。授業ではまずシュティフター文学とその作品について概説的な紹介を行った上で、受講生と相談の上扱う作品を決定する。本演習は能動的読解を中心とするので、受講者の十分な準備と積極的な議論が演習の質を左右する。</p>	
	ドイツ語圏言語文化演習 C	<p>(独文) Einer der wichtigsten deutschen Literaturpreise ist der Georg-Büchner-Preis. Seit 1951, als Gottfried Benn diesen Preis erhielt, hat sich eine Tradition der Bücher-Preis-Reden entwickelt: zumeist sind es keine bloßen Dankreden, sondern hochartifizielle Essays, in denen Schriftsteller über Georg Büchner und/oder über ihre eigene Poetik sprechen, im Idealfall über beides, wie das in Paul Celans Rede "Der Meridian" der Fall ist.</p> <p>In diesem Seminar sollen zwei Reden aus dem 21. Jahrhundert analysiert und besprochen werden. Die Auswahl wird in der ersten Unterrichtsstunde gemeinsam getroffen. Das Seminar ist ein Lektüreseminar, bei dem Vorbereitung und Mitarbeit entscheidend sind. Das gilt auch für die Beurteilung der Leistungen der Studenten.</p> <p>(和訳) ドイツ語による文学的エッセイの読解、分析、ディスカッションの力を養成する。ドイツ最高文学賞の一つ、ゲオルク・ビューヒナー賞授賞式では、ゴットフリート・ベンが受賞した1951年以来、受賞演説が行われるようになった。たいいては単に受賞の辞を述べるだけでなく、ビューヒナー文学もしくは自己の詩学をめぐる技巧を凝らしたエッセイとなっている。パウル・ツェラーンによる「子午線」と題する演説はその両方について語った理想的な演説の一つである。この演習では21世紀に行われた演説から2つを選び、読解と分析を行う。演説テキストの選択にあたっては受講者と相談の上決定する。本演習は能動的読解を中心とするので、受講者の十分な準備と積極的な議論が演習の質を左右する。</p>	隔年
	ドイツ語圏言語文化演習 D	<p>(独文) Gegenstand dieses Seminars ist eine Erzählung Adalbert Stifters, die möglichst genau gelesen und analysiert werden soll. Die Entscheidung, welche Erzählung das sein wird, ist in der ersten Unterrichtsstunde nach einer kurzen Einführung in das Werk Adalbert Stifters gemeinsam zu treffen.</p> <p>Das Seminar ist ein Lektüreseminar, bei dem Vorbereitung und Mitarbeit entscheidend sind. Das gilt auch für die Beurteilung der Leistungen der Studenten.</p> <p>(和訳) この演習ではオーストリアの代表的作家の一人、アーダルベルト・シュティフターの諸作品を対象とし、できるだけ精確な読解と解釈を行うことを通して、ドイツ語による作品読解と分析及び意見発表の能力を養うことを目的とする。授業ではまずシュティフター文学とその作品について概説的な紹介を行った上で、受講生と相談の上扱う作品を決定する。本演習は能動的読解を中心とするので、受講者の十分な準備と積極的な議論が演習の質を左右する。</p>	隔年
	ドイツ文学発展演習 A	<p>授業は演習形式で行なう。若きゲーテのワイマール宮廷時代初期における文学と日常生活を、作品と伝記によって解き明かすことを目標とする。そのために、ゲーテの戯曲『兄妹』やその頃の代表的抒情詩を選択して精読し、作品内容を検討する。文化史の面からは、ワイマール時代のゲーテの日常生活や文学サロンの様子も考察する。シャルロッテ・フォン・シュタイン夫人との交流とその影響を重要な手紙の原文から読み取りたい。作品の主題に関する研究論文も数篇読み、報告と討論を行なう。戯曲の基本的な分析方法や抒情詩の技法、作品解釈について学ぶ。</p>	隔年
	ドイツ文学発展演習 B	<p>授業は演習形式で行なう。19世紀後半から20世紀初頭にかけてのドイツ文学のモデルネに関連する多彩な作家の文学活動をグループに分類して確認する。その中からテオドル・フォンターネ、トーマス・マン、ハインリヒ・マン、ゲルハルト・ハウプトマン等の作品を抜粋で精読し、作品解釈と時代背景の考察を行</p>	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		なうことを目標とする。原典の読解に合わせて、作家の伝記を学び、作家の手紙や作品論に関する数篇の研究論文を輪読し、小発表を行ない、それに続いて討論をする。研究資料の収集法や研究会での発表スキルも指導する。	
	ドイツ近現代文学演習A	世紀転換期のトーマス・マン、ムージル、ホーフマンスタールら重要な作家・作品を素材として、それぞれの文学がもつ意義を技法、文学史、歴史・社会等、様々な観点から考えていく。 1セメスターで検討可能な作品には限りがあるため、扱う素材は参加者の関心に応じて決めていくが、どれを選ぶ場合も作品の全体又は一部の精読とともに、上記の様々な観点から作品を多角的に捉えるために複数の文献を参照し、参加者の発表とディスカッションを交えた演習を行う。	隔年
	ドイツ近現代文学演習B	20世紀前半のローベルト・ヴェルザー、カフカ、ブレヒト、20世紀後半のグラス、ヴォルフら重要な作家・作品を素材として、それぞれの文学がもつ意義を文学史、芸術史、歴史・社会等、様々な観点から考えていく。 1セメスターで検討可能な作品には限りがあるため、扱う素材は参加者の関心に応じて決めていくが、どれを選ぶ場合も作品の全体又は一部の精読とともに、上記の様々な観点から作品を多角的に捉えるために複数の文献を参照し、参加者の発表とディスカッションを交えた演習を行う。	隔年
	ドイツ小説演習A	世紀転換期から20世紀前半のドイツ語小説作品を読み、従来の19世紀の文学とは異なる新たな小説形式の可能性を考察していく。またこの演習では多読練習のために、長編であっても最後まで読み切ることを目指す。 主として扱う作品は参加者の関心も考慮して1セメスターで1つか2つを選ぶ。併せてシュタンツェル以来ドイツでも盛んになった語りや物語理論を概観し、在来理論の有効性と限界についても理解を深める。授業は作品分析に関する参加者のレポートとディスカッションを交えて進めていく。	隔年
	ドイツ小説演習B	戦後を含む20世紀のドイツ語小説作品を読み、主として物語論の観点からそれらもつ様々な特徴を捉え、小説形式の可能性を考察していく。またこの演習では多読練習のために、長編であっても最後まで読み切ることを目指す。 主として扱う作品は参加者の関心も考慮して1セメスターで1つか2つを選ぶ。併せて様々な文学理論を概観し、複雑かつ多層化した現代小説への様々な研究方法を検討する。授業は作品の読解の他、そうした作品へのアプローチに関する参加者のレポートとディスカッションを交えて進めていく。	隔年
	ドイツ語コーパス言語学A	本授業では、コーパス言語学とは何かを概観すると共に、コーパスを用いた言語分析の方法を獲得することを目指す。前期は、とりわけドイツ語で書かれたコーパス言語学に関する概説書を用いて、基礎的知識の獲得を目指す。また、ドイツ語の主要コーパス検索システムの使い方とその問題点を整理すると共に、自作でコーパスを構築し、それを用いて分析する基礎的手法について学ぶ。なお、学期の最後には、コーパス言語学の観点から、各自が設定した課題について報告してもらう予定である。	隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	本授業では、コーパス言語学とは何かを概観すると共に、コーパスを用いた言語分析の方法を獲得することを目指す。後期は、コーパス言語学の研究書や論文を用いて、これまでなされてきた研究のいくつかを概観し、履修者に具体的なイメージを抱いてもらうことを目指す。また、コーパス分析に必要な仮説検定や多変量解析といった統計手法についても、学ぶ予定である。なお、学期の最後には、コーパス言語学の観点から、各自が設定した課題について報告してもらう予定である。	隔年
	フランス語文学研究A	詩、演劇、小説、エッセーの各ジャンルにおけるフランス語文学の大作を取り上げます。演習の目標は、フランス文学とフランス語圏の文学についてジャンルの変化、テーマの繋がり、歴史・社会との関係を大まかに見ます。具体的な例を取り上げて、各テキストの文体やその時代又はその空間のフランス語の特徴も見ます。「フランス語文学研究A」は、中世文学から現代文学まで、詩、演劇、エッセーに集中します。実際の授業は、学生の要望や必要に応じて柔軟に授業を行います。	隔年
	フランス語文学研究B	詩、演劇、小説、エッセーの各ジャンルにおけるフランス語文学の大作を取り上げます。演習の目標は、フランス文学とフランス語圏の文学についてジャンルの変化、テーマの繋がり、歴史・社会との関係を大まかに見ます。具体的な例を取り上げて、各テキストの文体やその時代又はその空間のフランス語の特徴も見ます。「フランス語文学研究B」は、17世紀から現代まで渡って、フランス語と	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		フランス語圏の物語性のあるフィクションや自叙伝に集中します。実際の授業は、学生の要望や必要に応じて柔軟に授業を行います。	
	フランス語文学批評研究 A	フランス語文学に関する文学批評の主要な著作や理論的研究を学ぶことにより、文学批評の基礎的な知識を身につけることを目的とする。具体的には、小説論や演劇論などジャンルに関するもの（モンテーニュ、ボードレール、モーパッサンなど）や古典主義、ロマン主義、写実主義、超現実主義、ヌーヴォーロマンなどの文芸思潮に関するもの（ボワロー、ユゴー、ゾラ、サント＝ブーヴ、ブリュスティエールなど）からいくつか選んで読み、それぞれのジャンルや思潮の概念を理解する。	隔年
	フランス語文学批評研究 B	フランス語文学に関する文学批評の主要な著作や理論的研究を学ぶことにより、文学批評の基礎的な知識を身につけることを目的とする。具体的には、古典主義時代以降に発表された作品（『クレヴの奥方』、『悪の華』、『ボヴァリー夫人』、『異邦人』、『犀』など）に対する同時代評、1960年代以降のフランス文学理論の主要な研究（ジュネット、バルト、ルジュンヌ、マシュレーなど）からいくつか選んで読み、その批評的立場を理解する。	隔年
	フランス語文学・フランス語学演習A	フランス語文学の具体的なテキストを読みながら、又は日本文学の仏訳を行いながら、フランス語文学の文体や詩法を学生に身につけてもらいます。文章の構造、活用の時間の感覚の分析、作家と読者の関係の作り方、ジャンルの全体的な流れ、又は、各文芸ジャンルにおける書き言葉のフランス語の特徴（小説における会話、詩のリズムや一ページの空間の使い方等）又は（詩や演劇等の読み方に当たる）口頭のフランス語の特徴等を扱います。「フランス語文学・フランス語学演習A」は、散文を中心にして、長編と短編小説の文体や心理描写を取り上げます。実際の授業は、学生の要望や必要に応じて柔軟に授業を行います	隔年
	フランス語文学・フランス語学演習B	フランス語文学の具体的なテキストを読みながら、又は日本文学の仏訳を行いながら、フランス語文学の文体や詩法を学生に身につけてもらいます。文章の構造、活用の時間の感覚の分析、作家と読者の関係の作り方、ジャンルの全体的な流れ、又は、各文芸ジャンルにおける書き言葉のフランス語の特徴（小説における会話、詩のリズムや一ページの空間の使い方等）又は（詩や演劇等の読み方に当たる）口頭のフランス語の特徴等を扱います。「フランス語文学・フランス語学演習B」は、前半は19世紀の短編小説を通して物語の構造と散文の文体に集中して、後半は詩と演劇の読み方を触れながら韻文の文体を重点的に行います。実際の授業は、学生の要望や必要に応じて柔軟に授業を行います。	隔年
	フランス文学特別研究演習A	〔授業形態〕演習形式で行う。 〔授業目標〕フランス文学研究のために必要な研究テーマの設定法や研究の方法論などを学び習得し、それによって受講生各自の研究のテーマ設定や方法を模索することを目標とする。 〔授業計画〕受講生の要望や必要性を考慮に入れて、題材とする文学作品や研究書や研究論文などを選択し、授業計画を立て、選択した文学作品や研究書や研究論文などを題材に、立てた計画に沿って演習形式で学んで行く。ただし、必要に応じて適宜柔軟に変更を行うことを厭わない。	隔年
	フランス文学特別研究演習B	〔授業形態〕演習形式で行う。 〔授業目標〕フランス文学研究のために必要な研究テーマの設定法や研究の方法論などを学び習得し、それによって受講生各自の研究のテーマ設定や方法を模索することを目標とする。 〔授業計画〕受講生の要望や必要性を考慮に入れて、題材とする文学作品や研究書や研究論文などを選択し、授業計画を立て、選択した文学作品や研究書や研究論文などを題材に、立てた計画に沿って演習形式で学んで行く。ただし、必要に応じて適宜柔軟に変更を行うことを厭わない。言うまでもないことだが、フランス文学特別研究演習Aを前年度に履修した学生が受講していても、学生の今年度の要望や必要性は前年度とは異なるのであるから、選択する題材も授業計画も当然、フランス文学特別研究演習Aとは別のものになる。	隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習A	19世紀のフランス語で書かれた文学作品、とりわけ版による異同の多い作品を選び、精読するとともに、新たな解釈の可能性を考える。具体的には、ゾラ『テレーズ・ラカン』(Zola, <i>Thérèse Raquin</i> ) の初版と第2版の異同を踏まえた上で、さまざまな校訂版(nouveau monde 版, cercle des œuvres précieux 版, pléiade 版, folio 版など)にある注や解説も参照しながらテキストを読み解くとともに、この作品に関する先行研究を調査した上で、従来のアプローチ方法とは異なる方	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム	法論での評価の可能性を探る。		
		近現代フランス語文学作品研究演習B	19世紀のフランス語で書かれた文学作品で、とりわけ時代との関連性が強い作品を選び、精読するとともに、新たな解釈の可能性を考える。具体的には、ゾラ『真実』(Zola, <i>Vérité</i> )をさまざまな校訂版(nouveau monde版, cercle des œuvres précieux版, livre de poche版など)にある注や解説を参照し、かつドレフュス事件との関連をこの事件の歴史的研究などから確認したうえでテキストを読み解くとともに、その作品に関する先行研究を調査した上で、従来のアプローチ方法とは異なる方法論での評価の可能性を探る。	隔年
		近現代フランス語文学批評演習A	文学テキストを批評するための基礎知識を学び、理論的立場からテキストを分析する練習を行う。この授業では、小説を一点選び、その版の選定やヴァリエントの取捨選択といった基礎的な作業を行いながら、分析するテキストの選定に関する基礎知識を体得する。さらに、間テキスト性、語用論、文体論などの理論的研究から一つ選び、その観点からのテキスト分析を試みる。尚、前年度の「近現代フランス語文学批評演習B」の授業で取り上げたテキストは、原則として扱わない。	隔年
		近現代フランス語文学批評演習B	文学テキストを批評するための基礎知識を学び、理論的立場からテキストを分析する練習を行う。この授業では、詩集あるいは演劇作品を一点選び、その版の選定やヴァリエントの取捨選択といった基礎的な作業を行いながら、分析するテキストの選定に関する基礎知識を体得する。さらに、間テキスト性、語用論、文体論などの理論的研究から一つ選び、その観点からのテキスト分析を試みる。尚、前年度の「近現代フランス語文学批評演習B」の授業で取り上げたテキストは、原則として扱わない。	隔年
		近現代フランス語表現小説研究A	小説に対する伝統的な考えから現代の代表的な小説研究までを概観し、参加者自身の見解を確立することを目的とする。具体的には、18世紀までのさまざまな散文のジャンルを把握した後、スタンダール、バルザック、フロベール、ゾラなどのフランス語文学の代表的な作家が著した小説論や、小説とロマネスクとの関係、小説の教育的機能などに関する理論的研究の抜粋の講読とこれらのテキストの批判的検証を通して、小説に対する知識を深める。尚、前年度の「近現代フランス語小説研究B」の授業で取り上げたテキストとトピックは、原則として扱わない。	隔年
		近現代フランス語表現小説研究B	小説に対する伝統的な考えから現代の代表的な小説研究までを概観し、参加者自身の見解を確立することを目的とする。具体的には、19世紀までのさまざまな散文のジャンルを把握した後、ブルトン、サルトル、ロブ＝グリエ、クンデラなどのフランス語文学の代表的な作家が著した小説論や、小説批判、小説とジャンルの問題などに関する理論的研究の抜粋の講読とこれらのテキストの批判的検証を通して、小説に対する知識を深める。尚、前年度の「近現代フランス語小説研究B」の授業で取り上げたテキストとトピックは、原則として扱わない。	隔年
		フランス語コミュニケーションと修辞学演習A	この授業の主な目的は以下の通りである。 - 論理的な方法で考えをまとめることを学ぶ。 - フランス式の論文作成方法の原則に慣れる。 - 議論に参加しながらフランス語の口頭表現を上達させる。 - (時事的な話題に沿った)さまざまなテーマに関する語彙を増やす。 - 複雑な文法的要素を含んだ文型(接続法, 半過去, 補語代名詞, 伝聞の話し法など)を使いこなせるようになる。 取り上げるテーマは、時事的な話題と学生の必要性によって決定する。 原則として、前年度フランス語コミュニケーションと修辞学演習B,Dの授業で議論されたテーマは扱わない。	隔年
フランス語コミュニケーションと修辞学演習B	この授業の主な目的は以下の通りである。 - 論理的な方法で考えをまとめることを学ぶ。 - フランス式の論文作成方法の原則に慣れる。 - 議論に参加しながらフランス語の口頭表現を上達させる。 - (時事的な話題に沿った)さまざまなテーマに関する語彙を増やす。 - 複雑な文法的要素を含んだ文型(接続法, 半過去, 補語代名詞, 伝聞の話し法など)を使いこなせるようになる。 取り上げるテーマは、時事的な話題と学生の必要性によって決定する。 原則として、前年度フランス語コミュニケーションと修辞学演習A,Cの授業で議論されたテーマは扱わない。	隔年		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	人文学 プログラム	フランス語コミュニケーションと修辞学演習C	この授業の主な目的は以下の通りである。 - 論理的な方法で考えをまとめることを学ぶ。 - フランス式の論文作成方法の原則に慣れる。 - 議論に参加しながらフランス語の口頭表現を上達させる。 - (時事的な話題に沿った) さまざまなテーマに関する語彙を増やす。 - 複雑な文法的要素を含んだ文型(接続法, 半過去, 補語代名詞, 伝聞の語法など)を使いこなせるようになる。 取り上げるテーマは, 時事的な話題と学生の必要性によって決定する。 原則として, 前年度フランス語コミュニケーションと修辞学演習Dと前セメスターのフランス語コミュニケーションと修辞学演習Aの授業で議論されたテーマは扱わない。	隔年
		フランス語コミュニケーションと修辞学演習D	この授業の主な目的は以下の通りである。 - 論理的な方法で考えをまとめることを学ぶ。 - フランス式の論文作成方法の原則に慣れる。 - 議論に参加しながらフランス語の口頭表現を上達させる。 - (時事的な話題に沿った) さまざまなテーマに関する語彙を増やす。 - 複雑な文法的要素を含んだ文型(接続法, 半過去, 補語代名詞, 伝聞の語法など)を使いこなせるようになる。 取り上げるテーマは, 時事的な話題と学生の必要性によって決定する。 原則として, 前年度フランス語コミュニケーションと修辞学演習Cと前セメスターのフランス語コミュニケーションと修辞学演習Bの授業で議論されたテーマは扱わない。	隔年
		フランス語圏文化論演習A	フランス語・フランス文学を既に学んだ学生が, フランス語でかかれた資料を通してフランスの歴史, 社会, 宗教, 家族, 政治等について学び, 各テーマの基本な専門用語を身につけることを目的とする。実際の授業は, 学生の要望や必要に応じて柔軟に変更する。授業で扱うテーマは以下の通りである。 「フランス語圏文化論演習A」は地理を初め世界における現代フランス, そして国際関係, フランスの政治と宗教を取り上げます。実際の授業は, 学生の要望や必要に応じて柔軟に変更します。	隔年
		フランス語圏文化論演習B	フランス語・フランス文学を既に学んだ学生が, フランス語でかかれた資料を通してフランスの歴史, 社会, 宗教, 家族, 政治等について学び, 各テーマの基本な専門用語を身につけることを目的とする。実際の授業は, 学生の要望や必要に応じて柔軟に変更する。授業で扱うテーマは以下の通りである。 「フランス語圏文化論演習B」は芸術や文化に集中して, 料理, 映画, ポップカルチャーを取り上げます。実際の授業は, 学生の要望や必要に応じて柔軟に変更します。	隔年
		フランス語圏文化論演習C	この授業の目的は以下の通りである。 - テキストや資料から見るフランス文化のさまざまな様相を紹介する。 - 新聞記事やテレビの情報(インターネットからも配信される)を理解するための語彙を増やす。 - さまざまな話題についてフランス語で議論することを学ぶ。 - フランス語の文章の書き方に慣れる。 予定されているテーマは以下の通りである。フランスにおける礼儀作法, 社会における女性と男性, 家族, 夫婦と子供, 年中行事, フランスの文化的な生活, スポーツと趣味, メディア, 都市と田舎, フランスにおける健康問題, 経済とフランス製品, フランスとヨーロッパ, フランス語圏など。 必要と時事的な問題によりこれらのテーマは変更しうる。原則として, 前年度フランス文化論演習Dの授業で取り上げたテーマは扱わない。	隔年
フランス語圏文化論演習D	この授業の目的は以下の通りである。 - テキストや資料から見るフランス文化のさまざまな様相を紹介する。 - 新聞記事やテレビの情報(インターネットからも配信される)を理解するための語彙を増やす。 - さまざまな話題についてフランス語で議論することを学ぶ。 - フランス語の文章の書き方に慣れる。 予定されているテーマは以下の通りである。フランスにおける礼儀作法, 社会における女性と男性, 家族, 夫婦と子供, 年中行事, フランスの文化的な生活, スポーツと趣味, メディア, 都市と田舎, フランスにおける健康問題, 経済とフ	隔年		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		ランス製品、フランスとヨーロッパ、フランス語圏など。 必要と時事的な問題によりこれらのテーマは変更しうる。原則として、前年度フランス文化論演習Dの授業で取り上げたテーマは扱わない。	
	フランス語文学・フランス語学特殊講義A	フランス語文学の領域から選んだ一つのトピックについて、それに関連する基本的知識を学び、代表的研究や最新の研究成果などの紹介を交えながら論じることにより、そのトピックに関する知識と理解を深めることを目的とする。トピックによっては、演習をとり入れることもある。基本的には集中講義の形式で行うが、講義内容によっては、タームもしくはセメスターで行うこともある。また、前年度のフランス語文学・フランス語学特殊講義Bで取り上げたトピックは取り上げない。	隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義B	フランス語学あるいはフランス思想や歴史と文学が交差する複合的な領域から選んだ一つのトピックについて、それに関連する基本的知識を学び、代表的研究や最新の研究成果などの紹介を交えながら論じることにより、そのトピックに関する知識と理解を深めることを目的とする。トピックによっては、演習をとり入れることもある。基本的には集中講義の形式で行うが、講義内容によっては、タームもしくはセメスターで行うこともある。また、前年度のフランス語文学・フランス語学特殊講義Bで取り上げたトピックは取り上げない。	隔年
	言語研究法講義I A	この授業の目的は、言語研究を行う教師・院生が、それぞれ自らが進める研究内容に関する自分の研究論文（修士の院生の場合は最終的には修士論文）完成のため、論文完成に必要な文献の紹介や書評などを含めた研究発表を行い、それについて意見を出し合い、参加者で検討して、充実した内容の論文（修士の院生については修士論文）を作成することを目標とする。授業の形態は、研究発表を中心とした演習形式となるが、場合によっては講義形式もあり得る。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年・共同 講義 15時間 演習 15時間
	言語研究法講義I B	この授業の目的は、言語研究を行う教師・院生が、それぞれ自らが進める研究内容に関する自分の研究論文（修士の院生の場合は最終的には修士論文）完成のため、論文完成に必要な文献の紹介や書評などを含めた研究発表を行い、それについて意見を出し合い、参加者で検討して、充実した内容の論文（修士の院生については修士論文）を作成することを目標とする。授業の形態は、研究発表を中心とした演習形式となるが、場合によっては講義形式もあり得る。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年・共同 講義 15時間 演習 15時間
	言語研究法講義II A	この授業の目的は、言語研究を行う教師・院生が、それぞれ自らが進める研究内容に関する自分の研究論文（修士の院生の場合は最終的には修士論文）完成のため、言語研究法講義I Aの授業を踏まえ、それをさらに発展させるように、論文完成に必要な文献の紹介や書評などを含めた研究発表を行い、それについて意見を出し合い、参加者で検討して、充実した内容の論文（修士の院生については修士論文）を作成することを目標とする。授業の形態は、研究発表を中心とした演習形式となるが、場合によっては講義形式もあり得る。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年・共同 講義 15時間 演習 15時間
	言語研究法講義II B	この授業の目的は、言語研究を行う教師・院生が、それぞれ自らが進める研究内容に関する自分の研究論文（修士の院生の場合は最終的には修士論文）完成のため、言語研究法講義I Bの授業を踏まえ、それをさらに発展させるように、論文完成に必要な文献の紹介や書評などを含めた研究発表を行い、それについて意見を出し合い、参加者で検討して、充実した内容の論文（修士の院生については修士論文）を作成することを目標とする。授業の形態は、研究発表を中心とした演習形式となるが、場合によっては講義形式もあり得る。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年・共同 講義 15時間 演習 15時間
	一般言語学演習A	この授業の目的は、研究題材の把握及び研究方法の習得である。一般言語学の視座から、言語研究を行う教師・院生が、各自の研究を進めるために最大公約数的に有益と思われる、研究内容及び方法論に関する論文等を一緒に読み、その問題点の検討を通して、院生に研究方法を習得させることを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	一般言語学演習B	この授業の目的は、研究題材の把握及び研究方法の習得である。一般言語学の視座から、言語研究を行う教師・院生が、各自の研究を進めるために最大公約数的に有益と思われる、研究内容及び方法論に関する論文等を一緒に読み、その問題点の検討を通して、院生に研究方法を習得させることを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	一般言語学特別演習 A	この授業の目的は、研究題材の把握及び研究方法の習得である。また、言語研究に必要な基礎的知識、基礎的理論の習得も目指す。一般言語学の視座から、言語研究を行う教師・院生が、各自の研究を進めるために最大公約数的に有益と思われる、研究内容及び方法論に関する論文等を一緒に読み、その問題点の検討を通して、院生に研究方法を習得させることを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	一般言語学特別演習 B	この授業の目的は、研究題材の把握及び研究方法の習得である。また、言語研究に必要な基礎的知識、基礎的理論の習得も目指す。一般言語学の視座から、言語研究を行う教師・院生が、各自の研究を進めるために最大公約数的に有益と思われる、研究内容及び方法論に関する論文等を一緒に読み、その問題点の検討を通して、院生に研究方法を習得させることを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	理論・応用言語学演習 A	この授業の目的は、修士論文を完成させようとしている院生に資するため、世界の様々な言語の言語構造（音韻・形態・統語・意味）に関する基礎知識や言語研究の方法論に関する知識を提供することである。自分の修士論文を完成させるに当たって、より広範な視野から自らの研究対象及び方法論を俯瞰することを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	理論・応用言語学演習 B	この授業の目的は、修士論文を完成させようとしている院生に資するため、世界の様々な言語の言語構造（音韻・形態・統語・意味）に関する基礎知識や言語研究の方法論に関する知識を提供することである。自分の修士論文を完成させるに当たって、より広範な視野から自らの研究対象及び方法論を俯瞰することを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	理論・応用言語学特別演習 A	この授業の目的は、修士論文を完成させようとしている院生に資するため、世界の様々な言語の言語構造（音韻・形態・統語・意味）に関する基礎知識や言語研究の方法論に関する知識を提供することである。自分の修士論文を完成させるに当たって、理論・応用言語学演習 A を発展させ、より広範な視野から自らの研究対象及び方法論を俯瞰することを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Bの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	理論・応用言語学特別演習 B	この授業の目的は、修士論文を完成させようとしている院生に資するため、世界の様々な言語の言語構造（音韻・形態・統語・意味）に関する基礎知識や言語研究の方法論に関する知識を提供することである。自分の修士論文を完成させるに当たって、理論・応用言語学演習 B を発展させ、より広範な視野から自らの研究対象及び方法論を俯瞰することを目標とする。授業の形態は、演習・講義である。Aの内容も踏まえて、発展させる。	隔年 講義 10時間 演習 20時間
	歴史・対照言語学演習 A	個別言語研究と一般言語学を結び付けるものが対照言語学であり、各時代の共時態を通時的に研究するものが歴史言語学である。いずれの研究も、言語間・時間的相違を比較・考察することにより、個別言語の現象や通時的推移を明確にするものである。この演習では、理論言語学を用いた対照言語学・歴史言語学に関する論文（ゲルマン語歴史言語学、日本語・イタリア語対照言語学、英語理論言語学）を各人が選び、それを履修生で講読をした後、発表・質疑応答を行う。この授業では、この中で対照言語学における手法を用いた演習を行う。	
	歴史・対照言語学演習 B	個別言語研究と一般言語学を結び付けるものが対照言語学であり、各時代の共時態を通時的に研究するものが歴史言語学である。いずれの研究も、言語間・時間的相違を比較・考察することにより、個別言語の現象や通時的推移を明確にするものである。この演習では、理論言語学を用いた対照言語学・歴史言語学に関する論文（ゲルマン語歴史言語学、日本語・イタリア語対照言語学、英語理論言語学）を各人が選び、それを履修生で講読をした後、発表・質疑応答を行う。この授業では、この中で歴史言語学における手法を用いた演習を行う。	
	歴史・対照言語学特別演習 A	個別言語研究と一般言語学を結び付けるものが対照言語学であり、各時代の共時態を通時的に研究するものが歴史言語学である。いずれの研究も、言語間・時間的相違を比較・考察することにより、個別言語の現象や通時的推移を明確にするものである。この演習では、理論言語学を用いた対照言語学・歴史言語学に関する論文（ロマンス語歴史言語学、日本語・中国語対照言語学、イタリア語理論言語学）を各人が選び、それを履修生で講読をした後、発表・質疑応答を行う。この授業では、「歴史・対照言語学演習 A」の授業を踏まえ、それをさらに発展させるように、対照言語学における手法を用いた演習を行う。	
	歴史・対照言語学特別演習 B	個別言語研究と一般言語学を結び付けるものが対照言語学であり、各時代の共時態を通時的に研究するものが歴史言語学である。いずれの研究も、言語間・時間的相違を比較・考察することにより、個別言語の現象や通時的推移を明確にするものである。この演習では、理論言語学を用いた対照言語学・歴史言語学に関する論文（ロマンス語歴史言語学、日本語・中国語対照言語学、イタリア語理論言語学）を各人が選び、それを履修生で講読をした後、発表・質疑応答を行う。この授業では、「歴史・対照言語学演習 B」の授業を踏まえ、それをさらに発展させるように、対照言語学における手法を用いた演習を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	習B	時態を通時的に研究するものが歴史言語学である。いずれの研究も、言語間・時間的相違を比較・考察することにより、個別言語の現象や通時的推移を明確にするものである。この演習では、理論言語学を用いた対照言語学・歴史言語学に関する論文（ロマンス語歴史言語学、日本語・中国語対照言語学、イタリア語理論言語学）を各人が選び、それを履修生で講読をした後、発表・質疑応答を行う。この授業では、「歴史・対照言語学演習B」の授業を踏まえ、それをさらに発展させるように、歴史言語学における手法を用いた演習を行う。	
	ヨーロッパ語比較構文論 講義A	Noam Chomsky が理論言語学を提唱して半世紀が過ぎるが、その理論内容は時代と共に変化している（標準理論→拡大標準理論→GB理論→ミニマリストプログラム）。本講義では、このような理論がどのように変遷し、現在のミニマリストプログラムに至っているかを理解するため、「空構成素」、「主要部移動」、「Wh 移動」、「A 移動」、「一致・格・移動」、「分離投射」、「位相」といった理論内容を概説する。この授業では、特にロマンス語を講義する。	
	ヨーロッパ語比較構文論 講義B	Noam Chomsky が理論言語学を提唱して半世紀が過ぎるが、その理論内容は時代と共に変化している（標準理論→拡大標準理論→GB理論→ミニマリストプログラム）。本講義では、このような理論がどのように変遷し、現在のミニマリストプログラムに至っているかを理解するため、「範疇」、「経済性の原理」、「束縛原理」、「局所性」、「時制・相・法」、「否定」、「数量詞」、「情報構造」、「パラミター」といった理論内容を概説する。この授業では、特にゲルマン語を講義する。	
	ヨーロッパ語比較構文論 演習A	Noam Chomsky が理論言語学を提唱して半世紀が過ぎるが、その理論内容は時代と共に変化している（標準理論→拡大標準理論→GB理論→ミニマリストプログラム）。本演習では、このような理論がどのように変遷し、現在のミニマリストプログラムに至っているかを理解するため、ヨーロッパ言語を扱った理論言語学に関する論文（GB理論、ミニマリストプログラム、位相）を各人が選び、それを履修生で講読した後、発表・質疑応答を行う。この授業では、特にスラヴ語を講義する。	
	ヨーロッパ語比較構文論 演習B	Noam Chomsky が理論言語学を提唱して半世紀が過ぎるが、その理論内容は時代と共に変化している（標準理論→拡大標準理論→GB理論→ミニマリストプログラム）。本演習では、このような理論がどのように変遷し、現在のミニマリストプログラムに至っているかを理解するため、ヨーロッパ言語を扱った理論言語学に関する論文（ロマンス語統語論、ゲルマン語統語論、スラヴ語統語論）を各人が選び、それを履修生で講読した後、発表・質疑応答を行う。各自が選んだ論文を読み、その内容について発表を行っていく。この授業では、特にケルト語を講義する。	
	人文地理学特別講義	（概要）本講義では、様々な空間スケールで人文社会の変化を捉え、学際的視点から人間生活・人間活動を総合的に理解する人文地理学的思考を学ぶ。講義では、こうした思考の基礎となる理論や概念、モデルを解説した上で、それらが具体的な現象の解釈にどのように有効性を発揮し得るかを事例研究を基に提示する。これらを通して、近代化や都市化が人々の場所・土地・環境との関わり方をどのように変化させるのかについて、人文地理学的な視点から読み解くことができるような能力の育成を目指す。	隔年
	人文地理学基礎論演習A	（目標）人文地理学の研究を進める上で基礎となる研究動向の把握を目標とする。（授業形態）日本の人文地理学界における近年の研究動向を知るため、人文地理学会編『人文地理（学界展望）』や、経済地理学会編『経済地理学の成果と課題』などの学界展望に関する文献を題材として、履修者による担当章（項目）の紹介とそれにもとづくディスカッションを行う。具体的には、履修者それぞれが各自の研究テーマに最も近い分野を扱った章（項目）を選び、それを精読した上でレジュメを作成し発表を行う。その後、教員を含めた全員でディスカッションを行う。（授業計画）第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	人文地理学基礎論演習B	（目標）人文地理学の研究を進める上で基礎となる理論及び研究方法の習得を目標とする。（授業形態）日本の人文地理学会における近年の理論や研究方法を学ぶため、人文地理学の5大全国誌（地理学評論、人文地理、経済地理学年報、地理科学、季刊地理学）に掲載された論文を題材として、履修者による担当論文の紹介とそれにもとづくディスカッションを行う。具体的には、履修者それぞれが5大全国誌の中から各自の研究テーマに最も近い論文（論説）を選び、それを精読した上でレジュメを作成し発表を行う。その後、教員を含めた全員でディスカッ	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		ションを行う。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	
	人文地理学特論演習A	(目標)先進国を対象とした人文地理学の最新知識や概念の習得を目標とする。(形態)先進国を対象とした人文地理学の先端的テーマを扱った外国語文献の紹介とディスカッションを行う。紹介者は文献を精選・精読した後に、レジュメを事前に作成・配布して発表に臨む。履修者は、当該文献の一読を参加条件とする。外国語文献の検討を通じて、人文地理学分野における最新の知識や概念を習得させる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	人文地理学特論演習B	(目標)新興国・発展途上国を対象とした人文地理学の最新知識や概念の習得を目標とする。(形態)新興国・発展途上国を対象とした先端的テーマを扱った外国語文献の紹介とディスカッションを行う。紹介者は文献を精選・精読した後に、レジュメを事前に作成・配布して発表に臨む。履修者は、当該文献の一読を参加条件とする。外国語文献の検討を通じて、人文地理学分野における最新の知識や概念を習得させる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	世界地域システム論演習A	(目標)現代日本における地域システムの構造と変動について、主に空間的側面から理解する。(授業形態)現代日本における地域システムの構造と変動を扱った人文地理学の論文を題材として、履修者による担当論文の紹介とそれにもとづくディスカッションを行う。具体的には、履修者それぞれが現代日本における地域システムの構造と変動に関するテーマ(グローバル化、多国籍企業、都市システム、農村システムなど)を選び、それを扱った日本語論文を精読した上でレジュメを作成し発表を行う。その後、教員を含めた全員でディスカッションを行う。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	世界地域システム論演習B	(目標)現代世界における地域システムの構造と変動について、主に空間的側面から理解する。(授業形態)現代世界における地域システムの構造と変動を扱った人文地理学の論文を題材として、履修者による担当論文の紹介とそれにもとづくディスカッションを行う。具体的には、履修者それぞれが日本以外の諸外国における地域システムの構造と変動に関するテーマ(グローバル化、多国籍企業、都市システム、農村システムなど)を選び、それを扱った外国語論文を精読した上でレジュメを作成し発表を行う。その後、教員を含めた全員でディスカッションを行う。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	グローバル経済地域論演習A	(目標)先進国を対象とした経済地理学の最新知識や概念の習得を目標とする。(形態)先進国を対象とした経済地理学の先端的テーマを扱った外国語文献の紹介とディスカッションを行う。紹介者は文献を精選・精読した後に、レジュメを事前に作成・配布して発表に臨む。履修者は、当該文献の一読を参加条件とする。外国語文献の検討を通じて、経済地理学分野における最新の知識や概念を習得させる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	グローバル経済地域論演習B	(目標)新興国・発展途上国を対象とした経済地理学の最新知識や概念の習得を目標とする。(形態)新興国・発展途上国を対象とした経済地理学の先端的テーマを扱った外国語文献の紹介とディスカッションを行う。紹介者は文献を精選・精読した後に、レジュメを事前に作成・配布して発表に臨む。履修者は、当該文献の一読を参加条件とする。外国語文献の検討を通じて、経済地理学分野における最新の知識や概念を習得させる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回～第14回を学生による発表とディスカッションとする。第15回には、まとめを実施する。	隔年
	現代インド地誌学	(目標)インドで研究を実施する際に必要となる地理学的知識・スキル・ノウハウを身につけることを目標とする。(授業形態)講義形式を中心とするが、人口を対象とした統計解析・多変量解析の技法を学ぶなど実習的な内容を伴うとともに、文献を読んでディスカッションするなどの演習的要素も取り入れる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回から第14回でインドの人口、文化、社会、経済などの空間的側面について講義する。第15回をまとめとする。なお、本講義は英語で実施する。	隔年 講義 12時間 演習 3時間
	条件不利地域の地理学	(目標)現代日本における条件不利地域の現状を理解する。(授業形態)講義形式	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		を中心とするが、日本の条件不利地域に関する地図判読や統計分析の技法を学ぶなど実習的な内容を伴うとともに、実際に条件不利地域でエクスカージョンを行うなどの演習的要素も取り入れる。(授業計画)第1回をガンダンスとし、第2回から第13回で日本の条件不利地域が有する空間構造や地域問題、及び農村振興の課題について講義する。さらに、第14回と第15回で広島県内におけるエクスカージョンを行う。なお、本講義は英語で実施する。	講義 10時間 演習 20時間
	経済地理学研究	(目標)経済地理学において重要となる知識・概念・モデル・考察方法を理解した上で、自らの研究に応用できることを目標とする。(授業形態)講義形式を中心とするが、文献を読んでディスカッションするなどの演習的要素も取り入れる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回から第10回で、分業、集積、立地、フォード主義、移動などの経済地理学のキー概念を講じる。第11回から第14回は日本及びインドの経済地域構造について講義する。第15回をまとめとする。	隔年 講義 10時間 演習 5時間
	農村地理学研究	(目標)農村をフィールドとする地理学研究に必要な概念や方法論を理解した上で、それらを自らの研究に応用できるようになることを目標とする。(授業形態)講義形式を中心とするが、文献を読んでディスカッションするなどの演習的要素も取り入れる。(授業計画)第1回をガイダンスとし、第2回から第8回でフードシステム、アグリビジネス、フェアトレード、ブランド化、内発的発展論、農村空間の商品化、レジリエンスといった農村地理学のキー概念を講じる。第9回から第14回はそれらの概念を扱った文献の講読を行う。第15回をまとめとする。	隔年 講義 20時間 演習 10時間
	自然地理学特別講義	(概要)様々なスケールで自然環境やその変化を捉え、学際的視点から自然環境及び人間生活を総合的に理解する自然地理学的思考を学ぶ。講義では、山岳地域や熱帯のサンゴ礁地域などでみられる長期的な自然環境の変化のほか、自然災害など突発的な環境変化などを事例にあげながら進める。地球規模から地域社会にまで広がりをもつテーマを取り上げ、身近な地域でも自然地理学的視点で読み解いたり、仮説を創出できるような能力の育成を目指す。	隔年
	自然地理学基礎論演習A	(概要)変動地形学、自然地理学、地理学の研究課題の設定の視点や意義、研究方法について、これまでの研究をもとに検討を行い、研究に対する基礎的な資質の育成を目指す。公開されている論文や書籍などを読解し、整理することで、過去数十年の研究の変遷とともに、最新の研究動向を捉え、発展的な課題を設定できるよう基礎的な資質の育成を目指す。本演習では主に、受講者の研究分野を対象に研究史での位置づけが明確にできるように検討を進める。	隔年
	自然地理学基礎論演習B	(概要)地形学一般、自然地理学、地理学の研究課題の設定の視点や意義、研究方法について、これまでの研究をもとに検討を行い、研究に対する基礎的な資質の育成を目指す。公開されている論文や書籍などを読解し、整理することで、過去数十年の研究の変遷とともに、最新の研究動向を捉え、発展的な課題を設定できるよう基礎的な資質の育成を目指す。本演習では特に、受講者の研究分野の周辺分野を対象に検討し、幅広い分野での研究史上で位置づけができるように検討を進める。	隔年
	自然地理学特論演習A	自然地理学と関連する学術分野に関わる最新の研究成果を論文講読を中心に演習形式で学ぶ。博士課程前期の研究を遂行し修士学位論文を作成するための基礎となる、自然地理学と関連する学術分野におけるさまざまなテーマの研究の進捗状況を網羅的に学び、重要かつ優先的な課題を見いだす。また、それらの研究において活用されている最新の技術についても学び、自らの研究への活用可能性を検討する。受講者は随時それぞれの指向する研究分野の最新の論文を探索して論文リストを作成して紹介し、その中から最も重要と考える論文につき、論文の内容と関連する技術の紹介を行い、受講者相互で議論を行って理解を深める。	隔年
	自然地理学特論演習B	第四紀学と関連する研究分野に関わる最新の成果を海外の研究論文講読を中心に講読形式で学ぶ。第四紀学に関わる研究を遂行し博士課程前期の学位論文作成につながる研究の基礎となる、第四紀学と関連する研究分野におけるさまざまな研究課題の進捗状況を網羅的に学び、各自が追求すべき課題を見いだす。また、その課題を解くために必要な基礎的な技術を習得し、その応用をめざし、自らの研究への活用する道を開く。受講者は随時それぞれの指向する研究分野の最新の論文を探索して論文リストを作成して紹介し、その中から最も重要と考える論文につき、論文の内容と関連する技術の紹介を行い、受講者相互で議論を行って理解を深める。	隔年
	地表変動論演習A	(概要)変動地形学、自然地理学、地理学に関する基礎的な研究手法について、原理や理論を学ぶとともに、計算機や主題図作業など室内での作業のほか、野外	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		や実験室などでの実習を通して、当該分野の研究内容の理解の深化と実践的な研究能力の育成を目指す。本演習では、主に、受講者がこれから取り組む研究分野での具体的な研究方法について議論し、新たな研究手法の開発についても検討を行う。これらを通し、新しい研究を志向する態度を育成する。	
	地表変動論演習 B	(概要) 地形学一般、自然地理学、地理学に関する基礎的な研究手法について、原理や理論を学ぶとともに、計算機や主題図作業など室内での作業のほか、野外や実験室などでの実習を通して、当該分野の研究内容の理解の深化と実践的な研究能力の育成を目指す。本演習では特に、受講者の研究分野の周辺分野を対象に、具体的な研究方法について議論し、新たな研究手法の開発についても検討を行う。これらを通し、新しい研究を志向する態度を育成する。	隔年
	自然地域形成論演習 A	地表圏システム学の課題を自然地理学の観点から解明するために必要な、地形学・第四紀学・年代学の基礎的な技術を習得し、野外調査と実験において実践して研究技術のレベルを高めるとともに論文作成に必要なフィールドデータ・実験データを取得する。受講者は各自の研究課題に応じて野外調査や実験を遂行するが、演習では調査と実験でより優れた成果を取得することを目的として、最初に研究課題の設定と調整を行い、次いで野外調査及び実験の成果の蓄積にあわせて方法の確認と改良をすすめ、最終的に野外調査と実験の成果の報告と確認、成果に基づく議論の深化を行う。	隔年
	自然地域形成論演習 B	地表圏システム学の課題を第四紀学の観点から解明するために必要な基礎的な技術を習得し、室内実験と野外調査において実践して研究技術の水準を高めるとともに学位論文作成に必要な野外調査技術・実験技術を習得し論文の骨子をなす分析データを取得する。受講者は各自の研究課題に応じて野外調査や実験を遂行するが、演習では調査と実験でより優れた成果を取得することを目的として、最初に研究課題の設定と調整を行い、次いで野外調査及び実験の成果の蓄積にあわせて方法の確認と改良をすすめ、最終的に野外調査と実験の成果の報告と確認、成果に基づく議論の深化を行う。	隔年
	自然地域システム論研究	自然地域システムに関わる地形学的な研究に関わる最新の研究成果について演習形式をとり入れた講義を行い、受講者が専門研究者として調査研究をすすめるための基礎的な訓練を行う。 授業計画 第1回～第3回：自然地域についての演習と講義 第4回～第6回：第四紀学についての演習と講義 第7回～第9回：地形学についての演習と講義 第10回～第12回：第四紀年代学についての演習と講義 第13回～第15回：受講者の調査研究成果を反映した総合的な演習と講義	
	地表変動論研究	(概要) 変動地形学、活断層研究に関する主な課題や最近の研究動向について講義し、当該分野の研究の進展や方向性を議論する。また、海外での研究動向について主な国際雑誌(英語論文)から注目すべき論文を取り上げ、全員で読解して理解を深めるとともに、方法、理論の妥当性について議論を行う。これらを通し、当該分野の世界最先端の研究課題を志向する態度を育成するとともに、合理的な研究方法で、説得的に記述できる能力の育成を目指す。	
	地理情報システム学講義	(概要) 地理学は地理的事象を「場所」と関連づけて考えることが特徴である。地図は「場所」を記すツールであり、特定の事象を表現した地図(主題図)は調査・観察の成果を表現する手段であるとともに考察や思考の道具である。最近では様々な地理的情報を統合的に扱う地理情報システム(GIS)で地図を作成したり、分析したりすることが一般的になってきた。この授業では、地図の基礎知識を学ぶとともに、地理情報システムの基礎的概念と研究成果について紹介する。	
	地理情報システム学演習	(概要) 地理学は地理的事象を「場所」と関連づけて考えることが特徴である。地図は「場所」を記すツールであり、特定の事象を表現した地図(主題図)は調査・観察の成果を表現する手段であるとともに、分析や考察の道具である。最近では様々な地理的情報を統合的に扱う地理情報システム(GIS)で地図を作成したり、分析したりすることが一般的になってきた。この授業では、地理情報システム(ArcGIS)を実際に操作・演習することを通して地域分析の方法を学び、地理情報システム及び自分の研究での利用の可能性を考える。	
	地理学研究法 A	(目標) 人文地理学と自然地理学の垣根を超えた幅広い観点から発表と議論を行い、地理学研究の方法を習得する。(形態) 学生が前期セメスターに遂行した(あるいは遂行する)自身の研究内容をレジュメやプレゼンテーションツールを用い	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		て報告し、それについて参加者全員で議論する。教員は発表者の研究の方向性と進捗状況を把握した上で、建設的なアドバイスを行う。これらは、発表者は研究を効率的に進めることに寄与する。(授業計画) 毎回1人が45分程度の発表を行い、その後45分程度の議論を実施する。	
	地理学研究法B	(目標) 人文地理学と自然地理学の垣根を超えた幅広い観点から発表と議論を行い、地理学研究の方法を習得する。(形態) 学生が後期セメスターに遂行した(あるいは遂行する)自身の研究内容をレジュメやプレゼンテーションツールを用いて報告し、それについて参加者全員で議論する。教員は発表者の研究の方向性と進捗状況を把握した上で、建設的なアドバイスを行う。これらは、発表者は研究を効率的に進めることに寄与する。(授業計画) 毎回1人が45分程度の発表を行い、その後45分程度の議論を実施する。	共同
	地理学野外実験	(目標) 「地理学野外演習」において決定したテーマに基づいて現地調査実習を遂行するものであり、それを通じて社会生活や経済活動、自然環境等を対象とする地域調査の専門的な手法を体得することを目標とする。(授業形態・授業計画) 夏季休業期間中に4日間の集中の形式で行い、初日は参加者全員で調査を実施し、対象地域の地域構造の理解を深める。2日目から4日目は、各自があらかじめ設定したテーマに沿った調査を実施する。そこでは聞き取り調査や質問票調査が中心となる。夜にはミーティングを開催し、当日の調査内容・方法を確認するとともに、翌日の調査について説明しアドバイスを受ける。	共同
	地理学野外演習	(目標) 地理学研究の企画、実施、論文作成に必要な能力を醸成することを目標とする。(授業形態) 「地理学野外実験」を実施する上で必要となる調査の企画や調査項目の設定を行う。また、同実験終了後には、報告会を開催するとともに報告書を作成する。これらを通じて地域や社会を対象とした専門的な調査研究方法への理解を深め、さらにそれを用いて調査研究能力を高める。(授業計画) 本講義は通年で不定期に開催するが、「地理学野外実験」を実施する前に計4回×2コマ、以降に1回×2コマを実施する。その後、各自が報告書を教員の指導を受けながら完成させる。	共同
	日本考古学解析A	考古学の講義及び演習。日本考古学の歩みを解析し、研究史について理解を深め、今後の研究課題を探る。考古学研究に関わる査読雑誌論文を題材として輪読し、20世紀代の研究状況を理解する。具体的には、考古学研究会の会誌である『考古学研究』について2000年以前のもを題材とし、収録された個々の論考を旧石器時代、縄文時代、弥生時代などの対象時代・時期ごとに検討し、20世紀代の研究状況を理解するとともに、その後の研究の展開を推察していく。	隔年
	日本考古学解析B	考古学の講義及び演習。日本考古学の歩みを解析し、研究史について理解を深め、今後の研究課題を探る。考古学研究に関わる査読雑誌論文を題材として輪読する。各自、個別に収録された個々の論考をテーマ(時代区分論・年代論・環境論・遺跡論・遺物論・型式論・技術論・生業論・集団論・流通論・文化交流論・精神文化論・墓制論)ごとに検討しつつ、考古学研究の学史の動向を研究背景とともに理解し、その後の研究の展開を解析し、現在の研究視点を客観的に把握していく。	隔年
	アジア考古学解析	考古学の講義。アジア全般にわたる考古学研究を俯瞰し、その文化的連関を考古学の遺跡や考古学の出土遺物から解き明かしていく。幅広い文明史観から個別の文化事象をとらえる授業課程とする。石器時代を含め、古代から中世にかけてのアジアにおける考古学の時代区分・年代論、集団論、遺跡・遺物論、技術・生業文化、流通・文化交流論、墓制論などに言及し、その交流を示す遺跡・遺物の紹介を行っていく。おもにアジア各地の考古学資料等の映像や画像をもとに解説し、各論のなかで説明を行っていく。	隔年
	日本考古学特論	考古学の講義。日本考古学に関わる特殊かつ重要な課題や論点を中心とし、その調査研究成果を研究史に沿って明らかにしていく。日本考古学の研究史を論点の背景として理解し、今後の研究課題を解決する方法を模索する。とくに日本考古学における年代論や古墳時代政治論、古代都城論、中世都市文化論などといった個別テーマにおける日本考古学の研究成果を、それらに関連した考古学の遺跡・遺物の紹介を行いつつ、理解を深めていく。そのなかで研究史からみて重要な課題や論点を把握し、今後の研究課題の具体的解決策を知ることとする。	隔年
	世界考古学解析A	考古学の講義及び演習。考古学・人類学の諸理論を理解し、おもに首長制社会の考古学的事象に対する解釈において多角的な視点を持つことを目標とする。新進化主義の文化階梯による社会文化の進化・発展を主要テーマとして理解し、日本・アジア考古学における諸事象と関連付けていく。考古学的事象の解釈に関して、	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		人類学など関連分野のさまざまな研究成果をどのような視点から援用していくのか、各自テーマを設定し、新たな考古学像を探るため、それらの諸理論を援用した海外文献等の輪読や評論を行う。	
	世界考古学解析 B	考古学の講義及び演習。考古学・人類学の諸理論を理解し、おもに初期国家・国家段階の考古学的事象に対する解釈において多角的な視点を持つことを目標とする。考古学的事象の解釈に関して、各自テーマを設定し、新たな考古学像を探る。いわゆる初期国家や部族国家、王国、古代帝国などといったさまざまな文化段階を考古学の遺跡や遺物から把握していく過程を模索する。国家段階に関わる考古学・人類学の諸理論を援用した海外文献等の輪読や評論を行い、その研究成果を理解し、多角的な視点を認識できるようにする。	隔年
	考古学広領域講義	考古学の講義。考古学の隣接分野（人類学・民族（俗）学・文化財科学など）の調査研究のもつ研究視点から、考古学研究を再考する。幅広い分野の方法論を学びつつ、考古学への援用方法やその技術・方法を理解する。古人類学や理化学的年代表測定方法（炭素 14 年代測定法、年輪年代測定法）、出土遺物の理化学的分析方法（蛍光 X 線分析、X 線透過法）などの理化学的原理、実際の分析手順と現実的な問題点を理解し、隣接分野の学術に関して、批判的に利用できるための知識を習得し、考古学における研究成果を理解する。	隔年
	考古文献評論 A	考古学の講義及び演習。講義及び演習、考古学の研究論文を精読し、考古学の最先端の研究成果を理解する。とくに野外考古学実習で行う発掘調査・測量調査など、実際のフィールドワークと連動した研究テーマ・課題を選択し、それに関係した研究論文を輪読し、現代のフィールドワーク研究の最先端成果を学び取る。発掘調査に関わるさまざまな責務を理解し、実際の調査課題の解決のために最先端の研究成果に関わる諸問題について発表や討論を行なう。	隔年
	考古文献評論 B	考古学の講義及び演習。講義及び演習、考古学の研究論文を精読し、考古学の最先端の研究成果を理解する。とくに大学院の資料実習で行う実際の報告書作成作業に関連した研究テーマ・課題を選択し、輪読する。それらの関連研究論文から現代の発掘調査報告書や研究論文作成のための最先端技術を学び取る。発掘調査報告書の作成に関わるさまざまな責務を理解し、実際の作成課題の解決のために最先端の研究成果に関わる諸問題について、討論を行なう。	隔年
	考古資料評論	考古学の講義及び演習。日本国内で調査された重要遺跡の発掘調査報告書を取り上げ、その書籍の体裁、調査にいたる経過、調査の方法と問題点、提起された新事実、報告書の総論的な視点や考え方などについて検討し、討論を行う。とくに長年携わってきた帝釈遺跡群の調査研究などを対象とし、土器・石器利用などのほか骨角器や海産貝類などの分析だけでなく、洞窟・岩陰居住などに関する研究テーマを選択し、現在の石灰岩地帯の発掘調査に関わる先端研究の成果を学び取る。	
	アジア比較考古学演習 A	考古学の演習。考古学研究に関わる研究論文、図書などを題材とし、東アジア石器時代考古学の諸問題を探る。おもに東アジア石器時代の石器文化の特徴を検討する。特に黒曜石、サヌカイト、安山岩など産地が特定される石材の原産地遺跡の様相、消費地遺跡の以上の特定の産地からの搬入石器石材利用から復元される行動軌跡、流通の形成過程、社会の複雑化について、関連する先行研究論文、図書の輪読を行い、研究状況を把握していく。また、比較のためヨーロッパのプリント利用に関連する研究論文の輪読を行い、日本、東アジアと対比する。	隔年
	アジア比較考古学演習 B	考古学の演習。アジアの紀元前 1 千年紀前後に関わる諸問題を題材とし、東西アジアの文化交流を考察していく。とくにアケメネス朝ペルシャや中国戦国・漢時代に関する概説書を選択し、輪読する。時代区分・年代論、集団論、遺跡・遺物論、技術・生業文化、流通・文化交流論、墓制論に分けて焦点をあてつつ、当該時期の文化様相を考古学の検出遺構や出土遺物からとらえていく。また、そのほかの関連分野の諸論考を参考とし、その後の研究状況を把握していく。	隔年・共同
	考古学資料実習 A	考古学の演習。考古学研究室報告、帝釈遺跡群発掘調査室年報、考古学研究室紀要での実習・研究成果の公表を目指す。おもに考古学資料の写真撮影、分析・実測を行う。文化庁文化財部発行「発掘調査のてびき」を参照しつつ、実際の研究成果の公表に関わる技術・方法を理解し、実践していく。ドローン撮影とデータ加工、画像データとフィルム写真の保存・活用、理化学的分析装置の使用、実測技術の熟練とともに新たな測量技術を理解していく。	隔年・共同
	考古学資料実習 B	考古学の演習。考古学研究室報告、帝釈遺跡群発掘調査室年報、考古学研究室紀要などでの実習・研究成果の公表を目指す。おもに考古学資料の写真撮影、分	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		析・実測を行う。文化庁文化財部発行「発掘調査のてびき」を参照しつつ、実際の研究成果の公表に関わる技術・方法を理解し、実践していく。ドローン撮影とデータ加工、画像データとフィルム写真の保存・活用、理化学的分析装置の使用、実測技術の熟練とともに新たな測量技術を理解していく。	
	考古学資料実習C	考古学の実習。考古学研究室報告、帝釈峡遺跡群発掘調査室年報、考古学研究室紀要などでの実習・研究成果の公表を目指す。おもに考古学資料の実測と浄図トレースを行う。文化庁文化財部発行「発掘調査のてびき」を参照しつつ、実際の研究成果の公表に関わる技術・方法を理解し、実践していく。実測技術の熟練とともに、浄図に関わる画像加工の技術を理解して実践する。データ加工、画像データとフィルム写真の保存・活用や、理化学的分析装置の使用も適宜行っていく。	隔年・共同
	総合文化財研究法Ⅰ	文化財学を研究する上で基礎となる調査研究法を習得することを目的に置く。調査の心構え、手順、注意点を確認し、鋳造像、法具などを資料に調書作成を行う。調書を著すために必要な照明可能な対象物への照射方法、測量方法、デッサン力を練習する。写真媒体では判断がつかない対象物の情報を、直接に観て、専門的な技術を用いて調書を作成することにより、高い調査能力を育成する。最終的に履修学生が修士論文で取り上げるテーマに沿った調書元型を作成する。	隔年
	総合文化財研究法Ⅱ	総合文化研究法Ⅰをふまえた上で、写真撮影方法を習得することを目的に置く。撮影道具の扱い方法、撮影の準備、手順、及び注意点を確認し、実際に写真撮影を行う。特に照明可能な対象物への照射方法に重点をおく。また、屋内、屋外など、様々な状況下における撮影方法についても学ぶ。専門的な技術を用いて撮影を行うことにより、高い調査能力を育成する。最終的に履修学生が修士論文で取り上げるテーマに沿った写真撮影方法を確認する。	隔年
	総合文化財調査実習Ⅰ	工芸（伝統的工芸品）の実見を行い、調査法を習得する。総合文化財研究法Ⅰ、Ⅱで得た専門的な知識・技術の実習。国内、特に工房等の現地見学を行い、実際に接し、調書作成、写真撮影、及び聞き取り、その地域に関する文献資料の収集を行う。事前に文献資料を収集して研究会を行い、調査終了後には各自の調書を確認し検討会を行ったうえで報告書を作成する。調査実習を通して専門的な調査能力を養い、文化財の意義を深く理解することを目的におく。履修学生は、事前事後の研究会に各自資料を作成して出席すること。	隔年
	総合文化財調査実習Ⅱ	有形文化財のうち、工芸（金工・漆工・陶磁・染織・甲冑類・古神宝・刀剣及び刀装具等）の実見を行い、調査法を習得する。総合文化財研究法Ⅰ、Ⅱで得た専門的な知識・技術の実習。国内の博物館や寺社、工房などに赴き、有形文化財（工芸品を中心に）に実際に接し、調書作成、写真撮影を行う。事前に文献資料を収集して研究会を行い、調査終了後には各自の調書を確認し検討会を行ったうえで報告書を作成する。調査実習を通して専門的な調査能力を養い、文化財の意義を深く理解することを目的におく。履修学生は、事前事後の研究会に各自資料を作成して出席すること。	隔年
	総合文化財解析演習Ⅰ	有形文化財のうち、工芸における専門的な知識と分析能力の習得を目的におく。有形文化財の一資料に焦点をあて、関連する先行研究・調査資料の収集、専門文献の読解、考察を行う。担当学生が課題を選択し、発表を行い、その後履修学生間でディスカッションを行う。これらを通して対象物の工芸史上における意義を考察する。また、「巖島神社名品展」を観覧する。事前に「平家納経」「法華経」の出陳品を漢訳経典で講読し、見返しとの照合を行い、制作者の意図を読み解く。	隔年
	総合文化財解析演習Ⅱ	総合文化財解析演習Ⅰにおいて学習した、対象物を専門的な知識から読み解く手法を用いて、個々の学生が修士論文に関連する研究課題を選択して発表を行う。その後、履修学生間でディスカッションを行い、議論を深める。担当学生は、先行研究、関連する文献資料を十分に収集し、必ず課題となる対象物を実見、可能であれば現地調査を行っておく。それらをもとに分析・考察を行い、対象物の存在が、文化財においてどのような意義があるのかを考究する。	隔年
	有形文化財研究法Ⅰ	有形文化財のうち、美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）全般の研究方法に関する専門的な知識を習得する。「いつ」、「どこで」、「だれが」、「なにを」、「どのように」作ったのか。そして「それはなぜか」という、現存遺例の歴史上における存在意義を考究するのが、この学問の真髄である。作品の正確かつ詳細な観察に基づいて「なにを」、「どのように」の情報を読み取り、文献史学の蓄積を加味して「いつ」、「どこで」、「だれが」を検討し、それらを総合して「それはなぜか」を明らかにする、その過程を具体例に即して追う。	隔年
	有形文化財研究法Ⅱ	有形文化財のうち、特に密教絵画の研究方法に関する専門的な知識を習得する。密	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文学 プログラム プログラム 専門科目		教絵画の場合、「なにを」が図像学に当たり、「どのように」が様式論に発展する。前者は十二世紀以来わが国に続く伝統的な学問で、その多くは『大正新脩大蔵経図像篇』に収録されるが、検討に際しては平安初期以来の彩色画・白描画ばかりか彫像の遺例をも網羅せねばならず、幅広い知識が必要となる。一方、後者は、原則は一定の図像（かたち）に則りつつも、その制約の中で各時代の美意識を如何に積極的に取り入れるかが絵師の工夫に委ねられる。この二つの課題を、具体例に即して考察する。	
	有形文化財解析演習Ⅰ	有形文化財のうち、美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）全般の現存遺例の中から、個々の学生が自由にそれぞれ一件を選び、その先行研究を解析して問題点や誤りを炙り出し、光画像計測法（4x5 サイズカラーフィルム写真・35 ミリサイズカラーズライドフィルム写真・同フルサイズ CCD デジタル写真・ブローニー判デジタルカラー写真・同デジタル反射赤外線写真・半切あるいは四切サイズ透過レントゲン写真・蛍光 X 線分析法など）を応用しつつ、正確かつ詳細な作品の解析を通してその歴史上における真の存在意義を明らかにする。	隔年
	有形文化財解析演習Ⅱ	有形文化財のうち、特に密教絵画の現存遺例の中から、個々の学生が自由にそれぞれ一件を選び、その先行研究を解析して問題点や誤りを炙り出し、光画像計測法（4x5 サイズカラーフィルム写真・35 ミリサイズカラーズライドフィルム写真・同フルサイズ CCD デジタル写真・ブローニー判デジタルカラー写真・同デジタル反射赤外線写真・半切あるいは四切サイズ透過レントゲン写真・蛍光 X 線分析法など）を応用しつつ、正確かつ詳細な作品の解析を通してその歴史上における真の存在意義を明らかにする。	隔年
	有形文化財調査実習Ⅰ	国公立のミュージアム（美術館・博物館・資料館など）や神社・仏閣の宝物館等に出向き、有形文化財のうち、美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）全般の現存遺例について、特別展覧会や平常陳列の見学を行って、たとえガラス越しであれ肉眼で「作品（モノ）を見る」訓練を行う。また、特別観覧など実際の調査にあたり、所蔵者への依頼・交渉から始まって、調査の具体的な手段や方法、撮影機材や技師の手配、作品の取り扱い、所蔵者への適切な保存管理や修復方法に関する助言、結果報告など、一連の作業を自ら主導する力量を養成する。	隔年
	有形文化財調査実習Ⅱ	有形文化財のうち、特に平安から室町時代の絵画遺例について、国公立のミュージアム（美術館・博物館・資料館など）や神社・仏閣の宝物館等に依頼し、4x5 サイズカラーフィルム写真・35 ミリサイズカラーズライドフィルム写真・同フルサイズ CCD デジタル写真・ブローニー判デジタルカラー写真・同デジタル反射赤外線写真・半切あるいは四切サイズ透過レントゲン写真などの光画像計測法を、必要に応じて適用する調査を主導するための研究調査実践力を養成する。	隔年
	文化財学特殊講義Ⅰ	文化財の保存管理や修復技術に関する専門的知識を習得する。例えば、温湿度条件について全国美術館会議は一定の指針を示すが、その適用にあたっては保存環境の履歴や気候を十分に考慮するべき旨を提唱している。しかし実際の展示施設では、全国各地からの借用品に対し一律に指針を遵守する傾向が強い。また修復に際して、監督者の知識不足から取り返しのつかない結果を生む例も数多い。本講義では、美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）の材料等の特質や、伝統的かつ本格的な装演師の修復技術について講じ、当該分野における高度の専門的職業人として即戦力となり得る能力を養成する。	隔年
	文化財学特殊講義Ⅱ	文化財の歴史上における存在意義は、当然ながら個々の遺例ごとにすべて異なる。それを明らかにする客観的情報は、光画像計測法を適宜応用した作品（モノ）の正確かつ詳細な観察に基づくのであるが、信仰の対象である仏教美術の場合、そうした調査が常に可能とは限らない。一期一会のモノに対する時、知識と経験とをフル稼働して、一瞬でその本質を見抜く直感力もまた不可欠なのである。本講義では、特に浄土教絵画を例として、その直感力の養成を図る。浄土教絵画は密教絵画の如き図像の制約が無い代わりに、施主の意図を反映した自由な表現が現れやすいからである。	隔年
	心理学研究法基礎演習 A	本授業の目標は、研究を他者にプレゼンテーションするために必要な基礎的知識・技能を習得し、実際に学会発表の資料作成やリハーサルを行うことにより、心理学者に必要な研究基礎力を身につけることである。そのために必要な基礎的知識・技能を習得する。 授業の中では、特に、心理学分野の国際学会におけるプレゼンテーション・議論を想定し、その発表準備を行う。準備中に質問等があれば随時、担当教員からサ	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	心理学 プログラム		ポートを得る。さらに、実践的訓練と、それにとまうディスカッションを行う。	
		心理学研究法基礎演習 B	<p>本授業の目標は、研究計画の立案と、自身の研究計画を他領域の人にプレゼンテーションするために必要な基礎的知識・技能を習得し、実際に研究計画書を執筆することにより、心理学者に必要な研究基礎力を身につけることである。</p> <p>授業の中では、特に、心理学分野の申請書を想定した研究計画書についての講義、研究計画立案や計画書作成といった実践的訓練と、それについてのディスカッションを行う。計画立案および計画書作成は、随時、担当教員からサポートを得ながら行う。</p>	共同
		心理学研究法応用演習 A	<p>本授業の目標は、研究を他者にプレゼンテーションするために必要な知識・技能を習得し、実際に学会発表の資料作成やリハーサルを行うことにより、心理学者に必要な研究実践能力を身につけることである。</p> <p>授業の中では、特に、心理学分野の国際学会におけるプレゼンテーション・議論を想定し、その発表準備を行う。準備中に質問等があれば随時、担当教員からサポートを得る。さらに、実践的訓練と、それにとまうディスカッションを行う。</p>	共同
		心理学研究法応用演習 B	<p>本授業の目標は、研究計画の立案と、自身の研究計画を他領域の人にプレゼンテーションするために必要な知識・技能を習得し、実際に研究計画書を執筆することにより、心理学者に必要な研究実践能力を身につけることである。</p> <p>授業の中では、特に、心理学分野の申請書を想定した研究計画書についての講義、研究計画立案や計画書作成といった実践的訓練と、それについてのディスカッションを行う。計画立案および計画書作成は、随時、担当教員からサポートを得ながら行う。</p>	共同
		Academic writing in psychology A	<p>本授業の目標は、論文執筆を行うために必要な基礎的知識を習得し、実際に論文やアブストラクトを執筆することにより、心理学者に必要な論理と実践的なライティング能力を身につけることである。</p> <p>授業の中で、心理学分野の (1) 国際誌へ投稿するための英語論文執筆、または (2) 国内誌へ投稿するための日本語論文、もしくは (3) それに必要なアブストラクトの執筆を行う。執筆中に質問等があれば随時、担当教員からサポートを得る。また、講義を通して、英語・日本語に関わらず、アカデミック分野での文章の書き方を学ぶ (他分野での文章の書き方にも十分応用可)。</p>	共同
		Academic writing in psychology B	<p>本授業の目標は、英語論文執筆を行うために必要な基礎的知識を習得し、実際に論文やアブストラクトを執筆することにより、心理学者に必要な論理と実践的なライティング能力を身につけることである。</p> <p>授業の中で、心理学分野の (1) 国際誌へ投稿するための英語論文執筆、または (2) 国内誌へ投稿するために必要なアブストラクトの執筆を行う。執筆中に質問等があれば随時、担当教員からサポートを得る。また、講義を通して、英語・日本語に関わらず、アカデミック分野での文章の書き方を学ぶ (他分野での文章の書き方にも十分応用可)。</p>	共同
		Advanced academic writing in psychology A	<p>本授業の目標は、論文執筆を行うために必要な知識を習得し、実際に論文やアブストラクトを執筆することにより、心理学者に必要な論理と実践的なライティング能力を身につけることである。</p> <p>授業の中で、心理学分野の (1) 国際誌へ投稿するための英語論文執筆、または (2) 国内誌へ投稿するための日本語論文、もしくは (3) それに必要なアブストラクトの執筆を行う。執筆中に質問等があれば随時、担当教員からサポートを得る。また、講義を通して、英語・日本語に関わらず、アカデミック分野での文章の書き方を学ぶ (他分野での文章の書き方にも十分応用可)。</p>	共同
		Advanced academic writing in psychology B	<p>本授業の目標は、英語論文執筆を行うために必要な知識を習得し、実際に論文やアブストラクトを執筆することにより、心理学者に必要な論理と実践的なライティング能力を身につけることである。</p> <p>授業の中で、心理学分野の (1) 国際誌へ投稿するための英語論文執筆、または (2) 国内誌へ投稿するために必要なアブストラクトの執筆を行う。執筆中に質問等があれば随時、担当教員からサポートを得る。また、講義を通して、英語・日本語に関わらず、アカデミック分野での文章の書き方を学ぶ (他分野での文章の書き方にも十分応用可)。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 心理学 プログラム 心理学 プログラム	臨床心理学特講 I	さまざまな分野における心理臨床の実践と研究の基礎となる臨床心理学という学問について、その全体像を把握することを目標とする。臨床心理学の歴史と現状、力動論、行動論・認知論、その他の代表的な臨床心理学の理論、臨床心理学的査定（アセスメント）、臨床心理学的介入、心理療法、臨床心理学研究法について幅広く講義する。また、上記の内容に関連する文献の講読を行うことによって、臨床心理学の研究の最新の動向を把握する。さらに、ロールプレイなどを通じて、基本的な臨床心理学的介入の体験および実施方法の学習を行う。	共同
	心理学特講 A	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の幅広い領域の知識を身につける必要がある。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域の専門的知識を習得することである。 具体的には、これらの心理学の研究動向の解説を行い、その理解を深めるための議論を行う。受講生は、それをふまえ、自身の研究の展開についても考察を深める。	共同・隔年開講
	心理学特講 B	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、基礎～応用レベルの研究手法の習得が不可欠である。本授業の目標は、実験・調査・観察・面接などの心理学的研究方法、さらにそれらの結果の分析に関し、専門的な知識と技能を習得することである。 具体的には、これらの研究手法・分析方法の解説を行い、その理解を深めるための議論を行う。受講生は、それをふまえ、自身の研究に適切な研究方法や分析方法についても討議・考察する。	共同・隔年開講
	心理学特講 C	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の幅広い領域の知識を身につける必要がある。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域の専門的知識を習得することである。 具体的には、これらの心理学の研究動向の解説や、特定のテーマにおける最新の研究成果の紹介を行い、議論する。受講生は、それをふまえ、自身の研究の展開についても考察を深める。	共同・隔年開講
	心理学特講 D	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、基礎～応用レベルの研究手法の習得が不可欠である。本授業の目標は、実験・調査・観察・面接などの心理学的研究方法、さらにそれらの結果の分析に関し、専門的な知識と技能を習得することである。 具体的には、これらの研究手法・分析方法の解説や、それをういた様々な研究の紹介を行い、議論する。受講生は、それをふまえ、自身の研究に適切な研究方法や分析方法についても討議・考察する。	共同・隔年開講
	心理学基礎演習 I	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある。英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域における専門用語や表現、論文構成を習得することである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの多数のアブストラクトを読み比べ、討議を行う。そのテーマについての理解を深めるとともに、英語での専門用語や表現を習得し、読解スピードを上げる。	共同
	心理学基礎演習 II	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある。英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域におけるスタンダードなテーマの論文の読解能力を高めることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの多数のアブストラクトを読み比べ、そのテーマで研究を展開するための討議を行う。そのテーマについての理解を深めるとともに、英語論文の読解スキルを向上させる。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 心理学 プログラム	心理学基礎演習Ⅲ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野における様々なテーマについて、英語論文の読解スキルを向上させることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの論文を読解し、発表・討議を行う。そのテーマについての専門的知識を身につけるとともに、英語論文の読解スキルを向上させる。	共同
	心理学基礎演習Ⅳ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野における様々なテーマについて、英語論文の読解スキルを向上させることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの論文を読解し、発表・討議を行う。そのテーマについての最新の研究動向を把握するとともに、英語論文を正確に読解するスキルを向上させる。	共同
	心理学応用演習Ⅰ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域における専門用語や表現、論文構成を習得することである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの多数のアブストラクトを読み比べ、討議を行う。そのテーマについての理解を深めるとともに、英語での専門用語や表現を習得し、英語論文の多読スキルを身につける。	共同
	心理学応用演習Ⅱ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野のみならず、認知・生理、社会、教育・学習、発達・幼児、臨床等の心理学の様々な領域におけるスタンダードなテーマの論文の読解能力を高めることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの多数のアブストラクトを読み比べ、そのテーマで研究を展開するための討議を行う。そのテーマについての理解を深めるとともに、研究者としての英語論文の読解スキルを習得する。	共同
	心理学応用演習Ⅲ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野における様々なテーマについて、英語論文の読解スキルを向上させることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの論文を読解し、発表・討議を行う。そのテーマについての専門的知識を身につけるとともに、研究者としての英語論文の読解スキルを習得する。	共同
	心理学応用演習Ⅳ	心理学の研究を遂行するため、また、高度な実践を行う専門家になるためには、心理学の最新の研究の動向を把握する必要がある、英語論文の多読・精読は必要不可欠な技能である。本授業の目標は、受講生の専門分野における様々なテーマについて、英語論文の読解スキルを向上させることである。 具体的には、受講生は、指定されたテーマの論文を読解し、発表・討議を行う。そのテーマについての最新の研究動向を把握するとともに、研究者としての英語論文の読解スキルを習得する。	共同
	幼児心理学観察演習	本授業の目標は、幼児や教師の活動を観察することによりデータを収集し、その分析・考察をとおして、幼児や保育についての理解を深めることである。また、観察によるデータ収集および分析手法を習得する。 具体的には、広島大学附属幼稚園において、幼児や教師の活動を観察し、その結果を分析する。観察のテーマは、予備観察を実施した後、受講生の関心に基づいて設定する。観察の経過、結果をまとめて発表し、討議することで理解を深める。	共同
	臨床心理学特講Ⅱ	本授業では、心理臨床の実践の方法及び効果について理解を深め、実践力を高めることを目指す。特に、行動論・認知論に基づく臨床心理学的介入および集団療	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		法、予防的臨床心理学的介入をテーマとして、集団を対象とした介入プログラムの作成、ロールプレイ、ディスカッションを授業の中で行う。そして、心理療法の効果について、文献をもとに最新の研究知見を把握し、それらの知見をどのように実践に活かすかを考えていく。また、心理療法を実施するうえで考えなければならない倫理的問題や配慮すべき事項についても学習を行う。	
	心理療法特講	心理療法では、クライエントがこころの一部あるいは内的な問題等を言語、遊び、態度、表情や行動などの行為化されたメッセージをセラピストが受け取り、くみ取り、どのように扱うかという部分において行為を取り扱う方法として位置づけることもできる。こうした行為化を取り扱う方法をアクションメソッドという。本授業では、受講生自身が経験あるいは体験してきたことを言葉などで表現し、受講生同士で共有し、ときには、自らの行為として表現することで自己理解や他者理解、状況理解をしていくことを目指す。具体的には、受講生が体験してきた心理臨床教育研究センター及び学外実習での臨床体験ならびに事例検討会・発表会などの研修での事例をベースに、問題意識や体験的理解を言語化し、行為化して共有し、深化させることを目標とする。本授業の体験学習を通じて、心理療法家として重要な知識とともに倫理観を涵養する。	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	本授業の目標は、次の3点について、理論の理解とともに、実践的な能力を身に付けることである。(1) 家族関係等、集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法を概説できる。(2) 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について概説できる。(3) 上記の1,2を、心理に関する相談、助言、指導等への応用について概説できる。講義を行うとともに、受講生同士の討議を通して、これらの理論について理解を深め、実践的能力を習得させる。	
	心の健康教育に関する理論と実践	(概要) 本授業の目標は、現代社会に生きる人間の心の健康の増進に寄与するさまざまな心理学の理論を習得すること、そして、心の健康教育に関する情報や知識を用いた実践力を習得することである。具体的には、現代社会におけるメンタルヘルスの問題について、認知心理学、学習心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学、臨床心理学など、心理学の主要な領域における最新の知見を紹介する。さらに、心の健康教育の実践として、ストレスマネジメント教育やソーシャルスキルトレーニングなどの理論を概説し、実施方法をロールプレイなどにより習得する。  (オムニバス方式/全15回) (147 尾形 明子/2回) ガイダンス、健康とメンタルヘルス  (115 梅村 比丘・27 杉村 和美/2回) 愛着とメンタルヘルス  (123 清水 寿代・45 杉村 伸一郎/2回) 子育てとメンタルヘルス  (136 中島 健一郎・42 森永 康子・199 平川 真/2回) 対人関係とメンタルヘルス  (111 上手 由香/2回) トラウマケアとメンタルヘルス  (72 湯澤 正通・69 中條 和光・26 森田 愛子/2回) ワーキングメモリと発達障害  (17 服巻 豊・208 神原 利宗・220 宮谷 真人・152 中尾 敬/2回) ストレスマネジメント  (63 石田 弓/1回) カウンセリングマインド	オムニバス方式
	心理支援に関する理論と	本授業では、力動論、行動論・認知論、その他の代表的な心理療法の理論と技法	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 心理学 プログラム 専門科目	実践（臨床心理面接特講Ⅰ）	について概説する。これらの心理療法の理論を理解し、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法を選択し、調整することができるようになることを目指す。また、各理論を用いた心理療法の事例検討を通して、心理面接の始まりから終結までの展開と経過の理解の仕方、事例の特性やニーズに応じた適切な支援方法や心理療法の技法の選択や工夫について学習する。	
	臨床心理面接特講Ⅱ	受講生の臨床心理面接に必要な心理査定（見立て）と見立てのフィードバック、面接方針の共有という基本的理解について深化させ、臨床心理面接（遊戯療法を含む）のための基本的応答を修得させることを到達目標とする。授業内におけるディスカッションを通じて、自分自身の考えやあり方について学んだこと、受講生同士のディスカッションにより共有できたことについて振り返りを行い、臨床心理面接のそれぞれ各人にあった工夫について考察する。	
	教育分野に関する理論と支援の展開	本授業では、学校教育分野における諸問題に対する心理的支援に関して、公認心理師に求められる基本的なスクールカウンセリングの知識や理論、および技法を習得することを目標とする。わが国における学校教育分野に関する心理臨床（学校心理臨床）の歴史やスクールカウンセリングの独自性・専門性について概説した後、児童生徒や保護者に対する直接的な支援のあり方や、児童生徒の指導・支援にあたる教職員の後方支援のあり方に関する基礎的知識や理論について講義を行う。また、不登校やいじめ問題、発達障害などに対する心理的支援の実際や、学校内における協力体制の構築や他機関との連携のあり方の実際についても講義を行う。さらに、学校に関わる事件や事故、自然災害など緊急事態における支援（緊急支援）あり方についても具体的に説明する。	共同
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	本授業では、公認心理師および臨床心理士にとって必要な保健医療分野に関する精神医学および心身医学の基礎知識を習得することを旨とする。また、保健医療分野における公認心理師および臨床心理士の役割を明らかにする。精神医学に関しては、精神科治療の概要を解説し、統合失調症や気分障害、不安障害などの代表的な精神疾患の特徴や治療について講義を行う。心身医学については、心身症や摂食障害、サイコオンコロジー、リエゾン精神医学などに関する講義を行う。	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉現場は、被虐待児、障害児・者、高齢者など社会的に養護が必要な人々の重要なサポート資源である。そうした福祉現場の支援対象者の虐待構造、障害種・程度ならびに家族力動などを医学的・心理社会的背景や課題を含みながら実践事例などを活用して学習する。また、福祉現場で必要な直接支援としての心理支援方法について体験的かつ実践事例を通して学ぶ。さらに、福祉現場において生じる問題及びその背景を、福祉現場で働くスタッフのメンタルヘルス対応ならびに福祉分野から保健医療・教育・司法などの関連分野との連携の実際について基礎的知識を習得する。	隔年・集中
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	本授業では、非行臨床に焦点を当て、とりわけ司法・矯正領域外で働く公認心理師にも必須の非行・犯罪関連法制度をはじめ、非行・犯罪理解の枠組み、見立ての際に必要な、非行性の見極め方、加害性と被害者性を念頭に置いたダブルロールの問題、関わり方、関係機関の機能と活用の意義等に力点を置き、事前学習、学生による発表を中心に進める。それにより、犯罪や非行をしたものがそれに至る原因を見立てる視点、その心理的分析、再犯や再非行のリスク評価といった視点、矯正・更生のための関与の在り方、犯罪や非行の防止について知識や技能を習得する。	隔年・集中
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野における心理臨床、ストレス対策、メンタルヘルスの計画およびシステムづくりにおいて必要な知識と技術について講義と実習を行う。具体的には、産業・労働分野における心理臨床の問題とその背景、様々な理論、産業カウンセリングの歴史や専門家の役割等について学ぶ。さらに、産業カウンセリングの実践について具体的に学ぶ。それにより、労働分野に関わる公認心理師の実践について理解し、概説できる知識と技能を習得することを目標とする。	隔年・集中
	心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）	本授業では、複数の心理検査と知能検査（WAIS-III、WISC-IV）を、受講生及び学部生を対象とした相互実施体験を通して、検査の導入、ラポールの形成、実施手順、検査結果の読み取り、解釈、報告書の作成、フィードバックについて学ぶ。それにより、心理的アセスメントに関する以下の3つの課題について学ぶ。① 心理的アセスメントの目的と意義、② 心理的アセスメントに関する理論と方法、③ 心理に関する相談、助言、指導等への心理アセスメントの応用。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	本授業では、医療・福祉・教育・司法などの領域で広く用いられるロールシャッハテストや描画法を中心に体験的に学習する。ロールシャッハテストでは、受講生自身が検査者体験をし、検査結果の分析および検査所見の書き方を習得する。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 心理学 プログラム 専門科目		描画法では、バウムテストやS-HTPなど代表的な描画法に関する基礎知識を身につけると同時に、受講生自身が描画法を体験し、検査所見の書き方を習得する。さらに、テストバッテリーの組み方や総合的解釈のノウハウ、および検査結果の報告書の書き方について、グループによる事例検討を通して学ぶ。	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	本授業の目標は、実習や事例の担当に備え、臨床心理面接に最低限必要とされる基本的な知識や態度、および技術を習得することにある。具体的には、まず授業内で臨床心理面接の基本について講義を受け、基礎的知識を習得する。次に、実習生同士のロールプレイを通じて、具体的な応答技法のあり方を確認する。これを踏まえて「試行カウンセリング」を行う。ここでは、学部生（依頼クライアント）を対象に1回50分、計5回連続の模擬面接を行うことで、より実践に近い形で臨床心理面接の技能を習得する。	共同
	臨床心理基礎実習Ⅱ	広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センターこころの相談室において、心理検査や心理面接への陪席および、心理面接の実践を行う。これらを通して、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習Ⅳ（臨床心理実習Ⅰ）	本授業では、学内において15回（1回3時間、計45時間以上）の事例検討による実習を行う。心理に関する支援を要する者等に対して自ら支援を実践した事例、あるいは他者が実践した事例の検討を通して、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	臨床心理実習Ⅱ	本授業では、ケースカンファレンスおよび事例検討会を通して、カウンセリング・心理療法を行なっていく上で注意すべきことについて実践的理解を深める。具体的には、附属心理臨床教育研究センターの心理教育相談部門で行なわれている事例について、自ら支援を実践した事例、あるいは他者が実践した事例の検討を行い、特に心理査定、治療関係や心理療法過程に焦点をあてて学ぶ。また、事例研究や事例検討の方法についても学習する。	共同
	心理実践実習Ⅰ	学内において30回（1回3時間、計90時間以上）の事例検討による実習を行う。心理に関する支援を要する者等に対して自ら支援を実践した事例、あるいは他者が実践した事例の検討を通して、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習Ⅱ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践について、臨床指導教員によるグループスーパービジョンを通して、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習Ⅲ	広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センターこころの相談室において、心理検査や心理面接等の実習を行う。心理検査は1回の検査につき5時間（検査実施時間、所見作成時間、事前事後指導を含む）、心理面接は、1回につき3時間（面接時間、記録作成、事前事後指導を含む）の実習時間とみなす。心	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		理検査と心理面接を合わせ 30 時間以上の実習を行う。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	
	心理実践実習 V	学内において 15 回 (1 回 3 時間、計 45 時間以上) のケースカンファレンスおよびグループスーパービジョンを中心とした実習を行う。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習 A	精神科病院において、8 回 (1 回 8 時間、事前事後指導を含め計 70 時間以上) の実習を行う。また、小児科および精神科病院において 2 回以上 (1 回 5 時間、計 10 時間以上) の知能検査および心理面接等の実習を行う。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習 B	司法・犯罪、教育、福祉の 4 分野における心理に関する支援を実施する施設において、1 分野以上を選択し、実習に参加する。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	心理実践実習 C	定時制高校において 12 回 (事前事後指導、事前準備を含め、72 時間以上) の集団認知行動療法プログラムの実践を行う。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。また、教育領域の実習であることから、次の 2 点も目標とする。①教育現場において生じる問題及びその背景について説明できるようになる。②教育現場における心理社会的課題及必要な支援方法について説明できるようになる。	共同
	心理実践実習 D	保健・医療、教育、司法・犯罪、福祉における心理に関する支援を行う施設を 1 か所以上選択し、年間を通して個別ケースの担当による実践を行う (隔週での実習の場合は年間 20 回以上、毎週での実習の場合は年間 40 回以上、計 200 時間以上)。それにより、以下の事項について学習する。(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得：(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等。(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチのあり方およびその具体的内容の理解。(エ) 多職種連携及び地域連携のあり方およびその具体的内容の理解。(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。	共同
	法学・政治学プログラム 特別演習 I	(概要) 法学・政治学・社会学分野における研究指導に付随する関連の専門知識や専門分野を問わず多くの分野で共通して求められるセンスやスキル等を習得させ、研究指導科目を補完することを目的として行うこととする。最先端の研究や学術論文等の収集法の概説や論文抄読や討論を通して、学生自ら主体的に研究を	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>深化させる基本的な能力の習得を目指す。</p> <p>(18 江頭 大藏) 社会学分野の研究成果を主旨論文の作成に反映できるよう、文献講読や調査手法の習得など、各種の指導を行う。</p> <p>(247 永山 博之) 国際政治学及び安全保障についての研究成果を修士論文の作成に生かしていただけるように、履修者に対して研究指導を行う。</p> <p>(157 岡田 昌浩) 会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法に関する文献の講読の成果を、受講者各自の修士論文の作成に反映できるように、各種の指導を行う。</p>	
	法学・政治学プログラム 特別演習Ⅱ	<p>(概要) 法学・政治学・社会学分野における研究指導に付随する関連の専門知識や専門分野を問わず多くの分野で共通して求められるセンスやスキル等を習得させ、研究指導科目を補完することを目的として行うこととする。最先端の研究や学術論文等の収集法の概説や論文抄読や討論を通して、学生自ら主体的に研究を深化させる基本的な能力の習得を目指す。</p> <p>(18 江頭 大藏) 特別演習Ⅰの成果をふまえた上で、社会学分野の研究成果を主旨論文の作成に反映できるよう、文献講読や調査手法の習得など、各種の指導を行う。</p> <p>(247 永山 博之) 特別演習Ⅰの内容を継承して、国際政治学及び安全保障についての研究成果を修士論文の作成に生かしていただけるように、履修者に対して研究指導を行う。</p> <p>(157 岡田 昌浩) 特別演習Ⅰをふまえて、会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法に関する文献をテキストとした講義の成果を、受講者各自の修士論文の作成に反映できるように、各種の指導を行う。</p>	
	憲法理論	<p>まず、現行憲法や憲法判例にとらわれることなく、国家の基本法である憲法の基礎を原理原則に立ち戻って検討することを目指す。そのため、本講義は、憲法の保障する基本的人権の背景にある自由の原理及び国家統治の基本原則について、法哲学的アプローチや経済学的アプローチを理解できるようになることを目標とする。さらに、そうした理解をもとにして、現行憲法の解釈や判例に対する批判的視点を修得することも目指す。講義は、基本となる文献を講読し、質疑応答を中心としながらすすめていく。</p>	
	行政法理論	<p>行政法学の先行研究を精読しつつ、現在の行政法理論について考察する。精読する先行研究は「行政組織法」「行政作用法」「行政救済法」などのいずれかに限定するという事はしない。さらに行政実定法の制定や改廃の動向にも関心を寄せながら、ひろく行政の在り方を自ら法的に検討する能力を培うことを目標とする。初回授業時に参加者の研究関心や問題意識を確認した上で精読対象とする文献を選定し、その後は報告割当に沿って読み進め、併せて全体で討論を行う。</p>	
	刑事システム論	<p>刑事法上の重要論点を取り上げ、犯罪と刑罰をめぐる諸問題について、比較法的知見をも踏まえながら考察する。取り上げる論点は、刑事実体法、その中でも刑法典の犯罪に関わる解釈問題や立法論を中心としつつ、しかしそれに限らず、特別刑法上の犯罪や刑事手続法に関わる論点、さらには刑事政策上の問題をも含む。具体的なテーマは、受講学生の関心・属性等に応じてその都度決定され、授業の方法も、特定の書物を精読する、雑誌連載を輪読する、学術論文を検討する、裁判例を分析するなど、様々にありうる。このように本授業は、テーマを限定することなく広く刑事法を対象とし、犯罪と刑罰のあり方について掘り下げて検討し、意見を出し合い、知見を深めることを目的とするものである。</p>	
現代憲法論	<p>患者・障害者・子ども・外国人・女性等の権利に関する日米の憲法判例を素材に、「自立した強い個人」を主体として想定する人権理念が、「法的・経済的・社</p>	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		会的に不利な立場にある人々」が切実に求める正義の実現に、どのような役割を果たしているか（あるいは、果たしていないか）を考察する。具体的には、不利な立場の人々の人権に関わる日米の憲法判例（主として最高裁・連邦最高裁判決）や関連論文を検討する。受講者は、割り当てられた判例・文献についてレジュメを作成して報告するとともに、毎回のテーマについて事前に研究したうえで、積極的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げるテーマは、受講者の問題関心に応じて変更することがある。授業の最後にレポートの提出を求める。	
	社会変動分析論	現代日本社会の趨勢的トレンドに焦点を当て、その背景、要因、社会への影響を分析した諸論を比較検討する。特に、立論の根拠となるデータの扱いについて批判的に検討し、受講者が独自の観点から収集・加工したデータを取りまとめたレポートを作成する。まず、近年の社会変動にかんする分析視角として、再帰的近代化や個人化についての基本文献を講読する。次に、受講生各自が取り扱うテーマについて決定し、各自が選択したテーマについて文献の報告を行う。そして、文献が根拠としているデータについて批判的に検討し、レポート作成のためにどのようなデータ分析が必要か吟味し、データを収集して加工したうえで、レポートを提出する。	
	社会構造分析論	社会学の特定のテーマに沿った指定文献を講読する形式。最近3～5年間の間に刊行された日本語の文献が中心ですが、英語の文献を取り上げることもあります。その日に報告される文献には全員あらかじめ目を通し、論文執筆の練習として、できるだけ批判的に読んできておいてください。最終的には、その期のテーマに基づいて、4千字程度のレポートを作成し提出すること。報告、発言、レポート等を総合的に考慮して評価します。過去に取り上げたテーマには「児童虐待」「子どもの貧困」「特別養子縁組」「児童養護施設」「ケアの思想」「ステップファミリー」などがあります。	
	家族支援社会論	主に戦後日本の家族に関する社会学的研究を取り上げながら、家族に対する社会学的アプローチの特徴（核家族論、近代家族論、家族福祉論等）と、そこから把握される家族の諸側面（核家族化や家族の個人化、多様化）について理解を深めていく。そのうえで、現代家族をめぐる諸問題（育児や介護にみられる性別役割分業、企業や職場のあり方、「子どもの貧困」等）や、家族政策をはじめとする社会的支援の動向について検討し、現状と今後の課題について考察する。	隔年
	政治倫理論	政治と倫理の関係、政治的な事象をめぐるどのような倫理的な問題が生ずるのか、あるいは逆に倫理や道徳をめぐる議論や言説がどのような政治的意味をもつのかといった問題を検討しながら、政治とは何かについて考える。およそ政治的な問題は、具体的な状況への対応や、対象とされる事象についての理解を抜きにして論ずることは無意味である。したがって本講義は、受講者の関心に合わせて具体的なテーマや題材を選定して、適宜文献資料やテキストを検討するという形で実施する。	隔年
	政策過程論	政府(国や地方自治体)の公共政策の政策過程を分析する際に必要となる、様々な分析枠組みや理論モデルを概説する。先ず政策サイクルの五つの段階(政策課題の設定－政策作成－政策決定－政策実施－政策評価)について、それぞれの内容とそこで提起されている問題、例えば、政策課題設定における非決定権力の問題や政策実施における実施のギャップ論など、を説明する。また、それぞれの段階で、問題となる制度とアクターの行動パターンについても検討する。さらに、政策実施において政府が用いることのできる政策手段、情報・権威・資金・組織の特性と政策の特定の類型との親和性について検討する。	隔年
	日本政治論	この授業は、日本政治を考察する際に必要となる、制度やアクターについての一般的な知識の習得とともに、留学生との討論などを通じて、比較政治学的手法の理解を進めることを目指している。その際、日本の内閣、国会、行政官僚制と地方自治などの制度、政党や利益団体などの政治的アクターを順次に取り上げ、考察を進める。教科書として、Ian Neary, 2002: <i>The State and Politics in Japan</i> . (Oxford: Blackwell)を用い、主に20世紀における日本政治を理解した上で、21世紀に入ってからの変化については、担当教員から、資料を提示しつつ詳述する。なお、この講義は、英語によって行われるので、参加者には十分な英語運用能力が求められる。	
比較自治体論	高齢化の進展などの社会の変化や産業構造の変容に伴い、我が国の中央政府及	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		び地方自治体の財政状況は徐々に悪化してきている。その一方で、さまざまな社会的なリスクへの対応など地域社会で対応すべき課題も増えてきている。このように地方自治体の財政状況が悪化する中、わが国の地方自治体運営において、民主的で能率的な行政という観点がますます重要となってくる。この科目では、地方自治に関する文献を講読する形で、地方自治体を巡るさまざまな議論を検討する。指定文献の講読を通じて、比較の視点から地方自治の現状・課題を理解することを目的とする。	
	租税法	概要：この授業では租税法理論の基本的部分に当る、租税の意義、租税法関係の特色、課税要件に関する事項を中心に研究を行う。そこで、実定租税法が如何なる原理に基づいて構築され、その解釈はどうあるべきかを考えるためのベースとなる知識を獲得することが目標である。特に、租税法主義、法治国家原則、平等原則といった憲法と租税法との関係に重点を置いた現行税制に関する分析がなされる。さらには、租税法解釈論の基礎理論、租税回避の意義とその規制の可能性を検討することもなされる。	隔年
	国際租税法	概要：この授業は、国際金融、国際取引の実態を踏まえた上で、国際課税制度を理解することが重要であるとの意識のもと、参加者が、国際租税法の基礎知識を身につけると同時に、国際租税法について独自の解釈論を展開することができるようになることを目標とする。検討対象としては、国際租税法の法源、ソース・ルール、二重課税の意義、租税条約の現状と展望、移転価格税制、タックス・ヘイブン対策税制、過小資本税制等を挙げることができる。	隔年
	憲法理論演習	まず、現行憲法や憲法判例にとらわれることなく、国家の基本法である憲法の基礎を原理原則に立ち戻って考察することを目指す。そのため、本演習は、憲法の保障する基本的人権の背景にある自由の原理及び国家統治の基本原則について、法哲学的アプローチや経済学的アプローチをもちいて考察できるようになることを目標とする。さらに、そうした考察をもとにして、現行憲法の解釈や判例を批判的に検討できるようになることも目指す。演習は、学生の発表と質疑応答を中心としてすすめていく。	
	行政法理論演習	行政法学の先行研究を精読しつつ、現在の行政法理論について考察するが、行政法理論を履修していることを前提に参加者の執筆検討中である論文に引きつけて考察を深めることを狙いとする。初回授業時に参加者の研究関心や問題意識を確認した上で精読対象とする文献を選定し、その後は報告割当に沿って読み進め、併せて全体で討論を行うことを基本と考えているが、参加者の執筆中の論文内容によっては、当該執筆中論文を素材に行政法学からの検討を加えること等もあり得る。	
	刑事システム論演習	刑事法上の重要論点を取り上げ、犯罪と刑罰をめぐる諸問題について、比較法的知見をも踏まえながら考察する。取り上げる論点は、刑事実体法、その中でも刑法典の犯罪に関わる解釈問題や立法論を中心としつつ、しかしそれに限らず、特別刑法上の犯罪や刑事手続法に関わる論点、さらには刑事政策上の問題をも含む。具体的なテーマは、受講学生の関心・属性等に応じてその都度決定され、授業の方法も、特定の書物を精読する、雑誌連載を輪読する、学術論文を検討する、裁判例を分析するなど、様々にありうる。このように本授業は、テーマを限定することなく広く刑事法を対象とし、犯罪と刑罰のあり方について掘り下げて検討し、意見を出し合い、知見を深めることを目的とするものである。	
	現代憲法論演習	立憲主義と民主主義、非常事態と憲法、議院内閣制の問題状況、人権の限界など、現代憲法学の諸課題（総論、統治機構、人権）に関する主要な文献・判例を読み解くことにより、問題状況を把握し、解決の方向を模索するとともに、文献・判例の読み方、レジュメの作成法、討論の作法等を修得する。受講者は、割り当てられた文献・判例をレジュメを用いて発表し、積極的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げるテーマは、受講者の問題関心に応じて決定する。授業の最後にレポートの提出を求める。	隔年
	社会変動分析論演習	社会調査のなかでも質的調査について、代表的な研究事例の講読、一般的な方法論の学習と検討により、受講者の問題関心に即した題材を対象としたレポートを作成する。まず、質的調査の研究事例について基本文献を講読し、室的調査の有効性と限界についてイメージをつかむ。次に、内容分析、ライフストーリー分析、会話分析など、質的調査の標準的研究方法について学習し、自らの研究テ	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
法学・政治学プログラム プログラム 専門科目		マに適した手法を探る。その上で、レポート作成の具体的なテーマを検討し、研究計画を立て、レポートを作成し、提出する。	
	社会構造分析論演習	社会学を専攻する修士課程の大学院生の、各自の研究テーマに関連する文献報告と、それにもとづくディスカッションが中心です。その日に報告される文献には全員あらかじめ目を通し、論文執筆の練習として、できるだけ批判的に読んできておいてください。最終的には、自分が担当した文献に基づいて、4千字程度のレポートを作成し提出してください。報告、発言、レポート等を総合的に考慮して評価します。取り上げる文献は各自の研究テーマによって様々なものになりますが、最近では「ワーク・ライフ・バランス」「婚外子」「女子少年非行」「非行少年の家族」「社会的居場所」といったテーマを扱いました。	
	家族支援社会論演習	家族支援のあり方（当事者による支援、専門職による支援、政策的支援など）と研究方法について、関連する社会学領域の文献の検討を通して理解を深めていくことを目的とする。具体的には、社会的支援（支援活動や政策動向）に関する研究論文、ならびに、現代家族（未婚化や多様化、貧困問題等）に関する研究論文を取り上げる。受講者には授業への積極的参加（担当した論文に関する報告と討論への参加）とともに、関連するテーマを各自で設定した期末レポートの作成が求められる。	
	政治倫理論演習	政治と倫理の関係、政治的な事象をめぐってどのような倫理的な問題が生ずるのか、あるいは逆に倫理や道徳をめぐる議論や言説がどのような政治的意味をもつのかといった問題を検討しながら、政治とは何かについて考える。およそ政治的な問題は、具体的な状況への対応や、対象とされる事象についての理解を抜きにして論ずることは無意味である。したがって本演習では、受講者がそれぞれ自分の関心に合わせたテーマ、具体的な思想家や歴史上、政治上の事件・人物を選定して、関連する文献・資料を検討する。	隔年
	日本政治論演習	経済的に発達した民主制諸国において、憲法の規定する統治体制はそのままなのに、その実態的運用が「大統領制化」しているとの認識が広まっている。例えば、議院内閣制をとる国々でも、実際の政権運営としては、首相に権力が集中し、内閣の閣僚や議会、あるいは政党組織や派閥領袖の掣肘をほとんど受けることなく、あたかも首相が大統領のようにふるまう場面が増えていると指摘されている。こうした議論が日本に当てはまるか否か、この演習を通じて参加学生とともに、考えたい。そこで先ず、こうした認識の「理論枠組」を示した、T.ポグントケ/P.ウェブ編若岩崎正洋監訳『民主政治はなぜ「大統領制化」するのか』2014の第一章以下いくつかの章を検討する。次いで、日本政治に即して、そうした理論的な仮説が適応可能かどうか、検討することにした。	隔年
	比較自治体論演習	高齢化の進展などの社会の変化や産業構造の変容に伴い、我が国の中央政府及び地方自治体の財政状況は徐々に悪化してきている。その一方で、さまざまな社会的なリスクへの対応など地域社会で対応すべき課題も増えてきている。このように地方自治体の財政状況が悪化する中、わが国の地方自治体運営において、民主的で能率的な行政という観点がますます重要となってくる。この演習では、地方自治に関する文献を講読し、クラス討議などを通して地方自治体を巡るさまざまな議論を検討する。指定文献の講読を通じて、比較の視点から地方自治の現状・課題を理解し、その内容に関して受講者が表現する能力を向上させる。	隔年
	租税法演習	概要：所得税法及び法人税法の基本構造を理解し、その重要判例を素材に租税実体法の解釈論の基礎的能力を身につけることを目的とする。具体的には所得税法、法人税法の基礎理論を身につけるとともに、現実の租税法上の問題が私法取引の上に成り立っているとの認識のもと、ビジネスの上で生じる租税法上の問題解決のあり方を法解釈論の観点から学ぶことを目標とする。特に、民法・商法との関係を意識しつつ、わが国の判例研究を通じて、租税法解釈の作法を身につけることになる。検討対象としては、所得税の意義、所得概念論、所得分類論、収入金額と必要経費の意義、法人税の意義、資本等取引と損益取引との関係、益金と損金、連結納税制度、グループ法人税制、組織再編税制等が挙げられる。	隔年
国際租税法演習	概要：この授業においては、国際租税法に関連する重要判例を素材として、国際課税の場面における紛争の実態を理解し、判例研究を通じて、国際取引に係る課税問題につき予測可能性を獲得する手段・センスを身につけることを目的とする。特に取り上げる素材としては、居住地の判定に関する判例、移転価格税制に関する判例、タックス・ヘイブン税制に関する判例、国際的組織再編税制に関する判例	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		る判例、さらには諸外国の告訴租税政策の動向に関する文献の解説等を挙げる ことができる。	
	不動産法	不動産にかかわる法的問題につき、民法(財産法)を中心として理解を深めること を目標とする。この授業では、①不動産物権変動に関する諸問題(取消しと登記、 解除と登記、共同相続と登記、遺産分割と登記、取得時効と登記など)、②不動産 担保物権の諸問題(抵当権の効力の及ぶ目的の範囲、抵当権と物上代位、抵当権の 侵害に対する効力、抵当権と利用権など)等を取り扱う。この授業では、事前に各 回に取り上げる上記のような具体的なテーマを設定・周知し、受講者の個別報告・ 質疑応答を通じて、この授業で取り扱った個々の具体的問題について受講生全員 で討論を行う。	
	物件管理法	物件管理とは、多様な法的主体(自然人、法人、団体)が、物権・債権・家族 関係などに基づき、物を管理する場合を総称する。まず、このような場合をめぐ って発生する様々な法律問題及び紛争事例について、民法、関連特別法及び裁判 例による国内法的規律を分析・検討する。次に、国内法に対する理解を基礎とし て、外国法(ドイツ・韓国・中国など)との比較法的分析・検討を行い、より深 層的・専門的な知識を身につける。これらの過程を通じて、物件管理及び民法全 般に関わる各種法律問題に対する批判的思考能力及び比較法的研究能力を養う。 授業は、受講者の個別報告に対する質疑・応答とともに、受講者全員の討論で行 う。	
	契約法	日本民法における債権発生原因(契約、事務管理、不当利得及び不法行為)の 法的規律に関する理解を深めるとともに、報告や発表あるいは討論に必要な能力 等の向上を図り、修士論文の執筆等にも資することを目的とする。授業内容とし ては、契約をはじめとする債権発生原因に関する法制度についての裁判例や学術 論文等を基にした講義と学生の報告・発表・討論等を予定しているが、具体的な 日程等については、履修者の基礎知識と毎回の進捗状況等を考慮した上で決定す ることとする。	
	経営法務	商法・会社法・金融商品取引法に関する最近の事象について討論するとともに、 特に判例を読み込んで要件事実の把握とその解決方法について批判的に分析す る。さらにそこで得られた論点について解釈論や立法論を検討し、修士論文の執 筆に資することを目的とする。そのため、全講義15回を概ね4つに分け、最初の 3回程度を商法の事象・判例分析に、次の5回程度を会社法の事象・判例分析に、 次の4回分を金融商品取引法の事象・判例分析に当て、最後の3回程度において 全体の総括を行うという方法で進めることとする。なお、この回数は受講生の修 士論文のテーマにより、柔軟に対応することとしたい。	隔年
	経営法務戦略論	個々の商取引ならびに会社法・金融商品取引法に関する重要文献を読み込むと ともに、論点を考察する。その上で、論点に関連して実際に実務で行われている 事象を取り上げ、可能な限り詳細に分析・検討し、修士論文の執筆に資すること を目的とする。ここでは外国文献(英語)も検討対象とする。そのため、全講義15 回を概ね3つに分け、最初の7回程度を商取引・会社法の文献の検討に、次の5 回分を金融商品取引法の文献の検討に当て、最後の3回程度において全体の総括 を行うという方法で進めることとする。なお、この回数は受講生の修士論文のテ ーマにより、柔軟に対応することとしたい。	隔年
	企業組織法	会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法について の論文や判例などの法学文献をテキストとした対話型講義を通じ、コーポレート ガバナンスなど企業の組織に関する法の諸問題を中心として講究する。受講生の うち報告担当者は法学文献に基づき報告を行い、この報告と文献に基づいて、受 講生全員及び教員により討議を行う。こうした報告と討議を通じて、企業の組織 に関する法的専門的知識及び学際的知識を習得し、また分析の能力を向上するこ とを目標とする。これにより、企業の法的諸問題への応用を可能にする。	隔年
	企業ファイナンス法	会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法について の論文や判例などの法学文献をテキストとした対話型講義を通じ、コーポレート ファイナンスなど企業の資金調達に関する法の諸問題を中心として講究する。受 講生のうち報告担当者は法学文献に基づき報告を行い、この報告と文献に基づい て、受講生全員及び教員により討議を行う。こうした報告と討議を通じて、企業 の資金調達に関する法的専門的知識及び学際的知識を習得し、また分析の能力を 向上することを目標とする。これにより、企業法の理論を身につけ、企業の法的 諸問題への応用を可能にする。	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	民事訴訟の理論と実務	民事訴訟法を中心とした司法手続を論点とする裁判例の分析、実務的な諸問題の検討を行う。本講義では従来から重視されてきた手続法上の論点から最新の議論まで幅広く判例や文献を用いて検討する。これらを通じて、民事訴訟に関する最新の議論の状況や問題点について、大学院レベルの知識と応用力を身につけるとともに、民事訴訟の理論及び実務についての理解を深めることを目標とする。	隔年
	裁判外紛争処理論	裁判外の民事手続に関連する諸論点について、理解を深めることを目標とする。本講義では、裁判外の手続としての民事調停・家事調停をはじめとした司法型調停、個別の紛争類型を前提とした行政型調停、民間型ADRと呼ばれている民間組織が主催する紛争処理・相談手続について検討を加える。これらの検討に際しては、法社会学や司法政策といった関連する分野についても扱うこととして、多角的な観点から、紛争解決の在り方について理解を深める。	隔年
	雇用関係法	変化してやまない雇用社会では日々新たな紛争が生じてきている。そして、その紛争処理は非常に重要かつ緊急なものとなってきているし、紛争処理のための知識はワーキングライフの展開や企業運営にとって必須のものとなり、現代社会で生きる者に」とっての共通共有ともなっている。そこで、新たな判例が多く収録されている『労働判例百選 第9版』をテキストとして、雇用社会における現代的紛争とその解決、今後の雇用社会とそのルールのあり方を検討する。それを通じて現実の雇用社会における労働法ルールの実務的重要性を認識し、将来ワーキングライフを送る場合に実際に役立つ実践的な知識の習得を目指す。	隔年
	不動産法演習	本授業は、不動産法の授業とあわせて受講することにより、不動産に関わる法的問題につき、さらに理解を深めることを目標とする。この授業では、①不動産物権変動に関する諸問題、②不動産担保物権の諸問題だけでなく、不動産と関わりの深い③環境問題や④自然災害の問題も取り扱う。この授業では、事前に各回に取り上げる上記のような具体的テーマを設定・周知し、受講者の個別報告・質疑応答を通じて、この授業で取り扱った個々の具体的問題について受講生全員で討論を行う。また、環境問題や自然災害に関する問題については、近時、様々な情報・資料が入手可能であることから、それらも参考としつつ、法的問題だけでなく、それと関わりのある問題についても検討する。	
	物件管理法演習	物件管理とは、多様な法的主体（自然人、法人、団体）が、物権・債権・家族関係などに基づき、物を管理する場合を総称する。まず、このような場合をめぐって発生する様々な法律問題及び紛争事例について、民法、関連特別法及び裁判例による国内法的規律を分析・検討する。次に、国内法に対する理解を基礎として、外国法（ドイツ・韓国・中国など）との比較法的分析・検討を行い、より深層的・専門的な知識を身につける。これらの過程を通じて、物件管理及び民法全般に関わる各種法律問題に対する批判的思考能力及び比較法的研究能力を養う。授業は、受講者の個別報告に対する質疑・応答とともに、受講者全員の討論で行う。	
	契約法演習	日本民法における債権発生原因（契約、事務管理、不当利得及び不法行為）の法的規律に関する理解を深めるとともに、報告や発表あるいは討論に必要な能力等の向上を図り、修士論文の執筆等にも資することを目的とする。授業内容としては、契約をはじめとする債権発生原因に関する法制度についての裁判例や学術論文等を基にした学生の報告・発表・討論等を予定しているが、具体的な日程等については、履修者の基礎知識と毎回の進捗状況等を考慮した上で決定することとする。	
	経営法務演習	会社法・金融商品取引法に関する最近の判例について、1回の演習において、45分程度の発表と質疑応答を2回行うという方法で進める。ここでの発表内容は受講生の修士論文のテーマに沿った判例を取り上げて行うこととする。ここでは全演習15回を概ね3つに分け、最初の5回程度においてテーマの設定と関連する判例を分析・検討することとし、次の5回分ではより深くさまざまな文献にも詳細にあたって検討することとし、最後の5回程度において、それまでの分析・検討を修士論文に取りこむための作業を行う。	隔年
経営法務戦略論演習	会社法・金融商品取引法に関する重要文献や実務についてその分析・検討を、1回の演習において、45分程度の発表と質疑応答を2回行うという方法で進める。ここでの発表内容は受講生の修士論文のテーマに沿った文献を取り上げて行うこととする。ここでは全演習15回を概ね3つに分け、最初の5回程度においてテーマの設定と関連する文献や実務を分析・検討することとし、次の5回分ではより	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		深くさまざまな文献にも詳細にあたって検討することとし、最後の5回程度において、それまでの分析・検討を修士論文に取りこむための作業を行う。	
	企業組織法演習	会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法についての論文や判例などの法学文献の講読による演習を通じ、コーポレートガバナンスなど企業の組織に関する法の諸問題を中心として講究する。受講生のうち報告担当者は法学文献に基づき報告を行い、この報告と文献に基づいて、受講生全員及び教員により討議を行う。こうした報告と討議を通じて、企業の組織に関する法的専門的知識及び学際的知識を習得し、また分析の能力を向上することを目標とする。これにより、企業法の理論を身につけ、企業の法的諸問題への応用を可能にする。	隔年
	企業ファイナンス法演習	会社法、及び金融商品取引法等の関連法領域、その他企業に関する法についての論文や判例などの法学文献の講読による演習を通じ、コーポレートファイナンスなど企業の資金調達に関する法の諸問題を中心として講究する。受講生のうち報告担当者は法学文献に基づき報告を行い、この報告と文献に基づいて、受講生全員及び教員により討議を行う。こうした報告と討議を通じて、企業の資金調達に関する法的専門的知識及び学際的知識を習得し、また分析の能力を向上することを目標とする。これにより、企業法の理論を身につけ、企業の法的諸問題への応用を可能にする。	隔年
	民事訴訟の理論と実務演習	民事訴訟法を中心とした司法手続を論点とする裁判例の分析、実務的な諸問題の検討を行う。本演習では従来から重視されてきた手続法上の論点から最新の議論までを、受講者の報告や議論を基礎として検討する。これらを通じて、民事訴訟に関する最新の議論の状況や問題点について、大学院レベルの知識と応用力を身に着けるとともに、民事訴訟の理論及び実務についての理解を深めることを目標とする。	隔年
	裁判外紛争処理理論演習	裁判外の民事手続に関連する諸論点について、理解を深めることを目標とする。本演習では、裁判外の手続としての民事調停・家事調停をはじめとした司法型調停、個別の紛争類型を前提とした行政型調停、民間型ADRと呼ばれている民間組織が主催する紛争処理・相談手続について、受講者の報告や議論を基礎として検討を加える。法社会学や司法政策といった関連する分野についても扱うこととして、多角的な観点から、紛争解決の在り方について理解を深める。	隔年
	雇用関係法演習	複雑化し変化してやまない日本の労働法の姿を全体的かつ体系的に検討し、労働法に関する理解を深める。労働法は複雑多様化してきているが、この講義ではあくまで基礎を押さえつつ総合的かつ体系的に最先端の知識・判例・事項の習得を目指し、実際に雇用社会やワーキングライフで役立つ実践的な授業を行う。テキストとしてはわが国労働法の最新像をコンパクトにかつ理論的に一定のレベルを保ちつつ奥深く記述した『ベーシック労働法 第7版』を使用し、演習方式でディスカッションと議論を行いながら授業を進めていく。	
	国際法	第2次世界大戦以降急激にその規律対象を拡大した、主権国家間を規律する法としての国際法の全体像を俯瞰する。特に、現代国際法の諸特性として、法の形成、国際法と国内法の関係、国際法の主体（国際組織、個人等を含む）、国家領域を中心として扱う。国際法の各分野における重要な概念について、歴史的背景とともに現代における適用について理解することを目指す。さらに、現代における諸問題を解決に資する規範としての国際法の現実社会における適用の理解を深める。	隔年
	国際機構法	本授業科目では、国際社会の組織化の過程において形成されてきた国際機構の特徴を、法の成立形式及び国際法主体の双方から検討し、現代国際社会における国家と国際機構の基本的構造を明らかにする。また同時に、国際機構の活動が現代国際社会に大きな影響を与えている分野、特に、国連による国際紛争の平和的解決、武力行使の規制と国際安全保障、また国連以外の国際機構による国際経済活動に関する国際法と人権の国際保障についても検討する。	隔年
	国際政治経済論	グローバル化が進展する世界において、どのように国際政治と国際経済が関係しているのかを考察する。例えば、経済における国家間の相互依存関係が戦争と平和に与える影響や国際的な経済制度が国際秩序に与える影響は今後ますます重要となるトピックであり、そうした問題について基本的な国際政治経済学の理論を用いて理解する方法を講義する。まず、国際関係の基本的な理論における経済問題の意義を議論し、その後、通商・金融・環境等の各論も取り上げる。各論部分については、参加者の研究関心に応じて、論点を追加することもある。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	国際刑事政策	国際刑事政策に関する基本的文献を購読し、国際刑事政策の現状と課題について基礎的理解を深める。その内容は、国際刑事政策の概念から始まり、薬物犯罪、マネーロンダリング、電腦犯罪、組織(的)犯罪、国越犯罪、海賊、テロリズム、戦争犯罪、人道に対する罪、ジェノサイドその他の国際犯罪等、多岐に渡るが、演習科目に接続する過程として、基礎的概念の理解と解釈に重心を置いた検討を行う。さらには、刑事管轄権の基礎国際刑事法上の理論を考究し、国際刑事政策との連関を意識した総合的なアプローチを行う。	
	安全保障論	安全保障に関する基礎的な理論と、現実政治における安全保障政策の原因と結果をともに議論する。ケースとして、アメリカ、日本、中国、韓国、北朝鮮が関わる近年の問題を中心的に取り上げる。中国の台頭、北朝鮮の不安定化、アメリカの政策的立場の動揺、日本の環境適応的变化のような、各国の情勢変化に、安全保障環境がどのように影響されているかという問題を詳細に検討し、それによってもたらされるこの地域の安全保障環境の変化に特に注目する。教員と学生の相互的なプロセスで授業を進行させる。	隔年
	国際政治学	国際政治学における基礎理論、特に国際政治のパラダイムについての論争、安全保障に関連する理論と政策の関係、国内政治と外交政策の結びつきに注目して議論する。国際政治学は、国内政治とは別種のシステムではあるが、両者が相互に結びついて機能していることに常に留意しながら授業を行う。「安全保障論」との違いについては、この授業はグローバルなレベルの変化、特に覇権国、地域大国、小国を含めた国際システムを構成する要素の個別の変化と、システム全体の変化の相互作用に注目して授業を進行する。教員と学生の相互的なプロセスで授業を進行させる。	隔年
	外交論	本授業では、日本の戦前から終戦、あるいは戦後から現代までのさまざまな歴史的な外交問題、又は現代の外交問題を主なテーマとして取り上げる。日本外交をめぐる歴史的な事象、あるいは現代的な事象の複雑な内容を中心にして、それが生じた背景と理由、その結果をもたらした影響、そして歴史的かつ現代的な意義を分析、検討する。さらに日本外交を取り巻く東アジア諸国、欧米諸国などとの国際関係をも分析、検討する。最終的には、そうした歴史的、現代的な外交事象や事件の外交的・平和的解決の方法などについて、学術的、客観的に考察する。	
	国際秩序構築論	国際関係において平和と秩序がいかに関係形成されるかを論ずる。具体的には、南アジアの現代国際政治史を、その成り立ちや特殊性、構成諸国家とそれらの内政、経済発展等にも言及しながら検討し、南アジアの国際関係が、グローバルな国際関係や東アジアの国際関係、域内の諸国関係などに影響されながら、いかに秩序を形成してきたか、あるいはそれに失敗したかを検討する。また、中国を中心とする東アジア国際関係との連続性と対立を中心に、地域国際関係間の比較分析も行う。出席者は南アジア国際関係に関する文献のレビューを課される。	
	国際関係私法	国際私法(又は抵触法。以下、「抵触法」という)とは、二つ以上の(国家)法秩序に関連を有する私人間の法律関係から生じる法的問題を扱う法律ないし法分野であるが、本授業は、双方向的な講義を通じて、受講生が抵触法上の理論及び方法に関する諸論点について理解を深めることを目標とする。扱うテーマとしては、受講生の興味・関心に応じて調整を行うが、準拠法選択(外国法適用理論)、外国判決の承認執行、国際裁判管轄、国際仲裁といった、抵触法の主要事項を中心的に取り上げる予定である。	
	比較政治思想論	政治思想史上の最も重要なテーマのひとつはデモクラシーである。デモクラシーはもともと古代の政治理念であり、長期間低い評価にとどまっていたが、近現代には、ほとんど誰もがデモクラシーという言葉でそれぞれの政治体制を擁護するようになった。だが今日ではその危機が語られもしている。本授業では、政治思想史、政治理論、政治史といった観点から、このデモクラシーという概念にどのような理念が込められるようになったのか、そしてこの理念が現実政治とどういった関係を有するのかといった事柄の理解を目的とする。	隔年
	日本法概説 1	この授業は、日本法の初心者である留学生向けに、日本語で講義が行われる。『日本法への招待(第3版)』(有斐閣)を主なテキストとし、憲法、行政法、刑法、刑事訴訟法及び国際法関連の判例を精読することを通じて、日本立法、行政、司法のしくみなどを学べる。また、「憲法はまだか」「評議」などのドラマ・映画の鑑賞によって、日本国憲法の歴史背景、裁判員制度のあり方について理解を深める。さらに、広島地方裁判所での裁判傍聴によって、裁判の実況を考察する。 本講義の目標は次のとおりである。1. 法律基礎用語、法律文章を理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		2. 法律, 判例及び法学論文の検索方法を習得する。3. 日本語で判例概要の作成方法, 内容のプレゼンテーション方法を習得する。4. 比較法的研究の能力を養成する。	
	日本法概説 2	この授業は, 日本法の初心者である留学生向けに, 日本語で講義が行われる。『日本法への招待 (第 3 版)』(有斐閣) を主なテキストとし, 民法, 商法, 経済法, 民事訴訟法及び国際私法関連の判例を精読することを通じて, 日本社会・経済制度, 紛争解決のしくみなどを学べる。また, 広島弁護士会所属の弁護士らとの交流, 広島地方裁判所での裁判傍聴を通して, 法曹実務を考察する。 本講義の目標は次のとおりである。1. 法律基礎用語, 法律文章を理解する。2. 法律, 判例及び法学論文の検索方法を習得する。3. 日本語で判例概要の作成方法, 内容のプレゼンテーション方法を習得する。4. 比較法的研究の能力を養成する。	
	国際刑事法	この授業では, 現在幅広い領域を含む国際刑法における主要問題を研究する。その内容は, 国際刑事法の理論, 国際刑事法の責任と参加原則, 国際刑事法における弁護, 国家裁判権と免除, 戦争犯罪と重大な人道法違反, 人道に対する犯罪, 大量虐殺, テロリズム, 国越犯罪, 犯罪人引渡し, 国際的誘拐, 国際司法捜査共助等である。我が国のパースペクティブから他の司法権の方針及び刑事国際法の状況を検討しつつ, 国境を越える犯罪を扱う内国刑法を探究する	
	国際法演習	国際法の成立形式, 国際法の主体に関する基本的理解を前提として, 国際法の各分野と関連性を有する近年の問題を中心に取る。受講者は, 課題に関連する文献資料の購読により当該問題の全体を理解するとともに, 判例・事例などの分析が求められる。 以下のような抽象的設問を中心として検討するが, これらの設問に関連した事例, 判例, 条約などを同時に検討する。「一貫した反対国と慣習国際法の成立」, 「慣習国際法を成立させる多数国間条約の存否」, 「国際法の分権的性格と法の強制」など。	隔年
	国際機構法演習	国際法に関する基本的理解を前提として, 国際機構が国家と共に大きな役割を果たす近年の問題を中心に取る。受講者は, 課題に関連する文献資料の購読により当該問題の全体を理解するとともに, 判例・事例などの分析が求められる。 以下のような抽象的設問を中心として検討するが, これらの設問に関連した事例, 判例を同時に検討する。「安全保障理事会による「立法権」の行使」, 「国家による自衛権の行使と国連」, 「安保理による権利濫用に対するセーフガード」など。	隔年
	国際政治経済論演習	国際政治経済論に関する近年の研究に関する文献を輪読し, 議論する。授業の進め方については, 参加者の中から毎回担当を決め, 内容について報告した後で議論する形式をとる予定である。基本的な国際政治経済論の理論だけでなく, 時事的なテーマについての研究書も扱うことで, 今日のグローバル経済を理論に基づいて分析する能力も養うことを目標とする。さらに, 各参加者の研究テーマや概要報告も行うことで, そうした能力を各自の研究課題の考察に活かす方法についても検討する。	
	国際刑事政策演習	国際刑事政策に関する最新の文献を購読し, 国際刑事政策の現状と課題について理解を深める。その内容は, 国際刑事政策の概念から始まり, 薬物犯罪, マネーロンダリング, 電脳犯罪, 組織(的)犯罪, 国越犯罪, 海賊, テロリズム, 戦争犯罪, 人道に対する罪, ジェノサイドその他の国際犯罪等, 多岐に渡る。これらを踏まえつつ, わが国の国内法的対応と刑事政策についても考究する。さらに, 国際刑事法全体の視点から, 実体法及び手続法を点検する他, 国際人道法上の見地からも国際刑事政策を相対化し, 多角的な検討を行える能力の涵養を目指す。	
	安全保障論演習	安全保障の主要トピックを取り上げて, 特定のテーマについて文献を輪読する。文献は, 近年の中国の台頭や北朝鮮核問題に関するものを中心に幅広い分野をカバーする本を取り上げる。また, 各国の国内政治とそれが対外政策にもたらす影響に特に注目する。安全保障政策は, 単に他国の政策に対する合理的反応ではなく, それ自身が国内政治や指導者, 権力集団の信念や感情の産物でもあることに注意して授業を行う。単に文献の内容を理解するだけでなく, 文献を材料として使いながら, 安全保障の主要問題についての理解を深めていくことをめざす。	隔年
	国際政治学演習	国際政治学の主要トピックを取り上げて, 特定のテーマについて文献を輪読する。国際政治と比較政治を架橋するような分野の文献を中心に取る	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		とする。グローバルな問題が、各国の国内政治や、経済社会的変化とどのように相互作用を行いながら、「国際政治」という場に現れているかという視点を特に強調する。単に文献の内容を理解するだけでなく、文献を材料として使いながら、国際政治学の主要問題についての理解を深めていくことをめざす。受講者の積極的な参加を期待する。	
	外交論演習	本授業では、戦前から戦後、さらには現代にいたるまでの日本の歴史的又は現代的な外交問題とそれを取り巻く東アジア、欧米諸国をはじめとする国際関係についてのテーマの下で、受講者が発表を行うと同時に、参加者全員が積極的に質疑応答などによる検討を行い、学術的、客観的な考察を深めてゆく。 特に、受講者の学生が、この演習で発表や論文執筆の方法などを学ぶことによって、自らの修士論文の作成に繋げてゆくことを目標とする。	
	国際秩序構築論演習	冷戦の終焉や、非欧米の新たな勢力の政治的台頭の一方、経済的にはますますグローバル化が進むことによって、国際関係は、多極化という言葉でも説明できないほどに複雑化している。国際政治におけるそのような現状を踏まえて、本授業では、「混沌の中の国際秩序」をどのようにとらえ、分析するべきか、を課題として、最新の文献のレビューを通じて、国際政治および国際政治経済に関するより深い理解を追求する。共通の文献の研究に加え、出席者は主題に関連する論文を自ら探求してレビューすることが求められる。	
	国際関係私法演習	国際私法（又は抵触法。以下、「抵触法」という）とは、二つ以上の（国家）法秩序に関連を有する私人間の法律関係から生じる法的問題を扱う法律ないし法分野であるが、本授業（演習形式）は、受講生が抵触法上の理論及び方法に関する諸論点について理解を深めることを目標とする。具体的には、受講者の興味や関心、抵触法に関する知識の程度、語学（日本語・英語等）能力に応じて、テーマを決定し、抵触法一般に関する古典的文献又は近時の文献の講読や、抵触法上の重要論点に関する受講者による報告及び全体での討論、抵触法に関する我が国の最新判例研究（+抵触法に関する諸外国の重要最新判例研究）等を行なう。	
	比較政治思想論演習	他の様々な分野と同じく、政治思想史においても、解釈と方法は切り離しがたく結びついている。大学院レベルでは、この政治思想史の方法に関する一定の理解も必要である。本授業では、政治思想史の方法に関する文献や、特定の対象（たとえばホップズの『リヴァイアサン』）についての異なった方法論的立場から書かれた論文や著作を読解する。こうした理論面での検討と実際になされた解釈の比較を通じて、参加者各人が、方法に意識的な形で政治思想のテキスト分析ができるようになることを目標とする。	隔年
	医療と人権	近年、医療の様々な場面で、人権の観点から問い直しが行なわれるようになってきている。侵襲的な医療行為に対するインフォームド・コンセントの要求、医療情報をめぐるプライバシーの保護、生と死に関する自己決定権の保障等々。このような問題のそれぞれについて、関連する判例や法学文献を検討することにより、適正な医療のあり方を探る。具体的には、医療と人権が交錯する様々な局面について、法学文献や日米の関連判例を検討する。受講者は、割り当てられた判例・文献についてレジюмеを作成して報告するとともに、毎回のテーマについて事前に研究したうえで、積極的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げるテーマは、受講者の問題関心に応じて変更することがある。授業の最後にレポートの提出を求める。	隔年
	医事法制度論	この授業では、医事法制度論の基礎として、ドイツにおける医事刑法のトピックの中から、とりわけ、医療過誤の問題について検討する。とりわけ、犯罪構成の見地から、近時注目されている、「仮定的同意論」について、わが国でも意欲的な論文が多数公刊されており、これらの深い分析も行いながら、日独理論の比較法的検討を行う。さらには、イタリアの精神医療改革に学び、触法精神障害者の処遇の在り方を比較法的に考察し、それを踏まえて、わが国の刑事司法と精神鑑定の現状と課題の検討に発展させていく。	隔年
	医事刑法論	医療分野における刑法の意義・役割を、とりわけ刑事実体法上の観点から検討する。授業内容についてそれ以上に限定はなく、具体的なテーマは受講学生の関心・属性に応じてその都度決定されるが、主要な論点として、医療行為における患者の同意の意義と限界、医療事故における過失判断や過失共犯の肯否、終末期医療に対する刑法の関わり、臓器移植法をめぐる諸問題などが想定される。本授業は、こうした諸問題について、特定の書物を精読する、雑誌連載を輪読する、学術論文を検討する、裁判例を精査するなどの方法により考察し、医療上の諸問	隔年







科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目		<p>(167 増澤 拓也)</p> <p>特別研究での指導の更なる発展と強化のために、数理経済学およびゲーム理論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。基本的な論文を、理論的な問題意識を持ちながら正確に読む訓練をする。</p>	
	経済学プログラム特別演習Ⅱ	<p>(概要) 経済学プログラム特別演習Ⅱは、特別研究の補助的な演習である。特別研究の主目的である修士論文指導を、経済学プログラム特別演習Ⅰ及び経済学プログラム特別演習Ⅱで補う。具体的には、経済学プログラム特別演習Ⅱでは、特別研究の授業概要に記述されている研究指導目標のうち、現実の経済問題分析に必要な応用能力の習得について、更なる発展と強化を目指す。</p> <p>(64 瀧 敦弘)</p> <p>経済学プログラム特別演習Ⅰにおいて、各自で設定した課題について、理論分析、データや資料に基づく実証分析についての指導をおこなう。</p> <p>(49 千田 隆)</p> <p>特別研究での指導の更なる発展と強化のために、金融論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は現実的な金融政策の効果を分析することであり、そのために計量経済学の本を講読する。</p> <p>(84 山田 宏)</p> <p>特別研究での指導の更なる発展と強化のために、計量経済分析手法の開発・評価もしくは応用を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。研究テーマに関して、(計量経済学の分野に限らない広い分野における)最先端の研究動向の把握とそうした研究内容への深い理解を踏まえた競争力のある研究論文を作成するために必要な事項を扱う。</p> <p>(85 早川 和彦)</p> <p>特別研究での指導の更なる発展と強化のために、計量経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、自分自身で、理論的な分析と数値実験ができるようになることである。</p> <p>(86 西埜 晴久)</p> <p>計量分析の手法の開発及びその応用を行う。そのために主として海外に標準的なテキストブック及び英語文献を読み解き、理解する能力を涵養する。合わせてデータ分析及びシミュレーション研究のためのプログラミングの能力を培うことを目指す。</p> <p>(87 二村 博司)</p> <p>特別研究での指導の更なる発展と強化のために、財政学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は現実的な財政政策の効果を分析するために、各自パソコンを用いて、財政政策の効果の数量分析を行うことである。</p> <p>(20 大澤 俊一)</p> <p>学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は現実のさまざまな経済政策の効果を、経済学的手法を用いて分析することと英語の論文を読む力を養うことである。</p> <p>(21 大内田 康徳)</p>	



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>券市場に関する実証分析を行うことである。</p> <p>(112 大河内 治) 特別研究での指導の更なる発展と強化のために、ゲーム理論を応用する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は現実的な経済政策・制度設計の効果を分析するために、理論の妥当性、限界を意識しつつ、有効な政策的な含意を導き出すことである。</p> <p>(120 折登 由希子) 経済情報分析を研究テーマとする学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。経済学分野における最適化問題へ適用する最適化手法アルゴリズムの実装を行う。</p> <p>(39 角谷 快彦) 特別研究での指導の更なる発展と強化のために、医療経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は現実的な実証分析を行うために、各自統計分析ソフトを用いて、データ分析を行うことである。</p> <p>(105 佐野 浩一郎) 特別研究での指導の更なる発展と強化のために、公共経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、最新の関連文献のサーベイを行なうことで当該分野に関する知識を深め、論文執筆能力を高めることである。</p> <p>(167 増澤 拓也) 特別研究での指導の更なる発展と強化のために、数理経済学およびゲーム理論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は理論的に有意義な問題の定式化とその解決を、正確に行うことである。</p>	
	応用ファイナンス	<p>応用ファイナンスで取り扱う主要項目は、(1)キャッシュフロー・モデル又は無裁定条件から、株式、債券、為替レート、金融派生商品(先物、オプション、スワップなど)の適正価格を導き分析する。(2)金融資産のリスクとリターンとの関係を考察し、また資本資産評価モデル(CAPM)の基本事項を紹介する。講義ではこれら理論の応用方法も説明する。さらに世界の金融市場で実際に起きた事象をファイナンス理論との兼ね合いを考え紹介する。</p>	
	理論ファイナンス	<p>企業の資金調達の場合である資本市場の構造と機能、及び企業の資金調達手法の基礎と経営戦略が経営リスクに及ぼす影響を学ぶ。本講義が対象とする範囲は、資金提供者である投資家の行動を分析する「投資理論」と、資金調達者としての企業行動を分析する「コーポレート・ファイナンス」の一部である。特に、ファイナンス分野の基本的理論構造(ポートフォリオ理論、資産価格付理論、投資理論)とそこで用いられる金融技術(デリバティブズ、財務戦略)を理解することにより、企業経営上遭遇する不確実性・リスクに対する効率的で合理的な意思決定とは何かを学ぶ。</p>	
	金融資本市場分析	<p>証券市場における資産価格に関する基礎理論とその実証分析について学び、理論モデルの理解と実証分析手法の理解、習得を主たる目的とする。具体的には、資本資産評価モデル、裁定価格理論、消費資産価格モデルについて理論的な解説を行い、これらのモデルを対象とした古典的な実証研究論文を概観する。また、証券市場に関する最近の研究テーマの紹介や、イベントスタディなどの分析手法、実証分析におけるデータの扱いなどについても広く解説する。</p>	
	経済数学	<p>線型代数と微分の基礎概念を理解し、最適化問題の解法に必要な基礎知識を確立することを目標とし、以下の内容について簡単なケースからより一般的なケースへと、厳密な証明を重視して解説します。</p> <p>ベクトル・内積・行列、余因子と余因子展開、逆行列の公式、クラメルの公式、固有値・固有ベクトル、2次形式、極限・近傍・連続性・微分商・微分可能性、各種の微分公式、ロールの定理、平均値の定理、テイラーの定理と展開、全微分</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	経済学 プログラム	と方向微分係数、極値の必要・十分条件、ヘッセ行列、陰関数定理、ラグランジュ乗数法、関数の独立性と従属性、関数行列、関数行列式等。		
		日本銀行連携講義 1	<p>(概要) 金融制度の基礎及び金融理論の基礎を踏まえ、わが国の決済システムや中央銀行のオペレーションに関連する業務を中心に解説し、実務的視点から金融システムの全体像とその機能、及び金融政策の意義についての理解を深めることを目的とする。本講義では特に、現金通貨の発行・流通・管理、決済システムの概要とその機能、金融政策と金融調節、関連統計の理解を中心的テーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(48 鈴木 喜久/7 回) 相対型金融と市場型金融、経済の発展段階と金融市場、長短金融市場と市場参加者の概要、リスクと金融資産価値、金利の期間構造、信用リスクの評価、派生証券市場の概要</p> <p>(315 濱田 秀夫/4 回) 中央銀行の組織と運営、決済手段、わが国の決済システムの概要、金融政策と金融調節の概要</p> <p>(314 加賀山 敏郎/4 回) 日本銀行の機能、日本銀行の業務、日本銀行券の発行・流通・管理、金融市場のモニタリング</p>	隔年・オムニバス方式
		日本銀行連携講義 2	<p>(概要) 金融制度の基礎及び金融理論の基礎を踏まえ、わが国の決済システムや中央銀行のオペレーションに関連する業務を中心に解説し、実務的視点から金融システムの全体像とその機能、及び金融政策の意義についての理解を深めることを目的とする。本講義では特に、金融システムの安定確保、マクロ・ブルーデンス、オフサイト・モニタリング、国際業務、関連統計の理解を中心的テーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(48 鈴木 喜久/7 回) マクロ経済モデルと金融政策、開放マクロ経済モデル、国際金融市場の概要、国際資本移動の現状、コルレスバンクの機能、金融の証券化、金融統計の活用</p> <p>(315 濱田 秀夫/4 回) 金融システムの安定確保、考査とオフサイト・モニタリングの概要、マクロ・ブルーデンス、国際業務</p> <p>(314 加賀山 敏郎/4 回) 統計の作成・調査・公表、国庫金に関する業務、国債等に関する業務、政府の資金繰りに関する業務</p>	隔年・オムニバス方式
金融庁連携講義 1	<p>(概要) 金融制度の基礎及び金融理論の基礎を踏まえ、金融行政、特に主要行・地域金融機関等の預金取扱金融機関に対する監督・検査行政につき、基本的な枠組み・考え方とともに、最近の国際的な金融規制改革の動向について講義を行う。本講義では特に、金融検査監督の基本方針、金融行政方針の理解を中心的テーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(316 堀本 善雄・48 鈴木 喜久/6 回) (共同) 金融検査監督の基本方針、金融行政方針、国際金融規制改革、マネーロンダリング対策について、金融インフラ支援、金融機関の破綻処理制度</p> <p>(317 日下 智晴・48 鈴木 喜久/9 回) (共同) 金融行政の現状と課題、金融庁ディスカッションペーパーについて、デジタル化の進展と新たな金融手法について、金融レポート、償却・引当について、有価</p>	隔年・共同・オムニバス方式		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		証券運用業に掛かるモニタリング、証券市場を巡る諸問題、金融庁の重点施策、金融システムの安定確保	
	金融庁連携講義 2	<p>(概要) 金融制度の基礎及び金融理論の基礎を踏まえ、金融行政、特に主要行・地域金融機関等の預金取扱金融機関に対する監督・検査行政につき、基本的な枠組み・考え方とともに、最近の国際的な金融規制改革の動向について講義を行う。本講義では特に、地方創生に果たす地域金融機関の役割、金融機関の経営管理、金融資本市場の活性化に関する理解を中心的テーマとする。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(316 堀本 善雄・48 鈴木 喜久/6 回) (共同) 金融機関の経営管理、金融資本市場活性化に向けた取り組み、地域金融機関の戦略、地域金融機関のガバナンス、統合的リスク管理、新たな自己資本比率規制</p> <p>(317 日下 智晴・48 鈴木 喜久/9 回) (共同) 地域密着型金融の歴史、金融法制、中小企業等の状況について、地方創生と地域金融機関、地方自治体による地方創生に向けた取り組み、地域金融機関を取り巻く環境変化、事業性評価、顧客本位の業務運営の考え方、財務局における金融行政</p>	隔年・共同・オムニバス方式
	日本政策投資銀行連携講義 1	本講義は、株式会社日本政策投資銀行（全額政府出資）の業務のうち、主に「投資」に関する同行の取り組みについて解説を行う。具体的には、同行が実施する成長マネー（資本性資金・メザニン等）供給のケース・スタディなどを通して、国内企業の競争力強化が直面している課題を理解する。合わせて、病院経営や空港など個別プロジェクトの業界事情やコンテンツ・ツーリズムなど最新の地域活性化についても知見を深めることを目的とする。	隔年
	日本政策投資銀行連携講義 2	本講義は、株式会社日本政策投資銀行（全額政府出資）の業務のうち、主に「融資」に関する同行の取り組みについて解説を行う。具体的には、環境格付融資、防災格付融資、健康格付融資からなる同行の評価型融資や、グリーンボンド（サステナビリティボンド）発行の仕組みについて理解する。この他、パリ協定や持続可能な開発目標（SDGs）が採択された現代で求められる「責任ある金融」や企業の社会的責任（CSR）について考察を進めていく。	隔年
	マクロ経済学	本講義では、まずマクロ経済を描写する主要な理論モデルである、ソローモデル、世代重複モデル、代表的個人モデルの習得を目指す。必要に応じて動学モデルの分析に必要な数学の講義も行う。次に経済成長に必要な要素やメカニズムを、理論モデル習得を通じて学ぶ。最後にこれらモデルを用いて、政府支出や税制、社会保障制度のマクロ経済に与える影響を分析する。また時間があれば、各国の長期間の時系列データを用いて、人口成長と経済成長の関係を概観する。また現代の先進国が直面する少子高齢化がマクロ経済に与える影響を理論、実証両面から分析する。	
	ミクロ経済学	経済メカニズムについての基本的な事項を理解するために、授業では、効用関数、予算制約式と無差別曲線、所得効果と代替効果、競争均衡、労働供給、貯蓄行動、不確実性と期待効用、保険の理論、モラルハザード、レモンの理論、シグナリング、MM 定理などのトピックからいくつかを取り上げて解説する予定である。さらに、発展的なトピックとして、不確実性の経済モデルへの導入方法、また、期待効用モデルと最適資産選択理論・資産価格決定理論との関係等についても可能な限り取り上げる予定である。	
	マクロ金融分析	金融政策に関する理論、特に流動性の罫やゼロ金利政策の基礎的な理論を講義する。具体的には、(1) 流動性の罫の存在を、ミクロ経済学的基础付けのあるニューケインジアン・モデルを用いて説明すること、(2) 名目金利がゼロという下限にあるときに、金融政策や財政政策がどの程度有効かを検討することである。名目金利が下限のゼロにあるとき、金融政策は期待に影響を与えることが重要であること、そして、拡張的な財政政策は有効ではあるが公的債務増大の問題があることを解説する。	
	計量経済学 1	コンピュータ及びソフトウェアの発達により高度な計量経済分析は大変身近なものになった。そうした高度な計量経済分析手法をよく理解して使用するには、行列を使った基礎的な回帰分析理論に対する深い理解が欠かせない。行列プログラミングはそうした事項を深く理解し応用するうえで有用である。この講義では、	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		計量経済分析の基礎である回帰分析理論を中心に講義する。具体的な講義内容は次の通りである：(1) 行列代数, (2) 確率ベクトル, (3) 行列プログラミング, (4) 重回帰モデルの推定と検定。	
	計量経済学 2	計量経済学の基礎的な内容について講義する。最初に、準備として、線形代数の復習を行い、また、大数の法則や中心極限定理など、計量経済学の理論分析に必要な漸近理論の基礎的な結果も紹介する。その後、最小二乗推定量、2段階最小二乗推定量、一般化モーメント法推定量、最尤推定量の各推定量の理論的な性質を説明する。最後に、パネルデータ分析の基礎について説明する。時間があれば、Eviewsの演習やMatlabを用いたプログラミングについても講義する。	
	経済統計分析	現実の経済・金融データを分析することを念頭に最尤法などの基礎理論及び一般化線形モデルといった各種の計量モデルの習得を行う。さらには、マルコフ連鎖モンテカルロ法などの計算機インテンシブな計量手法の修得をも視野に入れる。 その際には、海外の標準的なテキストブック及び学術論文を参照し、理解できることを目指す。そして、実際の経済・金融データを用いた応用が行えるようにする。データ分析にあたっては、Ox言語を用いたプログラムの作成を行うことと。また、Oxプログラミングによってシミュレーション実験も行えることを目指したい。	
	経済時系列分析	この授業の目標は、経済時系列ないしは時系列分析に基づく計量経済学の基礎理論を修得し、経済の実証への応用力を養成することにある。授業では、まず、回帰分析を中心とする計量経済学の基礎理論を講義する。同時に、パソコン実習に基づいて、実証分析や数値分析にとって必要な計測手法を修得する。次に、回帰分析における系列相関の問題からはじまって、伝統的計量経済学に新たな視点を与えた単位根や共和分等の経済時系列分析におけるいくつかのトピックを取り上げ、理論的側面の講義とともに、現実の経済時系列データを用いての実証分析を行う。	
	労働市場分析	現代の経済システムを学ぶ上では、労働市場についての理解が不可欠である。その理解のために、ミクロ経済学をベースとする労働市場のメカニズム、マクロ経済への関連や経済成長との関係などの理論的な側面。労働市場に関するデータについての理解とそれらの分析方法、そして、労働市場を規定する法律や制度に関する経済学的な考察などを講義する。さらに、労働市場の実態や労働市場をとりまく時事問題などを、必要に応じて、講義する。	
	財政学	財政学について学ぶ。方法としては、マクロ経済学の理論を応用する。近年におけるマクロ経済学分析の2つの主要な課題は(i)ミクロ経済学的基礎の構築と、(ii)マクロ変数の時系列的・動学的性質（ビジネスサイクル、及び経済成長）の解明である。即ちミクロ経済主体の最適化行動が、市場における集計を通じて、一般均衡動学システムとして表される過程、及びこのようなシステムが持つ定常的・定量的性質を分析することである。このような理論的枠組みの中で、財政政策の効果を、実証的・規範的に分析する。	
	経済戦略論	戦略の科学であるゲーム理論は経済学のみならずさまざまな分野で応用されている。本講義ではそのことを念頭に、ゲーム理論の諸概念、基礎理論を習得し、規範的、実証的分析を応用分野でできるようなることを目標とする。ゲームの概念、定式化から始まり、静学的、動学的なゲームやその均衡概念を説明し、各分野への応用モデルの分析、不完備情報のゲーム、契約の理論、メカニズムデザインなどの発展分野のトピックスについての講義をする。	
	地方財政論	地方公共財の供給、地方税、国から地方政府への補助金についての、歴史、制度、理論、政策を学ぶが、中心となるのはミクロ経済学を応用した理論分析である。特に地方公共財の最適供給、最適補助金率、財政競争の理論について紹介する。公共財の最適供給理論としては、サムエルソン・ルール、リンダール・メカニズム、公共財の私的供給、中位投票者理論、足による投票理論（チブーモデル）、最適補助金の理論としては、ボードウエイやオガワの理論を説明する。財政競争理論としては、ゾドロウ・ミツコブスキのモデルなどを紹介する。	
	経済情報分析	経済学分野において、現実社会で話題となっているいくつかの制約付き最適化問題を取り上げ、最適解導出の困難さを問題クラス別に学習する。また、情報分析技術として適用可能な最適化手法（1. 単体法や分枝限定法などの数理解析的手法、2. メタヒューリスティクス：遺伝的アルゴリズム、分布推定アルゴリズム、差分進化法などの確率的探索手法）の数学的基礎を学習する。これらの最適	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		化手法に対して、プログラミングを通じた論理的思考を習得する。	
	公共経済学	この講義では上級レベルの公共経済学を理論的に学ぶ。公共財や外部効果など市場の失敗、協調の失敗、コミットメント問題などに関して、どのような問題が生じるのか、政府はどのように対応すべきなのかを数理モデルを使って解説する。特に重視するのは、近年発展してきた政治経済学的な考え方である。政府を構成する政治家や役人が直面するインセンティブや、そのようなインセンティブが政策決定に与える影響について考察する。海外のテキストを使うことで最新のトピックに触れる機会を提供する。	
	医療経済学	医療経済学に関心を持つ学生を対象に演習形式での講義を行う。医療経済学の主要テーマを概観し、論文の読み方、論文作成手法及び実証研究に必要な統計解析ソフトを用いたデータ分析方法の基礎知識を身につけることを目標とする。受講生は講義終了後までに、1) 実証研究の基礎知識の獲得及び2) 小規模な研究プロジェクトの実施の経験を得ることができる。講義は、インタラクティブに行うので、受講生の積極的な講義参加が求められる。	
	公共政策論	政府の政策や規制の在り方を中心テーマにした講義を行う。特に、不完全競争市場における競争政策、そして混合市場における公企業の在り方を中心に講義する。また、マイクロ経済学やゲーム理論の基礎を応用しつつ、以下の8項目の基礎を理解することを目標とする。(1)競争政策の必要性和仕組み(2)戦略的相互依存関係の下での寡占企業の行動原理と不正競争への対応(3)企業結合と独占度(4)イノベーションと知的財産権、そして国際化対応(5)混合市場と公企業の特徴(6)公企業民営化の必要性(7)公企業部分民営化が社会厚生に与える効果。	
	国際公共政策	本講義は大学院レベルの公共政策に関する基礎理論を理解・習得することを目的とし、マイクロ経済学及びゲーム理論を用いた市場の失敗への応用分析(公共財の自発的供給、地球温暖化問題、共有資源問題、租税競争など)について基礎的な解説を行う。一国の政策が社会やグローバル経済にどのような効果を及ぼし得るか、また、経済学的な処方箋がどのように現実の経済・社会問題に適用できるかについて、最新の研究動向も交えて議論する。	
	応用国際公共政策	国際経済現象に対して計算社会科学(Computational Social Science)などの分析手法を導入した議論を展開します。具体的には、(1)国際貿易ネットワークの構造特性とその生成メカニズムの数理、(2)高頻度取引(High-Frequency Trading: HFT)データ解析による外国為替レートの分布特性とその生成メカニズムの数理、(3)こうした実証科学に基づく知見と従来の国際経済学との理論的な比較検討、などを予定しています。	
	開放マクロ経済学	本科目では、マクロ経済学の基礎知識をもとに、短期モデル、中期モデル、長期モデルの区別を考慮して、開放マクロ経済モデルの動学的な振る舞いを理論的に理解することを主たる目的とする。さらに、伝統的な国際金融論の主たるテーマである為替レートの決定理論も学習する。以上の知識を基礎として、ある国の経済政策(特に金融政策)が、為替レートの変化を通じて国際貿易や他国のマクロ経済に与える影響について、マクロ動学モデルに基づき、理論的に考察していくことにする。	
	欧米経済史1	本講義では、なぜヨーロッパで世界史上最初に産業革命が起きたのかという問題について、この問いに取り組んだ古典であるM.ウエーバーの著作とならんで、近年のグローバル・ヒストリーの成果を批判的に吟味し、検討する。輪読文献は、以下の通りである。 ・マックス・ヴェーバー(大塚久雄訳)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波書店、1989年。 ・R.C.アレン(眞嶋史叙・中野忠・安元稔・湯沢威訳)『世界史のなかの産業革命資源・人的資本・グローバル経済』名古屋大学出版会、2017年。 ・K.ポメラント(川北稔監訳)『大分岐 中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015年。 ・C.A.ベイリ(平田雅博・吉田正広・細川道久訳)『近代世界の誕生 グローバルな連関と比較 1780-1914』名古屋大学出版会、2018年。	隔年
欧米経済史2	本講義では、ヨーロッパの産業革命とその後の工業化過程で自営業・中小経営が果たした役割を、農業、家族経済、労働市場との関連に留意して把握する。本年度の輪読文献は、差し当たり以下の通りである。 ・斎藤修『比較経済発展論 歴史的アプローチ』岩波書店、2008年。 ・E・トッド(石崎晴己訳)『新ヨーロッパ大全I』藤原書店、1992年。	隔年	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		・若尾裕司『近代ドイツの結婚と家族』名古屋大学出版会、1996年。	
	政治経済学1	この授業では、資本主義経済の歴史的な発展段階を考察し、現在の資本主義の特徴と問題点を検討する。資本主義は人類の歴史に登場して以来、その姿を変化させながら今日まで存在してきた。現在の資本主義を知るためには過去の資本主義を理解する必要がある。資本主義が発展してきた歴史的段階に対応して、これまでいくつかの資本主義のタイプが存在した。それぞれの発展期にはその時代に特有な安定した資本主義の構造が見られた。その構造の中では特定の国がリーダーシップをとって他の資本主義国に影響を与え、世界的な資本主義の編成が生み出された。資本主義の発展期とその間の転換期には、それぞれに特徴的な安定性と不安定性がある。この特徴を抽出することによって、資本主義の変化を示すことができる。資本主義の現在の状況と将来の動向を考えるためには、資本主義の過去の発展期と転換期を分析する必要がある。この授業ではそれらを展開し論じる。	隔年
	政治経済学2	この授業では、資本主義経済の構造を理論的に分析し、それによって資本主義の一般的な安定性や不安定性を考察する。そこでは、市場経済の要素とそれによって形成される商品経済的機構によって構成される純粋資本主義を論じる。この基礎理論では、流通市場の形態や生産実体の編成、信用制度や株式会社の機構などを考察し、資本主義の一般規定を明らかにする。そこで展開される純粋資本主義は現実の資本主義世界とは異なるが、その異なる部分が複数ある資本主義のタイプを決定する。それぞれのタイプの特性を分析するためにも、純粋な資本主義を展開する必要がある。したがって、この授業では資本主義経済に内在する安定性や不安定性を明らかにし、複数の資本主義を分析する基準となる基礎理論を考察する。	隔年
	経済学史1	資本主義的市場経済を対象として発展してきた過去の諸学説を学ぶ。具体的には、通史的な経済学史のテキストを輪読しながら、主要経済学説の理論的・方法的特徴を理解することに努める。そのさい、現代経済学の諸学派が古典派経済学のどのような問題を乗り越えようとして形成されたのか、という問題に焦点を当てる。それによって、現代までの経済学の歴史の流れを広い視野から把握し、現代経済学の歴史的な位置を理解することが、この授業の目標である。	隔年
	経済学史2	経済学の歴史を通して発展してきた資本主義的市場経済の基礎理論について学ぶ。すなわち、まず商品・貨幣・資本によって構成される市場そのものがどのような仕組みをもっているのかを考察したうえで、資本主義にも他の諸社会にも共通する社会的再生産とは何かを解明し、市場によって社会的再生産を編成する資本主義経済の構造と動態を解明する。さらにそうした資本主義の基礎理論を用いると、資本主義経済の歴史的発展をどのように理解することができるのかについても考察する。	隔年
	エネルギー政策論	本講義では、エネルギー問題を分析するために必要な概念や枠組み、特に政策の企画立案当局の視点から解説し、エネルギー問題に対する受講者の理解を深めることを目指す。エネルギーを巡る諸問題に関して、できるだけ実際の報道や解説等に触れながら、(i)国際的かつできるだけ広い観点から、関連する歴史や将来の展望などを踏まえてその捉え方や構造を分析し、エネルギーに関する基礎的知識を得るとともに、(ii)基礎となる枠組みや視点について検討することでエネルギー政策についての理解を図る。同時に、エネルギー政策に関し、国際機関や国際会議等の交渉の現場でどのように合意が形成されるのか、交渉官としてどのような能力や経験が必要とされるのかといった問題にも言及したい。エネルギー問題を分析するために必要な概念や枠組み、特に政策の企画立案当局の視点からのものを解説し、エネルギー問題に対する受講者の理解を深めることを目指す。	
	経済学特講	英国・現代奴隷法や金融安定理事会タスクフォース (TCFD) によって、非財務情報の開示強化を求める動きが世界的に広がっている。本講義では、多義的な CSR 活動の類型整理を行うと同時に、CSR 指標のような非財務情報が企業価値に及ぼす効果やその決定要因に関する実証分析を解説して、無形資産分析の理解向上につなげる。決定要因分析では、コーポレート・ガバナンスなど分野横断的なテーマもフォローする予定。実証分析の輪読では、ディスカッションなど学生の積極的な参画も求めていく。	
リサーチ・リテラシー	(概要) マネジメントをめぐる諸課題について深く追究し、修士論文もしくは課題研究にまとめる上で必要となる論理的思考力と分析力の醸成を目的とする。講	オムニバス方式	



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		的市場の設定、製品政策、ブランド政策、流通政策までの関連トピックスを幅広く採り上げて討論する。市場戦略の表面現象ではなく、その背後にあるロジックの理解を通じて、市場戦略の策定、分析と応用能力を涵養する。	
	サービス経営論	社会経済のサービス化が進むなか、サービス業はともかく、製造業でさえサービスの意義と機能、およびサービスの発想に関する理解が求められている。本講義では、国内外の最新テキストや論説を題材にして、サービス特性、サービスギャップ、サービススケープといった主要概念の解説と、サービス生産性、製造業のサービス化、サービスドミナットロジックといったサービス固有の論理の討論を行う。これを通して、サービスへの理解を深め、サービス現象の分析や新たな問いかけと理論的發展を考える能力を涵養する。	
	経営組織論	欧米の多くの大学院で採用されているテキストの枠組みに沿って、包括的かつ体系的に組織マネジメントに関する用語・知識を身につけることを目的とする。官・民・学校・非営利団体の区別をすることなく組織現象を冷静に観察、分析、理解でき、かつ、組織マネジメントの標準用語・知識を <i>lingua franca</i> の英語で習得することを目指す。シリコンバレーに拠点を置き、柔軟な職場環境を提供し、創造性を発揮する IT・AI 企業と従来の日本型組織との比較分析も行う。	
	CSR 論	CSR (Corporate Social Responsibility) に関する基本的かつ派生的概念・用語の理解と実践を促すとともに、グローバル・スタンダードで最新の話題まで網羅することを目的とする。CSR は、通常、「企業の社会的責任」と訳され、日本では約 25 年前に欧米から取り入れられた概念である。しかしながら、かつて優良企業と呼ばれた企業が不祥事を起こし、実際には社会的責任を果たせないケースが目立つ。したがって、不祥事の防止、コンプライアンス、コーポレート・アポロジヤ(謝罪)、信用回復という実践的トピックも含む。	
	マーケティング論	マーケティング論とは、企業の市場に対するアプローチを理論化したものである。本講義では、マーケティング論の学びを通じて、次の二つの学習目標の達成を目指す。一つ目は、市場と企業組織の行動における概念及び諸理論に関する内容を理解すること。そして、二つ目は、学んだ諸理論に基づき、現代の市場の動向や企業行動に関する問題を分析することである。	
	国際マーケティング戦略論	本講義では、国際市場環境や国際マーケティング戦略論の学習を通じて、次の学習目標の達成を目指す。一つ目は、国際市場での企業戦略や消費者行動に関する概念及び諸理論を理解すること。そして、二つ目は、理解した国際マーケティングに関する諸理論に基づき、現代の海外市場での企業活動やグローバル消費のトレンドに関する諸問題を分析することである。	
	経営管理論	本講義では、代表的なマネジメント理論について、理論と実証の両面から理解することを目的とする。主な内容は多岐に渡るが、取引コスト論、情報の経済学・エージェンシー理論、組織学習とイノベーション (探索と活用)、知識ベース論、組織の記憶、進化理論とルーティン、センスメイキング、ネットワーク論 (埋め込み理論、弱い紐帯、構造的空隙、社会関係資本)、資源依存理論、制度論 (社会学)、組織エコロジーなどである。	
	組織行動論	組織行動 (Organization Behavior) は、企業組織の生産性や業績に影響を及ぼす個人行動や、集団行動、そして組織そのものの行動を研究する分野として定義されています。この組織行動に関する講義においては、人間の行動の原則や要因やメカニズムを周辺諸科学の知見を活用しながら明らかにしていこうとしています。本講義では、代表的な組織行動論について、理論と実証の両面から理解することを目的としています。	
	人的資源管理論	人的資源管理とは、組織の目的を達成するために、経営資源の一つである人的資源を活用する制度を設計し、運用すること。本講義では、人的資源管理のしくみを経営学の視点からとらえることによって、受講生の実践能力を高めていく。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
マ ネ ジ メ ン ト プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	コスト・マネジメント	コストの効果的管理を通じて競争力を得るためには、コストを正確に把握、測定し、適正に活用する必要がある。本稿義では、コストを定義し、コストを測定し、コストを活用する論理と技法を考察し、効率的な組織経営活動をサポートする学問体系としてのコスト・マネジメント論を理解することを目標にしている。講義では、原価情報管理と原価情報活用のための伝統的原価管理システムに加えて、ABC/ABM、原価企画、原価改善、在庫、物流、品質、環境原価などの概念と技法、そして、価値連鎖の観点から戦略的原価管理技法の問題も議論する。	
	税法コンプレッション	税法についての基本的な考え方を理解する。個々の具体的な条文ではなく、それらの根底を流れる基礎概念を理解することで、税法についてのより体系的な知識を身に付けることを目標とします。なお、内容の理解を深めるため、教科書に沿った設問を解くことも併せて行います。	
	税法ケーススタディ	個別・具体的な紛争事例を通じ税法条文の理解を深める。各回ひとつの事件をもとに、争点となる法規、その文言と趣旨目的の解釈を中心に検討を行います。裁判事例から条文の考え方を読み取ります。知識だけではなく税法条文の解釈能力を付けることを目標とします。	
	管理会計論	本講義では、企業組織の戦略と計画策定、投資と業務意思決定、業績評価、業績管理などをめぐる現実的な経営問題に焦点をあて、管理会計領域における概念や議論を考察し、効率的な組織経営活動をサポートする学問体系としての管理会計の役割を理解することを目標にしている。そのために講義では、原価情報管理と原価情報活用のための伝統的管理会計システムに加えて、ABC/ABM、在庫、物流、品質、環境原価などの概念と技法、そして、組織の計画と統制のためのシステムとしてのBSC、EVA、MPCなど、戦略的管理会計技法の問題も議論する。	
	財務会計論	この財務会計論は、会計学領域における重要かつ導入的な科目である。営利組織、非営利組織を問わず、資金や経済的価値がある資産などをどのように管理、把握してゆくかは、組織を運営してゆくうえでは必要不可欠である。この授業において重視するのは、会計技法の解説ではなく、その背後にある基本的な考え方である。これらを十分に理解することは、経済的な活動や生活を送ってゆくうえで重要であるので、この授業では、それらを習得することを目標とする。	
	会計政策論	企業会計あるいは財務会計における制度的または政策的な側面に着目したうえで、可能なかぎり個別具体的なケースを中心とした講義を展開する予定である。現在の日本経済や国際経済のうえで課題となっている事案またはケースを検討することから、会計における政策的要素や政治的要素そして経済的要素の理解と習得を目的とする。具体的なケースは年度によって異なる。	
	経営情報システム論	<p>国を超えたグローバルな事業展開や高度化・複雑化するニーズに対応するため、企業は技術や組織能力の専門化を高めるだけでなく、それにかかわる要素を秩序立てた全体的なまとまりとして最適化するマネジメントが求められる。そこでは有形無形の情報を組織内・組織間で相互に伝達・調整することが課題となる。また情報システムとして機械化するメリット・デメリットも存在する。</p> <p>本講義では輪読とクラスディスカッションを通じて、経営情報システムが企業の経営戦略で果たす役割、そして情報技術の向上が企業経営に与える影響とその本質的な考え方について、経営情報システムの変遷やデータマネジメントの発展等の事例を糸口として検討し、理解を深めることを目的とする。また、インターネットに見られるような情報伝達の在り方の変化が既存の産業秩序を一変させる事例にも焦点を当て、ビジネスシステムの変化やその背後にある考え方についても理解を深める。</p>	
企業とコミュニケーション	コミュニケーションとは、メッセージの送り手と受け手との間で伝えるべき内容（コンテンツ）を様々な手段（チャンネル）を用いて伝達することにある。企業内では従業員間で情報の伝達や意見の調整がコミュニケーションを通じて行われ、その構図は企業間でも同様である。しかし、その仕組みや操作性については		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		あまり議論されることがなく、これが課題に挙げられる。 本講義では「伝え方」のメカニズムと異文化ギャップへの対応について理解を深めることを目的とする。「伝え方」は文化の様式であることを踏まえ、何故その伝え方となるのか、その理由について異文化コミュニケーションと異文化経営学の論文輪読とクラスディスカッションを通じて検討する。さらに日本人に特徴的な意味の二重性と誤解の効用、範囲の操作性、日米比較に基づく価値観や行動様式の違い、さらには経営手法の違いについても理解を深める。	
	社会心理学特論	マネジメントに関連した個人の行動、考えや感情にはさまざまな社会心理プロセスが関与している。この講義では、さまざまな社会行動にはたらく法則性を理解すると同時に、マーケティングや組織の意思決定などの社会現象の理解と予測といった応用可能性を論じる。社会的な関わりの中で、個人の行動が時に無意識に影響され、逆にどう他者の行動に影響していくのかを理解する。また、並行して、実証手続きの一つとして心理学実験の演習を行い、社会科学的な視点の涵養を目指す。	講義 27 時間 実験 3 時間
	国際関係論	「グローバル化」とは、私たちの日常生活においても、よく耳にする言葉であるが、それはいったい何によって引き起こされ、何を意味し、私たちにどのような影響を与えているのだろうか。本講義では、「グローバル化」に関する文献の講読、およびそれに基づいたディスカッションを通じて、政治、経済、社会、文化といった多領域にわたるグローバル化の多面的な様相を理解し、グローバル化の進展する現代国際関係に対する問題意識と思考を養うことを目標とする。また、あわせて、講義を通じて培った問題意識をタム・ペーパーの執筆という形で、論理的な文章として表現する応用的能力の獲得も目指す。	
	地域協力論	国際関係論の視点から、東アジアを事例として、さまざまな主体が構成する「地域」について考察する。特に、本講義では、地方自治体や新都市中間層、市民社会といった国家以外の主体に注目し、関連する文献の講読、およびそれに基づいたディスカッションを通じて、国家間関係のみによって構成されるわけではない「地域」のありかたを把握し、そこから国際社会の多元性と重層性について理解を深めることを目標とする。また、あわせて、講義を通じて培った問題意識をタム・ペーパーの執筆という形で、論理的な文章として表現する応用的能力の獲得も目指す。	
	異文化コミュニケーション論	コミュニケーション、異文化に対する日本人大学生の見方、考え方の検証を通じて、異文化コミュニケーションの構造とプロセスを理解し、異文化コミュニケーションの背後に潜んでいる、コミュニケーション行動を左右する文化的要因を分析しながら、実際の異文化コミュニケーション力を高める。具体的には、コミュニケーションとは何か、聞き役と話し役、本音と建て前、人との関わり方、外国語の学習、異文化の感じ方、見方、異文化とスポーツ、異文化とマスメディアといった話題を取り上げる。	
	異文化ビジネスコミュニケーション	本講義は、関連文献を読みながら、異文化ビジネスコミュニケーションへの理解と認識を深め、異文化ビジネスコミュニケーションスキルの向上策を探り出すことを目的とする。ビジネスパーソンはもちろんのこと、行政や教育に携わる受講者にとって、異文化コミュニケーション能力を高める一助になればと考えている。具体的には、異文化とビジネス、異文化経営と言語戦略、ビジネスにおける言語・非言語コミュニケーション、異文化交渉、日中異文化ビジネスコミュニケーションといった話題を取り上げる。	
フィールドワーク論	フィールドワークは、数ある社会科学的な研究方法のうちの一つというのではなく、対象を客体化する知とは異なる思考と感性を開くための経験そのものである。様々な「現場＝フィールド」をすでに持っている、あるいはこれから持つ人にとって、フィールドワークから生まれてくる知の性質について理解することはきわめて重要な意味があるだろう。この授業では、古典的な民族誌から現代の実		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>実践まで厳選されたテキストを読みながら、フィールドワークとフィールド知について学ぶ。このことを通して、実践的に真に意味ある知とはどのようなものかについて各自が自分なりのイメージを抱けるようになることを目標とする。</p>	
	コミュニケーション原論	<p>コミュニケーションとは何か。人間のコミュニケーションの特徴とはどこにあるのか。この授業では、メタ・コミュニケーション、身体性、冗長性、弱さ、ダイアログ性、ポリフォニーなどの鍵概念を手がかりにしながら、コミュニケーションについて根源的なところから考え直すための機会を提供する。AIとのインタラクションや協働が日常化していくなかで、人間のコミュニケーションについて洞察を深めることは、来たるべき社会で生きていく上で不可欠なことであろう。グループ・ディスカッションを中心に、異なる領域で編み出された手法を実際に経験したりしながら、コミュニケーションとは何かについて理解を深めることを目指す。</p>	
	社会行動データ解析	<p>マネジメントに関して実証的研究を進める上で必要になる量的データの解析手順について解説する。実証データの特徴、入力手順、基礎統計量の利用法を理解した上で、記述統計と推測統計それぞれについて詳述する。記述統計は、相関係数の利用、因子分析、信頼性と妥当性について論じる。推測統計では、単回帰分析と残差の活用、交互作用効果検証、媒介分析や調整分析モデルについて解説する。どのようなデータにどのように統計解析を用いるのかを理解し、適切なデータ解析の知識、スキルを身につけることを目的とする。</p>	講義 23 時間 演習 7 時間
	アントレプレナーシップ	<p>アントレプレナーシップは、一般的に企業家、中小企業を分析対象とした分野であり、他の経営学の分野と同様に、基礎理論（社会学、経済学、心理学など）の応用領域である。したがって、この授業で利用する文献としては、純粋な理論研究は一部で、大半は社会学、心理学の知見が応用された実証研究を用いる。また、企業家、ファミリービジネスや同族企業、イノベーション、創造性、失敗と学習を題材にしたものを中心に輪読する。</p>	
	情報システム管理学	<p>本授業の目標は、コンピュータシステムの基本的な仕組みを理解し、情報システムの管理運用技術を習得することである。</p> <p>授業の内容は次のとおりである。コンピュータシステムの基本的な仕組みを理解するために、オペレーティングシステムの提供する機能や仕組みについて講義を行う。さらに、コンピュータシステムについての理解を深め、システム管理運用技術を習得するために、Linux オペレーティングシステムのインストール、電子メールサーバ・ネームサーバの構築等を演習形式で行う。</p>	
	情報ネットワーク論	<p>本授業の目標は、コンピュータネットワークや情報セキュリティに関する基礎知識、およびネットワークシステムの管理運用技術を習得することである。</p> <p>授業の内容は次のとおりである。まず講義形式で、①ネットワークアーキテクチャの概念、②TCP/IPの機能と仕組み、③情報セキュリティ技術、について学ぶ。さらに演習形式で、ネットワークサーバの構築を行い、コンピュータおよびネットワークシステムに関する理解を深めるとともに、システムの管理運用技術を習得する。</p>	
	公共経営論	<p>高齢化の進展などの社会の変化や産業構造の変容に伴い、我が国の中央政府及び地方自治体の財政状況は徐々に悪化してきている。その一方で、さまざまな社会的なリスクへの対応など公共の政策で対応すべき課題も増えてきている。このような公共の問題に対して主に経営（マネジメント）の視点で対応策を考え、議論していく。公共経営は、経営（マネジメント）の問題であると同時に、法律・政治の要因や、組織の構成員のモチベーションなどの社会的な要因も大きく影響する学際的な問題であるといえる。教科書や参考書の内容を素材に、基本的な知識を習得した上で、クラス討議などを通じて公共経営の問題についてさまざまな視角から考える機会を提供する。</p>	
	地域経営論	<p>高齢化の進展などの社会の変化や産業構造の変容に伴い、我が国の中央政府及</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		び地方自治体の財政状況は徐々に悪化してきている。その一方で、さまざまな社会的なリスクへの対応など地域社会で対応すべき課題も増えてきている。このような地域社会が抱える課題に対して主に経営（マネジメント）の視点で対応策を考え、議論していく。地域経営は、経営（マネジメント）の問題であると同時に、法律・政治の要因や、まちづくりや NPO などの社会的な要因も大きく影響する学際的な問題であるといえる。教科書や参考書の内容を素材に、基本的な知識を習得した上で、クラス討議などを通じて地域経営の問題についてさまざまな視点から考える機会を提供する。	
	地域分析	<p>政策立案に当たって客観的な実証分析を行う EBPM (Evidence Based Policy Making) の潮流の中で、地域における様々な方策策定に当たっても、①問題定義から始まり、②証拠収集、③方策案設計、④評価基準選定、⑤結果予測、⑥意志決定、⑦公表といったプロセスから成る政策分析の重要性が増している。</p> <p>「地域分析」は、地域を対象として政策分析の主に①～⑤に関する理論、分析手法、利用するデータ等について学ぶ。授業では、県や市町村の経済・産業、人口移動や出生率を政策分析の分野として取り上げ、具体的なデータを利用しながら、経済と人口の両方から、行政、企業、住民等の地域主体が連携して地域の持続性強化に取り組む知識とスキルの増進を図る。</p>	
	アジア企業論	<p>多国籍企業 (MNE) は、われわれの日常生活に深くかかわっている。MNE は、環境の変化に影響を受け、それに適応しつつ、さらに自らの能力を変容させている。それが社会にも作用している。</p> <p>アジア企業である日系企業、それも大企業だけでなく地域企業の事例、またそのほかのアジア系企業の実例もとりあげながら、理論だけでなく、実践的状況や示唆を把握しながら進めていく。</p>	
	アジアビジネス事情	<p>1985 年のプラザ合意後の急激な円高を受けて、日本からの生産拠点の移転が急速に進み、活発な投資によってアジア諸国の経済発展が促されてきた。日本からの投資は大手企業が先導する形で進められたが、やがて、中小製造企業も、低廉な人件費を活用したコスト削減や取引先である大手企業からの要望へ対応するために、アジア進出に取り組むこととなった。大企業に比べ経営資源に限りがある中小企業にとって、海外でのビジネス展開には多くの障害や課題が存在している。</p> <p>この講義では、中国、ベトナム、タイにおける広島県内中小製造企業のビジネス経験にもとづき、これら地域における経済環境や事業環境について認識を深めるとともに、実際に遭遇した経営上の課題に関する事例研究を通じて、アジアビジネスにおける経営実務課題の解決能力を養うことを目的とする。</p> <p>講義の担当者は、広島県内からアジア諸国に生産拠点を展開している中小製造業の経営幹部、ならびに長期に渡って現地の生産拠点で経営トップを担った経験を持つ実務家である。</p>	
	ビジネス日本語	<p>主目標：「ビジネス日本語」を広くとらえ、修士論文・就職試験の意見記述文・大学院入試の小論文・大学院での提出レポート等々を書く際にも役立つ文章表現力の伸長・拡充を主目標とする。（この目標達成のために、論文の構成・語法・表現パターン・語彙等について今一度レビューすると共に、授業中に文章作成の実践演習も行う）。</p> <p>副目標：日本の職場組織（民間企業・官庁・教育機関等々の組織社会）において使用されている日本語（特に、時事用語・ビジネス会話語彙・敬語など）に習熟することを期する。</p> <p>同時にビジネス会話のトピックスとして、しばしば登場する日本文学の代表的作品についての知見を深める。</p> <p>また日本的組織社会の中で成功する条件について考えてみる。</p>	
	アジアベンチャービジネス	本授業を通じてベンチャー企業、ベンチャービジネスに関する基礎概念を学び	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
マ ネ ジ メ ン ト ブ ロ グ ラ ム  ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	ス論	<p>ます。</p> <p>以下の4点を授業の到達目標とします。</p> <p>①ベンチャー企業の定義と特性を理解し、説明できる。</p> <p>②ベンチャー企業の創業と成長プロセスを理解し、説明できる。</p> <p>③ベンチャー企業の資金調達に関する基礎的な知識を得ること。</p> <p>④ハイテク産業の集積に関する基礎的な理論を理解すること。</p>	
	マネジメント特講（サステイナビリティ・マネジメント論）	<p>国際社会および産官学における、持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みが活発化している。本講義では、その背景にある自然・社会環境を包括する世界的課題や、それらへの取り組みを議論する。コモンズの悲劇、自然の生態系サービスとその価値評価、そして ESG (Environment, Social, Governance) 投資など、環境心理学および環境経済学の基礎的理論から最新の話題の議論をとおし、サステイナビリティ・マネジメントに関する理解と批判的思考（クリティカル・シンキング）を深めることを目的とする。</p>	
	マネジメント特講（地域創成論）	<p>現代社会において、地域社会は様々な課題を抱えるとともに、持続可能な開発に欠かせない多くの利点も内包している。本講義では、これらの再評価を念頭に、包括的富指標（Inclusive Wealth Index）をはじめとした、地域創生に向けた経済指標とそれらの価値評価方法論の是非両論、そして様々な地域の将来像とその実現にむけた戦略についての知見を深める。中でも、自然共生社会像における人の福利（wellbeing）を多様な価値観から議論し、その構築にむけた最新の取り組みを議論する。</p>	
	マネジメント特講（日本の組織と経営）	<p>本講義の目的は、営利・非営利を問わず、さまざまな組織を取り上げ、そこで生じるマネジリアル課題を解説することである。とりわけ、その実践的な課題に対する解決の糸口がどのようにして理論的に見出したかを事例をもって講義する。この科目は、担当教員が博士課程後期の修了生と在学生のうち実務経験を有する者をゲストスピーカーとして招き、議論を展開する。各ゲストスピーカーは、担当教員とともに2回にわたって、授業に参加し、ストレートマスターに対する実践教育の役割を担う。現場等で実際に起こった事例を課題とし、議論をつうじて解決するために実践したことを理論的に導き理解することで、学生は理論と実践の繋がりを理解することができるようになる。例えば、ゲストスピーカーに「失敗から学ぶ重要性」との観点から、主に失敗例を挙げていただき、解決の糸口をどのようにして理論的に見出したかを担当教員、ゲストスピーカー、社会人学生、留学生、日本人学生といったそれぞれバックグラウンドの違う者が議論をつうじて理解する。</p>	
	マネジメント特講（地域活性化）	<p>地域の活性化を考えることは、そこで暮らす人々の幸福や豊かさを考えることであるとともに、地域の視点から一国あるいは社会全体の問題解決を考えることに通じる。ところが、人口減少社会の中にあって地域間の競争は否応なしに厳しさを増し、高齢化、財政制約、グローバル化、東京一極集中等、地域の活性化を困難にする変化が続いている。</p> <p>これらを踏まえ、本講義では、多様なアプローチがある地域活性化について、各分野を専門とする講師により、地域の現状を分析し、課題設定から方策を導く地域活性化の方法論と実践事例を学ぶ。</p>	
Peace and Co-existence A	<p>（概要）本講義は、国際平和共生プログラムの教員それぞれの個別の専門から「平和共生」をテーマとして、オムニバス形式で実施される。学問領域としては、国際政治、国際法、文化人類学、社会学等である。現代武力紛争を中心としたグローバルな平和と安全の問題そしてそれへの対応、核兵器に関する問題、国際関係のなかの日本の政治、平和共生のための文化的営み、多文化共生などを内容とする。講義形式を取るものの、一部にディスカッションを含めるため、学生の積極的参加が求められる。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p>	オムニバス方式	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 国際 共生 プログラム プログラム 専門 科目		<p>(104 山根 達郎/1回) グローバル社会と紛争</p> <p>(5 関 恒樹/1回) 文化人類学から考える平和構築</p> <p>(133 友次 晋介/1回) 核軍縮・不拡散</p> <p>(134 眞嶋 俊造/1回) 戦争と倫理</p> <p>(198 中空 萌/1回) 暴力と非暴力の文化人類学</p> <p>(216 伊藤 岳/1回) 交渉の失敗としての武力紛争</p> <p>(215 SIMANGAN DAHLIA COLLADO/2回) 国際社会による平和構築の取り組み, 試験</p>	
	Peace and Co-existence B	<p>(概要) 本講義は、国際平和共生プログラムの個別の専門から「平和共生」をテーマとして、オムニバス形式で実施される。学問領域としては、国際政治、国際法、文化人類学、社会学等である。日本の近・現代の歩みや日本社会のあり方について、戦後復興、戦後外交や開発の経験を踏まえながら、平和共生の視点で分析する講義である。講義形式を取るものの、一部にディスカッションを含めるため、学生の積極的参加が求められる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 川野 徳幸/1回) 広島復興の経験</p> <p>(3 片柳 真理/1回) 日本の民主化</p> <p>(132 掛江 朋子/1回) 日本の領土紛争(尖閣諸島問題)</p> <p>(2 吉田 修/1回) 福田ドクトリン</p> <p>(198 中空 萌/1回) 日本の災害政策と地域社会</p> <p>(129 VAN DER DOES LULI/1回) 原爆体験の伝承</p> <p>(133 友次 晋介/1回) 日本の地球規模課題への取組</p> <p>(216 伊藤 岳/1回) 総括, 試験</p>	オムニバス方式
	Peace and Conflict Research I	「Peace and Conflict Research I」では、国際関係論を基盤として、紛争研究、安全保障研究、平和構築研究を参照しながら、現代武力紛争の特質と、紛争原因	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 平和 共生 プログラム プログラム 専門 科目		<p>を除去し平和の基盤を確立するための様々な平和政策について、大学院レベルでの基礎的知識を提供する。本講義では、現代の内戦や地域紛争を事例に取り上げてその特色を叙述的に説明しつつ、冷戦終結後に活発化した国際平和活動の特色についても講義する。</p> <p>本講義では、以上の事柄を探求するために、主権国家の形成と失敗国家の課題、人道的介入の意義と課題、国家建設と平和構築支援の意義と課題、などをテーマとして取り上げる。授業では、教員による講義のほか、受講生には、リーディング・アサインメントの読了、ディスカッション・レポートの事前作成を課し、全員でディスカッションを実施する。</p> <p>なお、本講義の履修にあたっては、「Peace and Conflict Research II」の履修を求める。</p>	
	Peace and Conflict Research II	<p>「Peace and Conflict Research II」では、「Peace and Conflict Research I」での講義内容の履修を踏まえ、現代武力紛争の特質と、平和政策について、大学院レベルでの応用的知識を提供する。具体的には、国際秩序の不安定化の問題とも絡む、内戦や地域紛争、テロリズムといった事例に対する国連の対応や、欧州連合、アフリカ連合などの地域機構によって講じられる紛争解決策や平和政策の意義と課題について分析する。本講義では、最終レポートの提出と、ディスカッションへの参加、リーディング・アサインメントの読了が求められる。</p> <p>なお、本講義の履修を希望する受講学生は、「Peace and Conflict Research I」を履修済みであることが求められる。</p>	
	Conflict Resolution I	<p><b>Conflict Resolution I</b>では、紛争解決論の基本的な概念を理解することを目的とする。武力紛争の発生前から終結後に至るまでのプロセスにおいて、紛争状況を改善又は悪化させるさまざまな要素に関し、広く検討する入門的なクラスである。</p> <p>本講義は、紛争解決論の教科書にしたがって議論形式で進められる。受講生は、教科書を章ごとに担当し、その概要をプレゼンテーションする。そのうえで、ディスカッションポイントを提示し、クラス全体で議論をおこなう。</p> <p>なお、本講義の履修生には、続けて <b>Conflict Resolution II</b> の履修を求める。</p>	
	Conflict Resolution II	<p><b>Conflict Resolution II</b>では、<b>Conflict Resolution I</b>で学んだ基本的な概念を前提として、紛争解決のための手段とその課題についての理解を深めることを目的とする。交渉、裁判、国際機関による関与等、特定のテーマを取り上げ、そのあり方、意義や紛争解決に失敗する要因や背景を掘り下げていく。</p> <p>授業形態は、紛争解決論 I と同様、教科書等の文献を用い、受講生による概要の報告とクラス全体での議論というかたちでおこなう。最後に各受講生の関心に沿った内容でのタームペーパーの提出を求める。なお、本講義の履修には、<b>Conflict Resolution I</b>の修得を必須とする。</p>	
	Peacebuilding I	<p>本講義の目標は（1）平和構築の様々な活動について学び、（2）平和構築について考えることを通じ平和そのもの、そして平和を持続できる社会に関する理解を深めることである。まず国連を中心とした平和活動に関する基本的概念を学び、次に平和構築活動の中でも特に法の支配を中心に、治安部門改革や武装解除、動員解除、社会復帰（DDR）について取り上げる。さらに、女性、若者、ディアスポラなど近年平和構築の主体として注目されているアクターの活動を検討する。紛争にはそれぞれの性格があり、一つのモデルをすべてに当てはめることはできない。しかし、これまでの取り組みと議論を学ぶことにより、今後の新たな状況に対応する力を高めることに繋がる。授業は講義とディスカッションの組み合わせによって行い、授業の後半では学生のプレゼンテーションを求める。</p> <p>なお、本講義の履修生には、続けて「Peacebuilding II」の履修を求める。</p>	
	Peacebuilding II	<p>本講義の目標は（1）平和構築の様々な活動について学び、（2）平和構築論の変遷を理解し、（3）平和構築について考えることを通じ平和そのもの、そして平和を持続できる社会に関する理解を深めることである。平和構築論 II では、特に民主化、人権の保護・促進、移行期正義などの活動について知識を深める。さらに、様々な平和構築活動の理解を踏まえ、平和構築論の変遷を辿り、平和構築論を総合的に理解する。授業は講義とディスカッションの組み合わせによって行い、後半には学生によるプレゼンテーションを実施する。</p> <p>なお、本講義の受講には、「Peacebuilding I」を履修済みであることが求められる。</p>	
International Relations	本講義では、国際関係論の中心的な論点である武力紛争の原因・終結・戦後和平		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 平和 共生 プロ グラ ム 専 門 科 目		を主なトピックとして、合理的選択論・戦略的選択アプローチ、特に「戦争の交渉モデル (bargaining model of war)」を中心とした紛争研究や、国際関係論一般の理論・実証・方法を学ぶ。具体的には、「なぜ武力紛争が生じるのか (なぜ交渉による係争解決に失敗し、本来不要なはずのコストを伴うという意味でパレート非効率的な、武力による係争解決が選択されるのか/均衡となるのか)」という中心的な問いと、これに関連する紛争終結・再発等を巡る問いに回答するための理論と実証手法、事例、実証的知見、及びリサーチ・デザインを学ぶ。 毎回の授業では課題文献を割り当てるほか、履修者によるプレゼンテーション・議論の時間を設ける。また、講義内容及び自身の関心に関連するタームペーパーの提出を求める。	
	Hiroshima Peace Studies I	Peace Hiroshima Peace Studies I と II においては、平和学における基本的な諸理論を理解すると同時に、平和学の視点から広島・長崎を含むグローバル核被害の実態について理解を深める。また、グローバル核被害の視点からフクシマについても考えたい。討論中心の講義である。 Hiroshima Peace Studies I においては、平和学の諸理論、特に、直接的暴力・構造的暴力の概念及び事例を学ぶ。受講生は、それぞれの事例を取り上げ、その背景要因、紛争解決の方法などを分析・考察し、発表する。それ以外にも、毎回の講義にて講義内容に関する事例を取り上げ、ショートプレゼンテーションを行う。 なお、本講義の履修生には、続けてヒロシマ平和学 II の履修を求める。	
	Hiroshima Peace Studies II	Peace Hiroshima Peace Studies I と II においては、平和学における基本的な諸理論を理解すると同時に、平和学の視点から広島・長崎を含むグローバル核被害の実態について理解を深める。また、グローバル核被害の視点からフクシマについても考えたい。討論中心の講義である。 Hiroshima Peace Studies II においては、広島・長崎の原爆被害、セミパラチンスクの核被害、チェルノブイリの原発事故被害、福島第一原発事故による被災の実態について学ぶ。また、本講義では、タームペーパーを課す。受講生は、それぞれの修士論文に関連するトピックスを選び、平和学的視点からタームペーパーとしてまとめ、発表する。 なお、本講義の履修生には、ヒロシマ平和学 I の修得を必須とする。	
	Hiroshima Peace Heritage I	Peace Hiroshima Peace Heritage I においては、ヒロシマの原爆の記憶の継承について、何を伝えていくべきなのかを検討する。被爆者が高齢化し、直接体験を聞く機会が減じていく中で、伝承の方法と共に、原爆体験の核心を理解することが求められる。本講義では被爆者の意識調査をもとに、定性的及び定量的手法からその体験の核心を明らかにしていく。また、1947 年以来毎年出されてきた平和宣言を振り返り、伝承の意識の高まりを確認する。履修者にはプレゼンテーションが求められる。 なお、本講義の履修生には、続けて Hiroshima Peace Heritage II の履修を求める。	
	Hiroshima Peace Heritage II	Peace Hiroshima Peace Heritage II においては、ヒロシマの原爆の記憶の継承について、どのような方法があるのかを検討する。例えば養成が進む語り部や、平和観光の可能性を検討する。また、戦争体験の伝承のために他国で行われている取り組みを取り上げ、比較分析を行う。特に、戦争の記憶の何をどのように伝えようとしているのかを中心に考察を深める。履修者にはプレゼンテーションが求められる。 なお、本講義の履修生には、Hiroshima Peace Heritage I の修得を必須とする。	
	Politics in Japan	この授業は、現代の日本政治に対する理解を深めたい学生に対して、日本政治が作動する場としての国会や内閣をはじめとする諸制度、また、政治の主体となるべき政党や利益集団などの政治アクターについて、概説する。その際、先ず「1955 年体制」の成立から第二次安倍内閣までの日本政治の変遷を歴史的に概観し、続いて、日本の諸政党の特徴、とりわけ自由民主党の特徴を検討する。さらに、日本の内閣、国会、行政官庁と地方自治などの諸制度を個別に取り上げ説明し、利益団体や行政官僚、マスメディアなどの政治アクターを順次に取り上げ、考察を進める。 なお、この講義は、英語によって行われるので、参加者には十分な英語運用能力が求められる。	
	International Politics I	第二次世界大戦後、植民地が独立していく中で、世界が主権国家によってお	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 平和 共生 プログラム 専 門 科 目		われていく中で、グローバルな世界政治秩序がいかに形成され展開していったかについて、アジアにおける地域世界の政治秩序を関連づけながら、主として政治経済史的観点から考察する。なお、毎週の講義の後半は、受講者による関連文献の発表とその討論にあてる。これらの講義や発表を通じて、今日の世界政治の動向と、その中での発展途上地域の政治的動向を分析する力の獲得を目指す。	
	International Politics II	第二次世界大戦後の国際政治の展開を、理論的發展と地域的特性とに焦点を当てながら考察する。とくに東アジア世界の政治秩序と南アジア世界の政治秩序を、いくつかの問題領域に焦点を当てながら比較し、それぞれの特徴を明らかにする。また、発展途上国の民主主義をめぐる諸問題にも注目する。なお、毎週の講義の後半は、受講者による関連文献の発表とその討論にあてる。これらの講義や発表を通じて、今日の世界政治の動向と、その中での発展途上地域の政治的動向を分析する力の獲得を目指す。	
	International Security I	本講義は国家間の戦争と平和についてよりよく理解するための、理論的な枠組みに関する入門である。この中で履修者は、戦争が人間性に起因し不可避であるのか否か、国際社会において共通の政府が存在しない中で国家間の協力は果たして可能であるのか、いかなる条件において平和は保たれ得るのかという問題について学ぶ。また、戦争と平和に関する理論的枠組みに関する講義と議論を通じ、核兵器など大量破壊兵器の軍縮・不拡散、並びに東アジアにおける安全保障についての理解を深める。履修者は、課題論文の事前の読み込み、プレゼンテーション、及びこれに続く議論への積極的参加が求められる。	
	International Security II	本講義は、国家間の戦争と平和に収まらない問題について理解を深めるための機会を提供する。気候変動、テロリズム、小型武器の拡散、新興・再興感染症、人口増加、内戦、飢餓、難民と移民、資源・エネルギー需給の逼迫といった、一国だけではもはや解決が不可能な、越境的な脅威について、また、人工知能や遺伝子工学といった科学技術の急激な進展によってグローバル社会が直面する問題について、履修者がよりよく理解し、議論ができるようになることを目標とする。履修者は、課題論文の事前の読み込み、プレゼンテーション、及びこれに続く議論への積極的参加が求められる。	
	International Law and International Institutional Law	本授業科目は、国際社会の組織化の過程において形成されてきた国際機構(international organisation)の法的意義を検討することにより、国際法関係全体を検討する。主な項目として、下記が含まれる。 ・国際社会の形成過程がいかなるものであったか ・国際法特に条約はどのような役割を果たすのか ・国家と国際機構の基本的構造とは何か ・国際連盟・国際連合など主要な普遍的機構、欧州連合(EU)や東南アジア諸国連合(ASEAN)など主要な地域的機構は、どのように形成され、どのような機能を果たしているのか	
	International Ethics I	本講義の目的は、国際関係における倫理的諸問題の基礎を学ぶことにある。本講義では、倫理学の視座より、倫理的な考え方や倫理学理論、倫理学の議論の方法を通して、国際関係における様々な倫理問題を分析・検討し、グループディスカッションを通してお互いに考えていくことを目指す。具体的には、概論(第2～4回)では、国際関係における倫理問題を理解するための前提となる、倫理学・応用倫理学の基礎を習得する。続く各論(第5～13回)では、倫理的思考を実践する対象として、戦争と平和を巡る基礎的な倫理問題の諸相を検討する。最後に総合ディスカッションと振り返り、まとめ(第14～15回)を行う。	
	International Ethics II	本講義の目的は、国際関係における倫理的諸問題に関する発展的な議論を学ぶことにある。本講義では、倫理学の視座より、倫理的な考え方や倫理学理論、倫理学の議論の方法を通して、国際関係における様々な倫理問題を精緻に分析・検討し、グループディスカッションを通してお互いに考えを深めていくことを目指す。具体的には、概論(第2～4回)では、国際関係における倫理問題を理解するための前提となる、倫理学・応用倫理学の基礎を習得する。続く各論(第5～13回)では、倫理的思考を実践する対象として、戦争と平和を巡る発展的な倫理問題の諸相を検討する。最後に総合ディスカッションと振り返り、まとめ(第14～15回)を行う。	
	Law and Human Rights	本講義は、今日各国で実在する諸課題(貧困、差別、難民、無国籍者など)が人権とどのように関わっているのかを検討することを通じて、人権及び国際人権法を理解することを目的とする。同時に、履修者は自国の憲法における人権規定	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 平和 共生 プログラム 専門 科目		を確認することが求められる。授業では具体的な問題に照らして国際人権法を紹介するので、履修者は事前に国際人権法の知識を必要とするものではない。様々な人権条約について学ぶと共に、人権を守るための国際的なメカニズムについて理解していく。 授業は講義とディスカッションの組み合わせによって行い、後半には学生によるプレゼンテーションを実施する。	
	Basic Cultural Anthropology I	この授業は、文化人類学を専攻する博士前期課程の学生及びその理論や調査法に関心を持つ他分野の学生向けの文化人類学の基礎講義である。第Ⅰ部では、学説史の講義、古典の講読及びディスカッションをとおして、基本的な理論とフィールドワーク、民族誌という方法について学ぶ。第Ⅱ部では、学内でのフィールドワーク実習を通して参与観察とインタビューの方法を習得する。その上で、第Ⅲ部において、伝統的な農村ではなく、国連・NGO、病院、産業の現場といった現代的な環境でフィールドワークを行うようになった近年の人類学の展開について学ぶ。受講生はこの授業をとおして、文化人類学の基礎知識を身につけ、その理論と方法を自分の研究に応用できるようになることを目指す。	
	Basic Cultural Anthropology II	文化人類学の基礎を学ぶことを目的とする。同時に文化人類学の知見と方法論が、グローバル化する現代世界の諸問題を批判的に分析・理解し、行動していく上で、いかなる貢献が可能なかを考える。文化人類学の方法論であるフィールドワークとエスノグラフィー、対象としてきたトピックやアプローチなど学ぶと同時に、それらが現代世界においてどのような変更、修正を迫られ、バージョンアップを試みてきたかを考える。 各回の授業は、講師による解説→課題文献の読解と討論→講師による総括的講義というサイクルで進められる。主なトピックは以下の通り。文化の概念とその変容。フィールドワーク論。エスノグラフィーとその批判。社会的つながりとアイデンティティ。環境・生態・生業活動。経済・市場・文化。交換と互酬性。政治・権力・文化。宗教と儀礼。民族とエスニシティなど。Basic Cultural Anthropology Iの履修を必須とする。授業は英語で行われる。	
	Contemporary Anthropology I	この授業では、近年の人類学の新たな展開について講義する。特に科学技術社会論 (Science and Technology Studies) との対話を通して、文化とテクノロジー、人間と人工物の関係に焦点を当てるアプローチに焦点を当てる。学期の前半には、文献の講読及びディスカッションをとおして、このアプローチに基づく人類学的なフィールドワークの成果が、農村社会の文化的側面に注目していた従来の人類学とは異なる角度から、特定の社会の理解を試みていることを理解する。学期の後半には、開発プロジェクトや政策、技術移転や環境政治の分析へのこのアプローチの応用を試みる。とりわけ東日本豪雨災害の被災地におけるフィールドワークをとおして、現代人類学がいかに災害復興支援に貢献できるかを議論する。受講生はこの授業をとおして、文化とテクノロジーの関係について理論的・実践的に理解することを旨とする。	
	Contemporary Anthropology II	グローバル化が引き起こす現代世界の諸問題の理解と分析のために、文化人類学がどのような知的・理論的貢献が可能なかを考える。各回の授業は、講師による解説→課題文献の読解と討論→講師による総括的講義というサイクルで進められる。主なトピックは以下の通り。グローバリゼーションとはどのような現象か。リスク・不確実性・アイデンティティの変容。親密圏と公共圏の変容。トランスナショナルリズムと人の移動。国民国家とディアスポラ。開発と文化。途上国の社会福祉と生活保障。アジア・アフリカの市民社会論。Contemporary Anthropology Iの履修を必須とする。授業は英語で行われる。	
Identity and Co-existence	様々な側面における多様性の尊重と共生は、現代的重要課題の一つである。本講義では、マレーシアにおける国民アイデンティティの形成と多民族の共生を事例に、アイデンティティと共生について考察することを目的とする。マレーシアは、多民族、多宗教が存在し、長くマレー優遇政策が存在したにも関わらず、大きな民族紛争に直面することなく、共生している国と言える。しかし同時に、マレーシア、という国民アイデンティティについては、依然として形成が必要であると考えられている。そこで、国民あるいは民族アイデンティティ形成に大きな影響を持つ教育に焦点をあて、国民アイデンティティ形成に向けて、どのような国家戦略と教育政策がとられてきたのか、そして、それらがどのような教育制度を生み出し、アイデンティティ形成においてどのような課題を生み出しているのかについて考察する。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 平和 共生 プロ グラ ム		授業は講義及び事前課題にもとづくディスカッションの形式で進める。	
	Peacebuilding Case Studies	この授業は、平和構築の実践について事例を通して学習することを目的とする。平和構築の活動ではリベラル・ピースに基づく一つのモデルが形成され、異なる条件下の国や地域で実施されてきた。15回の講義を通じて、カンボジア、東チモール、ルワンダ、コソボなどの事例について、それぞれの紛争の形態やプロセスを振り返り、そこで平和構築活動がどのように行われたのかを学習する。事例の紹介後、事例間の比較を行い、紛争及び紛争が起こった社会の特徴と平和構築活動との関係を検討する。	
	Area Studies	この授業では、経済と文化の関係という切り口から地域研究の方法について考える。とりわけ経済人類学という分野の展開に焦点を当てる。市場のみにとどまらない実体的な「経済」を議論した古典から、市場の装置と文化の関係を議論した現代人類学、グローバル金融を扱った最新の民族誌までを扱う。受講生は、経済人類学の流れとエッセンスを学ぶことにより、グローバル化した地域社会を見つめる新たな視座を獲得することを目指す。授業は、経済人類学についての講義（4回）、文献購読に基づくディスカッション（4回）、講師によるモン農民の経済活動についての事例の提示（1回）、受講生によるケーススタディの発表 x f（5回）、全体の振り返り（1回）からなる。	
	Development and Culture	この授業では、主に健康と病いの問題に焦点をあてながら、世界の様々な場所で生きる人々の価値の多様性が開発介入の効果とどう関わっているか考える。具体的な感染症や脳神経疾患の問題を取り上げ、政策立案者の視点や専門家の視点、当事者の視点を比較しながら、対策の妥当性について討論する。またそのことを通して、開発と文化というふたつの現象の交点に現れる理論的・実践的課題を論じる力を身につけてもらう。授業は、開発と文化に関わる理論的問題についての講義（4回）、講師が提示する具体的課題についてのグループ討論（8回）、講義と討論の内容を踏まえたレポート作成（2回）及び授業の振り返りと講評（1回）からなる。	
	社会科学のための数理・計量分析	社会科学のために必要な基礎的な数学・方法を重点的に学びなおす。具体的には、(1)統計的分析方法の基礎、(2)検定の考え方、(3)数理モデルに必要な数学基礎、(4)経済社会への応用例を中心とした講義内容。また、データ分析に必要なプログラミング言語としてRの演習を行う。	
	調査方法論基礎	調査方法論基礎では、開発途上国に適用可能な最新の社会調査技法の獲得を目指す。科学論文の作成を見据えた明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定やその設計、実査、データ分析、結果の提示に至るまでのプロセスを客観的・科学的に行うための基本的技法を習得する。また調査倫理や調査データ管理の方法についても習得する。	
国際 経済 開発 プロ グラ ム	開発マイクロ経済学 I	開発マイクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なマイクロ経済分析手法の獲得を目指す。マイクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発マイクロ経済学 I では、現代の開発マイクロ経済学における消費者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
	開発マイクロ経済学 II	開発マイクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なマイクロ経済分析手法の獲得を目指す。マイクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発マイクロ経済学 II では、現代の開発マイクロ経済学における生産者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
	開発マクロ経済学 I	開発マクロ経済学 I では、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学 I では、現代の開発マクロ経済学における基礎理論とその分析ツールに重点を置く。	
	開発マクロ経済学 II	開発マクロ経済学 II では、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際 経済 開発 プログラ ム 専 門 科 目		手法を習得する。開発マクロ経済学 II では、開発マクロ経済政策を議論する上で重要な経済成長論とその分析ツールに重点を置く。	
	開発計量経済学 I	開発計量経済学 I では、開発政策の効果測定に必要な計量経済学の理論を理解し、それを研究に応用できるスキルを養うことを目的とする。最小二乗法(OLS)の概念、OLS が因果関係を示すための条件(不偏性の条件)、OLS の漸近論を理解した後、実践的な応用方法を習得する：交差項の使用法、ダミー変数の使用法、部分効果の理解、差分の差分法、固定効果法、操作変数法、同時方程式推定法、不連続回帰分析。	
	開発計量経済学 II	開発計量経済学 II では、引き続き開発政策の効果推定に必要な計量経済学のツールの習得を目指す。開発経済における計量経済学においては、交通手段の選択など、人々の「選択」を分析したり、被説明変数の一部しか研究者が観察できない状況で推定をする必要があったり、サンプルセレクションの問題に直面する。よって、本講義では離散モデルの習得を目指す：プロビット法・ロジット法、順序プロビット法・ロジット法、多項ロジット法、トビット回帰法、打切り回帰法、ヘックマン・サンプルセレクション修正法、ハザード関数モデルなどの期間分析法。	
	経済統計分析論	<p>経済統計の特徴とその活用の仕方、分析方法などの基礎を習得する。GDP 統計、SNA、財務データ、国際データ、産業連関表などを中心に解説する予定。</p> <p>具体的な内容は、概ね以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス：受講に当たっての注意事項と講義の計画</li> <li>(2) 経済データの特徴（様々な経済データ）</li> <li>(3) 産業連関表の枠組みについて</li> <li>(4) 投入係数表と線形代数の基礎</li> <li>(5) 逆行列計算と経済波及効果について</li> <li>(6) 輸入内生モデルと IO の応用</li> <li>(7) 確率・統計の基礎概念（平均と分散）</li> <li>(8) 因果関係と相関関係の区別について</li> <li>(9) 相関係数とその応用</li> <li>(10) 最小自乗法、単回帰分析 1</li> <li>(11) 最小自乗法、単回帰分析 2</li> <li>(12) 検定統計量の意味について</li> <li>(13) 消費関数、投資関数の実際例</li> <li>(14) 構造変化分析、ダミー変数</li> <li>(15) 時系列モデルの基礎</li> </ol>	
	グローバルガバナンス論	グローバルガバナンスは、国際的なアジェンダにとって非常に重要であり、グローバルな問題や懸念に対処するために協力を維持するための努力基盤となる。世界は今後ますますセキュリティの脅威、経済的な崩壊、開発の懸念、そして悪化する環境条件に対処しなければなりません。国は、国連、WTO、環境変化を管理する条約などの国際機関の設立を通じて、これらの課題に対処するための努力を調整しようとしています。本講義では、国家、非国家の両方の構造と、安全保障、経済、人権、開発及び環境の分野における人類の共通の問題を解決するための取り組みについて説明する。南北の対立、国家間の協力のモデルと機構、ガバナンス構築に貢献する非国家主体の役割と国家との関係などを扱う。	
	都市経済学	都市経済学では、なぜ都市が存在するのか、なぜ都市は成長するのか、地方自治体はどのようにしてそのような成長を促進できるのか、といった視点から、都市構造や開発パターンについて議論する。たとえば首都圏の特定の地域が他の地域よりも急速に成長するのはなぜか、企業や世帯は、どのようにして特定の大都市圏内において立地場所を決めるのか、何が土地の価格を決定し、そしてこれらの価格はどのように空間を越えて変わるか、などがそこでは重要な問題となる。さらに本講義では、都市問題の空間的側面、すなわち、貧困、住居、そして郊外化やスプロールなどに焦点を当て、最適な都市開発に必要な政策を概説する。	
農村開発論	現在、世界人口の大部分は農村に居住している。そこではいわゆる非効率な資源開発や、それに起因する環境破壊や資源の枯渇だけでなく、社会インフラの不足、破壊などの問題が存在する。本講義ではまず、農村部におけるこれら諸問題を概説したのち、これらを理論的に分析するための枠組みを提示し、そのうえで都市部との関係に留意しつつも農村住民の視点に立ち、環境と調和し農村の限りある資源を持続的に活用する最適な農村開発政策とはなにか、について明らかにする。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	技術経営論	技術経営論では、主に企業レベルの技術・イノベーションとオペレーションを対象に、同分野の基礎的な理論に加えて、関連するリーンオペレーション、全社的品質管理などの実践的な管理手法について講義する。経営学の主要な分野である経営戦略、組織、人的資源管理との関連も検討する。また、先進国、新興工業国、後発国それぞれの企業事例について紹介したうえで、習得した理論や管理手法を用いた学生による分析・評価を実施する。	
	人的資源開発論	人的資源開発論では、企業をはじめ各種組織で働く従業員などの知識・スキル開発を中心的な論点とする。まず、成人学習や研修の管理・評価に関する理論的基礎と実践的手法を習得させる。知識・スキルの具体的な事例としては、とくに創造性、リーダーシップと異文化適応に重点を置き、学生による研修事例の分析・評価も行う。関連分野と位置付けられるキャリア開発や知識経営、さらに国際人的資源開発論として多国籍企業、各国企業や社会・国レベルの人的資源開発の国際比較も取り上げる。	
	公共管理論	公共管理論では、公的機関による組織活動と、こうした組織活動を効率的・効果的に実施するための適切な管理のあり方について、企業組織との比較の観点に配慮した形で議論を進める。具体的には、 <b>new public management</b> を含む「公共管理」の基本的な枠組みについて整理したうえで、マネジメント・サイクルの考え方や、各種の経営資源とそれらの効率的・効果的な利用について検討する。また、組織の事例として先進国と途上国の公的機関及び国際機関を取り上げ、各事例の組織管理、人事管理について考察する。	
	経営組織論	経営組織論では、組織運営を行う際に必要となる諸問題について、組織行動論に代表されるマイクロ組織論の理論的枠組みに基づきながら、心理学や社会学などの学際的知見を踏まえた形で講義を進める。具体的には、個人・集団レベルの行動や組織構造・デザインといった基本的な内容を検討したうえで、個人のモチベーションや職務満足度、集団におけるリーダーシップ、コミュニケーション、さらに組織文化、人的資源管理、組織変革・開発について考察する。	
	経営戦略論	経営戦略論では、企業の中長期的な目標を実現するために整合的な企業行動をとるための指針としての経営戦略を学ぶ。具体的には、戦略の概念と理論、戦略形成の手法とプロセス、戦略が機能する論理について学ぶ。特に、SWOT分析、垂直統合と競争優位、コストリーダーシップと線品差別化、戦略的柔軟性、標準・ネットワーク・プラットフォーム、戦略的提携、多角化戦略・資源配分などについて習得する。	
	環境政策論	環境政策論では、環境問題を市場と環境との相互作用として捉える環境経済学を基盤とし、国内および国際的なレベルでの環境規制政策と天然資源管理政策の理論と実践を扱う。抽象的な経済モデルによる理論的説明とアジア、アフリカを中心に実際の環境政策、資源管理政策とを比較することによって、理論と実践のそれぞれの役割と意味について考察する。	
	都市政策論	都市政策論では、日本の国、地方レベルで都市政策の問題と計画問題を参考に、他の国の都市政策との比較を行う。トピックは、都市行政、都市計画、各種地域レベルでの公共政策、財政、国との関係、コミュニティ開発、経済と社会の不平等、運営と管理、そして環境の持続可能性など、さまざまな観点を扱う。比較では、欧米などの先進国、中国やASEANなどの経済的に急速に発展している途上国、アフリカでの低所得国など、国の発展と地域の違いなどを踏まえたいくつかの大きなグループに分ける。	
	国際協力論	国際協力論では、国際協力とは何か、その理念と実践を学ぶ。具体的には南北問題、地球公共財、国連・国際機関、政府開発援助(ODA)、人道支援、NGOs、MDGs/SDGsなどの基礎的な知識を習得し、今後の国際協力のあり方を議論するための能力を養う。また、国際協力をテーマとした多様な分野の研究論文をレビューしながら、習得した知識や国際協力の実情を踏まえ、今後の国際協力のあり方について議論する。	
	労働政策論	労働政策論では、労働経済学の理論を講義するとともに、その実証例をバランスよく配合し、様々な社会問題を理論的に説明する力を養うことを目的とする。我々が日常耳にする社会問題の多くの部分は、労働に関係する。具体的には、配偶者控除制度と103万円の壁、最低賃金と雇用の関係、移民の流入と賃金といった議題である。これらを理論的に説明する力を養い、さらに最新の実証研究の学術的な知見を理解することを目的とする。理論は、余暇選択理論、労働供給、労働需要、労働市場均衡、人的資本理論の順で進めていく。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 演習 プログラム 専 門 科 目	国際金融論	国際金融論では、開発途上国の国際金融政策に関する課題に取り組むために必要な経済分析手法の獲得を目指す。外国為替や国際収支などの国際金融に関する基礎的な概念と理論を学んだ上で、解放経済の下での財政・金融政策の効果を理論的及び実証的な視点から習得する。また、国際通貨体制や金融危機、各国のマクロ経済政策協調など開発途上国にとって重要な事柄について、国際金融の歴史的推移も含めて理解する。	
	総合科学系演習	本演習では、学生によるグループワークを通して、ミニ・プロジェクトに挑戦し、自分の専門分野を活かしながら、文理融合、学際的、国際的な視点を涵養し、総合科学の手法を学ぶ。異分野、多国籍の数名の学生でグループを形成する。概要、目的、手法の具体的なガイダンスの後、日本語又は英語を共通言語として、共同研究のプランニングを行い、その研究計画書を作成する過程を経験することで、研究者としての企画力や統合力、研究計画書作成能力を養成する。年度ごとのローテーションで教員がファシリテーターとなり指導を行う。	
	人間総合科学特論	文系・理系の枠を超えて、人間や社会、環境をめぐる最新の知見や課題、トピックスを集中講義により提供する。人間や社会、環境を理解する視点を広げ、世界で起きている様々な現象について多角的に把握し理解する能力を涵養する。受講者に自分の研究テーマとの関連性を考察させることで、多面的に現象を把握し、学際的なアプローチにより解決することの重要性を認識させ、応用力を養成することを目的とする。先端的な研究を行っている研究者を毎年招聘し、最新の情報を提供する。	共同
	コンピュータと言語研究・教育	<p>(概要) インターネットの機能の急速な発展に伴い、コンピュータに代表される情報技術を用いることは言語研究のどの分野においてもすでに不可欠の前提となっている。本講義では、前半でコンピュータと言語研究の現状について、後半でコンピュータと言語教育の現状について論じてゆく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(25 井上 永幸・68 岩崎 克己/1回) (共同) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(25 井上 永幸/7回) コーパスとコーパス言語学、コーパスで何がわかるか、Sketch Engine の使い方 (1)、Sketch Engine の使い方 (2)、コーパスと統計値、コーパスを使った英語研究(1)、コーパスを使った英語研究 (2)。</p> <p>(68 岩崎 克己/7回) コンピュータと言語教育の歴史と現状、ICT を利用した語彙学習、ICT を利用したリスニング、ICT を利用したリーディング、ICT を利用したスピーキング、LMS を利用したライティング、コーパスと言語教育。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	言語構造論	<p>(概要) 一言でいえば、言語は形式（音声など）で意味を伝える記号体系であるが、その点では人間言語と他の動物のコミュニケーション手段とはあまり変わらない。人間が発する声の塊を「言語」とらしめている最も特徴的な点は、言語にはその様々な側面において「構造」が存在するという点である。本講義では、言語の様々な側面に見られる構造について、統語、意味、音声などの観点から検討し分析する方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(50 井口 容子/5回) 使役・起動交替、ヴォイスなど、興味深い言語現象を、統語・意味の両面から分析する。</p> <p>(171 町田 章/5回) 言語の意味に関する現象を、語の意味、構文の意味、言外の意味の観点から考察し分析する方法を学ぶ。</p> <p>(127 大嶋 広美/5回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間総合科学プログラム プログラム 専門科目	言語類型研究	<p>諸言語の子音、母音、アクセント、声調など音声・音韻の諸問題について考察し、討論する。</p> <p>(概要) 一説には、世界には 7000 もの言語が存在すると言われている。そして、それらの言語にはある一定の普遍的な原理が見られると同時に、驚くべき多様性が見られることも指摘されている。もちろん、7000 の言語をすべて講義で取り上げることは不可能であるが、異なった語族に属するいくつかの言語を比較検討するだけでも十分有意義な知見が得られる。本講義では、主に日本語、英語、中国語、フランス語などを取り上げながら、それらの言語間に見られる共通性に着目しつつ、それぞれの言語に見られる特徴について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(171 町田 章／5 回) 主に日本語と英語の対照を通して、認知類型論という比較的新しい分野の考え方や分析法を学ぶ。</p> <p>(127 大嶋 広美／5 回) 日本語とアジア諸言語、特に中国語を言語類型論、対照言語学の観点から分析し、諸言語間における普遍性と多様性について分析し、討論する。</p> <p>(50 井口 容子／5 回) 対格言語と能格言語、ヨーロッパ系の言語にみられる与格構文と「被害の受身」に共通してみとめられる特性など、言語類型論的に興味深い現象を考察する。</p>	オムニバス方式
	心理言語学的アプローチからの第二言語習得	<p>(概要) 第二言語習得は母語習得とどのように異なるのか。本講義では、第二言語習得のメカニズムを主に心理言語学的アプローチから概観する。心理言語学は研究者によって捉え方が異なり、従って、研究手法も異なる。第二言語学習者の認知的側面、心理的側面に焦点を当て、先行研究で何が明らかにされてきたかを理解し、今後の研究について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(94 柴田 美紀・172 TAFERNER ROBERT HORST／1 回) (共同) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(94 柴田 美紀／7 回) 母語習得と第二言語習得の違い、第二言語習得研究の歴史、第二言語習得研究の主なアプローチ</p> <p>(172 TAFERNER ROBERT HORST／7 回) 心理言語学の概要、心理言語学的アプローチの研究手法と先行研究</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	実験言語学	<p>(概要) This course reviews a comprehensive range of research issues and experimental findings related to how learners learn, use, and store a second language. The course is divided into two halves. In the first half, you improve conceptual understanding of research designs in experimental phonetics and phonology, practice measurement methods such as Praat, critically review interdisciplinary studies, and build a research proposal. In the second half, you consider approaches to second language learning in practice with specific reference to vocabulary studies, you develop an appreciation of vocabulary testing, and continue to build a research proposal. As a product of the course, you will be able to review and evaluate published work, and design an experiment related to the spoken language. You cover a broad range of topics, with the module intending to provide foundational understanding of experimental linguistics in relation to second language learning, production, and perception.</p> <p>(Omnibus／15 lessons in total)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プロ グラ ム 専 門 科 目		<p>(24 長谷川 博/7回) スポーツと環境, 運動時の体温・体液調節, コンディショニングの重要性とリカバリー戦略, 実践的暑さ対策についての講義, 論文輪読, 討論を行う。</p> <p>(151 田中 亮/7回) システマティックレビューの方法論と実際, 運動に対する高齢者の適応反応や運動に対する障害者の適応反応についての講義, 論文輪読, 討論を行う。</p>	
	運動制御学	<p>(概要) 日常動作からスポーツ動作まで, ヒトの身体運動は, 物理的に複雑なシステムである身体を, 脳や脊髄といった神経系が適切な制御をすることで成り立っている。本講義の前半は, ヒトの身体運動の物理的側面に重点を置き, 動作を計測・解析する基本的な技術について学習する。中盤は, 生理学的側面から, 巧みな運動を可能にする脳神経系の働きに関する基礎的知識やヒトで実施可能な神経生理学的研究手法について学習し, 併せて当該分野における先端的研究成果について紹介する。後半は, ヒトの運動制御を支える神経計算メカニズムに関する研究成果とその応用について学習する。受講者の背景や興味にもよるが, システムレベルに限らず, 必要に応じて単一ニューロンやシナプス可塑性の話題も取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (278 進矢 正宏/5回) ガイダンス, ヒトの身体運動の客観的計測・解析技術および運動学習</p> <p>(51 船瀬 広三/5回) ヒトの身体運動制御機構に関わる脳神経の働き</p> <p>(218 加藤 荘志/5回) ヒトの運動制御を支える神経計算メカニズムとその応用</p>	オムニバス方式
	運動精神科学	<p>(概要) 人間の身体運動と精神の関係は心身相関問題の重要なテーマとして研究されてきた。本講義では主に心理学と哲学の視点から身体運動と精神の関係について学び考察することを目的とする。前半では, スポーツをはじめとする身体運動が心理状態の変化によって受ける影響や, 身体運動が心理状態に及ぼす影響について学ぶ。後半では, 身体運動や身体知が, 文化や社会の形成さらには人間の思想や精神に及ぼす影響をよりマクロの視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(96 関矢 寛史・124 上泉 康樹/1回)(共同) 本講義のガイダンス, 概要説明</p> <p>(96 関矢 寛史/7回) 心理状態が身体運動に及ぼす影響と身体運動が心理状態に及ぼす影響</p> <p>(124 上泉 康樹/7回) 身体運動や身体知が, 文化や社会の形成さらには人間の思想や精神に及ぼす影響</p>	オムニバス方式・共同(一部)
認知科学論	<p>(概要) 私たちの心と行動の働きについて検討する分野に認知心理学がある。本講義では, 認知心理学について, 基本的な考え方や役割と意義について紹介し, 続いて, 認知心理学的なアプローチを行うための研究方法や, そこで用いる主観・行動・生理の各指標の分析方法について概説する。それらを基盤として, 心と行動の働きについて, 刺激(外界情報)と脳の関係性から解説を行う。本講義では, 自分の専門分野や研究テーマについて認知心理学的な研究法を導入し, 新たな展開が期待できるようになることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(126 有賀 敦紀・125 小川 景子・97 坂田 省吾/1回)(共同) ガイダンス</p>	オムニバス方式・共同(一部)	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	人間 総合 科学 プロ グラ ム	<p>(126 有賀 敦紀/5回) 行動科学・認知心理学の基本的な考え方や役割, 応用について考える</p> <p>(125 小川 景子/5回) 主観・行動・生理の各側面から人間行動のメカニズムを考える</p> <p>(97 坂田 省吾/4回) 人間行動における刺激と脳との関連性について考える</p>	
		<p>比較認知論</p> <p>(概要) この授業では、環境から受ける刺激によって生体の行動が決定されていく過程について、ヒトを含む動物種間で比較しながら解説する。ヒト以外の動物に関する知見を学ぶことで私たちヒトの行動に関する理解を深める。ヒト以外の動物に関するテーマとして時間知覚研究の知見を紹介し、ヒトの行動に関する行動として心理生理学的研究及び認知心理学的研究からの知見を紹介する。ヒトの認知メカニズムと行動の関連をもとに、社会実装の可能性についても論じる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(97 坂田 省吾・125 小川 景子・126 有賀 敦紀/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(97 坂田 省吾/6回) 動物の生理心理学的研究を紹介し、脳活動と行動との関連を考察する</p> <p>(125 小川 景子/4回) 人間の心理生理学的研究を紹介し、人の高次認知機能と脳内活動を脳波をもとに考察する</p> <p>(126 有賀 敦紀/4回) 人間の認知メカニズムを基盤として、実社会への応用を考える</p>	オムニバス方式・共同(一部)
		<p>環境行動論</p> <p>(概要) 人の行動は様々な環境の影響を受けて変容する。本講義では、内的・外的環境が睡眠に及ぼす影響と、音や音楽が与える影響について取り上げる。睡眠は、個人の内的リズムや心理状態により影響を受け、規則正しい睡眠は心身の健康とも関連していることから、睡眠への影響要因や健康との関連について考察する。音・音楽環境については、日々聞いている音や音楽が人に与える心理・生理的な影響について取り上げる。また、その応用として、ストレスコントロールのための聴取型音楽についても考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 岩永 誠・259 林 光緒/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(43 岩永 誠/5回) 音・音楽環境における感情反応を心理・生理的側面から概説し、音楽による感情コントロールについて考察する。</p> <p>(259 林 光緒/9回) 内的・外的環境要因が睡眠に及ぼす影響について概説し、健康的な睡眠のあり方について考察する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
<p>適応行動論</p> <p>(概要) 人は様々な内的・外的環境の変化の中で生活している。この変化にうまく適応できないと、心身の健康を損ね、時として精神疾患に至ることもある。その代表的なものがストレスであり、不適応の症状としてうつ病や不安症が挙げられる。環境の変化や個人の認知様式がどのように人の心身に影響し、病理的な問題に結びつくのか、またそれをどのように心理的に治療していくのかについて講義し、人と適応との関係について考察する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プロ グラ ム 専 門 科 目		(オムニバス方式/全15回)  (114 杉浦 義典・43 岩永 誠/1回)(共同) ガイダンス  (114 杉浦 義典/9回) 心理療法について概説し、そこから人の適応について考える柔軟な視点を養う。  (43 岩永 誠/5回) ストレスの心理生理学的モデルを概説し、社会病理的問題と適応について考察する。	
	社会行動論	(概要) これまで心理学を含む行動科学の諸分野では、社会・集団における人間行動を明らかにしてきた。本講義では、特に社会心理学の知見に基づき、社会及び集団がいかに人間行動に影響を及ぼすのか、また個人の振る舞いがいかに集団や社会に影響を及ぼすのか、人間行動と集団の相互依存性について解説する。多様化する社会における人間の社会行動を、行動科学的な視点から分析し、理解するための理論的・概念的枠組みの習得ならびに実証研究のための方法論の習得を目指す。  (オムニバス方式/全15回)  (175 小宮 あすか・6 坂田 桐子/1回)(共同) ガイダンス  (175 小宮 あすか/7回) 文化心理学の最新の知見と研究手法について概説し、人の行動の機序を考察する。  (6 坂田 桐子/7回) 集団心理学の最新の知見と研究手法について概説し、集団・組織における人の行動について考察する。	オムニバス方式・共同(一部)
	BCM (Business Community Management)	近年日本では様々な災害が起き、多くの被害が出ている。こうした被害を最小限にするためには、防災に関する意識を高め、どのように振る舞うかを理解すること、また一旦災害が起きてしまったら、いかに復旧・復興に取り組みなければならぬかを理解することが必要である。またその活動も個人レベルではなく、組織立った体系的な活動が求められる。そのため本講義では、Business Community Management の理念と手法の習得を通して、実践方式の演習を通して、知識の深化と体得をねらいとする。	
	現代哲学	(概要) この授業では、哲学的な文章を正確に理解するトレーニング、及び、哲学的な話題について考え、議論するトレーニングを行うことを通じて、大学院レベルの研究に必要な読解力、思考力を養成する。参加者には、毎回の予習として、(1)教科書の当該箇所を読み、予め配布された確認問題に答える、(2)授業内でのディスカッションに備え、教科書の当該箇所についての自分の考え(意見、疑問、反論、等々)をまとめておく、という二つの準備が求められる。  (オムニバス方式/全15回)  (285 宮園 健吾/11回) 第2回「環境美学」:第3回「美的経験」:第4回「美的性質」:第5回「芸術の定義」:第6回「芸術作品」:第7回「解釈と意図」:第8回「フィクション」:第9回「描写」:第10回「音楽と詩」:第11回「芸術的価値」:第13回「建築の価値」  (285 宮園 健吾・134 眞嶋 俊造/4回) 第1回「ガイダンス」:第12回「倫理的価値と美的価値」:第14&15回「公開セミナー」	オムニバス方式・共同(一部)
	美的感性論	(概要)「感性の学」としての美学(aesthetics)とその歴史を念頭に、さまざま	オムニバス方

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プロ グラ ム 専 門 科 目		<p>な時代の「美」と「趣味（テイスト）」の諸相、「芸術（アート）」と「風景（ランドスケープ）」の諸相を分析する。古典的な芸術諸ジャンルの個別的事象から、現代のメディア、風景・景観、人工知能（AI）、サブカルチャー等とかがかわる問題まで射程とする。この授業では、同時にまた、個々のテーマに関連する美学理論史、芸術理論史への目配りも、基礎文献（日本語のほか、英語・独語・仏語など）のテキスト講読を通じておこなわれる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（98 桑島 秀樹・176 GRAJDIAN MARIA MIHAELA／3回） 第1回～第2回：イントロダクション 第15回：総括</p> <p>（98 桑島 秀樹／6回） 第3回～第8回：「美」と「感性」、「趣味」と「芸術／技術」の理論展開史とその課題の解説など</p> <p>（176 GRAJDIAN MARIA MIHAELA／6回） 第9回～第14回：個別芸術作品の分析・解説など</p>	式・共同（一部）
	文化哲学	<p>（概要）この授業では、主として非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想、「芸術／技芸」をみつかった思想を講ずる。現代社会の諸問題とクロスしたアートのあり方が問題となる。特にフランス語圏ないしドイツ語圏のヨーロッパ文化とその基層文化を参照しながら、人間文化のエッセンス、人間存在の根本問題を問うことが目的である。ここでは、「アート」が、技術／技芸（ラテン語の「アルス」、ギリシャ語の「テクネー」と切り結ぶことを意識させるような、現代の社会事象（倫理・環境・死生観の問題など）が主題となろう。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（134 眞嶋 俊造・285 宮園 健吾／3回）（共同） 第1回～第2回：イントロダクション 第3回～第8回：非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想 第15回：総括</p> <p>（134 眞嶋 俊造／6回） 第3回～第8回：非英語圏ヨーロッパの文化哲学思想</p> <p>（285 宮園 健吾／6回） 第9回～第14回：非英語圏ヨーロッパの芸術技術</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	比較芸術論	<p>この授業は、観察と分析に基づき、様々な領野の芸術（アート）をめぐる比較研究を展開する。授業の主眼は、複数の具体的な芸術現象を正確にディスクリプションしたうえで、理論的に比較・検討することにある。特に、一般市民（大衆）が日常生活で享受するような芸術的現象（サブカルチャーにふくまれる、大衆演劇・舞踊、広告、漫画、映画、アニメーションなど）もここでの考察対象となる。本授業はおおきく二つの部分から構成される。第一に、学生に芸術にまつわる「文化研究（カルチャー・スタディーズ）」の基本概念を教示すること。第二に、学生は、そこから学習した「文化研究」の概念と方法を、自身の関心のある芸術現象に応用してみずから考えるということ。この二つである。授業の終盤には、受講者各自が、自己の研究結果を担当教員のまえて口頭発表し、その後授業参加者全員でディスカッションをおこなう。</p> <p>成績評価は、口頭発表とディスカッションの内容を反映させた、学期末に課す試験（もしくはレポート）によって行なう。</p>	共同
	実践倫理学	<p>（概要）本講義の目的は、実践倫理学（応用倫理学）を学ぶことにある。本講義では、哲学の一分野である倫理学の視座より、倫理的な考え方や倫理学理論、</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム プログラム 専門 科目		<p>倫理学の議論の方法を通して、私たちが社会で直面する様々な倫理問題について考え、自分の考えを持ち、グループディスカッションを通して自分の考えを言葉にし、また相手の考えに耳を傾け、お互いに考えていくことを目指す。具体的には、概論（第2～4回）では、哲学としての実践倫理学という位置づけを理解した上で、倫理学・応用倫理学の基礎を習得する。続く各論（第5～13回）では、倫理学的思考を実践する対象として、戦争と平和を巡る倫理問題の諸相を検討する。最後に総合ディスカッションと振り返り、まとめ（第14～15回）を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（134 眞嶋 俊造・285 宮園 健吾／3回） 第1回「はじめに」：第14回「総合ディスカッション」：第15回「まとめ」</p> <p>（134 眞嶋 俊造／11回） 第3回「実践倫理学の方法1」：第4回「実践倫理学の方法2」：第5回「戦争と平和の倫理のあらまし」：第6回「武力紛争とその諸相」：第7回「子ども兵士と「道徳的畏」」：第8回「自殺攻撃と道徳的責任」：第9回「人質をとることの暴力」：第10回「ドローンと「倫理的」な攻撃」：第12回「防衛産業と人々の保護」：第13回「道徳的運と「より少ない悪」</p> <p>（285 宮園 健吾／1回） 第2回「哲学としての実践倫理学」</p>	
	比較宗教思想史	<p>（概要）日本を東アジア地域、ならびに、中南米地域の文化のなかから生まれた哲学、宗教、科学、芸術、倫理、経済の概念を取りあげて検討する。これらの宗教概念を、インド、中国、ギリシャ、ヨーロッパ、アメリカ、古代オリエント、オセアニア、メソアメリカなどの概念に比較し、思想史のなかで考える。本年度は特に、西田幾多郎の哲学やそこから影響を受けた京都学派を特別に注目する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（177 RIGSBY CURTIS ANDREW・178 辻 輝之／6回） 第1回～第4回：イントロダクション 第14回～第15回：総括</p> <p>（177 RIGSBY CURTIS ANDREW／9回） 第5回～第13回：本年度のテーマ：西田幾多郎の哲学（リグスピー）</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	マイノリティ文化思想	<p>（概要）この授業は、「マイノリティ」として生きる、また、生きることを強制された人々の歴史を考察し、「関与する学び（Engaged Learning）」の場を提供する理論と方法を考える。具体的には、日本や中南米の地域での宗教・信仰のあり方が話題となる。現代社会では、グローバル化による多様化と、それに対する許容を特徴とする一方、格差の広がりや、反動としての差別と排除が跋扈し、これまで以上に「マイノリティ」の生き方が注目を集めている。われわれは、同じ時代を生きる当事者として、彼らにどのように向き合い、彼らの生きる力から何を学ぶべきか。その思想の理論化を主眼としたい。授業では、学生が講義とリーディングから得た概念や理論的枠組みをツールとして、ディスカッションと個人、グループでのプロジェクトを通してマイノリティについて、自ら発意、理解、体得することに重きをおく。本授業のキーワード：権力（Power）；文化（Culture）；マイノリティ（Minority）；差別（Discrimination）；偏見（Prejudice）；ステレオタイプ（Stereotype）；人種（Race）；エスニシティ（Ethnicity）；ジェンダー（Gender）；セクシュアリティ（Sexuality）。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（177 RIGSBY CURTIS ANDREW・178 辻 輝之／3回） 第1回～第2回：イントロダクション 第15回：総括</p>	オムニバス方式・共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム 専門 科目		(178 辻 輝之/12回) 第3回～第10回：本年度のテーマ：中南米地域の宗教事情の講義 第10回～第14回：「マイノリティ」一般にかんする解説と討議	
	日本地域研究	アジアのなかの「日本地域」という視点から、歴史的な日本の社会・文化の特色を考える。主として扱う時代は古代・中世だが、近代日本の国家や現代の日本社会が日本固有の文化をそのなかに見出してきた眼差しも意識する。過去の歴史がナショナル・アイデンティティの形成においてどのように理解され、また逆にそうした現代の視点を取り除いたとき、歴史はいかに捉え直されるべきかを考えながら、国際社会における日本の伝統的、地域的な文化・社会のありようを深く理解する視点を学ぶ。授業は年度毎に具体的なテーマを設定して行う。受講者はテキストとして指定された論文を分担して発表し、その内容について全員で議論する形で進める。	共同
	日本文藝社会研究	日本近代文学の文学史を追いながら、歴史的社会的背景と関連づけて考えることを目指す。まず日本近代文学を研究するための基本的な知識と方法（文学理論など）を修得する。その後、日本近代の文学作品とそれを取り巻く時代背景、各々の作品の研究状況を探りながら、歴史的社会的背景、本講義では戦争・植民地と日本近代文学の関係について考える。授業の方法としてはテキストとして指定した研究書の諸論文をそこで言及された作品や研究論文も含めて読解をしていく。指定したテキスト以外にも適宜プリントを配布して様々な作家や批評家の発言、研究史を概観する。その後、随時担当者を決め、担当者は選んだ文学作品と関連する論文について報告し、受講者全員で討論する。	共同
	アジア文化論（現代文化）	本講義は中国語圏をはじめ、日本や朝鮮半島などアジア地域の現代文化について考察するのが目的である。地域によって時期区分が多少異なるが、基本的に20世紀から現在までの期間を中心に文化の伝承、創造、変容について考察する。授業は、年度ごとにテーマを選定し、そのテーマに応じて文学作品、映像や評論を幅広く講読する形式で行う。原則として、日本語で書かれたもの又は日本語に翻訳されたものを扱うため、日本語以外の言語知識は特に前提としていない。受講者は、事前に講読テキストを分担して発表し、発表内容をめぐって全員で議論していくことが求められる。	共同
	アジア文化論（表象文化）	朝鮮戦争休戦後、朝鮮半島は南北に分断されたままにある。韓国では、20世紀後半から今日に至るまで、韓流シネマが勃興するなかで、朝鮮半島の南北分断状況を題材にした数々の名画が産み出されてきた。『シュリ』（1999）や『JSA』（2000）や『鋼鉄の雨』（2017）が代表的な例である。この授業では、それらの作品群を「分断映画」ないし「スパイ映画」と呼ぶが、1つ1つの作品を丁寧に鑑賞しながら、韓国の表象文化に対する理解を深めると同時に、韓国の歴史と社会について学ぶ。だが、まずは、作品を分析する眼を養う必要があるだろう。①視点（語り）、②時間、③登場人物、④比喩（メタファー）の分析眼にもとづいて作品を分析しながら、それを基礎として、作品の芸術性のみならず、作品の歴史性や政治性についても学際的に分析してゆきたい。	共同
	アジア文化論（伝統文化）	敦煌莫高窟は、4世紀から13世紀までのビジュアル資料である壁画を45000㎡以上も残す、中国の歴史研究資料の宝庫である。また同じ敦煌の莫高窟からは、1900年の初夏、敦煌の莫高窟藏経洞から6万点をこえるともいわれる膨大な写本群、いわゆる敦煌文献が発見されている。これらの壁画資料と文献資料は貴重な研究資料として保管され研究されてきたが、これらを併せ研究する「敦煌学」によって、これまでに多くの歴史上の謎が解明されてきたのである。 とくに敦煌文献は、何らかの理由によって紀元1000年頃に封蔵された敦煌の寺院に収蔵されていた文書であるとされ、中には仏教経典を始め、道家、儒家関連の文書などの経典類ばかりではなく、帳簿などの経済文書、説経の台本、占いの本、当時流行していた歌詞、小説、学習の為に使用された当時の教材、民間信仰の状況を書き残す資料など、伝世の資料には残されない庶民層の資料が多く残され、社会の状況や庶民の生活についてそれまでに知られてこなかった歴史の裏舞台が知られるようになったのである。 本講義では、こうした敦煌文献の中から、「変文」と呼ばれる講唱文学の台本をテキストとして講読し、そこから読み取れる中国の文化について考えていきたい。	共同
ヨーロッパ社会論	（概要）白人性とは何か。従来のマイノリティ研究においては、多数派の側の文化や価値観が当然の基準とされ、基準から外れているとされるマイノリティの側に、それらとどう整合性を作り上げていくのかが問われてきた。しかし、当然の	オムニバス方式・共同（一部）	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム プログラム プログラム 専門 科目		<p>基準とされた多数派の文化や価値観自体を考察の対象にする「白人性」研究なしには、社会の抱えるマイノリティ問題解決へのアプローチは不十分とは言えまいか。本講義では、ヨーロッパを、地理的概念ではなく、ヨーロッパからの白人が移り住んで国民国家を形成した南北アメリカやオセアニアを含んだ同質地域として捉え、それらの植民地から国家形成に至る中で生み出された「人種問題」を概観し、白人性研究のテキストを利用しながら、教員と受講生との間で、議論をすることで理解を深めていくことを目指すものである。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(92 長田 浩彰・201 河合 信晴／8 回) (共同) 本講義の概要説明, ガイダンス 概要に示した具体的講義, 及びテキスト内容に関するディスカッション</p> <p>(92 長田 浩彰／7 回) 概要に示した具体的講義, 及びテキスト内容に関するディスカッション</p>	
	ヨーロッパ文化論	<p>(概要) ヨーロッパにおける余暇文化の展開。近代以降、ヨーロッパでは、それまで混交状態にあった時間が、労働とそれ以外の時間に分離してきた。その中で、余暇は、労働力を回復するためのものという意味を離れて、様々な使いかたが考えられるようになった。また、余暇活動は私的なものとしてだけでなく、社会的な意味を持つこともあった。従来の余暇やそれに関する社会空間の在り方を論じた研究を参考にしながら、余暇が時間そして活動として、ヨーロッパにおいてどのような意味を現在持つに至ったのか、そして、他の地域にはいかなる影響が及んでいるのか、いないのかを、関係するテキストを読み、教員と学生との議論を通じて理解を深めたい。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(201 河合 信晴・92 長田 浩彰／8 回) (共同) 本講義の概要説明, ガイダンス 概要に示した具体的講義, 及びテキスト内容に関するディスカッション</p> <p>(201 河合 信晴／7 回) 概要に示した具体的講義, 及びテキスト内容に関するディスカッション</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	欧米地域研究	<p>(概要) イギリスは、いわゆる産業革命を最初に経験した国であり、また広大な植民地を持つ植民地帝国でもあった。産業革命やイギリス帝国の拡大は今日の世界に重要な影響を与えた出来事であり、現代の日本社会にも影響を及ぼしている。本講義ではこのイギリスの近現代の歴史に焦点をあて、前半では産業革命とそれに伴って発生した環境問題（特に煤煙問題）について、後半ではイギリス帝国の形成から崩壊までの過程と、帝国を支えていた経済的、人的ネットワーク、軍勢力やイデオロギー、そして帝国支配が孕んでいた矛盾などの諸側面について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(183 薩摩 真介・184 春日 あゆか／1 回) (共同) なぜ、イギリス史／イギリス帝国史を学ぶのか？</p> <p>(184 春日 あゆか／7 回) 産業革命と都市環境の悪化について検討。</p> <p>(183 薩摩 真介／7 回) イギリス帝国の歴史を 16 世紀から 20 世紀まで検討。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	アジア地域研究	<p>(概要) ウェスタン・インパクト以後の中国において、国家統合・国民統合のための重要な課題として位置づけられた立憲主義の導入と定着の問題について、清末から中華民国、現代中国・台湾までを含む長期的な視点に立って分析を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム 専門 科目		<p>その際、特に西洋近代思想の受容を巡る日本・欧米との「思想の連鎖」、中央政府と地域権力の対抗関係などを含む中央—地方関係に着目して、立憲主義の受容とそれを巡る議論、各政権による憲政構想の展開、及び憲政実施の政治過程などについて検討する。これらの分析を通じて、近現代中国における政治統合の特徴と立憲主義の東アジアでの展開の世界史的な意義について考える。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(99 水羽 信男・100 丸田 孝志／1回) (共同) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(100 丸田 孝志／7回) 清末から中華民国国民政府時期までの立憲主義をめぐる中央—地方関係</p> <p>(99 水羽 信男／7回) 中華民国国民政府・中華人民共和国・台湾の立憲主義及び日本・欧米との「思想の連鎖」</p>	
	英米社会論 (国際関係)	<p>開発主義は一部の人がとっては豊かさをもたらす一方で、経済的格差を拡大させてきたことは、よく知られている。この授業では、経済分野と比べてあまり取り上げられないことがない軍事開発主義を主として取り扱う。授業では、具体的事例をもとに軍事開発主義の歴史や実態について理解を深めるとともに、それを温存する社会構造について考察する。さらに、以上のような講義内容と並行して、軍事環境問題に関する基本文献(英語、日本語)を講読する。</p>	
	ヒロシマ平和学	<p>カタカナの「ヒロシマ」に違和感を持つ被爆者もいるという。また「ナガサキ」と並列しない単独の「ヒロシマ」の意味とは何か、という疑問もある。他方、平和については非武装中立を是とする立場だけでなく、武力で平和を守るという人びともいる。本講義では、広島近代から現代の軌跡を多角的に論じ、また平和をめぐる思想の展開過程を基本文献の精読を通じて理解する。だが何よりも重視したいのは、受講生との討論である。それは私たちの「平和を科学する思考力」を深めることを授業の目的とするがゆえである。</p>	共同
	英米文化論	<p>英米で発表された表象作品の分析を通して英米の文化の理解を深める。表象作品は映画を中心とし、一つのテーマに即して年代順にその変遷を見る。その際に、社会の変化、科学的な知見の進展、人々の認識の変化等の多様な力学がその変遷にどのように関わっているかを考えていく。15回の授業の前半は実際の作品を部分的に見ながら講義を進めるが、受講生に基礎的な文化背景や分析方法への理解が進んだ段階で、受講生にも課題となる作品の分析を試みて貰う。</p>	共同
	英米文藝社会研究	<p>英語圏の文学作品に見られる時代精神の影響や社会との関係について考察する。とりわけ古今東西の有名な紀行文学を取り上げ、講義とテキスト抜粋の読解やディスカッションなどを通して、古代から現代にいたる旅の諸相とその記述スタイルの変遷や、作家たちの異文化を見る眼差しや他者表象のあり方、あるいは性差による相違まで、様々な観点から、ときに日本と比較しつつ、旅と移動をテーマにした文学と社会の関係について理解を深める。</p>	共同
	宗教学	<p>(概要) 仏教及びキリスト教は、それぞれ宗派ないし教派に分かれて存在してきた長い歴史を持つ。本講義では、それら宗派・教派が成立してきた歴史と要因について概観することを通して、仏教とキリスト教の全体像を整理して把握すると共に、それぞれの宗教がどのような問題を自宗教にとって本質的な問題と見なしてきたか、また分派とはそもそも何なのかといった問題についての理解を深める。さらには、仏教とキリスト教との比較考察も試みる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(93 辻 学・187 杉木 恒彦／1回) (共同) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(93 辻 学／7回) キリスト教の歴史と教派の成立過程、各教派の特徴</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム プログラム 専門 科目		(187 杉木 恒彦/7回) 仏教の歴史と宗派の成立過程, 各宗派の特徴	
	宗教聖典論	宗教の理解には, それぞれの宗教が有している聖典の精読と正確な理解が不可欠である。そこで授業の中で, 仏教及びキリスト教が有している主要な聖典を受講者と共に講読していく。受講者は, 事前にテキストを分担して読み, その意味するところについて考察した後, 授業の中で発表する。聖典の原語(サンスクリット, 古代ギリシア語等)の知識は特に前提とはしないが, 複数の翻訳を比較し, 注釈本にあたるといった作業は準備段階で求められる。	共同
	社会人類学	社会人類学は, 社会関係の組織のされ方, 及び社会関係の中での自己形成の多様性と変化をフィールドワークによって調べ, 特定の社会や事象についての理解を深めると同時に, 人間社会一般についての洞察を得ようとする研究領域である。この授業では家族, 親族, 共同性, 主体形成, 自己などの特定のトピックに関する社会人類学の議論を紹介することで, 受講生が社会人類学の概念, 実証的知見, 方法に関する知識を習得し, それらを自らが選択した特定の事例の考察・分析に応用できるようになることを目指す。	共同
	民族誌論	この授業では, 社会・文化人類学の主要な調査研究方法であり, また調査研究の成果でもある民族誌について論じる。授業の目標は, 受講生が, 人々間での参与観察やインタビューの持続的な実施によって特徴づけられる民族誌的アプローチに関する知識を習得すること, 異文化/他者の表象に伴う諸問題への理解を深めること, そしてそれらを通して現代世界における民族誌の可能性を探求し, 自らの研究実践においても民族誌的手法を活用できるようになることである。授業は, 担当者が選定した, 民族誌的手法に関する諸文献, 及び調査研究成果としての民族誌を講読する形ですすめられる。	共同
	科学・技術・社会論	(概要) ある社会, 国において科学者に期待される役割は異なっている。社会のあり方に従い科学者の待遇は変わり, また彼らに要求される知の中身や外界とのコミュニケーションのあり方も変化する。この授業では, 社会のアクチュアルな問題と科学者との接点・交渉を取り上げる。前半は戦争と科学(科学者)を, 後半は宗教と科学(科学者)をテーマとする。まず教員からそれぞれの問題領域に関する概説と事例研究を提示する。その後, 受講者と教員が共通のテキストを使って, 当該テーマに沿ったディスカッションを行う。受講者に研究発表をお願いする場合もある。 なお, 見学授業を組み入れる場合は講義・ディスカッションのテーマは仮のもので, 変更される場合があることを了解していただきたい。  (オムニバス方式/全15回)  (53 市川 浩・135 三村 太郎/1回)(共同) 本講義のガイダンス, 概要説明  (53 市川 浩/7回) "戦争と科学者"をテーマとするテキスト(広島大学総合科学部編『"戦争と科学"の諸相—原爆と科学者をめぐる2つのシンポジウムの記録—』—丸善 2006年—, 等々)を輪読する。  (135 三村 太郎/7回) "宗教と科学者"をテーマとするテキスト(Thomas Dickson『科学と宗教 [サイエンス・パレット]』—丸善 2013—, 等々)を輪読する	オムニバス方式・共同(一部)
社会文化史	地中海周辺の西ヨーロッパを対象とした活版印刷とそれ以降の書物文化と読書のあり方を16世紀初頭のパリの都市空間の中で具体的に明らかにする。資料には, 古地図, 物語や旅行記などの文学作品, 日記, 裁判記録, 説教書など様々な文献を使用し, アナール派以降の歴史研究を踏まえた上で, 16世紀パリのトポグラフィーから出発し, 当時のテキストに関わる様々な問題を分析しながら, テキストの著者表象, 西洋の「個人」の成立と共同体との関わりに焦点を合わせて考察する。	共同	
教育文化史	子どもがある社会のなかに生まれ成長していく過程を「人間形成」とするならば, それを促す行為は, 古来, 時代とともにそのかたちを変えながら世界各地で受け継がれてきた。その普遍的な営みは, 地域, 時代, 民族, 宗教, 階層, 性	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム 専門 科目		別などさまざまな条件に制約されつつ、まずは家族や共同体のなかでおこなわれてきた。そして、19世紀の近代国家成立とともに、そうした営みに国家が介入しはじめ、とくに公教育制度というかたちで国家の影響力が拡大していった。本講義では、近代国家成立期から現代にいたるまで変遷を遂げてきた公教育制度が果たしてきた機能及びその意義と問題点について、事前に配布するさまざまな文献を参照しながら、学校と社会との関連において多角的な視点から考察する。	
	異文化理解	異なる文化が交わる時には、さまざまな力関係が働く。本授業では19世紀終わりのドイツとナイジェリアを舞台とする文学作品（フォンターネの『罪なき罪』とアチエベの『崩れゆく絆』）をおもな題材として取り上げ、それらの力関係を、ジェンダー、民族、人種、階級、国籍などの視点から分析することを学ぶ。さらに、東アジアの同時代を舞台にする文学作品も比較の対象としてとりあげる。	共同
	持続可能な観光発展論	（概要）この授業は持続可能な観光に関する理解を深めることを目的とする。観光の発展は環境、社会、文化、経済の側面から地域に影響を与える。そこでまず、観光地理学の分析方法を学びながら観光と地域発展の相互関係を理解する。次に観光の影響を評価する基準や方法とその課題について学ぶ。最後に受講者が事例を取り上げ、評価を試みる。授業は完全に英語で実施し、学生による発表とディスカッションも基本的に英語で行うが、レポートを日本語で提出することも可能とする。  （オムニバス方式／全15回）  （102 FUNCK, CAROLIN・ELISABETH HANNA・202 張 慶在／3回）（共同） 本講義のガイダンス、概要説明 持続可能な観光とその事例についてのディスカッション  （102 FUNCK, CAROLIN・ELISABETH HANNA／12回） 持続可能な観光発展論についての講義	オムニバス方式・共同（一部）
	文化観光論	（概要）本授業は、文化観光（Cultural Tourism）について総合的理解を深めることを目的とする。まず、グローバル文化観光のフレームワークを理解した上、文化観光に関わる政治、経済、社会的イシューについて学ぶ。その中で、ヘリテージツーリズム、先住民観光、アート観光、コンテンツツーリズムの事例を紹介する。最後に、受講者の発表を聞いてディスカッションを行う。授業とディスカッションは英語での実施を基本とする。  （オムニバス方式／全15回）  （202 張 慶在・102 FUNCK, CAROLIN・ELISABETH HANNA／3回）（共同） ガイダンス、授業の目的と到達目標を説明 様々な文化観光の事例についてディスカッションを行う。  （202 張 慶在／12回） 文化観光についての講義	オムニバス方式・共同（一部）
	社会動態論	基礎的な文献・資料をテキストにして、日本社会の基底的な変化の動向とそれに伴う社会問題、及び対応策を検討する。受講者は指定のテキストと配布資料を精読し、講義で取り上げる問題を事前に検討し、疑問を持って授業に臨むことを予習課題とする。授業では次のよう問題を取り上げる。1 二〇世紀以降の日本の人口動態の特徴。2 戦後日本の社会経済的な変化の特徴。3 グローバリゼーションの進行と日本社会への影響。4 日本の格差の拡大はどこまで進んでいるのか、その原因と影響に関する近年の議論。5 格差の拡大に伴う社会問題の特徴。6 現在の社会保障制度の特徴と問題点。7 現代の社会経済構造に対応して社会保障制度やセーフティネットを再構築する必要性と方向性。	共同
社会構造論	本講義の目的は、グローバル社会における諸問題を、社会の構造的側面に依拠して分析することである。講義前半部では、日本社会における事象を検討する。例えば、現在日本において問題となっている、少子高齢化の進行と日本の人口構造、地域社会における過疎化の進行と村落の近代化、労働市場における外国人労働	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プログラム 専門 科目		働者の受け入れと企業組織の構造等について、社会構造の変動過程の観点から考察する。後半部では、グローバル社会における事象を検討する。例えば、現在アメリカで深刻な社会問題となっている中南米からの移民の問題を取り上げる。この問題に関する論点を整理、検討後、本講義では、特に北米（中核）と中南米（周辺）における国家間の階層構造が、移民の発生とどのように関わるかという観点からこの問題を考察する。講義は関連テキストの講読により進める。	
	社会学研究法	社会現象の成立、維持、変化などに関して、正確な認識を得るには、科学的な方法により人間社会にアプローチすることが不可欠である。本講義では、社会学の手法を用いて生産された書籍や論文を読みながら、社会研究のための理論と方法を習得することを目的とする。研究法とはいえ、方法が独立して存在するわけではない。そこで、最初にアクチュアルな社会研究の事例について具体的なイメージを共有するために、担当教員がそれぞれの専門分野において、定性的及び定量的調査を用い、どのような実践がなされているかを解説する。その後、上述のテキストにもとづき、毎回の分担者を決め、全員が参加する演習形式で報告・討議を行う。	共同
	福祉社会論	（概要）人口構成の変化やグローバル化の進展のなか、日本の福祉社会は現在、曲がり角にある。このことを念頭に、本講義では21世紀の日本において、すべての人々の「人間らしい生活」を皆で公平に支えあう、持続可能な福祉社会を如何に構築するかという問いを考察するための基礎知識の理解を深めることをねらう。そのために前半では、社会福祉の歴史、諸理論、諸理論の背景にある価値観（哲学）を検討する。次いで後半では、高齢者福祉、子どもの貧困、人口減少地域の地域福祉、外国籍住民の社会福祉といった現代日本が直面する喫緊の課題をとりあげ、検討する。  （オムニバス方式／全15回）  （191 佐々木 宏・192 河本 尚枝／1回）（共同） 本講義のガイダンス、概要説明  （191 佐々木 宏／7回） 社会福祉の歴史、理論、哲学  （192 河本 尚枝／7回） 現代日本の社会福祉の諸課題	オムニバス方式・共同（一部）
	世界経済体制論	情報革命に伴う世界経済体制の転換過程、つまり、産業革命後の世界工業経済体制との連続性と断絶性を捉えるために、富塚良三の『経済原論』を使って、19世紀のK.マルクスの『資本論』の基本概念とその現代的意義を解説する。その上で、21世紀に入って、なぜ、99%対1%といった不平等が世界規模で同時進行しているかを生産財・消費財・公共財の3部門間の拡大再生表式論でもって検証する。本授業を通して、19世紀と20世紀を比較しながら、現段階の世界経済構造と世界統治形態を総合的に捉えることができる。	共同
	産業システム論	現在の産業は、多くの領域で、グローバル化や自動化などの大きな技術革新の中にある。また従来の産業の枠を超えた提携・合併などが進行している。こうした変化を理解するために、本講義は、産業論の新しい分析手法を学ぶとともに、主要産業の分析事例を学ぶことを目的とする。特に素材産業から電子部品などまでと、裾野が広い総合産業である自動車産業を中心として扱うことで企業間関係について考察する。また非対称性を持つ部品メーカーだけでなく、グローバル・サプライヤーも対象とすることで、現在の特徴を理解することを目指す。	共同
	農村環境社会論	本講義では、農村社会と自然環境をめぐる諸現象や諸問題を解きほぐすために、農村の構造と動態に関する研究史を解説し、近年の主要な議論の論点を整理する。農山漁村で生じる出来事は、地方社会の骨格となる集団とネットワークの基本構造とその動態を抜きにして理解することはできない。講義の前半では、農村理解のベースとなる考えや学説（家村論、共同体論、自治会論、ネットワーク論、移動論など）を解説し、講義の後半では、近年の議論の動向（環境、コモンズ、ジェンダー、国際比較、地域再生）を検討する。	共同
持続可能地域論	持続可能な地域とはどのようなものか、そのような地域をつくるために何が必要かを、地理学・環境社会学等の視点から、受講生との討議を交えつつ検討する。	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間 総合 科学 プロ グラ ム 専 門 科 目		具体的には、いくつか取り上げるテーマに絞って、上記の問いに答えるために、基本的な情報を学ぶとともに、どのような研究計画を構想できるか、討議を通じて考えていく。取り上げるテーマとしては、環境市民活動の意義と役割は何か、環境保全に市民参加を促すために何が必要か、自然環境の保全や野生生物の保護のためになぜその利用を考える必要があるのか、自然の保護・保全につながる利用とはいかなるものであるのか、などを想定している。	
	地域情報論	地域に固有の情報がどのようにして成立するかを考察するとともに、地域を活性化させていくために有効な、新しい価値を生み出すそれぞれの地域固有の情報活用に取り組み成果を挙げている事例について考察を深めていく。授業の中では主に広島県内の事例を紹介し分析していくことによって、地域情報の利活用の仕方について理解を深めるとともに、自らも地域情報によって新しい価値を創造し提案していくことができる能力を身につける。	共同
	生命機能化学	本講義では、生化学及び基礎内分泌学の視点から生命科学の先端的な知見や技術を俯瞰し、その発展性について議論する。まず基礎的な分野と応用的分野のトピックについて掘り下げてその歴史と展開について、次に周辺領域への普及効果や将来性について講義及び討論を行なう。さらに異分野融合型の研究について、その成立と背景、発展性と将来性についての学生主体のアクティブラーニングを行い、より俯瞰的、総合的な視点を育成する。	講義 14時間 演習 16時間
	生態系循環論	(概要)本講義では、森林をはじめとする陸上生態系における物質循環、エネルギー・熱収支に関する基本的事項とその研究手法、応用について学ぶ。  (オムニバス方式/全15回)  (223 中坪 孝之/5回) 植物による光合成生産、微生物による有機物分解をベースに、陸上生態系における炭素動態と環境要因との関連について学ぶ。  (287 土谷 彰男/5回) 森林と非森林地域の温湿度環境、エネルギー収支・放射収支・熱収支、水蒸気パラメーターの違いを習得する。また、森林消失で気候緩和作用がなくなると地表面の気候環境がどうなるか考える。さらに、森林復元と持続的利用を両立するアグロフォレストリーについて考える。  (296 戸田 求/5回) 森林生態系を対象に、微細気象学及び生態系生態学の観点から、積雪なども加味した大気-森林間の相互作用や生態系における炭素・窒素循環に関する理解を深める。	オムニバス方式
	情報システム論	(概要)大きく発展変貌する情報基盤システムとそれが及ぼす人間生活への影響、人間の行動特性という観点から、情報化を議論する。また、このような変革を可能とする情報テクノロジーの基礎技術について論ずる。さらに、社会システムとして学生生活に密接に関係のある大学情報システム等を例に、情報ネットワーク構築や情報に関する基礎技術や先進的な利活用事例などについて議論する。  (オムニバス方式/全15回)  (261 相原 玲二/8回) インターネットの歴史と社会的影響、情報ネットワーク技術及び通信方式の概要について講義し、通信方式(ネットワークプロトコル)の基礎について学習する。さらに、実際のネットワーク技術の基礎について理解を深めるため、大規模キャンパスネットワークの事例研究を行う。  (288 近堂 徹/7回) コンピュータやネットワークの技術を基礎として、大規模分散システムに関する理論や要素技術について講義する。さらにそれらを利用したクラウドサービスやウェブサービスに関する事例研究を行う。	オムニバス方式
	地球表層物質輸送論	(概要)地球表層の物質循環に対して人間活動の影響が様々な地球環境問題を引き起こしてきた。本講義では、地球表層における物質輸送の基盤となる地質構造	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目	人 間 総 合 科 学 プ ロ グ ラ ム	<p>とそれに及ぼす地形過程を学ぶとともに、人間活動と密接な物質循環として窒素及びリンの輸送を学ぶ。特に、それを支配する水文過程についても理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(301 平山 恭之／7 回) 前半「地質構造と地形過程」を担当。</p> <p>(262 小野寺 真一／8 回) 後半「窒素・リン輸送と人間活動」を担当。</p>	
		<p>自然環境リスク論</p> <p>(概要) 地球環境問題、自然災害、環境汚染、資源枯渇、生物種の絶滅など自然環境に関わるリスクは多様である。また、これらのリスクを予測するためには、特にそのリスクが顕在化する過程すなわち時間的に変化することを理解することは重要である。本講義では自然環境に関わる様々なリスクに関して、その多様性と時間的な変化について広く学ぶことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(262 小野寺 真一／3 回) 概要、資源枯渇リスク、土壌劣化リスク</p> <p>(301 平山 恭之／2 回) 地質構造と自然災害リスク</p> <p>(302 兒子 修司／2 回) 生物種の絶滅リスクを古生物から紐解く</p> <p>(289 横山 正／2 回) 風化と自然由来物質汚染リスク</p> <p>(290 並木 敦子／2 回) 火山地域のリスク</p> <p>(291 小澤 久／2 回) 気象災害リスク</p> <p>(270 長谷川 祐治／2 回) 土砂災害リスク</p>	オムニバス方式
		<p>気候変動災害論</p> <p>(概要) 本授業では、気候変動の問題と、土砂災害の問題とを関連づけて論じる。まず気候システムの変動のしくみを、理論や観測データの分析に基づいて総合的に論じ、気候の変動や災害の軽減につながる基礎的な概念を提示するとともに、気候変動がもたらす現象としての土砂災害の発生メカニズムを知るために、降雨とそのとらえ方、斜面の土の力学的特性、土塊の移動現象などの物理的な見方を紹介し、受講者の理解を深めていく。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(291 小澤 久／8 回) 第 1 部「気候変動論」を担当。</p> <p>(270 長谷川 祐治／7 回) 第 2 部「土砂災害論」を担当。</p>	オムニバス方式
		<p>生物多様性科学</p> <p>(概要) 本講義では、生物多様性に関する知見を包括的に理解することを目的に、まず、生物多様性の概念を明確に捉えられるようにするための講義を前半で展開し、同時に生物多様性が維持されるしくみについても説明する。講義の後半では、生物多様性の損失問題について展開し、生物多様性の損失の実態や損失がもたらす悪影響について講義を行い、生物多様性を保全する必要性の理解を促す。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(263 奥田 敏統／9 回)  (1) 生物多様性とは何か説明できる (第 2 回～4 回), (2) 生物多様性が維持されるしくみを説明できる (第 5 回), (3) 生物多様性を評価できる (第 6～8 回), (4) 生物多様性の機能を説明できる (第 9 回)</p> <p>(264 山田 俊弘／6 回)  (5) 生物多様性の損失の概要を説明でき, 生物多様性を保全する理由を述べることができ, 生物多様性の保全方策をあげることができる (第 10 回～15 回) という 5 つの到達目標を設定する。</p>	
プログラム 専門科目	特別研究	<p>(概要) 人文科学, 社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに, 修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定, 検討課題の整理, 既存研究のレビュー, 調査・実験の方法, データ処理・分析手法, 論文執筆, 発表方法の習得 (研究倫理を含む) 等, 研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため, 指導を行う。</p> <p><b>人文学プログラム</b></p> <p>(221 佐藤 利行)  修士論文作成のための資料の収集・整理, その読解力などを深める。</p> <p>(28 高永 茂)  言語学, コミュニケーション学に関する知識を基礎として, 実証的な研究を行ってもらいたいと考えている。</p> <p>(56 中村 平)  日本学, 人類学, 歴史学, 社会思想史, 文化理論などの諸領域における知見に学びつつ, こうした人文学の広さのなかで自分の問題意識に沿った方法論を思考し, 周囲の人々と討議し, 獲得することを方針としている。</p> <p>(8 溝渕 園子)  翻訳文学や世界文学を含む比較文学や, 国際的な視点から見た日本近現代文学の研究指導を行う。</p> <p>(245 本田 義央)  学生の研究課題に応じて修士論文執筆を指導する。</p> <p>(153 LAURI KITSNIK )  映像を中心とした表象文化に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(210 劉 金鵬)  戦後日本知識人のアジア論を中心とする日本現代史に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(46 後藤 弘志)  西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう, または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(116 赤井 清晃)  西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう, または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(138 裕 智樹)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>西洋哲学に関する修士論文の作成を通じて学界水準の研究能力を身に付けられるよう、または特定課題研究の作成を通じて教員・学芸員・公務員などの専門職業人に求められる能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(57 根本 裕史) 修士論文作成のための文献研究指導。</p> <p>(106 川村 悠人) 修士論文作成のための文献研究指導。</p> <p>(9 衛藤 吉則) 修士論文の作成に当たり、研究課題の選定、先行研究の把握、資料の収集・分析、論文作成の方法を指導し、論文作成の助言をおこなう。</p> <p>(107 後藤 雄太) 修士論文作成の指導。資料の扱い方、原典の読解の仕方、さらに、文章の作成、独創性の発揮、論文の構成のあり方等を指導する。</p> <p>(299 岡本 慎平) ロボット倫理学を中心とした応用倫理学に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(29 有馬 卓也) 漢代から魏晋南北朝期に至る思想・文化、及び日本思想に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 末永 高康) 経学及び先秦諸子、並びに出土文献を資料とする哲学・思想に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 本多 博之) 日本中世史研究に関する修士論文に取り組む学生を個別に指導する。</p> <p>(58 中山 富廣) 日本近世史研究に関する修士論文に取り組む学生を個別に指導する。</p> <p>(108 奈良 勝司) 明治維新をはさむ19世紀日本の歴史に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(59 金子 肇) 近現代中国史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。</p> <p>(30 八尾 隆生) アジア史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。</p> <p>(117 船田 善之) 前近代中国史・内陸アジア史専攻の院生を対象に修士論文執筆能力を養成する。</p> <p>(31 井内 太郎) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、近代史専攻学生の個別指導を行う。</p> <p>(12 前野 弘志) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、古代史専攻学生の個別指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(139 足立 孝) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、中世史専攻学生の個別指導を行う。</p> <p>(32 有元 伸子) 個別指導と集団指導を組み合わせつつ、論文の構想から執筆までの支援を行って、修士論文の完成を目指す。</p> <p>(44 久保田 啓一) 日本古典文学（主に近世文学）に関する修士論文の完成に至るまで懇切な指導を行う。</p> <p>(47 妹尾 好信) ゼミ形式による集団指導を基本としつつ、日本古典文学（特に古代・中世文学）に関する修士論文の完成まで丁寧な指導を行う。</p> <p>(141 白井 純) 日本語学に関する修士論文を作成、完成させるまで懇切に指導する。</p> <p>(140 下岡 友加) 日本近現代文学に関する修士論文を作成するに必要となる指導を行う。</p> <p>(13 小川 恒男) 中国古典詩を研究対象として修士論文を作成する院生を主に指導する。</p> <p>(60 川島 優子) 中国の古典小説を研究対象として修士論文を作成する院生を主に指導する。</p> <p>(142 陳 チュウ) 中国古典文学、文献学及び東アジア書籍・学術交流史を研究テーマとして修士論文を作成する院生を主に指導する。</p> <p>(33 大地 真介) アメリカ文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(61 吉中 孝志) イギリス戯曲・詩文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(70 VALLINS DAVID MCNEILL) 英語圏文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(154 倉田 賢一) イギリス小説を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(206 松本 舞) イギリスの形而上派詩文学等に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(14 今林 修) 英語学の修士論文作成または特別研究課題のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>(143 大野 英志) 英語学の修士論文作成または特別研究課題のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>(15 小林 英起子)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>近現代ドイツ文学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。</p> <p>(71 FEDERMAIR LEOPOLD) 近現代ドイツ語圏文学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。</p> <p>(144 今道 晴彦) ドイツ語コーパス言語学を中心に修士論文執筆に向けた個別指導を行う。</p> <p>(34 宮川 朗子) 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし、個別的な指導を行う。</p> <p>(156 LORRILLARD OLIVIER ALAIN) 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし、個別的な指導を行う。</p> <p>(155 BEAUVIEUX MARIE NOELLE BENEDICTE ISABELL) 修士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし、個別的な指導を行う。</p> <p>(35 今田 良信) 学生のより良い修士論文の完成のため、言語学の一般的観点、および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについての的確な助言を与える。</p> <p>(109 上野 貴史) 学生のより良い修士論文の完成のため、言語学の一般的観点、および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについての的確な助言を与える。</p> <p>(137 深見 兼孝) 韓国語を中心とした東洋の言語に関する修士論文または特定課題研究の指導を行う。</p> <p>(37 奥村 晃史) 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(36 友澤 和夫) 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(145 後藤 拓也) 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(118 後藤 秀昭) 修士論文または特別課題研究の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(62 竹広 文明) 石器文化、石器石材の利用・流通の通史的な調査研究から、先史時代における社会複雑化過程の解明を行う。</p> <p>(38 野島 永) 弥生時代・古墳時代から古代にかけての鉄器文化の考古学的研究を行う。</p> <p>(146 有松 唯) 西アジア初期鉄器時代の土器文化研究から、当該期の社会構造研究を行う。</p> <p>(16 安嶋 紀昭) 美術作品（絵画・彫刻・書蹟など）に関する修士論文執筆指導。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(110 伊藤 奈保子) 東南アジアの宗教美術に関する研究・日本の工芸に関する研究についての論文指導。</p> <p><b>心理学プログラム</b></p> <p>(220 宮谷 真人) 実験系心理学, 特に, 注意, 記憶, 言語などの心の働きに関する研究指導を行う。</p> <p>(69 中條 和光) 学習心理学・認知心理学, 特に, 記憶に関する認知心理学的研究, 文・文章理解に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(42 森永 康子) 社会心理学, 特に, ジェンダーに関する社会心理学的研究の研究指導を行う。</p> <p>(72 湯澤 正通) 教育・社会系心理学, 特に, 概念・思考の発達と教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(26 森田 愛子) 教育心理学・認知心理学, 特に, 読解や記憶, 教材デザイン, 学習意欲に関する研究指導を行う。</p> <p>(27 杉村 和美) 発達心理学, 特に, 青年のアイデンティティ発達プロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>(45 杉村 伸一郎) 幼児心理学, 特に, 幼児期における認知発達と遊びに関する研究指導を行う。</p> <p>(152 中尾 敬) 認知心理学・神経科学, 特に, 自己, 迷い, 意思決定などに関わる心と脳の機能に関する研究指導を行う。</p> <p>(136 中島 健一郎) 社会心理学, 特に, 自己, 他者, 集団, 社会の重層性に関する研究指導を行う。</p> <p>(115 梅村 比丘) 発達心理学, 特に, アタッチメント理論 (愛着理論), 日本文化における子どもの発達と適応・不適応に関する研究指導を行う。</p> <p>(123 清水 寿代) 幼児心理学, 特に, 幼児期の社会性の発達と適応に関する研究指導を行う。</p> <p>(199 平川 真) 社会心理学, 特に, 意図伝達過程及び他者の態度表象の形成過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(208 神原 利宗) 言語心理学, 特に, ことばの学び, 理解, 発話に関する研究指導を行う。</p> <p>(17 服巻 豊) 臨床心理学・コミュニティ心理学, 特に, 緩和ケア, 透析ケア, ストレスマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(63 石田 弓) 臨床心理学, 特に, 臨床描画法の研究及び学校心理臨床に関する研究指導を行</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>う。</p> <p>(147 尾形 明子) 臨床心理学, 特に, 医療心理学, 子どもの心理的問題, 認知行動療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(111 上手 由香) 臨床心理学, 特に, 力動的心理療法におけるトラウマへの援助, 思春期・青年期の心理臨床に関する研究指導を行う。</p> <p><b>法学・政治学プログラム</b></p> <p>(18 江頭 大藏) 社会学の概念や研究手法を用いた現代社会の分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(74 横藤田 誠) 憲法又は医事法に関する修士論文の作成に対する指導を行う。 受講者の修士論文のテーマ案に関連する文献を講読し, 討論していく中で, テーマを確定する。テーマ確定後は, それに 関する発表・討論の中で考察を深めていく。 毎回, 受講者が修士論文のテーマに関する発表を行い, それに対して教員が質問・助言を行い, その後他の受講者を交えて討論を行う。参考文献等は随時指示する。 必要に応じ, 修士論文のテーマについて教員がレクチャーを行い, その後討論を行う。</p> <p>(19 宮永 文雄) 民事手続の理論と実務, 及び裁判外紛争処理に関する研究指導を行う</p> <p>(79 堀田 親臣) 民法(財産法)の中でも, 不動産を中心とした所有・利用関係の諸問題, それ が担保に供されたときの法律関係, 侵害に対する効力等の問題について教育・研究指導を行う。また, 不動産と関わりの深い環境問題や自然災害に関する法的问题についても, 主として私法の視点から教育・研究指導を行う。</p> <p>(160 茂木 康俊) 比較自治体論や行政学に関する研究指導を行う。</p> <p>(77 森邊 成一) 修士論文の作成に向けて, 最初のセメスターでは, 個々の学生の問題関心に合わせて, 研究課題が設定できるように学習を指導する。また, 政治上の様々な理論モデルについて学習する。第二セメスターでは, 研究史を整理し研究課題を学問的に提起できるようになるとともに, 資料収集の方法を指導し, 国立公文書館や国会図書館などの利用ができるようになることを目指す。また, 研究課題の分析を進めるにあたって, 適用可能な理論モデルについての理解を深める。第三セメスターでは, 使用する理論モデルを定めるとともに, 必要な資料を収集・整理する。第四セメスターでは, 修士論文の執筆を, 添削を含めて指導する。</p> <p>(83 吉中 信人) 博士課程前期院生が, 学術的な修士論文を作成できるようになることを目的として, 刑事法領域における受講生の専門的テーマに対応した指導を行う。第一段階として, 参照すべき文献・資料等の指導, 比較法的見地からの外国法制度の指導, アプローチの方法について, 専門的論文作成のために不可欠な方法論の確立を目指す。第二段階として, 受講生が定めたテーマについて, 内容の吟味を行い, 既存の判例・学説に対する正確な理解を確認しつつ, その分析と総合について, 徹底した討論を行う。最終段階として, 導出された既存の判例・学説状況の当否を検討し, その上で私見の提示が行えるようになることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(81 三井 正信) 労働法の観点から、理論状況を的確に押さえ雇用社会の現実やワーキングライフの展開をも踏まえつつ修士論文のテーマの選定、修士論文の全体構成案の作成、修士論文テーマに関する文献資料の収集・調査、修士論文の中間発表を総合的・有機的に行う。</p> <p>(80 松原 正至) 修士論文の作成に向け、個々の学生のテーマにしたがって、論点整理とともに判例の分析や文献の読み込みを行う。それを繰り返すことで修士論文の完成を目指す。</p> <p>(78 手塚 貴大) この授業は、大学院生が執筆した租税法に関する修士論文の指導を行い、完成にまで導くことを目的とする。素材は院生の発表する論文草稿である。</p> <p>(82 西谷 元) 国際法また国際機構法に関する知識を前提に、論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(2 吉田 修) 国際関係、外国政治、地域研究の分野での論文指導を行う。文献レビュー、章構成、分析手法や論理的枠組み等について検討する。</p> <p>(247 永山 博之) 特別演習Ⅰの内容を継承して、国際政治学及び安全保障についての研究成果を修士論文の作成に生かしていけるように、履修者に対して研究指導を行う。</p> <p>(75 鈴木 玉緒) 社会学を専攻する大学院生が、論文執筆のための先行研究の探索と読み込みを行います。まずは先行研究をベースとして拡充すべき論点の抽出やその再調査を行い、周辺関連分野における文献の渉猟や、海外との比較などの作業を、必要に応じて行う予定です。</p> <p>(76 浅利 宙) 社会学の方法論を基盤に、主に法社会学の研究領域、及び家族、地域社会、社会福祉に関連する領域の論文作成指導を行う。</p> <p>(158 井上 嘉仁) 憲法学に関する修士論文を作成するのに必要な指導をおこなう。アメリカの憲法判例及び Law Review の検討を中心におこなう。</p> <p>(161 山口 幹雄) 日本民法における債権発生原因（契約、事務管理、不当利得及び不法行為）の法的規律等に関する研究指導を行う。</p> <p>(157 岡田 昌浩) 主に企業法の領域に関し研究し、修士論文を作成する。</p> <p>(159 田中 優輝) 刑事法、その中でもとりわけ実体法に関する論文作成指導を行う。</p> <p>(73 折橋 洋介) 行政法学の研究を自ら行う能力を養うことを目的とする。</p> <p>(164 加藤 紫帆) 国際私法（又は抵触法。以下、「抵触法」という）とは、二つ以上の（国家）法秩序に関連を有する私人間の法律関係から生じる法的問題を扱う法律ないし法分</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>野であるが、本特別研究では、抵触法上の問題を題材とする論文を執筆する予定の学生に対して論文指導を行なう。</p> <p>(163 湯川 勇人) 受講者は、歴史的又は現代的な日本外交の事象、問題とそれを取り巻く国際関係を取り上げ、そのテーマについての修士論文を作成する。</p> <p>(162 長久 明日香) 国際政治経済に関する研究指導を行う。国際関係論、国際政治経済学の理論に基づき、テーマの設定、分析方法について議論した上で、各自の研究関心に沿った論文作成を指導する。具体的な指導方法は各自の専門によって異なるが、基本的には理論に基づいた事例研究の方法について検討した上で論文作成を行ってもらい、その内容を添削する形で進める。</p> <p><b>経済学プログラム</b></p> <p>(64 瀧 敦弘) 労働経済学又は労使関係論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。理論分析・実証分析の指導だけではなく、それらのプレゼンについても指導する。</p> <p>(49 千田 隆) 金融論を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は金融政策の理論的分析能力を習得したうえで、計量経済学の本を講読し、金融政策の効果の数量分析を行うことである。</p> <p>(84 山田 宏) 計量経済分析手法の開発・評価もしくは応用を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。研究テーマに関して、(計量経済学の分野に限らない広い分野における)最先端の研究動向の把握とそうした研究内容への深い理解を踏まえた競争力のある研究論文を作成するために必要な事項を扱う。</p> <p>(85 早川 和彦) 計量経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、自分自身で、理論的な分析と数値実験ができるようになることである。</p> <p>(86 西埜 晴久) 計量分析の手法の開発及びその応用を行う。特に、いくつかの応用分野を選定して行う。具体的には、経済不平等度、保険データ、人口統計といった経済・金融データ分析を対象とする。そのために海外で標準的なテキストブック及び英語文献を読み解き、理解する能力を養う。合わせてデータ分析のためのプログラミングの能力を育成し、必要に応じてシミュレーション実験も行うこととする。</p> <p>(87 二村 博司) 財政学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は財政政策の理論的分析能力を習得したうえで、各自パソコンを用いて、財政政策の効果の数量分析を行うことである。</p> <p>(20 大澤 俊一) 財政学・公共経済学・地方財政論・環境経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は様々な経済政策の経済学的手法による分析と英語の論文を読解する能力を養うことである。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(21 大内田 康徳) 競争政策や環境政策に関連した分野を専攻する学生を対象とした修士論文の作成を指導する。政策的な議論のために求められる理論的な分析能力を習得し、そして応用マイクロ経済学的手法などを用いた政策分析を行うことを目標とする。</p> <p>(88 山口 力) 公共経済学の分野における修士論文の執筆指導を行う。関連論文のサーベイを通じた既存研究の整理を行ったうえで、独創的な研究を行い、その成果を論文としてまとめることを目的とする。</p> <p>(65 友田 康信) 応用理論研究の手法に基づいて、修士論文の作成指導を行う。当該分野の先行研究のサーベイを踏まえて、学生の問題意識にふさわしい独自の応用理論モデルを盛り込んだ修士論文の作成を目標とする。</p> <p>(165 安武 公一) 計算社会科学 (Computational Social Science), 深層学習 (Deep Learning) など新しい社会科学アプローチの習得も視野に入れて、修士論文の作成指導を行う。具体的には、最先端の論文・文献の精読とサーベイ、研究課題となる「問」の導出、「問」への「解」を導くために必要なデータ解析手法、基礎理論の習得、国内外での研究発表等について、個別指導を行う。</p> <p>(89 森 良次) 欧米経済史を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は指導学生の研究テーマ・実証課題を具体化することであり、そのために研究テーマに関連する先行研究の輪読を行う。</p> <p>(166 宮澤 和敏) 経済学史を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、経済学史上の諸学説の方法的・理論的特徴を理解するとともに、経済学の歴史を通して発展してきた資本主義経済の基礎理論について基本的知識を習得することである。</p> <p>(119 小野 貞幸) ファイナンス分野の修士論文の主要目的である実証を行うための高度なデータ解析手法を習得する。論文の題目を決定し関連した研究論文の概要の発表を行いファイナンスにおける研究分野の知識を深める。</p> <p>(48 鈴木 喜久) ファイナンスを専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標はファイナンス分野の諸問題・諸現象に対する理論的分析能力を修得したうえで、実際のデータを用いた計量ファイナンス手法による実証分析を行い、対象とする理論及び現象に関する理解を深めることである。</p> <p>(128 山根 明子) ファイナンスを専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、ファイナンスに関する理論的分析能力を習得したうえで、証券市場に関する実証分析を行うことである。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(112 大河内 治) ゲーム理論のモデルを応用する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は経済政策の理論的分析能力を習得したうえで、各経済主体の戦略的な行動と、経済政策、制度改革の現実的な効果を理論的に分析することである。</p> <p>(120 折登 由希子) 経済情報分析を研究テーマとする学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。経済学分野における最適化問題へ適用する最適化手法の基礎理論と基礎アルゴリズムの習得を行う。</p> <p>(39 角谷 快彦) 医療経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は実証研究の分析手法を習得したうえで、各自パソコンを用いて、データ分析を行うことである。</p> <p>(105 佐野 浩一郎) 公共経済学を専攻する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は、自分自身で最新の文献を理解し、独自の問題設定を行ったうえで、理論的な分析ができるようになることである。</p> <p>(167 増澤 拓也) 数理経済学およびゲーム理論を応用する学生を対象とした修士論文の作成指導を行う。目標は理論的に有意義な問題の定式化とその解決を、正確に行うことである。</p> <p><b>マネジメントプログラム</b></p> <p>(254 加藤 厚海) 主に、同族経営、中小企業、起業家、企業間関係、産業集積などを題材とした研究指導を行う。</p> <p>(22 PELTOKORPI VESA MATTI) 組織行動・人的資源管理論・国際経営に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 築達 延征) 経営組織・CSR・企業倫理・比較経営に関する研究指導を行う。</p> <p>(66 小柏 葉子) グローバル化、リージョナリズム、トランスナショナル研究を中心とした国際関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(67 盧 濤) 異文化コミュニケーション及び異文化ビジネスコミュニケーション研究の遂行に必要な専門知識や概念、調査方法等を習得させるとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。専門性のある具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、関連論文の解説、データ収集、調査の方法、調査結果の分析、研究動向の把握、発表方法の習得等、当該領域研究の遂行に必要な知識、概念及び方法を習得するため、ゼミナール方式で研究指導を行う。</p> <p>(130 秋山 高志) 経営戦略とイノベーション・マネジメント分野における専門的知識を習得させるとともに、学位論文作成に必要な研究計画の立案、実施における学術的能力の養成を図る。具体的には、少人数の演習方式で各受講生の進捗状況を踏まえつつ、</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮設の導出、データの収集、分析、考察、プレゼンという論文作成上の手法を体系的に研究指導する。これらを通して、修士論文や学術誌投稿論文の執筆を綿密に支援・促進する。</p> <p>(122 徐 恩之) 企業のマーケティング戦略や消費者の反応に関する研究指導を行う。</p> <p>(131 奥居 正樹) 組織内における対人コミュニケーションの伝え方とその操作性、マネジメントにおける意味・価値の創出・伝達に関する研究指導を行う。</p> <p>(148 相馬 敏彦) 社会心理学や組織心理学の知見をベースに、さまざまな社会行動についての研究指導を行う。</p> <p>(149 原田 隆) 組織や社会の活動を支えるシステムへの情報通信技術の応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(113 松嶋 健) フィールドワークを中心とした人類学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(23 星野 一郎) 在学生の自主性を尊重しつつ、財務会計分野、企業会計分野における修士論文作成のための研究指導を行う。</p> <p>(197 金 宰ウク) 管理会計分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析方法等を習得させるとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。専門性の高い研究課題の設定、関連研究の動向把握と整理、関連文献を含む資料の収集、データの解析など、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得するため、個別的な指導を行う。</p> <p>(160 茂木 康俊) 地域経営論と公共経営論に関する研究指導を行う。</p> <p><b>国際平和共生プログラム</b></p> <p>(5 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。</p> <p>(3 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、修士論文の作成を目指す。</p> <p>(104 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。</p> <p>(132 掛江 朋子) 紛争解決論、国際法の観点から、受講生の研究テーマに即して具体的事例、理論枠組みを検討し、修士論文の完成を目指す。</p> <p>(168 長坂 格) 人の移動、家族親族に関する文化人類学及び隣接分野の文献の検討、受講生による調査報告を通して、現代世界における民族誌的アプローチの可能性を探求する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門 科目		<p>(198 中空 萌) 文化人類学の最新の文献の購読, 修士論文の基礎となるレビュー論文の執筆, フィールド調査の報告を行う。</p> <p>(2 吉田 修) 最新の文献のレビューを通じて, 国際政治及び国際政治経済に関するより深い理解を追求する。</p> <p>(1 川野 徳幸) 平和学, 原爆被ばく研究に関する文献レビューを行うとともに, 受講生の研究発表と討論を通じて, 修士論文の作成を目指す。</p> <p>(133 友次 晋介) 核兵器の軍縮, 不拡散, 原子力の民生利用, 関連する国際関係の諸問題に関する文献のレビューを行う。修士論文作成にむけ受講生の研究発表と討論を行う。</p> <p>(134 眞嶋 俊造) 特別研究では, 国際関係をめぐる倫理問題の内から学生の興味関心に沿ったトピックについて研究を行う。</p> <p>(129 VAN DER DOES LULU) ヒロシマの原爆の記憶の継承及び関連する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い, 受講生の研究発表と討論を通じて, 修士論文の作成を目指す。</p> <p><b>国際経済開発プログラム</b></p> <p>(227 市橋 勝) 貧困削減, 地域経済開発, 国際比較, 比較発展史などに関する研究指導を行う。</p> <p>(91 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。</p> <p>(90 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。</p> <p>(169 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策, 教育政策, また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。</p> <p>(170 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業, 公的機関, 非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。</p> <p>(40 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。</p> <p>(4 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発, 持続可能な農業に関する研究指導を行う。</p> <p>(226 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策, 資源管理政策, 環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。</p> <p>(224 吉田 雄一朗) 開発途上国の都市開発, インフラ整備, 交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(282 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。</p> <p><b>人間総合科学プログラム</b> (102 FUNCK, CAROLIN・ELISABETH HANNA) 観光地理学的手法を用いて、日本とヨーロッパにおける観光地域と観光の発展に関する研究指導を行う。</p> <p>(50 井口 容子) 言語学的手法を用いてフランス語の様々な構文分析、フランス語と日本語・英語との比較・対象に関する研究指導を行う。</p> <p>(25 井上 永幸) 英語学の観点から、現代英語の文法と語法、コーパス言語学、辞書学に関する研究指導を行う。</p> <p>(96 関矢 寛史) スポーツ心理学的手法を用いて、運動とメンタルヘルスの関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(100 丸田 孝志) 近代中国史研究の手法を用いて、金現代中国の政治と社会の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(43 岩永 誠) 心理学的手法を用いて、「こころの問題」を引き起こす社会的・個人的要因の解明及びその改善法に関する研究指導を行う。</p> <p>(68 岩崎 克己) ドイツ語教育の観点から、構成主義的な学習のコンセプト及び学習環境に関する研究指導を行う。</p> <p>(98 桑島 秀樹) 美学・芸術文化論の手法を用いて、「感性」的価値に関わる美学・芸術に関する研究指導を行う。</p> <p>(52 荒見 泰史) 中国文化研究の観点から、古代から現代に至る中国文化について、遺跡調査や民俗調査も含めた研究指導を行う。</p> <p>(103 材木 和雄) 地域研究の手法を用いて、民族問題・民族紛争、また日本の社会動態に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 坂田 桐子) 社会心理学的手法を用いて、集団における人間行動やリーダーシップに関する調査や実験を含めた研究指導を行う。</p> <p>(97 坂田 省吾) 動物心理学的手法を用いて、学習行動と脳の情報処理に関する実験を含めた研究指導を行う。</p> <p>(53 市川 浩) 科学史的手法を用いて、現代科学・技術が社会にもたらした諸問題に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(94 柴田 美紀) 言語学的手法を用いて、第二外国語習得の過程ならびに手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(99 水羽 信男) 地域史研究の手法を用いて、近代中国の自由主義や民主主義に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 青木 利夫) 社会史研究の手法を用いて、ラテンアメリカ近現代史・教育文化史に関する研究指導を行う。</p> <p>(51 船瀬 広三) 身体運動研究の手法を用いて、ヒトの運動を制御する脳機能の解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 大池 真知子) 英語圏文学研究の観点から、アフリカの文学を対象に、とくにジェンダーの視点からの研究指導を行う。</p> <p>(24 長谷川 博) 運動生理学的手法を用いて、スポーツ活動時における体温調節、栄養学的サポート等に関する研究指導を行う。</p> <p>(92 長田 浩彰) 社会史研究の手法を用いて、ヨーロッパを中心とした人種問題及びマイノリティの問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(93 辻 学) 宗教学、キリスト教研究の立場から、初期キリスト教史に関する文献学的な研究指導を行う。</p> <p>(101 平手 友彦) 言語文化学的手法を用いて、テキストのあり方と読書の関係、社会との影響関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(259 林 光緒) 実験心理学的手法を用いて、睡眠を対象とした研究指導を行う。</p> <p>(95 和田 正信) 筋生理学的手法を用いて、特に筋疲労のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(54 浅野 敏久) 人文地理学及び環境社会学的手法を用いて、環境変化の問題ならびに市民・住民運動と地域の関わりに関する研究指導を行う。</p> <p>(173 CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL) 言語学的手法を用いて、語彙習得及び語彙理解の過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(176 GRAJDIAN MARIA MIHAELA) 文化人類学的手法を用いて、大衆娯楽の現象やメディアに関する研究指導を行う。</p> <p>(177 RIGSBY CURTIS ANDREW) 哲学研究の観点から、日本の哲学、とりわけ京都学派を中心とした展開に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(188 SCHLARB HANS MICHAEL) ドイツ文学研究の観点から、近現代ドイツの文学全般に関する研究指導を行う。</p> <p>(172 TAFERNER ROBERT HORST) 応用言語学の手法を用いて、言語学習者の言語処理の過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(189 園井 ゆり) 社会学的手法を用いて、家族社会学、社会調査法、ジェンダー論に関する研究指導を行う。</p> <p>(192 河本 尚枝) 社会福祉学的手法を用いて、日本社会における外国籍及び外国にルーツを持つ日本人の福祉に関する研究指導を行う。</p> <p>(285 宮園 健吾) 哲学、とりわけ現代英米の哲学及び近世哲学に関する研究指導を行う。</p> <p>(191 佐々木 宏) 社会福祉学的手法を用いて、とくに日本と開発途上国における社会福祉の諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(183 薩摩 真介) 社会史研究の手法を用いて、近世・近代のイギリス及び北米・カリブ海英語圏地域の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(135 三村 太郎) 科学史的手法を用いて、イスラーム地域における科学の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(194 山崎 修嗣) 産業論・経営学的手法を用いて、自動車メーカー及びサプライヤーと社会・地域との関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(184 春日 あゆか) 社会史研究の手法を用いて、イギリス近代における環境問題の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(175 小宮 あすか) 社会心理学的手法を用いて、感情や社会行動の文化差・社会差に関する研究指導を行う。</p> <p>(125 小川 景子) 心理学的手法を用いて、とくに睡眠中の脳活動や自立神経活動に関する研究指導を行う。</p> <p>(124 上泉 康樹) 体育哲学・スポーツ哲学の観点から、ギムナスティケー論及び運動競技論、身体論に関する研究指導を行う。</p> <p>(186 城戸 光世) 英米文学研究の手法を用いて、英語圏の文化や視覚芸術（絵画・映画・ドラマ等）に関する研究指導を行う。</p> <p>(278 進矢 正宏) スポーツバイオメカニクス研究の手法を用いて、ヒトの運動の行動学的・力学</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>的解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(114 杉浦 義典) 臨床心理学の手法を用いて、心理的不適応の要因及び治療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(187 杉木 恒彦) 比較宗教学的の手法を用いて、南アジア地域の仏教・ヒンドゥー教、また宗教一般に関する研究指導を行う。</p> <p>(127 大嶋 広美) 言語学的手法を用いて、中国語の方言及び中国少数民族の言語に関する研究指導を行う。</p> <p>(171 町田 章) 言語学的手法を用いて、英語・日本語の文法現象及び人間の認知能力に関する研究指導を行う。</p> <p>(168 長坂 格) 文化人類学的手法を用いて、フィリピンの地域社会や家族、移民に関する研究指導を行う。</p> <p>(178 辻 輝之) 文化人類学・民俗学的手法を用いて、多宗教共存とエスニシティの問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(185 的場 いづみ) アメリカ文化研究の観点から、20世紀後半のアメリカ文化及び文学に関する研究指導を行う。</p> <p>(151 田中 亮) 身体運動研究の観点から、痛みや障害と身体運動との関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(179 渡邊 誠) 歴史学的手法を用いて、日本古代史、とくに奈良・平安時代を中心とした外交関係史に関する研究指導を行う。</p> <p>(190 白川 俊之) 社会学的手法を用いて、社会階層と教育の関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(196 匹田 篤) メディア論の観点から、都市や施設のメディア性、またコミュニケーションやリスクに関する研究指導を行う。</p> <p>(195 福田 恵) 社会学的手法を用いて、農山村における地域組織の構造や変動に関する研究指導を行う。</p> <p>(180 柳瀬 善治) 日本文学研究の観点から、日本近代文学と文学理論に関する研究指導を行う。</p> <p>(126 有賀 敦紀) 認知心理学の手法を用いて、脳における情報の取捨選択過程及び心のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(181 李 郁恵)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>文学研究の手法を用いて、東アジアの日本語文学及び中国語文学、文化に関する研究指導を行う。</p> <p>(193 李 東碩) 社会経済学的観点から、経済活動と格差社会との関わりに関する研究指導を行う。</p> <p>(182 崔 真碩) 朝鮮文化論の観点から、朝鮮近代文学、在日朝鮮人文学、またコリアン・ディアスポラの文化に関する研究指導を行う。</p> <p>(134 眞嶋 俊造) 倫理学研究の観点から、応用倫理学諸分野（生命倫理、戦争倫理、研究倫理、専門職倫理、国際倫理）に関する研究指導を行う。</p> <p>(201 河合 信晴) 社会史研究の手法を用いて、近現代ドイツ・ヨーロッパの政治・社会・文化に関する研究指導を行う。</p> <p>(202 張 慶在) 観光学的手法を用いて、コンテンツツーリズムに関する研究指導を行う。</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻 博士課程後期)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	スペシャリスト型 SDGs アイデアマイニング学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」を踏まえ、ひとつの SDG に対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として 17 つの SDGs をカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGs の観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の 1 つを取り上げ、SDGs の観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」及び当該縣市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	持続可能な発展科目 普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(206 河合 幸一郎/2 回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(142 掛江 朋子/2 回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(97 山根 達郎/2 回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(207 中坪 孝之/2 回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式
	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・バイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック重回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	データサイエンティスト 養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材—データサイエンティスト—に対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力や IT 関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。	
	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(223 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(212 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(220 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(211 粟井 和夫・210 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(222 田中 剛/1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(213 田中 純子/1回) NDB (National database) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(221 大上 直秀/1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(214 久保 達彦/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式、共同(一部)
	リーダーシップ手法	組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本授業では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について事例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考え	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		る。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人財ニーズも時代とともに変化している。本授業では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本授業では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す（＝イノベーション）ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を修得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	
	事業創造概論	発明とイノベーションは似ているようで、実は大きく異なる。斬新なアイデアや発明でも、商業化されなければイノベーションにならない。日本経済が数十年にわたって停滞してしまったのは、日本企業のイノベーション力が低下したことが主因である。日本は科学技術のレベルが高いにも関わらず、開発の成果を新しい事業に結びつけられる人材が不足している。近年、科学者にもアントレプレナーシップ（起業家の思考と行動）が求められるようになったのはこのような事情がある。座学だけでなく、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて考察し、事業創造の基礎を学ぶ。特に技術の商用化に焦点をあて、製品開発と顧客開発の違いを理解し、演習などでその感覚をつかむことなどを到達目標とする。ビジネスの知識は問わない。コミュニケーション能力の向上も目標の一つなので、受講者には授業に参加し積極的に取り組むことを求める。	
研究科 共通科目	プロジェクト研究	主指導教員又は主指導教員以外の教員が行う研究プロジェクトに参加し、プロジェクトの目的を達成するためにどのような活動、協働が行われ、得られた成果が社会に還元されていくのかを体験する。プロジェクトに参加する複数の分野の教員や学生と交流することにより、多角的で広い視野を獲得するとともに、チームの一員あるいはリーダーとして活動を通じて個人としての成果と組織としての成果の両方を挙げていくことのできるセンスを身に付ける。	共同
	人間社会科学講究	人文科学、社会科学、教育科学の諸分野における最先端の研究を行っている学内外の研究者により、それぞれの分野における研究や、分野をまたいで行う共同研究に関する最新的话题を提供する。受講生が自分の専門分野や他分野の先端的取り組みや研究者に触れることにより、研究に取り組む意欲を高め、将来の展望を広げることを目指す。担当教員は、話題提供者のオーガナイズを行う。講義形式であるが、少人数によるグループワーク等も実施する。	共同
	特別研究	(概要) 人文科学、社会科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>究課題の設定，検討課題の整理，既存研究のレビュー，調査・実験の方法，データ処理・分析手法，論文執筆，発表方法の習得（研究倫理を含む）等，研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため，指導を行う。</p> <p><b>人文学プログラム</b></p> <p>(191 佐藤 利行) 博士論文作成のための資料の収集・整理，その読解力などを深める。</p> <p>(18 高永 茂) 言語学，コミュニケーション学に関する知識を基礎として，実証的な研究を行ってみたいと考えている。</p> <p>(16 中村 平) 日本学，人類学，歴史学，社会思想史，文化理論などの諸領域における知見に学びつつ，こうした人文学の広さのなかで自分の問題意識に沿った方法論を思考し，周囲の人々と討議し，獲得することを方針としている。</p> <p>(17 溝淵 園子) 翻訳文学や世界文学を含む比較文学や，国際的な視点から見た日本近現代文学の研究指導を行う。</p> <p>(202 本田 義央) 学生の研究課題に応じて博士論文執筆を指導する。</p> <p>(19 後藤 弘志) 西洋哲学に関する博士論文作成を通じて，自立した研究者または高度専門職業人として活動するために必要な能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(99 赤井 清晃) 西洋哲学に関する博士論文作成を通じて，自立した研究者または高度専門職業人として活動するために必要な能力を身に付けられるよう指導する。</p> <p>(20 根本 裕史) 博士論文作成のための文献研究指導。</p> <p>(100 川村 悠人) 博士論文作成のための文献研究指導。</p> <p>(21 衛藤 吉則) 博士論文の作成に当たり，研究課題の選定，先行研究の把握，資料の収集・分析，論文作成の方法を指導し，論文作成の助言をおこなう。</p> <p>(101 後藤 雄太) 博士論文作成の指導。資料の扱い方，原典の読解の仕方，さらに，文章の作成，独創性の発揮，論文の構成のあり方等を指導する。</p> <p>(23 有馬 卓也) 漢代から魏晋南北朝期に至る思想・文化，及び日本思想に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>(22 末永 高康) 経学及び先秦諸子、並びに出土文献を資料とする哲学・思想に関する研究指導を行う。</p> <p>(24 本多 博之) 日本中世史研究に関する博士論文に取り組む学生を個別に指導する。</p> <p>(102 奈良 勝司) 明治維新をはさむ19世紀日本の歴史に関する博士論文の執筆に向けて指導を行う。</p> <p>(26 金子 肇) 近現代中国史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。</p> <p>(25 八尾 隆生) アジア史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。</p> <p>(103 船田 善之) 前近代中国史・内陸アジア史専攻の院生を対象に学位論文執筆能力を養成する。</p> <p>(28 前野 弘志) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、古代史専攻学生の個別指導を行う。</p> <p>(104 足立 孝) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、中世史専攻学生の個別指導を行う。</p> <p>(27 井内 太郎) 各自の研究テーマにそくした個別報告と討論をつうじて、近代史専攻学生の個別指導を行う。</p> <p>(30 有元 伸子) 個別指導と集団指導を組み合わせつつ、論文の構想から執筆までの支援を行って、学位論文の完成を目指す。</p> <p>(3 久保田 啓一) 日本古典文学（主に近世文学）に関する博士論文の完成に至るまで懇切な指導を行う。</p> <p>(29 妹尾 好信) ゼミ形式による討論を取り入れ、雑誌掲載論文を積み上げながら、博士論文完成まで丁寧な指導を行う。</p> <p>(105 下岡 友加) 日本近現代文学に関する修士論文を作成するに必要となる指導を行う。</p> <p>(32 小川 恒男) 中国古典詩を研究対象として博士論文を作成する院生を主に指導し、主体的に</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門 科目		<p>研究を継続できる研究者を養成する。</p> <p>(31 川島 優子) 中国の古典小説を研究対象として博士論文を作成する院生を主に指導する。</p> <p>(107 陳 チュウ) 中国古典文学、文献学及び東アジア書籍・学术交流史を研究対象として博士論文作成する院生を主に指導し、主体的に研究を継続できる研究者を養成する。</p> <p>(34 吉中 孝志) イギリス戯曲・詩文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(38 VALLINS DAVID MCNEILL) 英語圏文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(33 大地 真介) アメリカ文学を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(116 倉田 賢一) イギリス小説を研究対象とする学生に対して個別指導を行う。</p> <p>(35 今林 修) 英語学の博士論文作成のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>(108 大野 英志) 英語学の博士論文作成のための基本的技術と基礎知識の習得を目標とする。</p> <p>(36 小林 英起子) 近現代ドイツ文学を中心に博士論文執筆に向けた個別指導を行う。</p> <p>(39 FEDERMAIR LEOPOLD) 近現代ドイツ語圏文学を中心に博士論文執筆に向けた個別指導を行う。</p> <p>(37 宮川 朗子) 博士論文の作成と学会での研究発表に関する基礎知識を修得することを目的とした個別的な指導を行う。</p> <p>(110 BEAUVIEUX MARIE NOELLE BENEDICTE ISABELL) 博士論文または特別課題研究の作成に関する基礎知識を修得することを目的とし、個別的な指導を行う。</p> <p>(111 上野 貴史) 学生のより良い博士論文の完成のため、言語学の一般的観点、および各教員の専門領域の観点から内容・方法論などについての的確な助言を与える。</p> <p>(40 友澤 和夫) 博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(112 後藤 拓也)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門 科目		<p>博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(113 後藤 秀昭) 博士論文の作成にかかわる個別指導を実施する。</p> <p>(41 竹広 文明) 先史時代, アジアにおける人類の石器文化の解明を行う。</p> <p>(42 野島 永) 日本列島における古代鉄器文化の考古学的研究を行う。</p> <p>(114 有松 唯) 西アジア古代文明の成りたちと初期鉄器時代の人類史研究を行う。</p> <p>(43 安嶋 紀昭) 美術作品(絵画・彫刻・書蹟など)に関する博士論文執筆指導。</p> <p>(115 伊藤 奈保子) 東南アジアの宗教美術に関する研究の論文指導</p> <p><b>心理学プログラム</b></p> <p>(190 宮谷 真人) 実験系心理学, 特に, 注意, 記憶, 言語などの心の働きに関する研究指導を行う。</p> <p>(44 中條 和光) 学習心理学・認知心理学, 特に, 記憶に関する認知心理学的研究, 文・文章理解に関する研究の研究指導を行う。</p> <p>(45 森永 康子) 社会心理学, 特に, ジェンダーに関する社会心理学的研究の研究指導を行う。</p> <p>(10 湯澤 正通) 教育・社会系心理学, 特に, 概念・思考の発達と教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 森田 愛子) 教育心理学・認知心理学, 特に, 読解や記憶, 教材デザイン, 学習意欲に関する研究指導を行う。</p> <p>(92 杉村 和美) 発達心理学, 特に, 青年のアイデンティティ発達プロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>(47 杉村 伸一郎) 幼児心理学, 特に, 幼児期における認知発達と遊びに関する研究指導を行う。</p> <p>(181 中尾 敬) 認知心理学・神経科学, 特に, 自己, 迷い, 意思決定などに関わる心と脳の機能に関する研究指導を行う。</p> <p>(180 中島 健一郎) 社会心理学, 特に, 自己, 他者, 集団, 社会の重層性に関する研究指導を行う。</p> <p>(182 梅村 比丘)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>発達心理学、特に、アタッチメント理論（愛着理論）、日本文化における子どもの発達と適応・不適応に関する研究指導を行う。</p> <p>(120 清水 寿代) 幼児心理学、特に、幼児期の社会性の発達と適応に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 服巻 豊) 臨床心理学・コミュニティ心理学、特に、緩和ケア、透析ケア、ストレスマネジメントに関する研究指導を行う。</p> <p>(48 石田 弓) 臨床心理学、特に、臨床描画法の研究および学校心理臨床に関する研究指導を行う。</p> <p>(118 尾形 明子) 臨床心理学、特に、医療心理学、子どもの心理的問題、認知行動療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(119 上手 由香) 臨床心理学、特に、力動的心理療法におけるトラウマへの援助、思春期・青年期の心理臨床に関する研究指導を行う。</p> <p><b>法学・政治学プログラム</b></p> <p>(8 江頭 大蔵) 社会学の概念や研究手法を用いた現代社会の分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(55 宮永 文雄) 民事手続の理論と実務、および裁判外紛争処理に関する研究指導を行う</p> <p>(53 堀田 親臣) 民法（財産法）の中でも、不動産を中心とした所有・利用関係の諸問題、それが担保に供されたときの法律関係、侵害に対する効力等の問題について教育・研究指導を行う。また、不動産と関わりの深い環境問題や自然災害に関する法的問題についても、主として私法の視点から教育・研究指導を行う。</p> <p>(52 森邊 成一) 複数本のモノグラフが公刊できるように研究を指導し、これを踏まえて学位請求論文の完成を目指す。まず、修士論文を再検討し、より深く掘り下げるための、方法論の洗練と追加の資料の収集・整理を指導する。ついで、最初の公刊論文を準備しつつ、後期2年次には、学位論文の全体構成を示せるようにする。そして、2本目以降の論文を公刊しながら、学位論文を完成させることができるように指導する。</p> <p>(57 吉中 信人) 学界レベルにある博士論文を作成できるようになることを目的として、刑事法領域における受講生の専門的テーマに対応した指導を行う。前期課程で修得した方法論を前提として、第一段階では、専門的見地から受講生が定めたテーマについて、将来的な可能性と有意義性の検討を行い、現在の学界ニーズに対応したものとするため、必要なパースペクティブの提示や軌道修正を行う。第二段階では、リファインされた内容の徹底的な吟味を行い、既存の判例・学説に対する正確な理解を踏まえながら、その分析と総合について、多角的且つ洞察的な討論を行う。最終段階として、導出された全ての判例・学説状況の当否を検討しつつ批判し、</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>その上で独創的な私見の提示が行えるようになることを目指す。</p> <p>(56 三井 正信) 労働法（ワークルール）に関する博士論文の執筆に向けて指導を行う。具体的には変化してやまない複雑化する労働法（ワークルール）を現実の雇用社会やワーキングライフを踏まえつつグローバルかつトータルに把握・分析し、理論的に優れた高度の博士論文となるように検討を加える。</p> <p>(54 松原 正至) 博士論文の作成に向け、個々の学生のテーマにしたがって、論点整理を行う。その上で、論点に対応した判例の分析と文献の読み込みを行う。加えて、判例分析では外国判例も参照するほか、文献では外国文献も積極的に活用する。</p> <p>(2 手塚 貴大) この授業は、大学院生が執筆した租税法に関する博士論文の指導を行い、完成にまで導くことを目的とする。素材は院生の発表する論文草稿である。</p> <p>(5 吉田 修) 国際関係、外国政治、地域研究の分野での論文指導を行う。文献レビュー、章構成、分析手法や論理的枠組み等について検討する。</p> <p>(203 永山 博之) 博士論文の執筆を指導する。多くの学生が留学生であることと、教員の専門分野を学士課程では学んでいない学生が多いことを考慮し、論文執筆の基本的な方法論を含めて指導を行う。受講者は、他の受講者の研究発表とそれに対する教員のコメントを聞いて、できるだけ多くのものを学ぶようにしてほしい。</p> <p>(51 浅利 宙) 社会学の方法論を基盤に、主に法社会学の研究領域、および家族、地域社会、社会福祉に関連する領域の論文作成指導を行う。</p> <p>(50 鈴木 玉緒) 社会学を専攻する大学院生が、論文執筆のための先行研究の探索と読み込みを行います。まずは先行研究をベースとして拡充すべき論点の抽出やその再調査を行いつつ、周辺関連分野における文献の渉猟や、海外との比較などの作業を、必要に応じて行う予定です。</p> <p>(49 折橋 洋介) 行政法学の研究を自ら行う能力を養うことを目的とする。</p> <p>(122 井上 嘉仁) 憲法学に関する博士論文の執筆に必要な指導をおこなう。研究テーマに関する文献研究を中心におこなう</p> <p><b>経済学プログラム</b></p> <p>(58 瀧 敦弘) 労働経済学または労使関係論を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。課題の設定から、データや資料の収集、理論分析・実証分析の指導をおこなう。さらに、研究成果の公表についても、対象者にアドバイスする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>(59 千田 隆)</p> <p>金融論を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は金融政策の理論的分析能力を習得したうえで、各自パソコンを用いて、金融政策の効果の数量分析を行うことである。</p> <p>(4 山田 宏)</p> <p>計量経済分析手法の開発・評価もしくは応用を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。研究テーマに関して、(計量経済学の分野に限らない広い分野における)最先端の研究動向の把握とそうした研究内容への深い理解を踏まえた国際競争力のある数編の研究論文を作成し、それらをまとめて博士論文を作成する方向で指導する。</p> <p>(60 早川 和彦)</p> <p>計量経済学を専攻する学生を対象にした博士論文の作成指導を行う。目標は、自分自身で、テーマ探し・理論的分析・数値実験ができ、それを論文としてまとめられるようになることである。</p> <p>(61 西埜 晴久)</p> <p>計量経済学の手法の開発あるいはその応用を研究するために、学術書の講読および学術論文などの先行研究の理解をめざす。合わせて、必要なデータ分析を行うためのプログラミング能力の育成に努める。</p> <p>(63 二村 博司)</p> <p>財政学を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は財政政策の理論的分析能力を習得したうえで、各自パソコンを用いて、財政政策の効果の数量分析を行うことである。</p> <p>(65 大内田 康徳)</p> <p>競争政策や環境政策に関連した分野を専攻する学生を対象とした博士論文の作成を指導する。政策的な議論のために求められる理論的な分析能力を習得し、そして応用ミクロ経済学的手法などを用いた精緻な政策分析を行うことを目標とする。</p> <p>(9 山口 力)</p> <p>公共経済学の分野における博士論文の執筆指導を行う。関連文献の内容を完全に理解したうえで、独創的な研究成果を専門ジャーナルに掲載することを目的とする。</p> <p>(66 友田 康信)</p> <p>応用理論研究を先行する学生を対象とした博士論文の指導を行う。先行研究の理論モデルを発展させ、独自の理論モデルを構築し、新たな経済学的含意を導くことを目標とする。</p> <p>(135 安武 公一)</p> <p>計算社会科学 (Computational Social Science)、深層学習 (Deep Learning) など新しい社会科学アプローチの習得も視野に入れて、博士論文の作成指導を行う。具体的には、最先端の論文・文献の精読とサーベイ、研究課題となる「問」の導出、「問」への「解」を導くために必要なデータ解析手法、基礎理論の習得、</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門 科目		<p>国内外での研究発表等について、個別指導を行う。</p> <p>(67 森 良次) 欧米経済史を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は研究テーマに関する先行研究の歴史理論的実証的到達点を確認したうえで、実証課題の特定と史料の分析を行うことである。</p> <p>(136 宮澤 和敏) 経済学史を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。経済学の歴史に現れた学説のなかからテーマを設定し、原典を精読することを通してその理論的・方法的特徴を明らかにするとともに、その学説をふまえて資本主義経済の基礎理論をどのように発展させることができるかについて深く考察することを目標とする。</p> <p>(129 小野 貞幸) ファイナンス分野の博士論文作成のため高度な計量時系列分析、データ解析手法そして技術計算言語の MATLAB を習得する。論文の題目を決定し関連した研究論文の概要の発表を行う。研究分野の知識を深め、先行研究に貢献する独自性・創造性のある考えを見つける。</p> <p>(62 鈴木 喜久) ファイナンスを専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標はファイナンス分野の諸問題・諸現象に対する深い理論的理解と分析能力を修得したうえで、実際のデータを用いた計量ファイナンス手法による厳密な実証分析を行い、当該理論の検証を行い対象分野に関する理解を深めることである。</p> <p>(130 山根 明子) ファイナンスを専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は、ファイナンスの理論的分析能力を習得したうえで、証券市場に関する実証分析を行うことである。</p> <p>(132 大河内 治) ゲーム理論の応用モデルを用いる学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は経済政策の理論的分析能力を習得したうえで、現実の政策や制度改革の効果の理論的分析を目標とする。さらに、理論の限界を批判的に検討し、理論それ自体の発展を進めることができるようになることも目標とする。</p> <p>(133 折登 由希子) 経済情報分析を研究テーマとする学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。経済学分野における最適化問題のモデル化と最適化手法アルゴリズムの開発を行う。</p> <p>(64 角谷 快彦) 医療経済学を専攻する学生を対象とした博士論文の作成指導を行う。目標は実証文政と論文作成手法を習得したうえで、各自パソコンを用いて、データ分析を行うことである。</p> <p><b>マネジメントプログラム</b></p> <p>(199 加藤 厚海) 主に、同族経営、中小企業、起業家、企業間関係、産業集積などを題材とした</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>研究指導を行う。</p> <p>(93 PELTOKORPI VESA MATTI) 組織行動・人的資源管理論・国際経営に関する研究指導を行う。</p> <p>(70 築達 延征) 経営組織・CSR・企業倫理・比較経営に関する研究指導を行う。</p> <p>(69 小柏 葉子) グローバル化、リージョナリズム、トランスナショナル研究を中心とした国際関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(68 盧 濤) 異文化コミュニケーション及び異文化ビジネスコミュニケーション研究の遂行に必要な専門知識や概念、調査方法等を習得させるとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。専門性のある具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、関連論文の解説、データ収集、調査の方法、調査結果の分析、研究動向の把握、発表方法の習得等、当該領域研究の遂行に必要な知識、概念及び方法を習得するため、ゼミナール方式で研究指導を行う。</p> <p>(137 秋山 高志) 経営戦略とイノベーション・マネジメント分野における専門的知識を習得させるとともに、学位論文作成に必要な研究計画の立案、実施における学術的能力の養成を図る。具体的には、少人数の演習方式で各受講生の進捗状況を踏まえつつ、研究目的の設定、先行研究のレビュー、仮設の導出、データの収集、分析、考察、プレゼンという論文作成上の手法を体系的に研究指導する。これらを通して、博士論文や学術誌投稿論文の執筆を綿密に支援・促進する。</p> <p>(138 徐 恩之) 企業のマーケティング戦略や消費者の反応に関する研究指導を行う。</p> <p>(139 奥居 正樹) 組織内における対人コミュニケーションの伝え方とその操作性、マネジメントにおける意味・価値の創出・伝達に関する研究指導を行う。</p> <p>(96 相馬 敏彦) 社会心理学や組織心理学の知見をベースに、さまざまな社会行動についての研究指導を行う。</p> <p>(141 原田 隆) 組織や社会の活動を支えるシステムへの情報通信技術の応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(140 松嶋 健) フィールドワークを中心とした人類学的研究に関する研究指導を行う。</p> <p><b>国際平和共生プログラム</b> (13 関 恒樹) 文化人類学や地域研究の文献レビューを行うとともに、各学生の研究発表と討</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>論を通じて、博士論文の作成を目指す。</p> <p>(94 片柳 真理) 平和構築・平和共生に関する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、博士論文の作成を目指す。</p> <p>(97 山根 達郎) 国際関係論の観点から、平和と紛争の課題に関して受講学生の関心に即して指導を実施する。</p> <p>(142 掛江 朋子) 紛争解決論、国際法の観点から、受講生の研究テーマに即して具体的事例、理論枠組みを検討し、博士論文の完成を目指す。</p> <p>(145 長坂 格) 人の移動、家族親族に関する文化人類学および隣接分野の文献の検討、受講生による調査報告を通して、現代世界における民族誌的アプローチの可能性を探求する。</p> <p>(185 中空 萌) 文化人類学の最新の文献の購読、博士論文の基礎となるレビュー論文の執筆、フィールド調査の報告を行う。</p> <p>(5 吉田 修) 最新の文献のレビューを通じて、国際政治および国際政治経済に関するより深い理解を追求する。</p> <p>(11 川野 徳幸) 平和学、原爆被ばく研究に関する文献レビューを行うとともに、受講生の研究発表と討論を通じて、博士論文の作成を目指す。</p> <p>(184 友次 晋介) 核兵器の軍縮、不拡散、原子力の民生利用、関連する国際関係の諸問題に関する文献のレビューを行う。博士論文作成にむけ受講生の研究発表と討論を行う。</p> <p>(144 眞嶋 俊造) 特別研究では、国際関係をめぐる倫理問題の内から学生の興味関心に沿ったトピックについて研究を行う。</p> <p>(143 VAN DER DOES LULI) ヒロシマの原爆の記憶の継承および関連する学生の研究テーマに即して文献レビューを行い、受講生の研究発表と討論を通じて、博士論文の作成を目指す。</p> <p><b>国際経済開発プログラム</b></p> <p>(204 市橋 勝) 貧困削減、地域経済開発、国際比較、比較発展史などに関する研究指導を行う。</p> <p>(71 柿中 真) 開発途上国における金融及び貿易にかかる国際経済政策に関する研究指導を行う。</p> <p>(95 渡邊 聡) 開発途上国における教育政策研究にかかる研究指導を行う。</p> <p>(147 高橋 新吾) 開発途上国における労働市場政策、教育政策、また企業内労働市場などに関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>(148 高橋 与志) 開発途上国などで活動する企業、公的機関、非政府組織やこうした組織に属する従業員や経営者に関する研究指導を行う。</p> <p>(70 築達 延征) 途上国の中小企業あるいは国有企業の経営組織の問題解決に対する経営組織論的研究の指導を行う。</p> <p>(12 MAHARJAN, KESHAV LALL) 開発途上国における農村開発、持続可能な農業に関する研究指導を行う。</p> <p>(194 金子 慎治) 開発途上国のエネルギー政策、資源管理政策、環境政策にかかる国際協力に関する研究指導を行う。</p> <p>(198 吉田 雄一朗) 開発途上国の都市開発、インフラ整備、交通政策にかかる学際総合研究に関する研究指導を行う。</p> <p>(218 後藤 大策) 開発途上国における貧困・環境・健康問題に関する開発プログラムの設計と評価に関する研究指導を行う。</p> <p><b>人間総合科学プログラム</b></p> <p>(89 FUNCK, CAROLIN・ELISABETH HANNA) 観光地理学の手法を用いて、日本とヨーロッパにおける観光地域と観光の発展に関する研究指導を行う。</p> <p>(75 井口 容子) 言語学的手法を用いてフランス語の様々な構文分析、フランス語と日本語・英語との比較・対象に関する研究指導を行う。</p> <p>(74 井上 永幸) 英語学の観点から、現代英語の文法と語法、コーパス言語学、辞書学に関する研究指導を行う。</p> <p>(80 関矢 寛史) スポーツ心理学の手法を用いて、運動とメンタルヘルスの関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(85 丸田 孝志) 近代中国史研究の手法を用いて、金現代中国の政治と社会の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(72 岩永 誠) 心理学的手法を用いて、「こころの問題」を引き起こす社会的・個人的要因の解明及びその改善法に関する研究指導を行う。</p> <p>(73 岩崎 克己) ドイツ語教育の観点から、構成主義的な学習のコンセプト及び学習環境に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(82 桑島 秀樹) 美学・芸術文化論の手法を用いて、「感性」的価値に関わる美学・芸術に関する研究指導を行う。</p> <p>(83 荒見 泰史) 中国文化研究の観点から、古代から現代に至る中国文化について、遺跡調査や民俗調査も含めた研究指導を行う。</p> <p>(90 材木 和雄) 地域研究の手法を用いて、民族問題・民族紛争、また日本の社会動態に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 坂田 桐子) 社会心理学的手法を用いて、集団における人間行動やリーダーシップに関する調査や実験を含めた研究指導を行う。</p> <p>(81 坂田 省吾) 動物心理学的手法を用いて、学習行動と脳の情報処理に関する実験を含めた研究指導を行う。</p> <p>(86 市川 浩) 科学史的手法を用いて、現代科学・技術が社会にもたらした諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(76 柴田 美紀) 言語学的手法を用いて、第二外国語習得の過程ならびに手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(84 水羽 信男) 地域史研究の手法を用いて、近代中国の自由主義や民主主義に関する研究指導を行う。</p> <p>(88 青木 利夫) 社会史研究の手法を用いて、ラテンアメリカ近現代史・教育文化史に関する研究指導を行う。</p> <p>(79 船瀬 広三) 身体運動研究の手法を用いて、ヒトの運動を制御する脳機能の解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(15 大池 真知子) 英語圏文学研究の観点から、アフリカの文学を対象に、とくにジェンダーの視点からの研究指導を行う。</p> <p>(78 長谷川 博) 運動生理学的手法を用いて、スポーツ活動時における体温調節、栄養学的サポート等に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目		<p>(7 長田 浩彰) 社会史研究の手法を用いて、ヨーロッパを中心とした人種問題及びマイノリティの問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(1 辻 学) 宗教学、キリスト教研究の立場から、初期キリスト教史に関する文献学的な研究指導を行う。</p> <p>(87 平手 友彦) 言語文化学の手法を用いて、テキストのあり方と読書の関係、社会との影響関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(205 林 光緒) 実験心理学的手法を用いて、睡眠を対象とした研究指導を行う。</p> <p>(77 和田 正信) 筋生理学的手法を用いて、特に筋疲労のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(91 浅野 敏久) 人文地理学及び環境社会学的手法を用いて、環境変化の問題ならびに市民・住民運動と地域の関わりに関する研究指導を行う。</p> <p>(152 CLENTON JONATHAN STUART MICHAEL) 言語学的手法を用いて、語彙習得及び語彙理解の過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(159 GRAJDIAN MARIA MIHAELA) 文化人類学的手法を用いて、大衆娯楽の現象やメディアに関する研究指導を行う。</p> <p>(160 RIGSBY CURTIS ANDREW) 哲学研究の観点から、日本の哲学、とりわけ京都学派を中心とした展開に関する研究指導を行う。</p> <p>(172 SCHLARB HANS MICHAEL) ドイツ文学研究の観点から、近現代ドイツの文学全般に関する研究指導を行う。</p> <p>(151 TAFERNER ROBERT HORST) 応用言語学的手法を用いて、言語学習者の言語処理の過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(173 園井 ゆり) 社会学的手法を用いて、家族社会学、社会調査法、ジェンダー論に関する研究指導を行う。</p> <p>(175 河本 尚枝) 社会福祉学的手法を用いて、日本社会における外国籍及び外国にルーツを持つ日本人の福祉に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>(217 宮園 健吾) 哲学, とりわけ現代英米の哲学及び近世哲学に関する研究指導を行う。</p> <p>(174 佐々木 宏) 社会福祉学的手法を用いて, とくに日本と開発途上国における社会福祉の諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(166 薩摩 真介) 社会史研究の手法を用いて, 近世・近代のイギリス及び北米・カリブ海英語圏地域の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(171 三村 太郎) 科学史的手法を用いて, イスラーム地域における科学の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(177 山崎 修嗣) 産業論・経営学的手法を用いて, 自動車メーカーおよびサプライヤーと社会・地域との関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(167 春日 あゆか) 社会史研究の手法を用いて, イギリス近代における環境問題の歴史に関する研究指導を行う。</p> <p>(158 小宮 あすか) 社会心理学的手法を用いて, 感情や社会行動の文化差・社会差に関する研究指導を行う。</p> <p>(155 小川 景子) 心理学的手法を用いて, とくに睡眠中の脳活動や自立神経活動に関する研究指導を行う。</p> <p>(154 上泉 康樹) 体育哲学・スポーツ哲学の観点から, ギュムナステイクー論および運動競技論, 身体論に関する研究指導を行う。</p> <p>(169 城戸 光世) 英米文学研究の手法を用いて, 英語圏の文化や視覚芸術 (絵画・映画・ドラマ等) に関する研究指導を行う。</p> <p>(216 進矢 正宏) スポーツバイオメカニクス研究の手法を用いて, ヒトの運動の行動学的・力学的解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(157 杉浦 義典) 臨床心理学の手法を用いて, 心理的不適応の要因及び治療法に関する研究指導を行う。</p> <p>(170 杉木 恒彦) 比較宗教学的手法を用いて, 南アジア地域の仏教・ヒンドゥー教, また宗教一</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>般に関する研究指導を行う。</p> <p>(150 大嶋 広美) 言語学的手法を用いて、中国語の方言及び中国少数民族の言語に関する研究指導を行う。</p> <p>(149 町田 章) 言語学的手法を用いて、英語・日本語の文法現象及び人間の認知能力に関する研究指導を行う。</p> <p>(145 長坂 格) 文化人類学的手法を用いて、フィリピンの地域社会や家族、移民に関する研究指導を行う。</p> <p>(161 辻 輝之) 文化人類学・民俗学的手法を用いて、多宗教共存とエスニシティの問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(168 的場 いづみ) アメリカ文化研究の観点から、20世紀後半のアメリカ文化及び文学に関する研究指導を行う。</p> <p>(153 田中 亮) 身体運動研究の観点から、痛みや障害と身体運動との関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(162 渡邊 誠) 歴史学的手法を用いて、日本古代史、とくに奈良・平安時代を中心とした外交関係史に関する研究指導を行う。</p> <p>(146 白川 俊之) 社会学的手法を用いて、社会階層と教育の関係に関する研究指導を行う。</p> <p>(179 匹田 篤) メディア論の観点から、都市や施設のメディア性、またコミュニケーションやリスクに関する研究指導を行う。</p> <p>(178 福田 恵) 社会学的手法を用いて、農山村における地域組織の構造や変動に関する研究指導を行う。</p> <p>(163 柳瀬 善治) 日本文学研究の観点から、日本近代文学と文学理論に関する研究指導を行う。</p> <p>(156 有賀 敦紀) 認知心理学的手法を用いて、脳における情報の取捨選択過程及び心のメカニズムに関する研究指導を行う。</p> <p>(164 李 郁恵)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門 科目		<p>文学研究の手法を用いて、東アジアの日本語文学及び中国語文学、文化に関する研究指導を行う。</p> <p>(176 李 東碩) 社会経済学的観点から、経済活動と格差社会との関わりに関する研究指導を行う。</p> <p>(165 崔 真碩) 朝鮮文化論の観点から、朝鮮近代文学、在日朝鮮人文学、またコリアン・ディアスポラの文化に関する研究指導を行う。</p> <p>(144 眞嶋 俊造) 倫理学研究の観点から、応用倫理学諸分野（生命倫理、戦争倫理、研究倫理、専門職倫理、国際倫理）に関する研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学研究科教育科学専攻 博士課程前期)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	Hiroshima から世界平和を考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(132 川野 徳幸/2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(207 小宮山 道夫/2回) 原爆と広島大学の関わり、広島歴史、広島に課された役割</p> <p>(130 河合 幸一郎/1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(131 中坪 孝之/1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(206 山根 達郎/2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式
	持続可能な発展科目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida "Japanese policy experience: Success and Failures" lesson4 Masaru Ichihashi "Industrial Policy and Economic growth" lesson5 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"1 lesson6 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"2 lesson7 Osamu Yoshida "Japanese ODA and its Asia Policy" lesson8 Mari Katayanagi "Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective"</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれ</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	<p>れない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(137 金子 慎治/1回) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(271 三角 幸子/1回) JICA の活動、役割</p> <p>(133 吉田 雄一朗/1回) 日本の政策経験</p> <p>(138 市橋 勝/1回) 産業政策と経済成長</p> <p>(134 張 峻屹/2回) 日本の環境政策の歴史</p> <p>(135 吉田 修/1回) 日本の ODA とアジア政策</p> <p>(136 片柳 真理/1回) 平和構築から見た広島復興</p>	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way ofLiving” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	持続可能な発展科目	<p>the field of public health”            lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history"            lesson8 Discussion            (和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2 馬場 卓也/2回)            本講義のガイダンス、概要説明、まとめ</p> <p>(141 MAHARJAN, KESHAV LALL/1回)            農業開発における日本の経験</p> <p>(142 関 恒樹/1回)            日本の現代化における社会文化的側面</p> <p>(1 清水 欽也/2回)            日本における教育開発</p> <p>(139 田中 純子/1回)            公衆衛生学分野の国際協力と共同研究</p> <p>(140 森山 美知子/1回)            日本のヘルスケアシステム</p>	
	SDGs への学問的アプローチ A	<p>(概要) 国際目標 SDGs と広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017 の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ A では、人権を中心に取り組む。B と合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内 SDGs 目標番号)</p> <p>(2 馬場 卓也/2回)            1. コースの概要、SDGs と貧困問題 (1, 17) : SDGs の設置経緯について説明し、17 の目標の中で、貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明、議論する。            8. 総括討議</p> <p>(143 実岡 寛文/1回)            2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12) : 地球規模で食料の持続可能性を考える時、先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態、栄養改善などについて議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目		<p>(139 田中 純子/1回)</p> <p>3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6): 安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから、疾病対策を含む健康維持のための社会医学的、公衆衛生学的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(140 森山 美知子・208 RAHMAN MD MOSHIUR/1回) (共同)</p> <p>4. 健康と福祉 (3): プライマリ・ヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス、非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(4 永田 良太/1回)</p> <p>5. 教育と社会 (4): 情報化による急激な変化が進む中で、先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(3 石田 洋子/1回)</p> <p>6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題、国家間及び各国内の不平等削減に係る課題、そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(272 隈元 美穂子/1回)</p> <p>7. 国際機関の取り組み (17): SDGsを推進している立場から、その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p>	
	SDGs への学問的アプローチ B	<p>国際目標SDGsと広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(136 片柳 真理/2回)</p> <p>1. コース概要、平和な社会 (16): SDGsの設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。</p> <p>8. 総括討議</p> <p>(210 長谷川 祐治/1回)</p> <p>2. 気候変動と防災 (13): 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。</p> <p>(209 日比野 忠史/1回)</p> <p>3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11): 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(211 佐野 浩一郎/1回)</p> <p>4. 経済成長と雇用 (8): すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。</p> <p>(145 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9): 包摂的で強靱(レジリエント)なインフラ構築、持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(144 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		用と生態系保全とのジレンマについて講義する。  (273 川本 亮之/1回) 7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17、11): 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを、SDGsの観点から議論する。	
	持続可能な発展科目 SDGs への実践的アプローチ	SDGsは、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現、女性の社会進出の促進、再生可能エネルギーの利用、経済成長と生産的で働きがいのある雇用の確保、強靱(きょうじん)なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進、不平等の是正、気候変動への対策等の17の目標と各目標を達成するための169のターゲットからなる。これらを実現するために、最も影響力があるのは小中高等学校における教育である。授業では、次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え、行動力を育成しているかについて実践的にアプローチする。具体的には、SDGsの理念、基本的な考え方を学ぶとともに、ユネスコスクールに認定されている学校への訪問・見学等を行う。社会人を優先する。	共同
	ダイバーシティの理解	SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。  (オムニバス方式/全8回)  (147 坂田 桐子・65 櫻井 里穂 /2回)(共同) 1. ダイバーシティに関する理論: 特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。  (250 北梶 陽子/5回) 2. ゲーム演習: 多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。  (148 大池 真知子・250 北梶 陽子/1回)(共同) 3. ディスカッション: 理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&インクルージョンの価値と実現方法について議論する。	オムニバス方式・共同(一部)
キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	(概要) ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。  (オムニバス方式/全8回)  (214 宮尾 淳一/4回) ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。  (149 柳原 宏和/4回) 本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・デ ータリテ ラシ―科 目	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(261 小笹 晃太郎／1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(150 工藤 美樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(215 森野 豊之／1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(152 粟井 和夫・151 有廣 光司／1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(262 田中 剛／1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(139 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(216 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(153 久保 達彦／1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	<p>この授業の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア (生き方) を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。</p>	
	理工系キャリアマネジメント	<p>コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報 (表情、視線、態度など) は重要な意味を持つため、本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3) 高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。授業の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素 (視線、あいづち、うなずき等) が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を修得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	ストレスマネジメント	<p>現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。</p> <p>そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する。</p> <p>講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。</p>	
	MOT 入門	<p>本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベーション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。</p>	
	情報セキュリティ	<p>(概要) 本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際について事例を交えて説明する。</p> <p>(オムニバス形式／全 15 回)</p> <p>(155 西村 浩二／5 回) 情報セキュリティの基本概念および情報セキュリティ管理を実現するための体制構築や手法について、事例を交えて解説する。</p> <p>(246 岩沢 和男／5 回) 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアシステムを構成するための経営戦略やプロジェクトマネジメントについて解説する。</p> <p>(251 渡邊 英伸／5 回) 情報セキュリティを構成する基本技術および関連技術について、情報セキュリティ対策の実際を事例を交えて解説する。</p>	オムニバス形式
	アントレプレナーシップ 概論	<p>イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。</p>	
研究科 共通科目	人間社会科学特別講義	<p>(概要) 文学、史学、哲学、言語学、経済学、経営学、法学、政治学、社会学、心理学、教育学などの、人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野の研究内容について、自然科学や生命科学を含む他分野との関連を踏まえて解説する。それぞれの分野に関する専門的知見を学び、人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに、幅広い分野を俯瞰的に理解することを目指す。講義形式であるが、少人数による討論等も実施する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(158 衛藤 吉則・168 森田 愛子・172 星野 一郎・136 片柳 真理／1</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目		<p>回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(159 溝渕 園子・169 本田 義央・253 古川 昌文・226 上野 貴史/1回) 多文化社会、比較文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(218 後藤 雄太・173 末永 高康・227 川村 悠人/1回) 哲学、倫理学、思想文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(219 奈良 勝司・174 本多 博之・176 前野 弘志/1回) 日本史学、東洋史学、西洋史学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(160 安嶋 紀昭・223 伊藤 奈保子・260 笛吹 理絵/1回) 地理学、考古学、文化財学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(161 小川 恒男・170 小林 英起子・8 柳澤 浩哉・177 今林 修/1回) 日本語学、日本文学、中国語学、中国文学、英米文学語学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(162 大内田 康徳・221 大河内 治・175 大澤 俊一・252 中川 雅央/1回) 経済学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(220 松嶋 健・247 金 幸ウク・254 吉田 有紀・178 PELTOKORPI VESA MATTI/1回) 経営学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(163 宮永 文雄・156 片木 晴彦/1回) 法学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(164 永山 博之・206 山根 達郎/1回) 政治学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(165 江頭 大蔵/1回) 社会学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(166 服巻 豊・222 上手 由香・224 梅村 比丘・179 杉村 和美/1回) 心理学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(167 長谷川 博・171 井上 永幸・225 杉浦 義典・228 進矢 正宏/1回) 心理学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(5 小山 正孝・6 山田 浩之・121 DELAKORDA KAWASHIMA TINKA/1回) 教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目		<p>まえて解説する。</p> <p>(7 松見 法男・66 中矢 礼美・157 松浦 武人・1 清水 欽也／1回) 教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	人間社会科学のための科学史	<p>(概要) 文学, 史学, 哲学, 言語学, 経済学, 経営学, 法学, 政治学, 社会学, 心理学, 教育学などの, 人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野について, それらが自然科学や生命科学を含む他分野とどのように関連しながら発展し, 現代社会を形成してきたかを解説する。それぞれの分野の歴史を学ぶことで, 人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに, 歴史を接点として幅広い分野を俯瞰的に理解することを目指す。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(9 草原 和博・6 山田 浩之・190 加藤 厚海・133 吉田 雄一郎／1回) ガイダンスとして, 本講義の全体像を解説する。</p> <p>(182 高永 茂・255 奥村 真理子・191 宮川 朗子・258 松本 舞／1回) 多文化社会, 比較文化などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(229 赤井 清晃・256 藤田 衛・192 有馬 卓也・259 岡本 慎平／1回) 哲学, 倫理学, 思想文化などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(230 船田 善之・186 八尾 隆生・194 井内 太郎／1回) 日本史学, 東洋史学, 西洋史学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(183 友澤 和夫・187 野島 永・237 後藤 秀昭・195 奥村 晃史／1回) 地理学, 考古学, 文化財学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(184 有元 伸子・188 今田 良信・8 柳澤 浩哉・196 大地 真介／1回) 日本語学, 日本文学, 中国語学, 中国文学, 英米文学語学などの分野の歴史について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(231 小野 貞幸・234 折登 由希子・193 角谷 快彦・240 高橋 新吾／1回) 経済学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(232 陳 俊甫・189 林 幸一・238 徐 恩之・197 築達 延征／1回) 経営学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(163 宮永 文雄・180 秋野 成人・181 田村 耕一／1回) 法学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(164 永山 博之／1回) 政治学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(165 江頭 大蔵・248 中空 萌／1回) 社会学に関する分野を中心として, その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目		<p>(185 森永 康子・235 清水 寿代・257 神原 利宗・179 杉村 和美/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(233 上泉 康樹・236 大嶋 広美・239 有賀 敦紀・241 小川 景子/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(9 草原 和博・6 山田 浩之・122 WALTER BRETT RAYMOND/1回) 教育学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(7 松見 法男・67 牧 貴愛・157 松浦 武人・68 三輪 千明/1回) 教育学に関する分野を中心として、その歴史について他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	異分野協働プロジェクト	複数の分野が協働して取り組むプロジェクトを取り上げ、受講生それぞれの専門分野がそのプロジェクトにどのように貢献できるかを考察する。分野は人文社会科学、自然科学、生命科学の全てを対象とする。また、プロジェクトは学内のものに限定せず、学外の研究者も積極的に活用する。異分野の学生で構成するグループを構成し、講義とグループワークを通して、人間や社会を多角的に捉え、他分野との共働により共通の課題を解決する過程を体験する	
	未来創造思考（基礎）	本講義では、新規事業を開発・実行するために必要な知識や方法として、ビジネスプラン、マーケティング、資金調達、事業運営などに関する計画と実行についての理解が必要であるという観点に立ち、起業の観点から未来創造思考（future creation thinking）を実践するための基礎を学ぶ。未来創造思考は未来を創造するための思考枠組みであり、現実の問題を解決し望ましい未来の実現を図るプロフェッショナルにとって必須のスキルである。新ビジネスの開発・事業化のみならず、社会問題の解決や組織の改革などに必要とされるものである。本講義では、未来創造思考の概念、問題の定義、未来の構想、チームビルディング、戦略的実行という未来創造思考に関する講義と演習を通して、自ら率先して未来創造を実践するための基礎知識と基礎能力を育成する。	
	国際標準化論	広く世の中経済・社会活動は、ルール（標準等「任意」及び規制等の「強制的なルールにより定められた土俵上で行われているが、標準等の任意ルールは誰でも主導することが可能であるので、民間企業であっても積極的にルール作り取組まなければ、競争に生き残れないことを認識する。実例を元に国際的な標準化についての問題点や対応策について説明する。	
	理工系のための経営組織論	過去におけるものづくり現場での無数の観察結果や証言を凝縮する形で、現場から見上げた歴史および世界観を総括し、今後の日本のものづくり産業の競争戦略・企業戦略について講義する。これまでの世界のものづくり産業の興廃の歴史などを概観することによって、現場の能力構築やイノベーション・アーキテクチャをどう育てていくかが重要な時代となってきたことが明確になってきている。今後、ものづくり現場と本社が一体となって、どのような方向性で取り組むべきかについて学ぶ。	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	平和を希求する広島大学において、平和教育を構築することは重要な課題である。グローバル社会の進展により多様な文化的歴史的背景をもった人々が共生する時代において、平和教育をどのように構築していけばよいか、ヒロシマからの視点を含め、実践的にアプローチする。授業では、積極的平和観、消極的平和観等の平和教育に関する理論について学び、各国における平和の概念について検討する。さらに、広島市内の小中学校、附属学校等、平和教育を実践している学校や平和教育関係施設への訪問・見学等、実践的なアプローチを行い、平和を継続発展するための実践力を培う。社会人を優先する。	共同
	教育科学のための研究法と倫理	（概要）教育科学で用いられる代表的な研究法について解説する。学校現場における実践的な研究を含め、それぞれの分野における主要な研究を取り上げ、問題への気づきからその解決に至る過程がどのように進行していったのかを調べることにより、受講生の専門分野における方法論との異同や特徴についての理解を深	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻 共通 科目		<p>める。また、教育科学領域における研究倫理について、具体的な事例を取り上げて解説し、受講生自身の研究テーマと関連づけながら倫理意識を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 小山 正孝・2 馬場 卓也/1回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(9 草原 和博・68 三輪 千明/1回) 教育科学領域における研究倫理について総括的に解説する。</p> <p>(6 山田 浩之/4回) 教育学の諸分野における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題を提起する。</p> <p>(5 小山 正孝・9 草原 和博/6回) 教師教育デザイン学における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題を提起する。</p> <p>(7 松見 法男/3回) 日本語教育学における主要な研究方法について具体例に基づいて解説するとともに、研究の実施に伴って生じる倫理的問題を提起する。</p>	
	教育科学と社会	<p>(概要) 教育科学における研究が社会にどのような影響を及ぼし、また社会からどのような影響を受けてきたのかについて、自然科学や生命科学を含む他分野との関連も踏まえて解説する。それぞれの分野と日本社会及び国際社会との繋がりを学ぶことにより、教育科学が今後の社会の形成においてどのような役割を期待されているのかの理解につなげる。また、受講生自身の研究テーマが人間社会の発展にどのような関与をし得るのかを考察することにより、研究意欲の向上を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 草原 和博・1 清水 欽也/1回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(6 山田 浩之/3回) 教育学に関する分野を中心として、日本社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(3 石田 洋子・66 中矢 礼美/1回) 教育学に関する分野を中心として、国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(2 馬場 卓也・67 牧 貴愛/1回) 教育学に関する分野を中心として、国際社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(5 小山 正孝・9 草原 和博/6回) 日本における学校教育と社会との関わりについて、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(7 松見 法男/3回) 日本語教育学に関する分野を中心として、社会との関りについて他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	オムニバス方式
	Sheltered Instruction:	(英文) This course is designed to introduce the students to some standards for	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	Making Content Comprehensible	<p>instructing non-native speakers in a content-based class. Making Content Comprehensible focuses on the assessment and teaching of non-native speakers and relates the techniques to second language acquisition theory. This course is designed to introduce the pre-service teacher to appropriate assessment and instructional techniques to support the development of oral proficiency, literacy skills, and content instruction for children whose first language is not Japanese (JLLs – Japanese language learners). This course will be especially useful for any student who will have a non-native speaker in their future classrooms.</p> <p>(和訳) 本授業の目的は、内容中心の授業において非母語話者の児童・生徒を教える際の基準を紹介することである。内容を分かりやすくすることは、非母語話者の評価と教育に焦点を当て、その技法を第二言語習得論に結び付ける。本授業は、教員養成を受けている学生に対して、適切な評価や、母語が日本語ではない児童・生徒（日本語学習者）の発話能力、読み書き能力及び内容理解の発達を支える教授法を紹介するために設計される。本授業は、将来、非母語話者を対象に授業を行う学生に特に役立つ。</p>	
	Religious culture in public education	<p>(英文) Religious culture in public education course will contribute to students' knowledge of principal religions and worldviews, and the diversity within and between them as well as the commonalities they share. The students will develop an understanding of the influence of beliefs, values and traditions on individuals, communities, societies and cultures. Based on such understanding, they will analyze and compare religious culture education in various countries including Japan and discuss the role and significance of religious culture and interreligious competency in Japanese school education.</p> <p>(和訳) 公教育における宗教文化の授業は、学生の主要な宗教及び世界観、また宗教内・宗教間の多様性と共通点についての知識を深めることに役立つ。学生は、個人、地域、社会、文化への信念、価値観と習慣の影響について理解することができる。本講義では、その理解を基に、日本を含むさまざまな国における宗教文化教育を分析・比較し、日本の学校教育における宗教文化及び宗教間コンピテンシーの役割と意義について議論する。</p>	
	Academic Writing for Graduate Students in Education	<p>(英文) Academic English is useful for global communication and is recognized as a register of English with specific linguistic characteristics that distinguish it from other registers. This course aims to introduce those features to graduate students who are not native or near-native speakers of English and thus make the challenge of intercultural communication easier and more enjoyable.</p> <p>(和訳) アカデミック英語は、グローバルコミュニケーションに役立つ、他の言語使用域と区別できるような特定の言語学的特徴を持つ英語の使用域として認識される。本授業の目的は、このような特徴を、英語非母語話者の大学院生、あるいは英語母語話者に近い言語能力を持つ大学院生に紹介し、異文化間コミュニケーションをより円滑にすること、そしてより楽しくすることである。</p>	
	日本の教育開発経験	<p>(概要) 日本は教育開発の歴史において今日の途上国が抱える教育問題と似通った課題に遭遇し、その原因の解明や新たな政策や改革の導入によって解決を図ってきた。本科目では現代日本の教育制度・政策を概観した上で、戦前と戦後の教育政策の変遷を異なる視点（教師教育、幼児教育・保育、初等・中等教育（理科・数学・社会）、高等教育、国際教育協力）から分析する。受講生は、途上国の教育開発との比較を通して、日本の教育開発経験から得られる教訓を考える。本科目の履修を通して受講生は以下の能力を修得する。1) 日本の教育開発の過程と特徴を説明できる。2) 日本の教育開発経験から途上国の教育課題解決に有益な教訓を導き、その政策的含意を考えられる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(68 三輪 千明/3回) 日本の教育制度と政策の変遷、日本の幼児教育・保育開発 1、日本の幼児教育・保育開発 2</p> <p>(67 牧 貴愛/2回) 日本の教師教育・政策の変遷 1、日本の教師教育・政策の変遷 2</p>	オムニバス方式



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラムデザイン学プログラム 教師教育 専門科目		<p>(15 木原 成一郎) 保健体育教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(16 木村 博一) 社会認識教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(17 権藤 敦子) 音楽教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(202 松本 仁志) 国語・文字教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(18 中村 和世) 美術教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(119 真野 祐輔) 数学教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(73 松宮 奈賀子) 英語教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(74 渡邊 巧) 生活・総合教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p>	
	特別支援教育学特別研究	<p>(概要) 本授業では、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、重複・LD 等領域、または特別支援教育に関わる全般的なトピックのうち、学生が特に学びを深めたいと考えている障害に関する今日的な課題を取り上げる。関係する文献の講読・発表・討議、課題解決のための調査の設計・実施・考察を通して、特別支援教育を探究する上で必要な基礎的知識・技能について、選択した領域の視点から指導する。また、発表や選択した領域を超えた全体討議を通して、多様な観点から特別支援教育を探究する知識・技能を身につける。</p> <p>(19 川合 紀宗) 主にコミュニケーション障害及びインクルーシブ教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(20 若松 昭彦) 主に知的障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p> <p>(75 竹林地 毅) 主に知的障害のある幼児児童生徒に対する指導法に関する研究指導を行う。</p> <p>(76 氏間 和仁) 主に視覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p> <p>(77 林田 真志) 主に聴覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p> <p>(123 船橋 篤彦) 主に肢体不自由または病弱のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育デザイン専攻プログラム	自然システム教育学特別研究A	<p>(概要) 理科の教育目標や理科教員として求められる資質・能力を多面的に理解し、理科の学習内容とその背景となる自然科学の論理を関連づけることにより、理科教育に関する専門性と自然科学（物理学，化学，生物学，地学）に関する専門性を相補的に身につける。また，具体的な授業場面を想定した学習材の開発や学習活動の設計に取り組み，効果的な学習材デザインのための知識や技能を向上させる。これらを通じて，理科教育の課題に対して継続的に取り組むための能力の育成を目指す。受講者は中等理科教育における学習内容や学習活動に関連した研究課題を設定し，先行研究等の調査，実験・観察・フィールドワーク等を取り入れた探究活動を通じて，その課題の解決に取り組む。また，その成果を学会発表や学術論文へ発展させられる素養を身に付ける。</p> <p>(79 梅田 貴士) 物理概念の理解に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(21 古賀 信吉) 無機化学・物理化学・熱化学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(78 網本 貴一) 有機化学・生体関連化学・材料科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。</p> <p>(22 竹下 俊治) 植物や微生物の観察実験に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。</p> <p>(80 富川 光) 動物の多様性や分類・生態に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(23 山崎 博史) 地形・地質に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(81 吉富 健一) 岩石・地質や天体・気象に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p>	
	自然システム教育学特別研究B	<p>(概要) 理科の教育目標や理科教員として求められる資質・能力を多面的に理解し，科学（理科）教育の歴史や方法論と，その背景となる科学（理科）教育の基本原理を関連づけることにより，科学（理科）教育に関する専門性を身につけるとともに，科学（理科）教育における課題に対して継続的に取り組むための知識やスキルの育成を目指す。受講者は科学（理科）教育にかかわる課題を設定し，内外の文献講読による調査，討論，学習者を対象とした実態調査，教育実践の実地調査等を取り入れた探究活動を通じてその課題の解決に取り組む，理科のカリキュラム構成や授業設計，および評価を行うための知識や技能を向上させる。また，その成果を学会発表や学術論文へ発展させられる素養を身に付ける。</p> <p>(24 磯崎 哲夫) 科学教育の原理および教師教育に関して比較教育的・教育史的アプローチを中心として指導を行う。</p> <p>(82 松浦 拓也) 科学教育の指導法および評価に関する調査・分析を中心として指導を行う。</p> <p>(83 三好 美織) 科学教育のカリキュラムおよび教育実践に関する調査・分析を中心として指導を行う。</p>	
	数学教育学特別研究A	(概要) 昨今の社会における数学的素養を持った高度な専門職業人への必要性に	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目		<p>も応え、そういった職業人を育てる大本である中・高等学校数学科教員の持つべき高度な数学的能力を更に深めるために、この一連の授業では主にセミナー形式で数学の各分野（代数学、幾何学及び解析学）における学習・研究を通して、ハイレベルな数学的能力の開発に努め、各地域における数学教育界でのリーダーのもつべき資質と専門的能力の育成に貢献する。具体的内容は以下である。</p> <p>(25 池田 良) 偏微分方程式論（特に双曲型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(27 寺垣内 政一) 位相幾何学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(26 下村 哲) ポテンシャル論・偏微分方程式論（特に楕円型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p>	
	数学教育学特別研究 B	<p>（概要）本科目では、中等教育段階における数学教育に関する高度な理論的・実践的な知識・技能を習得し、数学科の学習指導と授業設計についての教育・研究に必要とされる資質・能力を育成する。そのため、最新の数学教育学研究をレビューすることによって、理論と実践の両面を考慮し、数学教育学研究の固有性と多様性、研究の対象と方法を知る。次いで、中等教育段階における数学教育の原理と方法に関する日本国内外の理論的・実践的文献を講読し、数学的理解や数学的思考、数学的知識や概念の形成、数学科授業構成（情報機器の活用を含む）を主な論点として討議・講究する。</p> <p>(5 小山 正孝) 数学教育の原理と方法に関する数学的理解や数学科授業構成（情報機器の活用を含む）を中心的に取り扱う。</p> <p>(84 影山 和也) 数学教育の原理と方法に関する数学的思考や知識及び概念形成についての理論と実践の関連を中心的に取り扱う。</p>	
	技術・情報教育学特別研究（技術・工業） A	<p>（概要）教育研究分野における技術・工業に関する内容学(木材と加工，金属と加工，メカトロニクス)において、「学び続ける教員」の基礎となる「研究力」を高めるために、基本的研究能力，問題解決能力および研究総括能力を育成する。教育研究分野における技術・工業に関する内容学についてクラス分けを行い，課題選定，文献調査，課題の分析，研究計画の策定，基礎実験法，教材開発，学習プログラム開発，および成果発表の順で進める。技術・工業における教育に関する課題および内容について深く学ぶために，技術・情報教育学特別研究(技術・工業)B の受講生を交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。さらに，技術・工業だけによらない広い視点についても学ぶために，技術・情報教育学特別研究(情報)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表，最終発表)，質疑応答と意見交換をする。</p> <p>(28 田中 秀幸) メカトロニクスの観点から研究指導を行う。</p> <p>(86 木村 彰孝) 木材と加工の観点から研究指導を行う。</p> <p>(85 鈴木 裕之) 金属と加工の観点から研究指導を行う。</p>	
	技術・情報教育学特別研究（技術・工業） B	<p>（概要）技術教育の学習活動と学習指導に関する先行研究を講読する。これに基づき技術教育の実践的・体験的な学習活動に付随する思考や技能及び関連要因の構造について把握する。また，技術教育に関わる資質・能力を育成し意欲・態度を涵養する適切な学習指導・評価に関する課題を想定する。さらに，「科学技術」「STEM教育」及び「問題解決」の文脈における技術教育の学習活動と学習指導</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>の位置づけについて検討を行う。これらを通して、技術教育に関する目的・内容・方法・評価について議論・討論を行う。技術・工業における教育に関する課題および内容について深く学ぶため、技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A の受講生を交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。さらに、技術・工業だけによらない広い視点についても学ぶため、技術・情報教育学特別研究(情報)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。</p> <p>(87 谷田 親彦) 技術・工業の教育の観点から研究指導を行う</p>	
	技術・情報教育学特別研究(情報) A	<p>(概要) 教育研究分野における情報に関する内容学(ハードウェア, ソフトウェア, ネットワーク)において、「学び続ける教員」の基礎となる「研究力」を高めるために、基本的研究能力, 問題解決能力および研究総括能力を育成する。教育研究分野における情報に関する内容学についてクラス分けを行い, 課題選定, 文献調査, 課題の分析, 研究計画の策定, 基礎実験法, 教材開発, 学習プログラム開発, および成果発表の順に進める。情報における教育に関する課題および内容について深く学ぶため、技術・情報教育学特別研究(情報)B の受講生を交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。さらに、情報だけによらない広い視点についても学ぶため、技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。</p> <p>(30 藤中 透) ソフトウェアの観点から研究指導を行う。</p> <p>(29 渡辺 健次) ネットワークの観点から研究指導を行う。</p> <p>(88 川田 和男) ハードウェアの観点から研究指導を行う。</p>	
	技術・情報教育学特別研究(情報) B	<p>(概要) 既往研究の調査, 課題の設定, 研究計画の策定, 実験・実習, 研究総括により進める。研究テーマに応じて情報教育の多くの内容と様々なレベルにおける学習のモデル, 学習者の個人内モデル, 学習者間のモデルなどを特定する。テーマに関する既往研究を探索し, 1)既知の事項, 2)何らかの根拠を援用したり, 理論的洞察に基づいて示唆されている事項, 3) “open problem”等と表現される未解決の事項の識別を試みる。大まかにみてどのようなアプローチが試みられてきたか, どのような具体的方法が考えられるか。それらをどのような組合せで採用するか。解決できる見通しはあるか, そう考える理由は何か, 疑問や反論として何が予想されるか等の考察や活動を通して研究課題の主體的な解決と, 何らかの根拠に基づくエビデンスの取得を試みる。情報における教育に関する課題および内容について深く学ぶために、技術・情報教育学特別研究(情報)A の受講生を交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。さらに、情報だけによらない広い視点についても学ぶため、技術・情報教育学特別研究(技術・工業)A, B の受講生も交えて発表を行い(中間発表, 最終発表), 質疑応答と意見交換をする。</p> <p>(31 長松 正康) 情報の教育の観点から研究指導を行う。</p>	
	社会認識教育学特別研究(社会・地理歴史) A	<p>(概要) 地域的課題や地球的課題に関する専門性の高い研究課題の設定, 研究成果とその教材開発について発表や討論などを通して, 専門領域研究・海外の教科書研究と教材開発研究を相互に関連させて発表しながら学び合う。受講者は, 独自の研究課題を設定し, 先行研究に対する批判的な検討を通じて, 自身の研究内容を改善し, 自らの成果を学校現場などで活かす方法について議論する。</p> <p>(32 由井 義通) 人文地理学内容および, ESD を中心テーマとする地理教育に関する研究および教材開発を担当する。</p> <p>(89 熊原 康博) 自然地理学的内容および, 自然災害を中心とする防災教育に関する研究および教</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		材開発を担当する。	
	社会認識教育学特別研究 (社会・地理歴史) B	<p>(概要) 社会科認識教育学や地理・歴史に関連した分野を中心として、これらに関連する国内外の高度な専門知識を獲得し、先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法、地理・歴史に係わる革新的な学習材をデザインできる専門家の養成を目指す。受講者は、独自の研究課題を設定し、先行研究・先駆的な実践に対する批判的な検証を通じて、自身の研究枠組みや方法論を省察し改善するとともに、自らの成果を学校現場などで活かす手立てについて議論する。</p> <p>(9 草原 和博) 主として教科の思想的基盤、カリキュラム論、教師教育論に関する研究および教材開発を担当する。</p>	
	社会認識教育学特別研究 (社会・公民) A	<p>(概要) 公民教育の内容にかかわる今日的な課題について、文献資料の探索や実証的な調査研究の国際比較を通じて認識を深め、問題構造の解明や解決策を討論しながら考察する。これにより、人文社会科学分野での学術的な調査分析という高度な専門的研究能力の習得と、社会認識教育での高度な教材研究・開発能力を養うことができる。</p> <p>(33 畠中 和生) 倫理学の基礎・基本問題について確認したうえで、主として環境問題に関する哲学・倫理学的アプローチに関する専門的内容および教材開発についての研究を行う。</p> <p>(127 森田 英樹) 近現代の社会経済や経済(学)教育について、数学から歴史・思想まで多様な視点から背景となる経済学の専門的内容について講義・報告・討論を行う。</p>	
	社会認識教育学特別研究 (社会・公民) B	<p>(概要) 中学校社会科・高校公民科を中心とした幅広い公民教育に関する理論・実践・研究を具体的な事例として、先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法の獲得をめざす。受講者は、独自の研究課題を設定し、先行研究・先駆的な実践に対する批判的な検証を通じて、自身の研究内容を省察し改善するとともに、研究成果を学校現場などで活かす方法について議論する。</p> <p>(34 棚橋 健治) 主として学力論・学習評価論に関する研究および教材開発を担当する。</p> <p>(90 川口 広美) 主として市民性教育論・カリキュラム(授業)論に関する研究及び教材開発を担当する</p>	
	国語文化教育学特別研究 A	<p>(概要) クラス1(川口)では日本文学、クラス2(佐藤)では漢文学、クラス3(小西)では現代日本語学、クラス4(佐々木)では日本語史に関わる研究課題を、それぞれ設定して追究する。言語や文学の様態や歴史について、また、それらを教材化し教育実践に繋げるための視点や方法について、これまでの知見を整理したうえで課題を見つけ、理論的・実証的あるいは実践的に研究を遂行する。授業では、受講生それぞれの課題設定、先行研究の整理、研究計画の策定、調査など研究の遂行、成果の発表とディスカッションを行う。</p> <p>(35 佐々木 勇) 日本語史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(36 佐藤 大志) 漢文学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(244 川口 隆行) 日本文学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(91 小西 いずみ) 現代日本語学の観点から研究指導を行う。</p>	
国語文化教育学特別研究 B	<p>(概要) クラス1(山元)では国語教育の歴史的研究、比較国語教育研究、クラス2(間瀬)では国語教育学の理論的研究、臨床・実践的研究に関わる研究課題を、それぞれ設定して追究する。国語教育学研究の歴史・理論・方法について、また、それらを今日と将来の教育実践に繋げるための視点や方法について、これ</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>までの知見を整理したうえで課題を見つけ、理論的・実証的あるいは実践的に研究を遂行する。授業では、受講生それぞれの課題設定、先行研究の整理、研究計画の策定、調査など研究の遂行、成果の発表とディスカッションを行う。</p> <p>(38 山元 隆春) 文学・読書領域を中心に国語教育学の歴史的研究、比較国語教育研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(37 間瀬 茂夫) 説明的文章領域を中心に国語教育学の理論的研究、臨床・実践的研究の観点から研究指導を行う。</p>	
	英語教育学特別研究A	<p>(概要) 英語学研究と英語文学研究の知見を活用しながら、英語教育に関する諸問題を考察する。また、英語教育の内容面を充実させていくための方策についても検討する。学生は、指定された論文を読解し、プレゼンテーションを行う。その中で、その文献で示された知見の利点、実際の応用方法、課題点などについて明らかにすることが求められる。また、実際の授業案、活動例、ワークシート、試験を含めた評価方法についてもデザインを行う。</p> <p>(39 小野 章) 全体の統括・調整を行う。英語文学研究の観点から英語教育の諸問題を考察する。</p> <p>(92 西原 貴之) 英語学の観点から英語教育の諸問題を考察する。</p>	
	英語教育学特別研究B	<p>(概要) 英語教育における教育課程、教材、指導法、評価、教師教育、比較教育など主として教育学関係の内容から特定のテーマを取り上げ、関連の文献や授業、教材等の収集、それらの分析・考察を通して問題の本質を理解する。加えて、それら一連のプロセスを通して英語教育に関連する問題解決の方法に関して習得させる。さらには、特に討論やプレゼンテーション、ケースメソッドなどを多く用いることで、扱うテーマの内容のみならず研究方法論の包括的理解を図る。</p> <p>(40 松浦 伸和) 全体の統括・調整を行う。主として英語の指導法、学力評価、比較教育などの分野を担当する。</p> <p>(93 榎葉 みつ子) 主として、授業論、教材論、教師教育などの分野を担当する。</p>	
	健康スポーツ教育学特別研究A	<p>(概要) 本授業では、健康スポーツ教育学（とりわけ、スポーツ学、スポーツ方法学）に関連した分野を中心として、これらに関連する高度な専門的な知識を獲得し、先導的な健康スポーツ科学の理論と方法や、健康スポーツ科学に係わる革新的なプログラムをデザインできる人材の育成を目指す。</p> <p>受講生は、独自の研究課題を設定し、先行研究・先駆的な実践事例に対する批判的な検証を通じて、自身の研究内容を省察し改善するとともに、自らの研究成果をスポーツ活動や学校現場などで活かす方法について議論する。また、その成果を基に、学会での発表や学術論文の作成に取り組む。</p> <p>(41 上田 毅) スポーツ学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(42 沖原 謙) スポーツ学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(43 出口 達也) スポーツ方法学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(94 黒坂 志穂) スポーツ方法学の観点から研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育デザイン学プログラム専門科目		(95 小木曾 航平) スポーツ学の観点から研究指導を行う。	
	健康スポーツ教育学特別研究B	(概要) 本授業では、健康スポーツ教育学(とりわけ、スポーツ教育学)に関連した分野を中心として、これらに関連する高度な専門的な知識を獲得し、先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法や、スポーツ教育に係わる革新的な学習材をデザインできる人材の育成を目指す。 受講生は、独自の研究課題を設定し、先行研究・先駆的な実践事例に対する批判的な検証を通じて、自身の研究内容を省察し改善するとともに、自らの研究成果を学校現場や教員養成などで活かす方法について議論する。また、その成果を基に、学会での発表や学術論文の作成に取り組む。  (10 齊藤 一彦) スポーツ教育学の観点から研究指導を行う。  (96 岩田 昌太郎) スポーツ教育学の観点から研究指導を行う。	
	人間生活教育学特別研究A	(概要) 人間生活教育や家政学に関連した分野をコアとして、次世代の革新的で先導的な教育課程・指導・評価の理論と方法や、インクルーシブで協働的な学習空間をデザインできる人材の育成を目指す。本授業では、受講者に独自の研究課題を設定させ、一連の学びを通じて、人間生活教育と家政学に関連する高度な専門性を獲得する。さらに、教授・学習の原理、方法との関連を考慮した学習内容および学習材に関する教師教育デザインの研究を継続的に遂行できる能力を育成する。  (44 今川 真治) 保育学、家族関係学、生涯発達学に関する国内外の重要な文献を講読し、それらの研究の背景、研究手法、分析法および成果について考察し、討議を行う。  (45 村上 かおり) アパレル設計学、アパレル情報学、衣生活教育学等に関する国内外の文献や既往研究論文を読み、研究手法や分析法などを考察し、討議を行う。  (97 松原 主典) 食物学(栄養・食品・食生活)に関する国内外の重要な文献を講読し、教科内容と研究の背景を理解する。さらに、最新の文献や学習材を種々のデータベースから検索し、要点をまとめて発表・討議を行う。  (98 富永 美穂子) 食生活学(調理科学、食文化、食行動)に関する国内外の文献を講読し、研究の背景を理解する。研究方法、内容について考察し、討議を行う。  (99 高田 宏) 住居学、住居環境学等に関する国内外の文献を講読し、それらの研究の背景、研究方法および成果を考察し、討議を行う。	
	人間生活教育学特別研究B	(概要) 家政教育、人間生活教育、家庭科教育(原理、方法および内容構造)に関する国内外の文献を講読し、それらの研究の背景、研究方法および成果を考察し、討議を行う。主に、家庭科の教科論、学力論、カリキュラム及び教材構成等について追究する。これらを通して、人間生活教育学及び家庭科教育学に関する高度な専門性を獲得するとともに、教授・学習の原理、方法に関する教師教育デザインの研究を継続的に遂行できる能力を育成する。  (46 鈴木 明子) 人間生活領域の理論的・実践的研究の観点から研究指導を行う。	
	音楽教育学特別研究A	(概要) 音楽技法内容学に関する基礎文献を講読するとともに、最新の研究成果を概観し、現代的な学問の潮流を理解する。そのうえで、音楽技法内容学の学問領域にふさわしい研究テーマについて議論し、研究計画の立案方法および授業実践計画の立案方法について整理をする。資料やデータの収集と分析を行い、アカデミックライティングとプレゼンテーションのテクニックを学ぶ。音楽技法内容学は、各担当教員により以下の3つに分けることとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻科目		<p>(47 枝川 一也) 声楽領域の観点から研究指導を行う。</p> <p>(48 高旗 健次) 器楽領域の観点から研究指導を行う。</p> <p>(100 徳永 崇) 作曲領域の観点から研究指導を行う。</p>	
	音楽教育学特別研究 B	<p>(概要) 音楽教育や演奏表現の分野を中心として、これらに関連する高度な専門的知識を獲得し、これから望まれる指導、学習、評価、および学習材等のデザインを先導できる人材の育成をめざす。そのために、音楽教育学や演奏表現を基礎とした今日の社会における音楽的事象に関する基礎文献を講読したり、映像資料を視聴したりして、現代的な学問の潮流を理解する。そのうえで、音楽教育の学問領域で注目される研究テーマをとり上げ、ディスカッションを行う。その過程で、研究計画の立案方法や授業実践計画の立案方法について整理をする。また、資料やデータの収集と分析方法の検討を行い、その成果発表を行う。</p> <p>(101 伊藤 真) 音楽教育学の観点から研究指導を行う。</p>	
	造形芸術教育学特別研究 A	<p>造形芸術教育や造形芸術に関連した分野をコアとして、革新的で先導的な次世代の教師教育をデザインできる人材の養成を目指す。受講者は、造形芸術に関わる研究課題を設定し、造形芸術の各領域（絵画・彫刻・デザイン・工芸）における理論的、実践的な研究を通じて専門性を身につけると共に、これらを通して習得した高度な専門的知識・技能、実践力を相補的に活用して、造形芸術教育を先導する教師教育デザイン研究を遂行できるようにする。</p> <p>(51 内田 雅三) 絵画領域に関する理論的、実践的研究を中心として指導を行う。</p> <p>(49 一鉢田 徹) 彫刻・立体表現領域に関する理論的、実践的研究を中心として指導を行う。</p> <p>(102 八木 健太郎) デザイン領域に関する理論的、実践的研究を中心として指導を行う。</p> <p>(50 井戸川 豊) 工芸領域（陶芸）領域に関する理論的、実践的研究を中心として指導を行う。</p>	
	造形芸術教育学特別研究 B	<p>造形芸術教育や造形芸術に関連した分野をコアとして、革新的で先導的な次世代の教師教育をデザインできる人材の養成を目指す。受講者は、造形芸術教育に関わる研究課題を設定し、理論的、実践的な研究を通じて専門性を身につけると共に、これらを通して習得した高度な専門的知識・技能、実践力を相補的に活用して、造形芸術教育を先導する教師教育デザイン研究を遂行できるようにする。</p> <p>(103 三根 和浪) 美術教育領域の理論的・実践的教育課題を基に研究課題を設定し美術教育学研究を行う。</p> <p>(104 蜂谷 昌之) 造形芸術教育に関する文献や実践事例をもとに課題を明確化し、それに基づいた研究を行う。</p>	
	教室環境デザイン基礎研究	<p>児童生徒は学級という集団のなかで、対人関係を通じて全人的な成長を果たしていく。本授業では、児童・生徒の心理・社会的発達の支援方法として学校教育の中で用いられている、構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、ピア・サポート、プロジェクトアドベンチャーなどの集団的サイコエデュケーションの理論と方法を学ぶ。また、そうした教室環境をデザインするための教師のあり方について理解を深めるため、リーダーシップのあり方についても議論を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目	教室環境デザイン発展研究	本授業は、授業設計、生徒間コミュニケーション、教材づくり、学級風土、ICTの有効な活用法などの学習環境のデザインに関する内外の研究をはじめとする、教育諸科学における研究領域を対象に、受講生が自身の研究関心にもとづき先行研究の知見の概観と発表を行う演習である。演習を通じて、単なる研究紹介にとどまらない、批判的で建設的なレビューを行うスキルを習得するとともに、他者に分かりやすく発表するスキルを身につけることが目標となる。	
	人間関係（コミュニケーション）デザイン基礎研究 a	本授業の目標は、人間関係をデザインするツールとして身体運動を取り上げて、スポーツ生理学、バイオメカニクス、発育発達学などの量的研究を中心に学ぶとともに、その知識を健康教育への応用や問題解決の手がかりとして応用できるようにする。現在、教育場面を中心に、数多くの健康問題があり、ライフステージごとの健康教育・実践の役割が重要になっている。この状況を踏まえ、これからの健康教育や健康科学の有り様としての人間関係デザインを学ぶ。本授業は、外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。また人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び、人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な基礎的知識や技能を身につける。	
	人間関係（コミュニケーション）デザイン基礎研究 b	教育場面に限らず数多くの健康問題や社会問題があり、ライフステージごとの健康教育の役割が重要になっている。この状況を踏まえ、本授業の目標は、人間関係をデザインするツールとして身体運動を取り上げ、文化人類学的手法や社会学的手法（質的研究手法）を用いて学ぶとともに、その知識を健康教育への応用や問題解決の手がかりとして活かしていくことを検討する。そして、これからの健康教育の有り様としての人間関係デザインを学ぶ。本授業は、外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。また人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び、人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な基礎的知識や技能を身につける。	
	人間関係（コミュニケーション）デザイン発展研究 a	人間関係（コミュニケーション）デザイン学基礎研究において、種々の身体発達、身体運動、身体機能、遊び、人間関係および社会性の変容を理解してきた。本授業の目標は、人間関係（コミュニケーション）デザイン学を発展的に展開するため、ツールとしての身体、身体運動をスポーツ生理、スポーツバイオメカニクス、発育発達、生理人類学の観点から学ぶ。基礎研究において学んできたことを統合するとともに、実際の学習場面への展開について、人間関係（コミュニケーション）を利用することによって、身体を動かすことが心身の健康に及ぼす影響について理解を深める。本授業は国内外の最新の情報をもとに、外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び、人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な発展的知識や技能を身につける。	
	人間関係（コミュニケーション）デザイン発展研究 b	本授業では、人間関係（コミュニケーション）デザイン学を発展的に展開するため、ツールとしての身体や身体運動を文化人類学、スポーツ社会学の観点から学ぶ。人間関係（コミュニケーション）デザイン学基礎研究において、種々の身体発達、身体運動、身体機能、遊び、人間関係および社会性の変容を理解してきた。これらを統合するとともに、実際の学習場面への展開について、人間関係（コミュニケーション）を利用することによって、身体を動かすことが心身の健康へ関与することについて文化人類学および社会学的に理解を深める。本授業は国内外の最新の情報をもとに、外書講読や健康教育に関するレポートの集団討議を中心に行う。人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究に必要な方法論や研究事例を学び、人間関係（コミュニケーション）デザイン学研究を行うために必要な発展的知識や技能を身につける。	
	I C T空間デザイン基礎研究	<p>初等中等学校教育の教室という空間における ICT 活用はもとより、教室外の学校空間や家庭、地域を巻き込んだ教育といった場所に至るまで、様々な場面での教育の空間を念頭において、具体的に ICT を活用するための教育理論を背景にしなが、数理情報科学分野における ICT による空間デザインの基礎的研究を行う。ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの教育学外の見地を含めながら、主体的に ICT を活用できるようになることを目標とする。</p> <p>(125 北臺 如法) 数理科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。</p> <p>(29 渡辺 健次) 情報科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。</p>	
	I C T空間デザイン発展研究	初等中等学校教育の教室という空間における ICT 活用はもとより、教室外の学校空間や家庭、地域を巻き込んだ教育といった場所に至るまで、様々な場面での教	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目		育の空間を念頭において、具体的に ICT を活用するための教育理論を背景にしな がら、数理工学分野における ICT による空間デザインの発展的研究を行う。 情報科学の観点から、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどの教育学 外の見地を含めながら、主体的に ICT を活用できるようになることを目標とする。 この授業では、情報科学の観点からの ICT による空間デザインの授業を行う。	
	ラボラトリーラーニング デザイン研究 (理科)	<p>中等教育理科 (物理および化学分野) における実験を取り入れた探究的な学習 活動をテーマとして、その目的、素材と内容、および学習展開の論理について国 内外の研究・実践事例を基にして論考する。また、実験室での効果的な学習活動 を創出するための実践的能力を、学習プログラムの開発を通じて育成する。受講 者は、個人あるいはグループで学習テーマを選定し、想定した学習段階や学習場 面に応じた実験室における学習活動を企画・立案する。その学習活動を模擬的に 試行し、分析することにより、実験室における学習活動の意義と有用性を客観的 に評価する。本授業を通じて、実験室を学習空間として効果的な学習活動をデザ インするための指針と実践的技能の修得を目指す。</p> <p>(79 梅田 貴士) 基本的な物理概念の習得を目的とした探究的な物理実験に関する学習空間のデ ザインを担当する。</p> <p>(21 古賀 信吉) 科学的事象の物理化学的解析とその原理に関して、実験を取り入れた探究的な 学習活動のデザインを担当する。</p> <p>(78 網本 貴一) 化学物質の合成や性質の探究に関して、実験を取り入れた探究的な学習活動の デザインを担当する。</p>	
	フィールドラーニングデ ザイン研究 (理科)	<p>中等教育理科 (生物および地学分野) における野外調査を取り入れた探究的な学習 活動をテーマとして、その目的、素材と内容、および学習展開の論理について国内 外の研究・実践事例を基にして論考する。また、野外での効果的な学習活動を創出するための実 践的能力を、学習プログラムの開発を通じて育成する。受講者は、個人あるいはグルー プで学習テーマを選定し、想定した学習段階や学習場面に応じた野外における学習 活動を企画・立案する。その学習活動を模擬的に試行し、分析することにより、野外にお ける学習活動の意義と有用性を客観的に評価する。本授業を通じて、野外を学習空間とし た効果的な学習活動をデザインするための指針と実践的技能の修得を目指す。</p> <p>(22 竹下 俊治・80 富川 光) 地域の生物に関する学習を中心に、野外における生物調査や実験・観察を取り 入れた探究的な学習活動のデザインを担当する。</p> <p>(23 山崎 博史・81 吉富 健一) 地域の地質に関する学習を中心に、野外における地質調査や実験・観察を取り入 れた探究的な学習活動のデザインを担当する。</p>	
学習開発学基礎研究	<p>(概要) 学習のメカニズムや課題等について、教科分野の視点や心理学の視点か らアプローチし、学習指導法の類型や知識獲得のメカニズムと学習指導、育成す る資質・能力と学習指導等について理解させる。講義では、学習指導法の心理学 的理論基盤、理系・文系・実技系の各教科における知識獲得のメカニズムならび に思考・判断・表現の特性と学習指導の関係、アセスメント、現代的課題への対 応などを取り上げ、学習指導や学習方法を開発するために必要な基礎的観点を構 築する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(71 藤木 大介/4 回) オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに、心理学の視点 から、学習指導法の類型や知識獲得のメカニズムとの関係について検討する。</p> <p>(73 松宮 奈賀子/4 回) 文系分野の教科の視点から、育成する資質・能力と学習指導等について検討す</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラマ 専門科目		<p>る。</p> <p>(119 真野 祐輔/3回) 理系分野の教科の視点から、育成する資質・能力と学習指導等について検討する。</p> <p>(15 木原 成一郎/4回) 実技系分野の教科の視点から、育成する資質・能力と学習指導等について検討する。</p>	
	学習開発学発展研究	<p>(概要) 現代社会に生きる子どもの学習方法とその意義を理解するために、学校教育における学習方法の多様な開発事例を取り上げて検討する。また、それらの改善について協議することを通じて、子どもの学習方法を開発するための観点を多角的・総合的に探究する。講義では、特に、「歴史的アプローチ」、「道徳性の育成」、「学校と社会教育施設との連携」、「子どもの学びの保証」などを取り上げ、具体的な学習方法の事例検討やフィールドワーク等を交えて、学習方法を実践的に開発するために必要な知識と技能を身に付けさせる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14 山内 規嗣/5回) オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに、歴史的アプローチから見た学習方法の開発や、道徳性の育成に関する学習方法の開発について検討する。</p> <p>(18 中村 和世/5回) 学校と社会教育施設との連携を踏まえた学習方法の開発について検討する。</p> <p>(202 松本 仁志/5回) 子どもの学びを保証する学習方法の開発や、問題解決能力を育成する学習方法の開発などについて検討する。</p>	オムニバス方式
	学習開発学特論	<p>(概要) 学習開発学の構築に必要な幅広い学識を身につける。従来の教育諸科学の視点を踏まえ、生涯学習社会における学習の意味、目的、方法について、幅広い学識を講義する。具体的には教育学、心理学、教科教育学、特別支援教育学の各視点から学習にかかわる諸理論や諸課題を取り上げて講義を行う。またトピックとしては、学習の主体である子どものみならず、子どもの学習を支援する教師、また学習の主な環境である学校にも焦点を当てる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 児玉 真樹子/3回) オリエンテーションとして本講義の全体像を説明するとともに、生涯キャリア形成の視点から見た学習主体、教育心理学の視点からみた学習動機づけについて検討する</p> <p>(74 渡邊 巧/3回) 教科教育学の視点からの学習主体、学習論の変遷、教師の学習について検討する</p> <p>(16 木村 博一/3回) 教科教育学の視点からみた「主体的・対話的な学び(学習)」、「深い学び(学習)」について、「主体的・対話的で深い学び(学習)」を育む教員の養成と研修について検討する</p> <p>(17 権藤 敦子/3回) 文化の視点からみた学習の意味、文化の視点からみた学習主体、文化の視点からみた学習論の変遷について検討する</p>	オムニバス方式 共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラ ム専 門科 目		(72 米沢 崇/1回) 教育学の視点からみた教師の学習について検討する  (20 若松 昭彦・19 川合 紀宗・76 氏間 和仁・75 竹林地 毅・77 林田 真志・123 船橋 篤彦・124 森 まゆ・129 村上 理絵/2回) (共同) 特別支援教育学の視点からみた「主体的・対話的で深い学び(学習)」を育む学習論及び教員の学びについて検討する	
	教科課程デザイン基礎研究 a	本授業では、カリキュラムに関する国内外の主要な論文・著書の講読を行うとともに、教科課程デザインの基本的な概念と方法を理解し、学習内容及び学習過程の構成等の見地から検討し合うことによって、カリキュラム開発を進めていく能力の基礎を培う。これらの内容について、クラス1(木村)では文化系教科課程デザインに関わる課題、クラス2(木原)では身体運動系教科課程デザインに関わる課題、クラス3(権藤)では表現系教科課程デザインに関わる課題を中心に扱う。	
	教科課程デザイン基礎研究 b	教科課程の目的、内容、学習過程に関する文献や先行研究の講読を通して教科課程編成の原理・理論的背景を知る。主として中学校技術・家庭科技術分野を例として普通教育や職業教育の視点からの教科原理や目的・目標論の在り方と理念、「基礎知識と技能」「設計・計画と製作・制作・育成」「技術イノベーション・ガバナンス」などの教育内容と学力構造、「モジュール学習」「プロジェクト法」「デザインプロセス」などの学習過程と学習方法について講義する。	
	教科課程デザイン基礎研究 c	本科目では、学校教育における教育課程の意義及び編成の方法に関わる教育課題の一つである教科課程について、理論的・実践的な考察や調査結果の分析に基づいて、教科課程をデザインすることのできる資質・能力を育成する。そのため、学校教育における小学校・中学校・高等学校の教科課程の編成原理と各教科の固有性や役割を知る。また、学校教育における教科課程に関する日本国内外の文献を講読したり、日本国内の全国学力・学習状況調査や国際的な PISA 調査や TIMSS 調査の結果を分析したりすることによって、学校教育における縦断的・横断的な教科課程の編成方法と各教科の位置付けや教科課程デザインにおけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクル等、教科課程の意義や編成方法、改善案について討議・講究する。	
	教科課程デザイン発展研究 a	本授業では、カリキュラムに関する国内外の主要な事例検討を行うとともに、教科課程と内容編成に関する理論的・実践的考察を行い、独自の研究視点から目標・内容・方法が一体化した授業を開発し、教科課程をデザインする能力を高める。これらの内容について、クラス1(木村)では文化系教科課程デザインに関わる課題、クラス2(木原)では身体運動系教科課程デザインに関わる課題、クラス3(権藤)では表現系教科課程デザインに関わる課題を中心に扱う。	
	教科課程デザイン発展研究 b	教育課程の目的、内容、学習過程の知識等を踏まえ、教科課程や題材等の実践事例を検討する。主として「ものづくり教育」「生物の栽培・飼育教育」「STEM教育」「コンピュータ・サイエンス教育」「フィジカル・コンピューティング教育術」を対象として、題材・実践事例に関係する教材、評価規準・基準と評価例などを検討する。また、各教育における基礎知識や技能、求められる思考力などの教育内容についての理解を深める。さらに、各教育の学力構造、学習過程、学習方法などの検討を通して、教育課程をデザインする能力を習得する。	
	指導・評価法デザイン基礎研究	教科のカリキュラム、編成原理、編成方法、学習指導、評価について、文献や映像資料等を用いて理論的側面と実践的側面から分析・考察・議論する。これらの内容のうち、主としてクラス1(中村和世)では美的教育に関わる課題、クラス2(松宮奈賀子)では初等教育における英語教育に関わる課題、クラス3(松浦拓也)では理科教育に関わる課題、クラス4(長松正康)では情報教育に関わる課題、クラス5(棚橋健治)では社会科教育に関わる課題、クラス6(山元隆春)では国語教育に関わる課題、クラス7(松浦伸和)では英語教育に関わる課題、クラス8(伊藤真)では音楽教育に関わる課題、クラス9(三根和浪)では美術教育に関わる課題を扱う。	
	指導・評価法デザイン発展研究	教科のカリキュラム、編成原理・方法、学習指導、評価に内在する諸課題を分析・検討し、課題解決にむけたデザインのあり方について発展的に考察する。これらの内容のうち、主としてクラス1(中村和世)では美的教育に関わる課題、クラス2(松宮奈賀子)では初等教育における英語教育に関わる課題、クラス3(松浦拓也)では理科教育に関わる課題、クラス4(長松正康)では情報教育に	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		関わる課題、クラス5（棚橋健治）では社会科教育に関わる課題、クラス6（山元隆春）では国語教育に関わる課題、クラス7（松浦伸和）では英語教育に関わる課題、クラス8（伊藤真）では音楽教育に関わる課題、クラス9（三根和浪）では美術教育に関わる課題を扱う。	
	学力・コンピテンシーデザイン基礎研究	本授業では、学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーに関して理論的側面に焦点を当て、国内外の理論研究、学力調査、審議会答申や学習指導要領等の教育行政資料等を対象として分析・考察を行うことで、「教師教育者としての研究者」に必要な、研究資料を分析・考察する方法および能力を身につけるとともに、「教師教育者」として持つ学力およびコンピテンシーに対する理論的根拠を形成する。具体的には、学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーについて、戦後の各種審議会答申や学習指導要領、国内外の目標論・学力論・評価論、学習発達研究に関する研究文献・資料の調査・分析を通して、現在および将来において、学校カリキュラムや各教科のカリキュラムにおいて求められる学力・コンピテンシーについて検討を行う。各クラスでは、言語教育領域（間瀬茂夫）、理数教育領域（三好美織）、生活自立教育領域（鈴木明子）を中心に扱う。	
	学力・コンピテンシーデザイン発展研究	本授業では、学校教育において育成を目指す学力およびコンピテンシーに関して実践的側面に焦点を当て、国内外の実践研究、教科書や各種教材を対象として分析・考察を行うことで、「教師教育者としての研究者」に必要な、実践資料を分析・考察する方法および能力を身につけるとともに、「教師教育者」として自ら学力およびコンピテンシー観を形成し、それらを育成する教材や授業、単元（題材）やカリキュラムなどを開発する能力を身につける。具体的には、国内外の授業記録や実践報告、教科書や指導書、テスト問題等の実践的資料をもとに、そこで育成が目指される学力およびコンピテンシーの具体とその育成に向けた指導方法や学習活動、評価方法を分析・考察するとともに、これから求められる学力・コンピテンシーを育成するための教材や授業、評価方法を構想する。各クラスでは、言語教育領域（間瀬茂夫）、理数教育領域（三好美織）、生活自立教育領域（鈴木明子）を中心に扱う。	
	比較カリキュラムデザイン基礎研究	教育の古典的、先端的研究の成果に関する国内外の重要文献（学習指導要領・同解説や諸外国のナショナル・カリキュラムも含む）を取り上げ、特定の教科のカリキュラム構成・編成原理（目的・目標論及び内容構成論）、教師教育論などについて、比較教育学的視座（歴史的視座も含めながら）から解説し、これらに関するトピックについて討議する。クラス1（担当：磯崎）はSTEM教育系教科、クラス2（担当：齊藤）は身体教育系教科、クラス3（担当：川口）は社会科学系教科・市民性教科に関わる事例を取り扱う。これらを通して、学び続ける教師あるいは将来の教育研究者のための授業実践及び教育研究の理論と方法を学ぶ。	
	比較カリキュラムデザイン発展研究	日本と諸外国の教育におけるカリキュラムデザイン（カリキュラムマネジメント・教師教育を含む）に関連した教育内容のうち、クラス1（担当：磯崎）はSTEM教育系教科、クラス2（担当：齊藤）は身体教育系教科、クラス3（担当：川口）は社会科学系教科・市民性教科に関わる事例を取り扱う。比較教育学的視座から、わが国に及び欧米諸国におけるカリキュラムの理論と実践に関する文献（事例を含む）から、カリキュラムデザインに必要な理論と方法について学ぶ。なお、本授業は、実際にカリキュラムを選び、その分析を通して特質と課題を抽出するという研究プロセスに基づき展開する。具体的には、課題の設定、分析事例の選出、理論的枠組みの検討、調査・分析を通して、成果をまとめ、発表・討議する、という流れをとる。	
	カリキュラムデザイン史基礎研究	学校教育制度における教育カリキュラムの変遷を学び、歴史的視点から教育の諸課題について考察する。本授業では美術の教育課程に焦点をあて、政策、制度面の変遷をはじめ、教科書、教授法の変容、教育カリキュラムに影響を与えた人物やその思想などについて、文献講読や関連資料の分析等を行うとともに、教育研究の方法論への理解をもとに、各時代の動向をふまえながら明治期以降一世紀以上にわたる美術教育の進展や課題について考察する。	
	カリキュラムデザイン史発展研究	我が国及び諸外国における教育内容・方法に関する文献や実践事例への理解をふまえ、今後の教育実践のあり方を探究する。本授業では美術の教育課程に着目し、これまでに発行された教科書や教師用指導書の分析を通して、教材編成や授業構造、指導方法等に関する理解を深め、美術教育にかかわる専門性を身につける。さらに、今日の美術授業の実践例をとりあげ、その指導計画や授業内容との比較検討を通して、教材開発や授業改善への方策を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目	子どもと学習材デザイン基礎研究 a	学校教育における学習材に関する理論的・実践的研究を基盤として、学校の教育実践に即した教育課程の編成を踏まえた学習材デザインについて、理論的・実践的諸課題や諸論点を講義・演習する。クラスA（松本仁志）では子どもの文字言語発達に関する課題、クラスB（渡邊巧）では子どもの社会性の発達に関する課題、クラスC（真野祐輔）では子どもの数概念の発達に関する課題から学校における学習材の構造を考究し、学習材の特性を理解することを通して、学習材に関する必要な知識と技能を身につける。	
	子どもと学習材デザイン基礎研究 b	子ども（児童および生徒）に関連した教育内容のうち、ものづくり教育の学習材やプログラミング教育の学習材にかかわる課題を、児童・生徒の理解や教育実践事例を基にした議論を通じて選定し、課題発見・解決に向けた学習材の開発研究を試行する。具体的には、課題選定、文献調査、課題の分析、研究計画の策定、基礎実験法、学習材開発、および成果発表の順で進める。また、人間性や社会性を育む ICT を活用したロボット教材の例により、学習材の開発研究の基礎的な知識と技能を身につける。	
	子どもと学習材デザイン基礎研究 c	子どもの数理解識の実態と発達の過程、数理科学に関する課題やその解決のために使われる道具を含む学習環境に関する諸論を中心として、国内外の文献・資料の収集と読解、批判的検討を進める。特に、定規とコンパス、教科書のような物理的道具を使用する場合と、コンピュータソフトウェアを使用する場合との数理解識形成に与える効果の違いに注目する。その成果を踏まえて、効果的に発達させるための適切な学習環境をデザインするための諸原理を考案する。最終的に、数の概念や数量関係、幾何の体系といった、特定の内容に焦点化した学習単元を開発する。	
	子どもと学習材デザイン発展研究 a	学校教育における学習材に関する理論的・実践的研究の主要な論文・著書を講読することを通して、学校の教育実践に即した教育課程の編成方法を踏まえた学習材デザインに関する理解を深める。クラスA（松本仁志）では子どもの文字言語発達に関する課題、クラスB（渡邊巧）では子どもの社会性の発達に関する課題、クラスC（真野祐輔）では子どもの数概念の発達に関する課題について具体的な事例に即して検討し、学習材の特性について分析することを通して、学習材を俯瞰し、デザインする力量を培う。	
	子どもと学習材デザイン発展研究 b	子ども（児童および生徒）に関連した教育内容のうち、ものづくり教育の学習材やプログラミング教育の学習材にかかわる課題を、児童・生徒の理解や教育実践事例を基にした議論を通じて選定し、課題発見・解決に向けた学習材の開発研究を実践する。具体的には、課題選定、文献調査、課題の分析、研究計画の策定、実験法、学習材開発、および成果発表の順で進める。また、人間性や社会性を育む ICT を活用したロボット教材の例により、学習材の開発研究の実践的な知識と技能を身につける。	
	STEMと学習材デザイン基礎研究（理科） a	次世代の社会・生活の知的基盤となる STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）リテラシーの育成を目指した教育をテーマとし、STEM 学習の特徴を効果的に活用した STEM 学習材デザインの理論と方法について学ぶ。本授業では、理科（化学分野）の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて、国内外での種々の教育実践事例の分析・評価を通じて、基本理念、素材と内容の特徴、および学習展開の論理を明らかにする。	
	STEMと学習材デザイン基礎研究（理科） b	次世代の社会・生活の知的基盤となる STEM（Science, Technology, Engineering, and Mathematics）リテラシーの育成を目指した教育をテーマとし、STEM 学習の特徴を効果的に活用した STEM 学習材デザインの理論と方法について学ぶ。本授業では、理科（物理分野）の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて、国内外での種々の教育実践事例の分析・評価を通じて、基本理念、素材と内容の特徴、および学習展開の論理を明らかにする。	
	STEMと学習材デザイン基礎研究（数学）	STEM 教育は、近年、国内外において注目を集め、学習指導要領解説にも登場するに至っている。この授業では、STEM 教育の基盤をなす数学分野の学習と関連付けた STEM 学習材デザインについて、国内外での種々の教育実践事例の検討を行いながら、次の3つの観点に焦点を当てる。 ・STEM 教育の歴史的経緯を知る。 ・STEM 学習に関する基礎的理解を基盤として、実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。 ・開発した STEM 学習材を分析・評価し、学習材デザインの実践的能力の育成を図る。	
	STEMと学習材デザイン	STEM 教育に関する諸外国の事例を考察するとともに、STEM 教育に関して科	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	ン基礎研究（情報）	学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から専門的内容を学ぶ。また，STEM 教育を推進するために必要となる情報通信技術の活用に関する内容についても学習する。その上で，STEM 教育の実践を想定した基礎的な学習材の開発を行う。この段階においても科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から検討を進めるとともに，情報通信技術を活用することを通して授業実践に必要な基礎的能力を育成する。	
	STEMと学習材デザイン発展研究（理科） a	STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) 学習に関する基礎的理解を基盤として，実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。開発した STEM 学習材を分析・評価し，学習材デザインの実践的能力の育成を図る。本授業では，理科（化学分野）の学習と関連付けた STEM 学習材の開発にワークショップ形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。また，開発した STEM 学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動を通じて，STEM 学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	STEMと学習材デザイン発展研究（理科） b	STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) 学習に関する基礎的理解を基盤として，実際の STEM 学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。開発した STEM 学習材を分析・評価し，学習材デザインの実践的能力の育成を図る。本授業では，理科（物理分野）の学習と関連付けた STEM 学習材の開発にワークショップ形式で取り組み，学習材開発の実際について学ぶ。また，開発した STEM 学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動を通じて，STEM 学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	STEMと学習材デザイン発展研究（情報）	STEM 教育に関する諸外国の事例を考察するとともに，STEM 教育に関して科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から専門的内容の学習を深める。また，STEM 教育を推進するために必要となる情報通信技術の活用に関する内容についても学習を深める。その上で，STEM 教育の実践を想定した発展的な学習材の開発を行う。この段階においても科学，技術，工学，数学のそれぞれの視点から検討を進めるとともに，情報通信技術を活用することを通して授業実践に必要な発展的能力を育成する。	
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) a	地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題である「自然環境の保全」，「持続的な地球資源の利用」，「自然災害の予測と対処」等についての具体的な事例を基に考察し，課題の解決に向けて科学的に探究できる能力の育成を図る。特に，地域，多様性，時間軸，循環をキーワードとして，自然の恩恵やリスクに関する文献調査，フィールドワーク，および室内実験等を通して，科学的な探究に必要な不可欠な情報を収集・解析し，それを基に探究的な学習材をデザインするための基本的な知識・技能や論理を明らかにする。	
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) b	地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題である「自然環境の保全」，「持続的な地球資源の利用」，「自然災害の予測と対処」等についての具体的な事例を基に考察し，課題の解決に向けて科学的に探究できる能力の育成を図る。特に，地域の生態系や生物多様性に関する内容を中心に，環境や人間社会とかかわりについて概説し，文献調査，フィールドワーク，および室内実験等を通して，科学的な探究に必要な不可欠な情報を収集・解析し，それを基に探究的な学習材をデザインするための基本的な知識・技能や論理を明らかにする。	
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究（技術・工業）	ものづくり教育における指導の基盤となる，構想・設計・製作と環境・社会の関係性に関する専門的内容を習得する。また，ものづくりの指導における現状を論理的に認識し，環境的・社会的な課題の解決を目指した学習材をデザインするための視点を養う。具体的には，中学校技術・家庭（技術分野）あるいは高等学校工業におけるものづくりの学習内容を取り上げ，1. ものづくり教育の特色，2. 背景となる材料・構造・機能と環境・社会に関する専門的内容，および3. 環境的・社会的側面を取り入れたものづくり学習材のデザイン，について発表とディスカッション，学習材の製作を行う。	
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究（社会・地理歴史）	本授業では，自然環境と人間社会の関係の変容とその要因・背景について，近年発生した身近な自然災害や，農村や山間地の農林業などの具体的な事例を基に考察し，探求的な学習材をデザインするための基本的な論理を明らかにする。授業においては，インターネットを通して得られる新旧地図，空中写真，統計資料，GIS などの各種資料の効果的な活用方法，フィールドワークの技法についても併せて修得し，学習材に取り込む手法を検討する。	
	環境・社会と学習材デザイン基礎研究（家庭）	地球環境，地域環境と人間社会のかかわりの中で，人間生活が環境に及ぼす影響，自然環境の生活への恩恵，持続可能な循環型社会，自然災害と防災など，環境と社会と生活を繋げる視点を養い，理解を深める。先行研究をもとに，関連す	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		る専門的知識を学び、研究方法と成果について考察、討議を行う。また、地域環境と生活に関するフィールドワークを通して、環境と社会と生活の関連の中での課題を発見し、主として都市や住宅に関わる住生活領域の学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) a	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) a」で習得した知識や技能に基づいて、地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題の解決に向けて、実際の教育現場で活用可能な学習材をデザインする能力の育成を図る。特に、地域、多様性、時間軸、循環をキーワードとして、「土地の成り立ちや構成物」を題材とした学習材について具体的な課題を設定し、その課題について文献調査、フィールドワーク、室内実験等の手法により情報の収集・解析を行う。さらに模擬的な試行、評価・分析を通じてより実用的な学習材をデザインする能力を育成する。	
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(理科) b	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究(理科) a」で習得した知識や技能に基づいて、地球環境と人間社会のかかわりにおける今日的な課題の解決に向けて、実際の教育現場で活用可能な学習材をデザインする能力の育成を図る。特に、地域の環境の中から主として生態系や生物多様性を題材とした学習材について具体的な課題を設定し、その課題について文献調査、フィールドワーク、室内実験等の手法により情報の収集・解析を行う。さらに、模擬的な試行、評価・分析を通じてより実用的な学習材をデザインする能力を育成する。	
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(技術・工業)	環境・社会に配慮したものづくり教育に適した学習材をエビデンスに基づいてデザインできる実践力を養う。また、環境的・社会的な課題の解決を目指した授業をデザインするための視点を養う。具体的には、中学校技術・家庭(技術分野)および高等学校工業におけるものづくりの構想・設計・製作・評価・改良・応用に関する学習場面を取り上げ、1. ものづくり教育の学習材の現状と課題、2. ものづくり教育における学習材の実践・評価方法、および3. 環境・社会に配慮したものづくり教育の学習材のデザイン、について学習材の構想・設計・製作、授業の立案、発表とディスカッションを行う。	
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(社会・地理歴史)	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究」で修得した研究視角及び知識をふまえて、自然環境と人間社会の多面的な関係の変容に関する具体的な事例を選定し、インターネットを通して得られる地図、統計、GISなどの各種資料とフィールドワークで得られたデータを用いて、その要因・背景を実践的に考察する。これに基づいて模擬授業やプレゼンテーションを行い、授業内での議論をふまえて、より効果的かつ実用的な学習材の開発を検討する。	
	環境・社会と学習材デザイン発展研究(家庭)	「環境・社会と学習材デザイン基礎研究」で修得した知識や技能を基に、地球環境、地域環境と人間社会のかかわりの中で、主に住生活領域の学習材の開発を試みる。「地域や都市の安全」「快適な住生活環境」「住まいの安全」をメインテーマとして、履修学生の興味、関心を踏まえながら、情報収集・整理を行う。その中から課題を検討し、学習材開発、発表・討議、改善を行う。このような活動を通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(理科) a	科学と人間社会・文化との関わりを自然科学の観点から捉え、文化の知的基盤の一つである自然科学について、特に生物学を中心とした専門性を身につけるとともに、生物学の知見を共有する他領域との関連性を概観し、科学や文化を背景とした学習材デザインの理論と方法を修得する。授業では、自然科学(生物学)の内容について、生物や生物を取り巻く環境を題材として扱うとともに、理科の学習における今日的な課題を取り上げ、自然科学と文化および学習材との関連について学ぶ。また、種々の学習材の分析・評価を通じて、理科(生物分野)における学習材の特性と学習展開の論理を明らかにする。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(数学) a	解析学の一大分野である偏微分方程式論(特に、双曲型偏微分方程式)の基礎的・典型的内容についてセミナー形式で学習をし、更に関連する数理論理にその起源を持ついくつかの具体的な偏微分方程式についての基礎的・先端的な論文を適宜読んで、新たな問題の発掘を行い定式化しそのオリジナルな問題の解決を図る。同時に偏微分方程式論を展開し学ぶ上で特に重要な基礎的概念である、いわゆる超関数論に基礎を置く「Sobolev 空間論」、「Fourier 積分論」、「実関数論」及び「関数解析学」についても適宜復習及び習得しながらセミナー形式で学び、偏微分方程式論に関する専門的知識の獲得とその充実も図る。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究(数学) b	解析学について興味を持つ受講者を対象に、解析学に関する基礎的な理論的研究成果の分析及び中・高等学校の教科書の分析をしたり、数学の学習における様々な今日的な諸課題を取り扱い検討したりして、数学的な知識だけでなく、数学的概念や思考、論理等の数学的探究の本質や原理について論究する。さらに、その	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育デザインプログラム専門科目		ような学習材に関する基礎的な学びを通して、解析教育における数理認識形成に効果的で適切な学習材デザインについて考察する。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究（技術・工業）	現代社会に広がる科学技術は生活文化にも大きな影響を与えている。この観点に立脚しながら、小学校から高等学校までの技術・工業系の教科に関する「ものづくり学習材」や「エネルギー変換学習材」の構築に必要な基礎的な知識と技法について学ぶ。技術者倫理学、金属材料学および加工学、エネルギー変換学を中心として、（１）現代の科学・文化の文脈における各学問の関わり、および（２）課題を正確に理解するために必須の専門的内容を学んだ後、（３）ものづくり学習材を通しての課題解決に関する基礎的な内容を例示し、PBLやALといった手法を用いながら議論し、最終的に各自課題解決策に関するプレゼンテーションを行う。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究（社会・公民）	時代とともに変動しながらも公式・非公式の制度や伝統として維持されている「文化」の科学的探究をテーマに、主に法律学の分野における社会科学的な調査研究例を紹介し、それらの生徒・学生・一般市民への教授可能性と、学習材として最新の科学的知識を導入する社会的影響とを検討することにより、高度な教材研究を行う基礎的な能力の獲得をめざす。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究（家庭）	自然科学と人間社会や文化の関係を、自然科学の観点から、また、文化的観点から捉え、次世代の教育を实践できる教育者を養成するための基盤となる専門的知識の広範な視野を養い、家政学の学問領域を背景とした学習材のデザインについて、教育課程と照らして理論的・実践的に研究する視点や方法を学ぶ。衣生活学とその背景となる家政学の専門的内容から、自然科学と文化および学習材との関連について解説する。これらの活動を通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	科学・文化と学習材デザイン基礎研究（美術）	科学・文化に関する知的基盤を背景に、美術（工芸領域）と関連付けられた学習材の開発に実践形式で取り組み、学習材開発の実際について学ぶ。具体的には、（１）美術（工芸）を日本の伝統文化と関連付けて調査する、（２）美術（工芸）を材料科学の観点からの考察する、および（３）作品制作学について実践的に検証する。これによって文化的観点および科学的側面からの発想を自己の作品制作の中に表現できる能力を培い、学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	科学・文化と学習材デザイン発展研究（理科）a	科学・文化の発展に寄与する自然科学（生物学）に関する基礎的な理解を基盤として、理科（生物分野）における学習材の開発プロセスを逐次的に体験・検証する。また、開発した学習材を分析・評価し、学習材デザインの理論的・実践的能力の育成を図る。授業では、科学・文化に関する知的基盤を背景に、理科（生物分野）と関連付けられた学習材の開発にワークショップ形式で取り組み、学習材開発の実際について学ぶ。さらに、開発した学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動や、学習材のデザインを自然科学の専門的観点および文化的側面から論理的に考察する活動を通じて、学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	科学・文化と学習材デザイン発展研究（技術・工業）	現代社会に広がる科学技術は生活文化にも大きな影響を与えている。この観点に立脚しながら、小学校から高等学校までの技術・工業系の教科に関する「ものづくり学習材」や「エネルギー変換学習材」の構築に必要な応用的な知識と技法について学ぶ。「科学・文化と学習材デザイン基礎研究」において得られた知見をもとに、課題を解決するためのものづくり学習材の製作を行う。主体的で深い学びを触発するためにPBLやALといった手法を用いながら、ものづくりのPDCA「企画・構想(Plan)」、「設計・加工(Do)」、「評価(Check)」、「実践(Action)」の一連の流れを経験し、課題の解決策を提供する。これにより、中学校技術科や高等学校工業科の教育の実践的研究者として、技術系教育の改善に向けた取り組みに参画する応用力のある能力を育む。	
	科学・文化と学習材デザイン発展研究（社会・公民）	基礎研究で参照し検討した「文化の科学的探究」に関する知見をさらに発展させて、受講者は主に法律学の分野における制度や文化の社会科学的調査研究例を読み解き報告したうえで、さらに、それらの学習材としての活用可能性や、さらなる調査研究の具体的な設計を受講者間で討論することにより、基礎法学的な高度な知識と教材開発能力の獲得をめざす。	
	科学・文化と学習材デザイン発展研究（家庭）	「科学・文化と学習材デザイン基礎研究」で習得した知識や技能に基づいて、自然科学などの文化の発展に寄与する学問領域の成果を次世代へ継承する学習材をデザインし、理論的・実践的に研究する能力の育成を図る。衣生活学および家政学を基盤とした学習材の開発を探究的に扱い開発した学習材を用いた試行的教育実践を企画・立案する活動、さらにはその学習材のデザインを自然科学の専門的観点と文化的観点から論理的に考察する。このような活動を通じて学習材デザ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		インの実践的能力を育成する。	
	科学・文化と学習材デザイン発展研究(美術)	基礎研究(美術)で得られた知見を基盤として、より理論的・実践的に研究する能力の育成を図る。具体的には、工芸制作学を中心として、(1)日本の伝統文化と関連付けてより発展的に調査する。(2)「素材(工芸材料科学を含む)」、「意匠」、「表現技法」の三つの造形要素について実践的に検証する(作品制作)。これらを通じて、地域や歴史を背景に、素材と技法によって多様な世界を発展させてきた工芸の特性を多角的に研究し、学習材デザインについて、文化的観点と科学的側面から考察する。	
	ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究(技術・工業)	この授業では、中学校技術および高等学校の工業における教科指導の基盤となる、技術内容学の専門的内容の基礎を学ぶ。また、技術・工業の教科指導における現状を論理的に認識し、その課題の解決を目指した技術・工業学習材の開発のための技術・工業内容学および技術・工業教育の視点を学ぶ。技術・工業内容学を中心として、(1)学習内容の特色、(2)背景となる技術・工業内容学の専門的内容、および(3)学習材の活用と開発について基礎的な観点から議論する。	
	ものづくり教育と学習材デザイン基礎研究(情報)	この授業では、中学校および高等学校の情報における教科指導の基盤となる、情報内容学の専門的内容の基礎について習得する。また、情報の教科指導における現状を論理的に認識し、その課題の解決を目指した情報学習材の開発のための情報内容学および情報教育の視点を養う。情報内容学を中心として、(1)学習内容の特色、(2)背景となる情報内容学の専門的内容、および(3)学習材の活用と開発について基礎的な観点から議論する。	
	ものづくり教育と学習材デザイン発展研究(技術・工業)	この授業では、中学校技術および高等学校の工業における教科指導の基盤となる、技術内容学の専門的内容を発展的に学ぶ。また、技術・工業の教科指導における現状を論理的に認識し、その課題の解決を目指した技術・工業学習材の開発のための技術・工業内容学および技術・工業教育の評価方法を学ぶ。技術・工業内容学を中心として、(1)学習内容の特色、(2)背景となる技術・工業内容学の専門的内容、および(3)学習材の活用と開発について発展的な観点から議論する。	
	ものづくり教育と学習材デザイン発展研究(情報)	この授業では、中学校および高等学校の情報における教科指導の基盤となる、情報内容学の専門的内容について発展的に習得する。また、情報の教科指導における現状を論理的に認識し、その課題の解決を目指した情報学習材の開発のための情報内容学および情報教育の評価方法を養う。情報内容学を中心として、(1)学習内容の特色、(2)背景となる情報内容学の専門的内容、および(3)学習材の活用と開発について発展的な観点から議論する。	
	社会・生活と学習材デザイン基礎研究(社会・公民)	この授業では、社会・生活の内容のうち主として現代倫理や応用倫理の視点から倫理教育内容、教材開発の基礎研究を行う。まず現代倫理学の基本問題と倫理学が直面する現代的かつ喫緊の課題(生命、環境、情報、福祉など社会・生活に関連する課題)をあらかじめ提起する。そして受講者がこのうちのいくつかを選択し研究報告をし、その後で討論を実施する。文献等の選定は受講者と相談してから決める。適宜映像資料も使う。	
	社会・生活と学習材デザイン基礎研究(家庭)	人の社会行動と生活行動を総合的に理解することによって、適切な学習材がデザインできるようにするために、生物としてのヒトの進化に関わるさまざまな事象を理解するところからはじめる。そこからさらに、衣食住や子育てに関連してヒトが人としてどのような位置づけを持っているかに関する理解を進めるとともに、それらに関わる先行研究を紐解き、その背景、研究手法、分析法および成果についても考察し、討議を行う。それらを通じて学習材デザインの実践的能力を育成する。	
	社会・生活と学習材デザイン発展研究(社会・公民)	この授業では、「基礎研究」で修得した研究視角および知識をふまえた発展研究として、主として現代倫理や応用倫理の主要課題を題材として、倫理教育内容、教材開発の研究を深める。さらに、倫理に関する内外の基本資料の研究や討論等を通じて、市民性認識の応用力・活用力を高めるとともに、社会認識教育および倫理教育における高度な教材研究・教材開発能力の応用力・活用力の修得をめざす。現代社会について「自ら考える力」を養うことが受講者の目標である。	
	社会・生活と学習材デザイン発展研究(家庭)	「社会・生活と学習材デザイン基礎研究(家庭)」で培ったヒト理解に繋がる知識に基礎を置きながら、人の社会と生活をさらに発展的により深く理解することを目的として、生活経営学、家族関係学、人間発達科学の諸領域に関連する研究課題を取り上げ、それらに関する学術書や文献(英語の文献を原則とする)を講読し、それらに関わる発表、討議を行うとともに、これらの分野に関してどのように学習材をデザインしていくかを論議する。	
創造性と学習材デザイン基礎研究(社会・公民)	数学から歴史・思想まで守備範囲が広い「経済学」を軸に、数式・実態・史資料から社会経済像を創造し、それらを学習材に仕上げられるような基礎分析力を		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		身に付けることが到達目標である。経済学を中心として、(1) 学習内容の特色、(2) 背景となる経済学の専門的内容、および(3) 教材活用と教材開発について講義と議論をしていく。	
	創造性と学習材デザイン基礎研究(家庭)	食生活の現状を踏まえ、次世代の革新的で先導的な教育を実現するための基礎的資質・能力を育成するために、特に調理科学、食文化、食行動を中心とした人間と食生活との関係について理解を深めていく。人間と食生活との関係に関する近年の研究動向の概説を基に討議、発表を行う。調理科学を中心とした食生活領域に関する基礎研究方法を習得した上で、次世代の食生活支援のあり方、新たな料理の創造など、課題を追究し、デザインする能力を養う。	
	創造性と学習材デザイン基礎研究(音楽)	次世代の革新的で先導的な教育を実現するための資質・能力を育成するにあたり、本講義では現代の新しい音楽創作のスタイルや方法について理解を深める。具体的には、20世紀以降の代表的な作曲技法・コンセプト・作品について言及する。授業では、多彩な視聴覚資料や楽譜資料を参照することはもちろんのこと、場合によっては部分的な試演を行うことにより、机上の理論のみにとどまらない、より深い体験に基づいた理解を促す。なお、講義後に課すレポートによって評価が行われる。	
	創造性と学習材デザイン基礎研究(美術)	21世紀型スキルの中核的要素である、創造性を育む学習材の開発と活用に向けて、中学校美術科および高等学校美術科の教科指導の基盤となる、美術科の中においても特にデザインの領域における専門的内容を習得する。現代のデザインに求められている、さまざまな新しい技術や表現手段、ツールについて、国内外の事例について自ら調査・研究し、その成果にもとづいてデザインの企画・制作を実際に行うことを通して、創造性を養い、その知識と技術について実践的に学ぶ。	
	創造性と学習材デザイン発展研究(社会・公民)	「基礎研究」の講義内容を踏まえて、数学から歴史・思想まで守備範囲が広い「経済学」を軸に、数式・実態・史資料から社会経済像を創造し、それらを学習材として生かしていくために、履修者がテーマごとに報告し、その上で、参加者全員で、議論し、よりよい創造性に基づいた学習材の作成と実践能力を身に付けることを到達目標とする。経済学を中心として、(1) 学習内容の特色、(2) 背景となる経済学の専門的内容、および(3) 教材活用と教材開発について、基礎論で講義した内容を踏まえて、参加者に報告してもらい、その上で、皆で議論していく。	
	創造性と学習材デザイン発展研究(家庭)	創造性と学習材デザイン基礎研究を踏まえ、次世代の革新的で先導的な教育を応用展開していく資質・能力を育成する。特に調理科学、食文化、食行動に関わる研究を中心に人間と食生活との新たな方向性について、実験研究、フィールドワークなど実践活動に焦点を当て、追究する。履修学生の興味、関心を踏まえながら、学外関係者(料理人、現場教員、食文化精通者など)との連携なども視野に入れ、創造性に富んだ視点や方法および実践技能を養う。	
	創造性と学習材デザイン発展研究(音楽)	様々な時代やジャンルにおける音楽創作の方法を用いて実際に作曲し、その特性について理解しつつ、教育現場における学習材の開発・運用方法について検討する。なお、第1回から第7回においてソナタ作品、第8回から第14回において現代奏法を用いた作品を作曲し、第15回目で試演を行う。続いて第16回から第22回において対位法の基礎と応用について学び、第23回から第29回にかけては様々なコンセプトによる即興演奏について学ぶ。第30回は即興演奏の試演を行う。	
	創造性と学習材デザイン発展研究(美術)	21世紀型スキルの中核的要素である、創造性を育む学習材の開発と活用に向けて、中学校美術科および高等学校美術科の教科指導の基盤となる、美術科の中においても特にデザインの領域における、高度に専門的な内容を習得する。創造性と学習材デザイン基礎研究(美術)における学習をふまえて、自ら企画・立案したデザインを実現するために必要な条件について調査・研究し、その成果にもとづいてプロトタイプ制作を実際に行うことを通して、創造性を養い、デザインを実現するために必要な知識と技術を実践的に学ぶ。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究(国語)	言語と言語によるコミュニケーションについて、その体系性と多様性を分析・記述するための基礎的知識を確認し、その実践のための資料や方法について学ぶ。また、その知見を言語やコミュニケーションの教育・学習にどのように生かせるかを検討する。特にこの授業では近年開発が進んでいるコーパスを利用した言語研究をとりあげ、その特性や利用法を理解することに重きをおく。さらに、その研究による知見を言語の教育・学習と接続するための視点を明確にする。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン	この授業では、音声学・音韻論、文字論、形態論、統語論、意味論、語用論、談話分析、レトリック、文体論、文学理論、社会言語学を扱い、英語の構造と機	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	基礎研究（英語）	能, それらに基づいたコミュニケーションの形態についての知識を深める。これら英語学における基礎理論をベースとして, 英語教育における現在の学習材の分析, これからの学習材の在り方について検討する。具体的には, 実際の中・高等学校の教科書や副教材などを分析し, さらに自分でも教材やワークシートの作成を行う。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン基礎研究（音楽）	オペラ, オラトリオ, 歌曲のテキストと音楽の関係に着目し演奏解釈を行うとともに, その技法を習得し芸術性の高い演奏を追求する。詩のもつ形, 響き, 内容の美しさを踏まえ, 再現芸術としての音楽をどのように表現するかを学習する。この授業では具体的な方法として, 日本歌曲, ドイツリート, オラトリオ, イタリアオペラ, フランス歌曲を扱い, まず言語や時代による詩の形式の特徴を理解し, その上でそれぞれの音楽とテキストの関わりやその表現方法について学ぶ。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（国語）	言語と言語によるコミュニケーションの体系性と多様性に関する基礎的知識を生かしながら, 記述言語学や社会言語学, 方言学の考え方や方法論を学ぶとともに, 現代日本語の体系性と多様性についての分析・記述を行う。コーパスや言語地図といったさまざまな言語資料や, アンケート, インタビューなどを対象にした調査法の特徴を知り, 研究目的に合わせて適切な方法が選べるようにする。また, そうした知見の国語教育への応用の可能性を検討する。前半は講義・文献講読, 後半は受講生が調査課題を設定して発表とディスカッションを行う。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（英語）	英語文学テキストを対象に, 表現上の工夫・文化的歴史的背景・作者の意図・読者の反応等に関する理解を深める。また, 英語コミュニケーション能力のいかなる部分が文学テキストによって効果的に向上するかについても研究する。さらには, 文学テキストを英語教材に用いる際の留意点を, アダプテーションの在り方, 発問の工夫, マルチメディアの活用, アクティブラーニングの実践等から考える。最終的には英語文学テキストに基づいた教材を作成する。	
	言語・コミュニケーション表現と学習材デザイン発展研究（音楽）	「言語・コミュニケーションと学習材デザイン基礎研究」の発展として, より高度な楽曲を教材とし, コミュニケーションとしての音楽表現を踏まえながら, 人間にとって音楽とは何かを追求する。具体的な方法として, すでに学んだテキストと音楽との関わりやその表現方法をもとに, 日本歌曲, ドイツリート, オラトリオ, イタリア歌曲, イタリアオペラ, ドイツオペラ, フランスオペラの作品の一部を実際に演奏することでその芸術性を追求する。	
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（社会・地理歴史）	都市地域や農村地域などで生じている地域的諸課題や地域変化, あるいは世界各国で深刻化している地球的課題などの地理的事象に関して, 地理学とその隣接領域の研究成果から学びながら, 専門性の高い研究課題の設定, 検討課題の整理, 資料の収集法, GIS などを用いた統計分析, 関連論文の輪講, 研究動向の把握を踏まえて, 人文地理学や地理教育（特に持続可能な開発に関する教育: ESD）に関する専門領域研究と教材開発研究の遂行に必要な基礎的知識及び技能を習得する。	
	地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（国語）	新学習指導要領の高等学校国語科で必修科目となった「言語文化」は, 日本語を, 日本の歴史の中で創造され, 上代から近現代まで継承されてきたものであることを明記した。本授業は, その日本語が, 同一時代・同一地域において, どの時代においても多様性をもって存続してきたことを, 各時代の具体的な文献に記された言語を詳しく見ることを通じて実体験することを目的とする。具体的には, 訓点資料の古写本を読む中で, 過去の日本語における多様性を理解することで, 地域による言語の多様性にも視野を広げ, 学習材の基礎的研究に活かす。	
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究（社会・地理歴史）	都市地域や農村地域などで生じている地域的諸課題や地域変化, あるいは世界各国で深刻化している地球的課題などの地理的事象および海外の特色ある中等教育の地理教科書に関して, 地理学および地理教育とその隣接領域の研究成果から学びながら, 専門性の高い研究課題の設定, 地理情報システム (GIS) などを用いた統計分析と地図化, 研究成果とその教材開発について発表や討論などを通して, 専門領域研究・教科書研究と教材開発研究を相互に関連させて発表しながら学ぶ。	
	地域・歴史と学習材デザイン発展研究（国語）	新学習指導要領の高等学校国語科で必修科目となった「言語文化」は, 日本語を, 日本の歴史の中で創造され, 上代から近現代まで継承されてきたものであることを明記した。本授業では, 地域・歴史と学習材デザイン基礎研究（国語）で得られた知見を基礎に, 訓点資料に記された古代の日本語について, 研究テーマを主体的に設定して, 日本語の多様性に配慮した研究を行うことで, 過去の日本語における多様性を体験・理解し, 地域の相違による言語の多様性にも視野を広げ, 必修科目「言語文化」の学習材を開発するための発展的研究に繋げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目	表象・文化と学習材デザイン基礎研究(国語)	人間が世界をイメージし、その行為を通じて表現された文化的事象である表象について、その形式や内容はもとより、生産、流通、受容の関係性について考えるための基礎的知識と態度を養う。さらに、その知見をさまざまな領域における学習課題につなげる視点を獲得する。具体的には、日本の近現代文学(近現代小説、近現代詩歌、ノンフィクション)を取り上げ、表象文化を理解する為の理論的かつ歴史的問題について、また、それらの国語科学習材としての可能性について検討する。授業は教員の講義を中心に進める。	
	表象・文化と学習材デザイン発展研究(国語)	人間が世界をイメージし、その行為を通じて表現された文化的事象である表象について、その形式や内容はもとより、生産、流通、受容の関係性について考えるための発展的知識と方法を養う。さらに、その知見をさまざまな領域における学習材の開発に活かす能力を育成する。具体的には日本の近現代文学(近現代小説、近現代詩歌、ノンフィクション)とその隣接領域(映像や絵画などの視覚文化、雑誌メディア)を取り上げ、国語科学習材の開発を念頭に置いた具体的な表象文化の分析と検討を行う。授業は、演習形式を採用する。	
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(保健体育)a	こころ・身体をテーマとした5段階の思考方法「Emphasize(共感)」「Define(定義)」「Ideate(創造)」「Prototype(試作)」「Test(検証)」を身につける。共感とは、意見の共有により、感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は、焦点の絞り込みをおこなうことで、正しく問題設定をして、解決策を生み出すことである。創造は、コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ、試作は、最終的な解決策に近づく質問に答えるために、繰り返し実践する事である。検証は、学習者からのフィードバックをもとに、自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的实践に対し、スポーツ学及び身体学の観点から、アプローチを行う。	
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(保健体育)b	こころ・身体をテーマとした5段階の思考方法「Emphasize(共感)」「Define(定義)」「Ideate(創造)」「Prototype(試作)」「Test(検証)」を身につける。共感とは、意見の共有により、感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は、焦点の絞り込みをおこなうことで、正しく問題設定をして、解決策を生み出すことである。創造は、コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ、試作は、最終的な解決策に近づく質問に答えるために、繰り返し実践する事である。検証は、学習者からのフィードバックをもとに、自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的实践に対し、スポーツ方法学(コーチング)の観点から、アプローチを行う。	
	こころ・身体と学習材デザイン基礎研究(美術)	美術作品を生み出すさまざまな要素について、“こころ”と“身体”に関わる内容を基に、その関係性を理論的に考察していく。特に絵画作品に関する作者自身のコンセプト(制作意図)や制作プロセス(創造過程)、社会的背景(歴史、風土等)、表現行為、表現技法(西洋、東洋、現代)、表現素材、および鑑賞者の立場や造形芸術教育の視点を含めて、多角的に考察を行っていく。具体的には関連する映像や研究論文等の文献の講読を基に検証することで、基礎的な研究を行っていく。	
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(保健体育)a	こころ・身体をテーマとした5段階の思考方法「Emphasize(共感)」「Define(定義)」「Ideate(創造)」「Prototype(試作)」「Test(検証)」の課題解決方法を身につける。共感とは、意見の共有により、感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は、焦点の絞り込みをおこなうことで、正しく問題設定をして、解決策を生み出すことである。創造は、コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ、試作は、最終的な解決策に近づく質問に答えるために、繰り返し実践する事である。検証は、学習者からのフィードバックをもとに、自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的实践に対し、スポーツ学及び身体学の観点からアプローチを行う。	
	こころ・身体と学習材デザイン発展研究(保健体育)b	こころ・身体をテーマとした5段階の思考方法「Emphasize(共感)」「Define(定義)」「Ideate(創造)」「Prototype(試作)」「Test(検証)」の課題解決方法を身につける。共感とは、意見の共有により、感情移入をして相手の思考や意見を「自分の事のように考える」ことである。問題定義は、焦点の絞り込みをおこなうことで、正しく問題設定をして、解決策を生み出すことである。創造は、コンセプトや成果を押し広げるアイディアの幅を可能な限り広げ、試作は、最終的な解決策に近づく質問に答えるために、繰り返し実践する事である。検証は、学習者からのフィードバックをもとに、自分の解決策を学びなおすことを目的としている。以上の段階的实践に対し、スポーツ方法学(コーチング)の観点から、アプローチを行う。	
	こころ・身体と学習材デザイン	美術における“こころ”と“身体”の関係性を、作品を通して制作者と鑑賞者との双	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目	ザイン発展研究(美術)	方向の立場から実践的に検証していく。特に絵画に関する内容を中心に、作品を構成する造形要素や表現技法、表現行為、表現素材等に注目すると共に、造形芸術教育の視点から理論的、実践的に発展させ考察していく。具体的には、絵画に関するさまざまな資料に関しての自身の考えや経験に基づくワークシートの作成と発表を行い、更にディスカッションも行うことで考察を深めていく。また併せて、絵画作品の制作を通して、実践的な研究も行う。	
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科) a	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に、人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし、生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。本授業では、人間生活と科学の関わりを、人間生活を支える物質の科学の側面から捉え、化学および物質科学に関する学問的背景を学びながら、生活の豊かさをもたらす自然や物質からの恩恵を科学技術との関連で深く理解する。このような理解をもとにして、理科・科学教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(理科) b	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に、人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし、生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。本授業では、人間生活と科学の関わりを人間生活の舞台としての自然と大地の側面から捉え、地学および地球科学に関する学問的背景を学びながら、自然環境および地表で起こるさまざまな事物・現象を大地の変化との関連で深く理解する。このような理解をもとにして、理科・科学教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
	生活・科学と学習材デザイン基礎研究(家庭)	人類がこれまでに築き上げてきた知識基盤を背景に、人間生活と科学の関わりという観点から学習材をデザインし、生徒に確かな学力を育むための学習活動を構成できる教師教育者の基礎を形成させる。特に本科目では、人間生活と科学の関わりを人間の食生活や健康維持の側面から捉え、食品学および栄養学に関する学問的背景を学びながら、ヒトの成長や健康と食生活との関わりを物質(食品成分・栄養素)と人間の生体機能(消化吸収・代謝・生理機能)の両面から深く理解する。このような理解をもとにして、家庭科教育における学習材のデザインと開発および学習活動における活用に関する視点や方法論を論考する。	
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科) a	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として、生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。本授業では、人間生活を支える物質の探究を中心に、現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに、生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究手法を把握した後、受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して、素材となる物質や現象の探査、これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法、および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて、当該分野に関する情報収集力を高め、より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(理科) b	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として、生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。本授業では、人間生活の舞台としての自然と大地の探究を中心に、現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに、生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究手法を把握した後、受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して、素材となる物質や現象の探査、これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法、および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて、当該分野に関する情報収集力を高め、より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
	生活・科学と学習材デザイン発展研究(家庭)	「生活・科学と学習材デザイン基礎研究」で培った知識や技能を基盤として、生活・科学とその関連分野における未来志向の学習活動や学習材をデザインできる教師教育者としての視点と技能をさらに発展させる。特に本科目では人間の食生活と健康維持との関わりを中心に、現代的諸問題とも関連させて当該分野の理解をさらに深めるとともに、生活との関わりを探究させる学習材および学習活動のデザインを取り扱う。最新の学習展開や学習材の活用に関する研究動向と研究	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		手法を把握した後、受講生の専門性に合わせて選択された学習材に関して、素材となる物質や現象の探査、これら素材を学習材として構成するための必要とされる手法、および学習活動への展開を含めた活動を行う。このような活動を通じて、当該分野に関する情報収集力を高め、より高度で効果的な学習活動や学習材をデザインするための実践的能力を育成する。	
	表現と学習材デザイン基礎研究 (国語)	自己の内面や外界の事象をある媒体を通して他者に伝えようとするとき、時代や地域、集団の違いによって、どのような差異が生じるのかを考え、またそのような差異が生じる要因や仕組みについて、文字テキストの解釈と分析を通して考察する。本授業では特に訓読現象及び漢文脈と和文脈の問題を軸として、漢詩文を媒介とする言語表現の特色とテキスト間の差異について考察し、その考察をもとに国語科における教材活用と教材開発について議論する。	
	表現と学習材デザイン基礎研究 (音楽)	ヴァイオリン演奏の「表現」に求められる演奏者個人の感性や奏法そのもの、を理論的に学習する。具体的にはまず、これまでヴァイオリンの演奏法を確立した名教師たちの技術的な奏法について整理する。次に実際の楽曲を用い、演奏解釈について、先に学んだ演奏技法との裏付けをもとに、検証する。最終的には、人間の持つ心の内面や自然社会との融合における、ヴァイオリン演奏での「表現」について、論述ができるようなスキルを身につける。またこれらのスキルを、実際の指導において求められる知識と実践についても探る。	
	表現と学習材デザイン基礎研究 (美術)	人間にとっての表現行為は、音楽・文学・美術・演劇等といった芸術からスポーツに至るまで広く適用できる概念であるが、本授業では特に彫刻・立体造形の視点から、この表現と学習材の関係性について理論的研究を行う。また、美術の教科指導における現状を論理的に認識し、その課題の解決を目指した美術教材の開発のための彫刻・立体造形教育および制作学の視点を養う。具体的には、作品制作のプロセスに関わるさまざまな表現様式、表現技法、表現素材、造形要素等についての講義と、それらに関わるテキスト批評、発表、ディスカッション等を通じて、彫刻・立体表現教育についての理解を深める。	
	表現と学習材デザイン発展研究 (国語)	自己の内面や外界の事象をある媒体を通して他者に伝えようとするとき、特定の時代や地域、集団間にどのような規範意識が共有されているのかを調べ、それらの集団に共有される規範意識と個々のテキストの表現との関係について、文字テキストの解釈と分析を通して考察する。 本授業では、規範意識と表現に関する中国古典文学の近年の成果と課題を踏まえ、個々のテキストが時代や集団の規範意識をどのように受容（模倣と逸脱）しているのかを考察し、その考察をもとに国語科における教材活用と教材開発について議論する。	
	表現と学習材デザイン発展研究 (音楽)	理論的な研究の発展として、演奏解釈についての実践的な検証を行う。具体的には「表現と学習材デザイン基礎研究 (音楽)」での最終段階である、人間の持つ心の内面や自然社会との融合における、ヴァイオリン演奏での「表現」についての論述をさらに発展させ、ここではあらゆる時代と形態の作品の実演を通して、さまざまな技法や表現法について明らかにする。併せてその指導法や学習プロセスについても、さまざまなレベルにある学習者の立場に、常に立つことを想定しながら考察する。	
	表現と学習材デザイン発展研究 (美術)	人間にとっての表現行為は、音楽・文学・美術・演劇等といった芸術からスポーツに至るまで広く適用できる概念であるが、本授業では特に彫刻・立体造形の視点から、「表現と学習材デザイン基礎研究」を踏まえた、より発展的・実践的な研究を行う。具体的には、美術の教科指導におけるより発展的な課題解決のために、それらに関わるテキストを通じて彫刻・立体造形の制作過程と原理について学ぶと共に、主題・造形・素材等の視点から表現活動（彫刻制作）を行い、表現と学習材デザインについての考察を深める。	
	教育支援者専門知デザイン基礎研究	生涯学習の観点から、主に学校教育における学習支援の機会や、教育行政機関、教育相談等の学習システムについて現地調査を行い、その役割と課題について理解を深め、これからの生涯学習社会を担う教育支援者に求められる専門知について学校ならびに教育行政の視点から構想する力を育てる。授業形式は、学生の発表と施設見学を主とし、訪問施設ごとに担当グループを編成して事前施設訪問を行い、その内容に基づき全体での事前学習・施設訪問・事後学習をそれぞれ実施する。	
	教育支援者専門知デザイン発展研究	生涯学習の観点から、社会教育、職業教育などの多様な学習支援の機会や矯正教育等の学習システムについて現地調査を行い、その役割と課題について理解を深め、これからの生涯学習社会を担う教育支援者に求められる専門知について学	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		校ならびに教育行政の視点から構想する力を育てる。授業形式は、学生の発表と施設見学を主とし、訪問施設ごとに担当グループを編成して事前施設訪問を行い、その内容に基づき全体での事前学習・施設訪問・事後学習をそれぞれ実施する。	
	教師の成長・キャリアデザイン基礎研究	教師教育に関する国内外の文献を講読し、教師教育や人材育成に関する基本概念や諸理論について理解を深める。さらに、教師教育者の視点から教師教育をめぐる今日的な諸課題を見出し、プレゼンテーション及びグループディスカッションを行い、教師教育や人材育成に関する基本概念や諸理論を適用した解決策を提案する。これらの学修を通じて、教師の成長モデルについて探究するとともに、受講者の教師としてのキャリアデザインを描くことを目指す。	
	教師の成長・キャリアデザイン発展研究	養成・採用・研修という教師の成長・キャリアデザインに着目し、発表やグループディスカッション等を通じて教師教育の新しい考え方を理解する。さらに、人材育成の理論として注目されるインストラクションデザインにもとづいて、演習を行う。具体的には、教員養成や教員研修に関する課題を分析し、教員養成プログラム・教員研修プログラムを開発・実施し、教師教育や人材育成に関する専門的な知識・技能を獲得するとともに、基礎的な教師の成長・キャリアデザインへの支援のあり方を探究する。	
	教職課程・現職研修カリキュラムデザイン基礎研究	本授業の目的は、教員志望者及び現職教員における専門性開発のその成長のための課題解決を支援する方法論について理論的に考察することである。とりわけ、ノールズ、コルブ、コルトハーヘン、ロックランらの諸言説を成人教育論（andragogy）、専門性開発論（professional development）の視点から検討し、教師教育の方法論の体系化をはかる。さらに、これらの視点を手がかりにして教職課程や現職研修を観察し、教師教育者の特質や課題について実証的に究明する。	
	教職課程・現職研修カリキュラムデザイン発展研究	教員養成課程の「各教科の指導法」、校内研修の「授業研究」等を中心に、様々な教師教育の取組事例を収集するとともに、これらのカリキュラムを「基礎研究」で学んだ理論を活用して分析・評価し、再デザインする。また、カリキュラムデザイナーとして養成・研修の場にも参画し、カリキュラムの効果や意味を調査、分析する機会を得る。本成果は、大学教員や指導主事らと共同して、教職課程・実習の手引きや、研修ハンドブック等の作成に活かされる。	
	教師教育プラクティカム基礎研究	本授業の目的は、教員志望者及び現職教員における専門性開発のその成長のための課題解決を支援する概論や方法論について実践的に考察することである。とりわけ、ノールズ、コルブ、コルトハーヘン、ロックランらの諸言説を成人教育論（andragogy）、専門性開発論（professional development）などの視点から検討し、教師教育の方法論の体系化と理論化をはかる。 さらに、これらの視点を手がかりにして教職課程や現職研修を観察し、教師教育者の特質や課題について実証的に究明していく。なお、事例的に教科教育学（例＞体育科教育学）の視点からも考察する。	
	教師教育プラクティカム発展研究	本授業の目的は、教員養成課程の「各教科の指導法」、校内研修の「授業研究」等の様々な取組事例を視察しながら資料を収集するとともに、分析・評価し、再デザインすることである。 もちろん、これらの目的を達成するために、「基礎研究」で修得した理論を活用して指導・助言の主体として指導と運営に参画し、教師教育者に求められる専門性について省察の機会を得る。したがって、プラクティカムの成果は、大学教員や学校の研究主任及び教育委員会の指導主事らといった教師教育者とともに、アクションリサーチ型の方法論（質的かつ量的）を手がかりとして論文化あるいは教師教育者ハンドブックの作成を試みる。	
	実習指導・授業研究デザイン基礎研究	これからの学校教育においては、「学び」を中心とした授業を計画し、実践する能力をもった教師が必要とされている。教科内容と指導法に関する知識・技能だけでなく、学習科学や生徒に関する知識を持ち、生徒の学びを見とりながら柔軟に授業を展開できる授業力量が現場の教師にはより強く求められるようになったと言える。では、教員養成の段階で、将来の英語教育の担い手が、新しい知識観・学習観に基づいて授業を計画・実施・評価する基礎的な能力を身に付けるための教育実習はどうあるべきであろうか。また、力量形成につなげるための授業研究をどのように実施するべきであろうか。本授業では、これらの問いに答えるための足掛かりとして、教育実習観察を実施して現状への理解を深め、観察者間の協議を通して授業研究の実施に関する課題の整理を行う。	
実習指導・授業研究デザイン発展研究	教員養成の段階で、将来の英語教育の担い手が、新しい知識観・学習観に基づいて授業を計画・実施・評価する基礎的な能力を身に付けるための教育実習はどうあるべきであろうか。また、力量形成につなげるための授業研究をどのように		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		実施するべきであろうか。本授業では、「実習指導・授業研究デザイン基礎」の学修を通して見出した課題を解決し、授業改善や力量形成に資するものとなるよう、当事者意識、対話の活性化、実践意欲の向上と実践の改善をキーワードとした実習指導・授業研究のデザインを検討する。	
	特別支援教育学特論	特別支援教育の歴史、制度、理論と現状について知ると共に、特別支援学校、特別支援学級ならびに通級による指導の実際について知識を得ることを目的とする。特別支援教育の動向を歴史・社会的背景・理念・制度を分析・考察するとともに、視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱教育についての解説、現状と課題についての考察を行う。また、特別支援学校、特別支援学級と通級による指導における実践と関係する学習指導要領、教育課程に関して説明する。さらに、インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮や基礎的環境整備、通常教育における特別な教育的ニーズに対する対応の在り方についても解説する。	
	特別支援教育実践研究	特別支援学校等で行われている授業の参観（授業場面を収録したビデオの視聴も含む）や、研究科附属特別支援教育実践センターで行われている教育相談への参画等とおして、障害のある幼児児童生徒や成人に対する教育的支援や保護者支援の実際について学ぶ。特別支援学校等で行われている授業を参観する場合は、事前指導において参観に臨む際の倫理的配慮や参観の視点等について整理するとともに、事後指導において参観をとおしての気づきや疑問等に関するディスカッションを行う。研究科附属特別支援教育実践センターで行われている教育相談に参加する場合は、事前・事後指導の受講に加え、ケース会議への参加や教材・教具の作成、指導プログラム案の作成等にも取り組む。	
	発達障害指導法特論	<p>（概要）自閉症、LD、ADHD等の発達障害のある児童生徒の心理・生理・病理及び指導方法、授業を進める上での留意点等を紹介し、発達障害のある児童生徒の教育に携わるための基礎的知識を身につけることを本授業の到達目標とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（20 若松 昭彦／8回）          発達障害の概念と医学的、心理学的特徴          自閉症の定義と概念の変遷          自閉症の心理特性          構造化された指導と学習・生活支援          自閉症のコミュニケーション支援          社会的スキルの指導(2)コミック会話、ソーシャル・ストーリー          発達障害のある児童生徒が在籍する学級の人間関係形成</p> <p>（129 村上 理絵／7回）          高機能自閉症・アスペルガー症候群の児童生徒の特徴と授業での留意点          ADHDの児童生徒の特徴と授業での留意点          LDの児童生徒の特徴と授業での留意点          発達障害のある児童生徒のアセスメント          発達障害のある児童生徒を持つ保護者への支援          不適応行動への対応          社会的スキルの指導(1)ソーシャルスキル・トレーニング</p>	オムニバス方式
コミュニケーション障害指導法特論	<p>言語・コミュニケーション障害分野における最新の臨床事情や研究動向について、国内外の文献購読を行うことにより、新たな知見や有効で信頼性の高いエビデンスを得ることを本講義の目的とする。なお、以下の3つの内容を本講義の柱とする。</p> <p>1. 言語・コミュニケーション障害分野における最新の臨床事情を、実践研究論文や実践報告を講読することにより把握する。また、研究論文や実践報告で述べられた臨床効果について、そのエビデンスのレベルを個人レベルでのレビューやシステマティックレビューを通して検討することとする。</p> <p>2. 言語・コミュニケーション障害分野における最新の研究動向を、研究論文を講読することにより把握する。また、Critical Readingを行うことにより、研究論文で示されている研究仮説や研究課題、方法、分析、結果、考察、研究の限界点および今後の展望について、優れている点や問題点を検証する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		3. 研究と臨床の接点について考察し、研究のための研究ではなく、研究プロセスおよび結果を臨床に生かし、社会に貢献する研究デザインのあり方について検討する。また、いかにして Evidence-Based Practice を言語障害教育分野に適応させ、より有効で、教育的ニーズに適った臨床方法を個々の児童・生徒に実践することができるか、という点についても検討する。	
	重複障害指導法特論	重複障害者、とりわけ重度の感覚障害や運動障害・知的障害を併せ持つ児童生徒への指導については、教育現場において大きな課題となっている。そこで、本講では、第一に医療的ケアを必要とする子ども達に教師としてどのようにかわるか、安全にかつ教育効果を高める指導とは何かについて学習を行う。次に、重複障害教育の国際的動向について、国内外の論文を購読し、重複障害児・者の多様な教育的ニーズに応える実践的な指導法について学習を行う。以上の内容を中心に受講者間で協議を行い、重複障害者教育の現状と今後の課題について、考察を深めることとする。	
	視覚障害指導法特論	本授業では、視覚障害児の指導の基礎となる、視覚障害児の特性に応じた指導上の留意点や教材について講義し、視覚障害児の指導に関する基礎知識を身につけることを目標とする。具体的な内容は、1) 学習指導要領における視覚障害児の指導の留意点、2) 触覚の特性、3) 弱視児の指導と拡大の方略、4) 点字・漢字の読み書きの指導、5) 各教科における教材と指導上の配慮(1)算数・数学、6) 各教科における教材と指導上の配慮(2)社会、7) 各教科における教材と指導上の配慮(3)理科、8) 各教科における教材と指導上の配慮(4)体育、9) コンピューター等を使用した読み書きの指導、10) 触覚教材を用いた指導の留意点、11) 触覚教材の作成法、12) 視覚障害児の自立活動、13) 自立活動における歩行の指導、14) 進路・キャリア教育、15) 視覚障害児の指導法に関するまとめ、である。	
	視覚障害学演習	視覚障害のある幼児児童生徒の指導に関するテーマについて講義すると共に、指導法に関する文献購読の演習を行うことを通して、視覚障害のある幼児児童生徒の指導における指導法や教材について理解を深め、指導に活かす力を身につけることを目標とする。さらに、視覚障害のある幼児児童生徒に対する心理・生理及び病理に関するアセスメント法の原理と手続き・分析法を習得し、併せてアセスメント結果に基づく個別の指導計画立案のプロセスについて理解することも目標とする。  (オムニバス方式/全15回)  (76 氏間 和仁/8回) 第1回 オリエンテーション、教育的な視機能評価について 第2回 分離閾を用いた評価について 第3回 認識範囲の評価について 第4回 視知覚発達の評価について 第5回 読書評価の原理と方法について 第6回 読書評価の分析法について 第7回 アセスメントに基づいた支援計画の作成について 第8回 アセスメントに基づいた教育的な配慮について  (124 森 まゆ/7回) 第9回 教科の指導と教材(国語・算数・数学) 第10回 教科の指導と教材(理科・社会) 第11回 教科の指導と教材(体育) 第12回 自立活動の指導(点字) 第13回 自立活動の指導(歩行) 第14回 高等教育における視覚障害学生支援 第15回 進路・キャリア教育	オムニバス方式
	視覚障害心理学特論	視覚に必要な光学・解剖・生理・病理の知識を概観した上で、見えにくさが発達や学習に与える影響と教育的な解決策について、心理学を基盤とした国内外の文献を通して学ぶ。なお、以下の3つの内容を本講義の柱とする。 1. 弱視が文字等の知覚や読書等に及ぼす影響を測定する心理学を基盤とした方法について、研究論文を精読することにより、その考え方や、手続き、分析方法に関する知識を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教師教育プログラム専門科目		2. 弱視教育における実践研究論文を精読することで、弱視が発達や学習に及ぼす影響や、指導上の配慮の効果の測定方法について心理学の視点から考察することで、その考え方や、手続き、分析方法に関する技能・知識を身につける。 3. これらの知識を基盤として、基礎研究と教育実践研究の2つの側面から、弱視の幼児児童生徒に対して教育的ニーズに応じた教育方法の実践の可能性について心理学的視座のもと受講者間での発表や協議を交えて思考を深める。	
	聴覚障害指導法特論	聴覚障害のある幼児児童生徒を対象とした教育課程の編成や指導方法に関する従来の学術的知見や実践事例を整理するとともに、彼らやその保護者等が抱える学習上及び生活上の課題を改善・克服するための手立てについて理解を深めることを目標とする。親子関係の確立や種々のコミュニケーション手段の習得にむけた指導、聴覚管理と装用指導、書記言語指導、各教科等の指導、肯定的な障害認識を促すための指導、社会性の発達を促すための指導等について、国内外の研究論文や実践報告からの知見をふまえながら学習を進める。特定のテーマにもとづく先行研究等の収集、当該研究に係るレポートの作成とそのプレゼンテーション、学生間でのディスカッションをとおして、聴覚障害幼児児童生徒に対する教育的支援について考察する。	
	聴覚障害学演習	聴覚障害の疑似体験方法、聴覚障害幼児児童生徒の聴力や言語能力のアセスメント方法等について体験的に学習するとともに、各種アセスメントの利点や難点をふまえたうえで、その結果を聴覚障害幼児児童生徒の学習場面に活かす方法について、ディスカッション等をとおして考察する。また、特別支援学校（聴覚障害）等で行われている授業の参観等をとおして、聴覚障害のある幼児児童生徒に対する指導方法や保護者支援の実際について学習するとともに、聴覚障害のある幼児児童生徒を対象とした各教科等や自立活動の学習指導案や教材・教具等を試作する。	
	聴覚障害心理学特論	聴覚障害の心理、生理及び病理に関するこれまでの学術的知見を整理するとともに、聴覚障害幼児児童生徒が抱える学習上及び生活上の課題について理解を深めることを目標とする。聴覚障害の原因や特徴、聴覚管理や聴覚補償の方法、コミュニケーションや言語発達といった側面における課題等について、国内外の研究論文や実践報告からの知見をふまえながら学習を進める。特定のテーマにもとづく先行研究等の収集、当該研究に係るレポートの作成とそのプレゼンテーション、受講学生間でのディスカッションをとおして、聴覚障害幼児児童生徒に対する教育的支援について考察する。	
	知的障害指導法特論	知的障害のある児童生徒の授業に関して、実態把握、計画、授業の実施、評価という授業改善のPDCAサイクルについて理解するとともに、学校における組織的な授業研究の進め方を習得することを目標とする。知的障害のある児童生徒の心理的特徴と学習上の特性、授業分析の系譜、授業の一般的な特徴、個別の指導計画や年間指導計画の作成、単元計画の作成、学習指導案の作成、授業の評価と授業研究法の理論と実際について、実践的・理論的に検討し、考察する。	
	知的障害学演習	知的障害のある児童生徒の指導法に関する文献を読み、具体的な指導案や個別の教育支援計画、個別の指導計画等を模擬的に作成する。そして、作成上の留意点を明らかにすることを通して、受講生が将来の教育実践で、これらを活用できる力を育む。また、知的障害研究で用いられる主要な心理統計法、研究計画法等に関する文献講読を行くとともに、質問紙式検査や個別式検査の解説・実習・検査結果の解釈、知的障害特別支援学級での話合い活動場面のビデオ視聴を通して、他者との関わりの中で育まれる資質・能力に関する協議を行う。これらの演習を通じて、受講者の教育実践力並びに研究能力の基礎を養うことを本授業の到達目標とする。	
	知的障害心理学特論	知的障害のある児童生徒の知覚、記憶、言語・概念発達、動機づけ等の心的機能の諸側面について論じ、知的障害教育に携わるための基礎的知識を身につけることを本授業の到達目標とする。さらに、受講生の興味・関心に基づいて、言語・非言語コミュニケーションや社会性、情緒発達、自己理解、運動発達、保護者やきょうだいの心理等、知的障害の心理学的特性に関わるテーマを採り上げ、関連文献の講読、質疑や協議を行うことで内容の理解を深める。また、文献講読に際しては、知的障害に関する心理学的研究で用いられる量的・質的な研究方法についての解説を行う。	
	肢体不自由指導法特論	本講では、肢体不自由者への身体介助や指導技法について、国際的にスタンダードになっている支援技法の理論的背景について学び、支援に関する基礎的知識とその応用について学習することを旨とする。また、臨床動作法については、演習	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		を通して、体験的な学びを通して、指導技術を身に付けることを目標とする。最後に、肢体不自由を補償する実際的な手段や障害の特性に応じて必要となる手だてについて、コミュニケーションエイドの活用法を中心に学習を行い、肢体不自由者の指導法について考察を深める。	
	肢体不自由心理学特論	肢体不自由者の心理発達の中でも、姿勢運動発達・姿勢反射反応の成熟・中枢神経系の成熟の三者関係について取り上げて、教育・指導法の基礎としての姿勢運動発達・成熟過程に関する知識を習得することを目標とする。また上記に関連して、国内外の研究知見を踏まえて、認知発達理論について学習し、「姿勢・運動の発達」と「認知発達」の関連性について考察を深めることとする。なお、姿勢反射反応の成熟・中枢神経系の成熟については、生理・病理的内容についても取り上げるものとする。	
	病弱教育特論	近年の病弱者教育では、小児期の慢性疾患（ぜんそくや腎臓疾患など）に加えて、心身症や適応障害等のある子ども達への対応が大きな課題となっている。その為、教科や自立活動等の指導を展開していく上では、教育・心理学的な実態把握や支援の手法を修得することが重要である。以上を踏まえて、本講義では、国内外の文献を通して、病弱者教育の実際に触れ、また、ロールプレイを用いたカウンセリングの演習などを通して児童生徒や保護者をサポートする力（実践力）の修得に向けて考察を深める。	
	病弱生理・病理特論	発生から分娩までの生理学を復習した上で、発生期、胎生期、周産期の障害について生理・病理学的アプローチで解説する。遺伝因子、胎児、母体、環境因子等に起因する感覚器や運動機能障害、脳・神経系の障害のメカニズムを学習し、日常遭遇する疾患を中心に説明をする。さらに、幼年期の情動に関する障害について病理学的知見を解説する。また、出生前診断、遺伝子治療やES細胞等について最近の知見を紹介し、病弱児における特別支援教育と医療的ケアの可能性を探る。	
	特別支援教育ファシリテーション論	特別支援教育コーディネーターとして、学校外の社会的な資源（関係機関やNPO等）と連携・協力を深め、学校組織内のシナジー効果を促し、特別支援教育に関する諸課題を創造的に解決していくための理論と実践的スキルを習得することを目標とする。学校と関係機関との連携・協力に関する現状と課題、学習する組織づくりとファシリテーション、ファシリテーションのスキル（場のデザインのスキル、コミュニケーションのスキル、構造化のスキル、ファシリテーショングラフィック、合意形成のスキル）について、理論的に学ぶとともに、ワークショップを企画・実施し、実践的に考察を深める。	
	学校心理学	学校心理学・教育的な観点から、学校における諸問題への対応にかかわる基礎的な理論や技法、担うべき役割等について指導する。 具体的には、まず、学校・子どもを取り巻く環境と、子どもの心をめぐって学校の抱える問題について講義する（山内）。それを踏まえ学校心理学の観点からみた、学習や学級集団づくり、生徒指導や進路指導（キャリア教育含む）に関わる諸問題とそれにかかわる理論を紹介し、これらの諸問題への対応方法を講義する（児玉真樹子）。また、学校現場における地域連携や危機管理等の実際と課題について講義する（米沢 崇）。	
	学習支援論	本授業では、学校心理士に求められる、学習支援に関する理論と方法について理解を深めるとともに、児童生徒の学習を支援する実践的力量的の向上を図る。具体的には、知識獲得、学習意欲（学習動機づけ）、学習方略に関する理論に加えて、個別学習相談（認知カウンセリング）、習得および探究の授業づくり、深い学びを促す教育評価など、実践的な支援方法を学ぶ。授業は、教員からの講義とそれを踏まえた受講生同士の議論から構成される。	
	学校臨床心理学	学校での児童生徒の心理的な問題に実際に対処できる知識を身につけることを目的とする。児童生徒が学校生活を適応的に過ごすことができるような心理学的な支援を考える際に求められる臨床心理学の知見について解説する。さらに、不登校、いじめ、非行といった児童生徒をめぐる諸問題に対して、臨床心理学の立場からどのような対応をしていくのかについて、心理療法や面接技法、適応への支援や医療機関等との連携などの実践例を紹介する。	
	心理教育的アセスメント演習	医療心理臨床、障害者心理臨床、学校心理臨床等における、心理査定の実際とアプローチについて学ぶ。学校・司法などの領域で広く用いられる知能検査法・発達検査法を中心にとりあげ、発達の芽・成長の芽を摘まないよう見出すアセスメントと、それを活かしていくためのアプローチ法を学ぶ。テストバッテリーの組み方や総合的理解のあり方について学ぶ。さらに、こうしたアセスメントを生	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム	教師教育デザイン学プログラム	<p>かして、教員と心理職や福祉職などとの他職種協働によるチーム支援をどのように進めるかということについても検討する。</p> <p>学校におけるカウンセリングは、病理モデルに基づく心理治療的アプローチではなく、成長モデルあるいは発達モデルに基づく教育支援的アプローチである。そのため、カウンセリングにおいては、児童生徒の抱える問題を成長過程における発達課題ととらえ、その課題を児童生徒が自ら解決していくプロセスを支援するとともに、問題解決能力自体を高めていくことが必要となる。そのための学校カウンセリングの方法論を理論的・実践的に習得する。また、学校カウンセリングの原理を通常の教育活動にどのように活用するかということについても検討する。</p>	
	生涯キャリア形成支援論	生涯にわたるキャリア形成のためには、「生きる力」の育成が必要となる。本授業では、学校教育における生徒指導・キャリア教育および、生涯にわたってのキャリア形成支援にかかわる課題を取り上げる。具体的には子ども理解に関わる諸理論、子どもの問題行動の現状と対応、学級集団作りに関わる諸理論、キャリア発達に関わる諸理論とそれを踏まえたキャリア教育の在り方などを扱う。これらに対して、心理学的な視点からアプローチし、それらの実施に必要な基礎的知識と基礎的技法を習得することを旨とする。	
	知識構成論	言語を介した知識の獲得やその使用に関して講義し、人の発達や学習についての理解を深める。まず、言語獲得に関する理論の変遷から発達への遺伝と環境の影響について考える。次に、幼児期以降の言語の発達の姿について説明する。その上で、言語を介したコミュニケーションといった社会性の発達、言葉と自己意識の発達との関連についても概説する。さらに、言語と認知・思考の発達、第二言語習得といったトピックについても扱う。また、より基礎的な認知のメカニズムとして、語や文、文章の理解と産出といった内容についても説明する。	
	教育哲学特講 I	教育の諸理論および教育の諸問題を哲学的に考察することを通して、教育現象に対する深い洞察力を養う。また、教育哲学研究の動向と方法論に触れることにより、教育の哲学的研究方法及び思考様式を理解する。さらに、教育哲学の諸成果を批判的に吟味し可能性を探る。具体的には、『教育哲学研究』や『近代教育フォーラム』に掲載された緒論を手がかりに、以上の活動を、講義および読書課題をめぐるクラス討議によって進める。読書課題に関する批判的小論を授業前に提出する。	
	教育哲学特講 II	教育の諸理論および教育の諸問題を哲学的に考察することを通して、教育現象に対する深い洞察力を養う。また、教育哲学研究の動向と方法論に触れることにより、教育の哲学的研究方法及び思考様式を理解する。とりわけ本授業では、「教育と他者性」をテーマに教育をめぐる具体的な諸言説を取り上げ、これらを構成する概念、論理構造、前提を解明する。以上の活動を、講義および読書課題をめぐるクラス討議によって進める。読書課題に関する批判的小論を授業前に提出する。	
	日本東洋教育史特講 I	日本では、古代に中国から漢字を受容して以来、文字の読み書きを重視し、文字によって文化を形成してきた。教育もまた、文字を通じて行われてきた。そこで、古代から近世にかけての教育機関で使用された、代表的なテキスト（漢籍・往来物など）を、原史料（漢文・くずし字）に即して解説していく。そのうえで、①誰が教育内容を決定したか、②どのように作成されたか、③どのように学習者の手に渡ったか、④学習者はどのように利用したか、などの諸点から検討する。最終的には、写本としてのテキストが教育をどのように規定したのか、出版物としてのテキストの普及が教育にどのような影響を与えたかといった、テキストと教育の関係性を考察する。受講生は、全授業内容を参考にして、「テキストからみる前近代教育の特徴」というテーマでレポートを作成する。本授業は、現代の教科書を見る際の相対的な視点を獲得することを目的とする。	
	日本東洋教育史特講 II	義務教育の教科書は、マスメディアと呼ぶにふさわしい公共性と形式を備えている（佐藤卓己 2005）。その形式（記述事項の選択・配列・表現方法など）には、教科書を発行・検定する国家や、教科書執筆者の思想が入り込む余地がある。そこで、初等教育機関の教科書の歴史について、1872年の学制頒布以降、1947年の検定制度発足に至るまでを、自由採択～統制開始期、検定教科書期、国定教科書期に分けて概説する。そのうえで、具体的に、各時期の歴史教科書中の遣唐使記述に着目して、その記述がどのように変化したか、その変化にはどのような歴史的背景や政治的理由があるか、といった点について考察する。受講生は、全授業内容を参考にして、広島大学教科書コレクション中の10冊以上を分析したうえで「メディアとしての教科書の役割」というテーマでレポートを作成する。本授	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		業は、現代の教科書を批判的に検証する視点や方法を獲得することを目的とする。	
	西洋教育史特講 I	現在の日本における教育史研究の到達点と現在の教育に対する認識から検討すべき課題を理解し、それらの課題を研究するためのさまざまなアプローチについて国内の先行研究をもとに検討する。加えて、自分の言葉で現在の教育課題について意見を述べるができるようにする。授業は学生による発表と質疑応答、議論、解説という流れで構成する。学生は授業における発表、ディスカッション等での授業内で行う課題に加えて、最終的に現在の教育史研究の課題に関するレポートを授業終了後に提出する。	
	西洋教育史特講 II	本講義ではイギリスにおける教育史研究の動向を知り、国際的な関心を集めている教育課題についての知見を深めるとともに、それらの課題に対してどのようなアプローチがありうるかを国内外の先行研究をもとに考察する。加えて、自分の言葉で現在の教育課題について意見を述べるができるようにする。なお、本授業も学生による発表と質疑応答、議論、解説という流れで構成する。学生は授業における発表、ディスカッション等での授業内で行う課題に加えて、最終的に現在の教育史研究の課題に関するレポートを授業終了後に提出する。	
	教育社会学特講 I	教育社会学は確かな研究手法にもとづき、教育現象を社会学の理論や概念を用いて分析的・批判的に検討する領域である。本講義では、最新の研究成果にもとづき、教育社会学で用いられる理論や概念を理解し、それらを用いて実際の教育現象について議論が行えるようになることを目標とする。本講義で扱うのは、教育社会学の研究領域のうち、主にマクロな視点によるものである。具体的には社会階級と教育、学歴社会論、社会的・文化的再生産論などの領域である。これらの領域における最新の研究論文を用い、受講生の報告とそれをめぐる意義や課題などについての議論によって教育社会学の基礎について理解を深める。	
	教育社会学特講 II	教育社会学は確かな研究手法にもとづき、教育現象を社会学の理論や概念を用いて分析的・批判的に検討する領域である。本講義では、教育社会学 I の内容を引き継ぎながら、最新の研究成果にもとづき、教育社会学で用いられる理論や概念を理解し、それらを用いて実際の教育現象について議論が行えるようになることを目標とする。本講義で扱うのは、教育社会学の研究領域のうち、主にミクロな視点によるものである。具体的にはクラスルーム、教師、カリキュラム、いじめ・不登校といった教育問題などに関する社会学的な研究である。これらの領域における最新の研究論文を用い、受講生の報告とそれをめぐる意義や課題などについての議論によって教育社会学の基礎について理解を深める。	
	教育方法学特講 I	教育方法学研究における主要な問題領域を扱った文献の講読とその議論を通じて、教育方法学研究の対象と方法の特質を理解する。教育方法学研究は、学校研究、カリキュラム研究、授業研究、生活指導研究、教師教育研究など多岐に亘っている。本講義では、教育方法学研究の対象に焦点を当てて、学会及び実践の動向に関わる文献の読解を通じて、その特質と課題を理解する。講義では教育方法学研究の動向に関わる講義を中心としながら、読解した文献をもとにディスカッション等も行う。	
	教育方法学特講 II	教育方法学研究における主要な問題領域を扱った文献の講読とその議論を通じて、教育方法学研究の対象と方法の特質を理解する。教育方法学研究は、学校研究、カリキュラム研究、授業研究、生活指導研究、教師教育研究など多岐に亘っている。本講義では、教育方法学における研究方法論に焦点を当てて、学会及び実践の動向に関わる文献の読解を通じて、その特質と課題を理解する。講義では教育方法学研究の動向に関わる講義を中心としながら、読解した文献をもとにディスカッション等も行う。	
	社会教育学特講 I	本講義では、近現代日本において社会教育実践の範疇および根本理念を構想しようとした議論の歴史的展開についての理解を深めることを目的とする。具体的には、『社会教育基本文献資料集成』（大空社、1991～1994年）や『日本現代教育基本文献叢書 社会・生涯教育文献集』（大空社、1999～2001年）に収められた、主要な社会教育行政関係者、社会教育実践者の著した原典の講読とそれを基とした受講者の討論を通じて、「社会教育」という概念がどのような原理に立ち、またどのような教育活動を包含するものとして構想されていったかについての理解を深めていく。	
	社会教育学特講 II	本講義では、近現代日本における様々な社会教育実践の社会的背景について理解を深める。具体的には、近現代において社会運動的な広がりを持った社会教育実践（自由大学運動、生活改善運動、共同学習運動、生活記録運動、など）を扱った歴史研究の講読とそれを基とした受講者の討論を通じて、それらの実践を支え	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 教育学 プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム プログラム		ていた学習者がどのような属性的特徴を有していたか、また、それらの実践における学習内容・方法が、どのような社会的背景によって規定されていたか、についての理解を深めていく。	
	教育行財政学特講 I	教育行財政の基本原則および教育行財政学の根本問題、重要概念に関する理解を深めるとともに、教育行財政の現代的諸問題、重要な改革動向に関する主体的かつ協働的な検討を通して複眼的論理的に考察できるようにする。本特講で扱うテーマは、①教育と政治（教育委員会制度による教育統治）、②教育における参加（学校運営協議会）である。授業では、これら教育行財政学における重要テーマに関する講義を踏まえ、各テーマに関して指定された学術論文を担当者が事前に要約し、論点を提示して討論を行う。	
	教育行財政学特講 II	教育行財政の基本原則および教育行財政学の根本問題、重要概念に関する理解を深めるとともに、教育行財政の現代的諸問題、重要な改革動向に関する主体的かつ協働的な検討を通して複眼的論理的に考察できるようにする。本特講で扱うテーマは、①教育と市場（学校選択制度）、②教育の機会均等とマイノリティ（アメリカの言語マイノリティに対する平等な教育機会保障）である。授業では、これら教育行財政学における重要テーマに関する講義を踏まえ、各テーマに関して指定された学術論文を担当者が事前に要約し、論点を提示して討論を行う。	
	比較国際教育学特講 I	本授業では、比較国際教育学に関連する基本概念と諸課題を体系的に教授し、それらへの理解を深めるとともに、グローバルな視野から思考できる力量を育成する。具体的には、①国際的影響関係、②文化と教育、③アイデンティティ問題、④教育の平等性、について扱う。授業は、学生による関連領域をカバーする論文内容の発表と質疑応答、教員による解説、参加者全員による議論という流れで構成する。授業後、授業で扱ったテーマに関する最終レポートを提出する。	
	比較国際教育学特講 II	本授業では、比較国際教育学に関連する基本概念と諸課題を体系的に教授し、それらへの理解を深めるとともに、グローバルな視野から思考できる力量を育成する。具体的には、①ジェンダーと教育、②教育の統制と分権化、③成人教育と生涯学習、④政治と教育、について扱う。授業は、学生による関連領域をカバーする論文内容の発表と質疑応答、教員による解説、参加者全員による議論という流れで構成する。授業後、授業で扱ったテーマに関する最終レポートを提出する。	
	教育経営学特講 I	本授業では、教育経営学の理論・思想の展開と基本概念を体系的に教授し、学校（経営）をめぐる諸課題を教育経営的に思考できる力量を育成する。具体的には、成り行き管理から、効率性を追求する理論（科学的管理法）、人間性を追求する理論（人間関係論）、社会性を追求する理論（オープン・システム論など）、創造と省察を追求する理論（学習する組織論など）への展開について、それぞれの経営観（組織観、人間観、目標—評価観、人材育成観など）を比較しながら考察する。	
	教育経営学特講 II	本授業では、教育経営学の理論・思想の展開と基本概念を体系的に教授し、学校の諸課題を教育経営的に思考できる力量を育成する。具体的には、近年の学校（経営）をめぐる諸課題（学校の主体性・自律性、校長の役割、スクールリーダー教育、教職大学院における「理論と実践の往還」、学校と地域の連携・協働など）をとりあげ、特講 I で学んだ教育経営の理論の展開およびその基本概念を踏まえながら、これからの教育経営（学校経営や学校組織や教職員の人材育成など）の在り方を考察する。	
	幼児教育学特講 I	本授業は、次のような具体的なトピックの検討を通して、国内外の幼児教育学をめぐる理論的・実践的動向や今後の展望・課題等について理解を深めることを目的とする。(1) 保育の質が子どもの発達やその後の人生に与える影響に関する欧米の先行研究の動向を精査する。(2) 国際的関心としての保育の質評価をめぐる動向や具体的な評価方法について理解する。(3) 幼児教育の国際比較を通して社会・文化的営みとしての保育実践について検討する。(4) 子育て支援をめぐる基本的事項や国内外の動向について理解する。	
	幼児教育学特講 II	本授業では、講義を通して受講生は(1) 保育カリキュラムや保育方法など、国内外の幼児教育の動向に関する問題意識を持つ、(2) 子育て支援や手先教育についての基本的事項を理解するとともに、就学前教育の実態に関する問題意識を持つ、ということを経済目的とする。授業は1) 国内外の幼児教育の動向について、特に保育カリキュラム、保育方法、保育の質の評価、保育の専門性などの観点から検討する。また(2) 子育て支援について、わが国の実態や諸外国の課題などの基本的事項について概説する。また就学前教育に関わる様々な話題について広範囲に言及する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻科目	異文化間理解の社会理論 と実践特講 I	異文化間理解と関わる社会事象に関する論説・社会理論について多角的に学ぶ。異文化間理解の問題は、異文化コミュニケーション・グローバル社会・多文化社会・フェミニズム理論等の社会理論、大学国際化や地域の国際化などの現実的課題とも密接に関連するとともに、今日の日常とも関わる問題となっている。異文化体験・カルチャーショックなどの現実的体験にも触れつつ、文化本質主義に関する論争等も含め異文化間理解に関する理論について考察する。文化の構成要素、価値前提、自己概念、言語メッセージと非言語メッセージ、対人関係、組織と文化、適応と再適応など多面的に探る。国際的体験学習や協働学習の実践的事例も分析しつつ、異文化間理解に関する理論や知識構築の枠組みについて多角的に分析する力を養う。	
	異文化間理解の社会理論 と実践特講 II	異文化間理解と関わる社会事象を分析する論説・社会理論について多角的かつ発展的に学ぶ。異文化間理解の問題は、異文化コミュニケーション・グローバル社会・多文化社会・フェミニズム理論等の社会理論、大学国際化や地域の国際化などの現実的課題とも密接に関連するとともに、今日の日常とも関わる問題となっている。異文化体験・カルチャーショックなどの現実的体験にも触れつつ、文化本質主義に関する論争等も含め異文化間理解に関する理論について考察する。文化の構成要素、価値前提、自己概念、言語メッセージと非言語メッセージ、対人関係、組織と文化、適応と再適応など多面的に探る。国際的体験学習や協働学習の実践的事例も分析しつつ、異文化間理解に関する理論を生かしつつ実践の方策について検討する力を養う。	
	教育哲学演習 I	日本語で書かれた教育の諸理論および諸問題に関する論考を哲学的に精読して批判的論考にまとめるとともに、クラス内で議論することを通して、教育理論と教育現象に対する深い洞察力を養う。扱われる内容としては、教育人間学、精神科学的教育学、教育倫理学、近代教育批判、批判的思考などの理論研究から、不登校問題、特別支援教育、優生学、教育格差、国際協力などの具体的な諸問題までが取り上げられる。これらを教育哲学的に検討することにより、教育哲学への理解を深め、教育哲学を実践する力量を育成する。	
	教育哲学演習 II	外国語で書かれた教育の諸理論および諸問題に関する論考を哲学的に精読して批判的論考にまとめるとともに、クラス内で議論することを通して、教育理論と教育現象に対する深い洞察力を養う。また、認識論、分析哲学、現象学、心の哲学、政治哲学などの緒論考を取り上げて教育哲学的に読解するとともに、能力論や社会正義に関する論考を取り上げ具体的な問題を教育哲学的に検討することにより、教育哲学への理解を深め、教育哲学を実践する力量を育成する。	
	日本東洋教育史演習 I	明治～昭和戦前期に多く発行された教育関係雑誌の史料としての有効性が見出されたことによって、近年、雑誌を使用した教育史研究が蓄積されてきた。しかし、教育関係雑誌を使用した研究の方法が確立されているわけではなく、課題も少なくない。そこで、受講生が分担して、『日本の教育史学』『日本教育史研究』といった教育史関係の学術雑誌や専門書に掲載された論文のなかから、教育関係雑誌を使用した研究を抽出し、それらを読み、それらの研究方法について検証し、問題点を明らかにする。受講生は、これらについて授業で発表するとともに、「教育関係雑誌による教育史研究の課題」というテーマでレポートにまとめる。こうしたことによって、先行研究の検索、批判的読解、レビューといった教育史研究に必要な基礎的技能を習得する。	
	日本東洋教育史演習 II	日本東洋教育史演習 I で明らかになった教育関係雑誌を用いた先行研究の問題点を克服し、確固とした研究方法を打ち立てるべく、受講生各自が、教育言説に関してテーマを設定し、実際に特定の教育関係雑誌を対象史料として分析する。受講生は、調べた内容を授業で発表するとともに、「教育関係雑誌からみる教育言説—研究方法の確立の観点から—」というテーマでレポートにまとめる。こうしたことによって、新たな教育史研究方法の模索、研究テーマの構想、史料収集とその解読・分析など、教育史研究に必要な能力を習得する。これからの教育史研究を牽引していく研究者育成につながると思われる。	
	西洋教育史演習 I	本演習では国際的な教育課題に関する歴史研究を読むことを通して、外国の教育の歴史に関する知見を養うとともに、外国語論文の読み方を実践的に習得する。加えて本授業では史料論および歴史学的な史料分析の基本的な手法について理解し、議会史料や地方行政文書等の公的な文書だけではなく、書簡や日記等の個人的な史料についての史料批判の方法について学ぶ。授業の方法としては、外国語論文の読み方を実践的に習得するために、学生が訳したものを担当教員が説明を加えながら皆で検討し、その内容について議論する。その中で扱われている史料について、筆者がどのような史料批判・分析の方法を用いているかを理解するこ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		とで、史料批判の方法について学ぶ。	
	西洋教育史演習 II	西洋教育史演習 I で学んだ史料批判の方法を用いて、実際に一次史料を批判し、内容を解読し、分析することで、西洋教育史研究の手法を実践的に学ぶ。ここで扱う史料は、広島大学のデータベースに収められている 19 世紀・20 世紀初頭のイギリスの議会文書史料および授業者が収集したイギリスの学務委員会史料等の公的文書に加えて、個人情報保護の観点からすでに公開されている学校所蔵の史料や、書簡および日記等の個人的な史料も用いる。	
	教育社会学演習 I	教育社会学の研究には社会学的な理論と方法についての深い理解が求められる。本演習では教育社会学の研究方法のうち、質的手法を取り上げ、とくにライフヒストリー法について検討を行う。具体的にはライフヒストリーの歴史、およびその意義に触れた後、インタビューなどの具体的な実施方法、データの分析、および解釈の中心となる社会学理論、また実際の分析の過程、さらには倫理的課題について文献を購読しながら理解する。ライフヒストリー法について理解することで、質的分析方法を行う基礎的な知識と技術を身につける。	
	教育社会学演習 II	教育社会学演習 I で身につけた質的研究法、およびライフヒストリー法の知識をもとに実際にインタビューから分析までを実習形式で行う。具体的には、受講生の興味関心にしたがって研究計画を立て、インフォーマントへの調査依頼、インタビュー実施、トランスクリプトの作成、レジュメでの報告を経て、最終的には論文を作成する。本演習では、こうした調査の実践を通じて教育社会学研究で求められる応用的な知識と技術を身につける。	
	教育方法学演習 I	教育方法学の主要な問題領域を扱った文献、とりわけ外国語文献の講読を通じて、教育方法学研究の今日的課題に取り組む研究態度を養う。講読する文献は、学校研究、カリキュラム研究、授業研究、生活指導研究、教師教育研究などの中から一つを選択し、受講生との相互の読解と議論を通じて、文献読解から明確になる教育方法学の意義と課題について議論する。本演習では、教育方法学研究の動向に関わる講義形式の情報提供も交えつつ、読解した文献の解釈に基づいてディスカッションを行い、教育方法学における研究方法論の基礎を培う。	
	教育方法学演習 II	教育方法学研究の主要な問題領域および研究対象としての授業研究に焦点を当て、学校における授業研究のフィールドワークを通じて、教育方法学研究の今日的課題に取り組む研究態度を養う。フィールドワークの対象とする学校の選定および授業の記録のとり方、授業記録の作成とそれに基づく授業の分析・解釈を一連の授業研究のプロセスとして取り組む。フィールドワークの知見に基づいて、教育方法学研究の意義と課題について議論する。	
	社会教育学演習 I	本演習では、ノンフォーマル教育の国際比較という視点から、第二次世界大戦以前、および戦後（高度成長期まで）の日本における社会教育に関連した制度、実践の展開についての理解を深める。具体的には、近代日本の社会教育史について論じた英語文献の講読とそれを基にした受講者の討論を通じて、「社会教育」とされる範疇に含まれる制度や実践がどのように変化していったか、またその範疇が、海外の adult education, non-formal education といった概念で指し示される制度や実践との間にどのような異同を有しているか、についての理解を深めていく。	
	社会教育学演習 II	本演習では、ノンフォーマル教育の国際比較という視点から、今日の日本における社会教育に関連した制度、実践の特性とその社会的背景についての理解を深める。具体的には、現代日本の社会教育実践について論じた英語文献の講読とそれを基にした受講者の討論を通じて、近年における学校教育、地域社会、学校以外の学習機会の変化にどのように対応しながら社会教育の特性が変化しつつあるか、また、その変化の方向が先進諸国との間にどのような異同を有しているか、についての理解を深めていく。	
	教育行財政学演習 I	教育行財政学の多様な研究対象と方法および最新の研究成果についての理解を深め、残された研究課題や研究の展開可能性を検討するために近年の教育行財政学・教育制度学に関連する学術論文から、以下のテーマに関する論文を受講者が関心に沿って選び、論文の要約・論点を発表し、討議する。そのため受講者には、発表レジュメの作成や他の受講生からの質問に対する準備、討議への主体的協働的参加が求められる。本演習で扱う研究テーマは、地方政治と教育（首長、議会と教育委員会）、少子化と学校の適正配置（学校統廃合）、公教育と市場（公立学校選択制度）、学校参加制度（学校運営協議会、学校評価制度）、教育内容行政（学習指導要領、全国学力・学習状況調査、教科書検定・採択制度）、教員の確保と資質向上（教員人事制度）、である。	
	教育行財政学演習 II	教育行財政学の多様な研究対象と方法および最新の研究成果についての理解を	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		深め、残された研究課題や研究の展開可能性を検討するために近年の教育行財政学・教育制度学に関連する学術論文から、以下のテーマに関する論文を受講者が関心に沿って選び、論文の要約・論点を発表し、討議する。そのため受講者には、発表レジュメの作成や他の受講生からの質問に対する準備、討議への主体的協働的参加が求められる。本演習で扱う研究テーマは、学校の管理・運営の多様化(学校設置会社、公設民営学校)、公教育空間の拡張と教育行財政(広域通信制とバーチャル空間)、義務教育無償性と就学援助、後期中等教育の機会保障(高校授業料無償化)、高等教育機会の財政的保障(給費奨学金)である。	
	比較教育学演習 I	本授業では、比較国際教育学の理論と方法についての理解を深めるために、関連する雑誌(Comparative Education, Comparative Education Review, Compare)に近年掲載された学術論文から、特に演習 I では、比較の方法論や課題に関する内容のものを取り上げる。学生は、論文の要約・論点をレジュメ形式で発表し、その後参加者全員で討議する。授業後、学んだことを振り返るレポートを提出する。	
	比較教育学演習 II	本授業では、比較国際教育学の最近の動向についての理解を深めるために、関連する雑誌(Comparative Education, Comparative Education Review, Compare)に近年掲載された学術論文から、特に演習 II では、地域研究と教育開発に関する内容のものを取り上げる。学生は、論文の要約・論点をレジュメ形式で発表し、その後参加者全員で討議する。授業後、学んだことを振り返るレポートを提出する。	
	教育経営学演習 I	本授業では、教育経営学に関する国内外の学術文献を講読することを通して、教育経営に関する諸概念・理論および研究方法の理解を深め、教育諸科学の動向の中での教育経営学の位置づけや意義を考察しながら、近年の教育経営研究の動向と課題を理解する。とくに演習 I では、我が国及び欧米の教育経営学のパラダイムの展開を概説した上で、近年の学校経営(マネジメント)・学校組織の理論・思想に関する文献をとりあげ、その意義と課題についてディスカッションし考察する。	
	教育経営学演習 II	本授業では、教育経営学に関する国内外の学術文献を講読することを通して、教育経営に関する諸概念・理論および研究方法の理解を深め、教育諸科学の動向の中での教育経営学の位置づけや意義を考察しながら、近年の教育経営研究の動向と課題を理解する。とくに演習 II では、演習 I の内容を踏まえ、教職員の人材育成・教師教育(スクールリーダー教育、教職大学院における「理論と実践の往還」など)に関する文献をとりあげ、その意義と課題についてディスカッションし考察する。	
	幼児教育学演習 I	本授業では幼稚園・保育所・認定こども園などの実践の場において、実際の保育への参与観察をとおして観察の基礎的な技能を養うとともに、実践に対する指導能力の形成をめざす。また保育を対象とする事例研究に関する近年の議論と具体例を講義することをとおして、保育観察への導入を行う。保育観察のなかから、個々の幼児の事例を参照して、具体的ななかかわりのあり方を議論するとともに、保育計画、カリキュラムなどについての理解を深める。	
	幼児教育学演習 II	本授業は、教育学分野における観察の理論的動向を踏まえた上で次の内容で構成する。まず受講生を小グループに編成し、幼稚園保育所などの観察調査に基づくフィールドワークやインタビューに基づくデータ収集を実施する。そして種々の研究方法論に依拠したデータ分析などを通して研究成果を発表し合う。具体的には、データの収集を、観察とインタビューから、カテゴリー化を行い、最終的には理論仮説の生成と検証を行うことを目的とする。	
	教育調査統計学演習	教育学研究において、統計的な手法は不可欠であり、十分な理解が必要とされる。本演習では学校や教育行政、企業等の実務、教育に関する調査や研究に必要な基礎統計の理論を学習するとともに、実際にデータの分析の実習を行うことにより研究者や調査分析担当者として必要な統計分析の技能を身につける。また、これらの学習を通じて、一般に用いられている統計的手法の問題点を見抜き、適切に統計的手法を用いることができる力を身につける。本演習で扱う基礎統計は、相関係数、平均値の差の検定、カイ2乗検定、一元配置分散分析などである。	
	教育学フィールドワーク演習	本授業は、教育学分野における質的研究の理論的・歴史的背景及び質的研究の動向を踏まえた上で次の内容で構成する。まず受講生を小グループに編成し、フィールドワークやインタビューに基づくデータ収集を実施する。そして特定の質的研究方法論に依拠したデータ分析などを通して研究成果を発表し合う。具体的には、質的データの収集を、観察とインタビューから、フィールドノーツとデータ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 教育学 プログラム 専門科目		ベースの作成, そしてコードとカテゴリーを行い, 最終的には理論仮説の生成と検証を理論的飽和という視点から分析するものである。	
	高等教育基礎論Ⅰ (理論・手法)	本科目は, 受講生が高等教育研究において理解しておくべき基本的な理論と手法について学ぶことを目的とする。高等教育研究は歴史学, 教育社会学, 比較教育学, 教育経済学等, 様々なディシプリンによる学際領域のため, それぞれの分野でどのような研究課題が設定され, 考察されているのかを確認する。本科目は二部構成とし, 第一部では高等教育研究における基礎的な理論への理解を図る。第二部では質・量・ミックスメソッドなど異なる手法への理解を図り, 問いに対する適切な手法の選び方, データ分析の手法について学ぶ。	国際教育開発 P 共用
	高等教育基礎論Ⅱ (制度・政策)	本科目は, 主要な国・地域の高等教育制度・政策の基本的な事実を知り, 歴史の変容について学び, 高等教育システムの多様性および現在の動向の背景にある文脈の違いを理解することを目的とする。また, 各国の高等教育システムを知ることを通じて, 比較の視点を養うことを目的とする。	国際教育開発 P 共用
	Comparative Studies in Higher Education	(英文) The purpose of this course is to introduce students to studies of higher education from comparative, international, and development education perspective. It includes reviewing the dynamic historical, cultural, comparative, social, economic, political, and organizational aspects of higher education system with a specific focus on contemporary issues. (和訳) 本科目の目的は, 比較教育, 国際教育, および開発教育の観点から高等教育を理解することである。現代的な問題に重点を置いて, 高等教育システムの歴史的, 文化的, 比較的, 社会的, 経済的, 政治的, 組織的な側面について考察する。	国際教育開発 P 共用
	大学教育論	本科目では, 大学の重要な役割の一つである教育活動について多角的に考察できるようにすることを目的とする。本科目は三部構成とし, 第一部では学習理論の変遷を学ぶ。現在の政策等の根底にある学習観を理解する。第二部では大学組織と教育活動の関係について学ぶ。大学と社会の関係, 組織的教育活動を支える仕組みについての理解を深める。第三部では教員と教育活動に焦点を当てる。大学教員の役割, 専門性開発, 学問分野と教育活動の多様性等についての理解を深める。	国際教育開発 P 共用
	大学カリキュラム開発論	大学カリキュラムの基本概念や分析枠組みなどに関する整理・解説を行ったうえで, 歴史的・比較的・実証的視点から, 大学カリキュラムの主なモデル, 特に主要諸国における大学カリキュラムの変容や特徴, カリキュラムの改革に関する問題点や動向なども論ずる。またこの授業は, 担当者によって系統的な講義が行われると共に, 受講生が参考資料を読んだうえで, 関連テーマについて, 能動的な分析と報告が求められることになる。	国際教育開発 P 共用
	高等教育目標論	高等教育目標論では, 大学の目的と機能について明治から現在まで, 140年の日本の高等教育の歴史を中心に講じる。具体的には, 帝国大学令, 大学令, 学校教育法, 私立学校法, 認証評価制度, 国立大学法人法について学ぶ。歴史的視点を通じて学生は, 大学教育の受益者, 大学の階層性, 大学の行政と管理, 大学自治, 学問の自由, 学部・研究科の組織問題, 大学の社会貢献など日本の特質と課題について理解を深めることができる。	
	高等教育経済論	教育経済学を学ぶ上で不可欠となる数学, 統計学, ミクロ経済理論を理解し, 高等教育領域における経済分析の基本的理論と統計(計量経済)分析手法を習得する。	国際教育開発 P 共用
	高等教育組織論・職員論	本講義は大学の組織並びに教職員の在り方等を理解することを目的とする。大学の組織・職員に関連する制度・政策, 大学における実践等について, 基本的な概念・理論を学ぶとともに, 制度等の歴史の変遷や現状を国際比較をしながら学習する。講義では, 大学運営, 組織編成, 人事制度, ガバナンス, リーダーシップ, 組織文化・学習等の理論や実践について学ぶとともに, 米国や英国, フランス等の関連制度等との比較を行う。	国際教育開発 P 共用
	高等教育評価論	本授業を通じて, 1.大学や高等教育を評価することの基本的な意味を理解する。 2.評価に関わる情報の収集, 分析に関わる理論・方法を理解する 3.評価を通じた公共機関の活動のあり方を理解する 4.物事に関する深い考察の仕方を理解・会得する 5.文献の読解, 内容の整理の仕方を理解・会得する 6.プレゼンテーション能力を会得する	国際教育開発 P 共用
	高等教育アドミッション	本授業科目において, 高等教育機関における学生募集と入学許可に関する理論と	国際教育開発 P



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 日本語教育 学プログラム 専門科目		<p>(4 永田 良太/2回) ことばを談話から捉える方法</p> <p>(61 仁科 陽江/2回) 対照言語学の方法</p> <p>(62 西原 大輔/2回) 近代世界システム論</p> <p>(63 畑佐 由紀子/1回) 第二言語習得に関する疑問を研究計画につなげる方法</p> <p>(7 松見 法男/1回) 心理学研究法の基礎</p> <p>(8 柳澤 浩哉/1回) レトリックとは何をする学問か</p> <p>(114 中山 亜紀子/1回) 第二言語学習者のストーリーから見えるもの</p> <p>(115 西村 大志/2回) 社会学の理論を研究に生かす</p> <p>(116 渡部 倫子/2回) 日本語教師を対象とした質問紙調査の方法</p>	
	日本語教育学研究プロジェクト	「日本語教育研究方法論」で身につけた日本語教育学を構成する様々な研究領域の基礎的知識および研究方法に関する知識にもとづいて、日本語教育に関する具体的な問題の解決に取り組むことで、研究方法についてのより深い理解と問題解決能力を身につけることを目指す。授業に際しては、「日本語教育研究方法論」を担当する教員が共同で学生の指導にあたり、それぞれの専門的見地から当該問題に対するアプローチを行う。このことを通して、領域間のつながりと融合することの必要性を理解することも本授業のねらいである。	共同
	日本語習得論特講	言語を外国語あるいは第二言語として獲得する人の習得過程の特徴や習得に言語学的、心理学的、社会言語学的、文化学的、教育学的要因がどのように影響するのかについて検討するとともに、重要な理論と研究について紹介する。その上で、日本語を母語としない学習者が様々な環境で日本語をどのように獲得して行くのかに関する研究についての理解を深め、習得研究の成果を日本語教育にどのように応用できるか、また応用する際の留意点について検討する。さらに、当該分野の論文を批判的に読めるように、論文の査読の仕方について勉強する。	
	言語教育心理学特講	日本語を母語として、あるいは第二言語として学習する児童・生徒・学生の四技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の習得過程を、心理学的側面から捉え、その特徴を理解する。教育・学習・発達心理学の知見に基づき、日本語の聴解（「聞く」）、発話（「話す」）、読解（「読む」）、作文（「書く」）を支える認知的機制（外言と内言の発達、概念及び論理的操作・思考力の発達、作動記憶と長期記憶等）について、実証研究を紹介しながら講義を行う。そして、国語教育及び日本語教育の教室で実践が可能な、かつ真に有効な日本語の教授法とは何かを考える。	
	日本語教育評価法特講	日本語教育と外国ルーツの児童生徒に対する国語科教育における評価法に関する基礎的な知識を得るとともに、言語アセスメントの開発方法について学ぶ。受講者は日本語教育および国語科教育における言語アセスメントの在り方について体験的・且つ批判的に捉えることで、今後の日本語・国語科指導での活用を考えながら取り組む。評価に関する基本的な用語・概念の振り返りを講義・輪読形式で行い、四技能別の評価方法、四技能統合型の評価方法についての知識を得るとともに、デモンストレーションを通して概略を把握する。また、妥当性の高い言語アセスメントの開発方法に関する基礎的な知識を得る。以上の成果を、レポートにまとめて提出する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
日本語教育プログラム専門科目	年少者日本語教育特講	年少者に対する日本語教育の教育方法論についての基礎的な知識を得るとともに、カリキュラム設計と模擬授業の実施を通して効果的な教育方法を探求する。国内外の教育実践研究に関する文献の講読と討議を通して、年少者日本語教育（文化言語の多様な児童生徒への言語教育）の方法論に関して理解を深めるとともに、国語科教育（日本語を母語とする児童生徒への言語教育）との類似・相違点を検討する。その上で、文化言語の多様な児童生徒を対象とした言語教育カリキュラムを設計し、模擬授業の計画と実施、振り返りを通して、効果的な教育方法を探り、実践研究者としての実践力と内省力を養う。以上の成果をレポートにまとめて提出する。	
	日本語構造論特講	現代日本語の文法に関する研究成果を、日本語を外国語として学習する人々の視点をまじえて検討することを通して、日本語文法のしくみ（それぞれの形式の機能やお互いの関係）を体験的に理解する。外国人の日本語学習にも役に立つような日本語文法は旧来の「国語学的」（あるいは「言語学的」）な文法とは異なった原理で構築されなければならない。この授業では、以下の3部に分けて、臨床的にどのような問題があるのか、その問題を解決するためにはどのような記述が必要なのかを例文（誤用例を含む）を見ながら具体的に考える。Ⅰ．総論：日本語教育文法の原理（第2回～第4回）、Ⅱ．各論(1)：本当は難しい初級文法（第5回～第10回）、Ⅲ．各論(2)：中上級らしい文法項目（第11回～第13回）	
	日本語表現法特講	西洋修辞学の知見を使ってテキストを分析する方法を修辞学的分析と呼ぶ。本講義はこの方法を概説した後、使いこなすために必要な分析事例を講義する。この方法は西洋古典修辞学を基盤とするが、比喩や誇張法など狭義の修辞技法だけでなく、文法形式・構文・語彙・語法・叙述の密度・叙述の速さ・言葉の量など表現を形成する多様な要素に注目することに特徴がある。それらの要素の作り出す表現効果・説得効果を考えることで、書き手のこだわり、書き手の見方や語り方の癖、物語の見せ方の工夫、説得戦略などを客観的にあぶり出すことができる。修辞学的分析は表現を手がかりに教材を読み解く方法であり、国語教育に対する有効性も高い。修辞学的分析は、日本ではあまり知られた方法でないため、西洋修辞学の歴史をふまえながらこの方法を概説した後、評価の定まった文学作品・定番教材を使い、この方法を使った分析事例を講義していく。	
	対照言語学特講	外国語と対照することによって、母語を世界の中の一言語として理解し、言語類型論的観点から日本語の特徴や文法の記述について探求する。具体的には、言語類型論と言語普遍の理論に基づき、未知の言語を含めた様々な言語の構造を言語学の下位分野に沿って概観し、言語の多様性と共通性についての理解を深める。国内外の言語研究に関する文献の講読と討議を通して、言語を対照する方法論を学び、言語の分析や記述を通して、母語である日本語についての洞察力を養い、日本語に関連する問題を解決する能力を養成する。	
	社会言語学特講	社会言語学に関する文献の講読と討議を通して、言語を文脈の中で捉えるための基礎的な知識を身につけるとともに、言語行動や会話を分析する際の観点と方法論を理解する。具体的には、日本語母語話者が無意識に行っている言語行動や会話がどのように成立しているのか、言語は我われの社会的属性とどのように関わることかという問題について、先行研究の講読と討議を通して探究する。さらに、それらを日本語教育の中でどのように扱うべきかという問題についても議論を発展させたい。	
	異文化間教育学特講	異文化間教育学とは、国の文化を超えて、異なる文化的背景を持った人、異なる個人的歴史を持った人を理解し、そこで養われた他者を理解する態度、技術を教育に反映させるための学問である。本授業では、異文化間教育学での主要な論点（アイデンティティ、学習者/学生主体、学習者/学生の主観、学習者/学生の自己など）を知り、さまざまな観点から批判的に自らが行ってきた教育実践や世間的な常識を考える。それらの考察を通して、実際に教育現場に立った時、より幅広い視点から異なった文化背景をもった学生や生徒を理解する態度を養う。	
	文化社会学特講	近・現代の「日本」の文化と社会を研究するための理論および方法を、具体的事例および広範な資料を援用しつつ講義する。おもに文化社会学、歴史社会学領域の知見を中心として身につけ、社会学周辺の各種文化理論も補助線としつつ、より高度な思考力、論理構成力を養成する。資料に関しては、文字資料にとどまらず、漫画、映画、落語等のような図像、音声、映像資料等を融合的に検討していく。文化社会学研究にとどまらず、幅広く論理的で、学際的な文化研究を遂行できる能力の涵養をめざす。	
	日本近代文学特講	明治維新以降、昭和後期に至るまでの日本近代文学を論じる。この授業では、	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 日本語教育 学プログラム 専攻科目		特に詩的テキストの読解を重視し、講義を進めてゆく。散文的テキストとは異なり、詩的テキストにおいては、一語一語が重層的な意味を生み出す傾向が強い。テキストは表層的な内容を伝えるだけでは、詩歌として十分機能しない。表面的な意味の流れの背後にある、潜在的なメッセージをどのように汲み取り、いかに解釈してゆくべきなのかを考えることが重要である。また、テキストはその内部において、互いに関連し、一つの統一体を作っている。その相互関連性を読み解くためには、解釈の技術が必要である。いわゆる詩歌の分野に属さない小説や随筆においても、詩的なテキストの原理が生かされていることが多い。散文的テキストといえども、文学である以上、詩的テキストに通じる要素があるのである。明治から昭和後期に至るまでの様々な文学作品を題材としつつ、テキスト分析の技法を学んでゆく。	
	日本語習得論演習	日本語を外国語あるいは第二言語として獲得する人の日本語の習得過程に影響する言語学的、心理学的、社会言語学的、文化学的、教育学的要因を探る研究について、研究目的や課題の妥当性と意義、課題と研究方法論の整合性、研究計画の妥当性と信頼性、分析の適切さ、結果の解釈の妥当性、結論の強さなどを批判的に検討する。その上で、日本語習得に関する研究を立案、計画し、その研究意義と妥当性を主張できるような研究計画書を作成する。さらに、事前調査を行い、研究計画の実行可能性について検討する。	
	言語教育心理学演習	日本語を母語として、あるいは第二言語として学習する児童・生徒・学生の四技能（「聞く」「話す」「読む」「書く」）の育成に関して、学校教育（小学校から大学まで）でどのような実践が行われているかを、教育・学習・発達心理学の方法論に基づき、受講生自らが調べる（調査）。そして、それらの実践を教授法または学習法として位置づけたときの特徴を、心理学の理論に基づいて分析し、その一部について仮説を立てた実験を行いながら、教授法または学習法の有効性を検証する（実験）。実験では、各技能に応じた言語テストや認知テストを採用して実施することをとおして、四技能を測定する言語テストの知識理解を深め、国語または日本語の教師として必要な、学習者の各能力を客観的に評価するための統計的知識を学ぶ。	
	日本語教育評価法演習	日本語教育・国語科教育における評価研究を概観し、言語アセスメントを実施するために必要な理論と技能を獲得する。英語と日本語による文献講読と演習課題を通して、言語アセスメント実施におけるデータの収集、記述、分析、解釈について、基本的な知識や技術を身につけることを目指す。また、それらの知識や技術の特長や限界を理解し、適切に使えるようになる。データ分析の演習課題では、受講生の興味、関心、研究テーマ、レディネスなどを考慮し、相談しながら扱うアセスメントを決定する。データ分析の結果を口頭発表し、その内容に関するディスカッションを行う。以上の成果を、レポートにまとめて提出する。	
	年少者日本語教育演習	国内外の文化言語の多様な子どもの言語習得・言語教育研究を概観し、年少者日本語教育における調査研究を実施する上で必要な理論と技能を獲得する。国内外の文献講読と討議を通して、文化言語の多様な子どもの言語発達や習得の実態についての理解を深めるとともに、その調査・分析方法に関して基本的な知識や技術の獲得を目指す。研究方法に関しては、文献に応じて量的・質的の両面から取り上げる。そして、年少者日本語教育研究において残された研究課題を受講者が自ら設定し、その課題の解決のために、どのような研究方法が採用できるかを検討・議論する。以上の成果をレポートにまとめて提出する。	
	日本語構造論演習	本授業では、次の2点を目標とする。1. 専門的な論文を読んで日本語文法に関する具体的な言語事実についての知識を深める。2. 文法研究の現状・方法を検討し、自分で文法を研究する力を養う。具体的には、現代日本語文法に関して近年発表された論文を分担して読むことを通して、より新しく高度な研究成果と方法を学ぶ。日本語学・日本語教育関係の専門誌に掲載された論文またはこれらの分野に関する専門書の中から担当教員が指定したものを教材とする。	
	日本語表現法演習	日本語表現法特講で講義を行った修辞学的分析を実践する。素材には小説などの文字テキストだけでなく映画も使用する。いわゆる映画の文法は、映画の各技法の表現効果を分析したものであり、表現効果から多用な言語要素を整理した修辞学と相性が良い。授業では、修辞学的分析および映画の文法を概説した後、小説の分析、映画シナリオの分析、映画分析の順に進めて行く。映画シナリオでは聴衆を飽きさせずに惹きつけ続けることが強く求められるため、小説では必ずしも必要でない技法が随所に用いられている。小説・シナリオ・映画の三者の分析を通して、それぞれの素材の特質を考え、戦略や戦術といった発想をもって書き	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		手・作り手の意図や計算を明らかにしていきたい。	
	対照言語学演習	日本語と他言語との対照研究、言語類型論と言語普遍に基づいた言語学研究を行うための方法論を身につけ、言語の分析や記述の実践力を養う。具体的には、対照言語学についての国内外の文献を批判的に講読し、残された課題を討議する。受講者自ら研究課題を設定し、言語データを収集・分析することにより、実践力や内省力を養い、自律的研究力の養成をめざす。文献研究による知見と併せて、自らの実践的研究成果をレポート作成や発表を通してわかりやすく伝えるスキルも養う。	
	社会言語学演習	社会言語学・談話分析に関する先行研究を批判的に検討して、そこに残された課題を受講者自身が指摘する。そこで指摘された研究上の課題について、実際にデータを収集し、分析することを通して、言語を文脈や社会的要因との関わりの中で捉える視点を身につけるとともに、「会話」を分析する際の観点と手法を理解することを目標とする。また、そこでの分析結果を論拠として論理的な考察を行うとともに、それを他者に説得的に伝達する能力を身につけることも本授業のねらいである。	
	異文化間教育学演習	本授業の目的は、異文化間教育学、言語教育学の中で、質的研究などを使った論文などを批判的に読解することを通して、生徒や学校教育、学校運営などを理解するとともに、それらを研究する際の方法論的知見を深めることである。現在広く使われている質的研究と言われる方法は大きく5つあるが、その5つの方法を用いた論文などを読む。ついで、それぞれの論文の対象となっている言語学習者、教育現場についての知見を広める。さらに、そこで用いられている研究方法、存在論、認識論などの理解をディスカッションを通して深める。	
	文化社会学演習	近・現代の「日本」の文化と社会をおもな対象とした文化社会学、歴史社会学およびその周辺の文化理論に関わる重要文献を読み、報告・討議を行う。報告者の読解力、プレゼンテーション能力の向上は言うにおよばず、報告の聞き手も能動的に議論を展開し、報告者と聞き手の討議という相互作用からあらたな知に至るように試みる。文化社会学研究にとどまらず、幅広く文化、社会を研究、考察する力を身につける。あわせて、文字資料にとどまらないさまざまな資料の集め方、分析の仕方についても学ぶ。	
	日本近代文学演習	日本の近代文学の作品を取り上げ、受講生とともに解釈してゆく。明治以降の日本では、小説・詩歌・演劇など、幅広い分野において、優れた作品が多く作られた。これらの文学的テクストの分析にあたっては、多様な方法論がすでに試みられてきた。特に20世紀においては、ロシア形式主義以降、様々な文学理論が開発され、作品の読みを豊かにしてきた。新批評、構造主義や脱構築、フェミニズム批評、ポストコロニアリズム、さらには近年のカルチュラルスタディーズと、テクストを読む手法は実に多様である。それらの様々なアプローチの技法を学ぶとともに、研究面のみならず、教育の場面においてどう生かしてゆくかも考える。作者の人生や文学観といった、文学的テクストを読む上で重視されてきた古典的な情報源にも触れながら、テクストを外部から切り離し、自立したものとして扱う手法について学んでゆく。文学研究の技法を習得するとともに、学校教育における活用を念頭に置いて演習を行う。	
	国内日本語教育実践研究	本授業ではまず授業観察の観点や方法について学ぶ。その後、日本語教育の機関見学や模擬授業に参加しながら日本語指導の状況や現場を理解する。観察録にもとづいてディスカッションを行い、理解を深めた後、日本語教材の分析、教案やタスクの作成について学び、日本語教育機関において実習授業を行う。実習授業終了後には授業検討会を行い、自身の授業を評価し、改善点を探る。授業に際しては、日本語教育経験を有する複数の教員が共同で指導にあたり、受講学生の実践力の育成に努める。	共同
	海外日本語教育実践研究	異文化理解と外国語としての日本語教育の指導法についての実態調査と疑似練習を通して、異文化における外国語としての日本語教育の現状および教室のマネージメント、教室活動など実践における諸問題について考察する。まず、指定された海外の教育機関及びその国の文化についての調査を行う。その後、海外の教育機関で使われている教材やシラバスを分析するとともに、初級文法の導入方法と練習方法、会話授業の方法について実践的に学ぶ。それらをふまえて、海外で実習を行う際の教案を作成し、教壇実習の準備を行う。海外における実習終了後には、録画した授業のビデオをもとに自己評価するとともに実習前に記した教育観の変容について内省を行う。授業に際しては、日本語教育経験を有する複数の教員が共同で指導にあたり、受講学生の実践力の育成に努める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際教育開発プログラム専門科目	教育基礎論	本講義の目的は、受講者が、教育の目的、歴史、思想に関する基礎的な概念・用語等を習得し、それらを用いて、様々な教育開発をめぐる事象について、他の人がわかるように、自らの考えを論じることができるようになることである。 講義形態は、毎年発刊される教育学の最新の学術書（洋図書）をテキストとして用い、受講者が各章を分担して発表する形態をとる。 講義の具体的な内容は、用いるテキストによって厳密には異なるが、概ね、なぜ学校で教えるか、今日の児童・生徒はどのような背景を持っているか、誰でも教師になれるか、どのような学校が良い学校か、児童・生徒の学習をどのように評価すべきか、学校選択は教育の改善に資するか、ICTは学校をよりよくなるか、などである。	
	国際教育協力論	この授業は、初等教育、中等教育、TVET、高等教育を対象とし、受講する学生が途上国の教育開発に関する基本的な問題を理解し、それらの分析方法を身につけること、また、教育開発に関わる理論、政策、実践を踏まえて、国際教育協力の異なる形態をハンズオンで学び、それらの特徴と課題に対して、明確に自らの意見を述べるができるようになることを目指す。講義、グループワーク、発表、レポートなど多様な形態を用いての授業を行う。授業はすべて英語で行う。	
	教育人材開発論	本講義の目的は、受講者が、日本ならびに諸外国における教育人材開発に関わる基礎的な課題・施策についての理解を深めるとともに当該領域の問題・課題について自らの学修・研究と関連付けながら分析・考察できるようになることである。 講義形態は、毎年発刊される教師教育分野の最新の学術書（洋図書）をテキストとして用い、受講者が各章を分担して発表する形態をとる。 講義の具体的な内容は、用いるテキストによって厳密には異なるが、概ね、教師教育の歴史、教師教育の改革動向、教職アイデンティティ、教師教育の道徳・倫理的責任、教師教育の政治・社会・文化的責任、教師の職能成長、教師教育における評価、教師教育者の学修と教育などである。	
	ノンフォーマル教育論	本科目は、途上国や先進国の開発課題を達成する上で重要な役割を果たしているノンフォーマル教育に注目し、受講生がその理論と実践を理解した上で、途上国の文脈における意義と課題を考えることを目的とする。本科目は三部構成とする。第Ⅰ部ではノンフォーマル教育の定義や背景にある諸理論について学ぶ。第Ⅱ部ではノンフォーマル教育と途上国や先進国における開発課題との関係を複数の観点から探っていく。第Ⅲ部では日本および途上国におけるノンフォーマル教育の事例研究を通して、その意義と課題を分析する。本科目の履修を通して受講生は以下の能力を修得する。1) ノンフォーマル教育に関連する理論を説明できる、2) ノンフォーマル教育と途上国の開発課題について複数の観点から説明できる、3) 学修した知識やスキルに基づき、ある国のノンフォーマル教育のサブセクター分析ができる。	
	理科教育開発論	本講義においては開発途上国における理科授業のあり方について、実践的に修得することを目的としている。まず、開発途上国における一般的な問題として、授業の中で行う理科実験の経験不足がある。これは、本学で学習する途上国からの留学生についても言える。そこで、まず相対的に実験の経験が豊富な日本人学生が留学生に対して紹介する。この実践を通じて、日本人学生についてはコミュニケーション能力や途上国出身者に対する授業方法を体得することができ、途上国出身学生については、実験方法を習得することができる。さらに、留学生側も文献等で新たな実験を発見、開発し授業の中で実験を取り入れる手法を習得する。	
	科学教育開発基礎論	本講義は以下の2点についてその能力を身につけさせることを目的とする。 1. 開発途上国の理科教育の現状について分析する視点を養う 2. 開発途上国における理科の授業手法を開発するための基礎知識を獲得する この目的を達成するために、まず各学生に自国の理科カリキュラムについて発表してもらおう。発表者側は自らのカリキュラムの特長を内省的にとらえることができ、さらに聴衆側は他国の現状を知ることができる。さらに授業の中ではカリキュラムのあり方を分析的に開設することにより、その視点を養うものとする。	
	数学教育開発論	数学教育研究の一般的な理論を論じるとともに、開発途上国では、先進国のカリキュラムをそのまま持ち込むことの問題性が指摘されており、民族数学をはじめとして、地域固有の文化・社会・歴史の観点からも数学教育を考察したい。この両者、すなわち一般的視座と特殊文脈の2軸のもとで、現行の途上国の数学教育に批判的な分析を加えることが本講義の目的である。基本的な理論を講義形式で紹介しつつ、論点を取り上げて理解を深める。次のような内容を取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際教育開発プログラム専門科目		<p>*開発途上国が抱える数学教育の問題点と研究枠組みについて論じる。</p> <p>*数学教育カリキュラム開発の一般論，具体的事例を論じる。</p> <p>*数学教育の文化的側面を論じる。</p> <p>*数学教育の教師，教師教育，授業について論じる。</p> <p>*数学教育の評価について論じる。</p> <p>*開発途上国の数学教育の問題点を振り返り，グローバルな文脈との接合を図る。</p>	
	高等教育開発論	<p>本科目の目的は、現在、世界の高等教育が抱える種々の問題を先進国、開発途上国両方の視点から分析し、講義、ディスカッションすることにある。本科目では、学生グループが、各国の高等教育の発展について要点をまとめ発表する形式を取り、その後、KJ法を活用したディスカッションを行うことで以下の学習成果を得る教育を提供する。本科目の履修を通して、受講生は、1) 高等教育開発論における世界的重要課題について概説できる。2) 履修者の母国の高等教育制度、重要課題について文献をもとに考察し、課題について論述できる。3) 教育開発に関する諸問題を分析し、問題を解決する方策を立案することができる。</p>	
	教育協力実践基礎論 I	<p>(概要) 本科目の目的は、国際教育協力プロジェクトを住民参加型で計画立案するための複数の手法を学ぶことにある。具体的には、日本国政府の国際協力プロジェクトの運営に用いられるプロジェクト・サイクル・マネージメント (PCM) の手法を中心に学ぶ。PCM 手法で作成される PDM は多くの国際援助機関で用いられるロジカル・フレームをモデルにしており、PCM や PDM の理解は、日本のみならず、国際援助機関での実践に向けた基礎構築にもつながる。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1) 国際教育協力プロジェクトの立案方法を理解する、2) 参加型開発の意義を理解する、3) 他の参加型立案方法と比較した PCM 手法の長所短所を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(68 三輪 千明/4 回) ガイダンスおよびプロジェクトとは、参加型開発の意義と手法 1, 参加型開発の意義と手法 2, 参加型開発計画の理解の確認 (小テスト) と自己評価</p> <p>(120 丸山 隆央/1 回) プロジェクト・プロポーザルとは何か</p> <p>(274 八木 恵里子・275 南村 亜矢子・68 三輪 千明/8 回) (共同) PCM 手法の概要、関係者分析、問題分析 1, 問題分析 2, 目的分析, プロジェクト選択, PDM の作成, 活動計画</p> <p>(120 丸山 隆央・68 三輪 千明/1 回) (共同) PCM 手法とその他の参加型立案計画の比較検討</p> <p>(2 馬場 卓也・1 清水 欽也・120 丸山 隆央・68 三輪 千明/1 回) (共同) PCM 手法の理解に関する発表と討論</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	教育協力実践基礎論 II	<p>(概要) 本科目の目的は、プロジェクト・サイクル・マネージメント (PCM) の手法に基づき、ある途上国の教育セクターを事例に、異なる背景をもつ人々の参画を得て一つの国際教育協力のプロジェクト・プロポーザルを仕上げていく過程を体験的に学ぶことにある。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1) PCM 手法に基づき、国際教育協力のプロジェクト・プロポーザルを立案できる、2) 参加型開発の意義を体験的に理解する、3) 論理的思考やコミュニケーション力が向上する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(68 三輪 千明/9 回) ガイダンスおよび PCM 手法の振り返り、対象国の概要と教育開発、対象国の教育プロジェクトの関係者分析、対象国の教育プロジェクトの問題分析、対象国の教育プロジェクトの目的分析、対象国の教育プロジェクトのプロジェクト選択、対象国の教育プロジェクトの PDM 作成、対象国の教育プロジェクトの活動計画、</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>PCM 手法の理解の確認（期末テスト）と自己評価</p> <p>(120 丸山 隆央/1回) プロジェクト予算の立て方</p> <p>(120 丸山 隆央・68 三輪 千明/2回) (共同) 問題点と対策 1, 問題点と対策 2</p> <p>(2 馬場 卓也・1 清水 欽也・120 丸山 隆央・68 三輪 千明/3回) (共同) 対象国の関係者分析と問題分析の結果発表と討論, 対象国の目的分析とプロジェクト選択の結果発表と討論, 対象国のプロジェクトと PDM の結果発表と討論</p>	
	国際教育協力実践研究	<p>国際教育開発の課題とそれに対する開発援助機関による取り組みの事例を通じて、国際教育協力の現象と構造に関する理解を深め、国際協力マインドの育成、学生の今後の研究領域、研究設問の設定に役立てる。具体的には、以下の内容を取り扱う。コースオリエンテーション、国際教育開発の動向と課題を理解する、援助機関のアプローチの特徴を理解する（世界銀行・国際協力機構）、教育統計・教育計画のモニタリングの現状と課題、援助機関のアプローチの特徴を理解する（国際協力機構のアプローチ、教師教育支援、住民参加型学校運営支援、住民参加型学校運営にかかる調査分析、インクルーシブ教育（障害者支援）への取り組み）。</p>	
	基礎教育開発論	<p>本講義の目標は大きく二つある。一つ目は、発展途上国の基礎教育、SDGs 4 達成に向けた国際社会の取り組み・残された課題や、教育開発の理論的パラダイムに対する理解を深めることである。二つ目は、文献を批判的に（クリティカルリーディング）読める力を身につけ、先行研究が行えるようにすることである。2 回のリフレクションペーパーの作成や、学期末には、先行研究を作成する。ペーパー作成の練習のため、すべての提出物を 2 回まで（再）提出して良いこととする。より優れたスコアのことを最終的な成績とする。</p>	
	教育協力事業評価論	<p>本講義の目的は、「評価」の理論と手法を理解し、政府開発援助（ODA）による教育分野の国際協力プロジェクト及びプログラムに対する事前評価（案件形成時）、モニタリング、事後評価等の目的と手順を習得して、自らの研究プロセスに応用できるようにすることにある。</p> <p>ODA 事業評価の手順では、評価可能性チェック、評価デザイン（ロジックモデル作成、指標設定、質問票作成）、データ収集・分析、貢献要因・阻害要因確認、レーティング、報告書作成の手順を、実例を用いながら解説し、質問票作成とインタビュー調査等の一部は講義中に実践する。</p> <p>追加的に、インパクト評価、参加型評価、メタ評価、日本の教育分野で実施されている大学評価、学校評価、教育評価についても理解を深め、評価の役割と評価結果の活用（フィードバック）とアカウンタビリティの重要性を体験的に学ぶ。</p>	
教科教育授業論	<p>児童中心の学習の理論、授業観察のポイントを踏まえた授業観察を通して、下記の知識とスキルを習得する。</p> <p>(1) 児童中心の学習の理論および日本における授業研究の方法について理解する。</p> <p>(2) 日本における算数、理科、社会科の教育目的、内容、方法について理解し、教材研究の方法と授業案の作成方法を理解する。</p> <p>(3) 授業観察の方法を理解し、授業研究を行うスキルを習得する。</p> <p>(4) 自国の文脈（教科教育、児童生徒の特性）を鑑みた授業計画案を作成することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(66 中矢 礼美/5 回)</p> <p>児童中心の学習の理論、授業研究概論、社会科授業観察のポイント、社会科教材研究、社会科などの授業計画作成指導</p>	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際教育開発プログラム専門科目		<p>(2 馬場 卓也/5回) 算数の授業観察のポイント、算数の教材研究、算数の授業計画作成指導</p> <p>(1 清水 欽也/5回) 理科の授業観察のポイント、理科の教材研究、理科の授業計画作成指導</p>	
	途上国の比較教育学	本講義では、発展途上国の教育を比較の視点から学ぶ。受講者は、途上国の事例研究から、教育政策的側面、実践的側面について自国や日本の教育を念頭に置きつつ、比較による知見を導出していく。また、本授業では教育政策や実践のみならず、文化や社会、国民性など、ホリスティックな比較を目指す。担当者の専門とする地域がバングラデシュであるため、同国を中心に、インド、ネパールなど南アジア諸国の教育を軸とした比較事例研究を講義、比較教育学の手法を学ぶ。	
	インクルーシブ教育論	この講義には3つの目的がある。一つ目は、国による障害の定義や教育・福祉制度の違いについての情報を共有することである。二つ目は、世界におけるインクルーシブ教育の国際的な動向を示すことである。三つ目はインクルーシブ教育システムの意義を考察することである。また、なぜ途上国とOECD諸国でインクルーシブ教育の推進が積極的に行われたのか、インクルーシブ教育の対象者は誰なのか、など、インクルーシブ教育の導入の経緯や社会的情勢について理解を深め、今後の在り方等についても検討する。	
	平和社会のための教育	<p>平和の概念、平和教育の理論、平和教育カリキュラム開発およびマネジメントの方法についての知識と実際に自国の平和構築に向けたカリキュラムを開発するスキルを習得することを目的とする。具体的な授業の到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平和の概念を理解した上で、自国の平和の状況を暴力の形態と状況から分析し、その原因と解決の方策について意見を表明できる。</li> <li>・平和教育の理論、カリキュラム開発原理およびマネジメント方法について理解し、自国の教育の課題を指摘することができる。</li> <li>・各国の平和教育を概観し、その特徴と優れた点について理解する。</li> <li>・最終的に、自国の平和構築に向けた平和教育カリキュラムを開発する。(1時間の授業から年間プログラムまで、目的と対象に合わせて学生が選択する)</li> </ul>	
	教育統計概論	本講義では、開発途上国からの留学生が主たる受講対象であることを踏まえ、SPSSなどの高価な統計分析ソフトウェアではなく、EXCELLや電卓などの計算ソフトを使うだけでできる統計分析について、その基礎や原理について具体的な事例やデータを用いながら講義する。講義の内容は主として、(1)教育測定の考え方、(2)平均、標準偏差などの基礎的統計指標の計算法およびその意義、(3)t検定、(4)分散分析、(5)相関分析、(6)因子分析、(7)重回帰分析等を扱う。(6)、(7)はEXCELLによる分析方法ではなく、SPSSによる出力の見方などが中心となる。	
	教育開発フィールドワーク論	<p>教育開発研究において必要なフィールドワークの基本的スキルを習得することを目標とする。(1)質的調査法の特徴と主要なタイプを概観し、問いの立て方、分析方法、まとめ方、研究倫理とフィールドでの位置取りを理解する。(2)擬似的なインタビュー調査や観察調査を行い、データ収集・分析し取りまとめる。そして、講義での発表・議論を通してフィールドワークについての理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(66 中矢 礼美/5回) 質的研究概論、エスノグラフィー、調査計画指導、調査分析指導</p> <p>(67 牧 貴愛/5回) 教育開発分野におけるフィールドワーク、調査計画指導、調査分析指導</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム開発プログラム 国際教育開発プログラム 専門科目		(118 日下部 達哉/5回) データ分析の方法、調査計画指導、調査分析指導	
	地域カリキュラム開発論	持続可能な地域開発に必要な資質能力の育成を目指す地域カリキュラム開発についての知識とスキルを習得することを目的とする。 (1) 国家カリキュラムや学校カリキュラムとの比較から地域カリキュラムの特徴と機能を理解し、地域カリキュラムの原理・原則、歴史、カリキュラムの開発・実施・評価の指標を理解する。(2) 日本およびインドネシアを主たる対象地域として、全教育段階における地域カリキュラム(開発プロセス、構造)、カリキュラムマネジメント(運営、評価)および教授学習過程の特長と課題を理解する。(3) 学生が対象とする地域に焦点を当てた地域カリキュラムを開発し、発表およびディスカッションを行う。これにより、学生が今後教育開発分野において当該地域の人々のニーズにより適した持続可能な地域社会づくりに資する教育開発に積極的に関わっていく動機付けとなり、そこで必要な知識・技能・態度を養っていくことが期待できる。	
	スポーツ教育開発論	本科目では、国際協力において体育・スポーツが果たす役割について考えることを目的としている。まずは体育・スポーツに関する基礎的知識を集積しながら、日本や諸外国での体育・スポーツの実情についての理解を深める。その上で、実際に行われている体育・スポーツを通じた国際協力の事例について学びながら、その成果や問題点などについて考える。最終的には、国際社会の様々な社会課題に対する、体育・スポーツの活用方法、有効性、限界等について、ディスカッションを通じて考察する。	
	グローバルシティズンシップ教育論	グローバル時代における持続可能な開発を目指すシティズンシップ教育のあり方について議論し、各国の文脈に応じたグローバルシティズンシップ教育を模索するための知識の習得と分析能力を学習することを目的とする。具体的な授業の到達目標は以下の通り。 (1) グローバルシティズンシップ教育の基本的な考え方を理解し、議論する。 (2) グローバルシティズンに必要とされるコンピテンシーを説明する。 (3) グローバルシティズンシップの考え方を各国の課題に適用して、議論することができる。例えば、少数民族、移民、ジェンダー、特別な支援が必要な人々。 (4) 自国のシティズンシップ教育への示唆を提案する。	
	幼児教育・保育開発論Ⅰ	本科目は、受講生が幼児教育・保育に関する諸理論の理解を通して、乳幼児期はなぜ重要か、幼児教育・保育はどうあるべきかを、主に発展途上国の状況を踏まえながら考えることを目的とする。本科目は二部構成とし、第Ⅰ部では子どもの発達に関する諸理論を学び、第Ⅱ部では幼児教育・保育に関する理論や考え方を様々な観点から学んでいく。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1) 乳幼児期の重要性を理論的に説明できる、2) 幼児教育・保育がどうあるべきかについて複眼的視点から考えられる。	
	幼児教育・保育開発論Ⅱ	本科目は、受講生が幼児教育・保育の政策や内容・方法等の理解を通して、途上国における幼児教育・保育の量的拡大や質的向上をどう図るべきかを考えることを目的とする。本科目は三部構成とし、第Ⅰ部では途上国における幼児教育・保育の量的拡大の現状や手法への理解を図る。第Ⅱ部では幼児教育・保育の質に焦点を当て、質の高い幼児教育・保育とは何か、どのようなカリキュラムが最も効果的で、どのような評価が可能なかを考える。第Ⅲ部では日本の幼児教育・保育を事例に取り上げ、日本の経験や実践から途上国が学べることは何かを議論する。本科目の履修を通して、受講生は以下の能力を修得する。1) 幼児教育・保育の多様な内容や方法について長所・短所を含めて説明できる、2) 途上国の幼児教育・保育のサブセクター分析を行い、量的拡大や質的向上に関する提言ができる。	
	特別研究	(概要) 教育科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、既存研究のレビュー、調査・実験の方法、データ処理・分析手法、論文執筆、発表方法の習得等、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため、指導を行う。  <b>教育学プログラム</b>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>(57 黄 福涛) 大学カリキュラム開発・高等教育国際化の観点から研究指導を行う。</p> <p>(52 丸山 恭司) 教育哲学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(6 山田 浩之) 教育社会学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(56 七木田 敦) 障害児保育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(54 小川 佳万) 比較国際教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(55 曾余田 浩史) 教育経営学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(58 大膳 司) 教育社会学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(203 渡邊 聡) 教育経済学・高等教育政策の観点から研究指導を行う。</p> <p>(53 鈴木 理恵) 日本東洋教育史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(106 吉田 成章) 教育方法学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(107 久井 英輔) 社会教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(110 恒松 直美) 異文化間理解・社会理論の観点から研究指導を行う。</p> <p>(111 佐藤 万知) 高等教育論・大学教育論の観点から研究指導を行う。</p> <p>(105 三時 眞貴子) 西洋教育史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(112 村澤 昌崇) 教育社会学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(113 大場 淳) 日仏高等教育・職員開発の観点から研究指導を行う。</p> <p>(108 滝沢 潤) 教育行政学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(109 中坪 史典) 幼児教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(128 KIM YANGSON) 高等教育の国際比較の観点から研究指導を行う。</p> <p>(59 藤村 正司)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>教育社会学の観点から研究指導を行う。</p> <p><b>日本語教育学プログラム</b></p> <p>(60 白川 博之) 日本語文法研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(4 永田 良太) 社会言語学・談話分析の観点から研究指導を行う。</p> <p>(61 仁科 陽江) 対照言語学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(62 西原 大輔) 日本近代文学研究の観点からの研究指導を行う。</p> <p>(63 畑佐 由紀子) 第二言語習得研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(7 松見 法男) 認知心理学・言語心理学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(8 柳澤 浩哉) 日本語表現法・レトリックの観点から研究指導を行う。</p> <p>(114 中山 亜紀子) 異文化間教育論の観点から研究指導を行う。</p> <p>(115 西村 大志) 文化社会学の観点からの研究指導を行う。</p> <p>(116 渡部 倫子) 日本語評価法の観点から研究指導を行う</p> <p>(117 櫻井 千穂) 年少者日本語教育の観点から研究指導を行う。</p> <p><b>国際教育開発プログラム</b></p> <p>(2 馬場 卓也) 指導分野は、数学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(1 清水 欽也) 指導分野は、科学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(66 中矢 礼美) 指導分野は、グローバルシティズンシップ教育、平和教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(68 三輪 千明) 指導分野は、就学前教育・ケアの教育活動、指導者育成、評価などである。</p> <p>(67 牧 貴愛) 指導分野は、教師に関わる政策および実施、教師教育、教員評価などである。</p> <p>(120 丸山 隆央) 指導分野は、国際教育開発協力の現象と構造の分析である。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>(64 吉田 和浩) 指導分野は、国際教育協力の世界的な動向と援助機関による分析、提言である。</p> <p>(3 石田 洋子) 指導分野は、国際教育協力分野の事業評価の理論と実践である。</p> <p>(118 日下部 達哉) 指導分野は、発展途上国の教育のホリスティックな比較研究である。</p> <p>(65 櫻井 里穂) 指導分野は、発展途上国の初等教育の現状・課題の分析である。</p> <p>(11 堀田 泰司) 指導分野は、高等教育開発論における世界的、各国の課題と問題解決である。</p> <p>(19 川合 紀宗) 指導分野は、インクルーシブ教育の意義、制度、実践に関する研究である。</p> <p>(10 齊藤 一彦) 研究分野は、国際協力における体育・スポーツ教育に関する成果と活用方法についてである。</p> <p>(203 渡邊 聡) 研究分野は、高等教育政策と教育経済学的分析である。</p> <p>(57 黄 福涛) 研究分野は、大学カリキュラムとその改革についての研究である。</p> <p>(113 大場 淳) 研究分野は、大学組織、大学運営、ガバナンスなどについての研究である。</p> <p>(111 佐藤 万知) 研究分野は、大学と社会との関係についての研究である</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学研究科教育科学専攻 博士課程後期)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	スペシャリスト型 SDGs アイデアマイニング学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDGを達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」を踏まえ、ひとつの SDG に対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として 17 つの SDGs をカバーする包括的なアプローチを提案する。	
	SDGs の観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の 1 つを取り上げ、SDGs の観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」及び当該縣市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	
	持続可能な発展科目 普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実との間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(128 河合 幸一郎/2 回) 途上国における貧困と飢餓について現状と解決策</p> <p>(155 掛江 朋子/2 回) 世界各地の難民問題の現状と課題</p> <p>(156 山根 達郎/2 回) 現代に蔓延する越境的な地域紛争の構造と紛争後における平和構築に向けた国際社会の取組み</p> <p>(129 中坪 孝之/2 回) 水資源問題、地球温暖化を始めとした環境問題と平和の関わり</p>	オムニバス方式
	データサイエンス	データサイエンスは、データそのものを対象とする科学である。データの蓄積や利用法に留まらず、データの抽出、解析、検証、問題解決にいたる一連の手順について講義を行い、必要に応じて実際に統計ソフトウェアを用いた計算を行う。具体的には、使用したいデータの取り出しと結合・欠損データの取り外しなどのデータクリーニング、ヒストグラム・ボックスプロットなどの単数データの視覚化、平均・分散などの基本統計量の計算等の初歩的な内容だけでなく、散布図・パイプロットなどの複数データの同時視覚化、重回帰分析やロジスティック重回帰分析、さらにはクラスター分析などのより実践に即した内容も取り扱う。	
	パターン認識と機械学習	人工知能は、人間の脳の機能を人工的に模倣しようとする試みである。デジタルカメラでの顔検出や自動運転などの応用では、パターン認識や機械学習が重要な役割を担っている。最近では、ディープラーニングを用いた手法が画像認識などのパターン認識課題で高い性能を出したことで脚光を浴びている。また、膨大なデータの中から有用な情報を見つけ出すためのデータマイニングでは、基礎技術として機械学習が利用されている。本講義では、機械学習とパターン認識の基礎とその人工知能への応用について解説する。また、訓練データから予測や識別のためのモデルを構築するプログラムを作成することで、機械学習やパターン認識手法をより深く理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンティスト養成	近年、ビッグデータや人工知能(AI)などの活用に関心が集まっている。企業においては製造・生産ラインの改善、素材等の探索、顧客データに基づく新商品開発など、膨大なデータを構造化することで企画立案などの意思決定をサポートすることができる人材—データサイエンティスト—に対するニーズも高まってきている。一方、理工系分野に限らず、人文社会系を含めた幅広い研究分野においても、データサイエンスの知見や技術の応用が新たな学問的発見や価値創造に貢献することが期待されている。本講義では、これらデータサイエンティストとして必要になる統計分析能力やIT関連スキルのみならず、実際のビジネスや研究開発現場への応用を見据えた課題解決型テーマに取り組むことで実践力を養う。	
	医療情報リテラシー活用	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(165 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究。演習</p> <p>(135 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性。演習</p> <p>(157 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法と演習</p> <p>(134 粟井 和夫・133 有廣 光司/1回) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用と演習</p> <p>(166 田中 剛/1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用と演習</p> <p>(136 田中 純子/1回) NDB (National database) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用と演習</p> <p>(158 大上 直秀/1回) がんゲノム情報の概要、倫理的課題、応用と活用と演習</p> <p>(137 久保 達彦/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式、共同(一部)
	リーダーシップ手法	組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本授業では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について事例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		ションを行う。	
	高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	グローバル化と科学技術の進展に伴い、社会における人財ニーズも時代とともに変化している。本授業では、多様な業界の関係者や職業に従事されている方々からの講義、ディスカッション、さらには自己理解を深めるためのワークを通じて、研究経験を有する専門性の高い人財が活躍できるキャリアの選択肢と必要な能力・資質等について理解する。多様なキャリアの意義や魅力を理解することで自分自身の研究経験の活かし方を考え、将来に亘って自身のキャリアをマネジメントしていくために必要となる姿勢、行動、特質についても考察を深める。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が自らのキャリアを考えることができるように配慮する。	
	イノベーション演習	新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本授業では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す（＝イノベーション）ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を修得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。	
	長期インターンシップ	国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などへの長期インターンシップを通じて、企業や社会の課題解決に貢献するとともに、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る。実習期間は原則、1～2ヵ月間以上のものを対象とする。受講希望者は応募申請書及び所属する専攻の指導教員からの推薦書をあらかじめ提出し、受講認定、事前カウンセリングなどの指導を受けて実施する。また、派遣前・派遣後プレゼンテーションも実施する。自己資金、学内資金、外部資金を問わない。	
	事業創造概論	発明とイノベーションは似ているようで、実は大きく異なる。斬新なアイデアや発明でも、商業化されなければイノベーションにならない。日本経済が数十年にわたって停滞してしまったのは、日本企業のイノベーション力が低下したことが主因である。日本は科学技術のレベルが高いにも関わらず、開発の成果を新しい事業に結びつけられる人材が不足している。近年、科学者にもアントレプレナーシップ（起業家の思考と行動）が求められるようになったのはこのような事情がある。座学だけでなく、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて考察し、事業創造の基礎を学ぶ。特に技術の商用化に焦点をあて、製品開発と顧客開発の違いを理解し、演習などでその感覚をつかむことなどを到達目標とする。ビジネスの知識は問わない。コミュニケーション能力の向上も目標の一つなので、受講者には授業に参加し積極的に取り組むことを求める。	
研究科 共通科目	プロジェクト研究	主指導教員又は主指導教員以外の教員が行う研究プロジェクトに参加し、プロジェクトの目的を達成するためにどのような活動、協働が行われ、得られた成果が社会に還元されていくのかを体験する。プロジェクトに参加する複数の分野の教員や学生と交流することにより、多角的で広い視野を獲得するとともに、チームの一員あるいはリーダーとして活動を通じて個人としての成果と組織としての成果の両方を挙げていくことのできるセンスを身に付ける。	共同
	人間社会科学講究	人文科学、社会科学、教育科学の諸分野における最先端の研究を行っている学内外の研究者により、それぞれの分野における研究や、分野をまたいで行う共同研究に関する最新の話題を提供する。受講生が自分の専門分野や他分野の先端的取り組みや研究者に触れることにより、研究に取り組む意欲を高め、将来の展望を広げることを目指す。担当教員は、話題提供者のオーガナイズを行う。講義形式であるが、少人数によるグループワーク等も実施する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目	教育学国際共同研究講究	現在の教育学研究では海外、また国内でも多様な地域との共同が求められている。一事例や狭い地域に限定されず、広い視野で教育現象を観察する必要がある一方で、海外をも含めた多くの地域で教育に関する共通の課題や問題が生じるようになってきている。本講義では国内外の研究者との国際的な課題に関する共同研究やシンポジウム、また、海外の研究拠点や学校などの視察を通じて、現在の教育、および教育学をめぐる課題を理解し、グローバルな視点から研究を進めるための知識と技術を習得する。	
	教育学フィールドワーク講究	本授業は、研究職を目指す学生に対して質的研究の理論的・歴史的背景及び質的研究の動向を確認し以下の手順で授業を実施する。まず受講生を小グループに編成し、フィールドワークやインタビューに基づくデータ収集を実施する。そして特定の質的研究方法論に依拠したデータ分析などを通して研究成果を発表し合う。具体的には、質的データの収集を、観察とインタビューから、フィールドノートとデータベースの作成、そしてコードとカテゴリーを行い、最終的には理論仮説の生成と検証を理論的飽和という視点から分析することを通して学生自身の研究にいかせるようにする。	
	大学教員養成講座	大学教員を目指す学生に大学教員の仕事を理解させ、大学の授業設計に関する基礎的な知識・技能を身につけ、自らの教育方針を明らかにし、授業設計に反映することができる力を養う。本講座を受講した者には、本学において教員の指導・監督のもと、授業を行うことができるTF資格が与えられる。	
	大学授業構成論講究	本授業は、現在の教員養成制度の特徴や成り立ち、教員養成プログラム、教職大学院の現状と課題などを学習するとともに、日本の主要な大学教員養成学部・教員養成カリキュラムと授業のシラバス、使用される教科書や教材等の分析を通して、大学授業の構成に関する特徴や課題を検討する。また、実際にシラバスを作成し、大学において授業を構成する上で必要な理論、知識、実践的技法などについて学ぶ。	
	教職授業プラクティカム I	将来、大学教員、とりわけ教職課程担当教員になることを希望する学生を対象に、学部・教職大学院の授業（教職関連科目）をフィールドに、授業観察、教材準備、指導案作成、模擬授業、そして実際の講義（一部）を担当させ、大学教員、とりわけ教職課程担当教員としての実践的力の形成を目指す。Iは教壇実習一回目。	
	教職授業プラクティカム II	将来、大学教員、とりわけ教職課程担当教員になることを希望する学生を対象に、学部・教職大学院の授業（教職関連科目）をフィールドに、授業観察、教材準備、指導案作成、模擬授業、そして実際の講義（一部）を担当させ、大学教員、とりわけ教職課程担当教員としての実践的力の形成を目指す。IIは教壇実習二回目。	
	教職授業プラクティカム III	将来、大学教員、とりわけ教職課程担当教員になることを希望する学生を対象に、学部・教職大学院の授業（教職関連科目）をフィールドに、授業観察、教材準備、指導案作成、模擬授業、そして実際の講義（一部）を担当させ、大学教員、とりわけ教職課程担当教員としての実践的力の形成を目指す。IIIは教壇実習三回目。	
	教職教育ポートフォリオ	学部および教職大学院の授業（教職関連科目）をフィールドに、授業観察、教材準備、指導案作成、模擬授業、そして実際の講義（一部）を担当させ、大学教員、とりわけ教職課程担当教員としての実践的力の形成がいかにか測られたかをポートフォリオを作成することによって自己評価させる。	
特別研究	<p>（概要）教育科学分野における研究の遂行に必要な専門知識や分析手法等を習得させるとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、既存研究のレビュー、調査・実験の方法、データ処理・分析手法、論文執筆、発表方法の習得（研究倫理を含む）等、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため、指導を行う。</p> <p><b>教師教育デザイン学プログラム</b></p> <p>（11 伊藤 圭子） 家庭科教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>（21 宮里 智恵） 教育課程論、道徳教育論に着目し、カリキュラム開発や授業づくりを中心として研究指導を行う。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>(29 山崎 敬人) 理科教育におけるカリキュラム開発と教師教育を中心として研究指導を行う。</p> <p>(40 松浦 武人) 算数・数学科教育における概念発達や認知発達, 評価等に着目し, カリキュラム開発や実践開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(152 難波 博孝) 国語科教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(64 鈴木 由美子) 教育課程論, 道徳・人間関係教育論に着目し, カリキュラム開発や実践開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(75 永田 忠道) 社会科教育, 生活科教育, 総合的学習の観点から研究指導を行う。</p> <p>(87 寺内 大輔) 音楽教育, 音楽表現の観点から研究指導を行う。</p> <p>(99 大後戸 一樹) 体育科教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(102 池田 吏志) 図画工作科教育, 特別支援教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(117 木下 博義) 科学教育における概念発達や認知発達, 評価等に着目し, カリキュラム開発や実践開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(22 栗原 慎二) 学校カウンセリングの観点から研究指導を行う。</p> <p>(33 児玉 真樹子) キャリア発達の観点から研究指導を行う。</p> <p>(31 山内 規嗣) 学校教育史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(93 深谷 達史) 教育心理学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(106 藤木 大介) 発達や学習の心理学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(113 米沢 崇) 教師教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(59 木原 成一郎) 体育科教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(60 木村 博一) 社会科教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(65 権藤 敦子) 音楽教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>(4 松本 仁志) 国語科（文字）教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(52 中村 和世) 図画工作・美術科教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(91 松宮 奈賀子) 英語教育のカリキュラム開発および学習開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(45 川合 紀宗) 主にコミュニケーション障害及びインクルーシブ教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(35 若松 昭彦) 主に知的障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p> <p>(86 氏間 和仁) 主に視覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面および特別支援教育におけるアシスティブテクノロジーに関する研究指導を行う。</p> <p>(119 林田 真志) 主に聴覚障害のある幼児児童生徒の心理・生理・病的側面に関する研究指導を行う。</p> <p>(109 梅田 貴士) 物理概念の理解に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(23 古賀 信吉) 無機化学・物理化学・熱化学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(116 網本 貴一) 有機化学・生体関連化学・材料科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。</p> <p>(51 竹下 俊治) 植物や微生物の観察実験に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として指導を行う。</p> <p>(111 富川 光) 動物の多様性や分類・生態に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(30 山崎 博史) 地形・地質に関する学習材および学習プログラム開発を中心として指導を行う。</p> <p>(13 磯崎 哲夫) 科学教育の原理および教師教育に関して比較教育的・教育史的アプローチを中心として指導を行う。</p> <p>(90 松浦 拓也) 科学教育の指導法および評価に関する調査・分析を中心として指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>(50 池田 良) 偏微分方程式論（特に双曲型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(34 寺垣内 政一) 位相幾何学に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(18 下村 哲) ポテンシャル論・偏微分方程式論（特に楕円型偏微分方程式）に関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(37 小山 正孝) 数学教育の原理と方法に関する数学的理解や数学科授業構成（情報機器の活用を含む）を中心的に取り扱う。</p> <p>(54 田中 秀幸) ハードウェアに関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(101 谷田 親彦) 技術・工業の教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(55 渡辺 健次) ネットワークの観点から研究指導を行う。</p> <p>(97 川田 和男) メカトロニクスに関する学習材および学習プログラム開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(53 長松 正康) 主に情報の教育の観点から研究指導を行う。</p> <p>(62 由井 義通) 人文地理学分野（都市地理学・社会地理学・人口地理学など）および地理教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(79 熊原 康博) 自然地理学，および自然地理領域の地理教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(46 草原 和博) 社会認識教育方法学の領域のなかでも，とくにカリキュラムデザインの思想と方法，教師の意思決定の条件と文脈などについて研究指導を行う。</p> <p>(49 棚橋 健治) 社会科，地理歴史科，公民科の学力論，学習評価論などに関する研究を具体例として，社会認識教育方法学に関わる諸問題について研究指導を行う。</p> <p>(26 佐々木 勇) 日本語史学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(27 佐藤 大志) 漢文学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(163 川口 隆行) 日本文学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(88 小西 いずみ)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム専門科目		<p>現代日本語学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(28 山元 隆春) 文学・読書領域を中心に国語教育学の歴史的研究，比較国語教育研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(19 間瀬 茂夫) 国語学力論・評価論を中心に，国語教育学の方法論的研究，臨床・実践的研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(38 小野 章) 英語文学研究の観点から英語教育の諸問題について研究指導を行う。</p> <p>(94 西原 貴之) 英語学の観点から英語教育の諸問題について研究指導を行う。</p> <p>(39 松浦 伸和) 英語の指導法，学力評価，授業論などを中心として研究指導を行う。</p> <p>(41 上田 毅) スポーツ学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(17 沖原 謙) スポーツ学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(36 出口 達也) スポーツ方法学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(66 齊藤 一彦) スポーツ教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(25 今川 真治) 人間発達科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(47 村上 かおり) 衣生活科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(92 松原 主典) 食生活科学に関する学習材および学習プログラムの開発を中心として研究指導を行う。</p> <p>(63 鈴木 明子) 人間生活教育領域の理論的・実践的研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(32 枝川 一也) 声楽領域の観点から研究指導を行う。</p> <p>(24 高旗 健次) 器楽領域の観点から研究指導を行う。</p> <p>(74 伊藤 真) 音楽教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(14 一鍬田 徹) 彫刻・立体表現領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。</p> <p>(12 井戸川 豊) 工芸領域（陶芸）領域に関する理論的，実践的研究を中心として指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(84 三根 和浪) 美術教育領域の理論的・実践的教育課題の観点から研究指導を行う。</p> <p><b>教育学プログラム</b></p> <p>(8 丸山 恭司) 教育哲学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(9 鈴木 理恵) 日本東洋教育史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(6 小川 佳万) 比較国際教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(5 山田 浩之) 教育社会学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(10 曾余田 浩史) 教育経営学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(7 七木田 敦) 障害児保育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(68 中坪 史典) 幼児教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(70 滝沢 潤) 教育行政学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(71 久井 英輔) 社会教育学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(67 三時 眞貴子) 西洋教育史の観点から研究指導を行う。</p> <p>(72 吉田 成章) 教育方法学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(80 恒松 直美) 異文化間理解・社会理論の観点から研究指導を行う。</p> <p>(16 黄 福涛) 大学カリキュラム開発・高等教育国際化の観点から研究指導を行う。</p> <p>(153 渡邊 聡) 教育経済学・高等教育政策の観点から研究指導を行う。</p> <p><b>日本語教育学プログラム</b></p> <p>(56 白川 博之) 日本語文法研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(15 永田 良太) 社会言語学・談話分析の観点から研究指導を行う。</p> <p>(42 仁科 陽江) 対照言語学の観点から研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(43 西原 大輔) 日本近代文学研究の観点からの研究指導を行う。</p> <p>(57 畑佐 由紀子) 第二言語習得研究の観点から研究指導を行う。</p> <p>(2 松見 法男) 認知心理学・言語心理学の観点から研究指導を行う。</p> <p>(61 柳澤 浩哉) 日本語表現法・レトリックの観点から研究指導を行う。</p> <p><b>国際教育開発プログラム</b></p> <p>(1 馬場 卓也) 指導分野は、数学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(3 清水 欽也) 指導分野は、科学教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(103 中矢 礼美) 指導分野は、グローバルシティズンシップ教育、平和教育分野におけるカリキュラム開発、教師教育、教育評価などである。</p> <p>(85 三輪 千明) 指導分野は、就学前教育・ケアの教育活動、指導者育成、評価などである。</p> <p>(115 牧 貴愛) 指導分野は、教師に関わる政策および実施、教師教育、教員評価などである。</p> <p>(20 吉田 和浩) 指導分野は、国際教育協力の世界的な動向と援助機関による分析、提言である。</p> <p>(44 石田 洋子) 指導分野は、国際教育協力分野の事業評価の理論と実践である。</p> <p>(108 日下部 達哉) 指導分野は、発展途上国の教育のホリスティックな比較研究である。</p> <p>(122 櫻井 里穂) 指導分野は、発展途上国の初等教育の現状・課題の分析である。</p> <p>(58 堀田 泰司) 指導分野は、高等教育開発論における世界的、各国の課題と問題解決である。</p> <p>(45 川合 紀宗) 指導分野は、インクルーシブ教育の意義、制度、実践に関する研究である。</p> <p>(66 齊藤 一彦) 研究分野は、国際協力における体育・スポーツ教育に関する成果と活用方法についてである。</p> <p>(153 渡邊 聡) 研究分野は、高等教育政策と教育経済学的分析である。</p> <p>(16 黄 福涛) 研究分野は、大学カリキュラムとその改革についての研究である。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(100 大場 淳) 研究分野は、大学組織。大学運営、ガバナンスなどについての研究である。</p> <p>(69 佐藤 万知) 研究分野は、大学と社会との関係についての研究である</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会科学部研究科教職開発専攻 専門職学位課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大 学 院 共 通 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(21 川野 徳幸/2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(86 小宮山 道夫/2回) 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割</p> <p>(19 河合 幸一郎/1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(20 中坪 孝之/1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(85 山根 達郎/2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式
	持続可能な発展科目	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University “Pursuit of Peace” and the long-term vision “Splendor Plan 2017”. The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, becuase Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida “Japanese policy experience: Success and Failures” lesson4 Katsufumi Fukuda “Industrial Policy and Economic growth” lesson5 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”1 lesson6 Junyi Zhang “History of environmental policies in Japan”2 lesson7 Osamu Yoshida “Japanese ODA and its Asia Policy” lesson8 Mari Katayanagi “Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective”</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(26 金子 慎治/1回) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(136 三角 幸子/1回) JICAの活動、役割</p> <p>(22 吉田 雄一朝/1回) 日本の政策経験</p> <p>(27 市橋 勝/1回) 産業政策と経済成長</p> <p>(23 張 峻屹/2回) 日本の環境政策の歴史</p> <p>(24 吉田 修/1回) 日本のODAとアジア政策</p> <p>(25 片柳 真理/1回) 平和構築から見た広島復興</p>	
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall "Japanese experience of development in Agriculture and Remote area" lesson3 Koki Seki "Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	<p>Living”            lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan”            lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education”            lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health”            lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history"            lesson8 Discussion            (和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(33 馬場 卓也/2回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ</p> <p>(31 MAHARJAN, KESHAV LALL/1回) 農業開発における日本の経験</p> <p>(32 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面</p> <p>(28 清水 欽也/2回) 日本における教育開発</p> <p>(29 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究</p> <p>(30 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム</p>	
	SDGs への学問的アプローチ A	<p>(概要) SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ A では、人権を中心に取り組む。B と合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内 SDGs 目標番号)</p> <p>(33 馬場 卓也/2回) 1. コースの概要、SDGs と貧困問題 (1, 17) : SDGs の設置経緯について説明し、17 の目標の中で、貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明、議論する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>8. 総括討議</p> <p>(34 実岡 寛文/1回) 2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12) : 地球規模で食料の持続可能性を考える時, 先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態, 栄養改善などについて議論する。</p> <p>(29 田中 純子/1回) 3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6) : 安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから, 疾病対策を含む健康維持のための社会医学的, 公衆衛生的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(30 森山 美知子・87 RAHMAN MD MOSHIUR/1回) (共同) 4. 健康と福祉 (3) : プライマリ・ヘルスケア, リプロダクティブ・ヘルス, 非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(36 永田 良太/1回) 5. 教育と社会 (4) : 情報化による急激な変化が進む中で, 先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(35 石田 洋子/1回) 6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題, 国家間及び各国内の不平等削減に係る課題, そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わるることについて議論する。</p> <p>(137 隈元 美穂子/1回) 7. 国際機関の取り組み (17) : SDGsを推進している立場から, その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p>	
	SDGs への学問的アプローチ B	<p>(概要) SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず, 分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに, その解決には, 援助国, 被援助国のみならず, 地方自治体, 民間企業, 市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは, 環境, 社会, ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(25 片柳 真理/2回) 1. コース概要, 平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し, それら目標の最終ゴールとして, 平和な社会の実現について議論をする。 8. 総括討議</p> <p>(89 長谷川 祐治/1回) 2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり, その影響を軽減するための防災, 緊急対策について議論する。</p> <p>(88 日比野 忠史/1回) 3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し, 包摂的, 強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(90 佐野 浩一郎/1回) 4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と, 持続可能な経済成長の可能性と課題とについて議論する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>(38 河合 研至/1回)</p> <p>5. インフラと産業 (9): 包摂的で強靱 (レジリエント) なインフラ構築, 持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p> <p>(37 小池 一彦/1回)</p> <p>6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(138 川本 亮之/1回)</p> <p>7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11): 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを, SDGs の観点から議論する。</p>	
	SDGs への実践的アプローチ	<p>SDGs は, 貧困や飢餓の根絶, 質の高い教育の実現, 女性の社会進出の促進, 再生可能エネルギーの利用, 経済成長と生産的で働きがいのある雇用の確保, 強靱(きょうじん)なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進, 不平等の是正, 気候変動への対策等の 17 の目標と各目標を達成するための 169 のターゲットからなる。これらを実現するために, 最も影響力があるのは小中高等学校における教育である。授業では, 次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え, 行動力を育成しているかについて実践的にアプローチする。具体的には, SDGs の理念, 基本的な考え方を学ぶとともに, ユネスコスクールに認定されている学校への訪問・見学等を行う。社会人を優先する。</p>	共同
	ダイバーシティの理解	<p>(概要) SDGs の達成を目指す社会において, ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値を理解し, それを実現するスキルを習得することは, いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。本講義では, ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し, インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(39 坂田 桐子・91 櫻井 里穂 /2回)(共同)</p> <p>1. ダイバーシティに関する理論: 特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて, 理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(115 北梶 陽子/5回)</p> <p>2. ゲーム演習: 多様な人々で構成される集団や社会において, 異なる他者の視点を取得し, 問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(40 大池 真知子・115 北梶 陽子/1回)(共同)</p> <p>3. ディスカッション: 理論とゲーム演習の体験に基づき, ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
データリテラシー	<p>(概要) ICT の普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され, これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり, データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では, 社会的背景, データを取り扱う手法として機械学習, 統計学といったデータ科学の考え方について紹介し, いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また, セキュリティ, 個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p>	オムニバス方式	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 キャリア 開発・デ ータリ テラシ ー科目		<p>(92 宮尾 淳一/4回)            ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(41 柳原 宏和/4回)            本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目的とする。具体的には統計ソフトRを用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。</p>	
	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(122 小笹 晃太郎/1回)            原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(42 工藤 美樹/1回)            ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(93 森野 豊之/1回)            医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(44 粟井 和夫・43 有廣 光司/1回) (共同)            医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(123 田中 剛/1回)            広島県独自のHMnet(ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network)を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(29 田中 純子/1回)            NDB(National data base)などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(94 大上 直秀/1回)            がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(45 久保 達彦/1回)            臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	この講義の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア(生き方)を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力や	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通 科目		コミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを 目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己 理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり 考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
	理工系キャリアマネジ メント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本 講義では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・ 発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報（表情、視線、態度など）は 重要な意味を持つため、本講義では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケ ーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容 は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3) 高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。 本講義の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言 語情報だけでなく非言語的要素（視線、あいづち、うなずき等）が重要であるこ とを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテ ーション方法を習得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテ ーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を習得する。	
キャ リア 開 発 ・ デ ー タ リ テ ラ シ ー 科 目	ストレスマネジメント	現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大して いる。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でな いと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させ ることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、スト レスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関 的アプローチによるストレスマネジメントの技法を習得するための演習を実施す る。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴につい て知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関 的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や 思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解 する。	
	情報セキュリティ	（概要）本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの 基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解 をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体 系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際 について事例を交えて説明する。  （オムニバス形式／全15回）  （47 西村 浩二／5回） 情報セキュリティの基本概念および情報セキュリティ管理を実現するための体 制構築や手法について、事例を交えて解説する。  （112 岩沢 和男／5回） 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアシステムを構成するための 経営戦略やプロジェクトマネジメントについて解説する。  （116 渡邊 英伸／5回） 情報セキュリティを構成する基本技術および関連技術について、情報セキュ リティ対策の実際を事例を交えて解説する。	オムニバス形式
	MOT 入門	本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標と する。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本 である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベー ション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分か りやすく説明する。	
	アントレプレナーシップ 概論	イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本 経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたこと があげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。</p>	
研究 科 共 通 科 目	人間社会科学特別講義	<p>(概要) 文学, 史学, 哲学, 言語学, 経済学, 経営学, 法学, 政治学, 社会学, 心理学, 教育学などの, 人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野の研究内容について, 自然科学や生命科学を含む他分野との関連を踏まえて解説する。それぞれの分野に関する専門的知見を学び, 人間社会科学研究科の各プログラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに, 幅広い分野を俯瞰的に理解することを旨とする。講義形式であるが, 少人数による討論等も実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(53 衛藤 吉則・63 森田 愛子・67 星野 一郎・25 片柳 真理/1回) ガイダンスとして, 本講義の全体像を解説する。</p> <p>(54 溝渕 園子・64 本田 義央・118 古川 昌文・105 上野 貴史/1回) 多文化社会, 比較文化などの分野の研究内容について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(97 後藤 雄太・68 末永 高康・106 川村 悠人/1回) 哲学, 倫理学, 思想文化などの分野の研究内容について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(98 奈良 勝司・69 本多 博之・71 前野 弘志/1回) 日本史学, 東洋史学, 西洋史学などの分野の研究内容について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(55 安嶋 紀昭・102 伊藤 奈保子・120 笛吹 理絵/1回) 地理学, 考古学, 文化財学などの分野の研究内容について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(56 小川 恒男・65 小林 英起子・51 柳澤 浩哉・72 今林 修/1回) 日本語学, 日本文学, 中国語学, 中国文学, 英米文学語学などの分野の研究内容について, 他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(57 大内田 康徳・100 大河内 治・70 大澤 俊一・117 中川 雅央/1回) 経済学に関する分野を中心として, 研究内容について, 他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(99 松嶋 健・114 金 宰ウク・119 吉田 有紀・73 PELTOKORPI VESA MATTI/1回) 経営学に関する分野を中心として, 研究内容について, 他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(58 宮永 文雄・52 片木 晴彦/1回) 法学に関する分野を中心として, 研究内容について, 他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(59 永山 博之・85 山根 達郎/1回) 政治学に関する分野を中心として, 研究内容について, 他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科 共通科目		<p>(60 江頭 大蔵／1回) 社会学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(61 服巻 豊・101 上手 由香・103 梅村 比丘・74 杉村 和美／1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(62 長谷川 博・66 井上 永幸・104 杉浦 義典・107 進矢 正宏／1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(48 小山 正孝・50 山田 浩之・113 DELAKORDA KAWASHIMA TINKA／1回) 教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(49 松見 法男・96 中矢 礼美・2 松浦 武人・28 清水 欽也／1回) 教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>	
	平和教育の構築への実践的アプローチ	<p>平和を希求する広島大学において、平和教育を構築することは重要な課題である。グローバル社会の進展により多様な文化的歴史的背景をもった人々が共生する時代において、平和教育をどのように構築していけばよいか、ヒロシマからの視点を含め、実践的にアプローチする。授業では、積極的平和観、消極的平和観等の平和教育に関する理論について学び、各国における平和の概念について検討する。さらに、広島市内の小中学校、附属学校等、平和教育を実践している学校や平和教育関係施設への訪問・見学等、実践的なアプローチを行い、平和を継続発展するための実践力を培う。社会人を優先する。</p>	共同
プログラム 専門科目	教育課程開発の実践と評価	<p>授業では、特色ある教育課程の社会的背景・教育目的・教育課題等について理解することを通して、教育課程を開発・評価するための基礎的技能を、協働の学びを通して身につける。具体的には、教育課程の法的根拠として中央教育審議会答申等について学ぶとともに、特色ある教育課程の実践事例を収集し、グループ活動を通して、それぞれの教育課程の社会的背景・教育目的・教育課題等を理解する。さらにグループごとに、学校種に応じた教育課程を構想し発表することを通して、教育課程を開発・評価するための基礎的技能を身につける。</p>	共同
	論理的思考教育の開発実践	<p>日本や諸外国において、コンピテンシーとしての論理的思考力の育成が求められる背景について、PISA 調査をはじめとする国内外の調査や資料などをもとに考察する。さらに、児童生徒の論理的思考力の実態や指導に関する実践研究についても、調査や資料などをもとに考察する。そしてそれらを踏まえ、児童生徒の論理的思考力を育成するにはどのような授業を行う必要があるのか検討し、新たな授業開発およびパフォーマンス評価等の評価方法を開発する。</p>	共同
	マイクロティーチングの実践	<p>新たな授業づくりの視点に立ち、3～4名の学修者グループごとに授業を構想し、模擬授業を行う。その後、協議会を行い、授業改善の視点を導出する。さらに、当該学修グループは、導出された視点を踏まえて授業改善を試み、再度模擬授業を行う。このように、新たな授業づくりと改善の手続きを繰り返し行うことを通し、実践力を身に付ける。また、現職教員は協議会の司会運営を行うことを通し、ミドルリーダーとしての指導力を培う。</p>	共同
授業研究の開発実践(ICTを含む)	<p>(概要) 学修者による能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法を取り入れた実践に関する授業研究を取り上げながら、これらの理論と実践に関して検討を加える。具体的には、教科・教科外の授業を対象に、学習者の問いを生み出し、相互に問いを共有し、集団内での適切に相互評価活動を進めることができたのか、それらの学習成果を読み取るための理論と実践を検討する。また、ICTに関しては、学修者への活用と指導者の授業分析のための活用という両側面から検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p>	オムニバス方式・共同(一部)	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		(8 大後戸 一樹・17 亀岡 圭太/11回) (共同) 授業研究に関する調査や研究の、理論的側面及び授業研究の実際の実践的側面を中心に指導する。  (75 渡辺 健次・17 亀岡 圭太/4回) (共同) 授業における有効的な ICT 活用及び授業分析の ICT 活用及び授業研究の実際について、実践的側面を中心に指導を行う。	
	通教科的能力育成の授業開発と実践	新学習指導要領で重視されている通教科的な資質能力とは何かについて理解を深めるとともに、教科を徹底する資質能力を育成するための授業開発を行う。グループによる協働の学習によって模擬授業の演習を行い、通教科的能力を育成する授業を開発する。授業では、国語、社会、理科、英語、図工、音楽、家庭等の教科によって共通に育成される通教科的能力と、教科ごとに育成される能力とを比較検討することで、通教科的能力を育成するための基礎的理論を学ぶ。さらに、基礎的理論に基づいて授業開発を行い、通教科的能力を育成するための教材研究、授業実践、評価方法等の基礎的スキルを身につける。	共同
	道徳・人間関係教育領域の開発実践	道徳・人間関係教育領域の基礎理論を学び、道徳的価値判断や善悪判断をすることができるよう幼児児童生徒に指導するための、教師としての判断力や指導力を育成する。幼稚園、小学校、中学校、高等学校への系統的指導の観点から、小中学校における「特別の教科 道徳」での授業指導力をつけるとともに、児童生徒を発達的に理解する力を育成する。さらに、道徳・人間関係教育領域に関する実践事例を学び、幼児期からの発達段階を見通した道徳・人間関係教育領域の教育を開発する模擬演習をグループで行い、学校種に応じた教育開発のための基礎的スキルを身につける。	共同
	幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践 (特別支援教育を含む)	(概要) 授業では、幼児理解・生徒指導・対人スキル指導(特別支援教育を含む)の国内外の動向をふまえ、理論および実践について理解を深める。また、幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の事例を調査し、省察的に検討する。さらに、幼児理解・生徒指導・対人スキル指導についてグループによる協働の学び合いを行い、グループによる構想・吟味・検討、グループによる改善案の作成を経て幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の演習を行う。演習の後は振り返りを行う。  (オムニバス方式/全15回)  (13 高橋 均・17 亀岡 圭太/13回) (共同) 幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践について、主として理論的側面から及び幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践について、主として実践的側面から指導を行う。  (77 若松 昭彦・17 亀岡 圭太/2回) (共同) 幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践について、主として理論的側面から及び幼児理解・生徒指導・対人スキル指導の理論と実践について、主として実践的側面から指導を行うとともに、特別支援教育の理論と実践について、理論的・実践的側面から指導を行う。	オムニバス方式・共同(一部)
	生徒指導・教育相談	教育相談・カウンセリングの技法と教育相談の現場が抱える今日的課題について、基礎的な知識を習得した上で、新たな教育相談・カウンセリング体制の実践的プランニングを行うことを目的とする。授業では、ロールプレイを交えながら教育相談・カウンセリングの技法の基礎を体得すると同時に、相談事例の検討を行う。また、学校現場におけるデータから教育相談が抱える実践的課題を把握し、今後のあり方を考察する。授業の目標は、教育相談の基礎知識を習得すると同時に、現代社会における子どもたちが陥りがちな不応問題に対する理解を深め、問題の改善に必要な対応ができるようになること、また、不応問題を抱えた子どもやその保護者の悩みを共感的に受けとめ、適応の改善を援助していくために必要なカウンセリングの知識と技法を体得することである。これらを通して、学校現場で教育相談をより効果的に実践するための知識と技術をしっかりと身につける。	共同
	学級経営の理論と実践	まず学級経営について理論書をもとに各自がまとめ、プレゼンテーションをしたりディスカッションしたりする中で、学級経営に関する基本的な捉え方を修得する。そのうえで、学級経営に関する具体的事例を検討し、学級経営上の課題とそ	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	学校経営・学級経営	の背景について、教育の今日的課題の視点から検討する。また学級経営に必要なインクルーシブ教育の推進や「チーム学校」の趣旨及び保護者・地域との連携や学校経営への参画等の視点について学修し、それらを踏まえた新たな学級経営案を創造し、実践する力量を身につける。		
	学校経営の理論と実践 (地域とともにある学校を含む)	学校経営(マネジメント)は、人・物・金・時間等の資源を生かしながら協働を通して学校のミッション・ビジョンを実現していく営みである。本授業では、①「探究・創造・協働の学び」を追求する学校づくりに必要となる組織マネジメントの基本的視点(目標管理、ミッション、アウトカム、知識創造経営、組織学習、等)を教授する、②学校の成熟、「地域とともにある学校」等のテーマに関する事例を取り上げ検討する。それらを通して、学校の教育活動全体を俯瞰し、新しい学校づくりを担うマネジメントの力量を育成する。	共同	
	現代教師教育の理論と実践	公の性質を有し体系的な教育が組織的に行われなければならない学校にあって、絶えず研修と修養に励みその職責を遂行する教員の専門的力量形成に資するため、教師教育施策の展開を踏まえて、わが国の教師教育の理論と実践についての知見の獲得を目的とする。そのため、諸外国の教師教育の理論と実践を参考にして、わが国の学校・学校教育をめぐる今日的課題に応える教師教育の考え方を検討し、その知見を活用して教育行政の職能成長体系モデル・力量形成プログラム、所属校の校内研修プログラムなどを考察する。	共同	
	現代の教育改革	現代の教育改革の動向について理解する。教育課題を現実的に把握するために、広島県の「学びの変革」アクションプランや広島市の言語・数理運用科、平和教育など、特徴的な教育改革の動向を取り上げ、協働の学びを通して理解を深める。教育委員会等の行政機関や特別支援学校、児童相談所等、現代の教育改革に関連する施設見学等を行い、教育課題についての実践的理解を深めるとともに、施設見学に関わって事前学習や事後学習を行い、グループでの協議を通して、現代の教育改革についての実践的な理解を深める。	共同	
	地域教育経営の理論と実践	生涯学習社会における学校の役割を理解して、教員が「地域とともにある学校づくり」の担い手としての役割遂行や力量形成に資するため、今日の生涯学習社会・知識基盤社会における学校教育を展望して、地域教育経営の理論と実践についての知見の獲得を目的とする。そのため、生涯学習・社会教育の理論的基盤や学社連携・学社融合の実践事例を検討するとともに、学校・地域の協働の視点から、生涯学習施設を訪問するとともに、勤務校を事例として、地域社会における人的教育資源・物的教育資源や機能のネットワークの形成について演習する。	共同	
	学校マネジメントコース 選択科目	教育行政の理論と実践	本授業では、教育行政の基礎的理論に依拠しつつ、学校現場で生起する様々な問題を構造的に把握・分析する力量を育成すると同時に、問題の理解にとどまらずその解決・改善に向けた実践的力量の育成をめざす。教育行政を巡る今日的な諸問題とその解決に向けての取り組みを具体的に取り上げながら、個別の事例を素材にして検討する。そのため、授業の形態も一方的な講義形式を少なくし、グループごとの協議や協同作業を積極的に取り入れる。	
	学校の危機管理	学校の危機的な事態の具体的な事例の分析等を通して、学校危機への事前予防、事後対応の両面について組織的にかつ関係機関等との連携のもとでいかに対応すべきか、その実践的な課題解決策の習得を図ることをねらいとする。期待される学習効果(到達目標)は、学校危機に関する全般的な知識と現実的課題への理解を深めることにより、多様な危機管理に対応できる実践的指導力が身につくことであり、安全管理の意義、コンプライアンス、メディア対応、不審者対応、防災等今日的なテーマを扱う。		
	教職員の人材育成	本授業では、組織マネジメントと生涯学習(いつでも:教職キャリア、どこでも:力量形成の機会)の視点を軸にしながら、スクールリーダーとして必須の人材育成の力量の内実を検討するとともに、その体得を目指す。人事管理システムや研修システム、キャリア開発、教員評価制度(目標管理と勤務評定)、OJT(On-the-Job-Training)とOff-JT(Off-the-Job-Training)について協議・演習等を行うことを通して、「人が育つ・人を育てるとはどういうことか」に関する自らの考え方を築く。	共同	
	学校の経営戦略と評価	本授業では、学校ビジョンの形成と実現および学校評価の実践的力量の育成を目指す。そのために、①学校組織マネジメントの基本を踏まえて、学校評価の理論(システム、評価手法、組織論)を教授する。②先進的事例を取り上げ、学校ビジョン(学校教育目標や学校経営目標)やグラウンドデザインや学校評価の構成と機能、さらに教員評価等との連動について分析し、それらに内在する意義と諸	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		課題を検討する。③所属校のグランドデザインや経営計画や学校評価表を事例として改善案を提案する。	
	学校マネジメントコース選択科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践 教育課程とカリキュラムの概念的定義を明確にした上で、その歴史的展開と国内外における情勢を把握し、教育課程編成原理やカリキュラム構成論について理解を深める。その上で、カリキュラム・マネジメントが求められる背景とその課題を明確にし、学校カリキュラムをマネジメントする実践感覚を事例検討を通じて身につける。事例検討として学校種・教科種を越えた学校教育実践を取りあげ、グループでの分析やディスカッションを通じて、カリキュラムを軸とした学校マネジメントのあり方およびマネジメントを軸とした学校カリキュラムのあり方を構想できる理論的知見と実践的視座を得ることをねらいとする。	
		教育法規の実践演習 学校を管理運営しようとするれば遵守すべき法令を知る必要がある。本授業ではスクールリーダー（学校管理職候補や指導主事等の教育行政職）としての職務を遂行していくうえで直面する諸問題に適切に対処するために必要な法的思考力を身につけることを目標とする。そのため、講義により理解を深めるだけでなく、教育法規の全体構造を把握したうえで、具体的な問題をとおして事例に即した実務演習を行い、現代の教育課題に応じることのできる実践的な力量形成を目指す。年間を通して実務演習を行う。	共同
		学校経営・行政フィールド調査 本授業では、県内および県外の先進的・特徴的な教育実践校や教育行政機関等のフィールドを訪問調査することによって、特色ある教育施策や魅力ある学校づくりを推進するための教育経営的・行政的知見を学ぶとともに、当該校・機関を総合的な視点で構造的に理解する力を養う。①事前の文献・資料調査、②実地調査、③報告書の作成・発表の各段階を、ディスカッションを積み重ねることを通じて授業を展開する。学校マネジメントコースの専任教員全員で指導を行う。	共同
		発達支援と幼児児童生徒理解 授業では、幼児期からの連続的視点による発達支援および幼児児童生徒理解に関する国内外の動向や理論について理解を深める。また幼稚園における対人スキル指導、学校における生徒指導・対人スキルトレーニングの事例を収集し、課題を理解する。さらに、グループによる協働の学び合いを行い、グループによる構想・吟味・検討、改善案の作成を経て、幼稚園における対人スキル指導、学校における生徒指導・対人スキルトレーニングの実践を含めた発達支援の演習を行う。演習の後は振り返りを行う。	共同
		教育実践研究の技法（校内研修を含む） 学び続ける教師に必要なものとして、近年注目されているアクションリサーチの方法を修得する。教育実習や勤務校での実践経験などをもとに、具体的な課題を取りあげ、それを解決するための仮説を設定し、実践し、効果の検証を行うという、一連の方法を修得する。特に、研究計画の立て方や仮説の立て方、効果の検証方法（量的および質的な分析）などについては、優れた教員のアクションリサーチ実践例などを参考にしながら、より具体的に検討する。 また、協力が得られる小・中・高等学校の校内研修会や公開研究会などに参加し、教育実践研究の具体を通して、その方法を修得する。	共同
		学校における教育相談 教育相談・カウンセリングの技法と教育相談の現場が抱える今日的課題について新たな教育相談・カウンセリング体制の実践的プランニングを行うことを目的とする。授業では、ロールプレイを交えながら教育相談・カウンセリングの技法の基礎を体得すると同時に、相談事例の検討を行う。これらに基づいて、教育相談の実践演習を行い、実践力を育成する。授業の目標は、教育相談の基礎知識を習得すると同時に、現代社会における子どもたちが陥りがちな不適応問題に対する理解を深め、問題の改善に必要な対応ができるようになること、また、不適応問題を抱えた子どもやその保護者の悩みを共感的に受けとめ、適応の改善を援助していくために必要なカウンセリングの知識と技法を体得することである。これらを通して、学校現場で教育相談をより効果的に実践するための知識と技術をしっかり身につける。	共同
		異校種連携接続の実践開発 児童生徒の学習指導上の課題の解決を図るために、異校種が連携して、児童生徒の実態を踏まえながら、また指導内容の系統性に基づき、一貫性のある教育を推進・展開していくための資質・能力を形成する。そのために、異校種間の連携接続に関する先行事例・先行研究を考察するとともに、現状の児童生徒の学習課題の解決を図るための具体的なカリキュラム開発（異校種の連携接続を図る教材及び評価問題の開発・検討、学習指導方法の開発・検討）を行う。	共同
		教科横断的授業デザイン 情報教育や環境教育、キャリア教育、食育など、既存の教科の枠組みだけでは	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育実践開発コース選択科目	と授業分析	捉えられない教育課題に応える授業デザイン力・授業分析力を育てるために、焦眉の課題や地域の実態把握、子ども理解、授業デザイン・授業分析の要件などについて検討する。また、3～4名の学修者グループごとに教科横断的授業を構想し、模擬授業を行う。その後の協議会では、授業分析のためのルーブリックをもとに学習成果を検討し、授業改善の視点を導出する。教科の枠を超えて授業をデザインし、実行し、評価し、改善しうるために必要な資質・能力を形成・獲得する。また、授業デザインに生かされる授業分析の課題や方法などについて理解を深めるとともにその力量を形成する	
	教員のキャリア形成支援の理論と実践	教員のキャリア形成は、教員自身の個の成長のみならず、個々の教員の能力開発につながるため教育の質の向上にもかかわる重要な側面である。授業では、まずキャリア形成の理論を紹介する。その中には、個人のキャリア発達にかかわる理論のみではなく、メンタリングやコーチングといった他者のキャリア発達の支援にかかわる理論も含まれる。これらを踏まえて実際の教員のキャリア形成にかかわる知識・技能を、グループワーク等を通して習得し、自身のキャリア形成の力を育成すると同時に、若手教員への指導力を育成する。	
	ユニバーサルマインドの授業開発	授業では、多様なニーズを持つ幼児児童生徒に対し豊かな学びを実現するために、ユニバーサルマインドの教育理論について学ぶ。また、ユニバーサルマインドの授業を開発するために、どの教科においても通用するものの見方・考え方、授業技法、学級経営の仕方、保護者対応の方法など具体的な実践方法について学ぶ。さらに、グループによる協働の学び合いを通して、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等、様々な学校種におけるユニバーサルマインドの授業開発について、模擬授業を含めた演習を行う。	共同
	グローバルマインドの授業開発	授業では、海外経験のある幼児児童生徒、外国にルーツを持つ幼児児童生徒など、多様な文化的背景を持つ幼児児童生徒に対し、豊かな学びを実現するためにグローバルマインドの教育理論を学ぶ。またグローバルマインドの授業を開発するために、英語教育のみならずどの教科でも通用するものの見方・考え方、具体的な授業方法、教材開発の理論について理解を深める。さらに、グループによる協働の学び合いを通して、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等、様々な学校種におけるグローバルマインドの授業開発について、模擬授業を含めた演習を行う。	共同
	先進的授業研究の理論と実践	附属学校を中心として、研究開発校やスーパー・サイエンス・ハイスクール、スーパー・グローバル・ハイスクール等、先進的な授業開発を行う学校を訪問見学し、授業開発について学ぶとともに、そのような開発を行うための学校経営や校内研修のあり方について理解を深める。さらに、附属学校の教師と連携して、幼稚園、小学校、中学校等の系統的な視点に基づく授業開発や、ユネスコスクール、ピースプロジェクトなど、先進的な授業研究の実践について学び、授業研究力を高める。附属学校における授業観察、校内研修、公開研究会等への参加も行う。	共同
	授業開発と評価（基礎）	幼・小・中・高等学校における授業開発に向け、各教科の授業分析、授業構成、学習評価、学習材開発などの観点から学習素材や授業展開などについて具体的に検討し、模擬授業を行い、授業の実践力を身につける。授業では、学習材・学習指導の現状について理論的側面、実践的側面から理解する。次に、学習材・学習指導法に基づいた授業づくりを、学習規律、実態把握、教材研究、授業の分析・評価、学習指導案の作成、発問、板書、机間指導の各側面を考慮しながら行う。その後模擬授業を行い、評価・改善する。	共同
	授業開発と評価（応用）	幼・小・中・高等学校における授業開発に向け、各教科の授業分析、授業構成、学習評価、学習材開発などの観点から単元構成や単元内での授業展開などについて、特に学習評価法を中心に具体的に検討し、模擬授業を行い、授業の実践力を身につける。授業では、学習評価の現状について理論的側面、実践的側面から理解する。次に、学習評価法に基づいた授業づくりを、学習規律、実態把握、教材研究、授業の分析・評価、学習指導案の作成、発問、板書、机間指導の各側面を考慮しながら行う。その後模擬授業を行い、評価・改善する。	共同
	授業開発と評価（発展）	幼・小・中・高等学校の授業映像を用いて授業分析を行い、各教科の学習指導案の作成、教材の選定・解釈、指導の方法、評価の方法などを検討し、新たな授業内容を開発する技法を学ぶ。授業では、授業分析の現状について理論的側面、実践的側面から理解する。次に、授業分析に基づいた授業づくりを、学習規律、実態把握、教材研究、授業の分析・評価、学習指導案の作成、発問、板書、机間指導の各側面を考慮しながら行う。その後開発した授業内容による模擬授業を行	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専攻 必修 科目		い、その効果や課題を検討する。	
	教育実践開発コース 選択科目	授業開発と評価（開発） 幼・小・中・高等学校の授業映像を用いて授業分析を行い、各教科の学習指導案の作成、教材の選定・解釈、指導の方法、評価の方法などを検討し、新たな授業内容を開発する基礎的技能を身につける。授業では、授業分析の現状について理論的側面、実践的側面から理解する。次に、授業分析に基づいた授業づくりを、学習規律、実態把握、教材研究、授業の分析・評価、学習指導案の作成、発問、板書、机間指導の各側面を考慮しながら行う。また、協力が得られる小・中・高等学校の校内研修会や公開研究会などに参加し、授業開発の具体を通して、その方法を実践的に学ぶ。その後開発した授業内容による模擬授業を行い、その効果や課題を検討する。	共同
		海外教育実地研究 海外において、教育関係機関の見学、聞き取り調査、及び小・中学校における授業実践研究を行い、学校運営、教科指導、生徒指導等について高度な実践的指導力を育成するとともに、グローバル教育推進に必要な資質・能力を育成する。授業は、①事前研究（授業テーマの検討、和文・英文指導案の作成・検討、模擬授業による検討等）、②教育実地研究（海外の教育関係機関の見学、調査、授業実施・反省）、③事後研究（授業実践のデータの整理と考察、発表会、教材集の作成等）によって構成する。	共同
		学校インターンシップ 学校インターンシップは、連携協力校・附属学校園の小・中・高等学校に1年を通して参画する。具体的には、特別活動への参画として、次のような行事がある。学級活動では、学級開き、授業参観、学級懇談会などである。また、学校行事では、儀式的行事としての始業式や終業式、文化的行事としての文化祭や合唱祭、健康安全・体育的行事としての運動会・体育祭、さらに遠足・集団宿泊的行事やボランティア活動などである。これらの教育実践の具体を通して、教員としての所作、地域・保護者との連携等についてその方法を修得する。	共同
		アクションリサーチ・セミナーⅠ 「アクションリサーチ・セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、院生が理論・コンセプトに照らして自らの実践を省察し、さらには自らの理論を（再）構築する。2年間を通してテーマ設定→計画→実践→評価・改善と展開する。「アクションリサーチ・セミナーⅠ」はテーマ設定の段階である。自らのこれまでの教職経験、先行研究のレビュー等を照らし合わせて省察し、自らの学校づくり・学校改善、授業づくり・授業改善に関するテーマを設定する。文献収集の方法、レジュメの作成の仕方、発表の仕方など、知の技法も習得する。	共同
		アクションリサーチ・セミナーⅡ 「アクションリサーチ・セミナーⅡ」は計画の段階である。理論・コンセプトに照らして「アクションリサーチ実地研究」での経験を省察し、「アクションリサーチ・セミナーⅠ」で決定した自らのテーマに関する先行研究のレビュー等を通して、自らの理論（仮説）を明示したアクションリサーチの計画を立案する。その後、アクションリサーチの計画を踏まえ、所属校、連携協力校、附属校の管理職、教職員の理解・協力を得ながら、次年度に向けての具体的な学校改善計画（アクションプラン：Vision-Plan）、授業実践研究計画の作成準備をする。	共同
		アクションリサーチ・セミナーⅢ 「アクションリサーチ・セミナーⅢ」は実践の段階である。院生は所属校、連携協力校、附属校等で学校改善計画（アクションプラン）や授業実践研究計画のもとに協働を生み出しながら実践し、ポートフォリオを蓄積する。所属校、連携協力校、附属校等での学校づくり・学校改善、授業づくり・授業改善の実践を行い、セミナーで、その実践について指導教員・実務家教員と協議しながら省察を行う。現職教員学生は週1回大学に来て、指導教員・スーパーバイザーから指導を受ける。	共同
		アクションリサーチ・セミナーⅣ 「アクションリサーチ・セミナーⅣ」は総括的な評価・改善の段階である。院生は、最終的に、これまでの学校づくり・学校改善、授業づくり・授業改善のためのRV-PDCAのプロセス、「アクションリサーチ実地研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」によって得られた知見、スクールリーダーとしての自己の成長の軌跡、学び続ける教員としての自己の成長の軌跡を「課題研究報告書」としてまとめ、成果発表会を開催し、成果を広く公表する。現職教員学生は週1回大学に来て、指導教員・スーパーバイザーから指導を受ける。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専攻科目	学校における実習科目 / 学校マネジメントコース	アクションリサーチ実地研究Ⅰ (教育行政職実務)	教育委員会において、10日間の教育行政の実務を経験させ、教育行政の実際を学ぶことによって、企画力・調整力や先見性等の実務能力の育成を図る。また、教育行政職の姿勢に学び、その仕事を知ることにより、視野を学び視座を上げ、スクールリーダーとしての使命感を高める。本実地研究は、①大学における事前指導、②現場における実務、③大学における事後指導から成る。事後指導では、レポートと「今後の職能成長の自己プラン」を作成・発表し協議を行う。	共同
		アクションリサーチ実地研究Ⅱ (学校管理職実務)	所属校または連携協力校において、10日間の学校経営の実務を経験させることによって、学校管理職としての効果的な実務能力の育成を図る。また、校長をメンターとして密着研修を行うことにより、学校管理職の仕事を知るとともにベテラン校長の視野を学び視座を上げ、スクールリーダーとしての使命感を高める。本実地研究は、①大学における事前指導、②現場における実務、③大学における事後指導から成る。事後指導では、レポートと「今後の職能成長の自己プラン」を作成・発表し協議を行う。	共同
		アクションリサーチ実地研究Ⅲ (所属校実践)	院生は所属校において、「セミナーⅡ」で作成したアクションプランをもとに、学校づくりを追求するために、Research(現状把握)・Vision(ビジョン)→Plan(計画)→Do(実践)→Check(評価)→Action(改善)サイクルを展開し、ポートフォリオを蓄積する。それを通して、探究・創造・協働を促進するリーダーシップ能力の育成を図る。大学教員は所属校の管理職と連携・協力して、実践(研究)の進捗状況を所属校において定期的に確認するとともに、個々の学校の状況を勘案して助言・支援を行う。	共同
		アクションリサーチ実地研究Ⅳ (所属校実践)	院生は所属校において学校づくりを追求するために、Research(現状把握)・Vision(ビジョン)→Plan(計画)→Do(実践)→Check(評価)→Action(改善)サイクルを展開し、ポートフォリオを蓄積する。それを通して、探究・創造・協働を促進するリーダーシップ能力の育成を図る。大学教員は所属校の管理職と連携・協力して、実践(研究)の進捗状況を所属校において定期的に確認するとともに、個々の学校の状況を勘案して助言・支援を行う。そして院生のスクールリーダーとしての成長を確認する。	共同
学校における実習科目 / 教育実践開発コース	アクションリサーチ実地研究Ⅰ	附属校、連携協力校における合計10日以上の実習を通して、高度な教育実践力と教育実践研究力の基礎を培うとともに、学校現場の理解や課題の発見に基づく授業実践研究テーマの確立を主な目的とする。 学部卒院生は、学部段階における教育実習を通じて得た学校教育活動に関する基礎的な理解のうえに、一定期間にわたり、教科指導・生徒指導・学級経営をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験することを通して、理論と実践の融合の意味と意義を実感し、理論知を実践知に変換する資質と能力を獲得する。 現職教員院生は、教科指導・生徒指導・学級経営等に関して自ら企画・立案した解決策を、実験的に体験・経験することによって、学校における課題に主体的に取り組むことのできる実践者としての資質能力を高める。	共同	
	アクションリサーチ実地研究Ⅱ	附属校、連携協力校における合計10日以上の実習を通して、高度な教育実践力と教育実践研究力の基礎を培うとともに、探究すべき授業実践研究テーマに基づく研究計画の立案を主な目的とする。 学部卒院生は、学部段階における教育実習を通じて得た学校教育活動に関する基礎的な理解のうえに、一定期間にわたり、教科指導・生徒指導・学級経営をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験することを通して、理論と実践の融合の意味と意義を実感し、理論知を実践知に変換する資質と能力を獲得する。 現職教員院生は、教科指導・生徒指導・学級経営等に関して自ら企画・立案した解決策を実験的に体験・経験することによって、学校における課題に主体的に取り組むことのできる実践者としての資質能力を高める。	共同	
	アクションリサーチ実地研究Ⅲ	所属校または連携協力校、附属校における合計15日以上の実習を通して、自らが企画・立案した研究計画を実践・検証することで、教育課題に主体的に取り組むことのできる実践者としての高度な教育実践力と教育実践研究力を高めるとともに、自らの授業実践研究テーマに基づく教育研究の実施によって成果を検証することを主な目的とする。 学部卒院生は、長期間にわたり、教科指導・生徒指導・学級経営等の課題や問題に関し自ら企画・立案した解決策を、実験的に体験・経験することによって、学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を高めることを目的とする。	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学校 にお ける 実 習 科 目 / 教 育 実 践 開 発 コ ー ス		<p>現職教員院生は、課題解決のための実践研究を、長期間にわたり原則として所属校、または連携協力校、附属校において行うことにより、教育課題を解決する実践力を育成することを目的とする。</p>	
	アクションリサーチ実地研究Ⅳ	<p>所属校または連携協力校、附属校における合計 15 日以上の課題解決実践を通して、自らが企画・立案した研究計画を実践・検証することで、教育課題に主体的に取り組むことのできる実践者としての高度な教育実践力と教育実践研究力を高めるとともに、総括的な授業実践研究の実施によってこれまでの研究成果を総合的に検証することを主な目的とする。</p> <p>学部卒院生は、長期間にわたり、教科指導・生徒指導・学級経営等の課題や問題に関し自ら企画・立案した解決策を、実験的に体験・経験することによって、学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を高めることを目的とする。</p> <p>現職教員院生は、課題解決のための実践研究を、長期間にわたり原則として所属校において行うことにより、教育課題を解決する実践力を育成することを目的とする。</p>	共同

## 授 業 科 目 の 概 要

(人間社会科学部研究科実務法学専攻 専門職学位課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続 可能 な 発 展 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(20 川野 徳幸/2回) 被爆地「Hiroshima」における原爆・被爆被害の概要</p> <p>(59 小宮山 道夫/2回) 原爆と広島大学の関わり、広島の歴史、広島に課された役割</p> <p>(18 河合 幸一郎/1回) 途上国における貧困と飢餓、食糧生産の現状と課題</p> <p>(19 中坪 孝之/1回) 地球温暖化、環境破壊、天然資源の枯渇等の現状と解決のための方策</p> <p>(58 山根 達郎/2回) 現代における地域紛争の特徴、紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式
	Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of social development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 JICA chugoku center lesson3 Yuichiro Yoshida "Japanese policy experience: Success and Failures" lesson4 Masaru Ichihashi "Industrial Policy and Economic growth" lesson5 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"1 lesson6 Junyi Zhang "History of environmental policies in Japan"2 lesson7 Osamu Yoshida "Japanese ODA and its Asia Policy" lesson8 Mari Katayanagi "Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective"</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	<p>に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGsは包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初のOECD加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では社会の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(25 金子 慎治/1回) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(100 三角 幸子/1回) JICAの活動、役割</p> <p>(21 吉田 雄一郎/1回) 日本の政策経験</p> <p>(26 市橋 勝/1回) 産業政策と経済成長</p> <p>(22 張 峻屹/2回) 日本の環境政策の歴史</p> <p>(23 吉田 修/1回) 日本のODAとアジア政策</p> <p>(24 片柳 真理/1回) 平和構築から見た広島復興</p>	
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	<p>(英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the Guiding principles of Hiroshima University "Pursuit of Peace" and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues. Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and hisotorical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these.</p> <p>When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall "Japanese experience of development in Agriculture and Remote area" lesson3 Koki Seki "Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living" lesson4 Kinya Shimizu "A History of Education in Japan" lesson5 Kinya Shimizu "Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education"</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目	持続可能な発展科目	<p>lesson6 Junko Tanaka "International cooperation and research collaboration in the field of public health"</p> <p>lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history"</p> <p>lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、「自由で平和な一つの大学」という建学の精神と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。</p> <p>これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まえれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(32 馬場 卓也/2回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ</p> <p>(30 MAHARJAN, KESHAV LALL/1回) 農業開発における日本の経験</p> <p>(31 関 恒樹/1回) 日本の現代化における社会文化的側面</p> <p>(27 清水 欽也/2回) 日本における教育開発</p> <p>(28 田中 純子/1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究</p> <p>(29 森山 美知子/1回) 日本のヘルスケアシステム</p>	
	SDGs への学問的アプローチ A	<p>(概要) 国際目標 SDGs と広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017 の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGs は持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本 SDGs への学問的アプローチ A では、人権を中心に取り組む。B と合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内 SDGs 目標番号)</p> <p>(32 馬場 卓也/2回) 1. コースの概要、SDGs と貧困問題 (1, 17) : SDGs の設置経緯について説明し、17 の目標の中で、貧困は様々な問題の根底に位置することについて説明、議論する。 8. 総括討議</p> <p>(33 実岡 寛文/1回) 2. 持続可能な消費と飢餓 (2, 12) : 地球規模で食料の持続可能性を考える</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>時、先進国と途上国のインバランスが問題となる。持続可能な生産消費形態、栄養改善などについて議論する。</p> <p>(28 田中 純子/1回) 3. 公衆衛生と社会医学 (3, 6) : 安全な水の供給と確保は人が健康に生きていくための不可欠の開発課題であることから、疾病対策を含む健康維持のための社会医学的、公衆衛生学的側面からの持続可能な管理と問題について講義する。</p> <p>(29 森山 美知子・60 RAHMAN MD MOSHIUR/1回) (共同) 4. 健康と福祉 (3) : プライマリ・ヘルスケア、リプロダクティブ・ヘルス、非感染性疾患と高齢化などグローバルな健康問題について講義する。</p> <p>(35 永田 良太/1回) 5. 教育と社会 (4) : 情報化による急激な変化が進む中で、先進国と途上国の境目がなくなりつつある。今後の教育に求められる役割と課題について議論する。</p> <p>(34 石田 洋子/1回) 6. ジェンダー問題と平等な社会 (5, 10) /ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた課題、国家間及び各国内の不平等削減に係る課題、そしてこれら2つの課題解決が他のSDGsゴール達成に深く関わることについて議論する。</p> <p>(101 隈元 美穂子/1回) 7. 国際機関の取り組み (17) : SDGsを推進している立場から、その取り組みの課題と進捗状況について議論する。</p>	
	SDGs への学問的アプローチ B	<p>国際目標SDGsと広島大学長期ビジョン Splendor Plan2017の理念を受けて、学部教養科目などとともに広島型教養教育の一環として、大学院博士課程前期共通プログラムを創設する。SDGsは持続可能性を核に据えた私たちの時代・社会の課題である。しかしこの課題は単独での問題解決に止まらず、分野間の連続性や時間的連続性が重要である。さらに、その解決には、援助国、被援助国のみならず、地方自治体、民間企業、市民社会が協働して取り組む新しい社会の在り方が求められている。本SDGsへの学問的アプローチBでは、環境、社会、ガバナンスを中心に取り組む。Aと合わせて受講することが推奨される。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (括弧内SDGs目標番号)</p> <p>(24 片柳 真理/2回) 1. コース概要、平和な社会 (16) : SDGsの設立経緯について説明し、それら目標の最終ゴールとして、平和な社会の実現について議論をする。 8. 総括討議</p> <p>(63 長谷川 祐治/1回) 2. 気候変動と防災 (13) : 気候変動の兆候がますます顕著になりつつあり、その影響を軽減するための防災、緊急対策について議論する。</p> <p>(62 日比野 忠史/1回) 3. エネルギーと持続可能な都市 (7, 11) : 安価かつ信頼できる持続可能なエネルギーへのアクセスを確保し、包摂的、強靱(レジリエント)で持続可能な環境の実現について議論する。</p> <p>(61 佐野 浩一郎/1回) 4. 経済成長と雇用 (8) : すべての人々の雇用と働きがいのある労働環境の実現と、持続可能な経済成長の可能性と課題について議論する。</p> <p>(37 河合 研至/1回) 5. インフラと産業 (9) : 包摂的で強靱(レジリエント)なインフラ構築、持続可能な産業化及びイノベーションの可能性と課題について議論する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		<p>(36 小池 一彦/1回) 6. 陸上資源 生物資源学(14, 15): 農業・畜産・水産業における生物資源の利用と生態系保全とのジレンマについて講義する。</p> <p>(102 川本 亮之/1回) 7. 地域社会の取り組み (地方自治体) (17, 11): 広島県内の地方自治体での種々の取り組みを、SDGsの観点から議論する。</p>	
	SDGs への実践的アプローチ	<p>SDGsは、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現、女性の社会進出の促進、再生可能エネルギーの利用、経済成長と生産的で働きがいのある雇用の確保、強靱(きょうじん)なインフラ構築と持続可能な産業化・技術革新の促進、不平等の是正、気候変動への対策等の17の目標と各目標を達成するための169のターゲットからなる。これらを実現するために、最も影響力があるのは小中高等学校における教育である。授業では、次世代を生きる子どもたちに地球規模での課題をどのように教え、行動力を育成しているかについて実践的にアプローチする。具体的には、SDGsの理念、基本的な考え方を学ぶとともに、ユネスコスクールに認定されている学校への訪問・見学等を行う。社会人を優先する。</p>	共同
	ダイバーシティの理解	<p>SDGsの達成を目指す社会において、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値を理解し、それを実現するスキルを習得することは、いかなる専門性を有する人材にとっても重要である。この授業では、ダイバーシティのリスクとメリットを理論的・実践的に理解し、インクルージョン実現のためのシステム構築について考える力を習得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(39 坂田 桐子・66 櫻井 里穂 /2回)(共同) 1. ダイバーシティに関する理論: 特に組織におけるダイバーシティのリスクとメリットについて、理論的背景及び組織における現状について理解することを目的とする。</p> <p>(79 北梶 陽子/5回) 2. ゲーム演習: 多様な人々で構成される集団や社会において、異なる他者の視点を取得し、問題を解決するプロセスを体験できるシミュレーションゲームを行う。</p> <p>(40 大池 真知子・79 北梶 陽子/1回)(共同) 3. ディスカッション: 理論とゲーム演習の体験に基づき、ダイバーシティ&amp;インクルージョンの価値と実現方法について議論する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
データリテラシー	<p>(概要) ICTの普及とともに様々な分野で膨大なデータが蓄積され、これを活用した新しいビジネスも展開されるようになり、データ解析の技能や統計学の知識をもった人材が社会から必要とされている。本講義では、社会的背景、データを取り扱う手法として機械学習、統計学といったデータ科学の考え方について紹介し、いくつかの具体例を通してデータの取り扱い等に関して注意すべき点を解説する。また、セキュリティ、個人情報の保護といった問題についても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(67 宮尾 淳一/4回) ビッグデータと呼ばれる膨大なデータの活用に関する現状を理解することを目的とする。具体的には、ビッグデータの機械学習への利用例と最新の成果を示し、その可能性を理解すると共に、AIへの応用なども解説する。また、ディープラーニングによる実行例なども提示する。さらに、ビッグデータの取り扱いに関する問題点や注意点についても触れる。</p> <p>(41 柳原 宏和/4回) 本格的な統計解析手法を学ぶ前の取り掛かりとして、記述統計を学ぶことを目</p>	オムニバス方式	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		的とする。具体的には統計ソフト R を用いて、データの取り込み、抽出、結合、ヒストグラムやボックスプロット、散布図などによるデータの視覚化、平均や分散などの基本統計量の計算を行う。さらに、単回帰分析を用いた変数間の関連を明らかにする手法も紹介する。	
	医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本講義では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(82 小笹 晃太郎/1回) 原爆被爆者コホートデータの概要と大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(42 工藤 美樹/1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(68 森野 豊之/1回) 医学分野における疫学研究の倫理的側面からみた情報の取り扱いと解析方法</p> <p>(44 粟井 和夫・43 有廣 光司/1回) (共同) 医学医療分野における画像データの種類や倫理的課題、情報の有用性と社会における活用</p> <p>(83 田中 剛/1回) 広島県独自の HMnet (ひろしま医療情報ネットワーク Hiroshima Medical Network) を利用した医療情報共有の仕組みと活用</p> <p>(28 田中 純子/1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、倫理、疫学研究への活用</p> <p>(69 大上 直秀/1回) がんゲノム情報の概要、理的課題、応用と活用</p> <p>(45 久保 達彦/1回) 臨床治験の大規模化に伴う課題、功罪、応用と活用と演習</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	この授業の目標は次の2点である。1. キャリア理論を学習することで、大学院での自分の研究とキャリア (生き方) を、どう関連付けるかを考える契機とする。2. 大学院から社会へのトランジションについて意識し、課題発見解決力やコミュニケーション力等、充実して生きていくために必要な力を養成することを目指す。これらの目的を達成するため、授業では次の3点に取り組む、1. 自己理解。2. 社会の現状を知る。3. グループワークや自主活動を行う。じっくり考える事と行動の両立によって、社会で通用する力を身につける。	
理工系キャリアマネジメント	コミュニケーション力は、社会で活躍するうえで必要不可欠な能力である。本科目では主として対話・発話によるコミュニケーションについて解説する。対話・発話によるコミュニケーションにおいて非言語情報 (表情、視線、態度など) は重要な意味を持つため、本科目では非言語情報と言語情報の両面からコミュニケーションについて理解を深め、演習を通してスキルを向上させる。具体的な内容は、1) 対話によるコミュニケーションの基礎、2) プレゼンテーション、3) 高度なコミュニケーションスキルである傾聴、4) ファシリテーション、である。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目		授業の目標は次のとおりである。1. 対話コミュニケーションにとっては、言語情報だけでなく非言語的要素（視線、あいづち、うなずき等）が重要であることを理解する。2. 目的に応じた研究概要書の作成方法、研究内容のプレゼンテーション方法を修得する。3. 傾聴スキルの基本について理解する。4. ファシリテーションスキルについて理解し、グループでのディスカッション方法を修得する。	
	キャリア開発・データリテラシー科目	ストレスマネジメント 現代は、社会・経済環境の変化や家族関係の変化によってストレスが増大している。ストレスの多くは心理・社会的な要因によるものであり、対処が適切でないと、心身の健康や対人関係に影響を及ぼし、個人や組織の生産性を低下させることになる。したがって、社会で活躍し充実した人生を過ごすためには、ストレスを上手にコントロールすることが必要不可欠となる。 そこで、本講義では実践的なストレスマネジメントについて解説し、心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得するための演習を実施する。 講義の目標は、次のとおりである。1.心理・社会的ストレスと、その特徴について知り、ストレスマネジメントの本質的な考え方について理解する。2.心身相関的アプローチによるストレスマネジメントの技法を修得する。3.ネガティブな感情や思考に巻き込まれずに、「今、ここ」の自分を客観的に観察する方法について理解する。	
	情報セキュリティ	（概要）本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目標とする。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを体系的に学習するとともに、情報セキュリティ管理やインシデント対応などの実際について事例を交えて説明する。  （オムニバス方式／全15回）  （47 西村 浩二／5回） 情報セキュリティの基本概念および情報セキュリティ管理を実現するための体制構築や手法について、事例を交えて解説する。  （76 岩沢 和男／5回） 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアシステムを構成するための経営戦略やプロジェクトマネジメントについて解説する。  （80 渡邊 英伸／5回） 情報セキュリティを構成する基本技術および関連技術について、情報セキュリティ対策の実際を事例を交えて解説する。	オムニバス方式
	MOT 入門	本講義は MOT とベンチャービジネスの基本を系統的に学習することを目標とする。経営管理の本質を理解するために、多くの事例を用いて、経営管理の基本である効率をはじめ、損益分岐点分析、倫理、品質管理、在庫管理、モチベーション、リーダーシップ、ビジネスプランなどの中核的な問題を系統的かつ分かりやすく説明する。	
	アントレプレナーシップ 概論	イノベーションを起こすには、アントレプレナーシップが不可欠である。日本経済が長らく停滞してきた背景には、アントレプレナーシップが軽視されたことがあげられる。かつて、アントレプレナーシップは“起業家精神”と訳されていた。しかし、経営学の世界では、アントレプレナーシップを起業家的な思考と行動ととらえる。練習を通じて習得でき、決して神秘的なものではないことが研究で裏づけられている。本科目では、小説や映画などを教材に使い、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて学ぶ。科学者を目指さなくても、サイエンスの方法論を学ぶことに意義がある。キャリアとして起業家になることを考えていなくても、起業の方法論を知り、ある程度実践できることは、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとなりつつある。受講者が自分なりにアントレプレナーシップを理解し、自分の言葉で表現できることなどを到達目標とする。	
	人間社会科学特別講義	（概要）文学、史学、哲学、言語学、経済学、経営学、法学、政治学、社会学、心理学、教育学などの、人間や社会及びその活動の所産を研究対象とする諸分野の研究内容について、自然科学や生命科学を含む他分野との関連を踏まえて解説する。それぞれの分野に関する専門的知見を学び、人間社会科学研究科の各プロ	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科 共 通 科 目		<p>グラムにおける専門性の基礎を身に付けるとともに、幅広い分野を俯瞰的に理解することを旨とする。講義形式であるが、少人数による討論等も実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(48 森田 愛子/1回) ガイダンスとして、本講義の全体像を解説する。</p> <p>(49 本田 義央/1回) 多文化社会、比較文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(71 後藤 雄太/1回) 哲学、倫理学、思想文化などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(72 奈良 勝司/1回) 日本史学、東洋史学、西洋史学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(50 安嶋 紀昭/1回) 地理学、考古学、文化財学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(51 小林 英起子/1回) 日本語学、日本文学、中国語学、中国文学、英米文学語学などの分野の研究内容について、他の諸分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(73 大河内 治/1回) 経済学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(77 金 幸ウク/1回) 経営学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(52 宮永 文雄/1回) 法学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(53 永山 博之/1回) 政治学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(54 江頭 大蔵/1回) 社会学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(74 上手 由香/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(55 井上 永幸/1回) 心理学・行動科学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(56 山田 浩之/1回)</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
		<p>教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p> <p>(75 中矢 礼美/1回)</p> <p>教育学に関する分野を中心として、研究内容について、他の分野との関連を踏まえて解説する。</p>		
プログラム 専門科目	法律 基本 科目 群	民法1 A	<p>民法典全体（物権、債権、親族、相続）に共通する一般的な規定が置かれる「総則」部分の諸制度とその解釈・運用について、初学者を対象に講義する。主たる内容は、(1) 権利の主体と客体、(2) 法律行為、(3) 代理、(4) 時効である。本講義の目的は、民法総則にかかわる基本的な法知識、法制度を習得すること、ならびに売買契約や賃貸借契約など日常生活事象を法的に説明できるだけの基礎力を身に付けることである。そのために、本講義では、関係諸制度ないし関係規定について、その意義を解説するとともに、具体的な事例を取り上げ、関係諸制度に関する理解を深める。</p>	
		民法1 B	<p>物権総論、及び債権総論・各論の一部（弁済による債権の実現と債務不履行責任）に関する諸制度について、初学者を対象に具体的な紛争事例を意識しながら基本的な考え方を講義する。到達目標は次のとおり。1) 物権総論、履行障害法の基本原則に関する理解を深め、基礎知識を修得する。2) 具体的な紛争事例において問題となっている事柄を的確に捉え、基礎知識を使って適切に解決する能力を培う。授業の進め方は次のとおり。教科書、参考文献、配付資料等について、十分な予習をしていることを前提として、講義による説明と質疑応答による双方向方式の授業を行う。</p>	
		民法2	<p>債権各論に関する諸制度について、初学者を対象に具体的な紛争事例を意識しながら基本的な考え方を講義する。到達目標は次のとおり1) 契約法(契約解除・雇用・組合を除く)および事務管理法・不当利得法・不法行為法の基本原則に関する理解を深め、基礎知識を修得する。2) 具体的な紛争事例において問題となっている事柄を的確に捉え、基礎知識を使って適切に解決する能力を培う。授業の進め方は次のとおり。教科書、参考文献、配付資料等について、十分な予習をしていることを前提として、講義による説明と質疑応答による双方向方式の授業を行う。</p>	
		民法3	<p>民法典のうち、債権回収を確実にするために用いられている制度につき初学者を念頭に講義する。具体的には、債権総論の一部（債権譲渡、債務引受、相殺、債権者代位権、詐害行為取消権、連帯債務、保証）及び担保物権法（留置権、先取特権、質権、抵当権、非典型担保）である。上記の各制度に関する事例問題に対応するための前提として、まずは条文の文言を忠実に解釈することを重視し、条文の文言から出発する意識を高めることを目的とする。具体的な紛争事例を意識しながら、各制度がどのような方法で債権の回収を確実にすることができるのか（又はできないのか）、正確かつ原則的な考え方を理解することを目指す。</p>	
		民法4	<p>家族関係にかかわる民法上の諸制度とその解釈・運用について、初学者を対象に講義する。主たる内容は、(1) 婚姻関係の成立・効果・解消、(2) 親子関係の成立と効果、(3) 相続の開始・効力と遺産分割である。本講義の目的は、家族関係にかかわる基本的な法知識、法制度を習得すること、離婚や相続など日常生活事象を法的に説明できるだけの基礎力を身に付けることである。そのため、本講義では、関係諸制度ないし関係規定について、その意義を解説するとともに、具体的な事例を取り上げ、関係諸制度に関する理解を深める。家事審判や人事訴訟など家族紛争特有の手續に目配りしながら、より立体的な家族法の理解を目指す。</p>	
	会社法1	<p>会社法1, 2, 3を通じて会社法の基本を学ぶ。会社法1では、株式会社制度の基本概念、会社制度の経済的意義、会社の設立、株式制度、株式譲渡および株主総会制度までの内容を講義する。1年生の会社法では、全体として、(1)複雑な会</p>		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		社法の条文を的確に理解できるようにその内容を読み取る、(2)会社法のテキストを適切に読み込んで、基本概念を理解し、各規定の趣旨を学び、重要な争点を把握する、(3)基本的な判例を理解し、解釈上の争点を掌握することを目標としている。各講義を通じて上記の能力の修得を目指す。会社法1では特に各条文を、会社法の体系の中で適切に読み込む能力の修得に主眼を置く。	
	会社法2	会社法1に続き、取締役および取締役会制度、取締役の義務と責任をめぐる規律を中心に講義する。会社法2で扱う項目は、会社法の中でも解釈論が別れ、また判例が大きな役割を示す項目が多い。1年生の会社法を通した目標の中でも、本講義では、テキストを適切に読み込み、会社法の各規定の趣旨や解釈上の争点を理解すること、また、会社法の基本判例について、その解釈論上の意義を理解し、判例理解の基本を修得すること、そして会社法上の重要な争点を含む課題について、論理的な文章で回答する能力の基礎を修得することに重点をおく。	
	会社法3	会社法3は、株式会社の計算、分配規制、新株の発行や新株予約権の発行などの資金調達および自己株式の取得などの会社財務に関する規律、並びに組織再編に関する規律を中心に講義する。会社法3で扱う分野は一般にはなじみが薄く、経済やファイナンスに関する知識をも必要とする。このために関連する条文も他の法分野と比較して複雑であり、理解が難しい。実例を参照しながら、各条文を的確に読み込む能力の修得を目指す。また会社法2に引き続き、論理的な文章作成能力の基礎の修得をも目指す。	
	民事訴訟法	民事訴訟を初めて学ぶ者を対象として、民事訴訟の基礎を講義する。 まず、相談・調停・仲裁など、民事紛争の処理のための諸制度を概観した後、民事訴訟の目的・機能、民事裁判の規準、訴訟に要するコスト(費用・時間)、民事訴訟の種類、裁判所の組織・管轄、裁判官・弁護士・裁判所職員など訴訟に関与する人、訴訟提起の手続、訴訟における審理の対象(訴訟物)、当事者、民事訴訟の審理過程(争点整理・口頭弁論)、訴訟の基本原則(直接主義、処分権主義・弁論主義など)、証拠調べに基づく事実認定、判決などについて学ぶ。 受講者が、訴訟手続の流れを理解して、民事訴訟の基本原則の意味を説明できることを講義の目標とする。	
	刑法A	刑法の基本原則(罪刑法定原則、行為原則、法益保護原則及び責任原則)及び基礎概念(因果性、非難可能性、共犯性と正犯性など)につき、刑法典の全体構造及び個々の条文の文言をじっくりと確認しつつ、その意味合いを探求することで、刑法の体系的な理解に不可欠である論理的な思考フレームを構築しつつ、繰り返し学修することでその本質をより深く理解できる方法を身につけることを目指す。特に、原理・原則の根拠となる条文につき解釈ルールに従い条文の構造を明らかにしつつ、歴史的あるいは社会的な分析に基づく理論進展をも加えて、その一般化・普遍化のプロセスを考察することで、原理・原則のより深い理解を導く基礎を構築する。	
	刑法A演習	刑法Aで習得した条文解釈ルールに従って、財産犯領域の各犯罪類型(強・窃盗罪、詐欺・恐喝罪、横領・背任罪、盗品等に関する罪)につき、条文からその構成要件を導き出せるように、条文解釈の実践を行う。各犯罪の処罰範囲の適正性をいかに図るかの観点から、条文文言の言葉の意味の限界と条文の目的・趣旨に基づく処罰の必要性との調整を重視して個々の構成要件要素において生じる問題点を検討する。その際、テキストや判決文を十分に読み込めることを重視する。授業の形態としては、質疑応答を中心とする。	
	刑法B	刑法Aは条文に基づき原理・原則論を修得することを目指したのに対して、本講義は、処罰の必要性・合理性によって構築された刑法理論が条文解釈、原理・原則論といかに整合性を図って展開されているのかを明らかにしつつ、刑法総論・各論における新たな問題を既存の刑罰法規を用いて解決する裁判例を素材として取り上げつつ、財産犯領域の事例の解決手法を学ぶ。条文のストレートな解釈・	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		適用からはいわば例外領域に当たる範囲（不作為犯、未遂犯、共犯論など）を扱って、問題解決型思考プロセスの基礎を修得させる。	
	刑法B演習	条文及びその解釈に基づく論理と、明文規定上明示されていないが刑法理論として展開される論理とを用いて、刑法総論及び各論の重要論点を含む具体的事例を解決するプロセスを学ぶ。個々の犯罪類型につき典型事例や裁判例を素材にしてその解決に必要な理論や規範がどこからいかに導き出されているのか、その規範に具体的な事実をどのようにあてはめて結論を得ていくのかというプロセス的思考を修得し、これをわかりやすい言葉と文章で明確に論じられるように、授業の形態として受講生の論述を素材に双方向・多方向で検討する機会を多く設け、論理のプロセスをチェックする眼を養う。	
	憲法1	本講義では、初学者を対象に憲法学において一般的に検討がなされる憲法理論と憲法解釈について扱うこととする。具体的には、①憲法総論、②統治機構に関する日本国憲法解釈、③基本的人権に関する日本国憲法解釈（の一部）について、学説・判例（最高裁判決に加えて、適宜、下級審の判決を含む）を素材として学ぶ。これを通じて、知識だけではなく憲法にまつわる問題を考える力をつけるようにしていく。そのため、講義にあたっては、質疑等も行うことで、受講者の理解をより深めていけるようなものとしたい。	
	憲法2	「憲法1」の継続として、憲法に関する理論と解釈をめぐる諸問題を検討する。具体的には、「憲法1」で扱われた論点以外の①統治機構及び②基本的人権に関する基本問題や、そこで扱われたテーマを発展させた諸問題について、主として学説・判例を素材として、質疑応答を交えながら講義を行なう。「憲法1」と同様、単なる知識の習得だけではなく憲法に関する諸問題を自分で分析し検討する力を身につけることに主眼を置く。	
	基礎演習1	<p>（概要）法学概論に続く未修1年生への導入科目である。民法・商法、憲法および刑法の各分野について、判例の理解を中心に、法の解釈の基本を学ぶ。さらに、特定の規範を与えられた事実に当てはめ、法的な結論を、根拠を示しつつ導き出すという「法的な三段論法」に基づく論述の入門をも内容とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（4 片木 晴彦・5 周田 憲二／1回） 訴訟の基本を学ぶ。</p> <p>（4 片木 晴彦・3 田村 耕一／1回） 商法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>（3 田村 耕一／1回） 民法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>（1 神野 礼斉／1回） 民法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>（7 新井 誠 /1回） 憲法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>（6 秋野 成人／2回） 刑法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>（8 門田 孝／1回）</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	基礎演習 2	<p>憲法の体系的な理解と法的な文章作成能力の基本を養う。</p> <p>(概要) 基礎演習 1 に引き続き、法的な論述の基礎を修得するための導入科目である。基礎演習 2 では、民法・商法、憲法および刑法の各分野において比較的簡単な事実を内容とする課題の解決を求める文章の作成を通じて、「法的な三段論法」の基礎的な能力の修得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(3 田村 耕一/1 回) 法的な思考の基本を、民法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(6 秋野 成人/2 回) 法的な思考の基本を、刑法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(7 新井 誠 /1 回) 法的な思考の基本を、憲法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(4 片木 晴彦・5 周田 憲二/2 回) 法的な思考の基本を、商法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(1 神野 礼斉/1 回) 法的な思考の基本を、民法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(8 門田 孝/1 回) 法的な思考の基本を、憲法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p>	オムニバス方式
	基礎演習 3	<p>(概要) 基礎演習 2 に引き続き、実定法の体系的な理解と法的な文章作成能力の修得を目指す導入科目の第 3 段である。民法・商法、憲法および刑法の各分野においてやや複雑な事実を内容とする課題の解決を求める文章の作成を通じて、法的な論述能力の向上を目指す。また、裁判規範としての民事規範の理解に不可欠な要件事実についての基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(2 油納 健一/1 回) 法的な思考の基本を、民法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(6 秋野 成人/2 回) 条文とその解釈にのみ基づく法的な思考の基本を、刑法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(7 新井 誠 /1 回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>法的な思考の基本を、憲法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(4 片木 晴彦・5 周田 憲二/1回)</p> <p>法的な思考の基本を、商法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(9 野田 和裕/1回)</p> <p>法的な思考の基本を、民法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(8 門田 孝/1回)</p> <p>法的な思考の基本を、憲法の簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p> <p>(15 小濱 意三/1回)</p> <p>法的な思考の基本を、要件事実に関する簡単な課題の解決を通じて習得するとともに、思考した内容を適切にするための法的な文章力を身につける。</p>	
	法学概論	<p>(概要) 本科目は、未修者の新入生を対象に、法曹を目指すことについての自覚を促し、併せて法科大学院で提供する授業科目の系統的な理解を促すための導入科目として、法令・判例の調べ方、法律解釈の基本、判例についての理解、法的な思考の基本、また実際の事件における法の適用・事実の収集を体験するための模擬法律相談を内容とする。オムニバス方式形式で講義するものである。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(14 菊池 亨輔/3回)</p> <p>民事法における法的思考、解釈論、判例の理解を中心に担当する。</p> <p>(6 秋野 成人・10 日山 恵美/3回) (共同)</p> <p>学内データベースの利用、法令・判例の調べ方、刑事法における法的思考、解釈論、判例の理解を中心に担当する。</p> <p>(14 菊池 亨輔・10 日山 恵美/2回) (共同)</p> <p>模擬法律相談により、実際の事件における法の適用・事実の修習を体験する。</p>	オムニバス方式
	民法演習 1 A	<p>民法のうち、債権総論及び各論に規定されている給付内容が実現されなかった場合の救済手段について扱う。具体的には、損害賠償、解除、同時履行の抗弁権、受領遅滞、危険負担である。一通りの基礎知識のある者を念頭に、重要な点及び誤解しやすい点を確認しながら、典型的な問題を例に双方向で問題解決を行うことで、解決に向けた手順と思考を実践する。学部における一般的な勉強・思考方法から、問題を抱えた当事者が実際に行う「条文の文言と構造に沿った問題解決」への思考方法の獲得・転換を目指す。したがって、条文の具体的な用い方・そのための思考方法に重点を置く。</p>	
	民法演習 1 B	<p>本講義は、主に親族・相続関係に関し、具体的な事例を素材として、実務上・理論上重要な諸問題について検討する。主たる内容は、(1) 婚姻、(2) 相続人、(3) 遺産共有、(4) 遺産分割、(5) 遺言、(6) 遺留分である。本講義の目的は、家族法について、体系的理解を得ること、法曹にとって必要な事例分析能力・法的思考能力を養うこと、自分自身の考えを適切に口頭や文章で表現する能力を育成することである。また、民法演習 1 A による条文の文言と構造に沿った問題解決</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		という思考の実践として条文上は明らかでない点に関する理論展開を学び取ることを目的とする。そのために、本講義では、受講者との質疑応答を通じて、基礎知識を確認し、さらに例題の検討を通じて、基礎知識を具体的事実関係にあてはめて応用できる能力を確かなものにするを行う。	
	民法演習 2 A	不動産・動産の所有権その他の権利をめぐる取引関係に関する重要問題について、関連領域における諸問題にも目を向けながら、多角的に検討を行う。 民法全般の基本的な理解を備えていることを前提として、双方向の授業を行うこととし、①具体的な紛争事例において問題となっている事柄を的確に捉え、基礎知識を応用して適切に解決する能力を培うこと、および、②多角的な観点から法的分析を行い、判例や学説が示す準則を的確に用いて対応する能力を向上させることを目的とする。民法演習 1 A の思考方法の獲得と平行して文章作成能力の向上を目指す。	
	民法演習 2 B	不動産賃貸借をめぐる諸問題や契約内容の規制、民法における団体法理、消滅時効に関する重要問題について、関連領域における諸問題にも目を向けながら、多角的に検討を行う。民法全般の基本的な理解を備えていることを前提として、双方向の授業を行うこととし、①具体的な紛争事例において問題となっている事柄を的確に捉え、基礎知識を応用して適切に解決する能力を培うこと、および、②多角的な観点から法的分析を行い、判例や学説が示す準則を的確に用いて対応する能力を向上させることを目的とする。民法 1 B による理論展開力の獲得と平行して文章作成能力の向上を目指す。	
	民法演習 3 A	民法のうち、意思解釈・契約解釈及び各種の契約の一部を扱う。具体的には、契約の成立、錯誤、契約不適合、予約・手付、売買契約、貸借型契約、委任契約である。一通りの基礎知識のある者を念頭に、重要な点及び誤解しやすい点を確認しながら、具体的な契約内容、事例、及び判決を個別に検討することによって、解釈方法の理解・獲得を目指す。民法演習科目の次の段階として、対立する当事者の主張という点を理解した上で、同じ事実の評価につき、多様な価値観から、複数の意味づけが可能であることを理解することを目標とする。単純な事例問題から事実評価が必要な問題への対応能力を培う。	
	民法演習 3 B	請負契約、不当利得、不法行為に関し重要な諸問題について検討する。 民法演習科目の最終段階として、授業の目標は次のとおり。1) 既に習得している基礎的知識及び改正法案の内容と、具体的問題に対応する能力を向上させる。2) 具体的な事実に対する評価という視点を身につける。3) 多角的な観点から法的分析を行い、判例や学説が示す準則、そこで考慮されている利益、その調整方法を理解する。授業の進め方は次のとおり 1) 受講者が、民法について基本的な理解があることを前提に授業を行う。2) 受講者は、事前に示された設問、かつこれに関連する条文・判例等について十分予習した上で授業に臨むことが求められる。3) 授業中は、双方向的な手法を用いて、民法に関する理解を深める。4) 授業後、授業で扱った内容に関する問題を解き、答案を作成する。	
	民法演習 4	担保物権法と債権総論の一部（債権の保全・移転・消滅に関する部分）で扱われる金銭債権の履行確保のための諸制度（金融担保法）に関する重要問題について、関連領域における諸問題や現代社会における機能にも目を向けながら、金融担保に関する各制度の特質や関係が立体的に理解できるよう、多角的に検討を行う。民法全般の基本的な理解を備えていることを前提として、双方向の授業を行うこととし、①具体的な紛争事例において問題となっている事柄を的確に捉え、基礎知識を応用して適切に解決する能力を培うこと、および、②多角的な観点から法的分析を行い、判例や学説が示す準則を的確に用いて対応する能力を向上させることを目的とする。	
	商法演習 1 A	本授業の履修範囲は、株主名簿、株式譲渡制限、株式の共有、利益供与及び株主総会に関する会社法の規律である。本授業は、1 年次において会社法の基礎を履	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		修した法学未修者の2年生、及び法学既修者の2年生を対象として、双方向型の演習授業を行うことにより、上記の領域に関する会社法の基本的な規定及び判例の考え方を、深く理解することを主たる目的とする。本授業は、2年生における最初の会社法の授業であるから、会社法の基本的な規定の理解に主眼を置くとともに、当該規定及び判例の具体的事例への適用を演習することにより、上記の領域における会社法の基本的な考え方を、実務における取扱いを踏まえたうえで深く理解し、もって基本的な判例の射程・適用範囲を正確に理解する能力を養う。	
	商事法演習1B	本授業の履修範囲は、取締役の利益相反取引・競業取引、取締役の報酬、取締役の会社に対する責任、株主代表訴訟、取締役の選解任及び取締役の第三者に対する責任に関する会社法の規律である。本授業は、商事法演習1Aを履修した2年生を対象として、上記の領域に関する会社法の基本的な規定及び判例の考え方を、双方向型の演習授業によって深く理解することを主たる目的とする。本授業が実施されるのは夏休み明けの後期であるから、本授業では、指導内容を商事法演習1Aよりやや高度化し、会社法の基本的な規定及び判例の射程・適用範囲を理解することに加え、当該判例に関連する裁判例・学説の考え方についても、事例演習を通じて深く理解する。さらに、会社法の規律を具体的事案に適用することを通じて、法の適用を表現することの重要性を認識し、論理的な思考を文章として表すための基礎的な能力を涵養する。	
	商事法演習2A	本授業の履修範囲は、株式会社の計算、新株発行、新株予約権及び会社設立に関する会社法の規律である。本授業は、商事法演習1A・1Bを履修した2年生を対象として、上記の領域に関する会社法の基本的な規定及び判例の考え方を、双方向型の演習授業によって深く理解することを主たる目的とする。本授業が実施されるのは2年次の最終段階であるから、本授業では、指導内容を商事法演習1Bよりさらに高度化し、会社法の基本的な規定及び判例の射程・適用範囲を理解すること、並びに当該判例に関連する裁判例・学説の考え方を理解することに加えて、会社法の規定や判例の考え方に批判的な学説の考え方及び実務における取扱いについても、事例演習を通じて理解を深める。そして、会社法の規律を具体的事案に適用することを通じて、論理的な思考を説得的な文章によって表すための基礎的な能力を涵養する。	
	商事法演習2B	本授業の履修範囲は、事業譲渡、合併、会社分割、株式交換・株式移転、株式買取請求及びキャッシュ・アウトに関する会社法の規律である。本授業は、商事法演習1A・1B・2Aを履修した3年生を対象として、上記の領域に関する会社法の基本的な規定及び判例の考え方を、双方向型の演習授業によって深く理解することを主たる目的とする。本授業が実施されるのは3年次の前期であるから、本授業では、会社法の基本的な規定、判例の射程・適用範囲、当該判例に関連する裁判例・学説の考え方、及び会社法の規定や判例の考え方に批判的な学説の考え方について、深く理解したうえで、比較的に新しい事例に関する演習を通じて、会社法の新しい考え方についての理解を促し、論理的な思考を説得的な文章によって表すための基礎的な能力を涵養する。	
	民事手続法1	受講者が民事訴訟の第一審手続の流れを理解していることを前提とする。前半では、法科大学院の1年生（または法学部）の民事訴訟法の講義では詳細に扱うことが難しい分野である多数当事者訴訟（共同訴訟・訴訟参加）、訴訟係属中の新たな訴えの提起（訴えの変更・反訴など）、上訴・再審（概論）について講義をし、後半では、既判力を中心とする判決の効力、処分権主義・弁論主義など、受講者の多くが難解と感じる事項について、民事訴訟法の判例百選等に取り上げられている重要な判例を教材として、掘り下げた内容を含む講義をする。 この講義は、受講者が、具体的な事例に含まれる民事訴訟法の基本的な論点を発見し、適切な対応策を考えることができることを目標とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専 門 科 目	民事手続法 2	<p>受講者が民事訴訟の第一審手続の流れを理解していることを前提とする。講義の対象は、法律上の争訟、民事裁判権の範囲、裁判を受ける権利（非訟事件における手続保障）、当事者能力、訴訟能力、当事者適格（第三者による訴訟担当）、訴えの利益、重複提訴の禁止、訴訟における証明、証拠調べ（人証・物証）、人事訴訟、上訴・再審（詳論）の各事項で、民事訴訟法の判例百選等に取り上げられている判例を教材として、掘り下げた内容を含む講義をする。</p> <p>この講義の履修後、受講者には、民事訴訟の具体的な事例から民事訴訟法の論点を発見し、適切な対応策について論理的に説明できることが期待される。</p>	
	刑法 C	<p>刑法 A（条文解釈ルール）および刑法 B（問題解決に向けて構築される刑法理論）の習得を踏まえ、理論的整合性や結論の具体的妥当性など、刑法の具体的事件への適用において考慮すべき価値を較量する幅広い思考ができるようになることや、問題解決のための複数の思考過程があり得ることを理解し、それぞれを比較検証することができる批判的思考ができるようになることを目指す。</p> <p>そのため、刑法の複数の基本原理・原則が横断的・縦断的に絡む、論点解決におけるいわば錯綜領域の諸問題を取り上げ、問題の所在を把握すること、複数提示される解決論理の相違を明確に理解すること、具体的事実をあてはめて結論を導くことを受講生との双方向授業の講義形式で行う。以下のテーマが中心となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原因において自由な行為・過失犯および過失犯と共犯・不作為と共犯・正当防衛と共犯</li> </ul>	
	刑法 C 演習	<p>これまでに習得した刑法の知識や思考方法を事案解決のために用いることができるようになることを目指す。ここでいう「用いる」ことには、口頭で他者に分かりやすく説明することができること、文書により他者に正確に伝えることができることも含まれる。そのため、主として、裁判例を素材とした、やや長文の具体的事例を用いて、具体的事実関係から刑法上の問題点を抽出し、具体的事実刑法規範を適用するプロセスを受講生自らが主体的に実践する演習形式で行う。刑法総論および各論における重要論点を取り上げるが、論点の選択においては最新の判例の動向も踏まえたものとする。</p>	
	刑事訴訟法 1	<p>刑事訴訟法を初めて学ぶ者（あるいはそれに近い者）を対象として、法曹養成過程を経る際に必要となる法的知識・理解のうち、捜査段階に関する事項（捜査の端緒、任意捜査と強制捜査との区別、被疑者に対する身体拘束、供述証拠の収集・保全、捜索・押収、検証・鑑定・領置、被疑者の防御活動等）について講ずる。受講者は、この授業を通じて、2年次に開講される「刑事訴訟法 1 演習」、3年次に開講される「刑事法総合演習」「重点演習刑事法 1」「重点演習刑事法 3」を履修する際に必要な法的知識・理解を得る。受講者は、①刑事訴訟法における重要基本概念及び制度の意義（定義）・趣旨・要件・効果を、条文上の根拠を示しながら文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになる、②刑事訴訟法における解釈上の諸問題（基礎レベル）を、判例（裁判例）及び学説を示しながら文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになることを目指す。</p>	
	刑事訴訟法 2	<p>刑事訴訟法を初めて学ぶ者（あるいはそれに近い者）を対象として、法曹養成過程を経る際に必要となる法的知識・理解のうち、公訴提起以降の段階に関する事項（公訴提起、公判、証拠、裁判、上訴、非常救済手続等）について講ずる。受講者は、この授業を通じて、2年次に開講される「刑事訴訟法 2 演習」、3年次に開講される「刑事法総合演習」「重点演習刑事法 1」「重点演習刑事法 4」を履修する際に必要な法的知識・理解を得る。受講者は、①刑事訴訟法における重要基本概念及び制度の意義（定義）・趣旨・要件・効果を、条文上の根拠を示しながら文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになる、②刑事訴訟法における解釈上の諸問題（基礎レベル）を、判例（裁判例）及び学説を示しながら文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	法律基本 科目群		
	刑事訴訟法1演習	「刑事訴訟法1」履修者を対象として、頭に入っている（はずの）法的知識・理解を使って具体的な事例（数百文字程度の長さ）を刑事訴訟法の観点から解決するための力を身に付けさせるものである。授業で扱う事例は、主に捜査段階において生じる刑事訴訟法上の問題点（解釈上のものに限られない）のうち、重要なものを含んでいる（捜査の端緒、任意捜査と強制捜査との区別、逮捕・勾留、捜索・差押え、接見交通権等）。受講者は、この授業を通じて、2年次に開講された「刑事訴訟法1」において得た法的知識・理解（独学で委ねられた範囲を含む）を実際に使えるレベルで身に付けるための訓練をすると共に、「刑事法総合演習」「重点演習刑事法1」「重点演習刑事法3」を履修する際の土台作りをする。受講者は、具体的な事例の中から刑事訴訟法上の問題点を抽出し、法的に解決する過程を、文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになることを目指す。	
	刑事訴訟法2演習	「刑事訴訟法2」履修者を対象として、頭に入っている（はずの）法的知識・理解を使って具体的な事例（数百文字程度の長さ）を刑事訴訟法の観点から解決するための力を身に付けさせるものである。授業で扱う事例は、主に公訴提起以降の段階において生じる刑事訴訟法上の問題点（解釈上のものに限られない）のうち、重要なものを含んでいる（訴因、伝聞法則、自白法則、違法収集証拠排除法則等）。受講者は、この授業を通じて、2年次に開講された「刑事訴訟法2」において得た法的知識・理解（独学で委ねられた範囲を含む）を実際に使えるレベルで身に付けるための訓練をすると共に、「刑事法総合演習」「重点演習刑事法1」「重点演習刑事法4」を履修する際の土台作りをする。受講者は、具体的な事例の中から刑事訴訟法上の問題点を抽出し、法的に解決する過程を、文書又は口頭で他者に対して説得的に説明できるようになることを目指す。	
	行政法1	いわゆる総論と救済法の基礎部分（法治主義、行政処分、取消訴訟の対象、行政組織法概観、行政裁量、行政規則、行政手続、行政調査、法規命令、条例、信頼保護の主張、取消と撤回、損失補償、国家賠償）を適宜クロスして検討し、行政法全体の基礎を固める。行政法理論、行政判例の基礎知識を理解し、それらを自分の言葉で分かりやすく説明し、具体的事例に則して論述ができること、及び個別行政法の仕組みを体系的に解説でき、それを自分の解釈に反映させることができることが到達目標である。授業の進め方としては、講義前に配付されたレジュメで指示された『ケースブック行政法』掲載の判例を読み、レジュメの設問に対する「一応の」解答を準備しておき、それを前提に授業では質疑を行う。	
	行政法2	行政救済法のみならず、総論の未検討箇所も救済法と関連づけながら検討し（原告適格、訴えの利益、取消訴訟の判決の効力、執行停止、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟、無効確認訴訟、無効の主張、抗告訴訟の本案審理、当事者訴訟、行政上の義務の履行確保、行政指導、情報公開）、行政法の応用能力の充実を図る。行政法理論、行政判例の基礎知識を理解し、それらを自分の言葉で分かりやすく説明し、具体的事例に則して論述ができること、事実を適確に分析し、国民にとって最も適切な訴訟上の救済手段を構想できるようになることが到達目標である。授業の進め方としては、講義前に配付されたレジュメで指示された『ケースブック行政法』掲載の判例を読み、レジュメの設問に対する「一応の」解答を準備しておき、それを前提に授業では質疑を行う。	
憲法演習1	憲法の基礎理論や日本国憲法解釈についての一定の理解があることを前提として、本演習では、憲法に関する重要判例等を踏まえた事例を中心に検討していく。この検討を通じて、訴訟の当事者が、具体的な憲法上の主張をどのように行えばよいのか、また、それに対していかなる反論が可能であるのかといった実践的手法を身につけていけるようにしたい。なお本授業は、演習形式での授業であるので、受講者との質疑応答等を通じた運営となる。		
憲法演習2	「憲法演習1」の継続として、憲法に関する発展的・応用的論点を含むテーマに関する事例問題の検討を行う。具体的には、各回ごとに提示される憲法に関する事		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 群		例問題について、そこに含まれる実体的問題に加え、裁判の当事者として行うべき主張方法や裁判所等による解決方法等の手続的側面も視野に入れ、関連する学説や判例の立場にも言及しつつ、実践的な観点から事例の妥当な解決へと至るための能力を修得する。	
	民法法総合演習	<p>(概要) 民事事件の事例を用いて、民法法の複数の領域に関わる法的問題点についてゼミナール方式で検討する。既に一定程度の学修を経ている者を対象に、条文解釈、規範の定立及び事実の解析・分析を適切・的確に行うことができるかを確認し、そのうえで、より深い理解の獲得を目指す。同時に、受講生の起案につき、事案の全体理解、個々の事実の意味付け把握、規範の具体化と事実のあてはめなどを重視しつつ、正確性、緻密性及び論理性を双方向・多方向で確認していく。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(9 野田 和裕・15 小濱 意三／2回) (共同) 民事事件の事例を用いて、民法法の複数の領域に関わる法的問題点を総合的に検討する。</p> <p>(4 片木 晴彦・5 周田 憲二・92 岩元 裕介／1回) (共同) 民事事件の事例を用いて、民法法の複数の領域に関わる法的問題点を総合的に検討する。</p> <p>(3 田村 耕一・92 岩元 裕介／2回) (共同) 民事事件の事例を用いて、民事訴訟法の複数の領域に関わる法的問題点を総合的に検討する。</p> <p>(81 田邊 誠・17 野田 隆史／3回) (共同) 民事事件の具体的な事案の中で、民事訴訟法の複数の論点を発見し、その理論的な位置づけを説明するとともに、当該事案に相応しい解決策を提示することができることを目標とする。</p>	オムニバス方式 共同
	刑法法総合演習	<p>(概要) 条文解釈、規範の定立及び事実の解析・分析を適切・的確に行うことにより事案解決が論理的な説得力をもつてなし得るか、そのミニマムラインに受講生の学修レベルが現に達しているかを確認するため、刑法及び刑事訴訟法における重要な論点が複数盛り込まれ、2つ以上が交錯する事例問題を素材として、その事例の解決のため、事案の全体理解、個々の事実の意味付け把握、適用する規範の選択、規範の具体化と事実のあてはめを特に重視しつつ、受講生の起案につき、正確性、緻密性及び論理性を双方向・多方向で確認していく。刑法及び刑事訴訟法に関する法的問題点を総合的に検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(10 日山 恵美／4回) 事例【実行行為・不作為・共犯関係(人身犯を素材に)、正当防衛・錯誤・共犯関係(人身犯を素材に)、因果関係・未遂・共犯関係(財産犯を素材に)、共犯関係(財産犯を素材に)】を用いて、刑法に関する法的問題点を総合的に検討する。</p> <p>(13 堀田 尚徳／4回) 事例【捜査法に関する応用問題、公訴・公判に関する応用問題、証拠法に関する応用問題】を用いて、刑事訴訟法に関する法的問題点を総合的に検討する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
プログラム 専門科目	法律 基本 科目 群	公法総合演習	<p>(概要) 公法（憲法及び行政法）に関する具体的な訴訟事件を念頭においた事例問題を素材に、質疑応答を中心とした授業を行う。こうした公法に関する実践的な事例問題への取組および質疑を通じて、事案の解決を論理的な説得力をもってなし得るというミニマムラインに受講生の学修レベルが現に達しているかを確認すると共に、法律家として必要な事案分析、論述および討論のための能力を修得する。授業は、原則として複数の教員が担当し、実務家教員による実務的視点からの検討も行う。</p> <p>(オムニバス方式／全8回) (8 門田 孝／4回) 憲法を中心とした実践問題の検討</p> <p>(11 福永 実／4回) 行政法を中心とした実践問題の検討</p>	オムニバス方式
		刑法演習 1	<p>刑法の基本・基礎的な知識を理解していることを踏まえ、個々の知識をつなげてより深く理解し整理定着させる学修を自ら行うことができるように、犯罪論の全体構造・構図（体系的理解のためのツール）を描き、そこに問われる問題点を位置づけ、問題点にかかわる諸概念との整合性を図ることを通じて、問題解決への論理的思考を展開させるための「区別（Distinction）」が特に教育上重視される。授業形態は、質疑応答や議論を中心としつつ、比較的シンプルな事例問題を次々とこなしながら、全体構造・構図のどこにどのようなライトが当てられているのかを見極め、論理展開とその論述表記が適切であるかを確認していく。</p>	
		刑法演習 2	<p>これまでの刑法科目において習得した刑法の基本的知識・理論の応用が求められる3年次の実務科目に対応できるようにするため、法適用の実際を学び、これまでの実務の法適用における問題点・課題を見出し、如何なる解決策を取ることができるかを考察することができるようになることを目指す。</p> <p>そのため、要件解釈と事実認定の関連性を体感することができるテーマ・論点に関する下級審裁判例も含めた関連裁判例を受講生自らが調査し、読み込み、分析したうえで、双方向・多方向で検討する演習形式で行う。</p> <p>故意、共謀、財産犯における占有などを取り上げる。</p>	
		重点演習（公法1）	<p>(概要) 本重点演習においては、公法（憲法及び行政法を中心とする）に関する発展的かつ応用的な事例について具体的な訴訟などを意識した検討を行うこととする。具体的には、これまでの学修をふまえ、各履修者が、事例の当事者となった気持ちで具体的な紛争解決のあり方について考えることにより、公法に関する十分な事例対応能力を確保できるようになることを目指したい。また授業の運営方法としては、ゼミナール方式を採用することにより、授業担当者との間で公法に関する十分な対話を行えるようにしたい。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(7 新井 誠／3回) 憲法の重要論点に関する思考力、論述能力の確認</p> <p>(11 福永 実／3回) 行政法の重要論点に関する思考力、論述能力の確認</p> <p>(7 新井 誠・11 福永 実／2回) (共同) 公法全体の重要論点に関する思考力、論述能力の確認</p>	オムニバス方式 共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 群	重点演習（公法2）	<p>（概要）「公法総合演習」及び「重点演習（公法1）」の内容をさらに発展、深化あるいは補充するために、公法（憲法及び行政法）に関する実践的かつ発展的な事例問題への取組および質疑を通じて、公法の事案分析、論述および討論に必要な能力の精度を一層向上させ、実務的視点も踏まえた問題解決能力の修得を目指す。授業は、原則として複数の教員が担当し、公法に関する十分な事例対応能力を確立するためゼミナール方式で実施する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（8 門田 孝・85 芥川 宏／4回）（共同） 憲法を中心とした発展問題の理論的・実践的な検討</p> <p>（11 福永 実・85 芥川 宏／4回）（共同） 行政法を中心とした発展問題の理論的・実践的な検討</p>	オムニバス方式 共同
	重点演習（民事法1）	<p>（概要）民法・民事訴訟法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>既に一定程度の学修を経ている者を対象に、今一度、基本原理の正確な理解を確認し、また、原則がなぜ原則となっているのか基本的な点を振り返ることで、より深い理解の獲得を目指す。同時に、あり得る論理展開の相互比較、結論の妥当性（どのような結論が妥当なのか）及び評価としての適切さ（評価矛盾になっていないか）を検討することで、総合的な分析を実践する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（2 油納 健一・15 小濱 意三／1回）（共同） 民法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>（2 油納 健一・92 岩元 裕介／1回）（共同） 民法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>（1 神野 礼斉・17 野田 隆史／2回）（共同） 制限行為能力制度、法定代理人の代理権濫用、共有物分割と遺産分割の関係など、民法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>（81 田邊 誠・15 小濱 意三／2回）（共同） ゼミナールの方式で、民事訴訟法の重要な論点について、判例・学説等を整理して理解するとともに、具体的な事例の解決のための論理的思考力とそれに基づく論述の能力を養成することを目的とした講義を行う。</p> <p>（81 田邊 誠・92 岩元 裕介／2回）（共同） ゼミナールの方式で、民事訴訟法の重要な論点について、判例・学説等を整理して理解するとともに、具体的な事例の解決のための論理的思考力とそれに基づく論述の能力を養成することを目的とした講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同
	重点演習（民事法2）	<p>（概要）民法・民事訴訟法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>既に一定程度の学修を経ている者を対象に、今一度、基本原理の正確な理解を確認</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	法律 基本 科目 群	<p>認し、また、原則がなぜ原則となっているのか基本的な点を振り返ることで、より深い理解の獲得を目指す。同時に、あり得る論理展開の相互比較、結論の妥当性（どのような結論が妥当なのか）及び評価としての適切さ（評価矛盾になっていないか）を検討することで、総合的な分析を実践する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 田村 耕一/4回) 民法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>(17 野田 隆史/4回) 民事訴訟法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p>	
		<p>重点演習（民事法3）</p> <p>(概要) 本授業は、商法の基本的な規定及び判例の考え方を一通り理解している3年生を対象として、双方向型の演習授業を行うことによって、商法の基礎的な考え方を確実に修得させるとともに、商法の規律を具体的事案に適用するための総合的かつ応用的な能力を涵養することを主たる目的とする。さらに、演習課題として新たな実務上の課題を含む事案を取り上げることが予定されているため、本授業では、商法の新しい考え方を理解したうえで、法の適用と論理的思考を、説得的な文章によって表現するための応用的な能力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(4 片木 晴彦・5 周田 憲二/4回) 商法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p> <p>(5 周田 憲二/4回) 商法に関する重要な論点について、課題解決のための思考力、論述能力の基礎を確認するため、ゼミナール方式で行う。</p>	オムニバス方式
		<p>重点演習（刑事法1）</p> <p>1) 裁判例や事実関係の複雑な事例を総合的に検討するプロセスを通じて、刑法及び刑事訴訟法において法律論あるいは事実認定論上問題となりうる点を自ら発見する方法を修得する。具体的事例は刑法及び刑事訴訟法において学修の発展レベルに位置づけられる問題にもチャレンジさせるものとする。2) 発見した問題点に対する適切な解決方法を提示することができる能力、及びその解決方法を導き出した法的思考プロセスを分かり易く説明できる能力を涵養する3) 刑法及び刑事訴訟法の総合的運用力を身に付けるため、質疑応答や討論の形式も授業態様として取り入れる。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 秋野 成人/4回) 実行行為・不作為・共犯関係（人身犯を素材に）、正当防衛等違法性阻却事由・錯誤・共犯関係（人身犯を素材に）、因果関係・未遂・共犯関係（財産犯を素材に）の事例を扱う。</p> <p>(16 田上 剛/4回) 刑事訴訟法の捜査法、公判法及び証拠法のそれぞれに関する個別の事例問題又は</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		前記分野を横断的に関係する事例問題を扱う。	
	重点演習（刑事法2）	<p>受講生が刑法総論及び各論において苦手とする領域を取り上げて、以下の目標に向けて、その場で事例問題を提示し所定の時間内に解決の方向性を明確に指し示すメモを書かせ、これを素材として、ゼミナール形式で行う。</p> <p>1. 刑事法総合演習及び重点演習刑事法1において学んできた事例問題解決の手法を、刑法総論及び各論における重要な刑法理論が複数同調的あるいは対立的に絡み合う複雑な事例問題を素材に、洗練させる</p> <p>2. 刑法の問題発見能力、事実等に重要な相違があるか否かを見極める能力、新たな問題点にいくつかの観点から複数の解決策を組み立てる能力を洗練させる。</p>	
	重点演習（刑事法3）	<p>受講生が刑事訴訟法において苦手とする領域のうち、特に捜査段階に関する事項を取り上げる。受講生は、以下の目標に向けて、事前に提示された事例問題に対して法的解決の方向性を明確に示すレポートを作成する。講義は、このレポートを素材として、ゼミナール形式で行う。</p> <p>1. 刑事法総合演習及び重点演習刑事法1において学んできた事例問題解決の手法を、刑事訴訟法における重要な理論が複数同調的あるいは対立的に絡み合う複雑な事例問題を素材に、洗練させる</p> <p>2. 刑事訴訟法の問題発見能力、事実等に重要な相違があるか否かを見極める能力、新たな問題点にいくつかの観点から複数の解決策を組み立てる能力を洗練させる。</p>	
	重点演習（刑事法4）	<p>受講生が刑事訴訟法においてさらに深めたいと考えているテーマ（主に証拠法分野）を取り上げて、以下の目標に向けて、事前に具体的な事例問題を与えて、レポートを作成させ、それを前提にしてゼミナール形式で行う。</p> <p>1 刑事法総合演習及び重点演習刑事法1において修得した刑事訴訟法における事例問題解決の手法について、テーマを絞ってさらに発展・展開させ、また、個別テーマを総合した具体的な事例問題を素材にして、未知の問題や論点を発見してその場で処理できるようにさらに深化させる。</p> <p>2 刑事訴訟法における事実分析・解析能力、問題発見能力、問題に適用する規範探究・選択能力、それを適用して問題を適切に解決していく能力を向上させ洗練させる。</p>	
	重点演習（公法理論研究）	<p>憲法あるいは行政法領域において、実務と理論とを架橋する研究に将来的に携わることが可能となるように、理論研究のベースとなる歴史的（あるいは社会的）分析及び比較法的分析につきその基本的・基礎的なアプローチ方法とその視座の設定に関する導入的な教育を行うこととし、学修状況によっては判例評釈等の研究成果をまとめるところまで指導を行う。</p>	
	重点演習（民事法理論研究）	<p>民法、商法あるいは民事訴訟法領域において、実務と理論とを架橋する研究に将来的に携わることが可能となるように、理論研究のベースとなる歴史的（あるいは社会的）分析及び比較法的分析につきその基本的・基礎的なアプローチ方法とその視座の設定に関する導入的な教育を行うこととし、学修状況によっては判例評釈等の研究成果をまとめるところまで指導を行う。</p>	
	重点演習（刑事法理論研究）	<p>刑法あるいは刑事訴訟法領域において、実務と理論とを架橋する研究に将来的に携わることが可能となるように、理論研究のベースとなる歴史的（あるいは社会的）分析及び比較法的分析につきその基本的・基礎的なアプローチ方法とその視座の設定に関する導入的な教育を行う。学修状況によっては、分量のさほど多くない外国文献を講読することでその読み方等をマスターさせるとともに、最新の裁判例を素材に簡潔明瞭な判例評釈をまとめるなど研究成果を上げさせ、さらに可能であれば研究倫理についても指導を行う。</p>	
	法曹倫理1	<p>（概要）民事では、弁護士自治、委任契約、利益相反、守秘義務、相手方との関係、裁判所との関係などに焦点を当てながら、民法、商法、民事訴訟法等と適宜にリンクした形で法曹倫理を学ぶ。 刑事では、弁護人として直面した場合に判断に迷うであろう</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		<p>と考えられる事例を具体的設問でとりあげ、刑事弁護倫理の基本的考え方を学ぶ。 また、検察官の倫理についても検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(17 野田 隆史／7 回)</p> <p>民事法曹倫理では、弁護士自治、委任契約、利益相反、守秘義務、相手方、裁判所との関係など法曹倫理の全般に亘り、民法、商法、民事訴訟法等と適宜にリンクした形で講義を進める。</p> <p>(16 田上 剛／8 回)</p> <p>法曹倫理の最初に、総論として、倫理と道徳の意義、なぜプロフェッションにおいて職業倫理が求められるのかについて説明し、その中で、法曹倫理の意義等について講義する。そして、刑事法曹倫理では、刑事弁護における誠実義務、守秘義務、真実義務、利益相反、接見交通権などの問題を具体的設問で取り上げ、意見交換を行って理解を深める。</p>	
	法文書作成	<p>(概要)前半では、要件事実学習と関連付けながら文書の構造・構成や表記のありかたを確認し、訴状、答弁書、準備書面といった訴訟関係文書を作成して、基礎的な起案能力の涵養を図る。後半では、契約書などの基本的な法律文書(訴訟関係文書を含む)につき、実体法や手続法の理解と関連付けながら文書作成の要領及び留意点を検討し、法文書の特質(「文書中の各記述には法的根拠があること」「明瞭かつ二義を許さない文書であること」等)を踏まえた文書起案能力の涵養を図る。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(15 小濱 意三／8 回)</p> <p>訴訟関係文書(主張整理における事実の表現形式、法適用の表し方、記述の論理的順序、規範的要件、間接事実の表し方、間接事実の表し方(準備書面)、訴状、答弁書)の作成を行う。</p> <p>(15 小濱 意三・17 野田 隆史・92 岩元 裕介／7 回)(共同)</p> <p>基本的な法律文書(訴訟関係文書を含む)をテーマにして 法文書作成の要領及び留意点を検討する。</p>	オムニバス方式
	民事訴訟実務基礎 1	<p>1) 民事訴訟実務のバックボーンである要件事実の考え方を理解する</p> <p>2) 典型的な訴訟について、何を要件事実と捉えるべきかを理解する</p> <p>3) 要件事実の考え方を基礎にした主張整理及び事実認定を理解するという目標達成のために、以下の課題について質疑応答により実施する。</p> <p>売買代金支払請求訴訟、貸金返還請求訴訟、所有権に基づく不動産明渡請求訴訟、不動産登記手続請求訴訟(所有権に基づく請求)、不動産登記手続請求訴訟(登記保持権原の抗弁)、賃貸借契約の終了に基づく不動産明渡請求訴訟を課題として、要件事実の考え方を理解する。</p>	共同
	民事訴訟実務基礎 2	<p>1) 民事訴訟実務のバックボーンである要件事実の考え方を理解する</p> <p>2) 典型的な訴訟について、何を要件事実と捉えるべきかを理解する</p> <p>3) 要件事実の考え方を基礎にした主張整理及び事実認定を理解するという目標達成のために、以下の課題について質疑応答により実施する。</p> <p>不動産明渡請求訴訟、その他の要件事実等を課題として、要件事実の考え方を理解する。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目	刑事訴訟実務基礎	<p>(概要) 検察, 弁護及び裁判のそれぞれの立場から, オムニバス方式形式で実務上重要な問題点を検討する。また, 教材用の事件記録を使用するなどして, 具体的事案に即した事実認定上及び法律上の問題点を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(16 田上 剛/4 回)</p> <p>最初に本講座の位置づけ, 意義等を踏まえて, 刑事手続全体の流れを確認する。まず, 検察の立場から, 身体拘束及び事件処理をめぐる問題を検討する。さらに, 弁護の立場から, 捜査及び公判における弁護の在り方を検討する。</p> <p>(86 廣瀬 裕亮 /11 回)</p> <p>以上の検討を踏まえ, 裁判の立場から, 令状手続, 準備手続及び公判手続を検討するとともに, 事実認定を中心として, 刑事司法手続全般をめぐる実務上の問題点を検討する。</p>	オムニバス方式
	模擬裁判	<p>民事の模擬事例を用いる。受講者を, 裁判官・原告代理人・被告代理人のグループに分けたうえ, 訴え提起及び訴状審査, 第 1 回口頭弁論 (訴状及び答弁書の各陳述), 書証提出 (証拠説明), 争点整理, 準備書面, 人証との打ち合わせ, 交互尋問, 判決, といった民事訴訟手続全般を受講者が主体となって模擬的に行う。実体法や手続法の実践的な活用を体感するとともに, 事情聴取, 書面作成, 尋問, 訴訟指揮等の実務的技能を総合的に高めていくことを目的とする。</p>	
	リーガル・クリニック	<p>夏季休業期間中に, 一般市民からの法律相談を担当する。受講者は, 事前の研修として, ガイダンス, 面接技法に関する講義, 模擬相談者 (SC) を相談者とする模擬法律相談, 法務研究科附属リーガル・サービス・センターで行われている弁護士による法律相談の傍聴を経ることを要する。実践的なコミュニケーション能力 (適切に聴きとる能力, 適切に話す能力等), 問題発見能力, 適切に問題解決方法の提示する力などの涵養を目標とするとともに, 実務家の倫理と責任の自覚の涵養を目標とする。</p>	
	エクスターンシップ	<p>春季休業期間中に, 法律事務所における実務研修として実施する。受講者は, 事前の研修としてガイダンス (守秘義務に関する説示を含む) を経たうえ, 法律事務所で延 40 時間にわたって実務研修を行う。受講者は, 協力弁護士に帯同し, 法律が実際に使われている場を体験するとともに, 日常的な弁護士の活動に接し, また, 具体的事件について数件の起案をする。実務研修終了後に, (守秘義務に反しない限りで) 体験交流会を行う。</p>	
	法曹倫理 2	<p>(概要) 法曹倫理 1 で涵養した実務家法曹としての倫理上の基本的な考え方を基礎にして, さらにそれを深化させるため, 民事法曹倫理及び刑事法曹倫理のそれぞれについて, 個別具体的な事例や事件を素材にして, それに対する倫理的な対応如何を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(17 野田 隆史/7 回)</p> <p>民事法曹倫理では, 法曹倫理 1 での学修を前提にして, 破産・民事再生, ADR, 共同事務所, 隣接業種との関係, 法令精通義務, 事務所経営, 弁護過誤などの具体的事例を取り上げて検討する。</p> <p>(16 田上 剛/8 回)</p> <p>刑事法曹倫理では, 法曹倫理 1 での学修を前提にして, マスコミ対応, 証言拒絶権等, 訴訟関係人との交渉, 参考人との接触, 証拠記録の取扱い, 外国人事件な</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目		ど具体的な事例を題材にして検討する。	
	ローヤリング	民事訴訟の事実審の判決に対する上訴理由を検討する。上訴理由を検討するに際しては、当該判決における事実整理の適否（法律要件は適切に抽出されているか、立証責任の分配は適否になされているか等）、事実認定の適否（間接事実は適切に認定・摘示されているか、適切な経験則が用いられているか等）の検討が必須であり、これらの検討を通じて、具体的訴訟において法律家がどのような考え方に立脚しているかを感得し、民事裁判で必要となる基本的な思考手法を身に付けることを目的とする。あわせて、上訴理由を文書化することにより、基礎的な起案能力の涵養を図る。	
	法的思考法	汎用的な法的思考という観点から、実定法を横断的に扱う基礎法学科目である。法律専門家は、状況に即応できる法的思考能力を備えていなければならない。そのためには法的思考の特質を把握しておくことが肝要である。本科目は、言語的情報処理のパースペクティブから、法律の学習→試験答案の作成→法実務家の問題処理を、技法的に連続性のあるものととらえ、この課題に対して応えようとするものである。そのポイントは、「構造」である。構造的に把握し、構造的に思考し、構造を踏まえて表現する。この地平を切り開いたハフト教授のレトリック法理論をベースにして、法科大学院での法律学習の際のインプット（知識蓄積段階）とアウトプット（主として答案作成段階）の技術論を紹介する。	
	法理学	実定法科目の相互関係を理解し、法的思考の総合的把握を目的とする、実定法を横断的に扱う基礎法学科目である。授業の目標は次のとおり。1) 法の世界の知識を幅広くし、実務法律家としての理論的バックボーンとなる法的教養を身につける。2) 法科大学院における各法分野の学習を通じて獲得したばらばらの知識を一つに束ねる。3) 法の目的が正義の実現であることを理解する。4) 法的知識の整理・定着と表現能力の改善・向上をめざす。(1) 日本の政官関係の特徴を、先進諸国のそれと比較しながら、論じることができる。(2) 現代の政官関係の歴史的淵源を、近世・近代まで訴求して説明できる。(3) 政治家と行政官僚の思考と行動の特徴を説明できる。(4) 現代日本の政官関係の特徴を、20世紀末以降の改革の中で位置づけることができる。(5) 行政官僚の不祥事について、制度的および社会的背景に言及しながら論じることができる。(6) 公務員制度改革の方向性とその具体的な手段について説明できる。	
	政治学	欧米におけるその発端から今日に至るまでの「政治と行政」の問題史を、欧米及び日本を対象に改革論を交えながら検討する。授業の目標は次のとおり。1) 日本の政官関係の特徴を、先進諸国のそれと比較しながら、論じることができる。2) 現代の政官関係の歴史的淵源を、近世・近代まで訴求して説明できる。3) 政治家と行政官僚の思考と行動の特徴を説明できる。4) 現代日本の政官関係の特徴を、20世紀末以降の改革の中で位置づけることができる。5) 行政官僚の不祥事について、制度的および社会的背景に言及しながら論じることができる。6) 公務員制度改革の方向性とその具体的な手段について説明できる。	
	法社会学	法社会学とは、法と社会の相互関係を論理的に整理した仮説モデルを設定し、それを調査データに基づいて検証し、司法に関する現実認識を理論的に体系化させることを目的としている。具体的には、民刑各分野の裁判過程に登場する当事者や専門職の社会関係から正義の現実を記述して、司法制度の利用可能性や機能を考察し、制度や社会システム全体の将来性を展望する。授業の目標は次のとおり。1) 現代の法現象（とくに社会秩序の法化）を社会学的観点から系統的に理解できる。2) 現代の法現象を社会学的観点から表現し、相互に参照して批評しあえる。	
	消費者法	消費者取引における消費者被害の実態とその救済のための法制度をもとに、実践的な主張をどのように行うかを検討する。具体的には、民法の総則、契約、不法行為と消費者保護に関する特別法を有機的・系統的に理解した上で、被害者の救	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 展開・先 端科目 群		済手段を検討する。消費者問題を題材に、各自が被害者の立場から救済方法を考え、口頭又は書面で、説得的に論証 できるような表現能力を養う。また、そのような表現ができるようになるために、普段から自分で 考える能力を身につけることを目標にする。	
	不動産登記法	物権の公示手段としての不動産登記について、物権変動の把握から登記申請に至るまでの手続 理論を具体的な書式等を織り交ぜて解説する。また、登記の効力・登記情報の真実性・登記の真正担保という登記法の抱える諸問題と、現在 でも主流である同時決済型の不動産取引と登記申請方法としての電子申請との不整合の問題などの現代登記実務の問題点について検討し、電子取引社会における登記の役割とその実現方法について検討する。	
	債権回収法	1) 予防法学としての債権管理 2) 紛争処理としての債権回収(任意回収, 強制回収)について検討する。授業の目標は次のとおり。1) 債権回収という局面を題材にして、実体法と手続法にまたがる幅広い視野の獲得ができる。2) 民法, 会社法, 民事執行・保全法, 倒産法などの視点から、債権者と債務者のダイナミック な攻防について理解し、その実態や理論についての理解を深める。3) 法律実務家として、債権者あるいは債務者の代理人として、あるいは裁判官として、あるべき債権回収・会社再生の方法を身につけると同時に、依頼人に対してわかりやすく説明できるよう正確な理解をするようになる。	
	知的財産法 1	知的財産法は、特許法, 実用新案法, 意匠法, 商標法, 著作権法, 不正競争防止法等の総称であり 客体である情報(知的財産)の保護法である。知的財産の特徴, 知的財産法の体系, 著作権法の目的 著作物, 著作者, 職務著作, 著作権, 著作権の制限, 著作者人格権, 著作隣接権, みなし侵害を含む著作権侵害に対する法的救済について主要論点を分析・検討する。	
	知的財産法 2	知的財産法は、特許法, 実用新案法, 意匠法, 商標法, 著作権法, 不正競争防止法等の総称であり、 客体である情報(知的財産)の保護法である。知的財産の特徴, 知的財産法の体系, 特許法の目的, 発明, 発明者, 職務発明, 特許の要件, 特許権の取得手続, 審判, 審決取消訴訟, 特許権の効力とその制限, 特許権の利用(専用実施権・通常実施権), 特許権の侵害(文言侵害・均等侵害間接侵害), 抗弁, 救済手段, 立証の容易化, 秘密保持命令に関する論点について重要判例の分析を通じて検討する。	
	企業金融法	企業の資金調達, 資本の再構成など企業金融をめぐる法制度およびその実務について学ぶ。この分野は、会社法, 税法, 会計基準等による規制が複雑に入り組んでいる。金融活動の意義を理解するためのファイナンス論の基礎的な考え方も示す。授業の目標は次のとおり。1) 金融活動の最新の実例を通じて、企業金融の総合的な理解を得る。2) 企業の金融活動に対する事前の助言業務に対応する能力を修得し、企業の活動が関連法制に適合するように配慮する「予防法」的な視点を養う。	
	国際私法・取引法	国境を越える私法上の法律関係に関する諸問題のうち、当該紛争の実体に適用される法の問題(いわゆる国際私法の問題)および手続法上の諸問題(いわゆる国際民事訴訟法の問題)を中心に検討する。国際取引法についても必要な範囲で取り上げる。授業の目標は次のとおり。国際私法・国際民事訴訟法及び国際取引法の具体的な問題につき適切な解決策を提示できるようになること。	
	民事執行保全法	民事執行法および民事保全法を中心として、強制執行, 担保権実行, 保全処分(仮差押えおよび仮処分)について導入的な内容の講義を行う。講義の目標は、受講者が民事執行・民事保全の手続の基本を理解できることにある。 民事執行では、民事執行の基本構造(債務名義・執行文, 執行の対象財産), 執行関係訴訟, 違法執行に対する救済, 不動産・動産・債権等を対象とする金銭執行, 非金銭執行, 担保権の実行などを扱う。民事保全では、仮差押え・仮処分の発令・執行の手続・効力などを扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 展開・ 先端 科目群	倒産処理法 1	この授業では、破産法の基本的な知識を習得することを目的とする。この授業の内容を十分に理解出来れば、条文や制度の内容について、基本的な理解を獲得することができ、典型的な事例問題について、一定の解答を導くことができる。また、倒産法の重要判例を読み理解する前提となる学力を身につけることができる。こうした学力がその後の発展応用科目へとつながっていく。授業の目標は次のとおり。1) 破産法の基礎的概念を、他者に平易に説明できる。2) 破産法の基礎的概念が問題となる典型的な事案を説明でき、当該概念を適用の上、理由とともに一定の結論を導くことができる。3) 他の倒産法にある、類似の基礎的概念について、整理と区別が出来る。	
	倒産処理法 2	本科目では、まず、破産法の理解を確認した後に、主として民事再生手続について学習する。その後、後半で判例百選を使用して、個別の事例を取り上げ、破産手続、民事再生手続を比較しながら、倒産処理法全体について理解する。授業の目標は次のとおり。1) 倒産処理について、清算型と再建型の両方を基本的に理解する。2) 多重債務または債務超過の法人・自然人に対して、どのような手続が可能か、具体的に説明する能力の基礎を形成する。	
	労働法 1	労働法の分野のうち、基本的な法的思考力を身につけている者を対象に個別的労働関係法（労働基準法、労働契約法等）を中心に、法制度および判例に関する知識を身につけた上で、法的紛争の発生原因、その問題点および解決方法のあり方について理解をし、労働法分野における基本的な法的紛争を解決する能力を身につけることを目的とする。具体的な内容として、個別的労働関係法における当事者（労働者・使用者概念）、労働契約の締結（採用・採用内定・試用）、労働契約の展開過程（労働条件の決定システム、賃金、労働時間、人事異動）労働契約の終了（解雇、解雇によらない労働契約の終了）等を扱う。	
	労働法 2	労働法の分野のうち、基本的な法的思考力を身につけている者を対象に集団的労働関係法（憲法 28 条、労働組合法、労働関係調整法等）を中心に、法制度および判例に関する知識を身につけた上で、法的紛争の発生原因、その問題点および解決方法のあり方について理解をし、労働法分野における基本的な法的紛争を解決する能力を身につけることを目的とする。具体的な内容として、集団的労働関係法における当事者（労働者、使用者、労働組合）、団体交渉、労働協約、団体行動（争議行為、組合活動）、不当労働行為救済制度等を扱う。また、労働法 1 で扱わなかった個別的労働関係法に属する論点（雇用平等、非正規雇用法政策等）も扱う。	
	労働法演習	労働法 1 および労働法 2 を受講して身につけられる水準の法的紛争解決能力を持つ者に、労働法の分野全体を対象として、複数の論点にかかわる事例検討を通じて、より広い視点からの紛争解決能力を身につけることを目的とする。2 本ないし 4 本の判例・裁判例を題材として示し、どのような請求がなされるか、当事者はどのような主張をするか、また、それがどのような法的論点と結びつくのか等を検討した上で、判例・裁判例における判断の内容とどのような関係にあるのか、判例・裁判例が示すものと異なる解決方法の有無等を検討し、上述の能力を身につけることを目的とする。具体的には、個別的労働関係法および集団的労働関係法の各分野の新旧の重要判例を題材とする。	
	社会保障法	基本的な法的思考力を有する者に対し、社会保障法の全体像および個々の法制度に関する知識を修得し、社会保障法に関する多様な法的問題とその解決のあり方について理解をし、現行法制度を批判的に検討する思考力および具体的紛争解決能力を身につけることを目的とする。社会保障法制度の全体像（生存権と社会保障法、社会保険、公的扶助、社会福祉の特徴および総合関係等）、具体的な法制度（医療保険、年金保険、介護保険、労災保険、雇用保険、生活保護、社会福祉（児童福祉、障害者福祉）等）を扱う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
プログラム 専門科目 特別講義	税法	税金、会計の基本的な知識を理解した上で、所得課税分野を主として法構造及び判例を検討し実務家に必要な税法分野の基本的知識及びリーガルマインドを習得していく。特に、中小同族企業の実態を学び、その特殊性を理解する過程を通じて所得課税の構造の理解を深めつつ、実務家として日常的に接することの多い中小企業経営者をサポートするための基本的素養を習得していく。	
	アジア法1	アジア各国から来日し日本に滞在する人の数は年々増加しており、日本人との間で事実上も含む婚姻関係に関する問題が増加している。また、婚姻にかかわらず子供の問題も増加している。これらに対処するため、関連する国際私法、各国の婚姻及び親子に関する法情報及び家族に関する裁判等の制度に関して、わが国の家族法及び裁判制度に関する基礎的な知識を有する者を念頭に講義を行う。具体的には、韓国、中国、フィリピン、東南アジア、イスラム圏である。各国ごとの制度の特徴を学ぶことで、グローバル化に対応することのできる法曹の養成を目指す。	
	アジア法2	（概要）民法に関する一定の基礎的な知識を有していることを前提に、わが国と取引や人的交流の多い韓国及び中国の民法の基本的な体系と内容を概観し、特に不動産物権変動と対抗要件及び両国の独自の制度を学ぶ。両国の民事法制度と比較することで、わが国の法制度の正確な理解と問題解決への視点を発見できる能力を培う。また、アジアにおいて日本との関係で実際に生じている問題、特に具体的に企業内法務で抱える問題についても取上げる。実際の問題を元に、ブレーンストーミングの手法も用いて、集団的な問題解決を体験することで問題解決への柔軟な思考を獲得することを目指す。  （オムニバス方式／全8回）  （3 田村 耕一／7回） 民法及び企業で生じる取引に関する問題について検討する。  （12 山川 和義／1回） 韓国の労働法関係について検討する。	オムニバス方式 共同（一部）
	臨床法務	広島県内の企業、公共団体の職場で遭遇する現実の法律問題について、企業や自治体の担当者による問題提起を受けた上で、教員を交えて学生間において討議を行う。企業、公共団体の職場で遭遇する法的問題を検討し協議することを通じて、複眼的な思考を養成するとともに、広く社会への関心と興味を引き起こし、ひいては就業意欲を増進することを目指す。	
	公法実務基礎	（概要）公法訴訟における攻撃防御方法や的確な主張書面の記載方法について、実務的視点を踏まえ、具体的な事例問題を用いながら探求する。授業の目標は次のとおり。1）公法訴訟実務分野における基本的な知識を確認する。2）事例問題を題材に、当事者双方の立場から、攻撃防御方法を検討し、争点整理をする。3）問題となっている争点における分水嶺を発見し、いずれの立場が説得的かを考える。  （オムニバス方式／全8回）  （99 伊藤 建／3回） 公法に関する訴訟における攻撃防御方法や的確な主張書面の記載方法について、実務的視点を踏まえ、具体的な事例問題を用いながら探求する。以上の内容に関する3回分を担当する。  （98 大島 義則／3回）	オムニバス方式 共同（一部）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>公法に関する訴訟における攻撃防御方法や的確な主張書面の記載方法について、実務的視点を踏まえ、具体的な事例問題を用いながら探求する。以上の内容に関する3回分を担当する。</p> <p>(99 伊藤 建・98 大島 義則/2回) (共同)</p> <p>以上の6回分の講義を踏まえ、公法に関する訴訟をめぐる総合的検討に入る。具体的には、憲法訴訟・行政事件訴訟における攻撃防御方法や的確な主張書面の記載方法について、実務的視点を踏まえ、具体的な事例問題を用いながら探求する。</p>	